

外国語学部 英米学科 (2011年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 小林 道彦	1学期	1	2	1
		1年			
	家族を問う 小野 憲昭	1学期	1	2	2
		1年			
	人間と文化 神原 ゆうこ	1学期	1	2	3
		1年			
	ことばの科学 漆原 朗子	1学期	1	2	4
		1年			
	国際学入門 伊野 憲治	1学期	1	2	5
		1年			
	教養としての平和学 戸蒔 仁司	1学期	1	2	6
		1年			
	可能性としての歴史 小林 道彦	2学期	2	2	7
		2年			
	家族の再生 小野 憲昭	2学期	2	2	8
		2年			
	文化と政治 神原 ゆうこ	2学期	2	2	9
		2年			
言語と認知 漆原 朗子 他	1学期	2	2	10	
	2年				
共生社会論 伊野 憲治	2学期	2	2	11	
	2年				
戦争と平和 戸蒔 仁司	2学期	2	2	12	
	2年				
生活世界の哲学 伊原木 大祐	1学期	1	2	13	
	1年				
共同体と身体 伊原木 大祐	2学期	2	2	14	
	2年				
■スキル科目	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	15
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	メンタル・ヘルスII 中島 俊介	2学期	1	2	16
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 高西 敏正	1学期	1	2	17
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 徳永 政夫	1学期	1	2	18
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 加倉井 美智子	1学期	1	2	19
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 高西 敏正	2学期	1	2	20
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 徳永 政夫	2学期	1	2	21
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 加倉井 美智子	2学期	1	2	22
		1年			
	自己管理論 生田カツ工、稲月正	2学期	1	2	23
		1年			
	キャリア・デザイン 眞鍋 和博	1学期	1	2	24
		1年			
	キャリア・デザイン 見館 好隆	1学期	1	2	25
		1年			
コミュニケーションと思考法 眞鍋 和博	2学期	1	2	26	
	1年				
プロフェッショナルの仕事 見館 好隆	1学期	2	2	27	
	2年				
大学論・学問論 休講	1学期	1	2		
	1年				
法律の読み方 小野 憲昭 他	2学期	1	2	28	
	1年				
社会調査 稲月 正	2学期	1	2	29	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	統計を読む・統計をつくる 山本 努	集中	1	2	30
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (サッカー) 磯貝 浩久	1学期	1	1	31
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (テニス) 原田 守治	1学期	1	1	32
		1年			
	フィジカル・エクササイズI(バスケットボール) 原田 守治	1学期	1	1	33
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 美山 泰教	1学期	1	1	34
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 美山 泰教	1学期	1	1	35
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 鯨 吉夫	1学期	1	1	36
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 高西 敏正	1学期	1	1	37
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 徳永 政夫	1学期	1	1	38
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 磯貝 浩久	2学期	1	1	39
		1年			
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 原田 守治	2学期	1	1	40	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 原田 守治	2学期	1	1	41	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 美山 泰教	2学期	1	1	42	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (サッカー) 鯨 吉夫	2学期	1	1	43	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 鯨 吉夫	2学期	1	1	44	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	フィジカル・エクササイズII (サッカー) 磯貝 浩久	2学期	1	1	45
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (女性のスポーツ) 加倉井 美智子	2学期	1	1	46
		1年			
■教養演習科目	教養基礎演習I 日高 京子	1学期	1	2	47
		1年			
	教養基礎演習I 小林 道彦	1学期	1	2	48
		1年			
	教養基礎演習I 神原 ゆうこ	1学期	1	2	49
		1年			
	教養基礎演習I 徳永 政夫	1学期	1	2	50
		1年			
	教養基礎演習I 稲月 正	1学期	1	2	51
		1年			
	教養基礎演習I 小野 憲昭	1学期	1	2	52
		1年			
	教養基礎演習I (防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	1	2	53
		1年			
	教養基礎演習I 伊原木 大祐	1学期	1	2	54
		1年			
教養基礎演習I 二宮 正人	1学期	1	2	55	
	1年				
教養基礎演習I 高西 敏正	1学期	1	2	56	
	1年				
教養基礎演習I 伊野 憲治 他	1学期	1	2	57	
	1年				
教養基礎演習II 日高 京子	2学期	1	2	58	
	1年				
教養基礎演習II 小林 道彦	2学期	1	2	59	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養基礎演習Ⅱ 神原 ゆうこ	2学期	1	2	60
		1年			
	教養基礎演習Ⅱ 徳永 政夫	2学期	1	2	61
		1年			
	教養基礎演習Ⅱ 稲月 正	2学期	1	2	62
		1年			
	教養基礎演習Ⅱ 小野 憲昭	2学期	1	2	63
		1年			
	教養基礎演習Ⅱ (防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	1	2	64
		1年			
	教養基礎演習Ⅱ 伊原木 大祐	2学期	1	2	65
		1年			
	教養基礎演習Ⅱ 二宮 正人	2学期	1	2	66
		1年			
	教養基礎演習Ⅱ 高西 敏正	2学期	1	2	67
		1年			
教養基礎演習Ⅱ 伊野 憲治 他	2学期	1	2	68	
	1年				
教養基礎演習Ⅱ 眞鍋 和博 他	2学期	1	2	69	
	1年				
教養演習AⅠ 日高 京子	1学期	2	2	70	
	2年				
教養演習AⅠ 小林 道彦	1学期	2	2	71	
	2年				
教養演習AⅠ 神原 ゆうこ	1学期	2	2	72	
	2年				
教養演習AⅠ (防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	2	2	73	
	2年				
教養演習AⅠ 稲月 正	1学期	2	2	74	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習 A I 伊原木 大祐	1学期	2	2	75
		2年			
	教養演習 A I 伊野 憲治 他	1学期	2	2	76
		2年			
	教養演習 A I 徳永 政夫 他	1学期	2	2	77
		2年			
	教養演習 A I 小野 憲昭	1学期	2	2	78
		2年			
	教養演習 A II 日高 京子	2学期	2	2	79
		2年			
	教養演習 A II 小林 道彦	2学期	2	2	80
		2年			
	教養演習 A II 神原 ゆうこ	2学期	2	2	81
		2年			
	教養演習 A II (防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	2	2	82
		2年			
	教養演習 A II 稲月 正	2学期	2	2	83
		2年			
	教養演習 A II 伊原木 大祐	2学期	2	2	84
		2年			
教養演習 A II 伊野 憲治 他	2学期	2	2	85	
	2年				
教養演習 A II 徳永 政夫 他	2学期	2	2	86	
	2年				
教養演習 A II 小野 憲昭	2学期	2	2	87	
	2年				
教養演習 B I 日高 京子	1学期	3	2	88	
	3年				
教養演習 B I 小野 憲昭	1学期	3	2	89	
	3年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BⅠ	1学期	3	2	90
	小林 道彦	3年			
	教養演習BⅠ	1学期	3	2	91
	神原 ゆうこ	3年			
	教養演習BⅠ(防衛セミナー)	1学期	3	2	92
	戸蒔 仁司	3年			
	教養演習BⅠ	1学期	3	2	93
	稲月 正	3年			
	教養演習BⅠ	1学期	3	2	94
	伊原木 大祐	3年			
	教養演習BⅠ	1学期	3	2	95
	伊野 憲治 他	3年			
	教養演習BⅠ	1学期	3	2	96
	徳永 政夫 他	3年			
	教養演習BⅡ	2学期	3	2	97
	日高 京子	3年			
教養演習BⅡ	2学期	3	2	98	
小野 憲昭	3年				
教養演習BⅡ	2学期	3	2	99	
小林 道彦	3年				
教養演習BⅡ	2学期	3	2	100	
神原 ゆうこ	3年				
教養演習BⅡ(防衛セミナー)	1学期	3	2	101	
戸蒔 仁司	3年				
教養演習BⅡ	2学期	3	2	102	
稲月 正	3年				
教養演習BⅡ	2学期	3	2	103	
伊原木 大祐	3年				
教養演習BⅡ	2学期	3	2	104	
伊野 憲治 他	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BII 徳永 政夫 他	2学期	3	2	105
		3年			
	プロジェクト演習I 見館 好隆	2学期	2	2	106
		2年			
	プロジェクト演習II 見館 好隆	1学期	3	2	107
		3年			
■テーマ科目	自然学のまなざし 竹川 大介 他	1学期	1	2	108
		1年			
	動物のみかた 到津の森公園、文学部 竹川大介	2学期	1	2	109
		1年			
	地球の生いたち 長井 孝一	2学期	1	2	110
		1年			
	自然史へのいざない 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子	2学期	1	2	111
		1年			
	くらしと化学 秋貞 英雄	1学期	1	2	112
		1年			
	現代人のこころ 田島 司	1学期	1	2	113
		1年			
	数のたのしみ 高妻 倫太郎	集中	1	2	114
		1年			
	私たちと宗教 佐藤 真人	2学期	1	2	115
	1年				
思想と現代 伊原木 大祐	1学期	1	2	116	
	1年				
ものがたりと人間 休講		1	2		
	1年				
文化と表象 真鍋 昌賢	2学期	1	2	117	
	1年				
言語とコミュニケーション 休講	2学期	1	2		
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	芸術と人間 花田 伸一	2学期	1	2	118
		1年			
	文学を読む 休講	1学期	1	2	
		1年			
	戦争と人間 戸蒔 仁司 他	1学期	1	2	119
		1年			
	現代正義論 重松 博之	2学期	1	2	120
		1年			
	民主主義とは何か 中道 壽一	1学期	1	2	121
		1年			
	人権論 柳井 美枝	1学期	1	2	122
		1年			
	ジェンダー論 力武 由美	1学期	1	2	123
		1年			
	障がい学 伊野 憲治 他	2学期	1	2	124
		1年			
	共生の作法 山本 光英 、法学部教員	2学期	1	2	125
		1年			
	北九州学 小野 憲昭	2学期	1	2	126
		1年			
市民活動論 西田 心平	2学期	1	2	127	
	1年				
企業と社会 山岡 敏秀	1学期	1	2	128	
	1年				
つながりの人間学 地域共生教育センター 坂本毅啓、石谷百合加、奥村貴仁	1学期	1	2	129	
	1年				
現代社会と倫理 伊原木 大祐	1学期	1	2	130	
	1年				
現代社会の諸問題 山本 光英 、法学部法律学科教員	2学期	1	2	131	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	現代の国際情勢 金 鳳珍	1学期	1	2	132
		1年			
	国際社会論 稲月 正	1学期	1	2	133
		1年			
	国際紛争と国連 戸蒔 仁司	1学期	1	2	134
		1年			
	民族・エスニシティ問題 久木 尚志 他	1学期	1	2	135
		1年			
	開発と統治 三宅 博之 他	1学期	1	2	136
		1年			
	グローバル化する経済 前田 淳 他	2学期	1	2	137
		1年			
	テロリズム論 戸蒔 仁司	2学期	1	2	138
		1年			
	国際社会と日本 中野 博文	1学期	1	2	139
		1年			
	歴史の読み方I 八百 啓介	1学期	1	2	140
		1年			
	歴史の読み方II 小林 道彦	1学期	1	2	141
		1年			
そのとき世界は 小林 道彦 他	2学期	1	2	142	
	1年				
戦後の日本経済 迎 由理男	2学期	1	2	143	
	1年				
都市と農村の生活文化史 福間 裕爾	1学期	1	2	144	
	1年				
ものとの人間の歴史 中野 博文	1学期	1	2	145	
	1年				
人物と時代の歴史 新村昭雄(文)、三宅博之(法)、乗口眞一郎、山崎勇治	1学期	1	2	146	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	教養特講I 田村 慶子 他	1学期	1	2	147	
		1年				
	教養特講II 日高 京子 他	2学期	1	2	148	
		1年				
	教養特講III 小野 憲昭	2学期	1	2	149	
		1年				
	教養特講IV 大杉 一之 他	2学期	1	2	150	
		1年				
	■教職関連科目	日本史 内山 一幸	2学期	1	2	151
			1年			
		西洋史 疇谷 憲洋	1学期	1	2	152
			1年			
東洋史 藤野 月子		2学期	1	2	153	
		1年				
社会学 稲月 正		1学期	1	2	154	
		1年				
人文地理学 吉津 直樹		2学期	1	2	155	
		1年				
土地地理学 野井 英明		1学期	1	2	156	
		1年				
地誌学 吉津 直樹		1学期	1	2	157	
		1年				
日本国憲法 植木 淳		2学期	1	2	158	
	1年					
倫理学 伊原木 大祐	2学期	1	2	159		
	1年					
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング 廣渡 栄寿	2学期	1	2	160	
		1年				
	エンドユーザコンピューティング 佐藤 貴之	2学期	1	2	161	
		1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■情報教育科目	データ処理 山田 寛	1学期	1	2	162
		1年			
	データ処理 中尾 泰士	1学期	1	2	163
		1年			
	データ処理 山田 寛	1学期	1	2	164
		1年			
	情報表現 浅羽 修丈	1学期	2	2	165
		2年			
情報表現 浅羽 修丈	2学期	2	2	166	
	2年				
プログラミング基礎 中尾 泰士	2学期	2	2	167	
	2年				
プログラミング基礎 中尾 泰士	1学期	2	2	168	
	2年				
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I 石田 由希	1学期	1	1	169
		英 1 - A			
	英語I 渡邊 嘉則	1学期	1	1	170
		英 1 - B			
	英語I 杉山 智子	1学期	1	1	171
		英 1 - C			
	英語I 伊藤 晃	1学期	1	1	172
		英 1 - D			
英語II 石田 由希	2学期	1	1	173	
	英 1 - A				
英語II 渡邊 嘉則	2学期	1	1	174	
	英 1 - B				
英語II 伊藤 晃	2学期	1	1	175	
	英 1 - C				
英語II 杉山 智子	2学期	1	1	176	
	英 1 - D				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語III ジャマール・ミラー	1学期	1	1	177
		英 1 - A			
	英語III デビット・ニール・マクレラン	1学期	1	1	178
		英 1 - B			
	英語III ダンカン・ウォトリイ	1学期	1	1	179
		英 1 - C			
	英語III ジョセフ・ディレンシュナイダー	1学期	1	1	180
		英 1 - D			
	英語IV ジャマール・ミラー	2学期	1	1	181
		英 1 - A			
	英語IV デビット・ニール・マクレラン	2学期	1	1	182
		英 1 - B			
	英語IV ダンカン・ウォトリイ	2学期	1	1	183
		英 1 - C			
	英語IV リズ・クレシーニ	2学期	1	1	184
		英 1 - D			
	英語V 相原 信彦	1学期	2	1	185
		英 2 - A			
英語V 伊藤 健一	1学期	2	1	186	
	英 2 - B				
英語V 平野 圭子	1学期	2	1	187	
	英 2 - C				
英語V 野島 啓一	1学期	2	1	188	
	英 2 - D				
英語VI 松田 智	2学期	2	1	189	
	英 2 - A				
英語VI 木下 善貞	2学期	2	1	190	
	英 2 - B				
英語VI 山崎 和夫	2学期	2	1	191	
	英 2 - C				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語VI 吉川 哲郎	2学期	2	1	192
		英 2 - D			
	英語VII デビット・ニール・マクレラン	1学期	2	1	193
		英 2 - A			
	英語VII アルバート・オスカー・モウ	1学期	2	1	194
		英 2 - B			
	英語VII ダンカン・ウォトリイ	1学期	2	1	195
		英 2 - C			
	英語VII アレクサンダー・ボードナー	1学期	2	1	196
		英 2 - D			
	英語VIII デビット・ニール・マクレラン	2学期	2	1	197
		英 2 - A			
	英語VIII アルバート・オスカー・モウ	2学期	2	1	198
		英 2 - B			
	英語VIII ダンカン・ウォトリイ	2学期	2	1	199
		英 2 - C			
	英語VIII アレクサンダー・ボードナー	2学期	2	1	200
		英 2 - D			
英語IX 永末 康介	1学期	3	1	201	
	英中国 3 年				
英語X 葛西 宏信	2学期	3	1	202	
	英中国 3 年				
英語XI ジャマール・ミラー	1学期	3	1	203	
	英中国 3 年				
英語XII ジャマール・ミラー	2学期	3	1	204	
	英中国 3 年				
■第二外国語	中国語I 板谷 秀子	1学期	1	1	205
		英 1 年			
	中国語I 野村 和代	1学期	1	1	206
		英 1 年			

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	中国語II	2学期	1	1	207
	板谷 秀子	英 1 年			
	中国語II	2学期	1	1	208
	野村 和代	英 1 年			
	中国語III	1学期	1	1	209
	陳 振華	英 1 年			
	中国語III	1学期	1	1	210
	張 景珊	英 1 年			
	中国語IV	2学期	1	1	211
	陳 振華	英 1 年			
	中国語IV	2学期	1	1	212
	張 景珊	英 1 年			
	中国語V	1学期	2	1	213
	野村 和代	英 2 年			
	中国語VI	2学期	2	1	214
	野村 和代	英 2 年			
	中国語VII	1学期	2	1	215
馮 雅蓮	英 2 年				
中国語VIII	2学期	2	1	216	
王 晨	英 2 年				
上級中国語I	1学期	3	1	217	
唐 雋	英国済営比人 3 年				
上級中国語II	2学期	3	1	218	
唐 雋	英国済営比人 3 年				
上級中国語III	1学期	3	1	219	
王 占華	英国済営比人 3 年				
上級中国語IV	2学期	3	1	220	
王 占華	英国済営比人 3 年				
朝鮮語I	1学期	1	1	221	
金 貞愛	英 1 年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語II	2学期	1	1	222
	金 貞愛	英 1 年			
	朝鮮語III	1学期	1	1	223
	金 貞淑	英 1 年			
	朝鮮語IV	2学期	1	1	224
	金 貞淑	英 1 年			
	朝鮮語V	1学期	2	1	225
	金 貞愛	英 2 年			
	朝鮮語VI	2学期	2	1	226
	金 貞愛	英 2 年			
	朝鮮語VII	1学期	2	1	227
	金 貞淑	英 2 年			
	朝鮮語VIII	2学期	2	1	228
	金 貞淑	英 2 年			
	上級朝鮮語I	1学期	3	1	229
	金 貞淑	英中国済営比人 3 年			
	上級朝鮮語II	2学期	3	1	230
	金 貞淑	英中国済営比人 3 年			
	上級朝鮮語III	1学期	3	1	231
	金 貞愛	英中国済営比人 3 年			
上級朝鮮語IV	2学期	3	1	232	
金 貞愛	英中国済営比人 3 年				
ロシア語I	1学期	1	1	233	
芳之内 雄二	英 1 年				
ロシア語II	2学期	1	1	234	
芳之内 雄二	英 1 年				
ロシア語III	1学期	1	1	235	
ナタリア・シエストコーワ	英 1 年				
ロシア語IV	2学期	1	1	236	
ナタリア・シエストコーワ	英 1 年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ロシア語V 芳之内 雄二	1学期	2	1	237
		英 2 年			
	ロシア語VI 芳之内 雄二	2学期	2	1	238
		英 2 年			
	ロシア語VII ナタリア・シェスタコーワ	1学期	2	1	239
		英 2 年			
	ロシア語VIII ナタリア・シェスタコーワ	2学期	2	1	240
		英 2 年			
	ドイツ語I 山下 哲雄	1学期	1	1	241
		英 1 年			
	ドイツ語II 山下 哲雄	2学期	1	1	242
		英 1 年			
	ドイツ語III 山下 哲雄	1学期	1	1	243
		英 1 年			
	ドイツ語IV 山下 哲雄	2学期	1	1	244
		英 1 年			
	ドイツ語V 山下 哲雄	1学期	2	1	245
		英 2 年			
	ドイツ語VI 山下 哲雄	2学期	2	1	246
		英 2 年			
ドイツ語VII 山下 哲雄	1学期	2	1	247	
	英 2 年				
ドイツ語VIII 山下 哲雄	2学期	2	1	248	
	英 2 年				
フランス語I 坂田 由紀	1学期	1	1	249	
	英 1 年				
フランス語II 坂田 由紀	2学期	1	1	250	
	英 1 年				
フランス語III 山下 広一	1学期	1	1	251	
	英 1 年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	フランス語Ⅳ 山下 広一	2学期	1	1	252
		英 1 年			
	フランス語Ⅴ 中川 裕二	1学期	2	1	253
		英 2 年			
	フランス語Ⅵ 中川 裕二	2学期	2	1	254
		英 2 年			
	フランス語Ⅶ 山下 高之	1学期	2	1	255
		英 2 年			
	フランス語Ⅷ 山下 高之	2学期	2	1	256
		英 2 年			
	スペイン語Ⅰ 青木 文夫	1学期	1	1	257
		英 1 年			
	スペイン語Ⅱ 青木 文夫	2学期	1	1	258
		英 1 年			
	スペイン語Ⅲ 辻 博子	1学期	1	1	259
		英 1 年			
スペイン語Ⅳ トマス・マリン・アルビ	2学期	1	1	260	
	英 1 年				
スペイン語Ⅴ 辻 光博	1学期	2	1	261	
	英 2 年				
スペイン語Ⅵ 辻 光博	2学期	2	1	262	
	英 2 年				
スペイン語Ⅶ 辻 博子	1学期	2	1	263	
	英 2 年				
スペイン語Ⅷ トマス・マリン・アルビ	2学期	2	1	264	
	英 2 年				
■留学生特別科目	日本語 A 小林 浩明 他	1学期 (ペア)	1	2	265
		留学生 1 年			
	日本語 B 則松 智子	1学期 (ペア)	1	2	266
		留学生 1 年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■留学生特別科目	日本語C 小林 浩明 他	2学期 (ペア)	1	2	267
		留学生 1年			
	日本語D 清水 順子	2学期 (ペア)	1	2	268
		留学生 1年			
	日本事情 (人文) A 小林 浩明	1学期	1	2	269
		留学生 1年			
	日本事情 (人文) B ジェームズ・バスキンド	2学期	1	2	270
		留学生 1年			
	日本事情 (社会) A 国際教育交流センター 山崎 勇治	1学期	1	2	271
		留学生 1年			
	日本事情 (社会) B 国際教育交流センター 山崎 勇治	2学期	1	2	272
		留学生 1年			
■専門教育科目 ■選択科目 ■米地域・国際科目群	地域研究入門 (アメリカ) 北 美幸	2学期	2	2	273
		2年			
	アメリカの社会I 北 美幸	1学期	2	2	274
		2年			
	アメリカの社会II 北 美幸	2学期	2	2	275
		2年			
	アメリカの政治I 中野 博文	1学期	2	2	276
		2年			
	アメリカの政治II 中野 博文	2学期	2	2	277
		2年			
	アメリカの政治III 休講	1学期	2	2	
		2年			
アメリカの政治IV 休講	2学期	2	2		
	2年				
国際関係論I 小尾 美千代	1学期	2	2	278	
	2年				
国際関係論II 藤井 大輔	2学期	2	2	279	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目 ■米地域・国際科目群	国際関係Ⅰ 中野 博文	1学期	2	2	280
		2年			
	国際関係Ⅱ 金 鳳珍	2学期	2	2	281
		2年			
■法経科目群	国際貿易論Ⅰ 水戸 康夫	1学期	2	2	282
		2年			
	国際貿易論Ⅱ 水戸 康夫	2学期	2	2	283
		2年			
	国際金融論Ⅰ 休講	1学期	2	2	
		2年			
	国際金融論Ⅱ 休講	2学期	2	2	
		2年			
	国際経済論Ⅰ 魏 芳	1学期	2	2	284
		2年			
	国際経済論Ⅱ 魏 芳	2学期	2	2	285
		2年			
	国際法Ⅰ 二宮 正人	1学期	2	2	286
		2年			
	国際法Ⅱ 二宮 正人	2学期	2	2	287
		2年			
	国際取引法 大隈 一武	集中	2	2	288
		2年			
国際私法 中林 啓一	集中	2	2	289	
	2年				
アメリカ経済 休講	2学期	2	2		
	2年				
途上国開発論 休講	1学期	2	2		
	2年				
■英米文学・文化科目群	イギリス文学概論 田部井 世志子	1学期	2	2	290
		2年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■選択科目 ■英米文学・文化科目群	アメリカ文学概論	1学期	2	2	
	休講	2年			
	イギリスの現代文学	1学期	2	2	
	休講	2年			
	アメリカの現代文学	2学期	2	2	
	休講	2年			
	イギリスの18-19世紀文学	2学期	2	2	291
	杉本 美穂	2年			
	アメリカの18-19世紀文学	2学期	2	2	
	休講	2年			
	アメリカの歴史と社会	1学期	2	2	
	休講	2年			
アメリカの歴史と文化	1学期	2	2	292	
前田 譲治	2年				
アメリカの生活文化	1学期	2	2	293	
寺田 由美	2年				
アメリカの大衆文化	2学期	2	2	294	
前田 譲治	2年				
■専門基礎教育科目 ■必修科目	基礎演習I (発音クリニック)	1学期	1	2	295
	デニス・ジョーンズ	1 - 1			
	基礎演習I (発音クリニック)	1学期	1	2	296
	アダム・ヘイルズ	1 - 2			
	基礎演習I (発音クリニック)	1学期	1	2	297
	アダム・ヘイルズ	1 - 3			
	基礎演習I (発音クリニック)	1学期	1	2	298
	アダム・ヘイルズ	1 - 4			
	基礎演習II	2学期	1	2	299
	ダニエル・ストラック	1 - 1			
	基礎演習II	2学期	1	2	300
	デニス・ジョーンズ	1 - 2			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■専門基礎教育科目 ■必修科目	基礎演習II ロジャー・ウィリアムソン	2学期	1	2	301
		1 - 3			
	基礎演習II ロジャー・ウィリアムソン	2学期	1	2	302
		1 - 4			
	英会話演習 A アンデリユー・ジッツマン	1学期	1	2	303
		1 - 1			
	英会話演習 A アンデリユー・ジッツマン	1学期	1	2	304
		1 - 2			
	英会話演習 A アンデリユー・ジッツマン	1学期	1	2	305
		1 - 3			
	英会話演習 A アンデリユー・ジッツマン	1学期	1	2	306
		1 - 4			
英作文演習 A 山口 実	2学期	1	2	307	
	1 - 1				
英作文演習 A 山口 実	2学期	1	2	308	
	1 - 2				
英作文演習 A 大塚 由美子	2学期	1	2	309	
	1 - 3				
英作文演習 A 大塚 由美子	2学期	1	2	310	
	1 - 4				
■選択科目	英語学概論 北峯 裕士	1学期	1	2	311
		1年			
	英文法I 廣田 恵美	1学期	1	2	312
		1 - 1・2			
	英文法I 廣田 恵美	1学期	1	2	313
		1 - 3・4			
英文法II 廣田 恵美	2学期	1	2	314	
	1 - 1・2				
英文法II 廣田 恵美	2学期	1	2	315	
	1 - 3・4				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■専門基礎教育科目 ■選択科目	異文化間コミュニケーション概論 山崎 和夫	2学期	1	2	316
		1年			
■演習・研究科目 ■必修科目	英語リスニング演習 A 石井有希子	1学期	1	2	317
		1 - 1			
	英語リスニング演習 A 平野 圭子	1学期	1	2	318
		1 - 2			
	英語リスニング演習 A 平野 圭子	1学期	1	2	319
		1 - 3			
	英語リスニング演習 A 石井有希子	1学期	1	2	320
		1 - 4			
	英会話演習 B デニス・ウールブライト	2学期	2	2	321
		2 - 1			
	英会話演習 B デニス・ウールブライト	2学期	2	2	322
		2 - 2			
	英会話演習 B デニス・ウールブライト	2学期	2	2	323
		2 - 3			
	英会話演習 B アルバート・オスカー・モウ	2学期	2	2	324
		2 - 4			
	日英翻訳演習 ダニエル・ストラック	2学期	2	2	325
		2 - 3			
	日英翻訳演習 ダニエル・ストラック	2学期	2	2	326
		2 - 2			
	日英翻訳演習 ダニエル・ストラック	2学期	2	2	327
		2 - 1			
	日英翻訳演習 ダニエル・ストラック	2学期	2	2	328
		2 - 4			
	Reading and Discussion I クレイグ・ランバート	1学期	2	2	329
		2 - 1			
	Reading and Discussion I クレイグ・ランバート	1学期	2	2	330
		2 - 2			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・研究科目 ■必修科目	Reading and Discussion I クレイグ・ランバート	1学期	2	2	331
		2 - 3			
	Reading and Discussion I クレイグ・ランバート	1学期	2	2	332
		2 - 4			
	Reading and Discussion II クレイグ・ランバート	2学期	2	2	333
		2 - 1			
	Reading and Discussion II 石井有希子	2学期	2	2	334
		2 - 2			
	Reading and Discussion II 石井有希子	2学期	2	2	335
		2 - 3			
	Reading and Discussion II 石井有希子	2学期	2	2	336
		2 - 4			
	英語リスニング演習 B 大塚 由美子	1学期	2	2	337
		2 - 1			
	英語リスニング演習 B 村田 希巳子	1学期	2	2	338
		2 - 2			
	英語リスニング演習 B 山口 実	1学期	2	2	339
		2 - 3			
	英語リスニング演習 B 山口 実	1学期	2	2	340
		2 - 4			
英語スピーキング演習 デニス・ウールブライト	1学期	3	2	341	
	3 - 1				
英語スピーキング演習 デニス・ウールブライト	1学期	3	2	342	
	3 - 2				
英語スピーキング演習 デニス・ウールブライト	1学期	3	2	343	
	3 - 3				
英語スピーキング演習 アルバート・オスカー・モウ	1学期	3	2	344	
	3 - 4				
英語リーディング演習I 木下 善貞	1学期	3	2	345	
	3 - 1				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・研究科目 ■必修科目	英語リーディング演習I 田吹 長彦	1学期	3	2	346
		3 - 2			
	英語リーディング演習I 田吹 長彦	1学期	3	2	347
		3 - 3			
	英語リーディング演習I 江口 雅子	1学期	3	2	348
		3 - 4			
	英作文演習B アンデリユー・ジッツマン	2学期	3	2	349
		3 - 1			
	英作文演習B アンデリユー・ジッツマン	2学期	3	2	350
		3 - 2			
	英作文演習B アンデリユー・ジッツマン	2学期	3	2	351
		3 - 3			
英作文演習B 村田 希巳子	2学期	3	2	352	
	3 - 4				
■選択科目	ビジネス英語演習 松田 智	1学期	2	2	353
		2 - 1			
	ビジネス英語演習 松田 智	1学期	2	2	354
		2 - 2			
	ビジネス英語演習 松田 智	1学期	2	2	355
		2 - 3			
	ビジネス英語演習 山口 実	1学期	2	2	356
		2 - 4			
	メディア英語演習I 北峯 裕士	1学期	2	2	357
		2 - 1			
	メディア英語演習I 北峯 裕士	1学期	2	2	358
		2 - 2			
メディア英語演習I 北峯 裕士	1学期	2	2	359	
	2 - 3				
メディア英語演習I 北峯 裕士	1学期	2	2	360	
	2 - 4				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・研究科目 ■選択科目	メディア英語演習II 吉川 哲郎	2学期	2	2	361
		2 - 1			
	メディア英語演習II 吉川 哲郎	2学期	2	2	362
		2 - 2			
	メディア英語演習II 大塚 由美子	2学期	2	2	363
		2 - 3			
	メディア英語演習II 松崎 徹	2学期	2	2	364
		2 - 4			
	英日翻訳演習 野島 啓一	2学期	2	2	365
		2 - 1			
	英日翻訳演習 野島 啓一	2学期	2	2	366
		2 - 2			
	英日翻訳演習 野島 啓一	2学期	2	2	367
		2 - 3			
	英日翻訳演習 村田 希巳子	2学期	2	2	368
		2 - 4			
	異文化間コミュニケーション演習 十時 康	1学期	2	2	369
		2 - 1			
	異文化間コミュニケーション演習 十時 康	1学期	2	2	370
		2 - 2			
異文化間コミュニケーション演習 十時 康	1学期	2	2	371	
	2 - 3				
異文化間コミュニケーション演習 山崎 和夫	1学期	2	2	372	
	2 - 4				
通訳基礎演習I 伊藤 健一	1学期	2	2	373	
	2 - 1,2				
通訳基礎演習I 伊藤 健一	1学期	2	2	374	
	2 - 3,4				
通訳基礎演習II 伊藤 健一	2学期	2	2	375	
	2 - 1,2				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・研究科目 ■選択科目	通訳基礎演習II 伊藤 健一	2学期	2	2	376
		2 - 3,4			
	異文化フィールドワーク ロジャー・ウィリアムソン	1学期	2	2	377
		2年			
	英語学研究I(音声学・音韻論) 山内 ひさ子	2学期	2	2	378
		2年(英米優先)			
	英語学研究I(音声学・音韻論) 山内 ひさ子	2学期	2	2	379
		2年(国・比優先)			
	英語学研究II(統語論) 北峯 裕士	2学期	2	2	380
		2年			
	英語史 松崎 徹	2学期	2	2	381
		2年			
	社会言語学研究 平野 圭子	2学期	2	2	382
		2年			
	アメリカ研究 休講	2学期	2	2	
		2年			
	イギリス研究 アダム・ヘイルズ	1学期	2	2	383
		2年			
	英米文化研究 伊藤 健一	2学期	2	2	384
	2年				
日英文化研究 ダニエル・ストラック	2学期	2	2	385	
	2年				
上級英語I クレイグ・ランバート	1学期	3	2	386	
	3年				
上級英語II アンデリユー・ジッツマン	2学期	3	2	387	
	3年				
英語プレゼンテーション演習 ロジャー・ウィリアムソン	1学期	3	2	388	
	3 - 1,2				
英語プレゼンテーション演習 アダム・ヘイルズ	1学期	3	2	389	
	3 - 3,4				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・研究科目 ■選択科目	英語リーディング演習II 木下 善貞	2学期	3	2	390
		3 - 1			
	英語リーディング演習II 田吹 長彦	2学期	3	2	391
		3 - 2			
	英語リーディング演習II 田吹 長彦	2学期	3	2	392
		3 - 3			
	英語リーディング演習II 江口 雅子	2学期	3	2	393
		3 - 4			
	Advanced Reading and Discussion デニス・ジョーンズ	2学期	3	2	394
		3 - 1・2			
Advanced Reading and Discussion 休講	2学期	3	2		
Advanced Reading and Discussion デニス・ジョーンズ	2学期	3	2	395	
	3 - 3・4				
Advanced Reading and Discussion 休講	2学期	3	2		
ビジネス英語研究 松田 智	2学期	3	2	396	
	3年				
■ゼミ・卒業課題科目	卒業課題 ゼミ指導教員	1・2学期(ペア)	4	8	397
		4年			
	異文化間コミュニケーションゼミAI 山崎 和夫	1学期	3	2	398
		3年			
	異文化間コミュニケーションゼミAI ロジャー・ウィリアムソン	1学期	3	2	399
		3年			
	通訳ゼミAI 伊藤 健一	1学期	3	2	400
	3年				
通訳ゼミAI 野島 啓一	1学期	3	2	401	
	3年				
翻訳ゼミAI 木下 善貞	1学期	3	2	402	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■ゼミ・卒業課題科目	翻訳ゼミAⅠ	1学期	3	2	
	休講	3年			
	翻訳ゼミAⅠ	2学期	3	2	403
	ダニエル・ストラック	3年			
	ビジネス英語ゼミAⅠ	1学期	3	2	404
	松田 智	3年			
	メディア英語ゼミAⅠ	1学期	3	2	405
	吉川 哲郎	3年			
	アメリカ研究ゼミAⅠ	1学期	3	2	406
	デニス・ジョーンズ	3年			
	イギリス研究ゼミAⅠ	1学期	3	2	407
	木原 謙一	3年			
	英語学ゼミAⅠ	1学期	3	2	408
	北峯 裕士	3年			
	英語教育ゼミAⅠ	1学期	3	2	409
	クレイグ・ランバート	3年			
	社会言語学ゼミAⅠ	1学期	3	2	410
	平野 圭子	3年			
	異文化間コミュニケーションゼミAⅡ	2学期	3	2	411
	山崎 和夫	3年			
異文化間コミュニケーションゼミAⅡ	2学期	3	2	412	
ロジャー・ウィリアムソン	3年				
通訳ゼミAⅡ	2学期	3	2	413	
伊藤 健一	3年				
通訳ゼミAⅡ	2学期	3	2	414	
野島 啓一	3年				
翻訳ゼミAⅡ	2学期	3	2	415	
木下 善貞	3年				
翻訳ゼミAⅡ	2学期	3	2		
休講	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■ゼミ・卒業課題科目	翻訳ゼミAII ダニエル・ストラック	2学期	3	2	416
		3年			
	ビジネス英語ゼミAII 松田 智	2学期	3	2	417
		3年			
	メディア英語ゼミAII 吉川 哲郎	2学期	3	2	418
		3年			
	アメリカ研究ゼミAII デニス・ジョーンズ	2学期	3	2	419
		3年			
	イギリス研究ゼミAII 木原 謙一	2学期	3	2	420
		3年			
	英語学ゼミAII 北峯 裕士	2学期	3	2	421
		3年			
	英語教育ゼミAII クレイグ・ランバート	2学期	3	2	422
		3年			
	社会言語学ゼミAII 平野 圭子	2学期	3	2	423
		3年			
異文化間コミュニケーションゼミBI 山崎 和夫	1学期	4	2	424	
	4年				
通訳ゼミBI 伊藤 健一	1学期	4	2	425	
	4年				
通訳ゼミBI 野島 啓一	1学期	4	2	426	
	4年				
翻訳ゼミBI ダニエル・ストラック	2学期	4	2	427	
	4年				
翻訳ゼミBI 木下 善貞	1学期	4	2	428	
	4年				
翻訳ゼミBI ロジャー・ウィリアムソン	1学期	4	2	429	
	4年				
イギリス研究ゼミBI 木原 謙一	1学期	4	2	430	
	4年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■ゼミ・卒業課題科目	ビジネス英語ゼミBI 松田 智	1学期	4	2	431
			4年		
	メディア英語ゼミBI アダム・ヘイルズ	1学期	4	2	432
			4年		
	メディア英語ゼミBI 吉川 哲郎	1学期	4	2	433
			4年		
	アメリカ研究ゼミBI デニス・ジョーンズ	1学期	4	2	434
			4年		
	英語学ゼミBI 北峯 裕士	1学期	4	2	435
			4年		
	英語教育ゼミBI クレイグ・ランバート	1学期	4	2	436
			4年		
	社会言語学ゼミBI 平野 圭子	1学期	4	2	437
			4年		
	異文化間コミュニケーションゼミBII 山崎 和夫	2学期	4	2	438
			4年		
	通訳ゼミBII 伊藤 健一	2学期	4	2	439
			4年		
通訳ゼミBII 野島 啓一	2学期	4	2	440	
		4年			
翻訳ゼミBII ダニエル・ストラック	2学期	4	2	441	
		4年			
翻訳ゼミBII 木下 善貞	2学期	4	2	442	
		4年			
翻訳ゼミBII ロジャー・ウィリアムソン	2学期	4	2	443	
		4年			
イギリス研究ゼミBII 木原 謙一	2学期	4	2	444	
		4年			
ビジネス英語ゼミBII 松田 智	2学期	4	2	445	
		4年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■ゼミ・卒業課題科目	メディア英語ゼミBII アダム・ヘイルズ	1学期	4	2	446
		4年			
	メディア英語ゼミBII 吉川 哲郎	2学期	4	2	447
		4年			
	アメリカ研究ゼミBII デニス・ジョーンズ	2学期	4	2	448
		4年			
	英語学ゼミBII 北峯 裕士	2学期	4	2	449
	4年				
英語教育ゼミBII クレイグ・ランバート	2学期	4	2	450	
	4年				
社会言語学ゼミBII 平野 圭子	2学期	4	2	451	
	4年				
■教職に関する科目 ■必修科目	教師論 黒田 耕司	1学期	1	2	452
		1年			
	教育原理 見玉 弥生	2学期	1	2	453
		1年			
	発達心理学 税田 慶昭	1学期	2	2	454
		2年			
	教育制度 見玉 弥生	1学期	3	2	455
		3年			
	英語科教育法A 休講	1学期	2	2	
		2年			
	英語科教育法B 休講	2学期	2	2	
		2年			
	道徳教育の研究 黒田 耕司	1学期	2	2	456
	2年				
特別活動の研究 楠 凡之	1学期	2	2	457	
	2年				
教育方法学 黒田 耕司	2学期	2	2	458	
	2年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■必修科目	教育工学	2学期	2	2	459
	大塚 一徳	2年			
	教育実習 1	2学期	3	2	460
	黒田 耕司 他	3年			
	教育実習 2	1学期	4	2	461
	恒吉 紀寿 他	4年			
	教育実習 3	1学期	4	2	462
	恒吉 紀寿 他	4年			
	教育相談	1学期	2	2	463
	楠 凡之	2年			
生徒・進路指導論	2学期	2	2	464	
楠 凡之	2年				
英語科教育法 C	1学期	2	2	465	
山崎 和夫	2年				
英語科教育法 D	2学期	2	2	466	
山崎 和夫	2年				
教職実践演習	2学期	4	2		
未開講	4年				
■選択科目	教育心理学	2学期	2	2	467
	村上 太郎	2年			
	教育法規	2学期	3	2	
	休講	3年			
障害児の心理と指導	2学期	2	2	468	
税田 慶昭	2年				
教育社会学	1学期	2	2	469	
見玉 弥生	2年				
■教科または教職に関する科目	人権教育論	1学期	2	2	470
	弓野 勝族	2年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 小林 道彦	1学期	1	2	471
		1年			
	家族を問う 小野 憲昭	2学期	1	2	472
		1年			
	人間と文化 神原 ゆうこ	1学期	1	2	473
		1年			
	ことばの科学 漆原 朗子	1学期	1	2	474
		1年			
	国際学入門 伊野 憲治	1学期	1	2	475
		1年			
	教養としての平和学 戸蒔 仁司	2学期	1	2	476
		1年			
	可能性としての歴史 (昼のみ開講)		2	2	
	(昼のみ開講)	2年			
	家族の再生 (昼のみ開講)		2	2	
	(昼のみ開講)	2年			
	文化と政治 (昼のみ開講)		2	2	
	(昼のみ開講)	2年			
	言語と認知 (昼のみ開講)		2	2	
(昼のみ開講)	2年				
共生社会論 (昼のみ開講)		2	2		
(昼のみ開講)	2年				
戦争と平和 (昼のみ開講)		2	2		
(昼のみ開講)	2年				
生活世界の哲学 伊原木 大祐	2学期	1	2	477	
	1年				
共同体と身体 (昼のみ開講)		2	2		
(昼のみ開講)	2年				
■スキル科目	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	478
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	メンタル・ヘルスII	2学期	1	2	
	休講	1年			
	フィジカル・ヘルスI	1学期	1	2	
	休講	1年			
	フィジカル・ヘルスII	2学期	1	2	479
	内田 若希	1年			
	自己管理論		1	2	
	(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年			
	キャリア・デザイン		1	2	
	(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年			
	コミュニケーションと思考法		1	2	
	(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年			
	プロフェッショナルの仕事		2	2	
	(昼のみ開講) (昼のみ開講)	2年			
	大学論・学問論		1	2	
	(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年			
	法律の読み方		1	2	
	(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年			
	社会調査	2学期	1	2	480
稲月 正	1年				
統計を読む・統計をつくる		1	2		
(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年				
フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	481	
徳永 政夫	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1		
休講	1年				
■教養演習科目	教養基礎演習I		1	2	
	(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年			
	教養基礎演習II		1	2	
	(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習AⅠ		2	2	
	(昼のみ開講)	2年			
	(昼のみ開講)				
	教養演習AⅡ		2	2	
	(昼のみ開講)	2年			
	(昼のみ開講)				
	教養演習BⅠ		3	2	
	(昼のみ開講)	3年			
	(昼のみ開講)				482
	教養演習BⅡ	2学期	3	2	
	二宮 正人	3年			
	プロジェクト演習Ⅰ		2	2	
(昼のみ開講)	2年				
(昼のみ開講)					
プロジェクト演習Ⅱ		3	2		
(昼のみ開講)	3年				
(昼のみ開講)				483	
■テーマ科目	自然学のまなざし	1学期	1		2
休講	1年				
動物のみかた		1	2		
(昼のみ開講)	1年				
(昼のみ開講)					
地球の生いたち	2学期	1	2		
長井 孝一	1年				
自然史へのいざない		1	2		
(昼のみ開講)	1年				
(昼のみ開講)					
くらしと化学	1学期	1	2		
休講	1年				
現代人のこころ	1学期	1	2		
休講	1年				
数のたのしみ		1	2		
(昼のみ開講)	1年				
(昼のみ開講)					
私たちと宗教		1	2		
(昼のみ開講)	1年				
(昼のみ開講)					
思想と現代	1学期	1	2		
伊原木 大祐	1年				
				484	

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	ものがたりと人間 (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2	1年	
	文化と表象 (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2		
	言語とコミュニケーション (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2	1年	
	芸術と人間 (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2		
	文学を読む 休講	1学期	1	2	1年	
	戦争と人間 (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2		
	現代正義論 休講	2学期	1	2	1年	
	民主主義とは何か 中道 壽一	1学期	1	2		
	人権論 柳井 美枝	1学期	1	2	1年	486
	ジェンダー論 カ武 由美	1学期	1	2		
	障がい学 休講	2学期	1	2	1年	
	共生の作法 (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2		
	北九州学 小野 憲昭	2学期	1	2	1年	488
	市民活動論 西田 心平	2学期	1	2		
	企業と社会 山岡 敏秀	1学期	1	2	1年	490

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	つなぐりの人間学 (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2	491
	現代社会と倫理 伊原木 大祐	1学期	1	2	
	現代社会の諸問題 休講	2学期	1	2	492
	現代の国際情勢 金 鳳珍	1学期	1	2	
	国際社会論 休講	1学期	1	2	493
	国際紛争と国連 戸蒔 仁司	1学期	1	2	
	民族・エスニシティ問題 (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2	494
	開発と統治 三宅 博之 他	1学期	1	2	
	グローバル化する経済 休講	2学期	1	2	495
	テロリズム論 (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2	
	国際社会と日本 休講	1学期	1	2	495
	歴史の読み方I 小林 道彦	1学期	1	2	
	歴史の読み方II 休講	1学期	1	2	495
	そのとき世界は (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2	
	戦後の日本経済 (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2	495
			1	2	

外国語学部 英米学科 (2011年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	都市と農村の生活文化史 福間 裕爾	1学期	1	2	496
		1年			
	もとと人間の歴史 (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	人物と時代の歴史 新村昭雄(文)、三宅博之(法)、乗口眞一郎、山崎勇治	1学期	1	2	497
		1年			
	教養特講I (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	教養特講II (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	教養特講III (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
教養特講IV (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2		
	1年				
■教職関連科目	日本史 休講	2学期	1	2	
		1年			
	西洋史 疇谷 憲洋	1学期	1	2	498
		1年			
	東洋史 藤野 月子	2学期	1	2	499
		1年			
	社会学 休講	1学期	1	2	
		1年			
	人文地理学 休講	2学期	1	2	
		1年			
	土地地理学 休講	1学期	1	2	
		1年			
地誌学 吉津 直樹	1学期	1	2	500	
	1年				
日本国憲法 徳永 達哉	2学期	1	2	501	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教職関連科目	倫理学 伊原木 大祐	2学期	1	2	502
	1年				
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング 廣渡 栄寿	2学期	1	2	503
	1年				
	データ処理 中尾 泰士	1学期	1	2	504
	1年				
	情報表現 (昼のみ開講)		2	2	
	(昼のみ開講)	2年			
プログラミング基礎 (昼のみ開講)		2	2		
(昼のみ開講)	2年				
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I 杉山 智子	1学期	1	1	505
	英夜1年				
	英語II 杉山 智子	2学期	1	1	506
	英夜1年				
	英語III クリストファー・オサリバン	1学期	1	1	507
	英夜1年				
	英語IV クリストファー・オサリバン	2学期	1	1	508
	英夜1年				
	英語V 伊藤 晃	1学期	2	1	509
	英夜2年				
	英語VI 伊藤 晃	2学期	2	1	510
	英夜2年				
英語VII クリストファー・オサリバン	1学期	2	1	511	
英夜2年					
英語VIII クリストファー・オサリバン	2学期	2	1	512	
英夜2年					
■第二外国語	中国語I 有働 彰子	1学期	1	1	513
	英比人夜1年				
	中国語II 有働 彰子	2学期	1	1	514
英比人夜1年					

科目区分	科目名	担当者	学期	履修年次	単位	索引
			クラス			
	備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	中国語Ⅲ	王 占華	1学期	1	1	515
				英比人夜 1年		
	中国語Ⅳ	王 占華	2学期	1	1	516
				英比人夜 1年		
	朝鮮語Ⅰ	金 貞愛	1学期	1	1	517
				英比人夜 1年		
	朝鮮語Ⅱ	金 光子	2学期	1	1	518
				英比人夜 1年		
	朝鮮語Ⅲ	金 光子	1学期	1	1	519
				英比人夜 1年		
	朝鮮語Ⅳ	金 光子	2学期	1	1	520
				英比人夜 1年		
	ロシア語Ⅰ	芳之内 雄二	1学期	1	1	521
				英比人夜 1年		
	ロシア語Ⅱ	芳之内 雄二	2学期	1	1	522
				英比人夜 1年		
	ロシア語Ⅲ	芳之内 雄二	1学期	1	1	523
				英比人夜 1年		
	ロシア語Ⅳ	芳之内 雄二	2学期	1	1	524
				英比人夜 1年		
ドイツ語Ⅰ	山下 哲雄	1学期	1	1	525	
			英夜 1年			
ドイツ語Ⅱ	山下 哲雄	2学期	1	1	526	
			英夜 1年			
ドイツ語Ⅲ	山下 哲雄	1学期	1	1	527	
			英夜 1年			
ドイツ語Ⅳ	山下 哲雄	2学期	1	1	528	
			英夜 1年			
フランス語Ⅰ	福島 勲	1学期	1	1	529	
			英夜 1年			

外国語学部 英米学科 (2011年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	フランス語II 福島 勲	2学期	1	1	530
		英夜1年			
	フランス語III 山下 高之	1学期	1	1	531
		英夜1年			
	フランス語IV 山下 高之	2学期	1	1	532
		英夜1年			
	スペイン語I 岡住 正秀	1学期	1	1	533
		英比人夜1年			
	スペイン語II 岡住 正秀	2学期	1	1	534
		英比人夜1年			
	スペイン語III 岡住 正秀	1学期	1	1	535
		英比人夜1年			
スペイン語IV 岡住 正秀	2学期	1	1	536	
	英比人夜1年				
■専門教育科目 ■選択科目 ■米地域・国際科目群	地域研究入門(アメリカ) 休講	1学期	2	2	
		2年			
	アメリカの社会I 北 美幸	1学期	2	2	537
		2年			
	アメリカの社会II 北 美幸	2学期	2	2	538
		2年			
	アメリカの政治I 休講	1学期	2	2	
		2年			
	アメリカの政治II 休講	2学期	2	2	
		2年			
	アメリカの政治III 休講	1学期	2	2	
		2年			
アメリカの政治IV 休講	2学期	2	2		
	2年				
国際関係史I 休講	1学期	2	2		
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目 ■米地域・国際科目群	国際関係Ⅱ	2学期	2	2	
	休講	2年			
■法経科目群	国際貿易論Ⅰ	1学期	2	2	539
	立石 揚志	2年			
	国際貿易論Ⅱ	2学期	2	2	540
	立石 揚志	2年			
	国際金融論Ⅰ	1学期	2	2	541
	前田 淳	2年			
	国際金融論Ⅱ	2学期	2	2	542
	前田 淳	2年			
	国際経済論Ⅰ	1学期	2	2	543
	魏 芳	2年			
	国際経済論Ⅱ	2学期	2	2	544
	魏 芳	2年			
	国際法Ⅰ	1学期	2	2	
	休講	2年			
	国際法Ⅱ	2学期	2	2	545
	二宮 正人	2年			
国際取引法	集中	2	2	546	
大隈 一武	2年				
国際私法	集中	2	2		
休講	2年				
アメリカ経済	2学期	2	2	547	
山崎 好裕	2年				
途上国開発論	1学期	2	2	548	
三宅 博之	2年				
■英米文学・文化科目群	アメリカ文学概論	1学期	2	2	549
	新村 昭雄	2年			
イギリスの現代文学	1学期	2	2	550	
杉本 美穂	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目 ■英米文学・文化科目群	アメリカの現代文学 前田 譲治	2学期	2	2	551
	2年				
	イギリスの18-19世紀文学 休講	2学期	2	2	
	2年				
	アメリカの18-19世紀文学 新村 昭雄	2学期	2	2	552
	2年				
	アメリカの歴史と社会 寺田 由美	1学期	2	2	553
	2年				
	アメリカの生活文化 休講	1学期	2	2	
	2年				
■専門基礎教育科目 ■必修科目	基礎演習I (発音クリニック) 休講	1学期	1	2	
	1年夜間				
	基礎演習II 休講	2学期	1	2	
	1年夜間				
	英会話演習 A 休講	1学期	1	2	
	1年夜間				
	英作文演習 A 休講	2学期	1	2	
	1年夜間				
■選択科目	英語学概論 休講	1学期	1	2	
	1年				
	英文法I 休講	1学期	1	2	
	1年				
	英文法II 休講	2学期	1	2	
	1年				
■演習・研究科目 ■必修科目	英語リスニング演習 A 休講	1学期	1	2	
	1年夜間				
	英会話演習 B 休講	2学期	2	2	
	2年夜間				
	Reading and Discussion I クレイグ・ランバート	1学期	2	2	554
2年夜間					

外国語学部 英米学科 (2011年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
■専門教育科目 ■演習・研究科目 ■必修科目	Reading and Discussion II クレイグ・ランバート	2学期	2	2	555	
		2年夜間				
	英語リスニング演習B 休講	1学期	2	2		
		2年夜間				
	英語スピーキング演習 ロジャー・ウィリアムソン	1学期	3	2	556	
		3年夜間				
英語リーディング演習I 江口 雅子	1学期	3	2	557		
	3年夜間					
英作文演習B 村田 希巳子	2学期	3	2	558		
	3年夜間					
■選択科目	ビジネス英語演習 松田 智	1学期	2	2	559	
		2年夜間				
	異文化フィールドワーク ロジャー・ウィリアムソン	1学期	2	2	560	
		2年				
	英語史 松崎 徹	2学期	2	2	561	
		2年				
	アメリカ研究 江口 雅子	2学期	2	2	562	
		2年				
	イギリス研究 休講	1学期	2	2		
		2年				
	英米文化研究 休講	2学期	2	2		
		2年				
Advanced Reading and Discussion デニス・ジョーンズ	2学期	3	2	563		
	3年夜間					
ビジネス英語研究 松田 智	2学期	3	2	564		
	3年					
■ゼミ・卒業課題科目	卒業課題 ゼミ指導教員	1・2学期 (ペア)		4	8	565
		4年				
	翻訳ゼミA1 休講	1学期	3	2		
		3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■ゼミ・卒業課題科目	メディア英語ゼミAⅠ 吉川 哲郎	1学期	3	2	566
		3年			
	異文化間コミュニケーションゼミAⅠ 休講	1学期	3	2	
		3年			
	通訳ゼミAⅠ 休講	1学期	3	2	
		3年			
	ビジネス英語ゼミAⅠ 休講	1学期	3	2	
		3年			
	アメリカ研究ゼミAⅠ 休講	1学期	3	2	
		3年			
	イギリス研究ゼミAⅠ 休講	1学期	3	2	
		3年			
	社会言語学ゼミAⅠ 休講	1学期	3	2	
		3年			
	英語学ゼミAⅠ 休講	1学期	3	2	
		3年			
	翻訳ゼミAⅡ 休講	2学期	3	2	
		3年			
	メディア英語ゼミAⅡ 吉川 哲郎	2学期	3	2	567
		3年			
異文化間コミュニケーションゼミAⅡ 休講	2学期	3	2		
	3年				
通訳ゼミAⅡ 休講	2学期	3	2		
	3年				
ビジネス英語ゼミAⅡ 休講	2学期	3	2		
	3年				
アメリカ研究ゼミAⅡ 休講	2学期	3	2		
	3年				
イギリス研究ゼミAⅡ 休講	2学期	3	2		
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■ゼミ・卒業課題科目	社会言語学ゼミAII	2学期	3	2	
	休講	3年			
	英語学ゼミAII	2学期	3	2	
	休講	3年			
	社会言語学ゼミBI	1学期	4	2	568
	平野 圭子	4年			
	英語学ゼミBI	1学期	4	2	
	休講	4年			
	メディア英語ゼミBI	1学期	4	2	
	休講	4年			
	異文化間コミュニケーションゼミBI	1学期	4	2	
	休講	4年			
	通訳ゼミBI	1学期	4	2	569
	野島 啓一	4年			
	翻訳ゼミBI	1学期	4	2	570
	木下 善貞	4年			
	ビジネス英語ゼミBI	1学期	4	2	
	休講	4年			
	アメリカ研究ゼミBI	1学期	4	2	571
	デニス・ジョーンズ	4年			
イギリス研究ゼミBI	1学期	4	2		
休講	4年				
社会言語学ゼミBII	2学期	4	2	572	
平野 圭子	4年				
英語学ゼミBII	2学期	4	2		
休講	4年				
メディア英語ゼミBII	2学期	4	2		
休講	4年				
異文化間コミュニケーションゼミBII	2学期	4	2		
休講	4年				

外国語学部 英米学科 (2011年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■ゼミ・卒業課題科目	通訳ゼミBII 野島 啓一	2学期	4	2	573
	4年				
	翻訳ゼミBII 木下 善貞	2学期	4	2	574
	4年				
	ビジネス英語ゼミBII 休講	2学期	4	2	
	4年				
	アメリカ研究ゼミBII デニス・ジョーンズ	2学期	4	2	575
	4年				
	イギリス研究ゼミBII 休講	2学期	4	2	
	4年				
■教職に関する科目 ■必修科目	教師論 黒田 耕司	1学期	1	2	576
	1年				
	教育原理 見玉 弥生	2学期	1	2	577
	1年				
	発達心理学 税田 慶昭	1学期	2	2	578
	2年				
	教育制度 見玉 弥生	1学期	3	2	579
	3年				
	英語科教育法A 山崎 和夫	1学期	2	2	580
	2年				
	英語科教育法B 山崎 和夫	2学期	2	2	581
	2年				
	道德教育の研究 黒田 耕司	1学期	2	2	582
2年					
特別活動の研究 楠 凡之	1学期	2	2	583	
2年					
教育方法学 黒田 耕司	2学期	2	2	584	
2年					
教育工学 大塚 一徳	2学期	2	2	585	
2年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教職に関する科目 ■必修科目	教育実習 1	2学期	3	2	586
	黒田 耕司	3年			
	教育実習 2	1学期	4	2	587
	恒吉 紀寿	4年			
	教育実習 3	1学期	4	2	588
	恒吉 紀寿	4年			
	教育相談	1学期	2	2	589
	楠 凡之	2年			
	生徒・進路指導論	2学期	2	2	590
	楠 凡之	2年			
英語科教育法C	1学期	2	2		
休講	2年				
英語科教育法D	2学期	2	2		
休講	2年				
■選択科目	教育心理学	2学期	2	2	591
	田島 司	2年			
	教育法規	2学期	3	2	592
	見玉 弥生	3年			
	障害児の心理と指導	2学期	2	2	
休講	2年				
教育社会学	1学期	2	2		
休講	2年				
■教科または教職に関する科目	人権教育論	1学期	2	2	593
	弓野 勝族	2年			

歴史と政治【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ペリー来航 (1853) から55年体制の成立 (1955) までの日本政治の歩みを外交政策の展開と関連させて概説する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○伊藤之雄『明治天皇』(ミネルヴァ書房)、○小林道彦『桂太郎』(ミネルヴァ書房)、○岡義武『山県有朋』(岩波新書)、○岡義武『近衛文麿』(岩波新書)、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 不平等条約と条約改正【維新の三傑】
- 第3回 自由民権運動と朝鮮問題【伊藤博文】
- 第4回 日清戦争【陸奥宗光】
- 第5回 日露戦争【山県有朋】
- 第6回 大正政変 - 国家経営構想の分裂 - 【桂太郎】
- 第7回 21カ条要求【大隈重信】【孫文】
- 第8回 原敬と協調外交【原敬】
- 第9回 二大政党制と外交政策【加藤高明】
- 第10回 政党政治と満州事変【浜口雄幸】
- 第11回 2・26事件と日中戦争【近衛文麿】
- 第12回 破滅への道 - 太平洋戦争 - 【東条英機】【吉田茂】
- 第13回 戦後改革【マッカーサー】
- 第14回 55年体制の成立【自民党】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族を問う【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちが共同生活を営んでいる社会の最小単位である家族、信頼のおけるかけがえのない存在であるこの家族に今何が起きているのか。迷走し、混迷する家族の実像から、現代の家族が抱える問題点を明らかにしてみようと思っています。

教科書 /Textbooks

使用しません。レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 開講にあたって-問題の出発点-家族とは？
- 2回 家族の機能
- 3回 ハードウェアとしての家族
- 4回 システムとしての家族①
- 5回 システムとしての家族②
- 6回 システムとしての家族③
- 7回 システムとしての家族④
- 8回 現代家族の課題-夫婦①
- 9回 現代家族の課題-夫婦②
- 10回 現代家族の課題-親子①
- 11回 現代家族の課題-親子②
- 12回 現代家族の課題-親子③
- 13回 現代家族の課題-家族の危機
- 14回 現代家族の課題-家族モデル
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 10% 期末試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメに紹介した参考文献、図書館所蔵の関連図書を読み込むと理解を深めることができます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

キーワード /Keywords

人間と文化【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「文化」という言葉から伝統芸能や芸術活動を連想する受講者も多いだろう。本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。

グローバル化が進んだ現在でも、地域によって家族・親族関係のありかた、信仰のありかた、経済活動に関する考え方は大きく異なる。本講義では、(おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学一年生という受講者が現在考えている「文化」を、世界各地の文化のありかたを参照することで相対化し、身の回りの現代社会について考察するひとつの手段を学ぶ。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
春日直樹(編)2008『人類学で世界をみる』ミネルヴァ書房
作道伸介(編)2008『近代化のフィールドワーク』東信堂
宮島喬(編)2000『講座社会学7 文化』東京大学出版会
※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：グローバルでローカルな世界を想像するために
- 第2回 異文化の「発見」：文化を考察する視点について
- 第3回 文化の基礎としての環境との<共生>
- 第4・5回 経済活動にみる文化：贈与と交換から地域通貨まで
- 第6回 資本主義の受容と貧困
- 第7回 開発の現場における「文化の差異」
- 第8・9回 個人と集団：生殖医療の時代に家族・親族関係を考える
- 第10回 親族・家族関係から社会関係への拡張
- 第11回 ジェンダー
- 第12・13回 日常生活の中の儀礼からみえる世界観
- 第14回 宗教・呪術・占いの機能
- 第15回 まとめ：グローバル化のなかのローカルな文化と普遍的価値観

成績評価の方法 /Assessment Method

エッセイによる授業貢献20%、期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回最後の10-15分は授業の感想と、指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についてのエッセイを記述し、提出してもらいます。次回の講義の冒頭で、提出されたエッセイの中から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進めます。専門分野に関わらず、日常的に新聞、雑誌、書籍などを読む習慣をつけ、自分の考えをまとめる訓練を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「人間と文化」では、文化について生活に密着した側面に注目しています。来年度に2年次対象の「文化と政治」を受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、環境、共同体、社会関係

ことばの科学 【昼】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体现しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最新の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』 大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音声と音韻
- 第4回 連濁・鼻濁音
- 第5回 ことばの単位(2)：語
- 第6回 語の基本：成り立ち・構造・意味
- 第7回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第8回 言葉の単位(3)：文
- 第9回 動詞の自他
- 第10回 日本語と英語の受動態
- 第11回 数量詞
- 第12回 代名詞：「彼」「彼女」「自分」「自分自身」
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養としての平和学 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

皆さんがこれまで漠然と認識してきた「戦争」や「平和」という既成概念を改めて真剣に問い返して、戦争アレルギーに基づく思考停止的反戦主義や現実性に乏しい理想主義的平和主義を廃し、現実的な平和思考を養うことを目的とします。一言で言えば「平和とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～5回 問題提起、戦争の定義
- 6回～8回 平和の定義、積極平和論
- 9回～11回 日本の平和主義
- 12回～13回 正戦論(正義の戦争はあるか)
- 14回 二重結果の原則
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

可能性としての歴史【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「歴史にイフは禁物」とよく言われるが、本当にそうなのか？安易なイフの設定はたしかに禁物だが、イフを上手に導入すれば、歴史の失われた可能性が見えてくるだろう。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかのイフを導入して、日本近代史の別の可能性をみなさんとともに考えていこうと思う。なお、「歴史と政治」「歴史の読み方II」を受講していただいた方が、講義の理解はより深まります。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎』(ミネルヴァ書房)など。適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 日清戦争 - 戦争回避の可能性はなかったのか？【陸奥宗光】
- 3回 日露戦争 - 戦争回避の可能性はなかったのか？【小村寿太郎】
- 4回 もし、伊藤博文が暗殺されなかったら - 韓国併合回避の可能性はあったか？ - 【山県有朋】
- 5回 もし、明治天皇がもっと長生きしていたら - 2大政党制の誕生 - 【桂太郎】
- 6回 もし、シーメンス事件が発覚しなかったら？ - 大隈内閣と21カ条要求 - 【山本権兵衛】
- 7回 もし、原敬が暗殺されなかったら？ - 政党政治による軍部支配 - 【田中義一】
- 8回 もし、加藤高明が急死しなかったら？ - 外交政策の安定化 - 【護憲三派内閣】
- 9回 もし、若槻礼次郎内閣が崩壊しなかったら？ - 満州事変は失敗していた？ - 【石原莞爾】
- 10回 もし、2・26事件が起こらなかったら？ - 日中戦争回避の可能性 - 【高橋是清】
- 11回 もし、1940年夏にフランスがドイツに勝利していたら？(日独伊三国同盟)【ヒトラー】
- 12回 もし、鈴木貫太郎内閣がポツダム宣言を受諾しなかったら？(太平洋戦争)【本土決戦】。
- 13回 もし、西郷隆盛が亡くならなかったら【西南戦争】【藩閥政府】。
- 14回 歴史にifは必要だ！
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※学生諸君の理解度に鑑みて、講義内容を若干変更する可能性があります。「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。最低限、高校教科書レベル+αの予習を毎回やってきて下さい。そのための文献は適宜指示します。

履修上の注意 /Remarks

相当量の板書をするので、ノートはこまめにとること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族の再生 【昼】

担当者名 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代家族の状況、家族の形成、再生の試みを紹介しながら今後の家族の行方を探り、家族の可能性、家族とともに生きることを考えてみようと思っています。

教科書 /Textbooks

レジュメを使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに-ガイダンス
- 2回 家族を見つめる①
- 3回 家族を見つめる②
- 4回 家族を見つめる③
- 5回 家族モデルを考える①
- 6回 家族モデルを考える②
- 7回 家族モデルを考える③
- 8回 家族の危機を回避する①
- 9回 家族の危機を回避する②
- 10回 家族の危機を回避する③
- 11回 家族の危機を回避する④
- 12回 家族の危機を回避する⑤
- 13回 家庭裁判所の利用を考える①
- 14回 家庭裁判所の利用を考える②
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 10% 期末試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメに紹介した参考文献、図書館所蔵の関連図書を読み込むと理解を深めることができます。講義ノートを作成するよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

キーワード /Keywords

文化と政治【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の対立がしばしば政治的な問題となり、その解決のために異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義はそのための基礎的な考え方を身につけることを目的とする。講義の前半は、「文化を知ること」そのものが持つ政治性について講義を行い、後半はその応用として、文化と政治が結びついて立ち現われる具体的な場面に注目して講義を行う。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、以下の参考文献（参考までにどの学部にもふさわしいか記しているが）各人の興味にあわせて一冊以上読んでおくこと。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 青木保ほか（編）1997 『民族の生成と論理（岩波講座文化人類学5）』 岩波書店（文・外）
- 青木保ほか（編）1997 『紛争と運動（岩波講座文化人類学6）』 岩波書店（法・文・外）
- 岩竹美加子 1996 『民俗学の政治性』 未来社（文・群）
- ジョセフ・E・ステイグリッツ 2002 『世界を不幸にしたグローバリズムの正体』 徳間書店（経・外）
- 陳天璽 2005 『無国籍』 新潮社（法・文・外・群）
- デヴィッド・ヘルド 2002 『グローバル化とは何か』 法律文化社（経・法・外・群）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか
- 第2・3回 自文化を知ることの政治性：ナショナリズムと文化
- 第4回 自文化を知らないことの政治性：先住民・少数民族の文化に関して
- 第5・6回 異文化を知ることの政治性：「未開の人々」へのエキゾチズム
- 第7回 異文化を知らないことの政治性：人権の概念は世界共通か？
- 第8回 中間試験 / 講義前半のまとめ・講義後半の導入
- 第9回 文化的「他者」への憎悪のメカニズム：ナショナリズム・エスノナショナリズム
- 第10・11・12回 共生のための政治
- 第13・14回 記憶の政治学と文化
- 第15回 まとめ：ネイションとエスニシティの時代を超えて

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験30%、期末試験70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

第8回目に中間試験を行うが、中間試験を受けていない学生は期末試験を受けることができないので注意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

文化と政治の問題は学際性の強い分野です。自分の専門の興味関心と結び付けながら、授業に臨んでください。

キーワード /Keywords

ナショナリズム、エスノナショナリズム、グローバリゼーション、多文化共生

言語と認知【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター
日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に認知言語学)、認知科学、心理学の側面から学際的に考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

- 第1回 序 (漆原・全員)
- 第2回 視覚と言語1 (未定)
- 第3回 視覚と言語2 (未定)
- 第4回 視覚と言語3 (未定)
- 第5回 ことばはどのように身につけられるのか：言語習得 (漆原)
- 第6回 ことばはどのように失われるのか：失語症・失文法 (漆原)
- 第7回 ことばはどのように処理されるのか：文法と脳科学 (漆原)
- 第8回 前半のまとめ (漆原)
- 第9回 ことばはなぜヒトに特有なのか：言語と遺伝子1 (日高)
- 第10回 ことばはなぜヒトに特有なのか：言語と遺伝子2 (日高)
- 第11回 ことばはなぜヒトに特有なのか：言語と遺伝子3 (日高)
- 第12回 特別講義 (外部講師)
- 第13回 文の形と意味をつなぐもの：文法形式と意味の類像性 (杉山)
- 第14回 左右の区別がなかったら？：ことばと思考・言語相対論 (杉山)
- 第15回 まとめ：担当者によるパネル・ディスカッション (全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への姿勢・取り組み...20% 課題...16% × 5
外部講師を含む5名の担当教員の課題をすべて出さない限り、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生社会論 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探って見る。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げる中で、この問題に迫って生きたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】。
- 第3回～第6回：異文化共存の方法、オリエンタリズムの克服方法【一元論的理解VS.多元論的理解】【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回～第12回：具体的事例「自閉症児者との共存・共生」
- 第13回～14回：文化相対主義の可能性と限界【文化相対主義】【反文化相対主義】【反反文化相対主義】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義受講に当たっては、「国際学入門」[担当：伊野]や「障がい学」[担当：伊野・狭間]を既に受講していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦争と平和【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1年次ビジョン科目「教養としての平和学」からさらに進んで、戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。「教養としての平和学」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 安全保障とは何か
- 3回～6回 第1テーマ 20世紀の戦争I～世界大戦
 - A.戦争と平和(戦争を学ぶ必要性、戦争の定義、戦争と平和)
 - B.戦争の経歴(絶対主義時代の戦争、革命戦争、近代戦争)
 - C.両大戦の特徴(総力化、イデオロギー化、全面化)
 - D.戦争の変質(勢力均衡、アメリカの戦争観)
- 7回～10回 第2テーマ 20世紀の戦争II～核兵器の時代
 - A.原爆の出現(開発、完成、投下)
 - B.核兵器の種類と威力
 - C.核兵器出現に伴う変化
 - D.代理戦争(国際内戦)
 - E.核兵器の役割(抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 9回～10回 第3テーマ 21世紀の戦争I
 - A.冷戦終焉と「安全保障の終焉」?(「歴史の終焉?」「文明の衝突?」)
 - B.米国の脅威認識(911、国土安全保障戦略、ブッシュドクトリン、民主主義の拡大)
- 11回～14回 第4テーマ 21世紀の戦争II
 - A.「テロとの戦争」
 - B.破綻国家と人道的介入
 - C.正戦論の復権
 - D.対アフガニスタン武力行使の評価
 - E.イラク戦争
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし。ただし、「教養としての平和学」「国際紛争と国連」「テロリズム論」「戦争と人間」「国際社会と日本」などを受講しておく、さらに深く理解できる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、マックス・ヴェーバーからフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明したあと、近年盛んに論じられている公共性と親密圏の交錯という問題に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 姜尚中『マックス・ウェーバーと近代—合理化論のプロブレマティーク』御茶ノ水書房
- ハンナ・アーレント『人間の条件』(志水速雄訳)ちくま学芸文庫
- 斎藤純一『公共性(思考のフロンティア)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (1) 【官僚制】
- 3回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (2) 【物象化】
- 4回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (3) 【工場労働】
- 5回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (4) 【分業体制】
- 6回 生活世界論のはじまり(1) 【近代科学と現象学】
- 7回 生活世界論のはじまり(2) 【フッサールの近代批判】
- 8回 確認テストとその解説
- 9回 生活世界論のひろがり(1) 【アーレント、人と思想】
- 10回 生活世界論のひろがり(2) 【アーレントの近代批判】
- 11回 公私の区別とその起源(1) 【古代ギリシャ概説】
- 12回 公私の区別とその起源(2) 【古代ギリシャにおける政治】
- 13回 宗教の私事性と公的領域(1) 【迫害と弾圧】
- 14回 宗教の私事性と公的領域(2) 【社会との確執】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...50% 学期末試験...50%
(第8回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。この場合、成績評価はE判定となる。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生向け科目であることを考慮に入れ、分かりやすい講義となるよう心がけたい。しかし、2回にわたって実施する試験は、いずれも難度の高いものであることをあらかじめ認識しておくこと(昨年度は約2~3割の受講者が不合格となっている)。単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。

キーワード /Keywords

生活世界 形式合理性 活動 ポリス

共同体と身体 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

人間が自分（たち）の体について抱いている観念は、歴史を通じて必ずしも一貫しているわけではない。身体に対するイメージは、その人間が生きている時代の共同体によって微妙に変化してゆく。

この授業では、共同体と身体という二つの「体」がどのように関係してきたのかを精神的な観点から考察する。継続的な受講により、生活世界と自己とのつながりが以前よりもはつきりと理解できるようになるだろう。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○B・スネル『精神の発見——ギリシア人におけるヨーロッパ的思考の発生に関する研究』（新井靖一訳）、創文社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 日本的身体のイメージI
- 3回 日本的身体のイメージII
- 4回 近代社会の勃興と心身二元論
- 5回 古代ギリシャの身体観I（プラトンからホメロスへ）
- 6回 古代ギリシャの身体観II（ソポクレス）
- 7回 古代ギリシャの身体観III（通時的総括）
- 8回 キリスト教共同体と身体
- 9回 中間考査（2回～8回の内容確認テストを実施）
- 10回 映画の中の身体I
- 11回 映画の中の身体II
- 12回 文学作品の中の身体
- 13回 現代社会と身体問題の変容I
- 14回 現代社会と身体問題の変容II
- 15回 講義の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

内容確認テスト...40% 期末レポート...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で扱われる内容は、1年生向けビジョン科目「生活世界の哲学」の続編である。

「生活世界の哲学」、もしくは担当者による「倫理学」の授業をすでに受けている場合は、本講義についていくのが比較的容易なはずである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

昨年度は課題提出に際していくつかの深刻な不正が発覚したため、今年度から本授業はより一層厳格かつ厳密な成績評価法に変更している。それゆえ、この授業に登録予定の諸君には、ダンテ『神曲』の中から以下の有名な言葉を贈っておきたい。

「Lasciate ogne speranza, voi ch'intrate.（ここに入るあなたがたは一切の希望を捨てよ。）」

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を生涯発達（エリクソン理論）の視点からとらえながら、日々の生活を充実させるための、人生でのその時期、その時期でのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

教科書
 「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「こころの旅」神谷美恵子著 みすず書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション, 受講上の注意, 講師自己紹介など。
 - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【生涯発達心理学】
 - 3回 乳幼児の心の健康を知る。【エリクソンの自我発達理論】
 - 4回 児童期の心の健康を知る 【勤勉性と劣等感】
 - 5回 思春期の心のありよう【第二反抗期】
 - 6回から11回 青年期から壮年期までの人生と心の健康 【豊かな心とは】
 同一性の視点から ・遊びと人生
 配偶者の選択 ・病いと人生
 - 12回から13回 発達の障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
 - 14回 健康な心と身体が行く末について。【老いと死の受容】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績評価の方法
 定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

当該個所に対する自分の課題や疑問を整理しておくこと。自分なりの意見をまとめておいて授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスII【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス(心の健康)を友情の哲学と呼んだ識者がいた。多様な人格を周囲・地域に認めようということである。心の健康な人とは異端・極端を認め、そこから思考しようと努力する人であり「一人ひとりの幸福な生き方を配慮し援助する実践的な思想」といえる。本講座では、一般的な心理学を基盤にした「メンタルヘルスI」を前提として、さらにポジティブ心理学やアドラーや森田正馬の心理療法領域から心の健康増進の要件を学ぶ。青年期における健康な生活スタイルにも言及したい。欧米の理論も紹介しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、心の健康法にもふれることにより、受講者自身のセルフカウンセリングの能力がさらに高まることを期待したい。

教科書 /Textbooks

テキスト 特に設けない

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール(【 】はキーワード)
 1回 オリエンテーション。受講上の注意など。【健康行動と感情】
 2回 心的態度と生き方のセルフチェック【とらわれ】
 3回～5回 人間の発達と自己形成【コフト理論やアドラー心理学などの理論紹介】
 6回～8回 心の体操。自分の価値観を知る。自分の人間関係スキルを磨く。【傾聴・対話】
 9回～10回 心のリフレッシュ。内観療法の視点から。森田療法の視点から。【感謝】
 11回～12回 ライフスタイルについて。ライフスタイルとは。ライフスタイル診断。【アドラー心理学】
 13回～14回 ライフプランについて(ワークライフ・バランス)。地域や世界の心の健康を考える。
 キャリアプラン 【仕事】【遊び】
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自己の心の健康のみならず、他者や地域、国家や地球の環境にまで視野を拡大することを望みたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
 授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)
 実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・ トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・ やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・ 向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・ スポーツ【計画・ 企画】
- 14回 (実習)レッツ・ スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・ 実習)によって教室・ 多目的ホール・ 体育館と毎回場所が変わるので、次回の子告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

実習の場合は、運動ができる服装と体育館シューズを準備して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、【笑顔】と【コミュニケーション】である。

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力

フィジカル・ヘルスII 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習) ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義) ストレッチの理論
- 5回 (実習) ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義) ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習) 軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義) フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習) 球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習) 球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義) これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義) これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義) レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習) レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、【笑顔】と【コミュニケーション】である。

自己管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 生田カツ工、稲月正

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

青年期である大学生は自我意識が高まる時期であり、初めて一人暮らしをする学生にとっても、自己決定に基づく健康的で自立した生活することは容易なことではない。これからは、様々な角度から自己管理についての正しい知識と、自分を守り人にも役立つ健康の意識を高め、実践力を身につけることが大切である。今回の自己管理論は、各分野におけるプロフェッショナルの実体験や知識を学び、社会人になっても大いに役立ち、心身ともに健康で前向きに生きられる自分づくりをめざす。

教科書 /Textbooks

パワーポイントや配布資料など

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に設けない。授業中に関連文献を随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 第 1回 自己管理I総論【保健師】：自己管理に必要な青年期の心身両面からの問題を総論する。
- 第 2回 防犯の心得【警察官】：安心・安全とは何か。被害にあわないための具体的な自己防衛法を学び生活に役立てる。
- 第 3回 自己管理II体の健康【保健師】：多様な疾病・リスクを中心に生涯にわたる健康を見直す。
- 第 4回 若者にもっとも大切な栄養の話【管理栄養士】：健康的な栄養の知識を身につける。
- 第 5回 歯と口の健康を保つセルフケア【歯科医師】：歯及び口腔のセルフケアを学び豊かな人生を送るための基礎を養う。
- 第 6回 薬と健康【薬剤師】：薬の効果、サプリメントなど健康のための薬の知識を学ぶ。
- 第 7回 依存と健康【精神科専門職】：心身ともに破滅に陥りやすい依存症の医学的知識を学ぶ。
- 第 8回 自己管理III心の健康【保健師】：心と身体の関係から起こる疾病の予防や対策を学ぶ。
- 第 9回 健康な体と感染症【助産師】：自分で予防できる感染症の知識や命の尊さを学ぶ。
- 第10回 救急法I【消防士】：救急法I、IIは講義と救急救命の実技を組み合わせで行う。
- 第11回 救急法II応急手当の方法、心肺蘇生法の手順など、事故・災害時の身の守り方、人命救助の具体的方法を学習する。
- 第12回 障害とノーマラージュエーション【作業療法士】：障害者の自立生活を支援するための資源、サービス、情報など身近な事柄として紹介する。
- 第13回 人権・ハラスメント関係【関係専門職】：人権侵害・ハラスメント防止などの知識と予防対策を学ぶ。
- 第14回 自己管理まとめ【保健師】：小試験・ポイント・記述などで総合的に理解を深める。

成績評価の方法 /Assessment Method

①毎回のミニレポート：60% ②まとめ(小試験・ポイント・記述など)：40%、①②の総合点で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回授業で配布するレジユメをよく読みこんでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

- 1 1回目の総論で「自己管理のプログラム」を配布する。
- 2 外部講師による講義のため、授業開始後20分には入室禁止する。私語をしない。
- 3 毎回のミニレポートは出席確認としても取り扱う。
- 4 欠席した場合は正直に自己管理授業用の欠席届を提出する。
- 5 救急法の実技時には、上靴、スラックスなど着用する。
- 6 最終回の「自己管理まとめ」授業は小試験のため必ず出席する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

大学生の就職だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間にしたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% 授業内のレポート...30% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありませんが、自分のキャリアは自分で考えるしかありません。積極的・主体的に授業に参加し、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10力条を守ってください。

- ①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

キャリア・デザイン【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

将来の進路に対する不安や迷いを解消するために、また有意義な大学生活を営むために、

- ①様々な業界や企業、そして働き方など社会について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方を知る
- ③初対面の学生とのコミュニケーションに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

以上5点を獲得目標とし、グループワーク、個人ワーク、講義、先輩や社会人のゲストとのディスカッションなどを組み合わせて授業を進めていきます。最終授業では、将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのかをプランしていただきます。

皆さんと一緒に、無限の可能性を秘めた自分の将来について、じっくり考える時間したいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。以下書籍はその参考例です。

- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- 大久保幸夫『キャリアデザイン入門1基礎力編』日本経済新聞社
- 渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
- モーガン・マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
- エドガー・H.シャイン『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
- 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的やルール、キャリアの基本知識)
- 2回 学生生活とキャリア (社会で働く上で必要となる力、大学時代の過ごし方)
- 3回 進路について (就職活動や公務員試験、教員試験、大学院進学など)
- 4回 自分を知る① (働く価値観や仕事へのこだわり)
- 5回 自分を知る② (一皮むける経験、経験学習)
- 6回 自分を知る③ (自分の対人特性、自分の強みを伸ばす、自分の弱みを受け入れる)
- 7回 仕事をすること (仕事を考える視点、仕事のやりがい)※社会人ゲストを予定
- 8回 キャリアとお金 (雇用形態と賃金、生活費シミュレーション)
- 9回 大学生活を面白くする方法 (計画された偶発性・セレンディピティ)
- 10回 地域活動とインターンシップ (地域活動やインターンシップ経験した先輩とのディスカッション)
- 11回 業界&企業研究 (業界のしくみ、業界研究および企業研究の方法)
- 12回 就職活動を知る① (就職活動や公務員試験を体験した先輩とのディスカッション)
- 13回 就職活動を知る② (実際の就職試験を体験、その他面接など選考方法)
- 14回 学生生活を考える (自分を振り返り、将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのか)
- 15回 まとめ (総括)

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課されるレポート...80% 最終回のレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特別な準備は必要ありませんが、自分の将来に対して真剣に向き合う姿勢、そして自分を成長させたい意欲が求められます。

キャリア・デザイン 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

履修上の注意 /Remarks

必修ではありませんが、将来の進路のために大学生生活をどう営むかを考える、主に1年生向けの授業です。真鍋先生の「キャリアデザイン」が本講義いずれかを履修することをお勧めします。また、毎回、授業開始直後にグループワークがあります。よって、遅刻すると他のメンバーに迷惑がかかりますので注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループワークのメンバーは毎回シャッフルされます。毎週、初対面の学生と話せて学内の知り合いが増えます。また、地域活動やインターンシップなど、自らのキャリア形成に役立つインフォメーションもあります。積極的にご参加ください。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ、コミュニケーション、社会人マナー

コミュニケーションと思考法【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本経団連の調査では、大卒新卒者に求める能力として『コミュニケーション力』が常にトップとなっています。ダイバーシティと言われるように、多様な価値観を持った人と円滑なコミュニケーションができることが、仕事を進めていく上でポイントになります。また、複雑化・成熟化した社会では、単に言われたことをこなすのではなく問題を発見し解決に導いていくための『考える力』が求められます。授業の前半では、講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながらコミュニケーションのトレーニングしていきます。後半では、仕事をする上で重要な思考法についてその基礎を学びます。

教科書 /Textbooks

コミュニケーションに関するテキストを使用します。別途告知します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 全体ガイダンス	【授業の目的、授業のルール】
2回 会話とストレートトーク	【コミュニケーションとは、大切さ】
3回 言動の基本、伝え方	【話力とは、聞き手に心を開いて話をする】
4回 話し方に心理学を応用する(1)	【行動パターンによるコミュニケーション】
5回 話し方に心理学を応用する(2)	【良い人間関係を作るコミュニケーション】
6回 話し方に心理学を応用する(3)	【日常会話、スピーチ、プレゼンテーション】
7回 応対マナー	【どう話すのか、話す時の立ち振る舞い】
8回 電話応対	【電話・手紙のマナー】
9回 敬語を上手に使い話力を高める	【敬語の使い方】
10回 話し方 TPO	【シチュエーションを考える】
11回 プレゼンテーションをやってみる	【考えをまとめて発表する】
12回 思考法(1)	【ロジカルシンキング、演繹法、帰納法】
13回 思考法(2)	【ロジカルシンキング、ロジックツリー】
14回 思考法(3)	【クリティカルシンキング】
15回 まとめ	【授業のまとめ、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50%、授業の成果物...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありません。

履修上の注意 /Remarks

講義の性格上、1クラス50名程度での開講となります。例年多数の履修希望者があり抽選となっています。しかし、抽選に当たったにも関わらず、授業に参加しない学生が見られます。そうすると、本当に受講したくても受講できない学生に迷惑がかかります。受講したいという意思を強く持っている学生に履修登録をしていただきたいと思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーション、マナー、論理的思考法、帰納法、演繹法、クリティカルシンキング

プロフェッショナルの仕事【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

<目的>現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立ち頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの仕組み ②仕事の現実と成長する秘訣 ③将来のヒントを学びます。

<進め方>講演者の企業や仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<期待される効果>将来の自分の進路がイメージできない人は、様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くヒントを得ることが出来ます。また、企業や団体の第一線でいきいきと輝いて働いている社会人の話を聴くことで、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解できます。

なお、企業・団体は先方の都合もあり毎年変わります。事情によってはビデオ上映の場合もあります。

以下は2010年度の実績です。

ジェイコム北九州、リクルート、北九州市役所、門司港ホテル、スターフライヤー、デンソー九州、日本生命、朝日新聞社、東芝物流、コクヨ、ナフコ、山口銀行

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。企業・団体によっては会社案内などを当日配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

以下書籍はその参考例です。

○金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所

○中原淳ほか『企業内人材育成入門』ダイヤモンド社

○モーガン・マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社

見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 全体ガイダンス

第2～14回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

第15回 まとめ

※2010年度の実績

ジェイコム北九州、リクルート、北九州市役所、門司港ホテル、スターフライヤー、デンソー九州、日本生命、朝日新聞社、東芝物流、コクヨ、ナフコ、山口銀行

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課されるレポート...80% 最終回のレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講演者が所属する企業・団体および仕事について必ず予習をしてください。予習するポイントはその都度指示します。

履修上の注意 /Remarks

※1学期の「キャリア・デザイン」を受講していることが望ましい。

※授業の特性上、出席しなければ点数は付きません。よって課外活動で欠席が多くなる学生は履修を避けてください。

※本務でお忙しい中、本学の学生のために、わざわざ来学していただいている講演です。よって、以下の4項目は特別な事情があるときを除き厳守してください。①遅刻厳禁 ②携帯操作厳禁(マナーモードでバッグの中に) ③脱帽 ④飲食禁止

プロフェッショナルの仕事【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体で働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができないばかりです。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生生活、アイデンティティ

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科, 山本 光英 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

六法全書や法律書を開いてみても難しい。裁判所の判例を読んでみてもどうしてそういう判断をするのかわからない。法律はどのような仕組みになっているのかわからない。そういう疑問に少しでも応え、法律の世界を理解するために必要なスキルを提供します。法律に興味や関心を抱き、社会生活を円滑に営むための指針、心構えをつくる手助けになればと思っています。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス-法律を読むために
- 2回 民法を読む①【社会規範】【行為規範】【法律用語】【裁判所】
- 3回 民法を読む②【法解釈の方法】【文理解釈】【類推解釈】
- 4回 刑法を読む①【法規範の特性】【法の機能】【法の実在形式】【法源】【罪法定主義】
- 5回 刑法を読む②【刑事法】【法の適用】【憲法と刑事法の関係】【法の解釈】
- 6回 民事判例を読む①【判例】【先例】【認定事実】
- 7回 民事判例を読む②【判例研究の方法】【生命保険金】【特別受益】
- 8回 刑事判例を読む①【判例集の名称】【判例集の調べ方】【判例集の体裁】
- 9回 刑事判例を読む②【刑事判例の勉強の仕方】【事実の概要】【判旨】【解説】【因果関係】
- 10回 民法の視点から社会を読む①【婚姻】【内縁】【パートナーシップ】
- 11回 民法の視点から社会を読む②【相続】【遺言】【失権】
- 12回 刑法の視点から社会を読む①【一厘事件】【3銭電気窃盗事件】【窃盗罪の客体】
【可罰的違法性】【起訴便宜主義】
- 13回 刑法の視点から社会を読む②【裁判員制度】【刑事裁判の流れ】【公判の基本原則】
- 14回 民法と刑法の交錯する世界を読む【民事責任】【慰謝料】【制裁】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20 % 期末試験... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

六法を持参してください。法学部生以外の受講生には、石川明他編『法学六法'11』信山社(1,000円)をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会調査（主に量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。調査法を学ぶ場合、統計ソフトが使えるようになることよりも、基本的な「考え方」の方が重要である。たとえば、「あることを主張するためにはどのようなデータを用い、どのような事実が観察される必要があるか」を考えることである。その上で、質問文の作り方、調査票の構成、サンプリング、データファイル作成、単純集計、記述統計量の計算、検定、クロス表の作成など、基本的な分析技法について学ぶ。なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行う可能性がある。

教科書 /Textbooks

『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『ガイドブック社会調査（第2版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007
 - 『新版 ライフヒストリーを学ぶ人のために』、谷富夫編著、世界思想社、2008
- その他、授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 何のための社会調査か
- 第2回 量的調査と質的調査
- 第3回 調査と研究の進め方
- 第4回 社会調査を企画する
- 第5回 ワーディングと調査票の作成（1）
- 第6回 ワーディングと調査票の作成（2）
- 第7回 ワーディングと調査票の作成（3）
- 第8回 サンプリング
- 第9回 調査の実施とデータファイルの作成（1）
- 第10回 調査の実施とデータファイルの作成（2）
- 第11回 分布と統計量
- 第12回 検定の考え方
- 第13回 クロス集計
- 第14回 相関係数
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストをよく読んでくること。
 「統計を読む・統計をつくる」（1学期）と合わせて受講することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

統計を読む・統計をつくる【昼】

担当者名 /Instructor 山本 努 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々は新聞やテレビを通して、膨大な統計データや調査結果に日々、さらされている。統計をつくるに際して種々の社会調査が行われるが、社会調査の手順を示して、社会調査の生み出す統計データを批判的に読み込む力を培う。

教科書 /Textbooks

別途、掲示で指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

谷・山本編『よくわかる質的社会調査(プロセス編)』ミネルヴァ書房、轟・杉野『入門・社会調査法—2ステップで基礎から学ぶ』法律文化社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会調査のよい例、わるい例
- 2回 社会調査とは何か
- 3回 社会調査の種類
- 4回 量的(統計)調査の方法
- 5回 質問文の作り方
- 6回 量的(統計)調査の難点
- 7回 質的調査の方法
- 8回 質的調査のフィールドの実際
- 9回 質的調査の意義、量的(統計)調査との関係
- 10回 量的(統計的)社会調査の作品群の概要
- 11回 ミクロの量的(統計)分析の代表事例
- 12回 マクロの量的(統計)分析の代表事例
- 13回 ミクロの実験(統計)の代表事例
- 14回 質的・量的(統計)調査の作品の対比
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート又は試験 ... 80 % 授業での参加(質疑応答など) ... 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを購入しておくこと。社会科学の入門的講義を受講しておくこと好ましい。

履修上の注意 /Remarks

テキストを持参して授業に出席のこと。(テキストなしでは、授業はまったく理解できません。)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世の中の様々に興味を持つこと。新聞、書物などを読むこと。

キーワード /Keywords

社会調査、統計(量的)調査、質的調査

フィジカル・エクササイズI (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、サッカーの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(1)
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(2)
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(1)
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(2)
- 9回 サッカーの戦術の修得と試合(1)
- 10回 サッカーの戦術の修得と試合(2)
- 11回 審判法の修得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、テニスの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 ストロークの基礎練習(フォアハンド)(1)
- 3回 ストロークの基礎練習(フォアハンド)(2)
- 4回 ストロークの基礎練習(バックハンド)(3)
- 5回 ストロークの基礎練習(バックハンド)(4)
- 6回 サービスの基礎練習(1)
- 7回 サービスの基礎練習(2)
- 8回 ボレーやスマッシュの基礎練習(1)
- 9回 ボレーやスマッシュの基礎練習(2)
- 10回 ルール・戦術の説明
- 11回 シングルスゲーム(1)
- 12回 シングルスゲーム(2)
- 13回 ダブルスゲーム(1)
- 14回 ダブルスゲーム(2)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI(バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バスケットボールの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 集団行動(走る(ラン)・跳ぶ(ジャンプ)・投げる(スロー))
- 3回 ボールに慣れる(ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習(レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習(2対1、3対2)(1)
- 6回 応用練習(2対1、3対2)(2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド、速攻など)(1)
- 10回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド、速攻など)(2)
- 11回 ゲーム(1) ゾーンディフェンス(2-3)・(2-1-2)
- 12回 ゲーム(2) マンツーマンディフェンス
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 フライト練習(1) <ハイクリアー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ>
- 3回 フライト練習(2) <ハイクリアー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ>
- 4回 フライト練習(3) <ハイクリアー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ>
- 5回 サーブ練習<ショートサービス、ロングサービス>
- 6回 攻めと守りのコンビネーション練習(1)
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(2)
- 8回 ルール説明(1) <シングルス>
- 9回 ルール説明(2) <ダブルス>
- 10回 シングルスゲーム(1)
- 11回 シングルスゲーム(2)
- 12回 ダブルスゲーム(1)
- 13回 ダブルスゲーム(2)
- 14回 ダブルスゲーム(3)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バレーボールの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス、オーバーパス>
- 5回 パス練習(2) <アンダーパス、オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド、センター>
- 8回 アタック練習(2) <サイド、センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修に関する諸注意およびガイダンス
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト(1)
- 5回 基本的な打ち方とフライト(2)
- 6回 応用組み合わせ練習(1)
- 7回 応用組み合わせ練習(2)
- 8回 ゲーム展開の展開方法と審判法の習得
- 9回 戦術の説明
- 10回 ゲーム(1)
- 11回 ゲーム(2)
- 12回 ゲーム(3)
- 13回 ゲーム(4)
- 14回 ゲーム(5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バレーボールの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バレーボールの基礎(1) <パス編> (オーバーパス・アンダーパス)
- 3回 バレーボールの基礎(2) <パス編> (オーバーパス・アンダーパス)
- 4回 バレーボールの基礎(3) <サーブ編>
- 5回 バレーボールの基礎(4) <サーブ編>
- 6回 バレーボールの基礎(5) <アタック編>
- 7回 バレーボールの基礎(6) <アタック編>
- 8回 バレーボールの基礎(7) <ルール編> ルールの習得
- 9回 バレーボールの応用(1) フォーメーション
- 10回 バレーボールの応用(2) ゲーム展開
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バドミントンの基礎(1) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 3回 バドミントンの基礎(2) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 4回 バドミントンの基礎(3) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 5回 バドミントンの基礎(4) サーブ(ロング・ショート)
- 6回 バドミントンの基礎(5) スマッシュ
- 7回 バドミントンの基礎(6) ルールの習得(シングルス)
- 8回 バドミントンの応用(7) ルールの習得(ダブルス)
- 9回 バドミントンの応用(1) フォーメーション
- 10回 バドミントンの応用(2) ゲーム展開
- 11回 シングルスゲーム(1)
- 12回 シングルスゲーム(2)
- 13回 ダブルスゲーム(1)
- 14回 ダブルスゲーム(2)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 基本技術(フライト)の学習(1)
- 4回 基本技術(フライト)の学習(2)
- 5回 基本技術(フライト)の学習(3)
- 6回 基本技術(サービス)の学習
- 7回 基本技術(フライトのコンビネーション)の学習(1)
- 8回 基本技術(フライトのコンビネーション)の学習(2)
- 9回 ルールの説明
- 10回 ゲームの練習
- 11回 リーグ戦形式の試合(1)
- 12回 リーグ戦形式の試合(2)
- 13回 リーグ戦形式の試合(3)
- 14回 リーグ戦形式の試合(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 ストロークの基礎練習 (フォアハンド・ バックハンド)
- 3回 フライトの基礎練習 (1) (クリアー・ ドロップ・ スマッシュ・ ドライブ・ ヘアピン)
- 4回 フライトの基礎練習 (2) (クリアー・ ドロップ・ スマッシュ・ ドライブ・ ヘアピン)
- 5回 フライトの基礎練習 (3) (クリアー・ ドロップ・ スマッシュ・ ドライブ・ ヘアピン)
- 6回 フライトの基礎練習 (4) (クリアー・ ドロップ・ スマッシュ・ ドライブ・ ヘアピン)
- 7回 サービスの基礎練習
- 8回 ラリーゲームでの応用練習 (クリアー・ ドロップ・ ヘアピンのコンビネーション)
- 9回 ルール・ 戦術の説明
- 10回 攻めと守りのコンビネーション練習
- 11回 シングルスゲーム (1)
- 12回 シングルスゲーム (2)
- 13回 ダブルスゲーム (3)
- 14回 ダブルスゲーム (4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バスケットボールの実技をとって、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 集団行動(走る(ラン)・跳ぶ(ジャンプ)・投げる(スロー))
- 3回 ボールに慣れる(ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習(レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習(2対1、3対2)(1)
- 6回 応用練習(2対1、3対2)(2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド、速攻など)(1)
- 10回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド、速攻など)(2)
- 11回 ゲーム(1) ゾーンディフェンス(2-3)・(2-1-2)
- 12回 ゲーム(2) マンツーマンディフェンス
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バレーボールの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス、オーバーパス>
- 5回 パス練習(2) <アンダーパス、オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド、センター>
- 8回 アタック練習(2) <サイド、センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、サッカーの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修に関する諸注意およびガイダンス
- 2回 基本的なインサイドステップのシュートパス練習
- 3回 トラッピングからのパス練習
- 4回 リフティング
- 5回 ミニゲーム (1) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 6回 ミニゲーム (2) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 7回 ミニゲーム (3) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 8回 ミニゲーム (4) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 9回 ルール説明
- 10回 ゲーム (1)
- 11回 ゲーム (2)
- 12回 ゲーム (3)
- 13回 ゲーム (4)
- 14回 ゲーム (5)
- 15回 スキル獲得の確認テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修についての諸注意およびガイダンス
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト(1)
- 5回 基本的な打ち方とフライト(2)
- 6回 応用組み合わせ練習(1)
- 7回 応用組み合わせ練習(2)
- 8回 ゲーム展開の展開方法と審判法の習得
- 9回 戦術の説明
- 10回 ゲーム(1)
- 11回 ゲーム(2)
- 12回 ゲーム(3)
- 13回 ゲーム(4)
- 14回 ゲーム(5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、サッカーの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(1)
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(2)
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(1)
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(2)
- 9回 サッカーの戦術の修得と試合(1)
- 10回 サッカーの戦術の修得と試合(2)
- 11回 審判法の修得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、レクリエーションスポーツ種目も含め、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スポーツルール百科 ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、受講上の注意
- 2回 バレーボール(1) サーブ、パスの基礎練習
- 3回 バレーボール(2) ルール説明とゲーム
- 4回 バドミントン(1) 基本的な打ち方とフライト練習
- 5回 バドミントン(2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 6回 卓球(1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 7回 卓球(2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 8回 ソフトバレーボール(1) サーブ、パス、アタックの基本練習
- 9回 ソフトバレーボール(2) ルール説明とゲーム
- 10回 ショートテニス(1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 11回 ショートテニス(2) ルール作りとゲーム
- 12回 選択種目(1)
- 13回 選択種目(2)
- 14回 選択種目(3)
- 15回 スキル獲得の確認(選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。DNAとは何か？ 遺伝子とは何をしているものなのか？ 本演習では「DNA・遺伝子・生命」を主たるテーマとし、関連図書・DVDを用いて学習するほか、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。さらに関連した科学記事やニュースを読み取る力・自ら考える力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「アメリカ版大学生物学の教科書・第2巻」D・サダヴァ他著、ブルーバックス、2010年
- 「文系のための生命科学」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の説明【細胞】【遺伝】【染色体】
- 3回 基本的事項の説明【DNA】【RNA】【タンパク質】
- 4回 基本的事項の説明【遺伝子】【ゲノム】
- 5回 実験と実習【DNA鑑定実験1】
- 6回 実験と実習【DNA鑑定実験2】
- 7回 実験と実習【DNA鑑定実験3】
- 8回 科学記事よりトピックを選んで解説(1)
- 9回 科学記事よりトピックを選んで解説(2)
- 10回 科学記事よりトピックを選んで解説(3)
- 11回 科学記事よりトピックを選んで解説(4)
- 12回 関連映画作品等鑑賞(1)
- 13回 関連映画作品等鑑賞(2)
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・80%、課題・・・20%
 (毎回カードを配布する。授業中の発表のほかに、カードに記入したコメント・質問を重視する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本の歴史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全履修生から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

瀧井一博『伊藤博文 - 知の政治家』（中公新書、2010年）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習が始める前に大学図書館を見学しておいて下さい。
毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養基礎演習Ⅱ」とセットで履修することを希望します。
この演習は2年生・3年生との合同演習です。
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

大学での学び方入門： 本演習では、大学での勉強の仕方の基礎を学びます。最終的には、文献を読んで自分の考えをまとめるレポート（高校までの小論文でも調べ学習でも感想文でもなく）を書くことを目指す。前半では、身近な現象について論じているテキスト『下流社会第2章』の批判的読解を試みることを通して、レジュメの作りかた、議論の行い方、論点の見つけ方を学び、後半では、自分で関連する文献をさらに探して、2000～4000字程度のレポートを書くプロセスを報告しながら、受講者とともにより完成度の高いレポートの作成を目指す。

教科書 /Textbooks

三浦展 2007 『下流社会 第2章：なぜ男は女に“負けた”のか』 光文社新書

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○佐藤望ほか(編) 2006 『アカデミック・スキルズ』 慶應大学出版会
専修大学出版企画委員会(編) 2009 『知のツールボックス』 専修大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：大学の授業とは / ノートの取りかた
第2回 思考を発展させる読書のしかた：本を探しかたと読書ノートの活用について
第3回 レジュメの作りかた
第4・5・6・7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
テキスト：三浦展 『下流社会 第2章』
第8・9回 レポートの書きかた
第10・11・12・13・14回 レポート構想報告
第15回 文章を推敲する：レポートの相互添削

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、積極的な発言など)50%
(第15回で学生相互にレポートを添削し、その後最終的に書き直したレポートを評価の対象とします。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

問題意識は、漠然と本を読み、授業を聞くだけで生まれるものではありません。4月の段階で特定の学問的興味関心を持つことは求めませんが、学期末までには課題に対する問題意識を見つけることを心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

教養基礎演習IIも継続して受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・出席者の報告、レポート添削と再提出のプロセスを重視するので、人数が多すぎる場合、受講制限をします。
- ・現代社会に関する問題に興味のある学生の受講を歓迎します。

キーワード /Keywords

レポートの書き方、問題意識の発見、レポート作成

教養基礎演習I【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。尚、本演習では野外活動特に「キャンプ」実習に力を入、学内では経験できない「レクリエーション種目」なども多数実践していきます。キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができない場合がありますので注意してください。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 グループディスカッション (1)
- 2回 グループディスカッション (2)
- 3回 グループディスカッション (3)
- 4回 グループゲーム (1)
- 5回 グループゲーム (2)
- 6回 自分自身を理解する
- 7回 自分自身を人に理解させること
- 8回 人を理解すること
- 9回 集団で克服していくトレーニング
- 10回 キャンプのオリエンテーション (1)
- 11回 キャンプのオリエンテーション (2)
- 12回 キャンプのオリエンテーション (3)
- 13回 キャンプのオリエンテーション (4)
- 14回 キャンプのオリエンテーション (5)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度 ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡する。
 キャンプ実習は別途実習費 (約 4000円) かかりますので注意してください

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文・レポート(4000字程度)を書くことをめざす。したがって原則として「教養基礎演習I」「教養基礎演習II」の通年受講(1・2学期受講)を義務づける。

1学期は、まず、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 社会学的なものの見方・考え方
- (2) 文献資料の調べ方
- (3) レポート・論文の書き方

さらに、社会学的な調査を用いた基礎的な文献を報告してもらう。

同時並行的に、自らが書く論文・レポートについても準備をすすめる。まず、各自が「テーマ」と「問い」をたてる。その上で、自らのたてた「問い」について関連する文献のリストを作成する。

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする(それを越える場合、受講者数調整をかける)。

教科書 /Textbooks

- 『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002
- 『「二ート」って言うな』、本田由紀・内藤朝雄・後藤和智、光文社新書、2006

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
- 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書
- その他、講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2回 社会学的なものの見方・考え方(1) - 『知的複眼思考法』
- 第3回 社会学的なものの見方・考え方(2) - 『知的複眼思考法』
- 第4回 社会学的なものの見方・考え方(3) - 『知的複眼思考法』
- 第5回 第1回レポート検討会
- 第6回 論文・レポートの書き方
- 第7回 情報収集の仕方(1)
- 第8回 情報収集の仕方(2)
- 第9回 第2回レポート検討会
- 第10回 分析事例(1) - 『「二ート」って言うな』第1部
- 第11回 分析事例(2) - 『「二ート」って言うな』第2部
- 第12回 分析事例(3) - 『「二ート」って言うな』第3部
- 第13回 調査倫理について
- 第14回 第3回レポート検討会
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度... 40% 課題(レポート)... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること(様式等は授業中に指示する)。
報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジュメを準備すること。
報告者以外の者は(当然のことながら)事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

教養基礎演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州の発見学として平成19年度から開講している「北九州学」。この科目の講義内容、講義計画を教員と学生により共同企画するゼミです。講義内容に関わる情報の収集・調査、北九州地域に興味と関心がある方に、学部を問わずに参加していただきたいと思っています。本年度は、平成23年度開講予定の「北九州の政治行政」、平成24年度開講予定の「北九州の経済」をテーマに講義計画を策定します。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示しますが、内容に応じて積極的に情報検索を試みてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 情報収集・調査
- 3回 情報収集・調査
- 4回 報告・検討・討論
- 5回 情報収集・調査
- 6回 情報収集・調査
- 7回 報告・検討・討論
- 8回 情報収集・調査
- 9回 情報収集・調査
- 10回 報告・検討・討論
- 11回 情報収集・調査
- 12回 情報収集・調査
- 13回 報告・検討・討論
- 14回 報告・検討・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの積極的参加度... 20% 活動内容... 20% 活動報告レポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要に応じて現地調査や見学、関係者へのインタビューも実施していただきます。情報収集も自ら進んで行うよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

* 教養基礎演習IIもあわせて履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養基礎演習II」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1～2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養基礎演習II」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的な教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。
今年度より、思想史上の古典的な基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。1学期はフロイトの素晴らしい宗教論「幻想の未来」を読む。

教科書 /Textbooks

フロイト『幻想の未来 / 文化への不満』（中山元訳）光文社古典新訳文庫、2007年、760円。
（※翻訳は他にも数種あるが、本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小此木啓吾『フロイト』講談社
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社
- テリー・イーグルトン『宗教とは何か』（大橋洋一・小林久美子訳）青土社
- ダニエル・C・テネット『解明される宗教——進化論的アプローチ』（阿部文彦訳）青土社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンスI (演習でのルール、成績評価法の説明)
- 2回 ガイダンスII (対象となるテキスト、著者の紹介)
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 復習と補助学習I
- 14回 復習と補助学習II
- 15回 全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望する者は、第三回か第四回の授業までに各自で上記のテキストを購入しておく必要がある (税込760円)。
授業前の準備事項として、訳者の中山元氏による「解説文」および「フロイト年譜」(テキスト377~436頁) を読み込んでくること。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査) と「復習」(授業議事録の作成) が必須となります。また、この演習は2年生以上の学生も参加する合同演習です。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスのテーマは、「バレーボールを科学する！基礎編」です。
このクラスでは、大学生の武器である「頭（頭脳）」を使って「バレーボール」と真正面から向き合うための基礎知識・技術を習得してもらおうと思っています。バレーボールで試合に勝つためには、連続失点を少なくすること、連続得点を多くすることを考えたチーム作りが必要になりますが、今回、ここでは「連続得点をとる」をキーワードに、基本的な戦術の理解とともに映像等を基にしたデータ分析の基礎的な手法を学んでいきます。
このプロセスを通じ、①情報を収集する力、②データを分析する力、③問題（ポイント）を発見する力、④自分の考えを人に伝達する力、⑤考えを異にする人と討論し、説得する力を、みなさんには身につけ、高めていってほしいと思います。
座学と調査・実習を組み合わせ実施します。

教科書 /Textbooks

テキスト等はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書等は、初回の授業時に、紹介します。
授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス,バレーボールとアナリストの役割
- 第2回 スキルチェック

【連続得点をとるための分析軸I：サービス⇒レセプション（サービスによって先手を取る）】

- 第3回 戦術理解I：レセプションフォーメーション&サービス
- 第4回 ゲーム映像からの分析I①：フォーメーションのチェック
- 第5回 ゲーム映像からの分析I②：ローテーションごとに結果を整理（レセプションの評価）
- 第6回 分析結果の発表I：サービスの狙い目はどこか

【連続得点をとるための分析軸II：レセプション⇒アタック（相手チームの攻撃パターンを知る）】

- 第7回 戦術理解II：アタックフォーメーション
- 第8回 ゲーム映像からの分析II①：レセプション⇒攻撃（軌跡化）
- 第9回 ゲーム映像からの分析II②：レセプション⇒攻撃（選手ごとの特徴）
- 第10回 分析結果の発表II：どのような特徴がレセプションからの攻撃に見られるか

【連続得点をとるための分析軸III：ディグ⇒アタック（拾って攻撃につなげる）】

- 第11回 戦術理解III A：ブロックシステム，フロアディフェンスフォーメーション
- 第12回 ケーススタディIII A：チーム事情に応じたシステムを考えよう
- 第13回 戦術理解III B：アタック&ブロックフォローフォーメーション
- 第14回 ケーススタディIII B：高さを理解した攻撃を考えよう（2つの最高到達点の比較から）

- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

サブゼミなどのため、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。
受講申請にあたってはこの点に注意してください。

教養基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

10人程度を予定(最大で12人まで)しています。受講希望者が多い場合は、初回の授業時に選考を行います。したがって受講希望者は、最初の授業には必ず出席するようにしてください。
原則としてIとIIはセットで受講してください。
欠席や遅刻は、ゼミの運営に支障をきたし、グループでの作業に深刻な影響を与えることになります。参加状況が悪い場合には、その後のゼミ受講を認めませんので、注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

バレーボールが真に好きな人、得られた知見を、現在、そして将来にわたって、活かしてくれる人を募集します。
あなたの『バレーボール力』を伸ばしてみませんか。

キーワード /Keywords

【アナリスト】 【レセプション】 【ディグ】 【トランジッション】 【記号化：技術・エリア】 【評価】 【データ分析】

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初めてあった人や普段話したことがない人の中にいたり、自分自身を人に理解してもらうためにはどうしたらいいのが困ったことなどはありませんか。そんな中、身体活動を通して、知らない人同士で自然に打ち解け、楽しみを感じたことはありませんでしたか。身体活動は、健康体力の増進のみならず、コミュニケーションづくりにも有効な方法なのです。本演習では、身体活動やグループワークを通して、どうしたら、コミュニケーション能力(人間関係力)を高めることができるかを焦点に考えていきたいと思ひます。
また、学内と離れた場所での野外活動(キャンプ実習)を通して、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたいと思ひます。

教科書 /Textbooks

適宜資料配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 自己紹介と他己紹介
- 3回 人間関係力とは
- 4回 人間関係力演習(1)簡単なゲームを通して
- 5回 人間関係力演習(2)簡単なゲームを通して
- 6回 人間関係力演習(3)身体活動を通して
- 7回 人間関係力演習(4)身体活動を通して
- 8回 人間関係力演習(5)身体活動を通して
- 9回 人間関係力演習(6)身体活動を通して
- 10回 人間関係力演習(7)身体活動を通して
- 11回 野外活動とは?
- 12回 キャンプ実習についての講義(1)
- 13回 キャンプ実習についての講義(2)
- 14回 キャンプ実習についての講義(3)
- 15回 キャンプ実習のふり返り

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

実習については、別途参加費がかかります(約4000円)。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践に際してのマナーやPDCAサイクルの基本を身につけることを目的とする。特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks
 適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第1回～4回：事前学習
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習における議論への参加度50%
 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。DNAとは何か？ 遺伝子とは何をしているものなのか？ 本演習では「DNA・遺伝子・生命」を主たるテーマとし、関連図書・DVDを用いて学習するほか、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。さらに関連した科学記事やニュースを読み取る力・自ら考える力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「アメリカ版大学生物学の教科書・第2巻」D. サダヴァ他著、ブルーバックス、2010年
- 「文系のための生命科学」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の説明【細胞】【遺伝】【染色体】
- 3回 基本的事項の説明【DNA】【RNA】【タンパク質】
- 4回 基本的事項の説明【遺伝子】【ゲノム】
- 5回 実験と実習【DNAの構造】
- 6回 実験と実習【DNAの抽出】
- 7回 科学記事よりトピックを選んで解説(1)
- 8回 科学記事よりトピックを選んで解説(2)
- 9回 科学記事よりトピックを選んで解説(3)
- 10回 科学記事よりトピックを選んで解説(4)
- 11回 科学記事よりトピックを選んで解説(5)
- 12回 関連映画作品等鑑賞(1)
- 13回 関連映画作品等鑑賞(2)
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・80%、課題・・・20%
(毎回カードを配布する。授業中の発表のほかに、カードに記入したコメント・質問を重視する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本政治外交史に関するゼミ・レポートを書いてもらう(400字×10枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。なお、そのための準備として、第2～7回の演習では近代文書の解読も練習する。

教科書 /Textbooks

コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年、700円)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習運営方針に関する話し合い。
- 2～7回 各自の研究報告と近代文書の解読の練習。
- 8～14回 各自の研究報告。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 課題...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。
なお、ゼミ・レポート未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習が始める前に大学図書館を見学しておいて下さい。
明治時代に書かれた小説(森鷗外など)を読んで下さい。とにかく、旧字体・旧かな遣いに慣れること。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養基礎演習I」とセットで履修することを希望します。
この演習は2年生、3年生との合同演習です。
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

考えを深める訓練： 教養基礎演習Iの続きとして、一つのテーマについて考えを深める訓練を行う。具体的には、教養基礎演習Iのレポートをもとに、より関心の近い受講者同士のグループワークやディスカッションを通して、各自のテーマをより掘り下げることを試みる。その成果を活かし、学期末にはIのレポートをブラッシュアップすることを目指す。この演習を通して、ひとつのテーマについてじっくり取り組むという、研究の基礎的な姿勢を身につけることを目的とする。

教科書 /Textbooks

教養基礎演習Iのレポート提出者の興味関心にあわせて第1回目の演習で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐藤望ほか(編) 2006 『アカデミック・スキルズ』慶應大学出版会
 専修大学出版企画委員会(編) 2009 『知のツールボックス』専修大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：研究の入り口としての考えるを深める作業
 第2・3回 考えと深めるにはどうしたらいいか？：教養基礎演習Iのレポートの講評
 第4・5回 グループワークの説明/視点を広げるためのミニ・ワークショップの企画
 第6・7・8回
 ミニ・ワークショップの実行(グループワーク)
 第9・10・11回
 テキスト輪読と議論
 第12・13・14回
 レポート構想報告
 第15回 文章を推敲する：レポート相互添削

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、演習中の発言など)50%
 レポートについては教養基礎演習Iのレポートからの発展性を評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

グループワークでは、場合によっては授業時間以外もメンバーとの打ち合わせが必要になることがあります。

履修上の注意 /Remarks

原則として教養基礎演習Iを受講した者を対象とするが、教養基礎演習IIのみ受講したい者は、必ず事前に相談すること(受講のためのレポート課す場合がある)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

共同作業を通して、自分の能力を最大限引き延ばすことは、大学を出てからも必要です。積極的な授業参加を期待します。

キーワード /Keywords

グループワーク、多角的視野、レポートの書き方

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。本演習においては、演習Iを踏まえ、自然克服型である「スキー」を実施する。「スキー」等において学内では経験できないスポーツ活動を体験し、さらに集団スポーツで求められるチームワークやコミュニケーション能力の強化を目指します。キャンプ実習同様実習の参加ができないときは単位の認定ができない場合がありますので注意してください。実習は実費です。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自分自身を理解すること
- 2回 自分自身を人に理解させること
- 3回 人を理解すること
- 4回 集団で克服していくトレーニング
- 5回 ビデオによるスキー技術の習得 (1)
- 6回 ブルークターン (2)
- 7回 パラレルターン (3)
- 8回 ウデルン (4)
- 9回 学生自身によるスキー計画 (1) 場所
- 10回 学生自身によるスキー計画 (2) 期間
- 11回 学生自身によるスキー計画 (3) 金額
- 12回 学生自身によるスキー計画 (4) グループ分け
- 13回 スキープログラムの作成 (1)
- 14回 スキープログラムの作成 (2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度 ... 70% レポート ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。
 スキー実習は別途実習費が必要です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によって論文・レポートを書くことをめざす。したがって原則として「教養基礎演習I」「教養基礎演習II」の通年（1学期・2学期）受講を義務づける。

II（2学期）では、まず、教養基礎演習Iで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告（テキスト批評）をしてもらい、議論を行う。なお、1～2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。

Iと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2回 テキスト批評と議論
- 第3回 テキスト批評と議論
- 第4回 テキスト批評と議論
- 第5回 テキスト批評と議論
- 第6回 レポート検討会（4）
- 第7回 テキスト批評と議論
- 第8回 テキスト批評と議論
- 第9回 テキスト批評と議論
- 第10回 テキスト批評と議論
- 第11回 レポート検討会（5）
- 第12回 テキスト批評と議論
- 第13回 テキスト批評と議論
- 第14回 レポート検討会（6）
- 第15回 レポート報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...20% 課題（レポート）...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること（様式等は授業中に指示する）。
報告者は、（1）文献概要、（2）内容要約、（3）論点整理、（4）議論を記したレジюмеを準備すること。
報告者以外の者は（当然のことながら）事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州の発見学として平成19年度から開講している「北九州学」。この科目の講義内容、講義計画を教員と学生により共同企画するゼミです。講義内容に関わる情報の収集・調査、北九州地域に興味と関心がある方に、学部を問わずに参加していただきたいと思っています。平成24年度開講予定の「北九州の経済」をテーマに講義計画を策定します。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示しますが、積極的に情報検索を試みてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 情報収集・調査
- 3回 情報収集・調査
- 4回 報告・検討・討論
- 5回 情報収集・調査
- 6回 情報収集・調査
- 7回 報告・検討・討論
- 8回 情報収集・調査
- 9回 情報収集・調査
- 10回 報告・検討・討論
- 11回 情報収集・調査
- 12回 情報収集・調査
- 13回 報告・検討・討論
- 14回 報告・検討・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの積極的参加度... 20% 活動内容... 20% 活動報告レポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要に応じて現地調査や見学、関係者へのインタビューも実施していただきます。情報収集も自ら進んで行うよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

* 教養基礎演習Iもあわせて履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養基礎演習I」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。

この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』(必ず購入)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養基礎演習I」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養基礎演習I」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養基礎演習I」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的な教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。
今年度より、思想史上の古典的な基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。2学期はフロイトによる挑発的な文化論「文化への不満」を読む。

教科書 /Textbooks

フロイト『幻想の未来 / 文化への不満』（中山元訳）光文社古典新訳文庫、2007年、760円。
（※翻訳は他にも数種あるが、本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小此木啓吾『フロイト』講談社
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社
- 『フロイト著作集3』人文書院
- 『フロイト全集17(1919-22年)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 1学期の復習と内容確認
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 復習と補助学習I
- 14回 復習と補助学習II
- 15回 全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況（予習・議論・発言の積極性）...50% 課題（議事録作成）...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望する者は、初回の授業までに各自で上記のテキストを購入しておく必要がある（税込760円）。
本演習は1学期からの続きである。授業前の準備事項として、1学期に読了した「幻想の未来」をきちんと読み直しておくことが全員に求められる。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」（指定ページの読解、分からない単語の調査）と「復習」（授業議事録の作成）が必須となります。また、この演習は2年生以上の学生も参加する合同演習です。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスのテーマは、「バレーボールを科学する！応用編」です。
このクラスでは、Iで習得した「バレーボール」と真正面から向き合うための基礎知識・技術を駆使し、実際のゲームを分析していくことで、応用力の涵養を目指します。分析対象としては、FIVB World Cup 2011の全日本の試合を題材とすることを予定しています。試合の流れを正しく掴み、チームの特徴やゲームの勝因・敗因の分析、攻略策だけでなく今後の課題（チーム・個人の強化策）の検討などを通じ、戦術理解も含めたバレーボールを科学する力をさらに高めていてもらいたいと思っています。
またこのプロセスを通じ、①情報を収集する力、②データを分析する力、③問題（ポイント）を発見する力、④自分の考えを人に伝達する力、⑤考えを異にする人と討論し、説得する力、⑥問題解決のための構想を練る力、⑦プレゼン能力、⑧質疑応答力を、みなさんには身につけ、高めていてほしいと思っています。
座学と調査・実習を組み合わせ実施します。

教科書 /Textbooks

テキスト等はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書等は、初回の授業時に、紹介します。
授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 FIVB World Cup 2011【分析対象チーム・試合の選定：グループ分け】
- 第3回 事例①『FIVB World Grand Prix 2010 JPN-NED』【ゲーム観賞】
- 第4回 事例②『FIVB World Grand Prix 2010 JPN-NED』【プレゼンの例】
- 第5回 ゲーム分析の基礎①：映像の収集と利用
- 第6回 ゲーム分析の基礎②：公式記録の探し方とその見方
- 第7回 ゲーム分析の基礎③：戦評等の集め方とその活用方法
- 第8回 グループ作業①：映像に基づくゲーム分析
- 第9回 グループ作業②：抽出したデータ等を基にした攻略策・強化策の検討
- 第10回 グループ作業③：プレゼン内容の最終確認
- 第11回 グループ・プレゼンテーションとフロア・ディスカッション①
- 第12回 グループ・プレゼンテーションとフロア・ディスカッション②
- 第13回 グループ・プレゼンテーションとフロア・ディスカッション③
- 第14回 グループ・プレゼンテーションとフロア・ディスカッション④
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

サブゼミなどのため、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。
受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

10人程度（最大で12人まで）を予定しています。
IとIIはセットで受講してもらうことを原則とします。
欠席や遅刻は、ゼミの運営に支障をきたし、グループでの作業に深刻な影響を与えることになります。参加状況が悪い場合には、その後のゼミ受講を認めませんので、注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

バレーボールが真に好きな人、得られた知見を、現在、そして将来にわたって、活かしてくれる人を募集します。
あなたの『バレーボール力』をさらに伸ばしてみませんか。

教養基礎演習II 【昼】

キーワード /Keywords

【ゲーム分析】 【FIVB】 【World Cup 2011】 【全日本】 【公式記録】 【攻略策】 【強化策】

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

自分自身を人に理解してもらうためにはどうしたらいいでしょうか。初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つける術について考えていきます。本演習では、身体活動を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力を身につけることを主眼にしています。

また、学内と離れた場所での野外活動（スキー実習）を通して、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたいと思います。

教科書 /Textbooks

適宜資料配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 自分自身を理解するためには (1)
- 3回 自分自身を理解するためには (2)
- 4回 自分自身を人に理解させるためには (1)
- 5回 自分自身を人に理解させるためには (2)
- 6回 身体活動を用いた自己表現 (1)
- 7回 身体活動を用いた自己表現 (2)
- 8回 身体活動を用いた自己表現 (3)
- 9回 身体活動を用いた自己表現 (4)
- 10回 身体活動を用いた自己表現 (5)
- 11回 身体活動を用いた自己表現 (6)
- 12回 スキー実習についての講義 (1)
- 13回 スキー実習についての講義 (2)
- 14回 スキー実習についての講義 (3)
- 15回 スキー実習のふり返り

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スキー実習については、別途参加費がかかります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、活動に際してのマナーやP D C Aサイクルの基本を身につけることを目的とする。特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks
 適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第1回～4回：事前学習
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習における議論への参加度50%
 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、株式会社スターフライヤーの協力を得て開講します。将来、社会人として求められる能力、特に対人接点を必要とする仕事に必要なコミュニケーション能力やホスピタリティについて学びます。航空業界、百貨店・小売業界、ホテル業界、ブライダル業界等をを目指す学生にとって役に立つ講義です。

この講義を開講する理由は大きく三つあります。一点目は、昨今の企業が求める人材要件として、コミュニケーション能力が重視されていることです。単に同質な人との接点ではなく、多様な方々と円滑なコミュニケーションが取れることが求められています。二点目は、コミュニケーションやホスピタリティに関するスキル獲得だけでなく、それらを発揮するための素養を育む必要性があるからです。三点目は、上にあげた業界に就職したいと考えている学生にとってのチャンスを拡大するためです。

このような理由から、常に最高の接客コミュニケーションが求められるキャビンアテンダント教育の要素を取り入れたいと考え、株式会社スターフライヤーに協力をいただきます。日々業務を行っている実務家の講義は、現場に即した実践的な学びを学生の皆さんに提供します。

教科書 /Textbooks

授業開始時に説明します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業開始時に説明します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 コミュニケーションとは？(1)【エアラインでの実例をもとに考察する】
- 3回 コミュニケーションとは？(2)【エアライン等、対人職において求められる人物像の考察】
- 4回 コミュニケーションとは？(3)【コミュニケーションスキル他】
- 5回 コミュニケーションとは？(4)
- 6回 マナーとホスピタリティ(1)【ホスピタリティの意味～今なぜホスピタリティなのか？】
- 7回 マナーとホスピタリティ(2)【ホスピタリティマインドとアクション】
- 8回 マナーとホスピタリティ(3)【ホスピタリティ溢れるポジティブマナーとは】
- 9回 マナーとホスピタリティ(4)
- 10回 コミュニケーション&マナー実践(5)【対人職に求められるコミュニケーションスキル実践】
- 11回 コミュニケーション&マナー実践(6)
- 12回 コミュニケーション&マナー実践(7)【サービス適正確認 実践(ロールプレー)】
- 13回 コミュニケーション&マナー実践(8)【苦情/クレームについて考える】
- 14回 コミュニケーション&マナー実践(9)【面接におけるマナー】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指定回にはスーツを着用しての受講となります。

履修上の注意 /Remarks

クラス定員を30名程度としますので、履修希望者多数の場合は抽選とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

主として客室乗務員研修(ホスピタリティ/サービス実践等)を軸に対人職に求められるパーソナリティや接客スキルを学び磨いていく講義です。
「生」、「現場」の情報をお届けしますので、客室乗務員やグランドスタッフ、ホテルコンシェルジュ等高い接客スキルが求められる職業を将来希望される学生にぜひ受講して頂きたいと思っております。

キーワード /Keywords

コミュニケーション、ホスピタリティ、エアライン、ブライダル、ホテル

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。DNAとは何か？ 遺伝子とは何をしているものなのか？ 本演習では「DNA・遺伝子・生命」を主たるテーマとし、関連図書・DVDを用いて学習するほか、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。さらに関連した科学記事やニュースを読み取る力・自ら考える力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「アメリカ版大学生物学の教科書・第2巻」 D . サダヴァ他著、ブルーバックス、2010年
- 「文系のための生命科学」 東京大学生命科学教材書籍編集委員会編、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の説明【細胞】【遺伝】【染色体】
- 3回 基本的事項の説明【DNA】【RNA】【タンパク質】
- 4回 基本的事項の説明【遺伝子】【ゲノム】
- 5回 実験と実習【DNA鑑定実験1】
- 6回 実験と実習【DNA鑑定実験2】
- 7回 実験と実習【DNA鑑定実験3】
- 8回 科学記事よりトピックを選んで解説(1)
- 9回 科学記事よりトピックを選んで解説(2)
- 10回 科学記事よりトピックを選んで解説(3)
- 11回 科学記事よりトピックを選んで解説(4)
- 12回 関連映画作品等鑑賞(1)
- 13回 関連映画作品等鑑賞(2)
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・80%、課題・・・20%
 (毎回カードを配布する。授業中の発表のほかに、カードに記入したコメント・質問を重視する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本の歴史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全履修生から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

瀧井一博『伊藤博文 - 知の政治家』（中公新書、2010年）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養演習 AI II」とセットで履修することを希望します。
この演習は1年生、3年生との合同演習です。
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 中原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会へのアプローチ法を考える①：本演習では、質的調査から何を知ることができるのか、その可能性を考えたい。漠然と卒業論文で（インタビュー調査、参与観察などの）質的調査をとりいれてみたいと考えている学生は多いと思うが、はたしてその興味関心にアプローチするのに質的調査は適切だろうか。本演習では、社会調査法のみを学ぶのではなく、その前段階として質的調査を研究にどのように活かすかから学ぶことを目的とする。

教科書 /Textbooks

佐藤郁哉 2006 『フィールドワーク 増訂版：書を持って街へ出よう』 新曜社
※このほか、受講者の関心に合わせて民族誌を2冊程度読む。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐藤郁哉 2002 『フィールドワークの技法：問いを育てる、仮説をきたえる』 新曜社
※そのほか必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：本演習の目的
第2回 質的調査についての基本的説明
第3・4・5・6・7・8回 民族誌を2冊程度輪読し、質的調査の特性について議論する。
(第1回の出席者の関心に応じて読む民族誌を選択する。候補としては、佐藤郁哉『暴走族のエスノグラフィー』、ジェニファー・ロバートソン『踊る帝国主義』、工藤正子『越境の人類学』など)
第9・10・11回 これまで読んだ民族誌が記述される裏側を考察する。
テキスト：佐藤郁哉『フィールドワーク 増訂版：書を持って街へ出よう』
第12・13・14回 実習：記憶を語ること、記録されること
(インタビュー調査、参与観察の手法からわかることとその限界を考察する。)
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告25%、期末レポート50%、その他の提出物25%
第12・13・14回の実習欠席者は単位を出さないで注意すること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習参加者には、輪読のテキストについて各自で読書ノートを取ることが求められる。具体的な説明は第1回で行う。

履修上の注意 /Remarks

実習の成果を教養演習AIIでフィードバックするので、教養演習AIIも続けて受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 受講する段階で明確な研究関心を持っている必要は特にありませんが、演習を通して研究関心を見つけようとする意志は持ってください。
- ・ グループワークを取り入れるので、受講者同士が積極的に協力関係をつくることを期待します。

キーワード /Keywords

質的調査、民族誌

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習AII」とセットで受講すること。
 この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1~2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習AII」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文・レポート（8000字程度）を書くことをめざす。したがって原則として「教養演習AI」「教養演習AII」の通年受講（1・2学期受講）を義務づける。

1学期は、まず、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 社会学的なものの見方・考え方
- (2) 文献資料の調べ方
- (3) レポート・論文の書き方

さらに、社会学的な調査を用いた基礎的な文献を報告してもらう。

同時並行的に、自らが書く論文・レポートについても準備をすすめる。まず、各自が「テーマ」と「問い」をたてる。その上で、自らのたてた「問い」について関連する文献のリストを作成する。

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかけることがある）。

教科書 /Textbooks

- 『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002
- 『「二ート」って言うな』、本田由紀・内藤朝雄・後藤和智、光文社新書、2006

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
- 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書
- その他、講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2回 社会学的なものの見方・考え方(1) - 『知的複眼思考法』
- 第3回 社会学的なものの見方・考え方(2) - 『知的複眼思考法』
- 第4回 社会学的なものの見方・考え方(3) - 『知的複眼思考法』
- 第5回 第1回レポート検討会
- 第6回 論文・レポートの書き方
- 第7回 情報収集の仕方(1)
- 第8回 情報収集の仕方(2)
- 第9回 第2回レポート検討会
- 第10回 分析実例(1) - 『「二ート」って言うな』第1部
- 第11回 分析実例(2) - 『「二ート」って言うな』第2部
- 第12回 分析実例(3) - 『「二ート」って言うな』第3部
- 第13回 調査倫理について
- 第14回 第3回レポート検討会
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...40% 課題...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること（様式等は授業中に指示する）。
報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジユメを準備すること。
報告者以外の者は（当然のことながら）事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

教養演習 AI 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

すべての「大学生」として欠かすことのできない人文的教養の育成を目的として、古典的な基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。1学期は、フロイトの素晴らしい宗教論「幻想の未来」を読む。この演習を通して、人生全般に対する甘い幻想を捨て去り、多少ともシニカルで批判的な大人の思考力を身につけることができるようになれば、それで目的を達成したことになる。

教科書 /Textbooks

フロイト『幻想の未来 / 文化への不満』（中山元訳）光文社古典新訳文庫、2007年、760円。
（※翻訳は他にも数種あるが、本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小此木啓吾『フロイト』講談社
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社
- テリー・イーグルトン『宗教とは何か』（大橋洋一・小林久美子訳）青土社
- ダニエル・C・デネット『解明される宗教——進化論的アプローチ』（阿部文彦訳）青土社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンスI (演習でのルール、成績評価法の説明)
- 2回 ガイダンスII (対象となるテキスト、著者の紹介)
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 復習と補助学習I
- 14回 復習と補助学習II
- 15回 全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望する者は、第三回か第四回の授業までに各自で上記のテキストを購入しておく必要がある (税込760円) 。
授業前の準備事項として、訳者の中山元氏による「解説文」および「フロイト年譜」(テキスト377~436頁) を読み込んでくること。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。
同担当者による授業科目「思想と現代」を履修済みであり、なおかつその試験で「B」以上の成績を収めている学生は優先的に配慮する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査) と「復習」(授業議事録の作成) が必須となります。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践的な企画力・運営力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回～4回：事前学習・企画
- 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
- 第11回・12回：活動報告
- 第13回・14回：振り返り学習
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 演習における議論への参加度50%
- 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、身体活動を通して、初めてあった人や知らない人同士でどうしても自然に打ち解け、お互いに楽しみを共有できるかについて主眼をおく。そこで、学内での実習や学外での実習（キャンプ実習や地域の中高齢者を対象とした運動プログラム）を通して、教示の仕方や振る舞い方などでどのように楽しみを共有できるかについて考えていきたい。
 また、キャンプ実習（教養基礎演習I）のリーダーとして関わりながら、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養ってきたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回ガイダンス
- 2 回リーダーとリーダーシップ
- 3 回安全性と有効性
- 4 回キャンプ実習の計画（1）リーダーとしての関わり
- 5 回キャンプ実習の計画（2）安全性と有効性
- 6 回キャンプ実習の計画（3）プログラム作成
- 7 回キャンプ実習の実施
- 8 回キャンプ実習の評価
- 9 回中高齢者にあった身体活動プログラムの計画（1）安全性と有効性
- 10 回中高齢者にあった身体活動プログラムの計画（2）プログラム作成
- 11 回中高齢者にあった身体活動プログラムの計画（3）プログラム作成
- 12 回中高齢者にあった身体活動プログラムの実施（1）
- 13 回中高齢者にあった身体活動プログラムの実施（2）
- 14 回中高齢者にあった身体活動プログラムの評価
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

身体活動を伴うので、運動のできる服装とシューズを準備すること。
 キャンプ実習については、別途参加費がかかります。（約4000円）。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州の発見学として平成19年度から開講している「北九州学」。この科目の講義内容、講義計画を教員と学生により共同企画するゼミです。講義内容に関わる情報の収集・調査、北九州地域に興味と関心がある方に、学部を問わずに参加していただきたいと思っています。本年度は、平成23年度開講予定の「北九州の政治行政」、平成24年度開講予定の「北九州の経済」をテーマに講義計画を策定します。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示しますが、内容に応じて積極的に情報検索を試みてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 情報収集・調査
- 3回 情報収集・調査
- 4回 報告・検討・討論
- 5回 情報収集・調査
- 6回 情報収集・調査
- 7回 報告・検討・討論
- 8回 情報収集・調査
- 9回 情報収集・調査
- 10回 報告・検討・討論
- 11回 情報収集・調査
- 12回 情報収集・調査
- 13回 報告・検討・討論
- 14回 報告・検討・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの積極的参加度... 20% 活動内容... 20% 活動報告レポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要に応じて現地調査や見学、関係者へのインタビューも実施していただきます。情報収集も自ら進んで行うよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

* 教養演習AIIもあわせて履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。DNAとは何か？ 遺伝子とは何をしているものなのか？ 本演習では「DNA・遺伝子・生命」を主たるテーマとし、関連図書・DVDを用いて学習するほか、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。さらに関連した科学記事やニュースを読み取る力・自ら考える力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「アメリカ版大学生物学の教科書・第2巻」D. サダヴァ他著、ブルーバックス、2010年
- 「文系のための生命科学」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の説明【細胞】【遺伝】【染色体】
- 3回 基本的事項の説明【DNA】【RNA】【タンパク質】
- 4回 基本的事項の説明【遺伝子】【ゲノム】
- 5回 実験と実習【DNAの構造】
- 6回 実験と実習【DNAの抽出】
- 7回 科学記事よりトピックを選んで解説(1)
- 8回 科学記事よりトピックを選んで解説(2)
- 9回 科学記事よりトピックを選んで解説(3)
- 10回 科学記事よりトピックを選んで解説(4)
- 11回 科学記事よりトピックを選んで解説(5)
- 12回 関連映画作品等鑑賞(1)
- 13回 関連映画作品等鑑賞(2)
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・80%、課題・・・20%
(毎回カードを配布する。授業中の発表のほかに、カードに記入したコメント・質問を重視する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AII 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位 2学期
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本政治外交史に関するゼミ論文をかいてもらう(400字×30枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。なお、そのための準備として、第2～7回の演習では近代文書の解読も練習する。

教科書 /Textbooks

コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年)700円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習運営方針に関する話し合い。
- 2～7回 各自の研究報告と近代文書の解読の練習。
- 7～14回 各自の研究報告(同時並行的に論文執筆)。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50%課題...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。なお、ゼミ論未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

明治時代に書かれた小説(森鴎外など)を読んで下さい。とにかく、旧字体・旧かな遣いに慣れること。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養演習AII」とセットで履修することを希望します。
AIIを履修できない場合には、事前に相談して下さい。
この演習は1年生、3年生との合同演習です。
受講希望者が合計で11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AII 【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会へのアプローチ法を考える②：本演習では、教養演習 AI を踏まえて、質的調査から何を知ることができるのか、その可能性をさらに考えたい。演習の前半では教養演習 AI でとirkんだ実習の経験を踏まえ、研究対象や問題設定に応じて、インタビューや観察をより効果的に行うための質的調査の方法を学ぶ。演習の後半では、これまでの演習のまとめとして、自分の興味関心に適した質的調査を行うためのデザインの仕方を検討する。

教科書 /Textbooks

箕浦康子 (編) 1999 『フィールドワークの技法と実際』 ミネルヴァ書房
 谷岡一郎 2000 『「社会調査」のウソ：リサーチ・リテラシーのすすめ』 文藝春秋
 ※このほか受講者の関心に合わせて民族誌をもう1冊読む。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐藤郁哉 2002 『フィールドワークの技法：問いを育てる、仮説をきたえる』 新曜社
 ※そのほか必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1・2・3回 聞き取りや観察の方法について：教養演習 AI のレポートから
 第4回 実習(再)：記憶を語ること、記録されること
 第5回 調査をデザインするために：エスノグラフィーと調査者の立場のいくつかのパターン
 第6・7回 マイクロエスノグラフィーの手法について
 テキスト：箕浦康子(編) 『フィールドワークの技法と実際』
 第8・9・10回 日常世界を分析するエスノグラフィー(輪読と議論)
 (受講者の関心にに応じて読む民族誌を選択する。候補としては、A.R. ホックシールド2000『管理される心』、ロバート・J・スミス『須恵村の女たち』など。)
 第11・12・13回 事前準備のために(輪読と議論)
 テキスト：谷岡一郎 『「社会調査」のウソ：リサーチ・リテラシーのすすめ』
 第14・15回 まとめとレポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告25%、中間レポート25%、期末レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第4回のあとに、インタビューや観察を用いた質的調査についての中間レポートを課します。教養演習 AI の復習を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

教養演習 AI を受講していること。やむを得ない事情で教養演習 AII のみの受講を希望する者は必ず事前に相談すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業論文、ゼミ論文などに、質的調査を取り入れてみたいと考える学生の受講を歓迎します。

キーワード /Keywords

質的調査、民族誌、

教養演習 AII (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習AI」とセットで受講すること。
 この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。
 この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養演習AI」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養演習AI」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習AI」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文・レポート（8000字程度）を書くことをめざす。したがって原則として「教養演習AI」「教養演習AII」の通年（1学期・2学期）受講を義務づける。

AII（2学期）では、まず、教養演習AIで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告（テキスト批評）をしてもらい、議論を行う。なお、1～2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。

AIと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2回 テキスト批評と議論
- 第3回 テキスト批評と議論
- 第4回 テキスト批評と議論
- 第5回 テキスト批評と議論
- 第6回 レポート検討会（4）
- 第7回 テキスト批評と議論
- 第8回 テキスト批評と議論
- 第9回 テキスト批評と議論
- 第10回 テキスト批評と議論
- 第11回 レポート検討会（5）
- 第12回 テキスト批評と議論
- 第13回 テキスト批評と議論
- 第14回 レポート検討会（6）
- 第15回 レポート報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...20% 課題（レポート）...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること（様式等は授業中に指示する）。
 報告者は、（1）文献概要、（2）内容要約、（3）論点整理、（4）議論を記したレジюмеを準備すること。
 報告者以外の者は（当然のことながら）事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

すべての「大学生」として欠かすことのできない人文的教養の育成を目的として、古典的な基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。2学期は、フロイトによる挑発的な文化論「文化への不満」を読む。この演習を通して、人生全般に対する甘い幻想を捨て去り、多少ともシニカルで批判的な大人の思考力を身につけることができるようになれば、それで目的を達成したことになる。

教科書 /Textbooks

フロイト『幻想の未来 / 文化への不満』（中山元訳）光文社古典新訳文庫、2007年、760円。
（※翻訳は他にも数種あるが、本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小此木啓吾『フロイト』講談社
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社
- 『フロイト著作集3』人文書院
- 『フロイト全集17(1919-22年)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 1学期の復習と内容確認
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 復習と補助学習I
- 14回 復習と補助学習II
- 15回 全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況(予習・議論・発言の積極性)...50% 課題(議事録作成)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望する者は、初回の授業までに各自で上記のテキストを購入しておく必要がある(税込760円)。
本演習は1学期からの続きである。授業前の準備事項として、1学期に読了した「幻想の未来」をきちんと読み直しておくことが全員に求められる。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。
同担当者による授業科目「思想と現代」を履修済みであり、なおかつその試験で「B」以上の成績を収めている学生は優先的に配慮する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査)と「復習」(授業議事録の作成)が必須となります。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践的な企画力・運営力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習・企画
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度50%
 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、学内や学外での実習（スキー実習や地域の健康増進プログラムなど）を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力を身につけることに主眼をおく。さらに、身体活動を通して、初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つける術について考えていく。
 また、スキー実習（教養基礎演習II）のリーダーとして関わり、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回ガイダンス
- 2 回コミュニケーションゲーム (1)
- 3 回コミュニケーションゲーム (2)
- 4 回地域における健康ニーズ
- 5 回健康と体力
- 6 回地域住民に必要な体力とは
- 7 回健康増進プログラムの計画 (1) 体力測定
- 8 回健康増進プログラムの計画 (2) 安全性と有効性
- 9 回健康増進プログラムの計画 (3) プログラム作成
- 10 回健康増進プログラムの実施
- 11 回健康増進プログラムの評価
- 12 回スキー実習の計画 (1) 野外活動の意義
- 13 回スキー実習の計画 (2) 安全性と有効性
- 14 回スキー実習の計画 (3) プログラム作成
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

身体活動を伴うので、運動のできる服装とシューズを準備すること。
 スキー実習については、別途参加費がかかります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州の発見学として平成19年度から開講している「北九州学」。この科目の講義内容、講義計画を教員と学生により共同企画するゼミです。講義内容に関わる情報の収集・調査、北九州地域に興味と関心がある方に、学部を問わずに参加していただきたいと思っています。本年度は、平成23年度開講予定の「北九州の政治行政」、平成24年度開講予定の「北九州の経済」をテーマに講義計画を策定します。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示しますが、積極的に情報検索を試みてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 情報収集・調査
- 3回 情報収集・調査
- 4回 報告・検討・討論
- 5回 情報収集・調査
- 6回 情報収集・調査
- 7回 報告・検討・討論
- 8回 情報収集・調査
- 9回 情報収集・調査
- 10回 報告・検討・討論
- 11回 情報収集・調査
- 12回 情報収集・調査
- 13回 報告・検討・討論
- 14回 報告・検討・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの積極的参加度... 20% 活動内容... 20% 活動報告レポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要に応じて現地調査や見学、関係者へのインタビューも実施していただきます。情報収集も自ら進んで行うよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

* 教養演習 AI もあわせて履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。DNAとは何か？ 遺伝子とは何をしているものなのか？ 本演習では「DNA・遺伝子・生命」を主たるテーマとし、関連図書・DVDを用いて学習するほか、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。さらに関連した科学記事やニュースを読み取る力・自ら考える力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「アメリカ版大学生物学の教科書・第2巻」D. サダヴァ他著、ブルーバックス、2010年
- 「文系のための生命科学」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の説明【細胞】【遺伝】【染色体】
- 3回 基本的事項の説明【DNA】【RNA】【タンパク質】
- 4回 基本的事項の説明【遺伝子】【ゲノム】
- 5回 実験と実習【DNA鑑定実験1】
- 6回 実験と実習【DNA鑑定実験2】
- 7回 実験と実習【DNA鑑定実験3】
- 8回 科学記事よりトピックを選んで解説(1)
- 9回 科学記事よりトピックを選んで解説(2)
- 10回 科学記事よりトピックを選んで解説(3)
- 11回 科学記事よりトピックを選んで解説(4)
- 12回 関連映画作品等鑑賞(1)
- 13回 関連映画作品等鑑賞(2)
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・80%、課題・・・20%
(毎回カードを配布する。授業中の発表のほかに、カードに記入したコメント・質問を重視する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

家族法判例を素材として、家族に関する法律問題解明の方法を検討するとともに、問題発生の原因や要因を探りながら、問題を根本的に解決するために私たちはどうしたらよいかを一緒に考えて見ようと思っています。

教科書 /Textbooks

水野紀子他編著『家族法判例百選〔第7版〕』有斐閣（2008年10月）2,400円を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○泉 久雄 『親族法』有斐閣 3,500円、○中川善之助=泉久雄 『相続法[第4版]』有斐閣 6,000円、○有地亨 『新版家族法概論[補訂版]』法律文化社 3,800円。その他必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献検索の仕方
- 3回 判例研究の方法
- 4回 判例研究の方法
- 5回 判例研究の方法
- 6回 研究報告と討論
- 7回 研究報告と討論
- 8回 研究報告と討論
- 9回 研究報告と討論
- 10回 研究報告と討論
- 11回 研究報告と討論
- 12回 研究報告と討論
- 13回 研究報告と討論
- 14回 研究報告と討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容... 20% 討論への積極的参加度... 20% 期末のレポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「法律の読み方」、法学部の学生については特に「家族法」を合わせて受講すればより一層理解が深まると思います。また、「家族を問う」、「家族の再生」を受講していることも家族の現状を理解することの助けとなると思います。

履修上の注意 /Remarks

教養演習BIIもあわせて受講するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法律学は受講生が主体的に取り組むのでなければその成果は上がりません。自ら進んで研究報告に取り組むとともに、他の報告者の提供する議論の場にも積極的に参加するよう心がけてください。報告の際には、レジユメを用意してください。

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本の歴史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全履修生から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

瀧井一博『伊藤博文 - 知の政治家』（中公新書、2010年）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
 無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養演習A1・II」「教養演習BII」とセットで履修することを希望します。
 A1・IIを履修できなかった場合、事前に相談して下さい。
 この演習は1年生、2年生との合同演習です。
 受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国家と社会についての重要文献読解：卒業論文の執筆を来年に控え、専門性の高い論文を読み始めた学生が、論文を読み進めるにあたってぶつかる壁のひとつは、文中に引用される古典文献を理解することであると思われる。本演習では、メインテキストである『社会とは何か』を読み進めつつ、言及されている論点の一つである国家と社会に関する引用古典文献を読み進めることを試みる。この作業を通して、原典に当たりながら論文を読み、考察することの重要性を実感してもらおう。

教科書 /Textbooks

竹沢尚一郎 2010 『社会とは何か』中公新書
 ユルゲン・ハーバーマス1994 『公共性の構造転換：市民社会の一カテゴリーについての探究（第2版）』細谷貞雄、山田正行（訳）未来社
 ベネディクト・アンダーソン 2007 『定本 想像の共同体：ナショナリズムの起源と流行』白石隆・白石さや（訳）書籍工房早山

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下のスケジュールで輪読と議論を進める。

- 第1回 導入(1)：演習の説明
- 第2回 導入(2)：社会と国家の概念について背景説明
- 第3回 『社会とは何か』1章
- 第4回 『社会とは何か』2章
- 第5・6・7・8回 『公共性の構造転換』
- 第9回 『社会とは何か』3章
- 第10回 『社会とは何か』4章
- 第11・12・13・14回 『想像の共同体』
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中の報告50%、提出物50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

多少難解なテキストを含むので、受講者の理解度を確認するために読書ノートの提出を義務付ける。

履修上の注意 /Remarks

教養演習BIも続けて受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

哲学思想の基礎を踏まえて論じられている文献を独力で読みこなすのは大変ですが、人文社会科学系の研究には重要なことです。上記のテーマに興味のある学生の出席を歓迎します。

キーワード /Keywords

社会、国家、公共性、ナショナリズム

教養演習BI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習BII」とセットで受講すること。
 この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1~2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習BI」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。また、将来、自衛隊の幹部候補生試験を受ける可能性のある者は、受講を強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文・レポート(10000字程度)を書くことをめざす。したがって原則として「教養演習BI」「教養演習BII」の通年受講(1・2学期受講)を義務づける。

1学期は、まず、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 社会学的なものの見方・考え方
- (2) 文献資料の調べ方
- (3) レポート・論文の書き方

さらに、社会学的な調査を用いた基礎的な文献を報告してもらう。

同時並行的に、自らが書く論文・レポートについても準備をすすめる。まず、各自が「テーマ」と「問い」をたてる。その上で、自らのたてた「問い」について関連する文献のリストを作成する。

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人とする(それを越える場合、受講者数調整をかけることがある)。

教科書 /Textbooks

- 『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002
- 『「二ート」って言うな』、本田由紀・内藤朝雄・後藤和智、光文社新書、2006

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
- 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書
- その他、講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2回 社会学的なものの見方・考え方(1) - 『知的複眼思考法』
- 第3回 社会学的なものの見方・考え方(2) - 『知的複眼思考法』
- 第4回 社会学的なものの見方・考え方(3) - 『知的複眼思考法』
- 第5回 第1回レポート検討会
- 第6回 論文・レポートの書き方
- 第7回 情報収集の仕方(1)
- 第8回 情報収集の仕方(2)
- 第9回 第2回レポート検討会
- 第10回 分析実例(1) - 『「二ート」って言うな』第1部
- 第11回 分析実例(2) - 『「二ート」って言うな』第2部
- 第12回 分析実例(3) - 『「二ート」って言うな』第3部
- 第13回 調査倫理について
- 第14回 第3回レポート検討会
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...40% 課題...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること(様式等は授業中に指示する)。
報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジユメを準備すること。
報告者以外の者は(当然のことながら)事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

教養演習BI【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

すべての「大学生」として欠かすことのできない人文的教養の育成を目的として、古典的な基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。1学期は、フロイトの素晴らしい宗教論「幻想の未来」を読む。この演習を通して、人生全般に対する甘い幻想を捨て去り、多少ともシニカルで批判的な大人の思考力を身につけることができるようになれば、それで目的を達成したことになる。

教科書 /Textbooks

フロイト『幻想の未来 / 文化への不満』（中山元訳）光文社古典新訳文庫、2007年、760円。
（※翻訳は他にも数種あるが、本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小此木啓吾『フロイト』講談社
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社
- テリー・イーグルトン『宗教とは何か』（大橋洋一・小林久美子訳）青土社
- ダニエル・C・デネット『解明される宗教——進化論的アプローチ』（阿部文彦訳）青土社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンスI (演習でのルール、成績評価法の説明)
- 2回 ガイダンスII (対象となるテキスト、著者の紹介)
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 復習と補助学習I
- 14回 復習と補助学習II
- 15回 全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望する者は、第三回か第四回の授業までに各自で上記のテキストを購入しておく必要がある (税込760円) 。授業前の準備事項として、訳者の中山元氏による「解説文」および「フロイト年譜」(テキスト377~436頁) を読み込んでくること。

履修上の注意 /Remarks

本演習は1・2年生との合同演習となる。「教養演習BI」に授業登録をした3年生以上の方には、演習における議長を務めてもらうことがある。また、いわゆる『標準版 (Standard Edition) 』を用いて、上記テキストの英訳を日本語に翻訳してもらう場合もある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査) と「復習」(授業議事録の作成) が必須となります。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名
 /Instructor

伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 3年次
 /Year

単位 2単位
 /Credits

学期 1学期
 /Semester

授業形態 演習
 /Class Format

クラス 3年
 /Class

対象入学年度
 /Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践力・総合力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習・企画
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度20%
 活動への参加度50%
 活動報告書30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、身体活動を通して、初めてあった人や知らない人同士でどうしてもしたら自然に打ち解け、お互いに楽しみを共有できるかについて主眼をおく。そこで、学内での実習や学外での実習（キャンプ実習や地域の中高齢者を対象とした運動プログラム）を通して、教示の仕方や振る舞い方などでどのように楽しみを共有できるかについて考えていきたい。また、社会人に必要なマナーや振る舞いについても考えていく。
 また、キャンプ実習（教養基礎演習I）のリーダーとして関わりながら、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていきたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回ガイダンス
- 2 回リーダーとリーダーシップ
- 3 回安全性と有効性
- 4 回キャンプ実習の計画（1）リーダーとしての関わり
- 5 回キャンプ実習の計画（2）安全性と有効性
- 6 回キャンプ実習の計画（3）プログラム作成
- 7 回キャンプ実習の実施
- 8 回キャンプ実習の評価
- 9 回中高齢者にあった身体活動プログラムの計画（1）安全性と有効性
- 10 回中高齢者にあった身体活動プログラムの計画（2）プログラム作成
- 11 回中高齢者にあった身体活動プログラムの計画（3）プログラム作成
- 12 回中高齢者にあった身体活動プログラムの実施（1）
- 13 回中高齢者にあった身体活動プログラムの実施（2）
- 14 回中高齢者にあった身体活動プログラムの評価
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

身体活動を伴うので、運動のできる服装とシューズを準備すること。
 キャンプ実習については、別途参加費がかかります。（約4000円）。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。DNAとは何か？ 遺伝子とは何をしているものなのか？ 本演習では「DNA・遺伝子・生命」を主たるテーマとし、関連図書・DVDを用いて学習するほか、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。さらに関連した科学記事やニュースを読み取る力・自ら考える力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「アメリカ版大学生物学の教科書・第2巻」 D . サダヴァ他著、ブルーバックス、2010年
- 「文系のための生命科学」 東京大学生命科学教材書籍編集委員会編、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の説明【細胞】【遺伝】【染色体】
- 3回 基本的事項の説明【DNA】【RNA】【タンパク質】
- 4回 基本的事項の説明【遺伝子】【ゲノム】
- 5回 実験と実習【DNAの構造】
- 6回 実験と実習【DNAの抽出】
- 7回 科学記事よりトピックを選んで解説(1)
- 8回 科学記事よりトピックを選んで解説(2)
- 9回 科学記事よりトピックを選んで解説(3)
- 10回 科学記事よりトピックを選んで解説(4)
- 11回 科学記事よりトピックを選んで解説(5)
- 12回 関連映画作品等鑑賞(1)
- 13回 関連映画作品等鑑賞(2)
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・ 80%、課題・・・ 20%
 (毎回カードを配布する。授業中の発表のほかに、カードに記入したコメント・質問を重視する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

家族法判例を素材として、家族に関する法律問題解明の方法を検討するとともに、問題発生の原因や要因を探りながら、問題を根本的に解決するために私たちはどうしたらよいかを一緒に考えて見ようと思っています。

教科書 /Textbooks

水野紀子他編著『家族法判例百選〔第7版〕』有斐閣（2008年10月）2,400円を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○泉久雄『親族法』有斐閣 3,500円、○中川善之助=泉久雄『相続法[第4版]』有斐閣 6,000円、○有地亨『新版家族法概論[補訂版]』法律文化社 3,800円。その他必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献検索の仕方
- 3回 判例研究の方法
- 4回 判例研究の方法
- 5回 判例研究の方法
- 6回 研究報告と討論
- 7回 研究報告と討論
- 8回 研究報告と討論
- 9回 研究報告と討論
- 10回 研究報告と討論
- 11回 研究報告と討論
- 12回 研究報告と討論
- 13回 研究報告と討論
- 14回 研究報告と討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容... 20% 討論への積極的参加度... 20% 期末のレポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「法律の読み方」、法学部の学生については特に「家族法」を合わせて受講すればより一層理解が深まると思います。また、「家族を問う」、「家族の再生」を受講していることも家族の現状を理解することの助けとなると思います。

履修上の注意 /Remarks

教養演習BIもあわせて受講するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法律学は受講生が主体的に取り組むのでなければその成果は上がりません。自ら進んで研究報告に取り組むとともに、他の報告者の提供する議論の場にも積極的に参加するよう心がけてください。報告の際には、レジユメを用意してください。

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本政治外交史に関するゼミ論文をかいてもらう(400字×30枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。なお、そのための準備として、第2～7回の演習では近代文書の解読も練習する。

教科書 /Textbooks

コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年)700円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 演習運営方針に関する話し合い。
第2回～7回 各自の研究報告と近代文書の解読の練習。
第7回～14回 各自の研究報告(同時並行的に論文執筆)。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50%課題...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。なお、ゼミ論未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

明治時代に書かれた小説(森鴎外など)を読んで下さい。とにかく、旧字体・旧かな遣いに慣れること。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養演習AⅠ・Ⅱ」「教養演習BⅠ」とセットで履修することを希望します。
以上の科目を履修できなかった場合には、事前に相談して下さい。
この演習は1年生、2年生との合同演習です。受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BⅡ【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

共同体と排除についての重要文献読解： 本演習は、教養演習BⅠの続きである。BⅠで取りあげたメイン・テキスト『社会とは何か』のもう一つの論点である、共同体と排除について、隣接する近年の文献と古典文献を関連付けながら理解を深める。この作業を通して、一つの文献から関連する他の文献へと思考を広げる訓練を行う。

教科書 /Textbooks

竹沢尚一郎 2010 『社会とは何か』 中公新書
 田辺繁治 2008 『ケアのコミュニティ』 岩波書店
 ミシェル・フーコー 1977 『監獄の誕生』 田村俶（訳）新潮社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下のスケジュールで輪読と議論を進める。

- 第1回 導入：共同体と排除の概念について
- 第2回 『社会とは何か』 第5章
- 第3・4・5・6回 『ケアのコミュニティ』
- 第7・8・9・10・11・12・13回 『監獄の誕生』
- 第14・15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、 演習中の報告50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

BⅡのみの受講を希望する場合は、開講初日までに『社会とは何か』の第1章から4章まで読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

教養演習BⅠを受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フーコーの『監獄の誕生』は、哲学や社会学の研究者に限らず、その周辺分野の研究者にとっても重要な文献となっています。ですが、ヨーロッパの歴史的・思想的背景を知らずに、また彼の概念がどのような研究に用いられているのかわ知らずに、独力で理解するのはなかなか難しいです。演習を通して、数人で読むことにより、理解が深まると思います。この演習では、受け身でなく、自ら文章を読み込む意思のある学生の受講を歓迎します。

キーワード /Keywords

共同体・ コミュニティ・ 監視・ 排除・ 統治

教養演習BII (防衛セミナー) 【昼】

担当者名
 /Instructor

戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 3年次
 /Year

単位 2単位
 /Credits

学期 1学期
 /Semester

授業形態 演習
 /Class Format

クラス 3年
 /Class

対象入学年度
 /Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習BI」とセットで受講すること。
 この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。
 この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養演習BI」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養演習BI」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習AI」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。また、卒業後、幹部自衛官になることを希望する者は、受講を強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BII【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文・レポート(10000字程度)を書くことをめざす。したがって原則として「教養演習BI」「教養演習BII」の通年(1学期・2学期)受講を義務づける。

BII(2学期)では、まず、教養演習BIで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告(テキスト批評)をしてもらい、議論を行う。なお、1~2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。

BIと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人とする(それを越える場合、受講者数調整をかける)。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2回 テキスト批評と議論
- 第3回 テキスト批評と議論
- 第4回 テキスト批評と議論
- 第5回 テキスト批評と議論
- 第6回 レポート検討会(4)
- 第7回 テキスト批評と議論
- 第8回 テキスト批評と議論
- 第9回 テキスト批評と議論
- 第10回 テキスト批評と議論
- 第11回 レポート検討会(5)
- 第12回 テキスト批評と議論
- 第13回 テキスト批評と議論
- 第14回 レポート検討会(6)
- 第15回 レポート報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...20% 課題(レポート)...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること(様式等は授業中に指示する)。
報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジюмеを準備すること。
報告者以外の者は(当然のことながら)事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

すべての「大学生」として欠かすことのできない人文的教養の育成を目的として、古典的な基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。2学期は、フロイトによる挑発的な文化論「文化への不満」を読む。この演習を通して、人生全般に対する甘い幻想を捨て去り、多少ともシニカルで批判的な大人の思考力を身につけることができるようになれば、それで目的を達成したことになる。

教科書 /Textbooks

フロイト『幻想の未来 / 文化への不満』（中山元訳）光文社古典新訳文庫、2007年、760円。
（※翻訳は他にも数種あるが、本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小此木啓吾『フロイト』講談社
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社
- 『フロイト著作集3』人文書院
- 『フロイト全集17(1919-22年)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 1学期の復習と内容確認
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 復習と補助学習I
- 14回 復習と補助学習II
- 15回 全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況(予習・議論・発言の積極性)...50% 課題(議事録作成)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望する者は、初回の授業までに各自で上記のテキストを購入しておく必要がある(税込760円)。
本演習は1学期からの続きである。授業前の準備事項として、1学期に読了した「幻想の未来」をきちんと読み直しておくことが全員に求められる。

履修上の注意 /Remarks

本演習は1・2年生との合同演習となる。「教養演習BI」に授業登録をした3年生以上の方には、演習における議長を務めてもらうことがある。また、いわゆる『標準版(Standard Edition)』を用いて、上記テキストの英訳を日本語に翻訳してもらう場合もある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査)と「復習」(授業議事録の作成)が必須となります。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践力・総合力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習・企画
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度20%
 活動への参加度50%
 活動報告書30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、学内や学外での実習（スキー実習や地域の健康増進プログラムなど）を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力はもちろんのこと社会人として必要なマナー（振る舞いなど）を身につけることに主眼をおく。さらに、初めてあった人や普段話したことのない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいのかを見つける術について考えていく。
 また、スキー実習（教養基礎演習Ⅱ）のリーダーとして関わり、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回ガイダンス
- 2 回コミュニケーションゲーム (1)
- 3 回コミュニケーションゲーム (2)
- 4 回地域における健康ニーズ
- 5 回健康と体力
- 6 回地域住民に必要な体力とは
- 7 回健康増進プログラムの計画 (1) 体力測定
- 8 回健康増進プログラムの計画 (2) 安全性と有効性
- 9 回健康増進プログラムの計画 (3) プログラム作成
- 10 回健康増進プログラムの実施
- 11 回健康増進プログラムの評価
- 12 回スキー実習の計画 (1) 野外活動の意義
- 13 回スキー実習の計画 (2) 安全性と有効性
- 14 回スキー実習の計画 (3) プログラム作成
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

身体活動を伴うので、運動のできる服装とシューズを準備すること。
 スキー実習については、別途参加費がかかります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト演習I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。JOB×HUNTERのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたい力と、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2010年度実績：JOB×HUNTER 2012、キャリアーナ、オープンキャンパス、北九州市漫画ミュージアム、Navy Wavy（ギラヴァンツ応援プロジェクト）

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 全体ガイダンス
- 第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません。やる気のみです。

履修上の注意 /Remarks

- ※原則、2学期の履修登録の修正登録期間に履修登録してください。
- ※参加募集は随時行います。なお、参加人数には制限があります。
- ※自らプロジェクトを立ち上げたい人は是非ご相談ください。
- ※授業日は特に決まった曜日は設定しません。メンバーで相談して設定してください。
- ※教室は学生プラザのプロジェクトルームを予約して使用してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト期間中は他の課外活動との両立は難しくなりますのでご注意ください。途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいます。また、特に応募者が多いプロジェクトであれば、応募に外れた学生の気持ちも台無しにします。やり遂げる意思を持ってご参加ください。

キーワード /Keywords

経験から学ぶ力、キャリア、成長

プロジェクト演習II【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。JOB×HUNTERのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたい力と、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2010年度実績：JOB×HUNTER 2012、キャリアーナ、オープンキャンパス、北九州市漫画ミュージアム、Navy Wavy（ギラヴァンツ応援プロジェクト）

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 全体ガイダンス
- 第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません。やる気のみです。

履修上の注意 /Remarks

- ※この演習を履修できるのは、原則2年次に『プロジェクト演習I』を履修した人です。ただし、オープンキャンパスなど期間限定のタイプは単独でも履修可能です。
- ※参加募集は随時行います。なお、参加人数には制限があります。
- ※自らプロジェクトを立ち上げたい人は是非ご相談ください。
- ※授業日は特に決まった曜日は設定しません。メンバーで相談して設定してください。
- ※教室は学生プラザのプロジェクトルームを予約して使用してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト期間中は他の課外活動との両立は難しくなりますのでご注意ください。途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいます。また、特に応募者が多いプロジェクトであれば、応募に外れた学生の気持ちも台無しにします。やり遂げる意思を持ってご参加ください。

キーワード /Keywords

経験から学ぶ力、キャリア、成長

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。授業とあわせて以下の本をよんでほしい。

教科書 /Textbooks

- 『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
- 「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
- 「自然学の未来」黒田末寿

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
 - 第一講 「今西錦司と自然学」
 - 第二講 「私とあなたの自然学」
 - 第三講 「バックミンスターフラーと自然学」
 - 第四講 「海と人の自然学1：沖縄の海人たち」
 - 第五講 「海と人の自然学2：ソロモンの海洋民たち」
 - 第六講 「海と人の自然学：軍艦島を考える」
 - 第七講 「風の谷のナウシカの自然学」
 - 第八講 「人の進化と自然学」
- 岩松
 - 第九講 人々はどのように自然に親しんできたか - 自然の中の旅と観光
 - 第十講 人々はどのように自然を観てきたか - 自然風景の感じ方
 - 第十一講 人々はどのように自然を利用してきたか - 日本の竹文化史
 - 第十二講 人々はどのように自然を利用していけるか - 日本の竹産業と政策
 - 第十三講 人々はどのように自然の中で暮らしているか - 日本の木造民家の生活
 - 第十四講 日本人と森林の関係にはどのような特徴があるか - 中国文化との比較
 - 第十五講 第九講～第十四講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

竹川 自分が生きている世界について野に出て考えてみたかったか 50%
岩松 平常点&小レポート...25% 試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本を読んでほしい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

動物のみかた 【昼】

担当者名 /Instructor 到津の森公園、文学部 竹川大介

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

動物園とのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。
動物園の本来の姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

教科書 /Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論 1
- 2回 動物園学概論 2
- 3回 キーパーの仕事 1
- 4回 キーパーの仕事 2
- 5回 キーパーの仕事 3
- 6回 キーパーの仕事 4
- 7回 キーパーの仕事 5
- 8回 キーパーの仕事 6
- 9回 校外実習 1
- 10回 校外実習 2
- 11回 獣医の仕事 1
- 12回 獣医の仕事 2
- 13回 動物園学まとめ 1
- 14回 動物園学まとめ 2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 80% 平常の学習状況 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地球の生いたち【昼】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみや成り立ちを正しく理解し、地球規模でのバランス感覚を養っていく必要がある。

この授業の目標は、現在の地球のしくみと地球史を正しく理解することを通して、地球と人間との関係はどうあるべきかについて、自ら判断し考えることができるようになることである。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』(日本放送協会), 1071円
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』(岩波書店), 861円
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目: 地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回目: 生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回目: 生きている地球2【ウエゲナーと大陸移動説】
- 4回目: 地球惑星の起源と進化【水の惑星の誕生】
- 5回目: 地球生命の起源と目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 6回目: 凍りついた地球【全球凍結】
- 7回目: 生物進化史上最大の事変1【カンブリア爆発】
- 8回目: 生物進化史上最大の事変2【カンブリア爆発の意義】
- 9回目: 顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回目: 繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回目: 顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回目: 繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回目: 顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回目: 人間圏の成立と環境問題【人類と環境】
- 15回目: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験: 80%, 日常の授業への取り組み: 10%, 小テスト・ミニレポート: 10%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球史を学ぶ事を通して、地球と人間との関係について考えましょう。

キーワード /Keywords

地球史, 生命と地球, 共進化

自然史へのいざない【昼】

担当者名 /Instructor 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）の学芸員が、北九州の自然と自然史博物館の魅力、そして各学芸員の調査や研究について紹介をする授業です。北九州市は多様な化石を産する化石の一大産地です。また、多様な自然に囲まれた都市でもあります。このような恵まれた北九州の自然と、それを展示している当博物館を、まずみなさんに知ってもらおうことが、この授業の大きな目的です。各学芸員は、海外での発掘や、調査・研究も積極的に進めています。講義では、海外の話題も含めた、各自然史分野の最先端の話も聞くことができると思っています。よりグローバルな視点から、自然史を学んでもらうことも、この授業の目的としています。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各学芸員が担当する講義のテーマは下記の通りです（【】内はキーワード、（）内は担当学芸員名）。講義の順番は変更となる場合があります。北方キャンパスでの13回の講義のほか、北九州市立自然史・歴史博物館での講義および見学（学期内の特定の日曜日を使い2回実施）を予定しています。

- 1回 ガイダンス
 - 2回 昆虫分類学の歴史（上田）：【分類】【化石昆虫】
 - 3回 化石が語る魚類の進化（藪本）：【魚類化石】
 - 4回 二次的自然と哺乳類（馬場）：【都市近郊に棲む哺乳類】【生物多様性の価値】
 - 5回 鳥類の絶滅危惧と生物多様性の保全（武石）：【絶滅危惧】【生物多様性】
 - 6回 ちょっと前の自然～植物の世界を例に（真鍋）：【里山】【二次的自然】【生態遷移】
 - 7回 化石記録が物語るいのちのたび「絶滅と繁栄」（太田）：【化石】【生命史】【絶滅】
 - 8回 カエルとサンショウウオのはなし（山根）：【両生類】【身近な生き物たち】
 - 9回 宝石鉱物の魅力と不思議（森）：【宝石】【鉱物】
 - 10回 深海生物～その形と適応的意義～（下村）：【深海】
 - 11回 アンモナイトの古生物学（御前）：【系統進化】【携帯と機能】【恐竜】
 - 12回 骨から知る脊椎動物進化（大橋）：【化石】【進化】【古生態】
 - 13回 まとめ
- ※北九州市立自然史・歴史博物館のホームページ：<http://www.kmnh.jp/>

成績評価の方法 /Assessment Method

2回の博物館見学は必須となります。レポートで成績評価を行います。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし。

履修上の注意 /Remarks

講義に遅れてきたり、出席確認後に退席したりすることがないように、各自マナーを守るよう心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

くらしと化学 【昼】

担当者名 /Instructor 秋貞 英雄 / Akisada Hideo / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

化学知識は生活に不可欠な知識です。化学物質は身近な物質として生活を豊かにするのに貢献しています。また”生命とは宇宙とは”豊かな発想や、豊かな未来社会を展望する上での必要な知識です。一方、地球環境汚染など否定的現象にも関わる知識です。また金銭を中心とする消費社会では、工セ科学を利用した詐欺的商法もあります。市民は其中で、単なる教養でなく、正しい判断のための正確な科学知識が必要とされます。

化学的知識の理解は、情報を受ける側の基礎知識と情報提供者の工夫によって進みます。化学の専門家でない者には、一つの知識の習得には多面的アプローチが重要です。したがって、講義は、高校理科・化学のまとめと補足のあと教科書より与えられるテーマをもとに、色々補足を加えて、身近な化学知識への興味と理解が進むように努めたい。

教科書 /Textbooks

学説・化学物質 - あなたの常識に挑戦する」John Emsley著、渡辺正訳 (丸善)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「沈黙の春」R. Carson著、青木梁一訳 (新潮社)
「奪われし未来」T. Colbon, D. Dumanoski, P. Myers著、長尾力著 (翔泳社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義は、入門的に高校の理科・化学のまとめと補足を行い。引き続いて、教科書に与えられたテーマに基づき、補足、関連話題や解説を進めて理解の促進をはかる。

- 1) 化学の基礎1
- 2) 化学の基礎2
- 3) 香水(香料)・・・においの正体、対置する消臭
- 4) 砂糖と甘味料・・・甘味料の役割
- 5) 味と調味料・・・味覚と化学 (教科書外)
- 6) アルコール・・・酒と百薬の長・・・アルコールの体内挙動
- 7) コレステロール、脂肪、食物繊維・・・ダイエットとメタボ対策
- 8) くすり・・・毒と薬は紙一重
- 9) 洗剤・・・洗浄、きれいさ、その歴史と洗剤の多機能性 (教科書外)
- 10) 塩化ビニル・・・プラスチックと高分子の歴史
- 11) プラスチック・・・環境問題 (教科書+教科書外)
- 12) ダイオキシン・・・化学汚染、大気汚染・・・都市問題
- 13) 無機窒素肥料・・・化学肥料と有機肥料
- 14) 二酸化炭素・・・二酸化炭素と温暖化の科学的仕組み、地球温暖化、地球の歴史
- 15) 未来社会と化学 (教科書+教科書外)

成績評価の方法 /Assessment Method

簡単レポートや小テスト30%、期末試験70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校の理科、化学の教科書があると望ましい(手引き代わり)。テレビ新聞等の科学関連ニュースには注目して欲しい。疑問点は質問して欲しい。

履修上の注意 /Remarks

教科書外の内容も講義することがあるので、ノートはきちんととること。小テストやレポートが、ノートのに基づくこともある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞、雑誌、放送機関、インターネット等の科学情報に関心を持ち、質問するような姿勢が好ましい。

キーワード /Keywords

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人間は社会的な存在であり、集団や社会から影響を受けて個人が成り立っていると同時に、各個人が集団や社会を成り立たせている。授業への参加が、このことを考えるきっかけになってほしい。日常生活における問題と心理学研究における問題とのつながりを理解することによって、自分、他者、集団、社会、というものの見方に深みが増すことを期待する。

教科書 /Textbooks

オリエンテーションの時に知らせる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション、心理学とは何か
- 第2回 心をどうとらえるか
- 第3回 心の柔軟性1(進化)
- 第4回 心の柔軟性2(脳)
- 第5回 心の柔軟性3(本能)
- 第6回 人間は世界をどう理解するか1(知覚)
- 第7回 人間は世界をどう理解するか2(記憶)
- 第8回 人間は世界をどう理解するか3(学習)
- 第9回 自分を顧みる1(親子関係)
- 第10回 自分を顧みる2(自己評価、自尊心)
- 第11回 自分達を顧みる1(消費と生産)
- 第12回 自分たちを顧みる2(性と年齢)
- 第13回 集団の心理
- 第14回 社会と自己
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(数回行います)・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

数のたのしみ 【昼】

担当者名 /Instructor 高妻 倫太郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中学校・高校で習う「数学」とは違い、文化的観点を取り入れた「数楽」を目標とする。
 1. 数の世界に対する関心・興味を持ってもらうこと。
 2. 数学的思考法を体感し、「考えることは楽しい」感覚を呼び覚ますこと。
 講義全体のキーワードは、数との親しみ・愉しみ。それらを通して世の中に数学的精神が息づいていることを伝えたい。

教科書 /Textbooks

講義資料を毎回準備するため、テキストの指定は特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

心躍る、3世紀にわたる数学者たちの、挫折と栄光と感動の物語として次を推奨する。
 ○サイモン・シン著・青木薫訳『フェルマーの最終定理』新潮社(2006年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 数の世界はどのようにして発見、発展させられてきたか。数学史を織り交ぜながら述べる。
2. 数学的な考え方の紹介。数(や図形)の問題を皆で考える。ただし、予備知識をなるべく仮定せず考えて欲しいと思われる問題。
 - 1回 古代の数学【バビロニア】、【エジプト】、【中国】、【インド】
 - 2回 かぞえること【数の発見】、【数の表記法】、ギリシャ数学のはじまり【ピタゴラス学派】
 - 3回 古代ギリシャの数学者・哲学者たち【ギリシャ三大作図問題】
 - 4回 円周率とは【 π の歴史】、【ビュフォンの針】
 - 5回 ギリシャ数学の末期【ディオファントスの「算術」】、中世の中国
 - 6回 中世の数学【インド】、【イスラーム】、【ヨーロッパ】、ふしぎの黄金比
 - 7回 いろいろな記号の起源、未知数が X になるまでの道のり、方程式の解法をめぐって
 - 8回 究極の折り紙
 - 9回 ルネサンスの絵画と幾何、17世紀の幾何学・確率論・数論
 - 10回 和算について【江戸時代】、19世紀の代数学・数論、19世紀までの主な数学分野
 - 11回 「テーマから考えてみよう」
 - 12回 フェルマーの最終定理が解かれるまで
 - 13回 暗号のはなし【公開鍵暗号】、【法の世界】
 - 14回 技術に生きる現代数学【RSA暗号】
 - 15回 技術に生きる現代数学【ISBN】

成績評価の方法 /Assessment Method

アンケート(毎回)およびレポートによる総合評価。
 「アンケート40%+レポート60%-欠席点数」で評価。3回以上の無断欠席は不可とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予備知識は特に仮定しない。数をたのしんでみようという心構え・やる気が必要である。
 上記の参考文献を読まれるとよい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義中の飲食・私語は禁止。
 携帯電話の電源は切り、鞆の中にしまっておくこと。

キーワード /Keywords

私たちと宗教【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本で生活するわれわれの大多数は、宗教を迷信ないしは縁遠いものと受けとめているのではないだろうか。しかしながら諸外国においては、宗教は抜き差しならない切実な問題であり、社会に大きな位置を占めて人々の倫理観や思考を深く規制している。振り返ってみれば、われわれ自身も実は決して無宗教というわけではない。この授業を通して人間社会における宗教の重要性を認識してもらいたい。授業ではとりわけ日本人にとって身近な宗教についての理解を深めてもらう。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫）
○橋爪大三郎『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房・ちくま文庫）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要について
- 2回 問題提起—宗教とはなにか？
- 3回 宗教の諸類型と世界の諸宗教
- 4回 一神教について1（一神教の発生）
- 5回 一神教について2（ユダヤ教）
- 6回 一神教について3（キリスト教）
- 7回 日本人の「宗教」観
- 8回 仏教について1（インドの仏教）
- 9回 仏教について2（中国の仏教）
- 10回 仏教について3（日本の仏教）
- 11回 神道について1（神道の特色）
- 12回 神道について2（神道の形成）
- 13回 神道について3（神道の特色）
- 14回 日本の宗教風土
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 30% レポート... 20% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布した資料は下読みしておくこと。
レポートの作成には数冊の本を読んでもらうことになります。それなりの時間とお金を必要とします。計画的に作業を進めてレポートを提出して下さい。

履修上の注意 /Remarks

レポートを提出しない者は、期末試験を受験することができません。
レポート提出の遅延は認めません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

宗教を信じることを勧める授業ではありません。宗教というものが人間や文化にとって重要な位置を占めるものであることを理解し、日本の宗教風土の特色を理解してもらって授業です。

キーワード /Keywords

宗教 一神教 多神教 神道 仏教

思想と現代【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

19世紀末から20世紀にかけて発展してきた重要な思想の流れを解説する。この時代がいわゆる「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想（実存思想・精神分析・フェミニズム）に着目してゆく。これらの発想をヒントにすることで、自我の成立、および他者との関係性について複眼的な思索ができるようになることを本授業の目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『哲学の歴史 第9巻—反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
- 『哲学の歴史 第12巻—実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 実存の思想(1)【概説】
- 3回 実存の思想(2)【キルケゴール】
- 4回 実存の思想(3)【ハイデガー】
- 5回 実存の思想(4)【サルトル】
- 6回 実存の思想(5)【メルロ=ポンティ】
- 7回 中間総括(確認テスト)
- 8回 精神分析の思想(1)【フロイト1】
- 9回 精神分析の思想(2)【フロイト2】
- 10回 精神分析の思想(3)【メラニー・クライン1】
- 11回 精神分析の思想(4)【メラニー・クライン2】
- 12回 フェミニズムの思想(1)【第一波】
- 13回 フェミニズムの思想(2)【第二波】
- 14回 フェミニズムの思想(3)【現代】
- 15回 総括と補足

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...50% 期末レポート...50%
(※確認テストを受験していない者は、期末レポート提出の権利を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第7回にテスト(第3回~第6回の内容確認)を実施するので、受講希望者は遅くとも第3週目から出席しておく必要がある。なお、このテストを受験していない者には単位を認めないので、あらかじめ注意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ろくに事前連絡もなく、授業最終日になってから「忙しくて確認テスト受けられませんでした」などと言いに来る者もいるが、この手のチープな言い訳はまったく通用しない。その場合は当然不合格となる。
本授業に対しては、一切の甘えを捨てた上で取り組んでほしい。また、授業内で指示する課題内容から外れたレポート、無断引用(コピペ等)が発覚したレポートは即座に0点となる。

キーワード /Keywords

文化と表象【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、表象概念の基礎を理解し、表象論の視点・テーマのひろがりを知ることを目的としている。受講者は、講義を受けるなかで各自の生活環境を「表象」という視点から見つめ直すことが求められる。
まず前半の講義では表象論事始めとして、理論的背景の説明や、現代の商業的、歴史上の風刺画などをとりあげてイメージとしての〈日本〉について多様な角度から言及するなかで、表象研究の導入をおこなう。
次に比較分析の例として映画を原作と比べて、その差異について論じる。さらに、後半では、テーマ研究として具体的なテーマに焦点を絞り、表象についての理解を深めていく。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 【表象論事始め】 理論的背景
- 3回 イメージとしての〈日本〉①
- 4回 イメージとしての〈日本〉②
- 5回 イメージとしての〈日本〉③
- 6回 中間テスト
- 7回 【表象分析事始め】方法としての「比較」
- 8回 映画分析①
- 9回 映画分析②
- 10回 【テーマ研究】 表象を論じるためのテーマ
- 11回 戦争と表象①
- 12回 戦争と表象②
- 13回 戦争と表象③
- 14回 テーマ研究をふりかえって
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(課題・コメントカードなど) ... 10% 中間・期末テスト ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習は特に必要ないが、毎回の授業を復習するなかで、各自の身近な生活環境から問題をつねに内省的に「発見」することが求められるので、緊張感をもった態度で受講してほしい。単位取得のためには、2回の試験において十分な準備が要求される。全体的にハードなプログラムであることを受講希望者は意識しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 花田 伸一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国内外の現代美術の事例を、鑑賞・趣味の対象としてではなく、批評・実践のツールとして紹介します。必要に応じて美術以外の諸分野も取り上げます。

教科書 /Textbooks

ナシ

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

今道友信『美について』(講談社現代新書)
佐々木健一『美学への招待』(中公新書)
暮沢剛巳編『現代美術を知るクリティカル・ワーズ』(フィルムアート社)
ほか、できるかぎり近辺の展覧会に足を運び、現場での実体験をすること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 美をめぐる言葉の整理：美×美術×美術館×美学
- 2回 作品鑑賞1：学内作品鑑賞
- 3回 作品鑑賞2：抽象美術作品鑑賞
- 4回 美術の現場1：美術館展覧会の舞台裏
- 5回 美術の現場2：アートプロジェクトとは
- 6回 美術と近代化1：近代日本美術の成立
- 7回 美術と近代化2：東南アジアの現在：ラオス、カンボジア
- 8回 美術と近代化3：東南アジアの現在：タイ
- 9回 芸術と権力：ファシズムと祝祭性について
- 10回 芸術と宗教：ニューエイジについて
- 11回 美術と教育：美術教育の現場から
- 12回 芸術と生活：限界芸術、民芸
- 13回 美術と地域：福岡県内プロジェクト事例紹介
- 14回 北九州・福岡アートシーン紹介1
- 15回 北九州・福岡アートシーン紹介2

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記の講義内容は予告なしに変更する場合があります。
また講義室内での受講にとどまらず、できる限り近隣の美術館・ギャラリー等で行われる展覧会・レクチャー・トーク・ワークショップ等に足を運び、「現場」での体験と省察とを心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦争と人間【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター, 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「戦争」は、人類が抱え込んできた難問であり続けている。「獣」は人間のような過剰な殺戮をおこなわないという観察的事実から、過剰な殺戮・すなわち虐殺こそが人間の特色であるという見方も、不可能ではない。戦争とは、人間にとってどのような営みなのか、という根源的な問いを踏まえ、近代の総力戦以降、私たちはどのように戦争を遂行し、またどのような体験をしてきたのか、幅広く戦争という営みを見据えたい。そして人間にとっての戦争を、政治、文化、記憶と歴史そして哲学と倫理等の側面から多角的に検証し、戦争と共生のはざままで今日の我々が共有すべき問いについて考える。

教科書 /Textbooks

必要な資料はプリントとして配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業は、複数の教員が各々の専門と関心から同一テーマに従って輪番で講義を進行させてゆく「オムニバス授業」である。政治学(戸蒔)、政治・外交史(小林)、哲学・倫理学(伊原木)を中心とし、他学部の教員も加えて授業展開してゆく予定である。授業テーマや担当者については初回授業で説明するので、必ず出席すること。参考までに、昨年度の共通テーマは「敵概念」であった。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート 80% 授業内小レポート 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代正義論【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題を取りあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題を取りあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』(早川書房)
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』(早川書房)
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房)
- 平井亮輔編『正義』(嵯峨野書院)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社)
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社)
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』(法律文化社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 本講義の構成と概説
- 第2回 現代正義論とは(続)
- 第3回 「正義」の応用問題(生命倫理と法)[~第7回まで]
脳死・臓器移植①
- 第4回 脳死・臓器移植②
- 第5回 脳死・臓器移植③
- 第6回 安楽死・尊厳死① 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ノージックのリバタリアニズム
- 第10回 現代正義論③ ~ 共同体主義と多文化主義
- 第11回 現代正義論④ ~ アマルティア・センの正義論
- 第12回 現代正義論⑤ ~ センとロールズ・ノージック
- 第13回 現代正義論⑥ ~ 狭義の(ロールズ以後の)「現代正義論」のまとめ
- 第14回 法と正義 ~ 狭義の現代正義論と正義の応用問題
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送され、話題となったマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解にとって、大変に役にたつと思います。

キーワード /Keywords

ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

かつて「危険な思想」であった民主主義は、今やすべてのものを正当化するレトリックとなり、きわめて形式的なものとなっている。そこで、本講義では、民主主義に関する議論を活性化するためのいくつかの素材、論点、概念などを提示し、「民主主義とは何か」を問い直してみたい。

教科書 /Textbooks

レジュメの配布を基本とするが、S・シャピロ『民主主義論の現状』（慶応義塾大学出版会、2010年）（○）も多く用いる。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィー』（日本経済評論社、2003年）（○）
J・リンズほか『大統領制民主主義の失敗』（南窓社、2003年）（○）
L・ダイヤモンドほか『シビリアン・コントロールとデモクラシー』（刀水書房、2006年）（○）
中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房、2006年）（○）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 開講の辞・グローバル化と民主主義【第三の波】【市民社会】
第2 - 3回 「デモス」と「クラティア」について【イソノミア】【イセゴリア】【イソモイリア】
第4 - 5回 二つの民主主義伝統について【G・セイバイン】【自由】【平等】
第6 - 7回 近代市民革命と自由民主主義について【C・シュミット】【自由主義】【民主主義】
第8 - 9回 現代民主主義の諸類型【エリート主義】【参加民主主義】【共生の民主主義論】
第10 - 11回 議院内閣制民主主義と大統領制民主主義について【政治的安定性】【首相公選制】
第12 - 13回 民主主義批判の思想について【全体主義】【ポスト・デモクラシー】
第14回 デモクラシーの徹底化について【C・ムフ】【多様性】【複数性】
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への積極的取組状況考慮、小テストによる問題の解説と添削、レポート任意提出可、定期試験と講義への積極的取組などで総合評価
講義への積極的取組 10%、小テスト... 10% レポート(任意) 10% 試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布したレジュメに目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権論【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察していく。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問い直す機会としたい。

目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題について、その事例を説明できる。
4. 自分自身と人権との関わりが理解できる。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『不思議な力 夜間中学』（宇多出版企画発行）
『部落問題資料と解説』（解放出版社発行）
必要な参考書は授業時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 自分にとっての人権課題
- 2 「人権とは何か」
- 3 「人権獲得の歴史」
- 4 「世界人権宣言採択の歴史的経緯と意義」
- 5 「部落問題について」
- 6 「部落差別の事例と当事者の声」
- 7 「在日外国人と人権課題」
- 8 「在日コリアンについて」
- 9 「ハンセン病とは、元患者の事例」
- 10 「識字問題～読み書きができないことがもたらす人権侵害」
- 11 「教育と人権～教育を受ける権利が保障されていない人たちの状況」
- 12 「障害者の立場からみる人権課題」
- 13 「戦争と人権 / 女性と戦争」
- 14 「アジアの人権状況」
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 50% 期末テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

人権論【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日常生活の中にあるさまざまな人権課題に関心を持ち、授業のミニレポートまたは感想用紙に反映させることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生自身が持つ「学ぶ権利」を認識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、なぜ「男は仕事、女は家事・育児・介護」は自然な役割だと思われているのか、なぜ男女の賃金格差があるのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのか-そのような日常的な「当たり前」をジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を学ぶ。

教科書 /Textbooks

『ジェンダー・スタディーズ-女性学・男性学を学ぶ』（牟田和恵編）大阪大学出版会 2,520円
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『岩波女性学事典』（井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編）岩波書店 4,830円
『フェミニズム理論辞典』（マギー・ハム著）明石書店 7,140円
R.W. Connell, Gender: Short Introduction, Polity, 2003 .

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回 日本語とジェンダー-日本の戦後から現代までの歌謡曲【女言葉・男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別役割分業】
- 5回 ジェンダー家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャルな関係】【性のダブル・スタンダード】
- 7回 学校教育の今昔-学園ものTVドラマの系譜【ジェンダー・トラッキング】【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-米映画『フローズン・リバー』【シングル・マザー】【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【家族経営協定】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のひまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-比映画『ケア・ギバー』【移住労働】【性別分業の再配置】
- 14回 テートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼン...30%、レポート...30%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書、資料は事前に読んでおくこと。
ワークショップでのプレゼンにはパワーポイントを使用するため、プレゼンおよびパソコンPPT作成スキルを身につけておくこと。PPTは8枚にまとめること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

メディア表現、ジェンダー不平等な法制度の改正、日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。

キーワード /Keywords

「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「グローバル化」

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定ている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回～4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回～第8回：「文化モデル」の可能性、自閉症児者との共生をめぐる【文化モデル】【文化相対主義】【自閉症】
- 第9回～12回：日本の福祉制度の現状と課題【当事者の声】
- 第13回～14回：自己の問題としての障がい
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生の作法【昼】

担当者名 /Instructor 山本 光英、法学部教員

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、さまざまな極めて複雑な関係から成り立っている。我々は個人としてどのような関係の中で生活しているのか、どのような関係の中で生活すればよいのかを考えなければならない。我々の生活が、およそ一人では成り立たない以上、他者との関係、すなわち、人と人との関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係などさまざまな関係の中で成り立っていることを考えなければならない。他者との共存ないし共生は我々の生活には不可欠なのであり、そのためにお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いを守るべきルール、平たくいえばマナー（作法といってよい）を知ることが必要である。今現在、そのような他者との関係がどのようになっているのかを考え、そして、これらの関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えるのが本講座の目的である。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、規範意識とは何か（3銭の電気窃盗）（山本）
- 第2回 裁判とは何か（民事裁判、刑事裁判、行政裁判、裁判の関係者など）（岡本）
- 第3回 相隣関係とは何か（隣接する土地所有権相互の利用を調整することの意味）（福本）
- 第4回 民事少額訴訟とは何か（小池）
- 第5回 基本的人権とは何か（基本的人権と公共の福祉、法の下での平等、プライバシーの権利、国民相互間の基本的人権など）（植木）
- 第6回 社会福祉の視点から（狭間）
- 第7回 雇用とは何か（雇用関係の成立、雇用関係の展開、雇用関係の終了）（津田）
- 第8回 犯罪とは何か（構成要件、違法、責任、罪刑法定主義）（大杉）
- 第9回 契約とは何か（法律関係の主体、契約自由の原則、契約の成立と効力、契約の履行など）（中山）
- 第10回 財産とは何か（さまざまな財産、物権と債権、財産権の保障、財産権とその制約、財産権と公共の福祉など）（中山）
- 第11回 労働者の権利と生活の保障（労働法の出現、社会法の原理、労働法の内容、争議権と公共の福祉、社会保障など）（津田）
- 第12回 生存と環境保護（公害をめぐる法規制、環境保護政策の展開、循環型社会へ向けての法規制、個人・国境・世代をこえる環境問題など）（岡本）
- 第13回 国際社会と日本（二宮）
- 第14回 Pacta sunt servanda とは何か（「契約」と「約束の違い、契約の成立から終了までのプロセス）（福本）
- 第15回（予備日）

成績評価の方法 /Assessment Method

- 原則として、学期末に各担当教員が講義したテーマの中から3つ選択してレポート（計3本）を提出してもらい、その内容によって評価する。
- ①受講者は各講義のテーマの中から3つ指定された課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
 - ②レポートの様式は問わない。ただし、各レポート2000字以上とする。
 - ③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を必ず明記すること。
 - ④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。
 - ⑤レポートは、自筆による（鉛筆書きは不可、パソコン・ワープロで書いたものは不可とする）。
 - ⑥授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。
 - ⑦授業態度が悪いと判断される者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容に合わせて必要と思われる情報を収集しておくこと。復習が必要です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート課題は、全ての授業終了後に学籍番号に応じて指定しますから、全ての授業に出席していなければ、レポートは書けないこととなりますので注意してください。

共生の作法【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

キーワード /Keywords

北九州学【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この科目は、地域社会の発見学です。私たちの大学のある北九州、この地域の歴史や伝統文化を知り、人々の暮らしや風土に根ざした心を理解し、ものづくりやまちづくりへの取り組みを確認してみようと思います。北九州の発見を通じて、生活するためのヒント、他の文化とつながる知恵や未来への発展可能性を開く手がかりを得ようというものです。本年度は、「北九州の政治行政」を講義の主なテーマとします。講義全体のキーワードは『知っとーと！？北九州？？？』です。

教科書 /Textbooks

使用しません。毎回レジュメと資料を配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、その都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 北九州の歴史-小倉藩の治世
- 3回 北九州の歴史-小倉の五街道
- 4回 北九州の歴史-軍都小倉
- 5回 北九州市誕生
- 6回 北九州の政治
- 7回 北九州の住民自治
- 8回 北九州の教育行政
- 9回 北九州の交通行政
- 10回 北九州の環境行政
- 11回 北九州の安全対策
- 12回 北九州の福祉行政
- 13回 北九州のスポーツ行政
- 14回 北九州の観光行政
- 15回 まとめ

* 毎回ゲストをお招きして、各テーマについてお話を伺います。上記の内容は一応の予定です。現在検討中です。講義内容の詳細は開講時に配布します。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の講義への取り組み... 10% 課題... 10% 期末のレポート... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義中にノートをしっかりつけてください。

キーワード /Keywords

市民活動論 【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 枠組みの設定
 - 3回 民衆行動の分析①
 - 4回 民衆行動の分析②
 - 5回 市民運動の分析
 - 6回 市民の活動の展開 / 戦前 (上)
 - 7回 市民の活動の展開 / 戦前 (下)
 - 8回 市民の活動の展開 / 戦後 (上)
 - 9回 市民の活動の展開 / 戦後 (下)
 - 10回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (上)
 - 11回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (下)
 - 12回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (上)
 - 13回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (下)
 - 14回 市民活動の現在
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本は、かのアジア太平洋戦争に敗北した。その後の日本は、奇跡的とも言うべき復活・再生（高度成長から安定成長）を果たした。その後、欧米から日本の経営とも賞賛された日本の企業社会であるが、そのピーク＝破壊たる1990年代前半のバブル崩壊を契機として、一転して失われた10年さらには15年とも評価されるにいたっている。

終身雇用（＝ライフタイム・コミットメント、広義には職場共同体感）・年功制や労使協調型経営のシステムは、今や、液状化して剥き出しの資本制経済の荒波にさらされている。日く、ワーキングプア・ネットカフェ難民・格差から貧困。

にもかかわらず、経済政策をリードしている新自由主義（マーケット型資本主義）路線。すなわち市場＝マーケット万能路線である。そこでは、市場から脱落・排除（彼女／彼らはこれを退出という）された者は、もはや回帰不可能な存在として処理されているかのようである。

これまでの日本経済においては、ケインズ型経済政策を基底にして、社会そのものが、こうした人々を支えるセーフティネットをもっていたと判断される。しかし、赤字財政と経済危機という観点から、いよいよ新自由主義なる路線が浸透しているかのようである。

そうすると行き着くところ、社会というものは、必ずしも人々の生命の再生産を所与としないものだろうか？

こうした問題を、日本の企業社会という文脈にひきつけて展開してみようというのが講義のねらいである。

教科書 /Textbooks

テキストは、竹内章郎『新自由主義の嘘』岩波書店、2007年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ことに格差と貧困に関わるテーマを扱った雑誌『世界』・岩波新書等の最新の文献。國島・重本・山崎編『「社会と企業」の経営学～新自由主義的経営から社会共生的経営へ～』ミネルヴァ書房（2009年）・見田宗介（真木悠介）の社会学入門に関する文献は一冊、用意したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会とは(社会認識の諸類型)。資本制経済(資本家的生産様式)。【社会認識】
- 2回 同上
- 3回 【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】【市民法】
現代社会の物質代謝＝商品による商品の生産。現代社会の物質代謝と再生産＝商品流通(C-M-C)による社会の再生産→この商品流通から、ふたつのタイプが見いだされる。→C-M-C(私たち)とM-C-M(資本家)。私たちと資本家は、商品流通のレベルでは仲良く相対しているかのようだ。この市民社会＝市民法レベルでの社会の再生産とその実態(秘密)。
- 4、5回 同上
- 6回 【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】 市民社会の歴史的創出＝本源的蓄積過程。商品流通(C-M-C)の内実たるM-C-Mでの剰余価値の生産。資本家と労働者。
- 7、8、9回 同上
- 10回 【現代社会における二者闘争性(白と黒)】【労働組合】【福祉国家】【ケインズ政策】
市民社会と階級関係の二者闘争性。セーフティネット装置＝福祉国家。戦後のケインズ政策。
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 福祉国家の行き詰まりから、資本主義の原点回帰へ。新自由主義の台頭。【新自由主義】
- 14回 システム統合と社会統合。マーケットとその外側(生活世界)。【システム統合】【社会統合】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...10%と小テスト...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ①、テキストを用意すること。②、レジュメだけにしがみつかない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】【市民法】【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】【現代社会における二者闘争性（白と黒）】【労働組合】【福祉国家】【ケインズ政策】【新自由主義】【システム統合】【社会統合】

つながりの人間学【昼】

担当者名 /Instructor 地域共生教育センター 坂本毅啓、石谷百合加、奥村貴仁

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、地域共生教育センター担当科目として開講します。
地域貢献活動へ参加する入門科目として、以下の6点をねらいとします。

- ①地域活動に関する実践的方法論の習得
- ②マッチング型などへの参加学生への指導
- ③プロジェクト型等は基盤演習
- ④実際に1つ以上の地域活動を体験することを通して、地域活動への参加意欲を高める
- ⑤既に地域活動に参加している学生によるシンポジウムを開催し、参加意欲を高める。
- ⑥地域活動家による講演会を開催し、地域活動への理解を深める。

教科書 /Textbooks

講義時に適宜紹介

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 ガイダンス
講義の目的、留意事項、421Lab.の紹介
- 第2回目 地域活動概論①
地域活動の紹介、北九州市への理解
- 第3回目 地域活動概論②
コミュニティワークの紹介と応用
- 第4回目 地域活動家特別講演会(予定)
- 第5回目 地域活動参加学生によるシンポジウム(予定)
- 第6回目 演習:基本的コミュニケーション技術
話し方、姿勢・立ち位置、表情
- 第7回目 プロジェクトドライブ①
情報収集
- 第8回目 プロジェクトドライブ②
企画作成
- 第9回目 プロジェクトドライブ③
模擬作成したプロジェクトのプレゼンテーション
- 第10回目 プロジェクトドライブ④
記録、報告、連絡、相談
- 第11回目 マナー講座①
- 第12回目 マナー講座②
- 第13回目 地域活動と価値観
- 第14回目 地域活動とキャリアプラン
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に課す小レポート(50点)
期末レポート試験(50点)
合計100点評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講を希望するものは、ボランティア活動、地域活動に関する文献を1冊以上は読んでおくこと。

つながりの人間学 【昼】

履修上の注意 /Remarks

2011年度から初めて地域共生教育センターが担当します。詳細については、第1回目の講義時に資料を配布しますので、そちらを必ずご参考ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は、2010年度に開設された地域共生教育センターが提供する初めての科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。また、より深く地域活動をとらえて学びたい方は、基盤教育の教養基礎演習、教養演習も履修していただきたいです。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、キャリア観形成

現代社会と倫理【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』(山内友三郎・塚崎智監訳)昭和堂、1999年。
- 加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』東海大学出版会、1988年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 現代における人命の価値(1)【生命の神聖説】
- 3回 現代における人命の価値(2)【積極的行為と消極的行為】
- 4回 現代における人命の価値(3)【最大幸福原理】
- 5回 現代における人命の価値(4)【完全義務と不完全義務】
- 6回 現代における人命の価値(5)【自己意識】、【FLO】
- 7回 小テスト+解説
- 8回 現代における差別の問題(1)【人種差別】
- 9回 現代における差別の問題(2)【種差別】
- 10回 現代における差別の問題(3)【間接的功利主義】
- 11回 現代における公平性の意義(1)【共有地の悲劇】、【救命ボート倫理】
- 12回 現代における公平性の意義(2)【公平主義】
- 13回 現代における公平性の意義(3)【援助義務論】
- 14回 現代における公平性の意義(4)【ケイバビリテイ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の概要、より詳しい参考文献の紹介は初回に行なう。
参考文献に挙げた『バイオエシックスの基礎』に収められた論文を一部授業の素材にするので、簡単にでも目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

今年度より本授業の期末試験は持ち込みが一切不可(プリント・ノート類も禁止)となる。
また、それに応じて成績評価のハードルもかなり高くなる。このため、受講者には継続的な学習意欲とそれ相応の記憶力が要求される。この方式変更に伴うリスクと負担をよく理解した上で講義に臨むこと。

キーワード /Keywords

生命 功利主義 義務論 公平性

現代社会の諸問題【昼】

担当者名 山本 光英、法学部法律学科教員
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会においては、従来見られなかった問題や、従来潜在的なものであったが近年顕在的となり、議論されるようになった様々な問題がある。われわれはそのような現代的な諸問題をどのように理解し、どのように考えたら良いのであろうか。

本講座は、そのような現代において生起している様々な問題の幾つかを取り上げ、それらの正確な理解と問題解決の方向を考えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、裁判員制度(山本)
- 第2回 「民法(債権法)改正とその問題点」(福本)
- 第3回 「マイノリティーの人権保障—障害のある人の権利の問題を中心に—」(植木)
- 第4回 「ドメスティックバイオレンスと児童虐待」(小野)
- 第5回 「日本における法の継受」(岡)
- 第6回 「現代正義論の展望」(重松)
- 第7回 「情報公開制度の現状と課題」(岡本)
- 第8回 「M&Aとは何か」(高橋)
- 第9回 「現代型犯罪の原因と予防」(朴)
- 第10回 「フランチャイズ契約とその問題点」(福本)
- 第11回 「現代刑事裁判の諸問題」(吉村)
- 第12回 「保険広告から見えるもの」(今泉)
- 第13回 「脳死と臓器移植」(大杉)
- 第14回 「フランチャイズ契約とその問題点」(福本)
- 第15回 (予備日)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 原則として、学期末に各担当教員が講義したテーマの中から3つ選択してレポート(計3本)を提出してもらい、その内容によって評価する。
- ①受講者は各講義のテーマの中から3つ指定された課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
 - ②レポートの様式は問わない。ただし、各レポート2000字以上とする。
 - ③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を必ず明記すること。
 - ④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。
 - ⑤レポートは、自筆による(パソコン・ワープロを用いた記述は不可、鉛筆書きは不可とする)。
 - ⑥授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。
 - ⑦授業態度が悪いと判断される者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容に応じて情報を収集し、復習をしておくことが必要です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート課題は、全ての授業終了後に学籍番号に応じて指定しますから、全ての授業に出席しないと書けないことになるので注意してください。

キーワード /Keywords

現代の国際情勢【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

東アジア現代の国際情勢を、ポストコロナリズムという現代思想の問題提起に沿って考察する。

教科書 /Textbooks

姜尚中編『ポストコロナリズム』知の攻略、思想読本4 (作品社、2003) 2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中、随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要
- 2~3回 なぜ今、ポストコロナリズムなのか (1) (2)
- 4回 第IV部の総論 姜尚中論文
- 5回 第II部の総論 本橋哲也論文
- 6回 第II部の「近代」 松葉祥一論文
- 7回 第II部の「性・文化」 竹村・毛利論文
- 8回 第II部の「日本」 小森陽一論文
- 9回 第II部の「第三世界」 小倉英敬論文
- 10回 第II部の「国家」 巒田竜蔵論文
- 11回 第III部の1 朴一・村井寛志論文
- 12回 第III部の2、趙慶喜論文
- 13回 第III部の3、高橋哲也論文
- 14回 第III部の4、野村・鄭論文
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告レジュメ1回(10%)、レポート3回(90%、1回30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書に登場する概念、理論などを自主的に勉強すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のテーマは「日本における民族関係の社会的考察」である。
グローバル化の進展に伴って、定住外国人の「統合」や多文化共生の地域づくりが重要な課題となってきた。こうした課題について考えるための基礎知識を提供する。また、グローバルな現象をローカルな場（地域）において実証的に把握していく方法についても学ぶ。
授業では、まずグローバル化の現状を紹介するとともに日本への人の流れについて概説する。
ついで、日本における出入国管理の仕組み等について紹介した後、①これまで1世紀近くにわたって形成されてきた在日韓国・朝鮮人と日本人との民族関係、②近年顕著になった日系ブラジル人と日本人との民族関係について紹介し、共生社会の形成メカニズムについて考察する。

教科書 /Textbooks

なし（プリント配布）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房
 - 『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会
 - 『在日韓国・朝鮮人の「世界」と「帝国」国家』、西成田豊著、東京大学出版会
- その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマの紹介
- 第2回 グローバル化の進展と国際労働力移動【グローバル化】【エスニシティ】
- 第3回 出入国管理について【外国人登録】【出入国管理】
- 第4回 エスニシティ理論【道具主義】【原初主義】【分断労働市場】【オリエンタリズム】
- 第5回 在日韓国・朝鮮人と日系ブラジル人について【特別永住者】【定住者】【永住者】
- 第6回 日本と朝鮮半島の近現代史①（外国語学部総田先生による講義）
- 第7回 日本と朝鮮半島の近現代史②（外国語学部総田先生による講義）
- 第8回 日本と朝鮮半島の近現代史③（外国語学部総田先生による講義）
- 第9回 在日韓国・朝鮮人と日本社会①【民族関係】
- 第10回 在日韓国・朝鮮人と日本社会②【剥奪仮説】
- 第11回 日系ブラジル人と日本社会①【国境を越えた雇用システム】
- 第12回 日系ブラジル人と日本社会②【顔の見えない定住化】
- 第13回 日系ブラジル人と日本社会③【非正規雇用】【教育達成】
- 第14回 統合と多文化共生社会の形成に向けて - 国・自治体・NGOの役割
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 15 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布したプリントをよく読んでくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際紛争と国連【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会の性質を簡単に紹介した上で、国連を中心として、国際機構が世界の安全保障において、どんな役割を有しているのかを考えることが目的です。現代社会の理解には、それまでの歴史的展開の理解が不可欠であると考えますので、時系列的に古い話から、徐々に現代にテーマを移してゆくようにします。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。各テーマごとにレジュメ(説明プリント)を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第3回 国際機構の定義～「国際」とは何か？ 国際機構とは何か？ 主権国家とは何か
- 第4回～第5回 国際機構の歴史～国際機構の誕生、国際連盟の画期性、国際連盟の欠陥
- 第6回～第8回 国際連合の成立～国際連合の創設過程、国際連合の成立
- 第9回～第10回 国際連合の展開I～国連軍、安保理の機能不全
- 第11回～第12回 国際連合の展開II～日本の国連加盟、途上国の台頭、中国の代表権問題
- 第13回 冷戦終結と国連～冷戦終結による変化、変化への対応、成功と失敗
- 第14回 国際安全保障の展開～国際社会が協力して安全保障をし始めたのはいつ？なぜ？国連の安全保障の特徴
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民族・エスニシティ問題【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科, 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

冷戦終了後、世界各地で民族紛争が激化している。また、移民をめぐる動きやエスニシティ・人種に関する議論も活発化している。これらは、きわめて新しい政治現象であると思われがちであるが、決してそうではない。民族・エスニシティ問題は、政治・経済・文化・社会のさまざまな領域にかかわるきわめて現代的な事柄であるが、同時に、それが現在にいたる歴史的経緯もまた重要である。この授業では、民族・エスニシティ問題に関する史的・総合的な理解を目指す。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション / アメリカ合衆国における移民・エスニシティ
- 2回 同化・統合の諸概念 【るつぽ】【サラダ・ポウル】
- 3回 黒人史と公民権運動 【アフリカ系アメリカ人】【公民権運動】
- 4回 マイノリティをめぐる政策：アフーマティブ・アクション(1)【起源】
- 5回 マイノリティをめぐる政策：アフーマティブ・アクション(2)【展開】
- 6回 自らを知る：日系アメリカ人 【強制収容】【第二次世界大戦】
- 7回 今日のエスニシティ状況 【ヒスパニック】【不法移民】
- 8回 欧州における「ネイション」と「エスニシティ」【ネイション】【エスニシティ】
- 9回 イギリスにおける民族とエスニシティ(1)【連合王国】【ロンドン同時爆破事件】
- 10回 イギリスにおける民族とエスニシティ(2)【オルダム暴動】【多文化主義】
- 11回 イギリスにおける民族とエスニシティ(3)【ブリクストン暴動】【スカーマン報告】
- 12回 イギリスにおける民族とエスニシティ(4)【サッチャー主義】【イスラム嫌い】
- 13回 フランスにおける民族とエスニシティ(1)【都市郊外暴動】【サルコジ】
- 14回 フランスにおける民族とエスニシティ(2)【ライシテ】【スカーフ問題】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

開発と統治【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス（統治）」の意味を世界各地の国や地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループ・ワークを通じて回答を出してもらいます。

教科書 /Textbooks

その都度配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『○○を知るための○章』シリーズ(明石書店)、特にミャンマー、バングラデシュ、韓国を参照のこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 「開発と統治」をはじめるにあたって		担当：三宅
2回 民主化問題を考える視座(1)	【民主化問題】	担当：伊野
3回 民主化問題を考える視座(2)		担当：伊野
4回 理論と現実-ミャンマーの民主化をめぐる	【ミャンマー】	担当：伊野
5回 援助と民主主義：バングラデシュの事例	【援助】	担当：チョウドリ・三宅
6回 選挙を通して見たバングラデシュの政治活動	【バングラデシュ】	担当：チョウドリ・三宅
7回 途上国と一村一品運動	【一村一品運動】	担当：チョウドリ・三宅
8回 グラミン銀行と地域社会のガバナンスの変化	【グラミン銀行】	担当：チョウドリ・三宅
9回 1970年代の韓国の開発と民主化運動	【韓国】	担当：申
10回 韓国：1990年代以降の民主化と環境政策	【環境政策】	担当：申
11回 滞在経験を通して感じた米国のガバナンス	【米国】	担当：申
12回 地域社会から見たガバナンス	【地域社会】	担当：三宅
13回 日本の子ども会を取り巻く環境	【子ども会】	担当：三宅
14回 ガバナンスについてのグループ・ワーク		担当：指名教員
15回 まとめ		担当：三宅

成績評価の方法 /Assessment Method

小課題の提出 ... 30 % 試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報をキャッチしておくこと。また、時々、小課題を出すので、提出すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー 韓国 バングラデシュ 子供会 グループ・ワーク

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
安岡 匡也 / Masaya Yasuoka / 経済学科, 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化とは何か、世界経済への影響、グローバル化の歴史、国や地域による違いを念頭に入れながら、グローバル化を包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

木暮太一(2010)『経済が世界—シンプルにつかめる本』明日香出版社。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

野田稔(監修)(2010)『ポン!とわかる日本経済』宝島SUGOI文庫。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード) ※適宜、ビデオ学習等をするため、若干のズレがありえます。

第1回	シラバス詳細版配布、授業の説明、イントロダクション	【グローバル化】
第2回	世界で何が起きている?	【サブプライム問題】
第3回	世界で何が起きている?	【WTO】【BRICs】
第4回	商品にまつわる話	【海外進出】【立地】
第5回	商品にまつわる話	【人件費】【為替レート】
第6回	食べ物にまつわる話	【食料自給率】
第7回	食べ物にまつわる話	【エコビジネス】【脱炭素燃料】
第8回	生活環境にまつわる話	【円高・円安】【人件費】
第9回	生活環境にまつわる話	【雇用慣行】【労働移動】
第10回	人の力にまつわる話	【人口減少】【貯蓄率】
第11回	人の力にまつわる話	【年金】
第12回	国の持ち物にまつわる話	【自由貿易】
第13回	国の持ち物にまつわる話	【多国籍企業】
第14回	お金と為替にまつわる話	【基軸通貨】
第15回	お金と為替にまつわる話	【変動相場制】

成績評価の方法 /Assessment Method

ミニテスト(6、7回実施): 20~30%、学期末試験: 70~80%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当部分を事前に講読しておくこと。また、必要に応じて配布されるプリントも予習・復習の際に参考にすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

テロリズム論 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～4回 テロリズムとは何か。
テロの定義の難しさ、佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか、911の特異性、テロの定義、テロの特徴、テロのグレーゾーン
- 5回 テロの歴史
テロの起源、19世紀のテロ、アナキスト、国粋主義、ナショナリズム
- 6回～8回 現代テロの登場
国際化(1968年エルアル機ハイジャック)、反米化(TWA機ハイジャック)、無差別化・自爆テロ(1972年ロッド空港事件)、劇場型テロ(ミュンヘンオリンピック事件)
- 9回 反近代・脱近代のテロ
オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
- 10回～11回 無差別大量殺戮テロ
オウム真理教地下鉄サリン事件など
- 12回～14回 911米国同時多発テロ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

21世紀の日本外交の現状を概観した上で、第二次世界大戦後の日本と国際社会の関わりの変化を概観する。講義の軸となるのは三つある。第一は政治面での軸であり、アメリカによる占領改革と独立の回復、冷戦期における日米同盟の発展、そしてポスト冷戦期に進められた日本の国際的役割の再定義が、その主な内容である。第二が経済面での軸であり、アメリカと東アジア諸国との連携の上に高度経済発展を遂げたこと、そして1970年代にはいって経済大国として世界経済の安定に中心的な役割を果たすようになっていったことを取り扱う。そして、第三に文化面での軸であり、西洋思想の吸収と安定した民主主義体制の建設を検討する。このような諸側面を見ることによって歴史的な知識を身に付けるとともに、社会変化を分析する技術を取得することがこの講義の目的である。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『戦後日本外交史』新版(有斐閣 2007年)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【21世紀の日本】
- 第2回 敗戦時の日本【ポツダム宣言受諾】【占領軍進駐】【戦犯逮捕】
- 第3回 占領改革【日本国憲法制定】
- 第4回 朝鮮戦争と日米安保条約1【対日講和交渉】【冷戦のアジアへの波及】
- 第5回 朝鮮戦争と日米安保条約2【吉田茂政権】【日米安保条約制定】
- 第6回 自主外交と日本における二大政党制【鳩山一郎政権】【日ソ共同宣言】
- 第7回 岸外交と日米安保条約の改定【日米安保条約改定】【60年安保闘争】
- 第8回 池田政権と高度経済成長【所得倍増】【沖縄問題】
- 第9回 佐藤政権の時代【沖縄復帰】【ベトナム戦争】【米中接近】
- 第10回 石油ショックと日本の新しい役割1【田中角栄政権】【第一次石油ショック】
- 第11回 石油ショックと日本の新しい役割2【角福戦争】【第二次石油ショック】【日米同盟】
- 第12回 中曽根政権と自由主義的改革【中曽根政権】【貿易摩擦】
- 第13回 湾岸戦争と自民政権の崩壊【冷戦の終結】【湾岸戦争】【非自民連立政権】
- 第14回 21世紀における日本と世界【9/11とテロとの戦い】【自公政権】
- 第15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義の内容は国際関係の授業とあわせて学習すると、国際関係の発展をよく理解することができるようになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習復習をしっかりとください。

キーワード /Keywords

日本政治 歴史 第二次世界大戦後

歴史の読み方【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日でも「サムライ日本」「武士の情け」「武士に二言はない」という言葉にあらわれるように、日本の社会と風土の中に「武士」という存在が大きな影響を与えています。

ここでは古代における武士の登場以来、800年間におよぶ武士の歴史から、中世の武士と近世の武士のモラルの違いやわれわれが知っている「武士道」が江戸時代ではなく近代になって作られたものであることを学びます。

また我が国における近代国家の形成の意味を「廃藩置県」「国語」をキーワードとして学びます。

教科書 /Textbooks

レジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 野口実『武家の棟梁の条件』(中公新書)
- 関幸彦『武士の誕生』(日本放送協会出版)
- 元木泰雄『武士の成立』(吉川弘文館)
- 池上英子『名誉と順応-サムライ精神の歴史社会学-』(NTT出版)
- R・ベネディクト『菊と刀』(社会思想社)
- 勝田政治『廃藩置県-「明治国家」が生まれた日』(講談社)
- 長志珠絵『近代日本と国語ナショナリズム』(吉川弘文館)他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ガイダンス①授業の進め方
 - 2回 【武士道】の成立①新渡戸稲造の武士道
 - 3回 【武士道】の成立②『鸚鵡籠中記』と『葉隠』
 - 4回 【武士道】の成立③【名誉型個人主義】
 - 5回 『平家物語』を読む①二つの平家物語
 - 6回 『平家物語』を読む②【言葉戦】
 - 7回 武士の起源-【領主】か【職能民】か
 - 8回 東日本型武士団と西日本型武士団-源平の歴史-
 - 9回 【征夷大將軍】とは何か
 - 10回 【廃藩置県】
 - 11回 【戊辰戦争】
 - 12回 【国語】の成立①
 - 12回 【国語】の成立②
 - 13回 【国語】の成立③
 - 14回 【国語】の成立④
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講生の人数によって筆記試験もしくは筆記試験と毎回の授業レポートにより評価する。筆記試験と毎回の授業レポートによる場合は、原則として筆記試験50%、授業レポート50%の配分とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

シラバス・レジユメ・参考文献をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

旧憲法下最長の政権担当者であり、日英同盟（1902）、日露戦争（1904 - 05）、韓国併合（1910）を行った桂太郎の生涯（1847 - 1913）を中心に、幕末から大正政変までの明治の政治史を概説します。桂と言えば、「非立憲的政治家」として有名ですが、その実像はどうだったのか。この講義では、木戸孝允から「政府にとって軍隊とは一体何か」ということを学び、やがて、政党政治家に転身しようとして果たせなかった桂の運命的生涯を辿っていきます。

教科書 /Textbooks

小林道彦『日本評伝選・桂太郎』（ミネルヴァ書房、3,000円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『日本の大陸政策1895 - 1914』、○伊藤之雄『日本評伝選・明治天皇』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 明治維新と桂太郎
- 第3回 ドイツ留学と陸軍の建設
- 第4回 日清戦争への道
- 第5回 政治への目覚め（陸相時代）
- 第6回 伊藤博文との対決（最初の組閣）
- 第7回 日英同盟と日露戦争
- 第8回 国家目標の模索
- 第9回 桂園体制
- 第10回 原敬との駆引き（2回目の組閣）
- 第12回 現状打破への衝動
- 第13回 明治という時代の終わり - 大正政変
- 第14回 桂太郎 - 明治国家の光と影
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

桂太郎 政党政治 陸軍 大正デモクラシー

そのとき世界は【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科, 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科, 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

世界史を日本史・東洋史・西洋史に分けてとらえるのではなく、同時代に世界ではいったい何が起こっていたのか、そしてそれはどのように相互に関連していたのか、という観点から世界の動きをよりいきいきととらえて、新しい「世界史」を学生諸君に提示したいと思います。今年度は「1960年代の世界」というテーマを設定して、その時の世界の有様を日本、ベトナム、フランス、ドイツ、アメリカ、中国といった地域での動きを中心にオムニバス方式で講義していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示いたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2・3回 日本(小林)【60年安保】、【所得倍増政策】
- 第4・5回 ベトナム(伊野)【ベトナム戦争】
- 第6・7回 フランス(伊原木)【パリ五月革命】
- 第8・9回 ドイツ(中道)【学生運動】
- 第10・11回 アメリカ(寺田)【公民権運動】
- 第12・13回 中国(下野)【文化大革命】
- 第14回 1970年代への展望
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...20%小テスト...20%レポート...60%
上の数値は一応の目安です。実際には、1、各教員担当講義の2コマ目の最後に、出席者に「感想文」を提出してもらいます。一回でも未提出があったら、単位は認定されません。2、レポート提出...6人の教員の中から任意の講義を2つ選び、それについてのレポートを提出してもらいます(課題は別途指示。1,200字×2本)。コピーは不正行為と見なします。3、以上の総合評価で成績評価とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※講義の順番や担当者(地域)は変更になることもあります。「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦後の日本経済【昼】

担当者名 迎 由理男 / mukai yurio / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

第2次世界大戦以降の日本経済の発展過程を講義します。第二次世界大戦の敗戦から日本経済がどのように立ち直り、いかに経済成長を遂げてきたのか、日本的経済システムというのはどのようなものなのか。これらの問題を当時のニュースビデオなどを利用して解説してゆきます。

教科書 /Textbooks

毎回用意するレジュメにしたがって授業を進めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

第1回授業で参考文献を挙げます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 戦後改革
- 2回 経済復興
- 3回 産業政策の効果
- 4回 メインバンクシステム
- 5回 安定株主化
- 6回 重化学工業化
- 7回 農工間人口移動
- 8回 大衆消費社会
- 9回 エネルギー革命
- 10回 石油危機
- 11回 赤字国債
- 12回 サービス経済化と産業構造の変化
- 13回 債権大国
- 14回 アジアの成長と日本経済
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小テスト25%、期末テスト70%、平常の学習状況5%で評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前回のレジュメによってしっかり復習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市と農村の生活文化史 【昼】

担当者名 /Instructor 福間 裕爾 / Yuji FUKUMA / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

自由で豊かな暮らしを求めて、人々が都市への集住を強めた20世紀。各地で都市化が進み、農村も相応の変化を強いられてきた。これを「向都離村」という言葉で説明することがあり、都市集住がすべてバラ色ではなかったことを示してきた。にもかかわらず、この傾向は現代においても未だに続いている。果たして、人々を幻惑する都市の魅力とは何か、また農村から都市へと移動する人々が直面した困惑と持ち帰った文化的価値とは何か。

この講義では、都市から農村を見ていくことで、両者のダイナミズムやそのなかに秘められた人々を相対化する技法を考える。また、文献等に残ることが少ない生活の営みをどのように整理し、現場のなかでいかに問題を発見し理論化するか、というフィールドワークの基本にも触れることができる内容としたい。何気ない日常に焦点をあて、そのなかから理論を析出するおもしろさを伝えたい。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は用いない。必要な資料はプリントで適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに 「都市の誘惑」 ガイダンス
- 第2回 「都市と農村 / 都会と田舎」 都市と農村のイメージ
- 第3回 「都市の言葉と話芸の誕生」 言葉から都市と農村を見る
- 第4回 「都会という感覚」 都会の指標としての祭礼
- 第5回 「都会のハビトゥス1」 出会いと社交の技法
- 第6回 「都会のハビトゥス2」 結集の理法
- 第7回 「都会のハビトゥス3」 不文律の妙
- 第8回 「都会人の気質」
- 第9回 「三つ子の魂、百まで」 ある日本画家の原風景
- 第10回 「都市の人生と漁村」 人と物の交流と人生儀礼
- 第11回 「都鄙連続論」 都市と農村の繋がりを考える方法
- 第12回 「都鄙連続論の検証」 山笠に見る文化伝播
- 第13回 「都市の再生産」
- 第14回 「都市と農村の身体性」
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートまたは試験 80% 授業中の小レポート等20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「話を聞く」ことを重視する。授業をしっかりと聞き、十分にノートをとること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

もの与人間の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

特定の「モノ」を取り上げ、「モノ」の製造 / 生産、流通、そして使用など、モノ与人間の関わり方の現場に焦点を絞り、その「モノ」と関わることで、私たちの生活そして社会のあり方などがどのように変容してきたか、「モノ」をめぐる歴史を検討する。今年度は自動車を取りあげる。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献リストは、ガイダンス時に配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 カと近代【蒸気機関、内燃機関、原子力】
- 第3回 自動車の時代の終わり？【ICT、高付加価値生産】
- 第4回 自動車をめぐる国民文化【大衆社会、トクヴィル】
- 第5回 ヘンリー・フォードとアメリカ【ヘンリー・フォード】
- 第6回 内燃機関と身体【職人文化】
- 第7回 フォード・システムと大衆【フォーディズム】
- 第8回 フォード対GM 【柔軟な大量生産システム】
- 第9回 ポスト・フォーディズムへ【ポスト・フォーディズム】
- 第10回 自動車と国家【産業政策、安全保障政策】
- 第11回 自動車と都市政治【住宅開発、道路建設、交通事故】
- 第12回 「家庭」という価値と自動車【新中間層】
- 第13回 自動車とメディア【広告、メディア】
- 第14回 自動車と20世紀文明【大衆社会、大量生産】
- 第15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 70% レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

近代化をめぐる政治、経済、文化の議論を展開しますので、政治学や経済学、カルチュラル・スタディとあわせて勉強すると、よく授業内容が分かります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自動車から開けていく様々な事柄を紹介しますので、多方面のことに興味を持って勉強して下さい。

キーワード /Keywords

大量生産システム、民主主義、比較文明論

人物と時代の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 新村昭雄(文)、三宅博之(法)、乗口眞一郎、山崎勇治

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。

四人の教員が、日本・アメリカ・インド・英国の代表的な人物について、人物と時代について語る。はじめに、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道(Bushido)が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰(アイヌや南方諸島に残る)や弥生信仰に代わって、聖徳太子(厩戸皇子)は仏教を大和(やまと)の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が繁栄したのか。

次にアメリカを代表する人物の話に移る。果たして、オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか。オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史について語る。そして、歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領)について。次に今や中国とともに、次世代を握るインドの話である。まず、マハトマ・ガンディの生きた時代背景の考察=イギリス植民地史について語る。「ガンディ」の映画を鑑賞したのち、マハトマ・ガンディのこだわり=なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか?について考える。

最後は、世界大学ランキング1位を維持し続けているケンブリッジ大学を擁する英国について、「世界恐慌を救ったケンブリッジ大学のM・ケインズ」、「湯布院のモデルとなった湖水地方のベアトリクス・ポター」、「『イギリス病』を救った鉄の女、M.サッチャー」について語る。

教科書 /Textbooks

資料を配付します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

それぞれの人物について、自伝や歴史書などを中心に読んでおくこと。
山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国—産業革命からサッチャー改革まで>—』(ミネルヴァ書房、2008年6月)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本、アジア、アメリカ、ヨーロッパの歴史の中からテーマを厳選し、講義をする

- 第1回 はじめに。「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と幕末・明治維新
- 第2回 江戸時代、壊滅的な藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営
- 第3回 幕府の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
- 第4回 親鸞と平安・鎌倉時代
- 第5回 聖徳太子と飛鳥・奈良時代
- 第6回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか
- 第7回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史
- 第8回 歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領)
- 第9回 マハトマ・ガンディの生きた時代背景の考察=イギリス植民地史
- 第10回 「ガンディ」の映画鑑賞
- 第11回 マハトマ・ガンディのこだわり=なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか?
- 第12回 明治維新を側面から支援したスコットランド人、トーマス・グラバー
- 第13回 湯布院のモデルとなった湖水地方のベアトリクス・ポター
- 第14回 世界恐慌を救ったケンブリッジ大学のM・ケインズ
- 第15回 「イギリス病」を救った鉄の女、M.サッチャー—総まとめ—

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(70%)と平常の学習状況(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

人物と時代の歴史【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【ラスト・サムライ】【武士道】【幕末・明治維新】【壊滅的な藩の財政を立て直した】【儒教的経営とは】【江戸幕府の礎を築いた】家光の弟・保科正之【民衆に根ざした仏教】【平安・鎌倉時代】【一七条の憲法】【聖徳太子（厩戸皇子）】【飛鳥時代】【オバマ大統領】【ノーベル平和賞】【奴隷解放運動の歴史】【アメリカ歴代大統領】【マハトマ・ガンディ】【イギリス植民地史】【なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか】【ヘアトリクス・ポター】【湖水地方】【湯布院】【ケインズと世界恐慌】【サッチャー】【英国病】

教養特講I【昼】

担当者名 /Instructor 田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

講義名：東南アジアを知ろう！

現代東南アジア諸国の政治を、独立まで遡って、国民国家建設、民主化、経済発展などのプロセスと問題点、アジア経済危機のインパクトとその後の体制変動などを概観する。東南アジア諸国の急激な経済発展や社会変動、アジア経済危機の影響など政治と経済の相互作用とともに、貧困層、女性や子供など弱者に対する視点も講義する。ダイナミックに変動する東南アジアを学ぶ面白さを味わってもらいたい。

テキストには、清水一史・田村慶子・横山豪志編『東南アジア現代政治』（ミネルヴァ書房）を使用する。講義担当者はすべてこの本の執筆者であり、若手・中堅の東南アジア研究者である。受講生は執筆者の講義を直接受けることができるだけでなく、執筆者の東南アジアとの関わりなど興味深いエピソードも聞くことができよう。

教科書 /Textbooks

○清水一史・田村慶子・横山豪志編『東南アジア現代政治』ミネルヴァ書房、2011年3月、予定価格2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

上記教科書の各章末に参考文献、読書案内が明記されている。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	授業の説明、オリエンテーション	田村慶子
第2回	東南アジア概論(1)：東南アジアとは何か	田村慶子
第3回	東南アジア概論(2)：国民国家の創造と課題	田村慶子
第4回	マレーシア(1)：独立と国家建設	篠崎香織
第5回	マレーシア(2)：開発体制とその溶解	篠崎香織
第6回	インドネシア(1)：独立と国家建設	横山豪志
第7回	インドネシア(2)：開発体制とその溶解	横山豪志
第8回	ミャンマー(1)：独立と国家建設	伊野憲治
第9回	ミャンマー(2)：独裁政治体制と民主化	伊野憲治
第10回	シンガポール(1)：独立と国家建設	田村慶子
第11回	シンガポール(2)：開発体制と民主化	田村慶子
第12回	ASEAN(1)：ASEANの結成と発展	清水一史
第13回	ASEAN(2)：アジア地域統合に向けて	清水一史
第14回	(講演)「東南アジアの人身取引被害者保護・自立支援プロジェクト」未定	
第15回	まとめと補足	

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト100%・・・各担当者の2回目の講義終了時に30分ほどのテストを実施する。
病気などのやむを得ない理由でテストを受験できなかった受講生にのみ、レポート提出を認める。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各講義の前に、必ず『東南アジア現代政治』の該当する章を読んで予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義を通して、多様な民族、言語、文化、宗教が存在する豊穡で国際色豊かな東南アジアを好きになってください！

キーワード /Keywords

東南アジア、植民地支配、国民国家建設、インドネシア、マレーシア、シンガポール、ミャンマー、ASEAN

教養特講II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

宇宙、生命、そして人間について、未知なるもののロマンから最先端の技術にいたるまでのトピックに触れながら、科学的なものの見方や考え、文系の学生にとって必要な理科系の素養、社会で通用する「科学力」を身につけることを目標とする。

20世紀後半から21世紀にかけて宇宙と生命の科学は飛躍的に進歩した。それによってもたらされた成果は先端技術という形で我々の身近な生活にすでに着々と根付いている。これらをただ享受するだけではなく、根底にある科学の面白さを理解し学ぶことは、これからの社会を生き抜くために極めて重要である。これまで理科系科目が苦手だった学生もそうでない学生も、本講によって新たな世界への扉を開き、視野の広い心豊かな人間形成の一助としてほしい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「宇宙と生命の起源 ビッグバンから人類誕生まで」 嶺重慎、小久保英一郎編著 岩波ジュニア新書、2004年
- 「アメリカ版大学生物学の教科書・第2巻」 D. サダヴァ他著、ブルーバックス、2010年
- 「文系のための生命科学」 東京大学生物学教材書籍編集委員会編、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

宇宙の話題は中尾、生命と人間の話題は日高が担当する。【】内はキーワード。

- 1回 ガイダンス
- 2回 この宇宙のすがた 【ビッグバン】 【銀河】 【太陽系】 【ダークマター・ダークエネルギー】
- 3回 星の一生と生命との関わり 【星の進化】 【元素】 【超新星爆発】 【ブラックホール】
- 4回 太陽の活動と地球の環境 【太陽黒点】 【コロナ】 【太陽風】 【オーロラ】 【地球磁場】
- 5回 天体の衝突と生物絶滅 【小惑星】 【彗星】 【クレータ】 【生物絶滅】
- 6回 もう1つの地球をさがす 【太陽系外惑星探査】 【地球外生命体】
- 7回 地球上の生物共通の文字DNAとは? 【DNA】 【RNA】 【タンパク質】
- 8回 生命の誕生と生物の進化 【生物多様性】 【突然変異】
- 9回 人類のルーツを探れ 【ミトコンドリア】 【DNA鑑定】
- 10回 ヒトゲノム計画で何が見えたか 【DNA解析】 【遺伝情報】 【遺伝と疾患】
- 11回 遺伝子組換え作物は安全か 【遺伝子組換え技術】 【ベクター】
- 12回 ヒトは何歳まで生きられるか 【テロメア】 【老化】 【がん】
- 13回 クローン人間は作れるのか 【ES細胞・iPS細胞】 【再生医療】 【生命操作】
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み50%、レポート50% (中尾25%・日高25%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養特講III 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

本年度の「教養特講III」は、警察実務に携わっておられるの方々によるオムニバス方式の講義です。警察実務家の立場から犯罪の発生状況及びその対策等について説明をしていただき、社会の安全・安心の確保に関する政策の一つである「犯罪等の統制に関する政策」の現状と課題を考察することを目的としています。警察本部長をはじめ、公共の安全と社会秩序を維持するために日々活動している現役警察官等の方々から、治安状況や警察活動・公務の重要性、法律が具体的に実社会でどのように役立っているかを学ぶとともに、安全で安心して生活できる社会を実現するにはどうすればよいかを考えていただきたいと思います。

教科書 /Textbooks

使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 警察捜査
- 2回 科学捜査
- 3回 捜査をめぐる諸問題
- 4回 警察捜査の概要と福岡県警の取組み
- 5回 性犯罪等の身近な犯罪を抑止するために
- 6回 被害者支援の在り方
- 7回 少年犯罪と少年警察、暴走族・少年犯罪対策
- 8回 犯罪の起きにくい社会づくり
- 9回 組織犯罪対策① 暴力団対策
- 10回 組織犯罪対策② 外国人組織犯罪・テロ対策
- 11回 組織犯罪対策③ 薬物対策
- 12回 サイバー犯罪の現状と対策
- 13回 交通警察
- 14回 新しい犯罪対策
- 15回 まとめ

* 毎回講師をお招きしてお話を伺います。上記の内容、スケジュールは講師の都合等により変更になることがあります。変更があればその都度お伝えします。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の講義への取組み・・・10% 期末レポート・・・90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義中にノートをしっかりつけてください。

キーワード /Keywords

教養特講Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

「法律学の“い・ろ・は”」
 私たちが生活する現代社会では、非常に多くの事柄が「法」によって規律されています。普段はその存在すら感じられない「法」ですが、ひとたびトラブルが起きると、事態は「法」にしたがって解決されることとなります。このような社会では、多少なりとも法律知識があることで、日常生活において、あるいは仕事の場において、トラブルを避けることができ、またトラブルに適切に対処することができるようになります。そうした法律知識を必要に応じて探し出し、法律を活用し、場合によっては弁護士などの助力を受けるにも、法律学のスキル（技術）が必要となります。法律が「お約束の世界」だからです（これが法律を疎遠にしている主因でもあるのですが……）。
 平穩で快適な生活をおくるためにも、いざという時に「法」を味方にすることができる法律学の基礎技術を学んでいきましょう。

教科書 /Textbooks

テキストを特に指定しません。必要に応じて、適宜、レジユメを配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

道垣内弘人『プレップ法学を学ぶ前に』（弘文堂・2010.04）ISBN：9784335313127
 和田寛伸ほか『法律学の礎』（八千代出版・2002.10）ISBN：9784842912530

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～ 3回 とても身近な日常の出来事と「法」との関係
- 4回 法律学への入門① 法律を学ぶ＝条文の暗記？
- 5回 法律学への入門② 法令の種類と体系
- 6回 法律学への入門③ 法律を使う～佐藤君は犬？～
- 7回 法律学への入門④ 考える材料を集めよう～なぜ資料が必要か～
- 8回 法律学への入門⑤ 法令を探す
- 9回 法律学への入門⑥ 文献資料を探す
- 10回 紛争を解決するには～訴訟と裁判外紛争解決手続～
- 11回～12回 裁判へ行ってみよう～民事裁判と刑事裁判～
- 13回～14回 法理論と紛争解決
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への取り組み...50% レポート...50%
 講義の中でさまざまな「問いかけ」がなされます。恥ずかしがらずに、自分の考えを明らかにしてください。内容の良し悪しではなく、「積極性」を評価したいと考えています。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回のテーマを考える「素材（具体的事例）」を提供します。その事例を、自分だったら「どう解決する」のか、そう解決するのは「なぜか」をまとめてみてください。自分なりの考えの筋道と、講談（講壇？）で披露される解決策とを比較して、その違いを考えてみてください。

履修上の注意 /Remarks

この科目と並行して、「法律の読み方」「現代正義論」「現代社会の諸問題」「共生の作法」といった、法学系科目を履修されることをお勧めします。それらの科目で、ここで学んだスキルをさらに磨いてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

具体的事例をもとに、法を用いた解決策を考えていきます。この科目で問われる問題に、残念ながら、「正解」はありません。「自分だったらどう解決するか」、「なぜその解決が支持されるのか」を、じっくり考えてみてください。そして、周りの人々と意見を交換してください。法の正当性は、社会、すなわち多数の人々の確信によって支えられていることです。だからこそ多数の人との意見交換が重要となります。

キーワード /Keywords

法学 法学入門

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

境界・境域・国家といった観点から、日本の歴史上の諸問題について考えていく。例えば現代において「国境」というものは容易に越えがたいものであるが、中世の日本では「境界」は容易に越えうるものであった。それはなぜか、そのことが意味するものは何か、といったことを考えてみることで、古代から現代に至る各時代の「日本」の輪郭を示していく。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 網野善彦『「日本」とは何か』（講談社、2000年 / 講談社学術文庫、2008年）
- 村井章介『境界をまたぐ人びと』（山川出版社、2006年）
- 小熊英二『〈日本人〉の境界』（新曜社、1998年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本史を学ぶこととは
- 第2回 「日本」の誕生
- 第3回 「鎖国」と「開国」
- 第4回 蝦夷地とアイヌ
- 第5回 近代化とアイヌ社会
- 第6回 琉球の形成と環シナ海世界
- 第7回 幕藩体制下の琉球から沖縄へ
- 第8回 中世における対馬と朝鮮
- 第9回 対馬からみた日朝関係
- 第10回 〈日本人〉の境界
- 第11回 「帝国日本」の形成(1)【台湾】
- 第12回 「帝国日本」の形成(2)【朝鮮】
- 第13回 「帝国日本」の形成(3)【満洲】
- 第14回 「帝国日本」の解体
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

境界、境域、国家

西洋史【昼】

担当者名 /Instructor 疇谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、ヨーロッパ諸国の動向と植民地帝国の編成・変化を見ることによって、「西洋史」を立体的に把握することを目指します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ【ボックス・モンゴリカ】
 - 2回 中世ヨーロッパの世界観【プレスター・ジョン】
 - 3回 イベリア諸国の形成【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガル【アヴィス朝革命】
 - 5回 大航海時代と「世界分割」【トルデシリャス条約】
 - 6回 ポルトガルのアジア進出【アルブケルケ】
 - 7回 ポルトガルによる植民地帝国の形成①【点と線の支配】
 - 8回 ポルトガルによる植民地帝国の形成②【南蛮貿易】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成①【エンコミエンダ制】
 - 10回 スペインによる植民地帝国の形成②【ポトシ】
 - 11回 オランダ、イギリスの台頭【東インド会社】
 - 12回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編【三角貿易】
 - 13回 環大西洋世界の展開①【環大西洋革命】
 - 14回 環大西洋世界の展開②【産業革命】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【昼】

担当者名 /Instructor 藤野 月子 / FUJINO TSUKIKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国の統一というと、単に国内のみの問題という向きがあるかもしれない。しかし、古来から中国は近隣の様々な民族を吸収しつつ変容を繰り返している。また、近隣諸地域もその影響を受けつつ独自の国家形成を行ってきており、こうした関わりは密接なものである。本講義では、東アジアを中心にその歴史の変遷を考察することにより、①中国・朝鮮・日本を始めとする東アジア諸地域の特異性について明らかにし、②さらにそれを通じて東アジア諸地域の今後のあり方を自ら模索出来る力を養いたい。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに - 講義のガイダンス -
- 第2回 秦の始皇帝による統一 - 中華思想・漢民族の形成 -
- 第3回 漢と匈奴 - 中国と北方騎馬民族との関係 -
- 第4回 中国の外交政策 - 冊封体制を中心に -
- 第5回 前漢の政治と思想 - 儒教との関わり -
- 第6回 後漢の政治と思想 - 外戚と宦官 -
- 第7回 三国志の時代 - 三国の領土拡大と親魏倭王 -
- 第8回 西晋による三国統一 - 西晋の内乱と諸民族の動向 -
- 第9回 東晋南朝の社会 - 貴族の変遷 -
- 第10回 五胡十六国北朝の時代 - 北中国における民族融合 -
- 第11回 南北朝と朝鮮・日本 - 朝鮮・日本の中国外交 -
- 第12回 隋唐による統一 - 世界帝国の成立と政治制度 -
- 第13回 唐と朝鮮・日本 - 唐の朝鮮政策と白村江の戦い -
- 第14回 唐と北方騎馬民族国家 - 唐の近隣支配体制の変遷 -
- 第15回 安史の乱後における唐の滅亡 - 世界帝国の衰退と東アジアへの影響 -

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20%・定期試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会学【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、現代社会の諸問題を社会的に解釈していく力を身につけることにある。授業では、まず、社会学の基本的な考え方についてデュルケムやウェーバーらの古典的著作を例にとりながら紹介していく。ついで、「集団・組織」、「家族」、「階層」、「国際化」といった社会の各領域について社会的分析を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『現代の社会的解読』(山本努・辻正二・稲月正著、学文社、2006)
その他、講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 社会学の基本的な考え方
- 第3回 社会と個人をつなぐ1 - デュルケムの方法1
- 第4回 社会と個人をつなぐ2 - デュルケムの方法2
- 第5回 社会と個人をつなぐ3 - ウェーバーの方法1
- 第6回 社会と個人をつなぐ4 - ウェーバーの方法2
- 第7回 集団と組織1 - 集団・組織の種類と機能
- 第8回 集団と組織2 - 官僚制の逆機能
- 第9回 家族1 - 家族の種類と機能
- 第10回 家族2 - 近代化と家族
- 第11回 社会階層と社会移動1 - 階層化の趨勢
- 第12回 社会階層と社会移動2 - 階層化のメカニズM
- 第13回 グローバル化とエスニシテイ1 - グローバル化の趨勢
- 第14回 グローバル化とエスニシテイ2 - 統合のメカニズM
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 15% 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人文地理学 【昼】

担当者名 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人文地理学は地表に展開する人文現象を対象として地域的差異に注目し、それがなぜ生ずるのか、そのメカニズムを明らかにすることが重要な課題の一つである。本講義では自然環境が人間および人間社会、ないしは地域にいかに関与するか、社会環境の変化によって地域がいかに関与するかを具体的な事例を豊富に取り上げて説明する。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は用いない。随時、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

富田和暁『地域と産業 新版』原書房、2006年。
井関弘太郎『沖積平野』東京大学出版会、1988年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに～地理学あるいは人文地理学とは
- 2回 地理学説史～近代地理学について
- 3回 自然的条件と人間①～地形、気候が人間に及ぼす影響
- 4回 自然的条件と人間②～沖積層と地盤沈下
- 5回 自然的条件と人間③～沖積層と工業立地
- 6回 歴史的条件と地域①～日本の地域構造の変遷。地域間交流、東と西
- 7回 歴史的条件と地域②～幕藩体制における地域編成と近代以降の地域編成
- 8回 交通条件の変化と地域の変貌①～交通ターミナル都市の変貌(下関の事例)
- 9回 交通条件の変化と地域の変貌②～農業経営方式の変化
- 10回 交通条件の変化と地域の変貌③～観光地の変化
- 11回 産業構造の変化と地域の変貌①～エネルギー需給の変化と地域の変貌
- 12回 産業構造の変化と地域の変貌②～製鉄業の立地変化
- 13回 地域の盛衰～中心地域と周辺地域
- 14回 中心市街地の変貌と振興
- 15回 おわりに～21世紀の国土～これからの日本

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70% 日常の授業の取組み20% レポート10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳持参が望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

氷河期海面変動 沖積層 貴族世界と武家世界 高速交通 産業構造

土地地理学 【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面に生起する自然、人文の諸現象を「地域的観点」から究明する科学である。そのため、地理学を研究する場合、必ず必要になるのが地図である。この科目では、地理学の言語ともいわれる地図に関して学ぶとともに、地図や空中写真を利用した実習を行い、地理学的知見を高めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし（適宜、プリントを配布）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「地理的情報の分析手法」(菅野峰明・安仁屋政武・高阪宏行著 古今書院 3,675円)
- 「日本列島地図の旅 付・地図の読み方入門」大沼一雄著 東洋選書 2,625円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか。【自然地理学】【人文地理学】
- 2回 地図の役割。【地図の能力】
- 3回 地図の歴史。
- 4回 地図には、どのような種類があるか。【一般図】【主題図】
- 5回 地図は、どのように作られるか。【地図投影】【図法】
- 6回 地図記号から景観を読む。【図式】
- 7回 山の地形を地形図から描くI (講義・実習)。【等高線】
- 8回 山の地形を地形図から描くII (実習)。
- 9回 地図を利用して地表の状態を調べる。【地形計測】
- 10回 地形図を利用して山の体積を測定するI (講義・実習)。
- 11回 地形図を利用して山の体積を測定するII (実習)。
- 12回 空中写真の利用。【リモートセンシング】
- 13回 空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)。
- 14回 リモートセンシング、衛星データの利用。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考書や配布する資料などを読んでおくことより理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 /Instructor 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマは「日本地誌」。特定の地域は様々なレベルの空間スケールから考察し説明することができる。地誌学は特定地域の諸側面を多面的に分析し、総合して地域の性格を明らかにするものである。本講義では主として日本全体の地域構造を明らかにした後、特定地域を事例として取り上げ、その説明を通して地域の姿を解明する方法を教授する。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。
講義中に資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

矢ヶ崎典隆、加賀美雅弘、古田悦造編著『地誌学概論』(地理学基礎シリーズ3)朝倉書店、2007年。
平岡昭利編『九州 地図で読む百年』古今書院、1997年。
平岡昭利編『中国・四国 地図で読む百年』古今書院、1999年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに～地誌とは【多面性】【分析】【総合】
- 2回 日本の地誌①～古代における地域構造の形成【律令体制】
- 3回 日本の地誌②～中世から近代における地域構造の形成【朝廷と幕府】
- 4回 日本の地誌③～現代日本の地域構造①【欧化主義】【近代工業の導入】
- 5回 日本の地誌④～現代日本の地域構造②【経済の高度成長】【過疎・過密】
- 6回 九州地方の地誌①～九州の地域構造：地域の多様性と変容【北部と南部】【東部と西部】
- 7回 九州地方の地誌②～九州における拠点の移動を中心に【長崎・熊本・福岡】
- 8回 九州地方の地誌③～北部九州：福岡県、佐賀県、長崎県の地誌
- 9回 九州地方の地誌④～中部九州：熊本県、大分県の地誌
- 10回 九州地方の地誌⑤～南部九州：宮崎県、鹿児島県、沖縄県の地誌
- 11回 福岡地域の地誌①【大宰府】【九州探題】
- 12回 福岡地域の地誌②【アジア】【玄関口】
- 13回 関門地域の地誌①～門司・下関地区の歴史【西廻航路】【五市合併】
- 14回 関門地域の地誌②【炭鉱地帯】【八幡製鉄所】【リサイクル】
- 15回 おわりに～すべての地域が生き生きと【多様性】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70% 日常の授業への取組み20% レポート 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳を持参することが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域構造 過疎過密 産業再編成 九州 関門地域

日本国憲法 【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々の国家・社会の基本法である「憲法」の意義・概要について学ぶことによって、一人の人間として、あるいは主権者たる市民として、思索・行動する上での何らかのてがかりにしていきたい。

教科書 /Textbooks

大隈義和、大江正昭編『憲法学へのいざない』（青林書院・2008年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』（日本評論社・2006年）
- 高橋和之他編『憲法判例百選I・II(第5版)』別冊ジュリ186・187(有斐閣・2007年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法の意義
- 第2回 憲法の展開
- 第3回 人権総論
- 第4回 人権各論①(幸福追求権)
- 第5回 人権各論②(平等原則)
- 第6回 人権各論③(信教の自由)
- 第7回 人権各論④(表現の自由)
- 第8回 国民主権論
- 第9回 権力分立
- 第10回 日本の政治制度
- 第11回 平和主義論①
- 第12回 平和主義論②
- 第13回 平和主義論③
- 第14回 日本憲法史
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に必要なし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

倫理学 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

哲学や宗教との関わりを通して「倫理」という言葉の基本的な意味を概観したあと、古代から現代にいたる主要な倫理学説を紹介してゆく。西洋の歴史において倫理思想がどのように発展してきたのかを学びつつ、倫理学についての基本的知識を身につけることが本授業の目的である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岩田靖夫ほか『西洋思想のあゆみ--ロゴスの諸相』有斐閣、1993年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書、2006年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 近代から現代へ』岩波新書、2006年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 倫理学の考え方
- 2回 哲学と倫理(1) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【ソクラテス】
- 3回 哲学と倫理(2) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【プラトン】
- 4回 哲学と倫理(3) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【アリストテレス】
- 5回 宗教と倫理(1) ユダヤ-キリスト教の倫理【ユダヤ教】
- 6回 宗教と倫理(2) ユダヤ-キリスト教の倫理【原始キリスト教】
- 7回 宗教と倫理(3) ユダヤ-キリスト教の倫理【教父哲学】
- 8回 小テスト+解説
- 9回 近代倫理学の誕生(1)【イギリス経験論】
- 10回 近代倫理学の誕生(2)【契約説】
- 11回 近代倫理学の発展(1)【功利主義】
- 12回 近代倫理学の発展(2)【カント】
- 13回 近代倫理学への批判(1)【ニーチェ】
- 14回 近代倫理学への批判(2)【徳倫理】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト... 30% 学期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教養教育科目の「現代社会と倫理」・「思想と現代」とあわせて受講すれば、この分野に関する理解がいつそう深まるはずである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教職科目という性質上、当然ながら一般的な授業よりも採点基準は厳しくなる。テストは持ち込み一切不可。最終的な成績は、日頃の学習態度と記憶力の程度によって大きく異なってくるだろう。初回の授業では「小テスト」の日程・方法について詳しい説明するので、必ず出席すること。

キーワード /Keywords

エンドユーザコンピューティング 【昼】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、エンドユーザの立場から、職場や家庭、大学等の様々な環境において必要不可欠な情報に関する技術や知識を習得し、コンピュータを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- 情報社会におけるエンドユーザの役割を説明できるようになります。
- Webページを閲覧する際に、そのページの作成元や信頼度を判断する基準を理解できるようになります。
- データベースとはどのようなものか具体的な例に基づいて説明することができるようになります。

教科書 /Textbooks

なし。特に指定はしません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『エンドユーザのための情報基礎』(浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 エンドユーザコンピューティングを学ぶために【エンドユーザ】
- 2回 コンピュータ内部のデータ表現【2進数】【ビット・バイト】【文字コード】
- 3回 ハードウェア【CPU】【メモリ】【ハードディスク】【フラグメンテーション】
- 4回 ソフトウェア【OS】【拡張子】
- 5回 ネットワークの仕組み【サーバ】【LAN】【IPアドレス】【ドメイン名】
- 6回 情報システムの利用者としての心得(1)【PDCA】【パスワード】
- 7回 情報システムの利用者としての心得(2)【リスク分析】
- 8回 情報システムの利用者としての心得・まとめ
- 9回 情報セキュリティ対策(1)【コンピュータウイルス】【Windows Update】【スパイウェア】【ファイアウォール】
- 10回 情報セキュリティ対策(2)【SSL】【クッキー】
- 11回 情報セキュリティ対策・まとめ
- 12回 データベースの基礎(1)【正規化】【主キー】
- 13回 データベースの基礎(2)【SQL】
- 14回 データベースの基礎・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画が変更になる可能性があります。変更がある場合は、授業中にお伝えします。ただし、授業内容を大幅に変更することはありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

情報分野の専門用語を数多く学習していきます。あまり興味のない人にとっては、慣れない専門用語がたくさんあるかもしれません。授業中の説明を1度聞いただけで理解できると考えずに、毎回、しっかりと復習をしてください。そして、わからない事があれば、授業中に質問してください。

キーワード /Keywords

エンドユーザ、情報セキュリティ、データベース

エンドユーザコンピューティング 【昼】

担当者名 佐藤 貴之 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、エンドユーザの立場から、職場や家庭、大学等の様々な環境において必要不可欠な情報に関する技術や知識を習得し、コンピュータを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- 情報社会におけるエンドユーザの役割を説明できるようになります。
- Webページを閲覧する際に、そのページの作成元や信頼度を判断する基準を理解できるようになります。
- データベースとはどのようなものか具体的な例に基づいて説明することができるようになります。

教科書 /Textbooks

なし。特に指定はしません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『エンドユーザのための情報基礎』(浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 エンドユーザコンピューティングを学ぶために【エンドユーザ】
- 2回 コンピュータ内部のデータ表現【2進数】【ビット・バイト】【文字コード】
- 3回 ハードウェア【CPU】【メモリ】【ハードディスク】【フラグメンテーション】
- 4回 ソフトウェア【OS】【拡張子】
- 5回 ネットワークの仕組み【サーバ】【LAN】【IPアドレス】【ドメイン名】
- 6回 情報システムの利用者としての心得(1)【PDCA】【パスワード】
- 7回 情報システムの利用者としての心得(2)【リスク分析】
- 8回 情報システムの利用者としての心得・まとめ
- 9回 情報セキュリティ対策(1)【コンピュータウイルス】【Windows Update】【スパイウェア】【ファイアウォール】
- 10回 情報セキュリティ対策(2)【SSL】【クッキー】
- 11回 情報セキュリティ対策・まとめ
- 12回 データベースの基礎(1)【正規化】【主キー】
- 13回 データベースの基礎(2)【SQL】
- 14回 データベースの基礎・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画が変更になる可能性があります。変更がある場合は、授業中にお伝えします。ただし、授業内容を大幅に変更することはありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

情報分野の専門用語を数多く学習していきます。あまり興味のない人にとっては、慣れない専門用語がたくさんあるかもしれません。授業中の説明を1度聞いただけで理解できると考えずに、毎回、しっかりと復習をしてください。そして、わからない事があれば、授業中に質問してください。

キーワード /Keywords

エンドユーザ、情報セキュリティ、データベース

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 山田 寛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- タッチタイピングや見やすい表の作成ができるようになります。
- 本学が提供しているグループウェア、Webメールなどのネットワーク環境を使いこなし、ルールを守ったメールの送受信ができるようになります。
- ネットワークを正しく安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基本的な知識を習得することができます。
- 表計算ソフトを使ったデータ処理、グラフ作成ができるようになります。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境を知る【ID】【パスワード】【グループウェア】
- 2回 文字入力を正確に行う【タッチタイピング】
- 3回 ネットワークコミュニケーションの技法を知る【電子メール】【SSL通信】
- 4回 ネットワークの光と影を知る【情報倫理】【著作権】【個人情報保護】
- 5回 きれいな表を作る【セル】【シート】【書式】【ページ設定】【印刷プレビュー】
- 6回 計算式を作る【セルの参照】【コピー】【ペースト】
- 7回 いろいろなグラフを作る【グラフ】
- 8回 グラフをカスタマイズする【グラフ編集】
- 9回 基本的な関数を利用する【関数】【引数】
- 10回 さまざまな関数を利用する【関数の挿入】
- 11回 表計算演習1【表・グラフ作成】
- 12回 表計算演習2【条件分岐】【ソート】
- 13回 表計算演習3【表の参照】
- 14回 総合課題に取り組む
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%，積極的な授業参加（タイピング，電子メール送受信，情報倫理の理解等を含む） ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作（キーボードで文字を入力する，マウス操作など）ができるようになっておくとう受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度，情報システムの状況によっては，「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので，タイピングやマウス操作が苦手な人は自ら練習する姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- タッチタイピングや見やすい表の作成ができるようになります。
- 本学が提供しているグループウェア、Webメールなどのネットワーク環境を使いこなし、ルールを守ったメールの送受信ができるようになります。
- ネットワークを正しく安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基本的な知識を習得することができます。
- 表計算ソフトを使ったデータ処理、グラフ作成ができるようになります。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境を知る【ID】【パスワード】【グループウェア】
- 2回 文字入力を正確に行う【タッチタイピング】
- 3回 ネットワークコミュニケーションの技法を知る【電子メール】【SSL通信】
- 4回 ネットワークの光と影を知る【情報倫理】【著作権】【個人情報保護】
- 5回 きれいな表を作る【セル】【シート】【書式】【ページ設定】【印刷プレビュー】
- 6回 計算式を作る【セルの参照】【コピー】【ペースト】
- 7回 いろいろなグラフを作る【グラフ】
- 8回 グラフをカスタマイズする【グラフ編集】
- 9回 基本的な関数を利用する【関数】【引数】
- 10回 さまざまな関数を利用する【関数の挿入】
- 11回 表計算演習1【表・グラフ作成】
- 12回 表計算演習2【条件分岐】【ソート】
- 13回 表計算演習3【表の参照】
- 14回 総合課題に取り組む
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%，積極的な授業参加（タイピング，電子メール送受信，情報倫理の理解等を含む）... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作（キーボードで文字を入力する，マウス操作など）ができるようになっておくとう受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度，情報システムの状況によっては，「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので，タイピングやマウス操作が苦手な人は自ら練習する姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 山田 寛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- タッチタイピングや見やすい表の作成ができるようになります。
- 本学が提供しているグループウェア、Webメールなどのネットワーク環境を使いこなし、ルールを守ったメールの送受信ができるようになります。
- ネットワークを正しく安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基本的な知識を習得することができます。
- 表計算ソフトを使ったデータ処理、グラフ作成ができるようになります。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境を知る【ID】【パスワード】【グループウェア】
- 2回 文字入力を正確に行う【タッチタイピング】
- 3回 ネットワークコミュニケーションの技法を知る【電子メール】【SSL通信】
- 4回 ネットワークの光と影を知る【情報倫理】【著作権】【個人情報保護】
- 5回 きれいな表を作る【セル】【シート】【書式】【ページ設定】【印刷プレビュー】
- 6回 計算式を作る【セルの参照】【コピー】【ペースト】
- 7回 いろいろなグラフを作る【グラフ】
- 8回 グラフをカスタマイズする【グラフ編集】
- 9回 基本的な関数を利用する【関数】【引数】
- 10回 さまざまな関数を利用する【関数の挿入】
- 11回 表計算演習1【表・グラフ作成】
- 12回 表計算演習2【条件分岐】【ソート】
- 13回 表計算演習3【表の参照】
- 14回 総合課題に取り組む
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%，積極的な授業参加（タイピング，電子メール送受信，情報倫理の理解等を含む）... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作（キーボードで文字を入力する，マウス操作など）ができるようになっておくとう受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度，情報システムの状況によっては，「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので，タイピングやマウス操作が苦手な人は自ら練習する姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

情報表現【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業は、Windows PCを利用して、前半ではHTMLを使ったWebページの作成、後半ではプレゼンテーションソフトを使った発表用スライドの作成、及び、発表用スライドを利用した発表を行います。本授業の目的は、文字や画像などのメディアを総動員して、多角的な情報伝達手段を習得し、それらを作成して情報発信の主体となるための技法を身に付けることです。具体的には、以下のような項目を身に付けることができます。

- ・ HTMLの文字装飾や背景色、画像・表の挿入、リンクの貼り付け等の技術を活用したWebページの作成ができるようになります。
- ・ 作成したWebページを、Webサーバへアップロードできるようになります。
- ・ Microsoft PowerPointを使って、文字装飾やスライドのレイアウト・デザインの設定、画像、図形、表、グラフ、リンクといった授業で取り扱う技術を駆使した発表用スライドを作成できるようになります。
- ・ 発表するときのポイントや注意点等が考慮された発表を行なうことができるようになります。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【マルチメディア】、【情報圧縮】
- 2回 HTMLによるWebページ作成方法【HTML】、【タグ】
- 3回 HTMLによるWebページ作成演習1【Webページの構成】
- 4回 HTMLによるWebページ作成演習2【Webページのデザイン】
- 5回 グループ作業によるWebページ作成方法【企画書】、【著作権】、【FTP】
- 6回 グループ作業によるWebページ作成実習
- 7回 グループ作業によるWebページ作成のまとめ
- 8回 プレゼンテーション用スライド作成方法【プレゼンテーションソフト】
- 9回 プレゼンテーション用スライド作成演習
- 10回 グループ作業によるスライド作成方法【ストーリー性】
- 11回 グループ作業によるスライド作成実習
- 12回 発表のポイント【発表の心構え】、【プレゼンテーション】、【説得力】、【主張ポイント】
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表とプレゼンテーションのまとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に受講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作をある程度経験しておく受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

情報処理教室のパソコン台数に制限がありますので、履修希望者数が多数の場合は、受講者数調整を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一度理解に躓くと、その先の授業についてこれなくなる可能性があります。難しく感じたり、よく分からない内容が出てきた場合は、早目に質問して、解決するようにしてください。また、本授業では、グループによる学習も導入しています。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけてください。

キーワード /Keywords

HTML、プレゼンテーション、マルチメディア

情報表現【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業は、Windows PCを利用して、前半ではHTMLを使ったWebページの作成、後半ではプレゼンテーションソフトを使った発表用スライドの作成、及び、発表用スライドを利用した発表を行います。本授業の目的は、文字や画像などのメディアを総動員して、多角的な情報伝達手段を習得し、それらを作成して情報発信の主体となるための技法を身に付けることです。具体的には、以下のような項目を身に付けることができます。

- ・ HTMLの文字装飾や背景色、画像・表の挿入、リンクの貼り付け等の技術を活用したWebページの作成ができるようになります。
- ・ 作成したWebページを、Webサーバへアップロードできるようになります。
- ・ Microsoft PowerPointを使って、文字装飾やスライドのレイアウト・デザインの設定、画像、図形、表、グラフ、リンクといった授業で取り扱う技術を駆使した発表用スライドを作成できるようになります。
- ・ 発表するときのポイントや注意点等が考慮された発表を行なうことができるようになります。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【マルチメディア】、【情報圧縮】
- 2回 HTMLによるWebページ作成方法【HTML】、【タグ】
- 3回 HTMLによるWebページ作成演習1【Webページの構成】
- 4回 HTMLによるWebページ作成演習2【Webページのデザイン】
- 5回 グループ作業によるWebページ作成方法【企画書】、【著作権】、【FTP】
- 6回 グループ作業によるWebページ作成実習
- 7回 グループ作業によるWebページ作成のまとめ
- 8回 プレゼンテーション用スライド作成方法【プレゼンテーションソフト】
- 9回 プレゼンテーション用スライド作成演習
- 10回 グループ作業によるスライド作成方法【ストーリー性】
- 11回 グループ作業によるスライド作成実習
- 12回 発表のポイント【発表の心構え】、【プレゼンテーション】、【説得力】、【主張ポイント】
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表とプレゼンテーションのまとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に受講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作をある程度経験しておく受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

情報処理教室のパソコン台数に制限がありますので、履修希望者数が多数の場合は、受講者数調整を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一度理解に躓くと、その先の授業についてこれなくなる可能性があります。難しく感じたり、よく分からない内容が出てきた場合は、早目に質問して、解決するようにしてください。また、本授業では、グループによる学習も導入しています。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけてください。

キーワード /Keywords

HTML、プレゼンテーション、マルチメディア

プログラミング基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

みなさんが利用しているコンピュータの中のソフトウェアは、すべてどこかの誰かが作成したプログラムによって出来ています。この授業では、「データ処理」で学習した表計算ソフトの高度な利用方法を学習し、コンピュータを思い通りに動かすプログラムを自分で作れるようになることを目指します。自分でプログラムを作成できるようになると、より賢くコンピュータを利用できるようになり、世界が広がります。

コンピュータプログラムは、機械が理解できる言葉（プログラミング言語）で書いてやる必要があります。そのため、プログラムの学習は言葉の学習に似ています。この授業で使用するプログラミング言語はVBA（Visual Basic for Application）です。この言語は、表計算ソフトExcelに付属しており、Excelが利用できる環境であればVBAが利用できるようになっています。

この授業は、パソコンを利用して授業を行います。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- 表計算ソフトにおいて、マクロを利用して同じ手順を自動的に処理できるようになります。
- 現在のコンピュータが行っている情報処理の流れを理解し、論理的な思考ができるようになります。
- プログラミングの基本を知り、プログラムを自分で作成できるようになります。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 プログラムとはなにか【VBA】【マクロ】
- 2回 同じ操作をなんどもくりかえす【マクロの記録】【セキュリティ】
- 3回 プログラムの基本1：プログラミングに使う道具を知る【変数】【関数】
- 4回 プログラムの基本2：プログラムがおこなう動作を知る【演算】【メソッド】
- 5回 プログラムの処理の流れを理解する【フローチャート】
- 6回 プログラムの構造1：枝分かれする処理を行う【条件分岐】【if】
- 7回 プログラムの構造2：くりかえし処理を行う【ループ構造】【for】
- 8回 ユーザとのやりとりをデザインする【ユーザフォーム】【GUI】
- 9回 ユーザとのやりとりをプログラムする【イベント処理】
- 10回 変数の有効範囲を設定する【変数のスコープ】【配列変数】
- 11回 プログラミング課題1：サンプルプログラムを解説する
- 12回 プログラミング課題2：サンプルプログラムを変更する
- 13回 プログラミング課題3：オリジナルプログラムを作成する
- 14回 作品発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%，プログラミング作品提出 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの操作（タイピング等）にある程度習熟しておくことをすすめます。

履修上の注意 /Remarks

情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがあります。
また、1年次配当科目の「データ処理」を受講しておくといでしょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プログラミング初心者にも分かるように、基本的なことから授業します。

キーワード /Keywords

プログラミング マクロ フローチャート GUI

プログラミング基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

みなさんが利用しているコンピュータの中のソフトウェアは、すべてどこかの誰かが作成したプログラムによって出来ています。この授業では、「データ処理」で学習した表計算ソフトの高度な利用方法を学習し、コンピュータを思い通りに動かすプログラムを自分で作れるようになることを目指します。自分でプログラムを作成できるようになると、より賢くコンピュータを利用できるようになり、世界が広がります。

コンピュータプログラムは、機械が理解できる言葉（プログラミング言語）で書いてやる必要があります。そのため、プログラムの学習は言葉の学習に似ています。この授業で使用するプログラミング言語はVBA（Visual Basic for Application）です。この言語は、表計算ソフトExcelに付属しており、Excelが利用できる環境であればVBAが利用できるようになっています。

この授業は、パソコンを利用して授業を行います。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- 表計算ソフトにおいて、マクロを利用して同じ手順を自動的に処理できるようになります。
- 現在のコンピュータが行っている情報処理の流れを理解し、論理的な思考ができるようになります。
- プログラミングの基本を知り、プログラムを自分で作成できるようになります。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 プログラムとはなにか【VBA】【マクロ】
- 2回 同じ操作をなんどもくりかえす【マクロの記録】【セキュリティ】
- 3回 プログラムの基本1：プログラミングに使う道具を知る【変数】【関数】
- 4回 プログラムの基本2：プログラムがおこなう動作を知る【演算】【メソッド】
- 5回 プログラムの処理の流れを理解する【フローチャート】
- 6回 プログラムの構造1：枝分かれする処理を行う【条件分岐】【if】
- 7回 プログラムの構造2：くりかえし処理を行う【ループ構造】【for】
- 8回 ユーザとのやりとりをデザインする【ユーザフォーム】【GUI】
- 9回 ユーザとのやりとりをプログラムする【イベント処理】
- 10回 変数の有効範囲を設定する【変数のスコープ】【配列変数】
- 11回 プログラミング課題1：サンプルプログラムを解説する
- 12回 プログラミング課題2：サンプルプログラムを変更する
- 13回 プログラミング課題3：オリジナルプログラムを作成する
- 14回 作品発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%，プログラミング作品提出 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの操作（タイピング等）にある程度習熟しておくことをすすめます。

履修上の注意 /Remarks

情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがあります。
また、1年次配当科目の「データ処理」を受講しておくといでしょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プログラミング初心者にも分かるように、基本的なことから授業します。

キーワード /Keywords

プログラミング マクロ フローチャート GUI

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 石田 由希 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング・リスニング能力を中心的に高め、TOEICスコア600点程度獲得を目指す。問題練習に加え、ハンドアウトを通して、時事・文化など様々な文脈の英語の読解にも重点を置く。

教科書 /Textbooks

西田晴美ほか著『Power Charge for the TOEIC Test』2048円（金星堂、2009年）
ISBN 978-4-7647-3874-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション（授業の流れ、成績評価の説明）
- 2回 Unit 1 Eating Out 【文の構造】
- 3回 Unit 1 Eating Out 【文の構造】
- 4回 Unit 2 Amusement 【名詞・代名詞】
- 5回 Unit 2 Amusement 【名詞・代名詞】
- 6回 Unit 3 Daily Life 【可算 / 不可算代名詞】
- 7回 Unit 3 Daily Life 【可算 / 不可算代名詞】
- 8回 Review Test 1
- 9回 Unit 4 Directions 【形容詞・副詞】
- 10回 Unit 4 Directions 【形容詞・副詞】
- 11回 Unit 5 Travel 【動詞・助動詞】
- 12回 Unit 5 Travel 【動詞・助動詞】
- 13回 Unit 6 Advertising 【時制】
- 14回 Unit 6 Advertising 【時制】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テストを含む）...40% 期末試験...60%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。
反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 渡邊 嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEIC受験を前提にした、英語リスニングとリーディングの能力を伸ばすことをテーマとする。

教科書 /Textbooks

English for Mass Communication (2011 Edition) (朝日出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

EDIC2 (英和・和英PC辞書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ (1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ (2)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 25% 課題・小テスト ... 25% 期末試験 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週、指示する予習・復習をして、授業に出席してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、またエッセイや英字新聞の記事を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks
 リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
 リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
 その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	オリエンテーション	
2回	リスニング プレテスト、リーディング	ユニット1
3回	リスニング ユニット1、リーディング	ユニット2
4回	リスニング ユニット2、リーディング	ユニット3
5回	リスニング ユニット3、リーディング	ユニット4
6回	リスニング ユニット4、リーディング	ユニット5
7回	リスニング ユニット5、リーディング	ユニット6
8回	リスニング ユニット6、リーディング	ユニット7
9回	リスニング ユニット7、リーディング	ユニット8
10回	リスニング ユニット8、リーディング	ユニット9
11回	リスニング ユニット9、リーディング	ユニット10
12回	リスニング ユニット10、リーディング	ユニット11
13回	リスニング ユニット11、リーディング	ユニット12
14回	リスニング ユニット12、リーディング	まとめ
15回	全体のまとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method
 学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
 欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 2 (Second Edition)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 10 回 Purchasing
- 11 回 Finances
- 12 回 Media
- 13 回 Entertainment
- 14 回 Health
- 15 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 石田 由希 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英1 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期に引き続きテキストを使った問題練習に重点を置き、TOEICスコア650点程度獲得を目指す。

教科書 /Textbooks

西田晴美ほか著『Power Charge for the TOEIC Test』2048円(金星堂、2009年)
ISBN 978-4-7647-3874-4

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション(授業の流れ、成績評価の説明)
- 2回 Unit 10 Employment 【関係詞】
- 3回 Unit 10 Employment 【関係詞】
- 4回 Unit 11 Business 【接続詞・前置詞】
- 5回 Unit 11 Business 【接続詞・前置詞】
- 6回 Unit 12 Finance & Banking 【特殊構文】
- 7回 Unit 12 Finance & Banking 【特殊構文】
- 8回 Review Test 2
- 9回 Unit 13 Health & Welfare 【比較】
- 10回 Unit 13 Health & Welfare 【比較】
- 11回 Unit 14 Computer & The Internet 【仮定法】
- 12回 Unit 14 Computer & The Internet 【仮定法】
- 13回 Unit 15 Media 【イディオム】
- 14回 Unit 15 Media 【イディオム】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む)...40% 期末試験...60%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。
反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEIC受験を前提にした、英語リスニングとリーディングの能力をさらに伸ばすことをテーマとする。

教科書 /Textbooks

未定。テキストは生協の教科書販売リストを確認して、購入してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

EDIC2 (英和・ 和英PC辞書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ (1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ (2)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 25% 課題・小テスト ... 25% 期末試験 ... 50%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週、指示する予習・復習をして、授業に出席してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 3 (Second Edition) 桐原書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 10 回 Purchasing
- 11 回 Finances
- 12 回 Media
- 13 回 Entertainment
- 14 回 Health
- 15 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取組み ... 10%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、またエッセイや英字新聞の記事を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスニング プレテスト、リーディング ユニット1
- 3回 リスニング ユニット1、リーディング ユニット2
- 4回 リスニング ユニット2、リーディング ユニット3
- 5回 リスニング ユニット3、リーディング ユニット4
- 6回 リスニング ユニット4、リーディング ユニット5
- 7回 リスニング ユニット5、リーディング ユニット6
- 8回 リスニング ユニット6、リーディング ユニット7
- 9回 リスニング ユニット7、リーディング ユニット8
- 10回 リスニング ユニット8、リーディング ユニット9
- 11回 リスニング ユニット9、リーディング ユニット10
- 12回 リスニング ユニット10、リーディング ユニット11
- 13回 リスニング ユニット11、リーディング ユニット12
- 14回 リスニング ユニット12、リーディング まとめ
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ジャマール・ミラー / JAMAR MILLER / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This is an English Reading Comprehension course, which main objectives are aimed at the improvement of both pronunciation and comprehension in various different text circumstances.

教科書 /Textbooks

Reading Fusion 2 by Andrew E. Bennet C. Richards. Nanu'un-do. ISBN: 978-4-523-17665-7

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Teacher and Student self Introductions, and course review
2. Art Therapy
3. Sci-Fi
4. Labor
5. Celebrating
6. Virtual Lives
7. Kidults
8. Foods
9. Empires
10. Mars
11. Friendships
12. Muscles and Memories
13. Piracy
14. Group Discussion on Given Topic
15. Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Reading 35% Pronunciation 25% Participation 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

No credit will be given to students who are absent four or more times. なし

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Practical English communication skills developed through regular practice. While the primary focus is on verbal interaction, students will also be given training in reading and listening for general understanding. Training for academic presentation will be provided using a variety of topics and formats.

教科書 /Textbooks

English for International Tourism (pre-intermediate): Longman

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞書を持ってくること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 : Orientation
- 第2回 : Timed speeches and Q&A - Introduction
- 第3回 : Unit 1 and discussion in English
- 第4回 : Unit 2 and discussion in English
- 第5回 : Class presentations
- 第6回 : Unit 3 and discussion in English
- 第7回 : Unit 4 and discussion in English
- 第8回 : Unit 5 and discussion in English
- 第9回 : Class presentations
- 第10回 : Unit 6 and discussion in English
- 第11回 : Unit 7 and discussion in English
- 第12回 : Unit 8 and discussion in English
- 第13回 : Class presentations
- 第14回 : End of semester review
- 第15回 : Consolidation

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork ... 30% Homework ... 20% Examination ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当教員の指示に従って準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Communication Brings Peace

キーワード /Keywords

Travel - make friends - have fun

担当者名 /Instructor
ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year
1年次
単位 /Credits
1単位
学期 /Semester
1学期
授業形態 /Class Format
講義
クラス /Class
英 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The main purpose of this class is to build upon and activate the learners' existing knowledge of English so that they have sufficient trust and confidence to intuitively apply this knowledge in real-life scenarios. The method is based on creating opportunities for learners to communicate spontaneously as well as reflectively through a variety of tasks and activities in class. These include listening and discussion activities derived from the core text as well as informal and guided discussions based on other topics. Learners will also complete several short writing tasks in the form of opinion reports and these will be peer-reviewed. All students will be expected to keep an English diary throughout the course.

教科書 /Textbooks

Summit 1 by Joan Aslow & Allen Ascher, Longman, ISBN 0-13-110630-9

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction and Starter Unit
 Week 2 Unit 1 Preview/ Lesson 1 Grammar
 Week 3 Unit 1 Lesson 2 Conversation
 Week 4 Unit 1 Lesson 3 Reading
 Week 5 Unit 1 Lesson 4 Listening
 Week 6 Unit 2 Preview/ Lesson 1 Grammar
 Week 7 Unit 2 Lesson 2 Conversation
 Week 8 Unit 2 Lesson 3 Reading
 Week 9 Unit 2 Lesson 4 Listening
 Week 10 Review and Consolidation
 Week 11 Unit 3 Preview/ Lesson 1 Grammar
 Week 12 Unit 3 Lesson 2 Conversation
 Week 13 Unit 3 Lesson 3 Reading
 Week 14 Unit 3 Lesson 4 Listening
 Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Diary - 20%
 Written Reports - 20%
 Discussion - 20%
 Supplementary Activities - 10%
 Homework - 10%
 Final Test - 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's enjoy our learning experience together

キーワード /Keywords

なし

担当者名
/Instructor

ジョセフ・ディレンシュナイダー / Joseph Dilenschneider / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英1 - D
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objective for this course is to allow students to gain confidence in their basic English communication skills. While speaking and listening will be emphasized in this class, components of reading and writing will also be integrated into the course. Students will learn how to “frame” their English conversation performance within an ‘opening---preclosing/closing’ format and learn how to respond to and solicit information using different communicative strategies.

教科書 /Textbooks

"interchange 2" (3rd. Ed.) (Cambridge University Press ¥2700 税込み) and materials prepared by the teacher.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both a English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Syllabus explanation; Conversation framework [openings, preclosings + closings]; 相づち
- 2 回 oral presentations and listening test
- 3 回 Unit 1 “A Time to Remember”/Past tense/ “Used to”/writing paragraphs
- 4 回 Unit 12 “It could happen to you!”/ Past continuous/ Present Perfect Tense
- 5 回 Introductions and address systems/ oral presentations/ listening test
- 6 回 Unit 4 “I’ve Never Heard of That!”/ Simple past vs. Present Perfect tense/adverbs
- 7 回 Unit 16 “What’s Your Excuse?”/Reported Speech: requests/ making excuses
- 8 回 Invitations/ Accepting and Refusing
- 9 回 oral presentations/ listening test
- 1 0 回 Unit 3 “Time for a Change!”/ Evaluations and Comparisons/Wishes/Dreams
- 1 1 回 Unit 7 “What’s this for?”/ Infinitives and gerunds/Infinitive complements/writing
- 1 2 回 Thanking people and replying to thanks/ oral presentations/listening test
- 1 3 回 Unit 2 “Caught in the Rush”/Indirect questions from ‘Wh’ questions/ Adverbs of quantity
Unit 5 “Going Places”/ Future tense with ‘going to’ and ‘will’
- 1 4 回 Apologizing: making apologies and responding
- 1 5 回 oral presentations/ listening test; まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Oral Presentations: 50%; Listening quizzes: 50%

Continual assessment through homework completion, participation, partner projects (3-4 oral presentations per term) and listening quizzes. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don’t know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ジャマール・ミラー / JAMAR MILLER / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This is an English Reading Comprehension course that develops the English language Reading skills of comprehension and pronunciation. The main Objective of this course is to help you improve each of these skills as presented in various different circumstances.

教科書 /Textbooks

J-life, J-Culture: Japan Watch by Takayoshi Ogawa. Kenkyusha. ISBN:978-4-327-42176-2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Teacher and Student self Introductions, and course review
2. Workers Rights
3. Recognition
4. Waistlines
5. Sadaharu
6. Geisha
7. Salary Man
8. Drug abuse
9. History
10. Body Language and Gestures
11. Crows in Japan
12. Trading Places
13. The Ash Garden
14. Group Discussion on Given Topic
15. Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Pronunciation 20% Comprehension 40% Participation 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

No credit will be given to students who are absent four or more times.

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Practical English communication skills developed through regular practice. While the primary focus is on verbal interaction, students will also be given training in reading and listening for general understanding. Training for academic presentation will be provided using a variety of topics and formats.

教科書 /Textbooks

English for International Tourism (pre-intermediate): Longman

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞書を持ってくること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 : Timed speeches and Q&A
- 第2回 : Unit 8 and discussion in English (review)
- 第3回 : Unit 9 focus on listening
- 第4回 : Unit 9 focus on speaking
- 第5回 : Class presentations
- 第6回 : Unit 10 and discussion in English
- 第7回 : Unit 11 focus on listening
- 第8回 : Unit 11 focus on speaking
- 第9回 : Class presentations
- 第10回 : Unit 12 and discussion in English
- 第11回 : Unit 13 and discussion in English
- 第12回 : Unit 14 and discussion in English
- 第13回 : Unit 15 and discussion in English
- 第14回 : Class presentations
- 第15回 : Consolidation

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork ... 30% Homework ... 20% Examination ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当教員の指示に従って準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Communication Brings Peace

キーワード /Keywords

Travel - Make friends - Have fun

英語Ⅳ【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The main purpose of this class is to build upon and activate the learners' existing knowledge of English so that they have sufficient trust and confidence to intuitively apply this knowledge in real-life scenarios. The method is based on creating opportunities for learners to communicate spontaneously as well as reflectively through a variety of tasks and activities in class. These include listening and discussion activities derived from the core text as well as informal and guided discussions based on other topics. Learners will also complete several short writing tasks in the form of opinion reports and these will be peer-reviewed. All students will be expected to keep an English diary throughout the course.

教科書 /Textbooks

Summit 1 by Joan Aslow & Allen Ascher, Longman, ISBN 0-13-110630-9

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction and Starter Unit
Week 2 Unit 4 Preview/ Lesson 1 Grammar
Week 3 Unit 4 Lesson 2 Conversation
Week 4 Unit 4 Lesson 3 Reading
Week 5 Unit 4 Lesson 4 Listening
Week 6 Unit 5 Preview/ Lesson 1 Grammar
Week 7 Unit 5 Lesson 2 Conversation
Week 8 Unit 5 Lesson 3 Reading
Week 9 Unit 5 Lesson 4 Listening
Week 10 Review
Week 11 Unit 6 Preview/ Lesson 1 Grammar
Week 12 Unit 6 Lesson 2 Conversation
Week 13 Unit 6 Lesson 3 Reading
Week 14 Unit 6 Lesson 4 Listening
Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Diary - 20%
Written Reports - 20%
Discussion - 20%
Supplementary Activities - 10%
Homework - 10%
Final Test - 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's enjoy our learning experience together

キーワード /Keywords

なし

担当者名
/Instructor

リズ・クレシーニ / Riz CRESCINI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英1 - D
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objective for this course is to allow students to gain confidence in their basic English communication skills. While speaking and listening will be emphasized in this class, components of reading and writing will also be integrated into the course. Students will learn how to “frame” their English conversation performance within an ‘opening---preclosing/closing’ format and learn how to respond to and solicit information using different communicative strategies.

教科書 /Textbooks

“interchange 2” [3rd Ed.] (Cambridge University Press ¥2700 税込み) and materials prepared by the teacher.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both an English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Unit 6 “OK. No Problem!”/two-part verbs/ requests with modals/ ‘Would you mind...?’
- 2 回 Unit 10 “I Don’t Like Working on Weekends”/gerunds-/ clause with ‘because’;
Writing: paragraph---‘A job you would be good at’---(three reasons for support)
- 3 回 Expressing anger & resolving conflict/ oral presentations/ listening tests
- 4 回 Unit 8 “Let’s Celebrate”/relative clauses of time/adverbial clauses of time
- 5 回 Unit 14 “So That’s What It Means!”/ modals & adverbs/permission, obligation,
prohibitions/ Writing: Japanese proverbs w/ written English explanations
- 6 回 Giving compliments & replying to compliments
- 7 回 oral presentations/ listening tests
- 8 回 Unit 9 “Back to the Future”/time contrasts/conditional sentences using if clauses
Writing: paragraph---partner interview & writing partner’s hopes for the future
- 9 回 Unit 15 “What would you do?”/ unreal conditional sentences w/ if clauses/past modals
- 1 0 回 Getting people’s attention and interrupting/ oral presentations/ listening test
- 1 1 回 Unit 11 “It’s Really Worth Seeing”/passive tense with & w/o by /
Writing: paragraph---a country you know
- 1 2 回 Unit 13 “A Terrific Book, but a Terrible Movie”/participles as adjectives/ relative
clauses
- 1 3 回 Agreeing and disagreeing/ oral presentations/ listening test
- 1 4 回 “Explaining ‘things Japanese’” + Getting information & Controlling the conversation
- 1 5 回; oral presentations/ listening test; まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Oral Presentations: 50%; Listening quizzes: 50%

Continual assessment through homework completion, participation, partner projects (3-4 oral presentations per term) and listening quizzes. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don’t know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 相原 信彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ある程度の分量の英文を読み、個々の英文を日本語に直すのではなく、その内容をまとめる練習をする。勿論、どうしても理解出来ない英文も出てくるかもしれないが、余り気にしないでいこう。

英文の内容は、社会学者Kate Foxによる「イギリス人観察」である。イギリス人の行動を様々な角度から観察、分析したもので、他国の文化の一側面を知り、それを通して日本社会や世界の他の社会について考えるきっかけになればいいと思っている。

教科書 /Textbooks

Kate Fox, Watching the English --- The Hidden Rules of English Behaviour (Hodder and Stoughton Ltd, 2005 paperback edition)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 授業の進め方の説明
- 2回目 Introduction: Anthropology at Home
- 3回目 The Weather
- 4回目 Grooming-talk
- 5回目 Humour Rules
- 6回目 Linguistic Class Codes
- 7回目 Emerging Talk-rules: The Mobile Phone and Pub-talk
- 8回目 Home Rules
- 9回目 Rules of the Road
- 10回目 Work to Rule
- 11回目 Rules of PLayer
- 12回目 Dress Codes
- 13回目 Food Rules
- 14回目 Rules of Sex
- 15回目 Rites of Passage

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30%

定期試験 70% (定期試験はレポートに変更することもあり)

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

3~4人のグループで下調べをし、A4一枚程度にまとめてもらう。この担当グループは英文の内容把握は勿論のこと、徹底的に精読し、内容を理解して授業に臨んでほしい。他の受講生は、辞書を出来るだけ辞書を引かずに該当箇所の英文を読んだ後で授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英2 - B
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英米学科の教育の柱の一つが高度な英語力の養成であることは言うまでもありません。このことを踏まえ、英語の総合的な力を養成するためのメニューを用意しました。英米学科の皆さんには、TOEFL(PBT)で550点以上の実力をつけて卒業してもらいたいという目標を掲げて取り組んでいますが、この点数は新しいiBTでは79~80点に相当します。この新テストは、相互に関連を持ったリスニング問題とリーディング問題をもとに発話をしなければならないという難しさをもったテストですが、皆さんが実際に社会に出た時には、そうした状況の下で英語力を駆使しなければならないことが多いと思います。そういった意味で、この負荷の高いテストを視野に取り組みむことで、英語力を強化していくことが可能になると思います。本年度に皆さんが受験して提出して下さるTOEFLスコアには、その成果がきつと反映されていることと思います。目標を高く持って、いっしょに頑張りましょう。

教科書 /Textbooks

鶴岡公幸、Gary Malmgren 著 『新TOEFLテスト形式で学ぶ教養英語』 (松柏社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定するものではありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 オリエンテーション：授業の進め方や目標について確認します。
- 第02回 Chapter 1 による演習
- 第03回 Chapter 2 による演習
- 第04回 Chapter 3 による演習
- 第05回 Chapter 4 による演習
- 第06回 Chapter 5 による演習
- 第07回 Chapter 6 による演習
- 第08回 前半のまとめと補助教材
- 第09回 Chapter 7 による演習
- 第10回 Chapter 8 による演習
- 第11回 Chapter 9 による演習
- 第12回 Chapter 10 による演習
- 第13回 Chapter 11 による演習
- 第14回 Chapter 12 による演習
- 第15回 まとめと総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

演習科目ですから、出席は当然です。その上で授業への積極的参加の度合いと学期末試験の得点を総合して評価します。最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

言うまでもないことですが、授業の時だけの練習では実力はつきません。普段から英語に触れる努力を期待します。また毎時間、次週までに準備して欲しいことを確認しますので、怠りのないようお願いいたします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英米学科での昨年1年間はいかがでしたか。気持ちを新たに、また目標を高く持って一緒に取り組みましょう。

キーワード /Keywords

英語V【昼】

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEIC受験に必要な英語リスニング能力を高めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

Nobuhiro Kumai & Stephen Timson著.(2011). 『CBS News Show』 成美堂.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Unit 1 How texting could kill you
- 3 回 Unit 2 Getting paid to learn
- 4 回 Unit 3 For one company, fun is job priority no. 1
- 5 回 Unit 4 Teens tied to the screen
- 6 回 Unit 5 Lost generation of workers
- 7 回 Unit 6 Overcoming Internet addiction
- 8 回 Unit 7 Avatar passes Titanic record
- 9 回 Unit 8 Dog helps boy with allergy
- 1 0 回 Unit 9 Al Gore's climate crisis goal
- 1 1 回 Unit 10 Women rise in workforce
- 1 2 回 Unit 11 Michelle Obama tackles issue of childhood obesity
- 1 3 回 Unit 12 Teen cyber-bullied to death
- 1 4 回 Unit 13 School sued for watching students
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、期末試験...80%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

辞書を持参すること。毎回指定された箇所を予習してくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅴ【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 野島 啓一 /nojima keiichi / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEIC試験の問題（主としてリーディング）を実際に解くことを第一の目標にして、第二の目標として以後の自主学習の一助として①「アクセス」または「エクセル」を利用したデータベース型のvocabulary-buildingの設計の方法と利用の仕方②英文法の学習項目の体系的利用方法③リスニングに必要な「音の文法」と英文法との関連づけを学ぶ。

教科書 /Textbooks

『スコア900へのTOEICテストパーフェクトリーディング』 宮野智靖監修 甲斐浩治著 桐原書店 ￥1,500
適宜プリントの配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 一回 概要説明と授業方針
- 二回 第一章 (p.18-30)
- 三回 第一章 (p.38-48)
- 四回 第二章 (p.56-62)
- 五回 第三章 (p.66-72)
- 六回 第三章 (p.76-82)
- 七回 第三章 (p.86-92)
- 八回 第三章 (p.96-102)
- 九回 第三章 (p.106-112)
- 十回 第三章 (p.116-130)
- 十一回 第三章 (p.134-154)
- 十二回 第四章 (p.162-170)
- 十三回 第四章 (p.172-186)
- 十五回 まとめと要約

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト (10点×三回) + 単語帳作成ファイル (20点) + 試験 (50点)
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「英文法I」「英文法II」を履修しておくことが望ましい。情報教育関連の科目を履修しておくことよい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objective of the course are:(1) to help you develop an understanding of basic English that is used in the office , and (2) to help you develop your business writing in English.

教科書 /Textbooks

Edward J. Schaefer. Business talk. SEIBIDO.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TBA

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1週 class orientation
- 第2週 Job Hunting 1
- 第3週 Job Hunting 2
- 第4週 Job Hunting 3
- 第5週 Writing a resume
- 第6週 Job Interview
- 第7週 Job Offer
- 第8週 The first day at work
- 第9週 Preparing to work
- 第10週 Telephoning 1
- 第11週 Telephoning 2
- 第12週 Telephoning 3
- 第13週 Real role play
- 第14週 Visiting a client
- 第15週 Receiving a visitor

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 20
Writing 40
Class quiz 40
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

PREPARE: how well a student does assigned reading;
ATTENTIVE: how well a student pays attention to in-class discussions and responds to instructor's questions;
ATTENDANCE: if you miss a class, 2 points will be deducted from your total score in class participation component

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

①英文テキストが書かれた背景、社会状況の十分な理解、②読む者の主観を排して英文テキストの意図する意味の把握、③叙述の仕方と文法の分析、以上3点がねらいである。

教科書 /Textbooks

Ed McBain: Crime Wave (南雲堂)。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『英国小説の「語り」の構造』(開文社出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方。1回に5頁ずつ読んでいく。
- 2回 “Still Life”1-5頁
- 3回 5-10頁
- 4回 11-15頁
- 5回 16-20頁
- 6回 21-23頁“Eye Witness”24-25頁
- 7回 26-30頁
- 8回 “Small Homicide”31-35頁
- 9回 36-40頁
- 10回 41-45頁
- 11回 46-50頁
- 12回 51-54頁“Accident Report”55頁
- 13回 56-60頁
- 14回 65-70頁
- 15回 1学期のまとめと試験対策

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度... 20% 課題... 40% 期末試験... 40%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

あらかじめ1頁ずつ担当を決めておくので当たった人は質問に答えられるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

様々なトピック(時事問題、異文化理解、科学)などの英文を読みながら読解力とそれを纏めて述べる力を養う事を目的とする。また、資格試験(主にTOEFL)問題に慣れることも心がける。

教科書 /Textbooks

未定。テキストは生協の教科書販売リストを確認して購入して下さい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、授業時間に知らせます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 コースワークの説明
- 第 2 回 Unit 1
- 第 3 回 Unit 2
- 第 4 回 Unit 3
- 第 5 回 TOEIC(TOEFL) (Reading)
- 第 6 回 Unit 4
- 第 7 回 Unit 5
- 第 8 回 TOEIC(TOEFL) (Reading, Listening)
- 第 9 回 Unit 6
- 第 10 回 Unit 7
- 第 11 回 TOEIC(TOEFL) (Writing)
- 第 12 回 Unit 8
- 第 13 回 Unit 9
- 第 14 回 TOEIC(TOEFL) (Reading, Grammar)
- 第 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・40% 平常の学習活動、授業の参加度(小テスト及び、アサインメント)・・・60%
 最終評価にはTOEIC(TOEFL)のスコアが反映されます。詳細についてはコースワークのオリエンテーションの際に文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務づけられています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英2 - D
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEIC受験も頭に置きながら、英語のリーディングとリスニングの能力を伸ばすことを目的とする。映画を教材にして、口語的表現に慣れ、精読の能力を強化する。

教科書 /Textbooks

プリントを使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入
- 2回 ユニット1
- 3回 ユニット2
- 4回 ユニット3
- 5回 ユニット4
- 6回 ユニット5
- 7回 ユニット6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 ユニット7
- 10回 ユニット8
- 11回 ユニット9
- 12回 ユニット10
- 13回 ユニット11
- 14回 ユニット12
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・25% 期末試験・・・75%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週予習をして授業に出席してください。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。

キーワード /Keywords

【リーディング】 【リスニング】

英語VII 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Practical English communication skills developed through regular practice. While the primary focus is on verbal interaction, students will also be given training in reading and listening for general understanding. Training for academic presentation will be provided using a variety of topics and formats.

教科書 /Textbooks

English for International Tourism (pre-intermediate): Longman

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞書を持ってくること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 : Orientation
- 第2回 : Timed speeches and Q&A - Introduction
- 第3回 : Unit 1 and discussion in English
- 第4回 : Unit 2 and discussion in English
- 第5回 : Class presentations
- 第6回 : Unit 3 and discussion in English
- 第7回 : Unit 4 and discussion in English
- 第8回 : Unit 5 and discussion in English
- 第9回 : Class presentations
- 第10回 : Unit 6 and discussion in English
- 第11回 : Unit 7 and discussion in English
- 第12回 : Unit 8 and discussion in English
- 第13回 : Class presentations
- 第14回 : End of semester review
- 第15回 : Consolidation

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork ... 30% Homework ... 20% Examination ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当教員の指示に従って準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Communication Brings Peace

キーワード /Keywords

Travel - Make friends - Have fun

英語VII【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of English majors' in regards to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple. Paulette Dale - James C. Wolf - Pearson Longman - Third Edition (the student will also need a memory stick)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Course and Introductions - Picture Story Speech
- 第2回 Delivering Your Message
- 第3回 Putting Your Speech Together
- 第4回 Outlining and Writing - A Personal Experience
- 第5回 Delivery-Group 1 - A Personal Experience Speech - 1
- 第6回 Outlining and Writing - A Personal Experience
- 第7回 Delivery-Group 2 - A Personal Experience - Speech 1
- 第8回 Outlining and Writing - A Meaningful Object
- 第9回 Delivery-Group 1 - A Meaningful Object - Speech 2
- 第10回 Outlining and Writing - A Meaningful Object
- 第11回 Delivery-Group 2 - A Meaningful Object - Speech 2
- 第12回 Speaking to Inform - Outlining and Writing - An Informative Speech
- 第13回 Delivery-Group 1 - An Informative Speech - Final Speech
- 第14回 Speaking to Inform - Outlining and Writing - An Informative Speech
- 第15回 Delivery-Group 2 - An Informative Speech - Final Speech

成績評価の方法 /Assessment Method

60% Class Work and 40% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Write and practice assigned speech.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【昼】

担当者名 /Instructor: ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year: 2年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 英2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The main purpose of this class is to build upon and activate the learners' existing knowledge of English so that they have sufficient trust and confidence to intuitively apply this knowledge in real-life scenarios. The method is based on creating opportunities for learners to communicate spontaneously as well as reflectively through a variety of tasks and activities in class. These include listening and discussion activities derived from the core text as well as informal and guided discussions based on other topics. Learners will also complete several short writing tasks in the form of opinion reports and these will be peer-reviewed. All students will be expected to keep an English diary throughout the course.

教科書 /Textbooks

Listen In 3 (with audio CD) 2nd Edition, David Nunan, Heinle & Cengage, ISBN 0-8384-0467-7

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction and Starter Unit
- Week 2 Unit 1 Personal Qualities
- Week 3 Unit 2 Gift-Giving
- Week 4 Unit 3 Job Responsibilities
- Week 5 Unit 4 Clothes and Fashion
- Week 6 Unit 5 Household items
- Week 7 Review Units 1-5
- Week 8 Unit 6 Types of English
- Week 9 Unit 7 Advertisements
- Week 10 Unit 8 Business
- Week 11 Unit 9 Driving
- Week 12 Unit 10 Travel
- Week 13 Review Units 6-10
- Week 14 Discussion Review
- Week 15 Final Review

成績評価の方法 /Assessment Method

- Diary - 20%
- Written Reports - 20%
- Discussion - 20%
- Supplementary Activities - 10%
- Homework - 10%
- Final Test - 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's enjoy our learning experience together

キーワード /Keywords

なし

担当者名 /Instructor アレクサンダー・ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This is a discussion course. It will develop critical thinking and self-expression by discussing a wide variety of personal and social issues.

教科書 /Textbooks

LeBeau, Charles and Harrington, David. Discussion Process and Principles. Language Solutions Inc. 2006.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction - Self-assessment
Week 2: Sharing Your Experiences
Week 3: Respect Every Voice
Week 4: Sharing Our Good Times and Bad Times
Week 5: Sharing Your Ideas
Week 6: Celebrate All Ideas
Week 7: Thinking Globally, Acting Locally
Week 8: Exploring Positions
Week 9: Seek First to Understand
Week 10: Who are Your Heroes?
Week 11: Searching for the Best Position
Week 12: Separate People From Positions
Week 13: The Entertainment Hall of Fame
Week 14: Review
Week 15: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Oral assignments and class participation: 70% Term Exam: 30%
No credit will be given to students who are absent four or more times.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Watch or listen to discussions in English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Practical English communication skills developed through regular practice. While the primary focus is on verbal interaction, students will also be given training in reading and listening for general understanding. Training for academic presentation will be provided using a variety of topics and formats.

教科書 /Textbooks

English for International Tourism (pre-intermediate): Longman

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞書を持ってくること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 : Timed speeches and Q&A
- 第2回 : Unit 8 and discussion in English (review)
- 第3回 : Unit 9 focus on listening
- 第4回 : Unit 9 focus on speaking
- 第5回 : Class presentations
- 第6回 : Unit 10 and discussion in English
- 第7回 : Unit 11 focus on listening
- 第8回 : Unit 11 focus on speaking
- 第9回 : Class presentations
- 第10回 : Unit 12 and discussion in English
- 第11回 : Unit 13 and discussion in English
- 第12回 : Unit 14 and discussion in English
- 第13回 : Unit 15 and discussion in English
- 第14回 : Class presentations
- 第15回 : Consolidation

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork ... 30% Homework ... 20% Examination ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当教員の指示に従って準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Communication Brings Peace

キーワード /Keywords

Travel - Make friends - Have fun

英語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of English majors' in regards to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple. Paulette Dale - James C. Wolf - Pearson Longman- Third Edition (the student will also need a memory stick)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Course and Introductions
- 第2回 Introduction to Persuasive Speaking
- 第3回 Persuasive Speech - Outlining and Writing
- 第4回 Delivery - Group 1 - Speech 1
- 第5回 Persuasive Speech - Outlining and Writing
- 第6回 Persuasive Speech - Outlining and Writing
- 第7回 Delivery - Group 2 - Speech 1
- 第8回 Persuasive Speech - Outlining and Writing
- 第9回 Persuasive Speech - Outlining and Writing
- 第10回 Delivery - Group 1 - Speech 2
- 第11回 Persuasive Speech - Outlining and Writing
- 第12回 Persuasive Speech - Outlining and Writing
- 第13回 Delivery - Group 2 - Speech 2
- 第14回 Final Speech - Group 1
- 第15回 Final Speech - Group 2

成績評価の方法 /Assessment Method

60% Class Work and 40% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Write and practice assigned speech.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英2 - C
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The main purpose of this class is to build upon and activate the learners' existing knowledge of English so that they have sufficient trust and confidence to intuitively apply this knowledge in real-life scenarios. The method is based on creating opportunities for learners to communicate spontaneously as well as reflectively through a variety of tasks and activities in class. These include listening and discussion activities derived from the core text as well as informal and guided discussions based on other topics. Learners will also complete several short writing tasks in the form of opinion reports and these will be peer-reviewed. All students will be expected to keep an English diary throughout the course.

教科書 /Textbooks

Listen In 3 (with audio CD) 2nd Edition, David Nunan, Heinle & Cengage, ISBN 0-8384-0467-7

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction and discussion
Week 2 Unit 11 Directions
Week 3 Unit 2 On campus
Week 4 Unit 3 The internet
Week 5 Unit 4 Talk shows
Week 6 Unit 5 Peeves and phobias
Week 7 Review Units 11 - 15
Week 8 Unit 16 Adventure
Week 9 Unit 17 Conversation
Week 10 Unit 18 Feelings
Week 11 Unit 19 Television
Week 12 Unit 20 The senses
Week 13 Review Units 16 - 20

成績評価の方法 /Assessment Method

Diary - 20%
Written Reports - 20%
Discussion - 20%
Supplementary Activities - 10%
Homework - 10%
Final Test - 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's enjoy our learning experience together

キーワード /Keywords

なし

担当者名 /Instructor アレクサンダー・ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This is a discussion course. It will develop critical thinking and self-expression by discussing a wide variety of personal and social issues.

教科書 /Textbooks

LeBeau, Charles and Harrington, David. Discussion Process and Principles. Language Solutions Inc. 2006.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Discussion as Decision Making: Identifying the Criteria
 Week 2: Know All Your Criteria
 Week 3: Finding the Right Person for the Job
 Week 4: Listing the Options
 Week 5: Uncover Your Assumptions
 Week 6: Designing a Menu for the International Palate
 Week 7: Choosing the Best Solution
 Week 8: Look to Your Values
 Week 9: Studying Abroad: Where to Go and Why
 Week 10: Final Discussion
 Week 11: Final Self Assessment
 Week 12: Introducing Ourselves to Future Generations
 Week 13: Special Topic
 Week 14: Special Topic
 Week 15: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Oral assignments and class participation - 70% Term Exam 30 %
 No credit will be given to students who are absent four or more times.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Watch or listen to discussions in English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅸ【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英中国3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

時事的な英文記事や学術的な英文テキストなどを用いて、英語力に磨きをかけることを目的とする。あわせて、関連する文化的事象についての理解を深めていくことも目的とする。授業全体のキーワードは「多読・精読」、「異文化理解」、「コミュニケーション力」です。

教科書 /Textbooks

配布プリント

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Pre-test
- 3回 時事英語①
- 4回 アカデミックリーディング①
- 5回 グループ討論①
- 6回 グループ討論②
- 7回 時事英語②
- 8回 アカデミックリーディング②
- 9回 グループ討論③
- 10回 グループ討論④
- 11回 時事英語③
- 12回 アカデミックリーディング③
- 13回 グループ討論⑤
- 14回 グループ討論⑥
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...30%、平常の学習状況(小テストを含む)...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅹ【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

エッセイや新聞記事などを読みながら、英語の読解力の向上・語彙の増強を目指す。また、DVD教材等を使いながら、聴解力向上のための練習も行う。また、プレゼンテーションのスキル向上も目指す。

教科書 /Textbooks

オリエンテーションの時に知らせる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リーディング演習、リスニング演習
- 3回 リーディング演習、リスニング演習
- 4回 リーディング演習、リスニング演習
- 5回 リーディング演習、リスニング演習
- 6回 リーディング演習、リスニング演習
- 7回 リーディング演習、リスニング演習
- 8回 リーディング演習、リスニング演習
- 9回 リーディング演習、リスニング演習
- 10回 プレゼンテーション、ディスカッション
- 11回 プレゼンテーション、ディスカッション
- 12回 プレゼンテーション、ディスカッション
- 13回 プレゼンテーション、ディスカッション
- 14回 プレゼンテーション、ディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...30% 発表...30% 期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業での発表や質問等、授業への積極的な参加が求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ジャマール・ミラー / JAMAR MILLER / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This is an advanced English communications course that develops the four English language skills of listening, speaking, reading, and writing. The main Objective of this course is to help you improve each of these skills as presented in various different circumstances.

教科書 /Textbooks

Advancing your English 2 by Jamar A. Miller. Lulu Press. ISBN #: 978-0-557-99919-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Teacher and Student self Introductions, and course review
2. Topic: Australia May Need Extra Seasons
3. Topic: South Africans Support Caster Semenya
4. Topic: New Ageism Laws Let Older Bankers Sue For Millions
5. Topic: Internet Chaos in Asia
6. Topic: Time Warner Marketing Stunt Creates Terror
7. Topic: Viagra for Valentine's Day in the U.K
8. Topic: Nike Coming Clean About Sweatshops
9. Topic: Adidas Agrees to Buy Rival Reebok
10. Topic: Ups and Downs in Copenhagen
11. Topic: Surprise Upswing in US Economy
12. Topic: Pop Star Kylie Returns to Stage in Sydney
13. Topic: David Beckham in 250-Million-Dollar LA Move
14. Topic: Hillary Clinton "in to win" US Presidency
15. Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Speaking 35% Writing 25% Participation 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

No credit will be given to students who are absent 5 or more classes

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ジャマール・ミラー / JAMAR MILLER / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
This is an advanced English communications course that develops the four English language skills of listening, speaking, reading, and writing. The main Objective of this course is to help you improve each of these skills as presented in various different circumstances.

教科書 /Textbooks
Advancing your English 3 by Jamar A. Miller. Lulu Press. ISBN #: 978-0-557-99920-0

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
1. Teacher and Student self Introductions, and course review
 2. Topic: Indian Men Volunteer to Marry Sex Workers
 3. Topic: New life given to Kyoto Protocol
 4. Topic: New highways threaten giant pandas
 5. Topic: Global warming IS human made
 6. Topic: Water supply returns to Chinese city
 7. Topic: Climate change threatens fish populations
 8. Topic: Gay Alexander angers Greeks
 9. Topic: Taj Mahal nights
 10. Topic: Swaziland king buys wives BMWs
 11. Topic: Bill Gates knighted by British Queen
 12. Topic: Kate Moss best dressed and undressed
 13. Topic: Tarantino to make 12th "Friday the 13th"
 14. Topic: Eminem wins bully lyrics case
 15. Review

成績評価の方法 /Assessment Method
Speaking 35% Writing 25% Participation 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
No credit will be given to students who are absent 5 or more times

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の各都市の状況について理解します。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 < 試用本 > (『中国秀』 編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第四課 自己紹介【人称代名詞】【指示代名詞】【動詞の文】【是の文】
- 5回 第四課 自己紹介
- 6回 第五課 北京【形容詞の文】【名詞の修飾】【数字】
- 7回 第五課 北京
- 8回 第六課 天津【動詞が複数ある文】【時間詞】【量詞】
- 9回 第六課 天津
- 10回 第七課 上海【指示代名詞】【方位詞】【存在の在】【存在の有】【複文】
- 11回 第七課 上海
- 12回 第八課 蘇州と杭州【前置詞の在】【所有の有】【是～的】
- 13回 第八課 蘇州と杭州
- 14回 前期のまとめ
- 15回 前期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の各都市の状況について理解します。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 < 試用本 > (『中国秀』 編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第四課 自己紹介【人称代名詞】【指示代名詞】【動詞の文】【是の文】
- 5回 第四課 自己紹介
- 6回 第五課 北京【形容詞の文】【名詞の修飾】【数字】
- 7回 第五課 北京
- 8回 第六課 天津【動詞が複数ある文】【時間詞】【量詞】
- 9回 第六課 天津
- 10回 第七課 上海【指示代名詞】【方位詞】【存在の在】【存在の有】【複文】
- 11回 第七課 上海
- 12回 第八課 蘇州と杭州【前置詞の在】【所有の有】【是～的】
- 13回 第八課 蘇州と杭州
- 14回 前期のまとめ
- 15回 前期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の各都市の状況について理解します。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 < 試用本 > (『中国秀』 編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 第九課 義烏【了】【動作の現在進行形】【助動詞】【前置詞】
- 2 回 第九課 義烏
- 3 回 第十課 西安と洛陽【動詞+過】【動作の回数】【結果補語】【状態補語】【助動詞】
- 4 回 第十課 西安と洛陽
- 5 回 第十一課 成都【前置詞】【複文】【結果補語】【動作の時間を表す単位】【動作の時間】
- 6 回 第十一課 成都
- 7 回 第十二課 昆明【複文】【結果補語】【前置詞】
- 8 回 第十二課 昆明
- 9 回 第十三課 広州【結果補語】【前置詞】【ちょっと、少しの表現】【複文】【方向補語】【把の構文】
- 10 回 第十三課 広州
- 11 回 第十四課 大連【比較表現】【比喻表現】【使役表現】【受身表現】
- 12 回 第十四課 大連
- 13 回 第十五課 日本の紹介【複文】【了】【助動詞】
- 14 回 第十五課 日本の紹介
- 15 回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ ・ 60% 小テスト・ ・ 20% 日常の授業への取り組み・ ・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の各都市の状況について理解します。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 < 試用本 > (『中国秀』 編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 第九課 義烏【了】【動作の現在進行形】【助動詞】【前置詞】
- 2 回 第九課 義烏
- 3 回 第十課 西安と洛陽【動詞+過】【動作の回数】【結果補語】【状態補語】【助動詞】
- 4 回 第十課 西安と洛陽
- 5 回 第十一課 成都【前置詞】【複文】【結果補語】【動作の時間を表す単位】【動作の時間】
- 6 回 第十一課 成都
- 7 回 第十二課 昆明【複文】【結果補語】【前置詞】
- 8 回 第十二課 昆明
- 9 回 第十三課 広州【結果補語】【前置詞】【ちょっと、少しの表現】【複文】【方向補語】【把の構文】
- 10 回 第十三課 広州
- 11 回 第十四課 大連【比較表現】【比喻表現】【使役表現】【受身表現】
- 12 回 第十四課 大連
- 13 回 第十五課 日本の紹介【複文】【了】【助動詞】
- 14 回 第十五課 日本の紹介
- 15 回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 陳 振華 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 <試用本> (『中国秀』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 発音の総合練習
- 5回 第四課 初めまして
- 6回 第四課 初めまして、練習問題
- 7回 第五課 搭乗・入国
- 8回 第五課 搭乗・入国、練習問題
- 9回 第六課 レストランにて
- 10回 第六課 レストランにて、練習問題
- 11回 第七課 交通
- 12回 第七課 交通、練習問題
- 13回 第八課 観光
- 14回 第八課 観光、練習問題
- 15回 前期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 50% 日常の授業への取り組み・小テスト50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 張 景珊 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 <試用本> (『中国秀』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 発音の総合練習
- 5回 第四課 初めまして
- 6回 第四課 初めまして、練習問題
- 7回 第五課 搭乗・入国
- 8回 第五課 搭乗・入国、練習問題
- 9回 第六課 レストランにて
- 10回 第六課 レストランにて、練習問題
- 11回 第七課 交通
- 12回 第七課 交通、練習問題
- 13回 第八課 観光
- 14回 第八課 観光、練習問題
- 15回 前期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 50% 日常の授業への取り組み・小テスト50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 陳 振華 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 <試用本> (『中国秀』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 銀行にて
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルにて
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 趣味
- 10回 第十三課 趣味、練習問題
- 11回 第十四課 語り合い
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・免税店にて
- 14回 第十五課 搭乗手続き・免税店にて、練習問題
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 50% 日常の授業への取り組み・小テスト50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 張 景珊 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 <試用本> (『中国秀』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 銀行にて
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルにて
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 趣味
- 10回 第十三課 趣味、練習問題
- 11回 第十四課 語り合い
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・免税店にて
- 14回 第十五課 搭乗手続き・免税店にて、練習問題
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 50% 日常の授業への取り組み・小テスト50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- (1)一年次に学びましたが、日本人にとって比較的把握が困難な文法事項を再確認し、定着させます。
 (2)長文読解や練習問題を通して、語彙力を増やし、中級レベルの文法と自然な言い回しを習得できます。(「読む・書く」面の強化)また中国の様々な現代事情について理解を深めます。
 (3)本文や会話のCDを聞く、練習することにより、「聞く・話す・読解」面の強化もはかります。

教科書 /Textbooks

『ときめき中国-ぼくらの新‘漢流’生活-』(張国璐・池上貞子著)朝日出版社 2000円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書(CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文法確認【結果補語】【方向補語】
- 2回 文法確認【状態補語】【可能補語】
- 3回 文法確認【把構文】【被構文】
- 4回 文法確認【比較表現】【複文】
- 5回 小テスト
- 6回 第一課 80後と90後 本文【複文】【副詞】【可能補語】
- 7回 第一課 80後と90後 会話
- 8回 第一課 80後と90後 練習問題 小テスト
- 9回 第二課 いまどきの大学生 本文【助動詞】【複文】【動作の回数】
- 10回 第二課 いまどきの大学生 会話
- 11回 第二課 いまどきの大学生 練習問題 小テスト
- 12回 第三課 若者と住宅問題 本文【語気助詞】【助動詞】【結果補語】
- 13回 第三課 若者と住宅問題 会話
- 14回 第三課 若者と住宅問題 練習問題 小テスト
- 15回 前期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- (1)長文読解や練習問題を通して、語彙力を増やし、中級レベルの文法と自然な言い回しを習得できます。(「読む・書く」面の強化)
- (2)中国の様々な現代事情について理解を深めます。
- (3)本文や会話のCDを聞く、練習することにより、「聞く・話す・読解」面の強化もはかります。

教科書 /Textbooks

『ときめき中国-ぼくらの新'漢流'生活-』(張国璠・池上貞子著)朝日出版社 2000円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書(CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第四課 中国人とお金 本文【副詞】【部分否定】【状態の持続】【助動詞】【結果補語】
- 2回 第四課 中国人とお金 会話
- 3回 第四課 中国人とお金 練習問題 小テスト
- 4回 第五課 金持ちだから 本文【副詞】【助動詞】【存在・所有】【複文】
- 5回 第五課 金持ちだから 会話
- 6回 第五課 金持ちだから 練習問題 小テスト
- 7回 第六課 中国人の面子 本文【助動詞】【強調】【二重目的語】
- 8回 第六課 中国人の面子 会話
- 9回 第六課 中国人の面子 練習問題 小テスト
- 10回 第七課 あるハリー族 本文【過去の経験】【様態補語】【前置詞の在】
- 11回 第七課 あるハリー族 会話
- 12回 第七課 あるハリー族 練習問題 小テスト
- 13回 第八課 ジェネレーション・ギャップ 本文【助動詞】【複文】
- 14回 第八課 ジェネレーション・ギャップ 会話
- 15回 第八課 ジェネレーション・ギャップ 練習問題 小テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

担当者名 /Instructor 馮 雅蓮 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)会話文の練習などを通して、正しい発音をしっかり定着させます。
(2)ビジネスに必要な語彙を増やし、業務の様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『体験汉语100句・公務类』中国・高等教育出版社(褚佩如等)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 挨拶・紹介 フレーズ1～3
- 2回 挨拶・紹介 フレーズ4～6
- 3回 挨拶・紹介 フレーズ7～9
- 4回 挨拶・紹介 フレーズ10～12
- 5回 事務用品の使用 フレーズ13～15
- 6回 事務用品の使用 フレーズ16～18
- 7回 スケジュールの手配 フレーズ19～21
- 8回 スケジュールの手配 フレーズ22～24
- 9回 スケジュールの手配 フレーズ25～28
- 10回 場所の確認 フレーズ29～31
- 11回 場所の確認 フレーズ32～34
- 12回 称賛・褒め称える フレーズ35～39
- 13回 連絡 フレーズ40～42
- 14回 連絡 フレーズ43～45
- 15回 招請・宴席への招待 フレーズ46～48

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・50% 暗誦テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)会話文の練習などを通して、正しい発音をしっかり定着させます。
(2)ビジネスに必要な語彙を増やし、業務の様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『体験汉语100句・公務类』中国・高等教育出版社(褚佩如 等)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 招請・宴席への招待 フレーズ49～52
- 2回 招請・宴席への招待 フレーズ53～56
- 3回 感謝 フレーズ57～59
- 4回 クレーム・催促 フレーズ60～63
- 5回 クレーム・催促 フレーズ64～67
- 6回 要求・務め フレーズ68～70
- 7回 要求・務め フレーズ71～73
- 8回 要求・務め フレーズ74～77
- 9回 アポイント・変更 フレーズ78～80
- 10回 アポイント・変更 フレーズ81～83
- 11回 アポイント・変更 フレーズ84～87
- 12回 問い合わせ フレーズ88～90
- 13回 問い合わせ フレーズ91～94
- 14回 お別れ・見送り フレーズ95～97
- 15回 お別れ・見送り フレーズ98～100

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・50% 暗誦テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

上級中国語I 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

上級中国語I・IIは、中国語初・中級をひととおり終えた学習者のために、さらに一歩上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、文章の購読、理解、作文練習などの技能を修得することを重点に置き、読むおよび書くことの能力の養成に配慮し、中国語の文章の読解能力、作文力を身につけることを目標とする。
テキストを中心に朗読、翻訳、作文練習を重ねて行う。テキスト以外にビデオ、参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

教科書 /Textbooks

名和又介『ビデオで学ぶ中国文化』金星堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

名和又介『ビデオで学ぶ中国文化』金星堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1学期
- 第1回 吉祥紅I
- 第2回 吉祥紅II
- 第3回 吉祥紅III
- 第4回 作文練習
- 第5回 淮揚菜I
- 第6回 淮揚菜II
- 第7回 淮揚菜III
- 第8回 紹興与酒I
- 第9回 紹興与酒II
- 第10回 紹興与酒III
- 第11回 作文練習
- 第12回 第一家電視台I
- 第13回 第一家電視台II
- 第14回 朗読練習
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況30% 作文、朗読などの練習40% 定期試験30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習および復習する必要がある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

上級中国語I・IIは、中国語初・中級をひとつおわり終えた学習者のために、さらに一步上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、文章の購読、理解、作文練習などの技能を修得することを重点に置き、読むおよび書くことの能力の養成に配慮し、中国語の文章の読解能力、作文力を身につけることを目標とする。
テキストを中心に朗読、翻訳、作文練習を重ねて行う。テキスト以外にビデオ、参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

教科書 /Textbooks

名和又介『ビデオで学ぶ中国文化』金星堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

名和又介『ビデオで学ぶ中国文化』金星堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第2学期
- 第1回 八達嶺I
 - 第2回 八達嶺II
 - 第3回 八達嶺III
 - 第4回 作文練習
 - 第5回 潮州功夫茶I
 - 第6回 潮州功夫茶II
 - 第7回 潮州功夫茶III
 - 第8回 作文練習
 - 第9回 漢字簡化方案I
 - 第10回 漢字簡化方案II
 - 第11回 朗読練習
 - 第12回 天壇説九I
 - 第13回 天壇説九II
 - 第14回 天壇説九III
 - 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況30% 作文、朗読などの練習40% 定期試験30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習および復習する必要がある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級中国語Ⅲ 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英国済営比人3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎を習得した学生を対象に、やや複雑な文章や長文の読解、作文を教授学習する。なお、「聴く」、「話す」、「読む」、「書く」四つの能力を総合的にバランスよく基本的な表現方式を実習し、一場面ずつ簡単なビジネス中国語を身に付け、将来の就職に役に立つように気を配る。

教科書 /Textbooks

『就職に役立つ中国語』 [改訂版] 王占華・劉慶 駿河台出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『中国語学概論』(改訂版) 王占華 他 駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義の目標と進め方について これまで習った内容の復習
- 2回 面接、【動詞と時量】
- 3回 電話を掛ける【呼び方】
- 4回 復習、中間小テスト
- 5回 ホームページのアドレスと電子メール【開始+動詞】
- 6回 約束【全面否定・肯定】
- 7回 復習、中間小テスト
- 8回 空港への出迎え【願望】
- 9回 食事に招待する【比況表現】
- 10回 復習、中間小テスト
- 11回 町を見物する【軽量表現】
- 12回 空港見送り【仮定表現】
- 13回 ホテルの予約【起点、終点】
- 14回 総合復習
- 15回 試験

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...20% 中間小テスト...30% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生の耳と口と手を使った積極的な予習と反復練習を望む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級中国語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎を習得した学生を対象に、やや複雑な文章や長文の読解、作文を教授学習する。なお、「聴く」、「話す」、「読む」、「書く」四つの能力を総合的にバランスよく基本的な表現方式を実習し、一場面ずつ簡単なビジネス中国語を身に付け、将来の就職に役に立つように気を配る。

教科書 /Textbooks

『就職に役立つ中国語』 [改訂版] 王占華・劉慶 駿河台出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『中国語学概論』(改訂版) 王占華 他 駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義の目標と進め方について、1学期習った内容の復習
- 2回 税関で【結果補語1】
- 3回 タクシーに乗る【距離表現】
- 4回 復習、中間小テスト
- 5回 チェックイン【受身主語文】
- 6回 道をたずねる【連鎖表現】
- 7回 復習、中間小テスト
- 8回 両替【等分表現】
- 9回 レストランで食事する【結果補語2】
- 10回 復習、中間小テスト
- 11回 サンプルを送る【比較表現】
- 12回 列車の乗車券を買う【強調表現】
- 13回 おみやげを買う【疑問詞の非疑問用法】
- 14回 総合復習
- 15回 試験

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...20% 中間小テスト...30% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生の耳と口と手を使った積極的な予習と反復練習を望む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階である1学期はハングル文字と発音を正確に習得することが重要である。したがって、この講義では一言会話とともに正確に読み書きができることを目指す。

教科書 /Textbooks

『しっかり初級韓国語』（金 貞愛他、白水社、2,200円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典（必携）
『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文字と発音【単母音】【鼻音】
- 3回 文字と発音【単母音その2】【流音】
- 4回 文字と発音【平音】【半母音】
- 5回 文字と発音【激音】【濃音】
- 6回 文字と発音【合成母音】まとめと復習
- 7回 文字と発音【パッチム】
- 8回 発音の規則【有声音化】【連音化】
- 9回 発音の規則【濃音化】【激音化】
- 10回 発音の規則【流音化】【口蓋音化】【その他】
- 11回 まとめと復習
- 12回 第1課 自己紹介
- 13回 第2課 周りにあるものについて尋ねてみよう（1）
- 14回 第2課 周りにあるものについて尋ねてみよう（2）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級段階に必要な文法や基本句型、語彙を学習し、同等レベルの作文と読解ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

『しっかり初級韓国語』（金 貞愛他、白水社、2,200円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 前期の復習
- 3回 指で指しながらいろいろ尋ねてみよう【人称・所有代名詞】
- 4回 場所や位置を尋ねてみよう【存在の有無】【助詞】
- 5回 今日のスケジュールを話してみよう【丁寧な表現】【助詞】(1)
- 6回 今日のスケジュールを話してみよう【丁寧な表現】【助詞】(2)
- 7回 1週間のスケジュールを話してみよう【動詞・形容詞の否定形】
- 8回 夏休みのスケジュールを話してみよう【願望形】
- 9回 ホテルの予約をしてみよう【漢数詞】【年月日の言い方】(1)
- 10回 ホテルの予約をしてみよう【漢数詞】【年月日の言い方】(2)
- 11回 連絡先を聞いてみよう【電話番号の言い方】【補助語幹-ㄴ】
- 12回 時間や年齢を尋ねてみよう【時間・年齢の言い方】(1)
- 13回 時間や年齢を尋ねてみよう【時間・年齢の言い方】(2)
- 14回 近況を親しみをこめて話してみよう【打ち解けた丁寧形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基本となる文字と発音の訓練に力を注ぎ、正確な読み書きができることを第一の目標とする。同時に簡単なあいさつ表現や初歩的な会話表現なども学びたいと思う。

教科書 /Textbooks

金順玉 他 『新チャレンジ！韓国語』白水社（2009年3月）、2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【韓国語入門の予備知識】
- 2回 基本母音字とその発音【基本母音】
- 3回 基本子音(平音)とその発音【基本子音】
- 4回 基本子音(平音)とその発音【基本子音】
- 5回 子音(激音)字とその発音【派生子音1】
- 6回 子音(濃音)字とその発音【派生子音2】
- 7回 合成母音字とその発音【派生母音1】
- 8回 終声子音字とその発音【パッチム】
- 9回 終声子音字とその発音【パッチム】
- 10回 連音化、激音化、濃音化【音の変化】
- 11回 連音化、激音化、濃音化【音の変化】
- 12回 辞典を引いてみよう【辞典の引き方】
- 13回 自己紹介【指定詞の丁寧形】【～です/ですか】
- 14回 自己紹介【指定詞の丁寧形】【～といたします】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本的な単語をテーマ別に分類している『暮らしの単語集 韓国語』（野間秀樹・ナツメ社）を薦める。

履修上の注意 /Remarks

授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう！

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

正確な発音の能力を高めながら、初級文法をもとに会話表現を学び、基礎レベルでの日常会話の能力を身につけることを目指す。

教科書 /Textbooks

金順玉 他 『新チャレンジ! 韓国語』 白水社 (2009年3月)、2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』 小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 時間ありますか【存在の有無】【助詞】
- 3回 時間ありますか【存在の有無】【助詞】
- 4回 それは何ですか【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 5回 それは何ですか【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 6回 何時ですか【固有数詞】【時間】【助数詞】
- 7回 初デートの約束【漢数詞】【年月日】【電話番号】
- 8回 初デートの約束【漢数詞】【年月日】【電話番号】
- 9回 何が好きですか【うちとけた丁寧形】【用言の否定形】【願望形】
- 10回 何が好きですか【うちとけた丁寧形】【用言の否定形】【願望形】
- 11回 週末には何をしましたか【過去形】【接続詞1】
- 12回 週末には何をしましたか【過去形】【接続詞1】
- 13回 スープが冷たくておいしいです【接続語2】【逆接】
- 14回 スープが冷たくておいしいです【接続語2】【逆接】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本的な単語をテーマ別に分類している『暮らしの単語集 韓国語』(野間秀樹・ナツメ社)を薦める。

履修上の注意 /Remarks

授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう!

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級レベルでは学習しなかった、より高度な会話や文章の読解を目指す。主として表現・文法の学習を中心とし、その学習を効果的に行うため、会話や読解、作文練習などに力を入れる。

教科書 /Textbooks

『韓国語を学ぶ 中級』（李昌圭、朝日出版社、2,300円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 何を食べましょうか【注文に関する表現】【提案と勧誘の表現】(1)
- 3回 何を食べましょうか【注文に関する表現】【提案と勧誘の表現】(2)
- 4回 電話番号を教えてください【理由の表現】【否定文】(1)
- 5回 電話番号を教えてください【理由の表現】【否定文】(2)
- 6回 趣味は何ですか【仮定・連体形】(1)
- 7回 趣味は何ですか【仮定・連体形】(2)
- 8回 ビデオ上映
- 9回 仁寺洞にはどのように行きますか【道を尋ねる表現】【地下鉄の路線図を読む】(1)
- 10回 仁寺洞にはどのように行きますか【道を尋ねる表現】【地下鉄の路線図を読む】(2)
- 11回 風邪はすっかり治ったんですか【前置き・禁止・可能の表現】【病気に関する表現】(1)
- 12回 風邪はすっかり治ったんですか【前置き・禁止・可能の表現】【病気に関する表現】(2)
- 13回 連休に何をするつもりですか【予定の表現】【譲歩・同時進行の表現】(1)
- 14回 連休に何をするつもりですか【予定の表現】【譲歩・同時進行の表現】(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級レベルでは学習しなかった、より高度な会話や文章の読解を目指す。1学期に引き続き、主として表現・文法の学習を中心とし、その学習を効果的に行うため、会話や読解、作文練習などに力を入れる。

教科書 /Textbooks

『韓国語を学ぶ 中級』（李昌圭、朝日出版社、2,300円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 雨が結構降っているみたいですね【推測の表現】【引用・伝聞の表現】(1)
- 3回 雨が結構降っているみたいですね【推測の表現】【引用・伝聞の表現】(2)
- 4回 プルゴギを作ることができますか【注文に関する表現】【提案と勧誘の表現】(1)
- 5回 プルゴギを作ることができますか【注文に関する表現】【提案と勧誘の表現】(2)
- 6回 このズボン、履いてみてもいいですか【理由の表現】【否定文】(1)
- 7回 このズボン、履いてみてもいいですか【理由の表現】【否定文】(2)
- 8回 韓国文化とのふれあい
- 9回 テーマに沿って自由会話(1)
- 10回 テーマに沿って自由会話(2)
- 11回 発表(1)
- 12回 発表(2)
- 13回 発表(3)
- 14回 発表(4)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、会話練習を中心に行い、朝鮮語による表現力と基礎的な日常会話の運用能力を高めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

金順玉他『ちょこっとチャレンジ!』白水社(2011年3月)、2,400円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 お名前なんとおっしゃいますか?【インタビューする】
- 3回 お名前なんとおっしゃいますか?【インタビューする】
- 4回 朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 5回 朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 6回 魚は焼かないでください。【きまりを言う】
- 7回 魚は焼かないでください。【きまりを言う】
- 8回 花火を見にいこうと思います。【チャレンジ】
- 9回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 10回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 11回 道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
- 12回 道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
- 13回 ファンの集いへ行ってみたんですけど...【感想を言う】
- 14回 ファンの集いへ行ってみたんですけど...【感想を言う】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、先週のできことを発表してもらう。
予習が必須なので必ず予習をすること。

履修上の注意 /Remarks

授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう!

キーワード /Keywords

朝鮮語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、会話練習を中心に行い、朝鮮語による表現力と基礎的な日常会話の運用能力を高めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

金順玉他 『ちょこっとチャレンジ!』 白水社 (2011年3月)、2,400円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』 小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自由会話【夏休みの出来事】
- 2回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 3回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 4回 私の気持ちですから受け取ってください。【プレゼントをする】
- 5回 私の気持ちですから受け取ってください。【プレゼントをする】
- 6回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 7回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 8回 いちど行ってみてください。【チャレンジ】
- 9回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 10回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 11回 今日は来られないそうです。【話を伝える<間接話法>】
- 12回 今日は来られないそうです。【話を伝える<間接話法>】
- 13回 久しぶりに来てみて、どうですか？【思い出を話す】
- 14回 久しぶりに来てみて、どうですか？【思い出を話す】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、先週のできことを発表してもらう。
予習が必須なので必ず予習をすること。

履修上の注意 /Remarks

授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語I 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時に応用作文の練習も行い、文章力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

曹喜澈 『ウリマル』 白帝社 (2006年2月)、2,600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典 『朝鮮語辞典』 (小学館) (毎回持参)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己紹介【講読】
- 3回 自己紹介【作文】
- 4回 私の家【講読】
- 6回 私の家【作文】
- 7回 私の学校【講読】
- 8回 私の学校【作文】
- 9回 病院と薬局【講読】
- 10回 病院と薬局【作文】
- 11回 手紙【講読】
- 12回 手紙【作文】
- 13回 趣味【講読】
- 14回 趣味【作文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、訳を作成してもらうので、予習が必須となる。

履修上の注意 /Remarks

テキストに出る文型や語句を覚えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時に応用作文の練習も行い、文章力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

曹喜澈 『ウリマル』 白帝社 (2006年2月)、2,600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典 『朝鮮語辞典』 小学館 (毎回持参)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 映画【講読】
- 3回 映画【作文】
- 4回 地下鉄【講読】
- 5回 地下鉄【作文】
- 6回 感想文【講読】
- 8回 感想文【作文】
- 9回 日記【講読】
- 10回 日記【作文】
- 11回 試験【講読】
- 12回 試験【作文】
- 13回 韓国と日本【講読】
- 14回 韓国と日本【作文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、訳を作成してもらうので、予習が必須となる。

履修上の注意 /Remarks

テキストに出る文型や語句を覚えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

『韓国語 上級』（李昌圭、白帝社、2,800円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）、『韓国語上級表現ノート』（前田、明石書店、1890円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 1課 病院で(1)
- 3回 1課 病院で(2)
- 4回 2課 バス停で(1)
- 5回 2課 バス停で(2)
- 6回 3課 銀行で(1)
- 7回 3課 銀行で(2)
- 8回 4課 本を読む(1)
- 9回 4課 本を読む(2)
- 10回 5課 韓国料理(1)
- 11回 5課 韓国料理(1)
- 12回 6課 天気(1)
- 13回 6課 天気(1)
- 14回 まとめ(1)
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅳ【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

『韓国語 上級』（李昌圭、白帝社、2,800円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）、『韓国語上級表現ノート』（前田、明石書店、1890円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 7課 趣味は何ですか(1)
- 3回 7課 趣味は何ですか(2)
- 4回 8課 約束(1)
- 5回 8課 約束(2)
- 6回 9課 道を歩く(1)
- 7回 9課 道を歩く(2)
- 8回 10課 引っ越し(1)
- 9回 10課 引っ越し(2)
- 10回 11課 明けましておめでとうございます(1)
- 11回 11課 明けましておめでとうございます(2)
- 12回 12課 中秋節(1)
- 13回 12課 中秋節(2)
- 14回 まとめ(1)
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度...20% 小テストおよび宿題...30% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音(1)、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方(1)
- 3回 子音(2)、疑問詞のある疑問文と答え方(2)、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方(3)、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化(対格)、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化(前置格)、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化(生格)、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2-3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語とはどんな言葉か？【母音と母音文字】、【こんにちは】
- 2回 ロシア語のアルファベット【交際】
- 3回 短文のイントネーション 【これは誰ですか】、【これは何ですか】
- 4回 簡単な問いと答え 【あなたは学生ですか】、【お元気ですか】
- 5回 第1課① 【挨拶】、【紹介】
- 6回 第1課② 【ロシア人の名前】、【これは誰のものですか】
- 7回 第1課③ 会話
- 8回 第2課① 【教室でロシア語】
- 9回 第2課② 【動詞現在変化】、【私は本を読んでいます】
- 10回 第2課③ 【趣味】、【私はロシア語を話します】
- 11回 第3課① 【家族の紹介】
- 12回 第3課② 【名詞の前置格】、【あなたの家族はどこにお住まいですか】
- 13回 第3課③ 【形容詞】、【これは新しい車です】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第4課① 【一日の生活】、【過去の表現】
- 2回 第4課② 【時間表現】
- 3回 第4課③ 【動詞の体】、【昨日あなたは何をしましたか】
- 4回 第4課④ 【不完了体と完了体】、【あなたは宿題をしまいましたか】
- 5回 第5課① 【休日】、【動詞の未来】
- 6回 第5課② 【曜日名】、【明日あなたは何をしますか】
- 7回 第5課③ 【名詞の造格】、【命令形】
- 8回 第5課④ 【どうぞ、午後に私に電話してください】
- 9回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 10回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 11回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】 「
- 12回 第6課④ 【あなたはどこから来ましたか】
- 13回 会話 【どこへ】、【どこに】、【どこから】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

プリント配布（「百万人のロシア語」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」のいずれかが必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 <СКОРО ПЕРВОЕ СЕНТЯБРЯ> 名詞の性、不規則変化動詞、形容詞前置格
- 2回 <МАМА И ФУТБОЛ> 多義動詞の用法、関係副詞構文、形容詞短語尾、全否定構文
- 3回 <МАТЬ> 関係副詞構文、関係代名詞構文、不規則変化動詞、名詞単数・複数の使分け
- 4回 <САЛЮТ> 複文の種類と構造、不規則変化動詞、第二生格
- 5回 <ГИПНО'З> 不定人称文、「・・・する」の後結合、完了動詞・不完了動詞
- 6回 <ВАЖНЫЙ РАЗГОВОР> 願望を意味する動詞と複文、運動の動詞の派生語
- 7回 <ТРУДНЫЙ ЭКЗАМЕН> 動詞の格支配、複文、否定生格
- 8回 <ДОМ ОТДЫХА> 時の表現、動詞の体
- 9回 <БАБУШКА И ВОВКА> 動詞の格支配、不規則変化動詞
- 10回 <ВТОРАЯ МОЛОДОСТЬ> 複文、動詞の体
- 11回 <О ЧЁМ ДУМАЕТ МАРАБУ> 年月日表現、年齢表現、形容詞格変化復習
- 12回 <КАК Я ВСТРЕЧАЛ НОВЫЙ ГОД> 不定法構文、無人称文
- 13回 <ЛЮБИМЫЙ ПРАЗДНИК> 個数詞+形容詞+名詞の語結合、所有形容詞
- 14回 <ЭТО СЛУЧИЛОСЬ В ВОЗДУХЕ> 「互いに」の表現、運動の動詞、不定代名詞
- 15回 まとめと復習：構文

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

出席者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので、予習が必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

会話テキスト「ロシアでの一ヶ月」の読み、訳、練習問題をこなすことで、ロシア語運用力の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

プリント配布（「ロシアでの一ヶ月」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」のいずれかが必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ГОСТИНИЦА	その1	読み、訳、練習問題
2回	ГОСТИНИЦА	その2	読み、訳、練習問題
3回	СТОЛОВАЯ	その1	読み、訳、練習問題
4回	СТОЛОВАЯ	その2	読み、訳、練習問題
5回	ГАСТРОНОМ		読み、訳、練習問題
6回	УНИВЕРМАГ		読み、訳、練習問題
7回	ТРАНСПОРТ		読み、訳、練習問題
8回	ПОЧТА		読み、訳、練習問題
9回	ТЕЛЕФОН		読み、訳、練習問題
10回	ВОКЗАЛ		読み、訳、練習問題
11回	ПОЛИКЛИНИКА		読み、訳、練習問題
12回	ПАРИКМАХЕРСКАЯ		読み、訳、練習問題
13回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その1	読み、訳、練習問題
14回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その2	読み、訳、練習問題
15回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その3	読み、訳、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

出席者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので、予習が必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅶ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 英2年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

これまでに習ったロシア語の語彙、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上をめざす。「聞き取り・会話」と「作文」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課① 【天候】、【КАКАЯ СЕГОДНЯ ПОГОДА?】
- 2回 第7課② 【気温】、【雨が降る】
- 3回 第7課③ 【四季】、【КАКОЕ ВРЕМЯ ГОДА ВЫ ЛЮБИТЕ?】
- 4回 ビデオ学習① 【В ГОСТИНИЦЕ】
- 5回 ビデオ学習② 会話練習
- 6回 第8課① 【病気と健康】、【ЧТО У ВАС БОЛИТ?】
- 7回 第8課② 【必要性】、【可能】、【不可能】、【許可】、【禁止】
- 8回 第8課③ 【ЧТО ВЫ ДОЛЖНЫ СДЕЛАТЬ ЧЕРЕЗ НЕДЕЛЮ?】
- 9回 ビデオ学習③ 【ЗИМНЯЯ СЮИТА】
- 10回 ビデオ学習④ 会話練習【У ВРАЧА】
- 11回 ビデオ学習⑤ 作文【Я И СПОРТ】
- 12回 第9課① 【年齢】、【年月日の表現】、【КОГДА ВЫ РОДИЛИСЬ?】
- 13回 第9課② 【買い物】、【値段】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 30% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語VIII 【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
 ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオ学習① 【В ГОСТЯХ】
- 2回 ビデオ学習② 会話練習【В ГОСТЯХ】
- 3回 ビデオ学習③ 作文【КАК ПРИГЛАШАЮТ В ГОСТИ В ЯПОНИИ】
- 4回 第10課①【モスクワの町】
- 5回 第10課②【関係代名詞 КОТОРЫЙ】、
【КАКАЯ ГОРА САМАЯ ВЫСОКАЯ?】
- 6回 第10課③【モスクワの町】、【単文と複文】
- 7回 第10課④【ことわざ】、【МОЙ РОДНОЙ ГОРОД】
- 8回 ビデオ学習④【ИСТОРИЯ С УЧЕБНИКОМ ИСТОРИИ】
- 9回 ビデオ学習⑤ 会話【В МАГАЗИНЕ】、【ПОКУПКА КНИГИ】
- 10回 ビデオ学習⑥ 作文
- 11回 読み物 【СОВЕТ ВРАЧА】
- 12回 読み物 【ДВА ТОВАРИЩА】
- 13回 読み物 【ЛЕГЕНДА ОБ АНГАРЕ】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 30% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音】
- 2回 自己紹介【動詞の現在人称変化(1)、名詞】
- 3回 英語の君は話すの?【動詞の現在人称変化(2)、数詞】
- 4回 あなたの名前は何か?【動詞の現在人称変化(2)、時刻】
- 5回 私は父にこの本を贈ります。【人称代名詞、家族】
- 6回 私の夫はオーストリア人です。【冠詞類、月・季節】
- 7回 君は今日、暇ですか?【定形の位置(1)、曜日】
- 8回 もし私に暇があれば、小倉へ行きます。【定形の位置(2)】
- 9回 母の代わりに父が料理をします。【前置詞(1)】
- 10回 私は明日、街へ行きます。【前置詞(2)】
- 11回 ここに車を停めることができますか?【話法の助動詞(1)】
- 12回 私はこの手紙を日本へ送りたいのですが。【話法の助動詞(2)】
- 13回 なぜ君はパーティーにいかなかったの?【動詞の3基本形(1)】
- 14回 私には熱がありました。【動詞の3基本形(2)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語II【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。【(現在)完了形(1)】
- 2回 君は昨日何をしましたか？【(現在)完了形(2)】
- 3回 フランクフルト行きの列車はいつ発車するのですか？【分離動詞(1)】
- 4回 私はどこで下車しますか？【分離動詞(2)】
- 5回 私達はドイツのレストランへ行きます。【形容詞】
- 6回 私はベンチの上に座ります。【再帰動詞】
- 7回 雨が降っています。【esの用法】
- 8回 あなたが訪ねるその男性は私の友人です。【関係代名詞(1)】
- 9回 私が昨日見た映画は面白かった。【関係代名詞(2)】
- 10回 オーストリアではドイツ語が話されます。【受動(1)】
- 11回 山々は雪で覆われています。【受動(2)】
- 12回 夏にヨーロツパへ行く、と山下さんは言っています【接続法(1)】
- 13回 暇があれば、私もヨーロツパへ行くのになあ。【接続法(2)】
- 14回 ドイツ語を学ぶことは難しくありません。【分詞・zu不定詞】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいかがですか？【お店で】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスクッキーの作り方。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫げて話しかけるとき、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くと
- 8回 綴りを聞くと、英語の分る人を探るとき、いい直しをするとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞くと、道順・方向を聞くと、距離を聞くと
- 11回 時刻を聞くと、時間を聞くと、曜日を聞くと、日付を聞くと
- 12回 値段を聞くと、数量を聞くと、方法を聞くと、理由を聞くと
- 13回 目的を聞くと、住所を聞くと、出身地を聞くと、生年月日を聞くと
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くとき、相手の感想を聞くとき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞くとき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くとき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くとき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基礎文法の習得を目標とします。具体的には、簡単な文を作るために必要な要素である名詞・代名詞・冠詞・動詞・形容詞・前置詞について、また文の種類（肯定文・疑問文・否定文）などを学びます。音声化を重視して、つづり字の読み方を早く覚え、積極的に発音し、文を音で覚えるようにします。6月に実施される実用フランス語技能検定試験5級に合格すれば成績Cが保証されます。その場合でも、定期試験は必ず受けること。

教科書 /Textbooks

太田浩一 他著 『フランス語文法の基礎』（白水社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発音の仕方とつづり字の読み方
- 2回 名詞・冠詞・エリズイオン
- 3回 人称代名詞（主語）、動詞<etre>、形容詞
- 4回 動詞<avoir>、il y a 構文、否定文
- 5回 1群動詞<-er>の活用
- 6回 疑問文（1） 疑問詞のない疑問文の作り方
- 7回 指示形容詞・所有形容詞
- 8回 中間まとめ
- 9回 動詞<aller>、前置詞の縮約、近接未来について
- 10回 動詞<venir>、前置詞の縮約、近接過去について
- 11回 疑問文（2） 疑問代名詞、疑問形容詞、疑問副詞を用いる疑問文の作り方
- 12回 2群動詞<-ir>の活用
- 13回 比較級・最上級
- 14回 命令文、非人称構文
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70%、平常の授業への取り組み30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語II 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

一学期に引き続き文法の基礎知識を広げて表現力の充実を目標とします。具体的には、過去時制・複文・法（モード）について学びます。11月の仏検4級を合格すると、成績Cが保証されます。その場合でも定期試験を必ず受験すること。

教科書 /Textbooks

太田浩一 他著 『フランス語文法の基礎』（白水社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期の復習
- 2回 人称代名詞(2) 直接目的語、その語順
- 3回 人称代名詞(2) 間接目的語、その語順
- 4回 直説法複合過去
- 5回 代名動詞
- 6回 直説法単純未来
- 7回 特殊な代名詞(中性代名詞)
- 8回 直説法半過去
- 9回 過去時制のまとめ
- 10回 受動態
- 11回 法(1) 条件法
- 12回 法(2) 接続法
- 13回 関係代名詞
- 14回 現在分詞とジェロンティブ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70%、平常の授業への取り組み

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。1学期は「実用フランス語検定5級」相当のフランス語力をつけることを目指します。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊! 1』(藤田裕二著 朝日出版社 ¥2500)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って原則各回1課進み、1学期で終了。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 フランス語の発音とつづり字
- 2回 国籍・職業をいう
- 3回 名前・持ち物をいう
- 4回 友人・家族を紹介する
- 5回 人・物を説明する
- 6回 電話をかける、近い未来・過去についていう
- 7回 人、物、場所、時についてたずねる
- 8回 食べ物・飲み物についていう
- 9回 時刻・天候をいう
- 10回 人・物を比較する
- 11回 人称代名詞目的語を使った表現
- 12回 過去のことを話す
- 13回 代名動詞を使った表現
- 14回 未来のことを話す
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 定期試験...80%

(仏検受験者へ: 今年6月の仏検5級以上合格者には最低合格点Cは保証、ただし、仏検合格の場合も定期試験は必ず受験すること。また、仏検合格を単位認定として希望する者は定期試験時に必ず合格通知を提示すること、以後の連絡には応じない。なお、定期試験の日時が合格通知に先行する場合は、試験前の最終講義日までにその旨を申し出ること)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞典を各自用意すること。
遅くとも3回目の講義までには教科書を用意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

連続して欠席すると、講義内容についていくのが困難となります。
授業中の飲食・私語は禁止します。
遅刻・途中退室は欠席扱いとします。
携帯電話の電源は切り、机の上には置かずにしまっておくこと。

キーワード /Keywords

はじめて学ぶフランス語

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	1単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	英 1年						
対象入学年度 /Year of School Entrance				2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
											○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。2学期は「実用フランス語検定4級」相当のフランス語力をつけることを目指します。

教科書 /Textbooks

『ラビッド・フランス語会話II』（加藤雅郁著 駿河台出版社 ￥2310）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全10課、配列に従って原則毎回3ページずつ進む。

簡単な会話のスケッチの聞き取りと解説の後、書かれた質問に答えて会話内容の確認と書く練習を行い、次いで聞こえてきた質問に答えて聞き取り練習を行う。

- 1回 映画を見に行く
- 2回 家族の誕生日について話す
- 3回 レストランで注文する
- 4回 住んでいた町について話す
- 5回 昨日したことを話す
- 6回 宿題について話す
- 7回 知っている人・好きな人のことを話す
- 8回 電話をする
- 9回 将来のことを話す
- 10回 頼みごとをする
- 11回 明日のことを話す
- 12回 会う約束をする
- 13回 自分の趣味・意見を言う
- 14回 自らの考え・気持ちを話す
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 定期試験...80%

(仏検受験者へ：今年11月の仏検4級以上合格者には最低合格点Cは保証、ただし、仏検合格の場合も定期試験は必ず受験すること。また、仏検合格を単位認定として希望する者は定期試験時に必ず合格通知を提示すること、以後の連絡には応じない。なお、定期試験の日時が合格通知に先行する場合は、試験前の最終講義日までにその旨を申し出ること)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞典を各自用意すること。

教科書は1回目の講義には用意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

1学期に最低1科目はフランス語の講義を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の飲食・私語は禁止します。

遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

携帯電話の電源は切り、机の上には置かずにしまっておくこと。

キーワード /Keywords

様々な会話の場面

フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1年次に学んだ初級文法の復習にぐわえ、さらに上の段階の文法を習得することで、中級レベルのフランス語の運用能力を身につけてもらうことを目標にしています。また教科書とは別に、フランス映画『アメリ』を鑑賞したいと考えています。そのさいフランスのユーモアを知り、フランス語らしい表現を学んでもらえればと思います。

教科書 /Textbooks

『新・エスカルゴ 2』（藤田裕二、朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	フランス語の「音」についての復習、	『アメリ』より	L'enfance d'Aémilie
2回	再帰代名詞、	『アメリ』より	Monmartre(1)
3回	再帰代名詞の複合過去、	『アメリ』より	Monmartre(2)
4回	過去分詞の一致のまとめ、	『アメリ』より	La boîte aux souvenirs(1)
5回	半過去と大過去、	『アメリ』より	La boîte aux souvenirs(2)
6回	半過去と複合過去、	『アメリ』より	A la recherche de Bretodeau(1)
7回	関係代名詞、	『アメリ』より	A la recherche de Bretodeau(2)
8回	補語人称代名詞、	『アメリ』より	Amélie, ange gardien(1)
9回	命令法と補語人称代名詞、	『アメリ』より	Amélie, ange gardien(2)
10回	現在分詞とジェロンデフ(1)、	『アメリ』より	L'âme soeur(1)
11回	現在分詞とジェロンデフ(2)、	『アメリ』より	L'âme soeur(2)
12回	疑問代名詞 lequel、	『アメリ』より	Amélie a encore frappé(1)
13回	受動態、	『アメリ』より	Amélie a encore frappé(2)
14回	最上級と副詞、	『アメリ』より	Colignon crêpe chignon
15回	まとめ		

成績評価の方法 /Assessment Method

基本的に出席を絶対条件とします。その上で、宿題として課される練習問題の評点を50%、期末試験の結果を50%とします(ただし練習問題の評点、もしくは期末試験の結果で著しい成果を上げた場合には、別途考慮します)。また6月の仏験3級以上の合格者には最低合格点Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1年次に学んだ初級文法を確認しておいてください。この講義は復習を前提としています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期と同様に、1年次に学んだ初級文法の復習にくわえ、さらに上の段階の文法を習得することで、中級レベルのフランス語を完全に身につけてもらうことを目標としています。またひき続きフランス映画『アメリ』を鑑賞しながら、フランス語らしい表現を学んでいきます。

教科書 /Textbooks

『彼女は食いしん坊2』（藤田裕二、朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	強調構文、	『アメリ』より	Amélie cherche Nino(1)
2回	中性代名詞(1)、	『アメリ』より	Amélie cherche Nino(2)
3回	中性代名詞(2)、	『アメリ』より	Jeux de piste
4回	条件法現在、	『アメリ』より	Nouveaux stratagèmes
5回	条件法過去、	『アメリ』より	L'inconnu démasqué(1)
6回	接続法現在、	『アメリ』より	L'inconnu démasqué(2)
7回	接続法過去、	『アメリ』より	Où est quand(1)
8回	直接話法と間接話法、	『アメリ』より	Où est quand(2)
9回	時制の一致(1)、	『アメリ』より	RDV au photomaton(1)
10回	時制の一致(2)、	『アメリ』より	RDV au photomaton(2)
11回	前置詞と接続詞(時の表現)、	『アメリ』より	Le kouing amann(1)
12回	前置詞と接続詞(場所の表現)、	『アメリ』より	Le kouing amann(2)
13回	前置詞と接続詞(論理の表現)、	『アメリ』より	Saisir sa chance(1)
14回	単純過去、	『アメリ』より	Saisir sa chance(2)
15回	まとめ		

成績評価の方法 /Assessment Method

基本的に出席を絶対条件とします。その上で、宿題として課される練習問題の評点を50%、期末試験の結果を50%とします(ただし練習問題の評点もしくは期末試験の結果で著しい成果を上げた場合には、別途考慮します)。また11月の仏検準2級以上の合格者には最低合格点Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

一年次に学んだ初級文法を確認しておいてください。講義は復習を前提としています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1年次に習得したフランス語能力を再確認し、さらに応用力を身につけることを目指す。

テキストは入門者用のものを使用するが、内容は長文や練習問題が充実しているので、上記の目標を達成するのに適切であると思われる。

特に基礎文法事項を徹底的に復習する。

短文や長文を読解するだけでなく、正確に発音できるよう指導し、適宜、暗記することを課す。

時間の許す限り、フランス文化についての知識も教授する。

フランス語検定試験3級程度の実力を旨す。6月に行われる検定試験3級に合格した受講生には単位取得を保障する。

教科書 /Textbooks

澤田直之他2名『アミカルマン』（駿河台出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Bonjour Madame
- 2回 Dans le Quartier Latin
- 3回 長文読解 (フランス)
- 4回 Les deux amis au téléphone
- 5回 Un Anglais à Paris
- 6回 長文読解 (パリ)
- 7回 Philippe à la poste
- 8回 La jolie robe
- 9回 長文読解 (カフェ)
- 10回 Nathalie appelle un taxi
- 11回 Dans le taxi
- 12回 長文読解 (学生生活)
- 13回 Bon anniversaire!
- 14回 L'addition, s'il vous plaît!
- 15回 長文読解 (パン、ワイン、チーズ)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1年次のフランス語を受講していること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期のフランス語VIIに引き続き、1年次に習得したフランス語能力を再確認し、さらに応用力を身につけることを目指す。

テキストは入門者用のものを使用するが、内容は長文や練習問題が充実しているので、上記の目標を達成するのに適切であると思われる。

特に基礎文法事項を徹底的に復習する。

短文や長文を読解するだけでなく、正確に発音できるよう指導し、適宜、暗記することを課す。

時間の許す限り、フランス文化についての知識も教授する。

フランス語検定試験準2級程度の実力を旨す。11月に行われる検定試験準2級に合格した受講生には単位取得を保障する。

教科書 /Textbooks

澤田直之他2名『アミカルマン』（駿河台出版社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 L'interview d'un champion
- 2回 Le cours de tennis
- 3回 長文読解 (ブルターニュ)
- 4回 A la cinémathèque
- 5回 Après le film
- 6回 長文読解 (プロヴァンス)
- 7回 Philippe à Nancy
- 8回 Cher Philoppe
- 9回 長文読解 (アルザス)
- 10回 Le programme des visites
- 11回 Le dîner en famille
- 12回 長文読解 (政治)
- 13回 Une invitation
- 14回 La fin des vacances
- 15回 長文読解 (フランス病)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1年次のフランス語および前期のフランス語VIIを受講していること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語を公用語とする国は、ヨーロッパに1つ、アフリカに1つ、中南米に19（プラス1自治領）あり、その話者の数は、アメリカ合衆国にいるhispanicの人たちも含めると4億をはるかに超え、英語、中国語、ヒンズー語に続くと言われていています。ラテン語（ローマ帝国の言語）を起源とし、イタリア語、ポルトガル語、フランス語、ルーマニア語とともにロマンス語と呼ばれる仲間にも属します。コロンブスのアメリカ大陸発見（1492年）以降、スペイン語は中南米の植民地の言語になったので、現在のように多くの中南米の国で使われています。その特徴は、これだけ広い地域で用いられているのに、コミュニケーションの妨げになるほどの差がないことです。その広大な文化圏のドアを開けるための第1歩として、スペイン語の基礎を学びましょう。未知の世界が広がっていくはずですが、具体的には、スペイン語の初級から中級程度の文法を学びながら基本的な表現をマスターします。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』
青木文夫・辻博子・マリア エルナンデス（共著）、弘学社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典：
スペイン語中辞典（小学館）
新スペイン語（研究社）
現代スペイン語辞典（白水社）
プログレッシブスペイン語辞典（小学館）
パスポート初級スペイン語辞典（白水社）
他多数有。
白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
和西辞典：
和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
クラウン和西辞典（三省堂）
その他
図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
スペイン（増田監修：新潮社）
スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）
スペイン語基礎文法（口ボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）
電子辞書も奨めます。最初の講義で詳しく説明するので、辞書の購入はそれまで待っていてください。

スペイン語I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 導入：スペイン語とはこんな言語
- 2 発音の仕組み
- 3 発音の仕組み
- 4 発音の練習と簡単なテスト
- 5 性数の一致：冠詞と名詞
- 6 性数の一致：冠詞と名詞
- 7 規則動詞の現在形とその用法
- 8 規則動詞の現在形とその用法
- 9 規則動詞の現在形練習問題
- 10 serとestarの活用と用法
- 11 serとestarの活用と用法
- 12 serとestarの練習問題
- 13 不規則動詞の現在形の活用と用法
- 14 不規則動詞の現在形の活用と用法
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は下で述べる平常点を一切加味せず定期試験の点数だけで評価します。その1/3の条件を満たしている範囲での欠席は構いません。なお、クラブ活動など一切欠席届は認めません。また、出席管理において代返や出席のみ登録しての退室が見つかった場合は平常点を一切加算しません。

定期試験が60点以上ならば無条件で単位を認定しますが、60点を下回る場合にも平常点を加味して評価します。もちろん60点を超過している場合も平常点を加算して、成績を決めます。平常点は普通の教室でのやりとり（読む、書くなど）や小テストの点数を年間に亘って数値化します。その年度によって若干の差異はありますが、最大で30点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合（例えば小テストを受けていないとか、授業中答えていないなど）で平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。また授業中に私語や態度などで注意された場合も減点の対象とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

語学は基本的には演習科目なので出席は必要条件だけど、十分条件ではないので、そのことを自覚してしっかりと取り組んで欲しい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学、学習その他なんでも相談OKです！
メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語II 【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級から中級程度のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします。具体的にはスペイン語Iのテキストの続きをある程度複雑な文や、スペイン語に独特な文を作れるようなレベルまで進みます。英語にない文のパターンも、最初は複雑だと思うかもしれませんが、慣れてくると簡潔な表現で多くの情報が伝わる面白さが理解できるでしょう。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』青木・辻・エルナンデス共著 弘学社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図説スペインの歴史(川成洋、中西省三編:河出書房新社)
 スペインの歴史(立石、関、中川、中塚著:昭和堂)
 スペイン(増田監修:新潮社)
 スペインの社会(寿里、原編:早稲田大学出版)
 スペインの政治(川成、奥島編:早稲田大学出版)
 スペインの経済(戸門、原編:早稲田大学出版)
 スペイン語基礎文法(ロボ、大森、広康共訳:ピアソンエデュケーション)
 辞書についてはスペイン語Iで述べたのを参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 2回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 3回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 4回 6課から8課で習う過去や未来の時制の活用と用法。
- 5回 6課から8課で習う過去や未来の時制の活用と用法。
- 6回 6課から8課で習う過去や未来の時制の活用と用法。
- 7回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 8回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 9回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 10回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 11回 従属節を含む文の理解。
- 12回 従属節を含む文の理解。
- 13回 スペイン語圏の国々について:視聴覚教材を用いて
- 14回 スペイン語圏の国々について:視聴覚教材を用いて
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

語学は基本的には演習科目なので出席は必要条件だけど、十分条件ではないので、そのことを自覚してしっかりと取り組んで欲しい。定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。また、代返などが見つかった場合は即座に失格とします。定期試験に今述べた平常点を最大30点まで加算します。もちろん60点を超えている場合でも、平常点を加味して成績を算定します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前期に比べて少し複雑な内容になると思いますが、ロマンス語(スペイン語、イタリア語、ポルトガル語、フランス語など)に共通する文法の基礎にもなるので、しっかりと取り組んで、将来の学習につなげましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール: faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語の発音・読み方からはじめ、テキストの簡単な会話表現を覚えていきます。
スペイン語の発音は日本語話者に易しいので、テキストの単語を発音しながらスペイン語の音に慣れましょう。
文法事項を押さえながら学ぶ会話表現なので、理解しやすくスペイン語の基礎固めになります。

教科書 /Textbooks

粕谷てる子『オラ！（CD付）』第三書房、2010

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし
西和辞書については開講時に指示しますが、薦めるものとしては『クラウン西和辞典』三省堂2005、
『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とスペイン語圏について、アルファベットの読み方
- 2回 挨拶、スペイン語の発音、「じゃあね！」
- 3回 アクセントについて、ser動詞、「私はマリです」
- 4回 国籍・職業・出身地、「彼女は学生です」
- 5回 形容詞、指示詞、「この本は面白い」
- 6回 - ar動詞、- er動詞、- ir動詞、「スペイン語を話せる？」
- 7回 数字1-15、「どこに住んでいるの？」
- 8回 tener、数字16 - 100、「私は18歳です」
- 9回 所有詞、hacer、poner、decir、「家族」
- 10回 estar動詞、「どこにあるの？」
- 11回 hay、「この辺にバルはありますか？」
- 12回 querer、「スペインを旅行したい」
- 13回 poder、「今日はサッカーができません」
- 14回 目的格人称代名詞、「私に写真を見せてくれる？」
- 15回 不規則動詞、目的格人称代名詞のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70%、平常点 30%（うち、小テストを行う場合は10%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏

スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor トマス・マリン・アルビ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅲの続きから、更に表現を学んでいきます。Ⅲと同様、文法項目を押さえながら学ぶ会話表現です。理解したうえで聞き取り、会話表現を発展させていきます。

教科書 /Textbooks

Ⅲと同じテキストを使用。
(粕谷てる子『オラ! (CD付)』第三書房、2010)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし
西和辞書についてはⅢの開講時に指示したものと同じです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 IIIの復習
- 2回 ir、venir、「これから友達の家に行くつもり」
- 3回 hacer、「今日はいい天気ですね」
- 4回 時間、「何時ですか？」
- 5回 gustar、「私はサッカーが好きです」
- 6回 gustar型動詞、「頭が痛い」
- 7回 再帰動詞llamarse、「お名前は？」
- 8回 その他の再帰動詞、「もう行っちゃうの？」
- 9回 比較表現、「地下鉄はバスよりはやい」
- 10回 最上級、「どのワインが一番おいしいですか？」
- 11回 過去分詞、現在完了、「すごく楽しかった」
- 12回 過去形の概要、「昨日の出来事」
- 13回 過去形の概要2、「昨日電話した時、何していたの？」
- 14回 直説法と接続法の概要、「楽しい週末を！」
- 15回 命令法、まとめ「それを食べてはいけません」

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70%、平常点 30% (うち、小テストを行う場合は10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏

スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅰ・Ⅱを復習・継続し、初級の文法を完了します。

教科書 /Textbooks

スペイン語Ⅰ・Ⅱと同じ(青木・辻・マリア J. 共著『スペイン語で表現しよう』、弘学社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし。西和辞典又は電子辞書必携。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 接続法とは何か
- 2回 接続法現在・規則活用
- 3回 接続法現在・不規則活用
- 4回 接続法現在の用法
- 5回 命令法・命令形
- 6回 感嘆文
- 7回 比較級
- 8回 相対・絶対最上級
- 9回 不定詞を用いた放任・使役の動詞
- 10回 不定詞を用いた忠告・命令・許可・禁止の動詞
- 11回 SEの受身文
- 12回 SEの無人称文
- 13回 接続法の過去・現在完了・過去完了
- 14回 接続法の用法(独立文)
- 15回 接続法の例文

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スペイン語Ⅰ・Ⅱを良く理解・学習しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

欠席は好ましくありません。

キーワード /Keywords

スペイン語圏

スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペインの文化・風土・歴史などを織り込んだ中級程度のスペイン語の文章を読みます。スペイン語及びスペインに関する幅広い知識を身に付けます。

教科書 /Textbooks

青木文夫・辻光博共著『現代スペイン語：文法と表現』（弘学社）の、講読部分（別冊。500円）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。西和辞典又は電子辞書必携。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

* スペイン語講読・説明・解説

- 1回 第一課 【位置】
- 2回 第二課 【風土】
- 3回 第三課 【行政】
- 4回 第四課 【生活】
- 5回 第五課 【バルセローナ】
- 6回 第六課 【マドリード】
- 7回 第七課 【中世文学】
- 8回 第八課 【レコンキスタ】
- 9回 第九課前半 【古代ローマ治下】
- 10回 第九課後半 【イスラーム治下】
- 11回 第十課 【セビージャ】
- 12回 第十一課前半 【レコンキスタの完了】
- 13回 第十一課後半 【スペイン帝国】
- 14回 第十二課 【ドン・キホーテ】
- 15回 第十三課 【バスク自治州】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スペイン語Ⅱ・Ⅴを良く理解・学習しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

欠席は好ましくありません。

キーワード /Keywords

古代ローマ帝国 イスラーム レコンキスタ

スペイン語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳ(会話表現)を更に発展させていきます。テキストの文法事項を押さえ、それぞれの文法テーマに沿った会話表現を学び、応用できるようにしましょう。また、適宜音声教材やDVD教材などを使用し、ネイティブの話すスペイン語理解(聞き取り)も行います。

教科書 /Textbooks

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳのテキストの続きから使用します。(前年度テキスト:エウヘニオ・デル・ブラド他『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008)
また、ビデオ・DVD・音声教材なども利用し、その際にはプリントを配ります。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前年度スペイン語Ⅲ・Ⅳの復習(会話表現、聞き取り)
- 2回 前年度スペイン語Ⅲ・Ⅳの復習(目的格人称代名詞、再帰動詞などを中心に)
- 3回 過去分詞、現在完了、「ミゲルはもう到着したの?」
- 4回 不定語・否定語、「何か言った?」
- 5回 直説法点過去(1)、「いつスペイン語の勉強を始めましたか」
- 6回 直説法点過去(2)、「夏休みはどこに行きましたか」
- 7回 直説法線過去、「若いころあのレストランへよく行っていた」
- 8回 点過去と線過去、「電話がなったとき、本を読んでいた」
- 9回 スペイン語圏についてのDVD教材
- 10回 現在分詞、「私は音楽を聴きながら通学する」
- 11回 直説法未来、直説法過去未来「明日はハイメとテニスをするだろう」
- 12回 直説法過去完了、「私が到着したとき、もうパーティは始まっていました」
- 13回 DVD教材(スペイン語で見る・1)
- 14回 DVD教材(スペイン語で見る・2)
- 15回 直説法の動詞のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 60%、日常の授業への取り組み 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

スペイン語初級(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

スペイン語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor トマス・マリン・アルビ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 英2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語VIIを更に発展させていきます。テキストの文法事項を繰り返し押さえ、それぞれの文法テーマに沿った会話表現を学び、応用できるようにしましょう。また、簡単な表現を使い、スペイン語での発表も行います。

教科書 /Textbooks

スペイン語VIIのテキストを引き続き参照します。
(スペイン語VII: エウヘニオ・デル・プラド他『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008)
また、読み物、ビデオ・DVD・音声教材などを利用し、その際にはプリントを配ります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語VIIの復習 (DVD教材)
- 2回 スペイン語VIIの復習 (直説法のまとめ)
- 3回 接続法現在、(1)、独立文、「いい天気になればいいなあ」
- 4回 命令形、「どうぞこちらへ来てください」
- 5回 接続法現在(2)、名詞節、「ホセに本当のことを言ってもらいたい」
- 6回 接続法現在(3)、形容詞節・副詞節、「ペットが飼える家を探しています」
- 7回 接続法過去、「こんなに人気があったとは、知らなかった」
- 8回 接続法過去完了、「あの時すでにメキシコに住んでいたなんて、知らなかった」
- 9回 接続法、条件文、「あの時返事をしていれば、今頃はペルーにいるはずだったのに」
- 10回 DVD教材など、会話練習
- 11回 スペイン語で発表(1)
- 12回 スペイン語で発表(2)
- 13回 スペイン語で映画などを見る 前半
- 14回 スペイン語で映画などを見る 後半
- 15回 接続法のまとめと会話について

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、授業内のスペイン語での発表 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

スペイン語初級(I・II・III・IV)の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター, 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 留学生1年 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Aでは、特に「大学生生活へのオリエンテーション」と「日本語表現力」に焦点を当てる。「大学生生活へのオリエンテーション」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。「日本語表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『大学生の日本語トレーニング』(世界思想社編集部、世界思想社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

<小林担当分>	<清水担当分>
1回 オリエンテーション	1回 オリエンテーション
2回 高校・日本語学校と大学の違い	2回 大学生と論理的思考力
3回 履修登録とシラバス	3回 リストアップする
4回 キャンパスツアー	4回 マッピングする
5回 大学教員・職員との付き合い方	5回 キーワードを繋げる
6回 図書館ツアー	6回 イラストから読み取ったことを表現する
7回 情報の探し方	7回 定義をする
8回 勉強以外の大学生生活	8回 日本語の語順に沿って考える
9回 留学生の進路	9回 時間軸に沿って考える
10回 留学生と日本人学生	10回 主張に理由を加えて表現する
11回 試験に備える：試験勉強	11回 主張に理由や具体例を加えて表現する
12回 試験に備える：レポート	12回 総合的に表現する
13回 試験に備える：期末試験	13回 論理的に考えて表現する
14回 大学生としての自分	14回 日本語で表現することと自分
15回 総括	15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 30 %
ポートフォリオ評価 ... 70%(学習者評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

履修上の注意 /Remarks

日本語Aと日本語Bは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活日本語 大学生生活日本語 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) 日本語表現力

日本語 B 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語 (ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語 (キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語 (アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。

日本語Bでは、特に「聞く・話すこと」に焦点を当てる。講義を聞き取る聴解スキルや、発表に必要な語彙・表現を身に付け、実際に課題テーマのプレゼンテーションをおこなうことで、「発表」の方法を学ぶ。さらに、「質疑応答」「評価 (自己評価)」では建設的な意見交換やコメントができることを目標とする。

教科書 /Textbooks

犬飼康弘『聴解・発表ワークブック』スリーエーネットワーク
上村和美・内田充美『プラクティカル・プレゼンテーション』くろしお出版

参考書 (図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三浦香苗他『アカデミックプレゼンテーション入門』ひつじ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 内はキーワード)
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 ノートテイキング【メモ】【構成】
 - 3回 基本練習テーマ「食中毒」【全体の流れ】【基本的表現】
 - 4回 「言葉と文化」【背景説明】【方向付け】
 - 5回 「不登校」【予告】【データの提示】
 - 6回 「高校生とバイク」【データの説明・解釈】
 - 7回 「食料自給率」【データ比較】
 - 8回 応用練習テーマ「少子化」(1)【序論構成】
 - 9回 「少子化」(2)【本論構成①】
 - 10回 「少子化」(3)【本論構成②】
 - 11回 「少子化」(4)【結論の提示】
 - 12回 プレゼンテーションの基礎【プレゼンテーションとは】
 - 13回 クラスメイト紹介 (1)【他者紹介】
 - 14回 クラスメイト紹介 (2)【インタビュー】
 - 15回 セルフチェック (1)【姿勢・表情・視線】【身振り・手振り】【声】
 - 16回 セルフチェック (2)【チェックシート・評価シート】
 - 17回 施設紹介 (1)【相手の視点に立った情報整理】
 - 18回 施設紹介 (2)【サンドイッチ構成】
 - 19回 日常生活で目にするものを説明する (1)【比較】
 - 20回 日常生活で目にするものを説明する (2)【マトリックス】
 - 21回 アンケート (1)【調査項目】
 - 22回 アンケート (2)【アンケート用紙】
 - 23回 ポスター発表 (1)【ポスターの構成】
 - 24回 ポスター発表 (2)【ポスター作成】
 - 25回 ポスター発表 (3)【ポスター発表】
 - 26回 案内状を作る (1)【5W1H】
 - 27回 案内状を作る (2)【案内状】
 - 28回 案内状を作る (3)【当日の進行】
 - 29回 1年間を振り返る【時系列】【トピック】
 - 30回 まとめ【評価】【自己評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・・・40% 授業への取り組み・・・40% 自己評価・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日本語B 【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生 (文学部比較文化学科日本語教師養成課程) が授業の一部を担当する予定である。

履修上の注意 /Remarks

日本語Aと日本語Bは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語C 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター, 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Cでは、特に「読むこと」に焦点を当てる。タスクを用いた読解トレーニングにより、論理的思考力を伸ばすことと、ピア・リーディングによる読み方の変化と読みにおける他者の存在の有用性に気付くことで、留学生一人一人に「日本語で読むこととは何か」を問いかける。

教科書 /Textbooks

『大学・ 大学・ 大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○一橋大学留学生センター『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』スリーエーネットワーク

授業計画・ 内容 /Class schedules and Contents

< 小林担当分 >	< 則松担当分 >
1回 オリエンテーション	1回 オリエンテーション
2回 大学生に求められる読む力	2回 学術的文章の特徴
3回 自己評価	3回 テーマに合う文献を探す
4回 絵やイラストを読む	4回 文献を読んで研究テーマを
5回 文章を読んで図や表にする	5回 ピア・リーディングとは何か
6回 表やグラフを読み取る	6回 ピア・リーディング：読みの個人差に着目する
7回 表やグラフ以外のものを読み取る	7回 ピア・リーディング：読む過程を重視する
8回 マッピングしながら読む	8回 ピア・リーディング：協同的に読む
9回 登場人物になったつもりで読む	9回 ピア・リーディング：読み方を変える
10回 どちらがいかを考えながら読む	10回 ピア・リーディング：他者の視点で読む
11回 理由を考えながら読む	11回 主体的・ 能動的な読み
12回 前後の文脈から推論しながら読む	12回 読みにおける他者の存在
13回 総合的に読む	13回 自分で書いた文章のピア・リーディング：初回
14回 日本語で読むことと自分について考える	14回 自分で書いた文章のピア・リーディング：修正
15回 総括	15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。

履修上の注意 /Remarks

日本語Cと日本語Dは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的思考 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・リーディング ストラテジー

日本語D 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を滋養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Dでは、日本語で書くことを中心とする。特に、情報を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけではなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の目的及び必要性を知る【知る】
- 2回 授業の目的及び必要性を知る【課題の条件を確認する】
- 3回 レポートとは何かを考える【論証型レポート】
- 4回 レポートとは何かを考える【根拠の大切さを知る】
- 5回 レポートのテーマを考える【構想マップ】
- 6回 レポートのテーマを考える【練る】
- 7回 情報をカード化する【情報の信頼性】
- 8回 情報をカード化する【調べる】
- 9回 目標を仮に規定する【情報の整理】
- 10回 目標を仮に規定する【絞る】
- 11回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】
- 12回 アウトラインを作る【組み立てる】
- 13回 パラグラフライティング【中心文】
- 14回 パラグラフライティング【説明文・指示文】
- 15回 パラグラフライティング【引用】
- 16回 パラグラフライティング【引用文献リスト】
- 17回 文章を点検する【校正】
- 18回 文章を点検する【表現の点検】
- 19回 文章を点検する【形式の点検】
- 20回 文章を点検する【ピア・レスポンス】
- 21回 レポートの完成【体裁】
- 22回 レポートの完成【最終稿】
- 23回 発表を準備する【発表の意義・レジユメの作成】
- 24回 発表を準備する【発表の練習】
- 25回 発表する【話し手】
- 26回 発表する【聴き手】
- 27回 発表する【司会】
- 28回 発表する【相互評価】
- 29回 学習プロセスを振り返る
- 30回 まとめ【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40%
レポート・発表...40%
ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えていてください。

日本語D 【昼】

履修上の注意 /Remarks

日本語C及びDは、授業内容の関連性が深いので同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論証型レポート ピア・ラーニング 論理的思考

日本事情 (人文) A 【昼】

担当者名 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

言語の学習と密接な関係にある文化について考える。文化とは何か、文化を学ぶとはいったいどのようなものであるのかを考えるにあたって、3つの論文を題材とする。これらの題材をクラス内で議論しながら、最終的には一人ひとりが自分にとっての文化をレポートとしてまとめていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川上弘美 『あるようなないような』 中公文庫
河合隼雄 「『母性』と『父性』の間をゆれる」 『国語総合』 大修館書店
細川英雄 『日本語教育と日本事情 - 異文化を超える - 』 明石書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 「境目」を読む
- 3回 「境目」について話し合う
- 4回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」を読む
- 5回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」について話し合う
- 6回 「ことばと文化を結ぶために」を読む
- 7回 「ことばと文化を結ぶために」について話し合う
- 8回 文化観を比較する
- 9回 レポートの作成(1)私にとって文化とは何か
- 10回 ピア・リーディング(1)クラスメートのレポートを読んでコメントする
- 11回 他大学学生とのレポート交換活動
- 12回 ピア・リーディング(2)他大学学生からのコメントを読む
- 13回 レポートの作成(2)修正する
- 14回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングする
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50% 自己評価 ... 30% ピア評価 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

他大学の留学生とレポート交換活動をする予定である。

履修上の注意 /Remarks

昨年度開講されなかったため、2年次以上の学生を優先します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本事情 (人文) B 【昼】

担当者名 /Instructor ジェームズ・バスキンド / James Baskind / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Zen Culture and Japan

With D.T. Suzuki's publication of Zen and Japanese Culture, Zen came to be heralded as the quintessence of Japanese culture. However, the question remains: how much of Zen doctrine and history support this view? As the title of this course indicates, we will be turning Suzuki's contention on its head, as we examine the creation of a culture of Zen itself or a "Zen culture" that subsumes and informs much of what is considered "Japanese" both in Japan and the West. We will also consider Zen's history in India, China, and Japan, as well as "Zen" aspects of painting and poetry, martial arts, tea ceremony, literature, and its role in pop/modern culture in Japan and abroad. In addition to presenting the history and practice of Zen, this course aims to also provide a modern and international perspective on Zen.

教科書 /Textbooks

Textbook: Zen and Japanese Culture Daisetz T. Suzuki (Author) Richard Jaffe (Introduction). Princeton University Press, reprint edition. ¥ 1,900. Other materials will be distributed as needed.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

日本事情 (人文) B 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Schedule

Week 1

WHAT IS ZEN?

EARLY BUDDHISM: DOCTRINE AND PRACTICE

Week 2

ZEN PRACTICE

ZEN ANTECEDENTS: DAOISM AND THE VIMALAKIRTI SUTRA

Week 3

THE TRANSMISSION OF BUDDHISM TO CHINA

LEGENDARY BEGINNINGS OF ZEN: BODHIDHARMA

Week 4

INTRODUCTION OF ZEN TO JAPAN: THE RINZAI, SOTO, AND OBAKU SCHOOLS

Week 5

FORMS OF ZEN PRACTICE

Week 6

ZEN IN THE MODERN ERA: D.T. SUZUKI

Week 7

ZEN AESTHETICS AND THE TEA CEREMONY

Week 8

ZEN AND MARTIAL ARTS: FACT, FICTION, AND FANTASY

Week 9

ZEN ARTS: PAINTING, GARDEN DESIGN AND POETRY

Week 10

MIDTERM EXAM

Week 11

ZEN IN THE WEST: THE BEGINNINGS

Week 12

BEAT ZEN SQUARE ZEN: THE BEATNIKS, ZEN AND AMERICAN SUBCULTURE

Week 13

ZEN IN MEDIA AND POP CULTURE

Week 14

IMAGE AND IDEAL: ZEN PRACTICE CENTERS ABROAD

Week 15

ZEN IN THE WEST: TENSIONS AND CONFLICTS, CONCLUSIONS (FINAL PAPER DUE)

成績評価の方法 /Assessment Method

Assessment

Participation/daily effort 30%

Midterm exam 30%

Paper 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本事情 (人文) B 【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

No familiarity with Japanese religions is required.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Zen, Japanese culture, Buddhism, arts, D.T. Suzuki

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者名 国際教育交流センター 山崎 勇治
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

留学生のための講座である。1年生と短期交換留学生の混合授業である。また中国、韓国、アメリカ、オーストラリア、イギリスからの留学生と、国際的な講義である。
そこで、日本を知る上で必要な観点から、外部講師を招聘して講義をしていただく場合もある。例えば、大学生協の店長が寿司文化を語り、留学生にその作り方を実地で教え、試食させてくれるとかといった具合である。
日本社会を、社会科学分野から追求することを旨としているが、日本の伝統文化を知らないと日本の政治経済の理解が深まらない。それゆえ、多士済々の講師が登場するゆえんである。
これらの講義を通じて日本社会に興味をもち、積極的に参加してくれることを目的としている。

教科書 /Textbooks

口述講義により、教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 .私のデートコース案内-イギリスと北九州-
- 第3回 お伊勢参りから宇宙旅行までの日本人の旅行ブーム
- 第4回 TOTOのウォッシュレット開発
- 第5回 北九州空港と韓国仁川国際空港の役割
- 第6回 新幹線を作った男たち
- 第7回 トロンの世界
- 第8回 秀吉の朝鮮出兵と九州の窯元
- 第9回 安川電機とロボット産業軍事とアジアを読み解く
- 第10回 日本の経営の特徴とその変化
- 第11回 戦後日本経済(1)
- 第12回 戦後日本経済(2)
- 第13回 戦後日本経済(3)
- 第14回 軍事とアジアを読み解く
- 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 50%

授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語で講義をするので、日本語を上達させておくこと。

日本の政治経済の動きを理解するために、新聞を毎日読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日本滞在を有効にするために、この講義に参加している日本人学生との交流を積極的に行ってもらいたい。

キーワード /Keywords

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者名 国際教育交流センター 山崎 勇治
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

講義の目的・韓国、中国、オーストラリア、イギリス、日本の学生と一緒に集まって、さまざまなテーマについて日本と自国との比較検討をする。
使用言語は主として日本語である。ただし英語も一部使用する。理由は、イギリスやオーストラリアからの留学生にとって複雑な内容を日本語で説明するには無理があるときがあるからである。

教科書 /Textbooks

口頭講義である。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 自己紹介 オリエンテーション 山崎勇治
- 第2回 関門地域をめぐる日本の近代化一、中国、韓国、アメリカ、イギリス
- 第3回 雇われ外国人たちと日本の近代化ートーマス・グラバー
- 第4回 官営八幡製鉄所の北九州に果たした役割
- 第5回 新幹線を開発した男たち
- 第6回 TOTOと日本のトイレ革命
- 第7回 公害問題の発生と母親たちの反対運動
- 第8回 安川電機と産業用ロボット(宗像志功、孫文)
- 第9回 松本清張と朝鮮戦争
- 第10回 森川知治 生協食堂店長:「オーストラリアに定着させた寿司文化」
- 第11回 北九州市役所 西之原局長 「北九州市と国際化」
- 第12回 出光興産と美術館
- 第13回 カーディフ炭と日本海海戦
- 第14回 バーナード・リーチと小鹿田焼き
- 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%

授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本についての関心事を絶えずもち続けること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域研究入門 (アメリカ) 【昼】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、アメリカ合衆国が現在にいたる経緯を概観し、歴史・政治・経済・外交・文化など各分野の現状についての基本的、総合的な理解を深める。特に、多民族・多民族社会としてのアメリカの特質を知るために、人種問題やその解決への努力にも注目する。

教科書 /Textbooks

大下尚一ほか編『史料が語るアメリカ：メイフラワーから包括通商法まで』有斐閣、1989年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

有賀貞『ヒストリカル・ガイド：アメリカ』山川出版社、2004年 ほか授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション～近年のトピック / 文献紹介
 - 第2回 19世紀のアメリカ～国土の開発・領土拡大と奴隷制
 - 第3回 19世紀のアメリカ～南北戦争の経緯
 - 第4回 19世紀のアメリカ～戦後処理とその後の黒人問題
 - 第5回 20世紀前半のアメリカ～移民史の概要
 - 第6回 20世紀前半のアメリカ～1920年代と禁酒法
 - 第7回 20世紀前半のアメリカ～大衆消費社会とメディア革命
 - 第8回 20世紀前半のアメリカ～大恐慌の発生
 - 第9回 20世紀前半のアメリカ～第二次世界大戦と戦後構想
 - 第10回 2010年の最もカレントなトピックについて (小テストを兼ねる) その1
 - 第11回 2010年の最もカレントなトピックについて (小テストを兼ねる) その2
 - 第12回 20世紀後半のアメリカ～戦争と人種問題
 - 第13回 20世紀後半のアメリカ～人種差別解決への努力
 - 第14回 20世紀後半のアメリカ～多文化主義の興隆とこれから
 - 第15回 まとめ
- その他、開講期間中に起こったニュース等に関連して、適宜その歴史的背景などの解説を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% 課題 (小テスト) ...20% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高等学校で世界史を履修していない受講生は、世界史の教科書を読んでおくことと良い。個人的な学習のための参考書等は授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの社会I【昼】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の人種的・民族的多様性をその起源にさかのぼり歴史的に概観するとともに、現在のエスニック状況も考察する。また、近年アメリカ合衆国で起こった、ないし起こりつつある出来事の中から顕著なものを取り上げ、各項目について具体的事例、その歴史的背景、争点、多様な見解を解説する。

教科書 /Textbooks

明石紀雄・飯野正子『エスニック・アメリカ 多民族社会における統合の現実（新版）』有斐閣選書、1997年。
なお、第3版が2011年4月に刊行予定のため、教科書販売時期が遅れる可能性がある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○大下尚一ほか編『史料が語るアメリカ：メイフラワーから包括通商法まで』有斐閣、1989年。
その他多数。授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション—近年のトピック / 文献紹介
- 第2回 多民族国家アメリカ—概観
- 第3回 同化の諸概念
- 第4回 新大陸で出会った三つの人種集団
- 第5回 アングロ・アメリカ社会の形成
- 第6回 国民的統合に向けて
- 第7回 2011年の最もカレントなトピックについて（小テストを兼ねる）
- 第8回 「新移民」の流入（1）—イタリア移民、ユダヤ人移民
- 第9回 「新移民」の流入（2）—中国と日本からの移民
- 第10回 自由の女神の涙
- 第11回 多民族国家アメリカ—続く移民の流れ
- 第12回 平等の達成（1）—移民法の改正、先住民
- 第13回 平等の達成（2）—アフリカ系アメリカ人、アジア系アメリカ人
- 第14回 真の平等を求めて—多様性と統合の調和
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% 小テスト...20% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高等学校で世界史を履修していない受講生は、世界史の教科書を読んでおくこと。地域研究入門（アメリカ）を履修していない受講生や個人的な学習のための参考書等は授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

開講時期に起こったニュース等に関連させた形で、適宜、その歴史的背景などの解説を行うので、上記スケジュールや順序は変更の可能性が有る。その場合は授業中に指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

今年度は担当者の都合により、複数回の休講および補講が生じる予定である。詳細は第一回目の授業の際に説明する。

キーワード /Keywords

アメリカの社会II【昼】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の人種的・民族的多様性をその起源にさかのぼり歴史的に概観するとともに、現在のエスニック状況も考察する。また、近年アメリカ合衆国で起こった、ないし起こりつつある出来事の中から顕著なものを取り上げ、各項目について具体的事例、その歴史的背景、争点、多様な見解を解説する。アメリカの社会Iで扱った内容を、テーマ別により詳しくみていく。

教科書 /Textbooks

本田創造『アメリカ黒人の歴史』岩波書店、1991年。
ジェームス・M・バーダマン『黒人差別とアメリカ公民権運動：名もなき人びとの戦いの記録』集英社、2007年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション—近年のトピック / 文献紹介
- 第2回 アフリカ系アメリカ人の歴史：20世紀初頭まで
- 第3回 アフリカ系アメリカ人の歴史：20世紀前半
- 第4回 公民権運動：ブラウン判決以前
- 第5回 公民権運動：1950年代後半
- 第6回 公民権運動：1960年代前半
- 第7回 公民権運動：1960年代後半から混迷の時代へ
- 第8回 公民権運動における「多様性」
- 第9回 「白人リベラル」としてのユダヤ系アメリカ人
- 第10回 ユダヤ人による公民権運動への貢献とその後
- 第11回 公民権運動後のアメリカ：アフターマティヴ・アクションの導入
- 第12回 公民権運動後のアメリカ：アフターマティヴ・アクションの展開
- 第13回 公民権運動後のアメリカ：アフターマティヴ・アクションをめぐる論争
- 第14回 今後のエスニック状況の展望
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% 小テスト...20% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高等学校で世界史を履修していない受講生は、世界史の教科書を読んでおくこと良い。地域研究入門(アメリカ)を履修していない受講生や個人的な学習のための参考書等は授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

開講時期に起こったニュース等に関連させた形で、適宜、その歴史的背景などの解説を行うので、上記スケジュールや順序は変更の可能性が有る。その場合は授業中に指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの政治I【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

第二次世界大戦後から21世紀までのアメリカ政治の発展を講じる。前半部分では、まず21世紀の政治状況について概観した後、歴史をさかのぼって第二次世界大戦期に新しい国家秩序が形成された経緯を論じる。そして、冷戦期に発展した福祉国家体制が1970年度以降に解体していき、1980年代以降、保守主義秩序が形成されたことを論じる。講義では、アメリカにおける公共性をめぐる視点の転換を説明するため、アメリカ特有の社会構造に焦点を当てる。その際にルイス・ハーツの自由主義社会論を起点として、近年の政治発展をめぐる制度論と政治文化論を取り入れて議論を進めていく。

教科書 /Textbooks

とくに使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

オリエンテーションで参考文献リストを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス
- 第2回現代アメリカの政治状況
- 第3回第二次世界大戦と経済繁栄
- 第4回トルーマン政権と自由主義政治
- 第5回アイゼンハワー政権の内政外交
- 第6回市民的権利の追求
- 第7回ケネディ政権の改革
- 第8回ジョンソン政権の改革
- 第9回市民権運動とニクソン政権
- 第10回自由主義政治への反発
- 第11回レーガンの時代
- 第12回クリントンの政治
- 第13回 ブッシュのアメリカ
- 第14回アメリカ民主政の現在
- 第15回授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト ... 70 % レポート ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義の内容はアメリカ政治II, III, IVであつかう内容や、国際関係系Iであつかうアメリカ外交とあわせて学習すると、アメリカ国家の発展をよく理解することができるようになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ 政治 第二次世界大戦後

アメリカの政治II 【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

革新主義期から第二次世界大戦までのアメリカ政治の発展を講じる。前半部分では、革新主義期に新しい国家秩序が形成された経緯を論じ、第一次世界大戦期に大国となったアメリカが1929年の恐慌を経て、ニューディール体制を建設し、アメリカ型の福祉国家体制を築き上げたこと、そして第二次世界大戦によって失業を克服したことを論じる。講義では、アメリカにおける公共性をめぐる視点の転換を説明するため、アメリカ特有の社会構造に焦点を当てる。その際にルイス・ハーツの自由主義社会論を起点として、近年の政治発展をめぐる制度論と政治文化論を取り入れて議論を進めていく。

教科書 /Textbooks

とくに使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

オリエンテーションで参考文献リストを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス
- 第2回19世紀アメリカ政治の特質
- 第3回20世紀アメリカの出現
- 第4回革新主義とは何か
- 第5回TRの時代
- 第6回ウィルソン政権の内政外交
- 第7回第一次世界大戦とアメリカ
- 第8回市民的自由の追求
- 第9回1920年代のアメリカ
- 第10回フーヴァー政権と大恐慌
- 第11回FDRの時代
- 第12回ニューディール改革
- 第13回ニューディールの変容
- 第14回第二次世界大戦期のアメリカ
- 第15回総括

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト ... 70 % レポート ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義の内容はアメリカ政治II, III, IVであつかう内容や、国際関係史Iであつかうアメリカ外交とあわせて学習すると、アメリカ国家の発展をよく理解することができるようになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ 20世紀前半

国際関係論I【昼】

担当者名 /Instructor 小尾 美千代 / OBI Michiyo / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会の特徴を国内社会との相違から位置付け、国際関係の変遷や主要な課題に焦点をあてつつ、リアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズムを中心とする国際関係の主要な理論について学習する。国際関係を分析する上で基本的かつ重要な概念を理解し、各自が国際関係を多様な角度から捉える分析視角を習得することがこの授業のねらいである。

教科書 /Textbooks

主に以下の文献を利用する。
山田高敬・大矢根聡(編)『グローバル社会の国際関係論 [新版]』有斐閣、2011年。
原彬久(編)『国際関係学 講義 (第3版)』有斐閣、2006年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○John Baylis and Steve Smith (eds.), The Globalization of World Politics: An Introduction to International Relations, 4th ed. Oxford University Press, 2008.
○田中明彦、中西寛編『新・国際政治経済の基礎知識』有斐閣、2004年。
田中明彦、中西寛編『新・国際政治経済の基礎知識』[新版]、有斐閣、2010年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国際関係学の誕生と展開【理想主義】、【現実主義】、【理論】
- 2回 国際社会の特徴【政治】、【アナーキー】、【主権国家】
- 3回 国際関係の分析視角(1)リアリズム【パワー】、【勢力均衡】、【集団安全保障】
- 4回 国際関係の分析視角(2)ネオ・リアリズム【ウォルツ】、【囚人のジレンマ】、【相対利得問題】
- 5回 国際関係の分析視角(3)リベラリズム、ネオ・リベラリズム【国際レジーム】、【民主主義平和論】
- 6回 国際関係の分析視角(4)コンストラクティビズム【観念的要素】、【社会構造】、【相互構築性】
- 7回 中間レビュー
- 8回 政治体制と国際安全保障【冷戦】、【安全保障のジレンマ】、【相互確証破壊】、【歴史の終焉】、【文明の衝突】、
- 9回 安全保障問題(1)：人間の安全保障【人道的介入】、【国際テロ】
- 10回 安全保障問題(2)：大量破壊兵器の管理【NPT】、【PTBT】、【CTBT】
- 11回 国際経済体制【ブレトンウッズ体制】、【IMF】、【IBRD】、【GATT】
- 12回 経済のグローバル化と貿易自由化【WTO】、【ドーハ・開発ラウンド】
- 13回 国際協力をめぐる理論【サミット】、【G 7/8/2 0】
- 14回 地域統合・地域経済協力【EU】、【FTA】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの講読は授業内容を理解する上で必要不可欠である。
また、特に理論や国際政治の概念については参考文献のThe Globalization of World Politicsが詳しい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際関係論II 【昼】

専門教育科目
選択科目
米地域：国際科目群

担当者名 /Instructor 藤井 大輔 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会が抱える様々な課題を取りあげ、その課題を解決するために取り組まれている諸活動を概観する。その際、単に諸問題の表層を捉えるのではなく、解決を困難にしている要因を歴史的側面からも分析する。また、様々な課題が互に関連し合っていることを横断的に捉え直すことで、複雑な現代世界の諸相を捉える視点を養う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

池尾靖志編著『平和学をつくる』晃洋書房、2009年1
細谷千博監修、滝田賢治・大芝亮編『国際政治経済：「グローバル・イシュー」の解説と資料』有信堂高文社、2008年
中村研一(2010)『地球的問題の政治学』岩波書店
John Baylis, Steve Smith, Patricia Owens (2008) The Globalization Of World Politics: An Introduction to International Relations, Oxford University Press

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1オリエンテーション
- 2国際システムの展開
- 3ポスト冷戦期の国際システム
- 4 9・11後の世界
- 5兵器不拡散レジーム
- 6小型武器問題とNGOの活躍
- 7累積債務問題
- 8貧困問題
- 9持続可能な開発
- 10地球温暖化防止レジーム
- 11人権の主流化
- 12国際人道法違反とそれへの対応
- 13ジェンダーの視点で捉える暴力
- 14私たちの暮らしと国際関係
- 15まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- * 平常の学習状況(20%)
- * 課題(20%)
- * 学期末試験(60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際関係を私たち市民の立場から考えていきましょう。

キーワード /Keywords

構造的暴力 集団安全保障 テロとの戦い レジーム 対人地雷禁止条約 石油危機 構造調整 南北問題 人間開発 京都議定書 エンパワメント フェア・トレード

国際関係史I【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現在の国際関係を理解するために必要な歴史的な知識を提供するとともに歴史的なアプローチを紹介する。講義では、第二次世界大戦後のアメリカの外交戦略の発展を体系的に論じるとともに、とくに冷戦終結期とポスト冷戦期の外交に重点を置いて議論を進める。

教科書 /Textbooks

使用しない。ただし、J. L. Gaddis, Strategies of Containment (Oxford University Press, 2005) を基礎として講義をおこなう。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

オリエンテーションで参考文献リストを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【国際関係の史的発展】
- 第2回 国際政治史への接近視角【現実主義】【理想主義】
- 第3回 1945年の世界【ヤルタ協定】【ドイツ敗北】【ポツダム宣言】
- 第4回 封じ込めの形成【スターリン】【トルーマン】【原爆】
- 第5回 G・ケナンと長い平和【封じ込め】
- 第6回 NSC 68とアジアの激動【NSC 68】
- 第7回 朝鮮戦争の衝撃【朝鮮戦争】
- 第8回 核の恐怖【核兵器をめぐる国際政治】
- 第9回 ニュールック戦略【アイゼンハワー政権】【脱植民地化】
- 第10回 ケネディの時代とベトナム戦争【柔軟反応戦略】
- 第11回 デタント戦略【ニクソン政権】
- 第12回 レーガンのアメリカ【レーガン政権】
- 第13回 冷戦の終結【東欧革命】【ドイツ統一】【ソ連崩壊】
- 第14回 テロとの戦い【9 / 11】
- 第15回 講義の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト ... 70 % レポート ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義の内容はアメリカ合衆国が中心なので、日本外交や旧植民地諸国の発展をあわせて学習すると、国際関係の発展をよく理解できるようになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際政治 歴史 冷戦 封じ込め ポスト冷戦

国際関係史II 【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
東アジア三国（日本、清国・中国、朝鮮・韓国）の近現代史を概観し、東アジア地域史と地域研究への理解を深める。歴史は「過去と現在の対話」と言われるが、実は「過去と将来との対話」でもある。したがって、過去と現在の「東アジアの中の日本」を考えることや、将来の「東アジア地域秩序の構想・構築」に有意義な観点を見出すことを目指す。

教科書 /Textbooks
日中韓3国共通歴史教材委員会編『未来をひらく歴史 東アジア3国の近現代史』（高文研、2005）1600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
○歴史教育者協議会編『東アジア世界と日本-日本・朝鮮・中国関係史』（青木書店、2004）

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 授業のねらい、歴史へのアプローチなどの紹介
 - 2回 序章
 - 3回 第1章第1節
 - 4回 第1章第2節
 - 5回 第1章第3節
 - 6回 第2章第1節
 - 7回 第2章第2節
 - 8回 第2章第3節
 - 9回 第3章第1節
 - 10回 第3章第2節
 - 11回 第3章第6節
 - 12回 第4章第1節
 - 13回 第4章第2節
 - 14回 終章
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
報告（1回、10%）、レポート（3回、90%：30%1回）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
東アジア三国の近現代史の関連文献を自主的に調べて読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords
東アジア、地域史、比較思想、歴史克服、歴史和解、東アジア共同体

国際貿易論I【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現在の日本で、国際貿易と関係なく暮らすことはできない。朝食として、コメ、パン、お味噌汁、牛乳、卵、ベーコン、豆腐等を食べている人は多いと思う。コメを生産するには、トラクター等を使うが、輸入する原油が必要である。パンの原料の多くは輸入する小麦である。味噌や豆腐の原料の多くは、輸入大豆である。牛乳や卵やベーコンのためには、牛や豚や鶏の飼育が必要であり、そのためには輸入するトウモロコシからなる配合飼料が必要である。つまり、朝食を食べるときにも、貿易は関係している。

このような状況にありながら、保護貿易的な考えを持つ政治家や官僚などが存在する。なぜ、保護貿易が間違いであるのか、また、なぜ誤った考え方である保護貿易的な考えを持つ人がなくなるのかを示し、自由貿易を推進すべき理由を示す。その際、小学校レベルの算数は使うが、それ以上のレベルのものは使わないように努力する。

テーマ：自由貿易と保護貿易

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

水戸康夫『海外進出リスク分析』創成社、2,000円
その他の国際貿易に関わる一般的な参考書は、最初の講義時に示す。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 貿易理論を学ぶべき理由【楽市楽座、自給自足経済】
- 第3回 保護貿易の問題点【保護貿易主義者の主張】
- 第4回 自由貿易の歴史【英仏戦争、第2次世界大戦】
- 第5回 重商主義の問題点【ヒュームの理論】
- 第6回 絶対優位【A.スミス、2国2財1生産要素モデル】
- 第7回 比較優位【D.リカード、2国2財1生産要素モデル】
- 第8回 比較優位成立の確認【数値例を通じて】
- 第9回 貿易利益1【計算を通じて】
- 第10回 貿易利益2【図を用いて】
- 第11回 ヘクシャー=オリーソン理論【2国2財2生産要素モデル】
- 第12回 リプチンスキー理論【2国2財2生産要素モデル】
- 第13回 要素価格均等化定理【2国2財2生産要素モデル】
- 第14回 ストルパー=サムエルソン定理【2国2財2生産要素モデル】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20% 学期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

国際経済論を受講すると、より深く講義を理解できるかもしれない。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

出席は重視している。

キーワード /Keywords

自由貿易 保護貿易 TPP 比較優位

国際貿易論II 【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

各国政府は自由貿易をめざすべきであるが、自由貿易が実現しているとはいえない状況にある。自由貿易が実現していない理由については、国際貿易論1において講義している。自由貿易が実現しないとすれば、自由貿易未実現による国際経済の不効率を改善するものとして、直接投資が求められることになる。では、自由貿易を補完・代替するものである直接投資とはどのような特徴を持つのであろうか。講義に参加された人に対して、直接投資に関してどのような選択をするのが尋ねた後、みなさんの先輩方に対して行なった実験結果を紹介し、海外進出先国選択において偏りが見られることを紹介していきたい。

ゲーム理論を紹介するので、算数レベルものに対してアレルギーのある人は避けた方が良いかもしれないが、苦手レベルであれば、ついていけるような講義を目指す。

テーマ：経済的に合理的な選択と非合理的な選択

教科書 /Textbooks

水戸康夫『海外進出リスク分析』創成社、2009年、2,000円。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 行動経済学を紹介【行動経済学】
- 3回 ゲーム理論紹介【ゲーム理論】
- 4回 ゲーム理論の解き方【ゲーム理論】
- 5回 直接投資理論の紹介【直接投資理論】
- 6回 チキンゲーム【ゲーム理論】【標準偏差】【中央値】
- 7回 3状況提示【意思決定原理】
- 8回 認識と選択【認識と選択の乖離】
- 9回 ストライキリスクと地震リスク【コンジョイント分析】
- 10回 ライバル参入リスク【コンジョイント分析】
- 11回 「対日感情」と「親近感」【コンジョイント分析】
- 12回 模倣リスク【コンジョイント分析】
- 13回 低確率リスク：SARS反日感情
- 14回 反日感情(中国での反日デモ)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20% 期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

行動経済学の関わることを多く説明するので、行動経済学の本に注目しているほうが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

出席は重視する。

キーワード /Keywords

コンジョイント分析 ゲーム理論 経済的に合理的な選択 反日感情 直接投資理論

国際経済論I【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。国際経済論は、ミクロ経済学の応用分野である国際貿易論とマクロ経済学の応用分野である国際金融論から構成されている。本講義では、国際ミクロの立場から、国際貿易の基礎理論、貿易政策の効果、不完全競争を中心に説明を進める。

教科書 /Textbooks

大川昌幸『コア・テキスト国際経済学』（新世社）
なお、国際経済論IIも上記のテキストを使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

石川城太他『国際経済学をつかむ』（有斐閣）
石井安憲他『入門・国際経済学』（有斐閣）
浦田秀次郎『国際経済学入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 部分均衡分析(1)【消費者余剰】【生産者余剰】
- 3回 部分均衡分析(2)【自由貿易の利益】
- 4回 リカード・モデル(1)【絶対優位】【比較優位】
- 5回 リカード・モデル(2)【貿易パターン】
- 6回 ヘクシャー＝オリーン・モデル(1)【要素賦存】【要素集約度】
- 7回 ヘクシャー＝オリーン・モデル(2)【リプチンスキー定理】【ストルパー＝サミュエルソン定理】
- 8回 不完全競争と国際貿易(1)【独占市場】
- 9回 不完全競争と国際貿易(2)【ダンピング】【製品差別化】
- 10回 完全競争と貿易政策(1)【関税政策】、【補助金政策】
- 11回 完全競争と貿易政策(2)【数量割当政策】【有効保護】
- 12回 不完全競争と貿易政策(1)【国内独占】
- 13回 不完全競争と貿易政策(2)【外国独占】
- 14回 不完全競争と貿易政策(3)【戦略的貿易政策】【幼稚産業保護】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(数回) 40% 期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。
部分均衡分析に関しては、清野著『ミクロ経済学入門』（日本評論社）を参照されたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論II」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

自由貿易、不完全競争、貿易政策

国際経済論II 【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。国際経済論は、ミクロ経済学の応用分野である国際貿易論とマクロ経済学の応用分野である国際金融論から構成されている。本講義では、国際マクロの立場から、国際金融の基礎理論、為替レートの決定、マクロ経済政策を中心に説明を進める。

教科書 /Textbooks

大川昌幸『コア・テキスト国際経済学』（新世社）
なお、国際経済論Iも上記のテキストを使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小川英治『国際金融入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）
橋本優子他『国際金融論をつかむ』（有斐閣）
石井安憲他『入門・国際経済学』（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 国際収支表(1)【国民所得勘定】
- 3回 国際収支表(2)【経常収支】【資本収支】
- 4回 外国為替の基礎(1)【為替相場市場】【通貨制度】
- 5回 外国為替の基礎(2)【マーシャル＝ラーナー条件】【Jカーブ効果】
- 6回 外国為替取引(1)【直取引】【先渡取引】
- 7回 外国為替取引(2)【金利裁定】【通貨オプション】
- 8回 外国為替の決定理論(1)【アセット・アプローチ】
- 9回 外国為替の決定理論(2)【購買力平価】
- 10回 開放経済下の国民所得決定(1)【貿易乗数】
- 11回 開放経済下の国民所得決定(2)【需要の変化】
- 12回 開放経済下のマクロ経済政策(1)【マンデル＝フレミングモデル】【BP曲線】
- 13回 開放経済下のマクロ経済政策(2)【固定相場制】【財政政策】【金融政策】
- 14回 開放経済下のマクロ経済政策(3)【変動相場制】【財政政策】【金融政策】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(回数) 40 % 期末試験 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

マクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
国際経済理論のロジックをしっかりと理解し、論理的思考力を身につけてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論I」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

国際収支、外国為替、国民所得、開放経済下のマクロ経済政策

国際法I【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際法を一つのシステムとして捉え、国際法とは何か【法源論】【法の性質】、それはどのように形成され【法の定立】、実際に運用されていくのか【法の実施・履行】、【法の適用・解釈】、違反した場合どうなるのか【国際責任】、紛争はどのように処理されるのか【紛争解決】などの問題を取り扱っていきます。

教科書 /Textbooks

テキストは設定しません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 横田洋三編『国際法入門(第2版)』(有斐閣・2005)○
参考書 山手治之・松井芳郎・香西茂『ベーシック条約集』(東信堂・最新版)○
参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際社会における法律作り」

- 第2回 条約の締結
- 第3回 条約の留保
- 第4回 条約の無効
- 第5回 まとめ

第II部「特別法と一般法、国内社会における国際法」

- 第6回 慣習国際法
- 第7回 慣習国際法の法典化
- 第8回 条約と第三国
- 第9回 条約の国内的効力
- 第10回 まとめ

第III部「国際社会における秩序の維持」

- 第11回 国際責任
- 第12回 紛争の平和的解決義務と武力行使の禁止
- 第13回 自衛権
- 第14回 国際司法裁判所(ICJ)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。
課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.6%
なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習を前提とした講義を展開します。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。

履修上の注意 /Remarks

「国際法II」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

4つの願いがあります。

国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国際法の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際法は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際法の定立】、【国際法の実施・履行】、【国際法の適用・解釈】、【国際責任】、【紛争解決】

国際法II 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際社会の基本構成単位としての国家が有する「主権」に注目し、国際法上、国家とは何か【国家の要件】【承認】、国家にはどのような権利が認められ、義務が課されるのか【国家の基本的権利・義務】、それはどのように行使され、どこまで認められるのか【領域】【個人】【管轄権の競合と調整】【国際法によるコントロール】などを取り扱います。

教科書 /Textbooks

講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 横田洋三編『国際法入門(第2版)』(有斐閣・2005)○
参考書 山手治之・松井芳郎・香西茂『ベーシック条約集』(東信堂・最新版)○
参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際法上の国家」

- 第2回 国家と承認制度：国家承認
- 第3回 国家と承認制度：政府承認
- 第4回 国家の基本的権利
- 第5回 国家の基本的義務
- 第6回 まとめ

第II部「陸・海・空と国際法」

- 第7回 陸と国際法
- 第8回 海と国際法：海上交通
- 第9回 海と国際法：海洋資源
- 第10回 空と国際法
- 第11回 まとめ

第III部「国際法主体としての個人」

- 第12回 人権の国際的保障
- 第13回 国際犯罪
- 第14回 国際刑事裁判所(ICC)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。
課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.6%
なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況なども加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習を前提とした講義を展開します。
詳細は学習支援フォルダーで確認してください。

履修上の注意 /Remarks

「国際法I」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

5つの願いがあります。国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国家システム(state system)の現状と課題を把握してほしい。国際社会における主権国家の機能・役割を正しく理解してほしい。そして国益、共通利益、国際社会の公益について、積極的に考えてほしい。

キーワード /Keywords

【国家の要件】 【承認】 【国家の基本的権利・義務】 【領域】 【個人】 【管轄権の競合と調整】 【国際法によるコントロール】

国際取引法 【昼】

担当者名 /Instructor 大隈 一武 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際取引法は、単独法として存在するものではない。企業実務において展開されてきた実務先行で、学問としてはまだ確立していない分野である。企業実務における経験から、それを国際契約法、海外投資・企業経営関係法、通商法の3つに分類して授業を行う。

教科書 /Textbooks

なし。プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大隈一武『国際契約法入門』(中央経済社・1996)
外務省経済局監修『世界貿易機関を設立するマラケシュ協定WTO』(日本国際問題研究所・1997)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国際契約：英米法契約理論-例えば、【約因】、【コモンロー】、【衡平法】理論・判例検討
- 2回 契約条件と国際貿易条件【インコタームズ】、契約約款などを検討
- 3回 国際取引と制限：【OECD賄賂禁止条約】、【輸出管理ワッセナー取り決め】、歴史的展開
- 4回 国際契約書の起草：海外工事請負契約UNCITRALガイド参照、契約書のドラフティング
- 5回 国際取引諸条約(国際海上物品運送・国際物品売買条約【CISG】など)や荷為替信用状規則【L/C】など
- 6回 海外進出：投資・企業経営-単独進出と企業買収・合併など実務的な展開と内容を検討
- 7回 企業経営：株式会社・【パートナーシップ】の異同を理解し、海外合併事業の方法論、実務
- 8回～9回 投資協定、投資保証、多国間投資保証機関【MIGA】、【OECD多国籍企業ガイドライン】
- 10回 通商法：自由貿易地域と関税同盟の異同、実態、国際的動向、わが国の対応などを検討
- 11回 ブロック経済と世界貿易機関【WTO】：上記10との関連で、WTOの調整・問題点を検討
- 12回～14回 GATTからWTOへ：WTOの組織、諸協定：【紛争解決のメカニズム】
- 15回 【OECD】、【IBRD】、【IMF】などの国際機関の機能と役割：WTO以外の重要な国際機関の機能と役割を理解し、わが国の対応のあり方についても検討

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験100%
なお、出席が授業回数の3分の2に満たない場合は期末試験の受験資格を認めない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際私法【昼】

担当者名 /Instructor 小林 啓一 / NAKABAYASHI KEIICHI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本人同士の日本での結婚・売買等には日本の法律（民法など）が適用される。それでは、日本人が外国人と結婚・売買等をおこなう場合に適用されるのはいずれの国の法律であろうか。

国際私法はこのような問題を解決するための法律である。この授業では、国際私法とはどのような法律か、いかなる問題が国際私法によって解決できるかという点について、できるだけ具体例を用いながら考えてみたい。

教科書 /Textbooks

使用しない。適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

松岡博編『国際関係私法入門（第2版）』（有斐閣、2009年）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国際民事訴訟法(1)【財産関係事件の国際裁判管轄】
- 2回 国際民事訴訟法(2)【身分関係事件の国際裁判管轄】
- 3回 国際私法序論【国際私法の意義と必要性、法的性質】
- 4回 国際私法総論(1)準拠法の決定【法性決定、連結点の意味】
- 5回 国際私法総論(2)準拠法の特定【反致、公序】
- 6回 国際家族法(1)属人法と、婚姻の準拠法【国際結婚と法】
- 7回 国際家族法(2)離婚、親子関係の準拠法【国際離婚と法】
- 8回 国際家族法(3)その他の問題【氏、相続など】
- 9回 国際財産法(1)契約の準拠法(1)【当事者自治の原則】
- 10回 国際財産法(2)契約の準拠法(2)【特徴的給付、消費者契約、労働契約】
- 11回 国際財産法(3)不法行為の準拠法【一般不法行為、生産物責任、名誉毀損】
- 12回 国際財産法(4)自然人、法人【渉外的法律関係の主体と準拠法】
- 13回 国際財産法(5)その他の問題【知的財産、物権、債権譲渡】
- 14回 国際民事訴訟法(3)【外国判決の承認執行】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に指示する課題... 40% 期末試験... 60%
※出席点はありません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前準備は特に不要。復習すべき要点を授業中に指摘する。

履修上の注意 /Remarks

受講に際しては六法が必要です。
法律学科以外の学生は、「法の適用に関する通則法」をコピーでもよいから準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

他の受講生の受講機会を阻害するような私語には（もしあれば）厳しく対処します。

キーワード /Keywords

国際私法、国際取引、国際結婚

イギリス文学概論【昼】

専門教育科目
選択科目
英米文学・文化科目群

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日、文学というどうしてもかたいイメージを持ってしまふ人が多いかもしれませんが、「おもしろくなければ文学じゃない」というイギリスの作家W.S.モームの言葉にもあるように、本来、人間の様々な生き様を描いた小説や詩がおもしろくないはずはないのです。敬遠されるようになったのは、ひとつには、読書感想文を書くための読書であったり、画一的な解釈を強要される読書であったり、昨今の「読書」を取り巻く環境が変化してきたためであり、それが私たちから読書の本来の楽しさを奪ってしまっているのです。人間同士のかかわり、絆が希薄になりつつあるといわれる今、多くのすぐれた文学作品に触れることは、今一度、人間に対する、他者に対する関心を呼び起こしてくれることでしょう。

イギリス文学の歴史はそれなりに長く、詩から劇、そして小説へと発展してきたわけですが、本講義では、その始まりから説き起こし、今日に至るまでの流れを追いつつ、さらに具体的に作品の抜粋を読みつつ、それらを生み出した時代背景、文化背景との関わりを探っていきます。

伝統あるイギリス文学の作品を様々な文化事項と絡めながら見ていき、そのおもしろさを共に味わえればと思います。また同時に、作品との関連で、人間に関する様々なテーマ(生、死、愛、宗教、想像力・・・)についても問題提起をします。一緒に考えていきましょう！！

教科書 /Textbooks

An Outline of English Literature by G.C.Thornley and Gwyneth Roberts (Longman)
(テキストは、速読ができるほどの、非常に易しい英語で書かれています。)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入(文学の勤め、文学のおもしろさ、イギリスについて、評価方法などの説明)
- 2回 『ベオウルフ』(古英語) 想像力と文学、頭韻など
- 3回 『キャンタベリー物語』by チョーサー (中英語) 脚韻など
- 4回 『エヴリマン』(中英語) 死と人間
- 5回 『失楽園』by ミルトン 宗教の影響
- 6回 シェイクスピアの4大悲劇(『ハムレット』、『リア王』)
- 7回 シェイクスピアの4大悲劇(『マクベス』、『オセロ』)
- 8回 散文、日記文学(自意識の芽生え)
- 9回 『ロビンソン・クルーソー』(デフォー、勃興期の小説)
- 10回 『ガリヴァー旅行記』by スウィフト (風刺文学)
- 11回 『パメラ』by リチャードソン、『シャメラ』by フィールディング(パロディ)
- 12回 『高慢と偏見』by オースティン、『テス』by ハーディ
- 13回 ロレンス、オプライエン(問題小説)、ドラブル、イシグロ(伝統回帰)
- 14回 『不思議の国のアリス』by キャロル(児童文学、ファンタジー)
- 15回 まとめ(イギリス文学の流れ: 「詩」→「劇」→「小説」、宗教との関連)

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 or レポート(受講者数により決定します)・・・90%
平常点(課題、授業への参加度など)・・・10% (出席重視)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布する資料は、よく目を通してください。また、本講義で扱う作品に限らず、様々な文学作品をたくさん読んでください。

イギリス文学概論 【昼】

専門教育科目
選択科目
英米文学・文化科目群

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

イギリス文学の中でも現代に近い作品に関心を持っている人は「イギリスの現代文学」の受講をおすすめします。

キーワード /Keywords

「詩」「劇」「小説」「伝統」「文学のおもしろさ」「想像力」「風刺」「パロディ」「児童文学」「ファンタジー」

イギリスの18-19世紀文学 【昼】

担当者名 /Instructor 杉本 美穂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

古典といわれる作品が、現在もお読み継がれ、映画化されて脚光を浴びている。それらの作品には、時代を超えて高く評価される価値があるのみならず、今を生きる私たちがからこそできる「新しい読み」が開かれているからである。
 本講義では、イギリスの18-19世紀文学のなかから、受講生にも比較的になじみのある作家の作品を毎回1冊とりあげて解説する。作品への理解を深めるために、作家の人となり、作品成立時の時代背景や文化的背景、主題の分析、文学理論を応用する可能性など、多角的な視点を提供したい。

教科書 /Textbooks

『イギリス文学概観』 相島倫嘉 編著 (南雲堂、¥1200)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『イギリス文学ガイド』日本イギリス文学・文化研究所編 (荒地出版、¥2800)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	イントロダクション・イギリスという国	1章
第2回	ダニエル・デフォー 『ロビンソン・クルーソー』	
第3回	サムユエル・リチャードソン 『パメラ』	15章
第4回	ジェイン・オースティン 『高慢と偏見』	16章
第5回	ウィリアム・ワーズワス 『叙情歌謡集』	18章
第6回	G・G・ロード・バイロン 『ドン・ジュアン』	20章
第7回	ロバート・ブラウニング 『ピッパが通る』	25章
第8回	チャールズ・ディケンズ 『オリヴァー・トゥイスト』	26章
第9回	シャーロット・ブロンテ 『ジェイン・エア』	
第10回	エミリー・ブロンテ 『嵐が丘』	27章
第11回	トマス・ハーディ 『ダーバーヴィル家のテス』	28章
第12回	ルイス・キャロル 『不思議の国のアリス』	
第13回	オスカー・ワイルド 『サロメ』	29章
第14回	ジェイムズ・ジョイス 『ユリシーズ』	34章
第15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...20% 小テストと提出物...20% 定期試験の成績...60%、で総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* 毎回、配布する資料とテキストを読んでくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

イギリスの18-19世紀文学では、小説の勃興期とその形式・内容が成熟する過程を中心にすえて授業を進める。同時に、ロマン派とその後のイギリス文学との関わりを考察し、入門者にも分かりやすくイギリス文学史を概説したい。英国の小説と詩を味わいながら、お気に入りの一冊を見つけてもらいたい。

キーワード /Keywords

近代小説、ロマン派、ポスト・コロニアリズム、ブルームズベリ・グループ、意識の流れ

アメリカの歴史と文化【昼】

専門教育科目
選択科目
英米文学・文化科目群

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私達、誰しもがなじみの深いハリウッド映画を題材として取りあげ、アメリカの史実や文化が、いかなる形で映画に投映されているかを考察する。その過程を通して、映画とアメリカの歴史、文化との相互関連性に対する理解を深める。アメリカの歴史と文化のイメージを、映画を通して可能な限り具体的に把握できるよう工夫したい。アメリカの歴史・文化の特殊性、独自性への理解も深めることができればと思っている。具体的には、編集したハリウッド映画の断片をビデオで見ながら、映画の全体的構造を背後で支配しているアメリカ的価値観、美意識を考察する。さらに、それらの美意識と過去のアメリカの歴史との関係について考察していきたい。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。必要に応じて、レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講座・アメリカの文化 (全6巻、別巻2) 南雲堂
総合研究アメリカ (全7巻) 研究社
文明としてのアメリカ (全5巻) 日本経済新聞社
アメリカ古典文庫 (全23巻) 研究社
アメリカンヒーローの系譜 亀井俊介 研究社
荒野のアメリカ 亀井俊介 南雲堂
サーカスが来た 亀井俊介 東京大学出版会
読んで旅する世界の歴史と文化 アメリカ 新潮社
物語 アメリカの歴史 猿谷要 中公新書
資料が語るアメリカ 木下尚一 有斐閣
アメリカとは何か 斎藤真 平凡社
エスニックアメリカ 明石紀雄 有斐閣選書
新書アメリカ合衆国史 大陸国家の夢 講談社現代新書
アメリカの20世(上・下) 有賀夏紀 中公新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方、参考文献の説明
- 2回 Forrest Gump、Daylightとアメリカ人にとってのキリスト教
- 3回 Titanicとアメリカ人にとってのキリスト教
- 4回 Green Mileとキリスト教の関係の分析
- 5回 Monster's Incとアメリカの多様性の関係
- 6回 Star Warsとアメリカの多様性の関係
- 7回 The Lord of the Ringsとアメリカの多様性の関係
- 8回 Independence Dayとアメリカのほら話
- 9回 Star Wars EpIIIとアメリカのほら話
- 10回 Devil Wears Pradaとアメリカ人の個人観
- 11回 Titanicとアメリカ人の個人観
- 12回 A.Iとアメリカ人の機械観
- 13回 Terminator IIとアメリカ人の機械観
- 14回 Terminator IIIとアメリカ人の機械観
- 15回 まとめ (絶対に欠席しないこと。)

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%
試験は、配布プリント、自筆ノート(コピーノートは不可)持ち込み可で行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義で取り上げる映画は前もって伝えますので、出来るだけ見ておいてください。
講義時には、編集された映画の断片のみを見ることになります。

アメリカの歴史と文化【昼】

専門教育科目
選択科目
英米文学・文化科目群

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの生活文化 【昼】

担当者名 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、20世紀前半を中心としたアメリカの近代建築と、それらが建ち並ぶ都市の歴史を学び、現代合衆国都市の文化や人びとのくらしの源流を探ることにある。本講義では、福田は、合衆国の1900年以降に建設されたモダニズム建築を取り上げ、映像や写真を中心に、デザインの裏側にあるアメリカの文化、建築家の思考、建築デザインが生み出される社会的な背景などを解説する。寺田は、19世紀末から20世紀前半の合衆国社会の変容と都市における居住空間の形成、およびそれに伴い発生する問題について解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Twentieth-Century American Architecture: The Buildings and Their Makers (W. W. Norton & Company, 2000) ; 竹田有『アメリカ労働民衆の世界』(ミネルヴァ書房、2010年) ; リチャード・プランツ『ニューヨーク 都市居住の社会史』(鹿島出版会、2005年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . はじめに(福田 / 寺田)
- 2 . アメリカ近代建築の潮流(福田)
- 3 . シカゴ超高層建築(福田)
- 4 . ニューヨークの近代建築(福田)
- 5 . カリフォルニアの建築(福田)
- 6 . アメリカの巨匠建築家1(福田)
- 7 . アメリカの巨匠建築家2(福田)
- 8 . 大都市の誕生(寺田)
- 9 . エスニック・コミュニティの形成(寺田)
- 10 . エスニック・コミュニティにおける人びとのくらし(寺田)
- 11 . 移民と黒人のコミュニティ形成(寺田)
- 12 . 都市における対立と隔離の発生(寺田)
- 13 . 都市郊外の人びとのくらし(寺田)
- 14 . 学生レポート講評(福田)
- 15 . おわりに(寺田)

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、レポート(福田)50%、試験(寺田)50%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に紹介する参考文献等を積極的に読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの大衆文化 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

誰しもがなじみの深いハリウッド映画を題材として取りあげ、映画にアメリカ人の精神性や、美意識、価値観がいかなる形で投映されているかを考察する。その過程を通して、映画とアメリカ文化との関連性に対する理解を深める。アメリカ文化の特性を、映画を通して可能な限り具体的に把握できるよう工夫したい。この作業を通してアメリカ人の価値観や美意識の特殊性への理解を深めたい。また、ハリウッド映画を文化的な文脈の中で分析的に鑑賞する視点を、授業を通して体得してもらうことができたら幸いである。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『映画で学ぶアメリカ文化』、スクリーンプレイ出版 (映画とアメリカ文化の関連性を様々な視点から)
- 『映画で楽しむアメリカ文学』、金星堂、(アメリカ文学と映画の比較の視点から)
- 『映画で楽しむアメリカの歴史』、金星堂 (映画とアメリカ史の関連性を様々な視点から)
- 『サーカスが来た!』、亀井俊介先生、岩波書店、(指定図書コーナー)(サーカス、オペラハウス、ターザン、ハリウッド)
- 『アメリカンヒーローの系譜』、亀井俊介先生、研究社、クリーム色、(ランボー、ロッキー)
- 『アメリカの大衆文化』、明石書店、清水知久 (映画、音楽、スポーツ、広告)
- 『アメリカの大衆文化』、研究社、亀井俊介、(テレビ、漫画、音楽、映画など)
- 『アメリカが見えてくる』、サイマル出版会、越智道雄 (アメリカ社会の諸現象と映画の関連性)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方、参考文献の説明
- 2回 『ビッグ』をビデオで鑑賞
- 3回 『ビッグ』の子供描写の特徴
- 4回 アメリカ映画の子供の描き方の概観
- 5回 アメリカ映画の子供の描き方の特徴と、アメリカ史の関係
- 6回 『フェイス/オフ』、『ターミネーター2、3』、『マスク』の中の変身描写の特徴
- 7回 アメリカ映画に登場する変装描写の特徴
- 8回 アメリカ映画の変身・変装へのこだわりと、アメリカ文化との関係
- 9回 『ブラダを着た悪魔』に読み取れる金銭感覚の特徴
- 10回 『フォレスト・ガンブ』、『バック・トゥ・ザ・フューチャー』に読み取れる金銭感覚
- 11回 映画に読み取れる金銭感覚と、アメリカ文化との関係
- 12回 『スタンド・バイ・ミー』、『SW:シスの復讐』の銃の描写の特徴
- 13回 映画の銃の描き方と、アメリカ史との関係
- 14回 補足説明
- 15回 まとめ(絶対に欠席しないこと)

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%
試験は、配布プリント、自筆ノート持ち込み可(コピーは不可)で行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義で取り上げる映画は前もって伝えますので、出来るだけ見ておいてください。
講義時には、編集された断片のみを見ることになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習I (発音クリニック) 【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / Denis JONNES / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 1 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course offers instruction in English pronunciation with a view to improving listening and speaking skills. Classes will cover some theory, but emphasis is on extensive and thorough practice. Classes will proceed from individual sounds to pronunciation units to pronunciation features. Self-study, in the form of regular homework assignments, constitute an essential element of the course.

教科書 /Textbooks

Mark Hancock, "English Pronunciation in Use," (Cambridge University Press, 2003)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with instructor

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Unit 2: Plane, Plan + Unit 22: Introducing Word Stress + Unit 42: Reading Aloud
- 3回 Unit 4: Rice, Rise + Unit 24: Consonants At The Start Of Syllables + Unit 44: Showing That You Want To Continue
- 4回 Unit 6: Meet, Met + Unit 26: Syllables: Plural And Other -s Endings + Unit 46: Understanding Small Talk
- 5回 Unit 7: Carrot, Cabbage + Unit 27: Syllables: Adding Past Tense Endings + Unit 47: Understanding Instructions
- 6回 Unit 8: Few, View + Unit 28: Stress In Two-Syllable Words + Unit 48: Quoting Speech
- 7回 Unit 9: Gate, Kate + Unit 29: Stress In Compound Words + Unit 49: Introduction To Emphatic Stress
- 8回 Unit 10: Hear, We're, Year + Unit 30: Stress In Longer Words 1 + Unit 50: Emphasizing Added Details
- 9回 Unit 11: Wine, Win + Unit 31: Stress In Longer Words 2 + Unit 51: Emphasizing Important Words
- 10回 Unit 12: Sheep, Jeep, Cheap + Unit 32: Sentences With All The Words Stressed + Unit 52: Emphasizing Contrasting Alternatives
- 11回 Unit 13: Flies, Fries + Unit 33: Unstressed Words + Unit 53: Emphasizing Corrections
- 12回 Unit 16: Note, Not + Unit 36: Auxiliary Verbs + Unit 56: Tones In Asking For Information
- 13回 Unit 17: Arthur's Mother + Unit 37: Pronouncing Short Words (a, of, or) + Unit 57
- 14回 Unit 18: Sun, Full, June + Unit 38: Joining Words 1 + Unit 58: Continuing Or Finishing Tones
- 15回 Unit 19: Shirt, Short + Unit 39: Joining Words 2 + Unit 59: Agreeing and Disagreeing Tones

成績評価の方法 /Assessment Method

Active class participation -- 50% Successful completion of regular homework assignments -- 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Required course for all majors in the English Department.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習I (発音クリニック) 【昼】

担当者名 /Instructor アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course offers instruction in British English pronunciation with a view to improving both listening and speaking skills. Classes will include tuition in theory alongside extensive and thorough practice. Furthermore, each class will proceed logically from individual sounds to pronunciation units to pronunciation features. Self-study, in the form of regular homework assignments, will constitute a vital element of the course.

教科書 /Textbooks

Mark Hancock, English Pronunciation in Use, (Cambridge University Press, 2003)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None stipulated

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Unit 2: Plane, Plan + Unit 22: Introducing Word Stress + Unit 42: Reading Aloud
- 3回 Unit 4: Rice, Rise + Unit 24: Consonants At The Start Of Syllables + Unit 44: Showing That You Want To Continue
- 4回 Unit 6: Meet, Met + Unit 26: Syllables: Plural And Other -s Endings + Unit 46: Understanding Small Talk
- 5回 Unit 7: Carrot, Cabbage + Unit 27: Syllables: Adding Past Tense Endings + Unit 47: Understanding Instructions
- 6回 Unit 8: Few, View + Unit 28: Stress In Two-Syllable Words + Unit 48: Quoting Speech
- 7回 Unit 9: Gate, Kate + Unit 29: Stress In Compound Words + Unit 49: Introduction To Emphatic Stress
- 8回 Unit 10: Hear, We're, Year + Unit 30: Stress In Longer Words 1 + Unit 50: Emphasising Added Details
- 9回 Unit 11: Wine, Win + Unit 31: Stress In Longer Words 2 + Unit 51: Emphasising Important Words
- 10回 Unit 12: Sheep, Jeep, Cheap + Unit 32: Sentences With All The Words Stressed + Unit 52: Emphasising Contrasting Alternatives: Past Tense Endings
- 11回 Unit 13: Flies, Fries + Unit 33: Unstressed Words + Unit 53: Emphasising Corrections
- 12回 Unit 16: Note, Not + Unit 36: Auxiliary Verbs + Unit 56: Tones In Asking For Information
- 13回 Unit 17: Arthur's Mother + Unit 37: Pronouncing Short Words (a, of, or) + Unit 57: Tones In New And Old Information
- 14回 Unit 18: Sun, Full, June + Unit 38: Joining Words 1 + Unit 58: Continuing Or Finishing Tones
- 15回 Unit 19: Shirt, Short + Unit 39: Joining Words 2 + Unit 59: Agreeing and Disagreeing Tones

成績評価の方法 /Assessment Method

successful completion of regular homework assignments ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

None stipulated

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基礎演習I (発音クリニック) 【昼】

専門教育科目
専門基礎教育科目
必修科目

キーワード /Keywords

基礎演習I (発音クリニック) 【昼】

担当者名 /Instructor アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course offers instruction in British English pronunciation with a view to improving both listening and speaking skills. Classes will include tuition in theory alongside extensive and thorough practice. Furthermore, each class will proceed logically from individual sounds to pronunciation units to pronunciation features. Self-study, in the form of regular homework assignments, will constitute a vital element of the course.

教科書 /Textbooks

Mark Hancock, English Pronunciation in Use, (Cambridge University Press, 2003)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None stipulated

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Unit 2: Plane, Plan + Unit 22: Introducing Word Stress + Unit 42: Reading Aloud
- 3回 Unit 4: Rice, Rise + Unit 24: Consonants At The Start Of Syllables + Unit 44: Showing That You Want To Continue
- 4回 Unit 6: Meet, Met + Unit 26: Syllables: Plural And Other -s Endings + Unit 46: Understanding Small Talk
- 5回 Unit 7: Carrot, Cabbage + Unit 27: Syllables: Adding Past Tense Endings + Unit 47: Understanding Instructions
- 6回 Unit 8: Few, View + Unit 28: Stress In Two-Syllable Words + Unit 48: Quoting Speech
- 7回 Unit 9: Gate, Kate + Unit 29: Stress In Compound Words + Unit 49: Introduction To Emphatic Stress
- 8回 Unit 10: Hear, We're, Year + Unit 30: Stress In Longer Words 1 + Unit 50: Emphasising Added Details
- 9回 Unit 11: Wine, Win + Unit 31: Stress In Longer Words 2 + Unit 51: Emphasising Important Words
- 10回 Unit 12: Sheep, Jeep, Cheap + Unit 32: Sentences With All The Words Stressed + Unit 52: Emphasising Contrasting Alternatives: Past Tense Endings
- 11回 Unit 13: Flies, Fries + Unit 33: Unstressed Words + Unit 53: Emphasising Corrections
- 12回 Unit 16: Note, Not + Unit 36: Auxiliary Verbs + Unit 56: Tones In Asking For Information
- 13回 Unit 17: Arthur's Mother + Unit 37: Pronouncing Short Words (a, of, or) + Unit 57: Tones In New And Old Information
- 14回 Unit 18: Sun, Full, June + Unit 38: Joining Words 1 + Unit 58: Continuing Or Finishing Tones
- 15回 Unit 19: Shirt, Short + Unit 39: Joining Words 2 + Unit 59: Agreeing and Disagreeing Tones

成績評価の方法 /Assessment Method

successful completion of regular homework assignments ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

None stipulated

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基礎演習I (発音クリニック) 【昼】

専門教育科目
専門基礎教育科目
必修科目

キーワード /Keywords

基礎演習I (発音クリニック) 【昼】

担当者名 /Instructor アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course offers instruction in British English pronunciation with a view to improving both listening and speaking skills. Classes will include tuition in theory alongside extensive and thorough practice. Furthermore, each class will proceed logically from individual sounds to pronunciation units to pronunciation features. Self-study, in the form of regular homework assignments, will constitute a vital element of the course.

教科書 /Textbooks

Mark Hancock, English Pronunciation in Use, (Cambridge University Press, 2003)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None stipulated

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Unit 2: Plane, Plan + Unit 22: Introducing Word Stress + Unit 42: Reading Aloud
- 3回 Unit 4: Rice, Rise + Unit 24: Consonants At The Start Of Syllables + Unit 44: Showing That You Want To Continue
- 4回 Unit 6: Meet, Met + Unit 26: Syllables: Plural And Other -s Endings + Unit 46: Understanding Small Talk
- 5回 Unit 7: Carrot, Cabbage + Unit 27: Syllables: Adding Past Tense Endings + Unit 47: Understanding Instructions
- 6回 Unit 8: Few, View + Unit 28: Stress In Two-Syllable Words + Unit 48: Quoting Speech
- 7回 Unit 9: Gate, Kate + Unit 29: Stress In Compound Words + Unit 49: Introduction To Emphatic Stress
- 8回 Unit 10: Hear, We're, Year + Unit 30: Stress In Longer Words 1 + Unit 50: Emphasising Added Details
- 9回 Unit 11: Wine, Win + Unit 31: Stress In Longer Words 2 + Unit 51: Emphasising Important Words
- 10回 Unit 12: Sheep, Jeep, Cheap + Unit 32: Sentences With All The Words Stressed + Unit 52: Emphasising Contrasting Alternatives: Past Tense Endings
- 11回 Unit 13: Flies, Fries + Unit 33: Unstressed Words + Unit 53: Emphasising Corrections
- 12回 Unit 16: Note, Not + Unit 36: Auxiliary Verbs + Unit 56: Tones In Asking For Information
- 13回 Unit 17: Arthur's Mother + Unit 37: Pronouncing Short Words (a, of, or) + Unit 57: Tones In New And Old Information
- 14回 Unit 18: Sun, Full, June + Unit 38: Joining Words 1 + Unit 58: Continuing Or Finishing Tones
- 15回 Unit 19: Shirt, Short + Unit 39: Joining Words 2 + Unit 59: Agreeing and Disagreeing Tones

成績評価の方法 /Assessment Method

successful completion of regular homework assignments ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

None stipulated

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基礎演習I (発音クリニック) 【昼】

専門教育科目
専門基礎教育科目
必修科目

キーワード /Keywords

基礎演習II【昼】

担当者名 /Instructor ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1 - 1
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course primarily aims to help students to write academic essays in English. The process of essay writing will be broken down into manageable elements, with each class being made up of tasks which focus on one or two of these elements.

教科書 /Textbooks

Copies will be distributed in class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Unspecified

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Lesson 1: Course Introduction
- Lesson 2: Writing Biography
- Lesson 3: Journalistic Writing
- Lesson 4: Opinion Essay
- Lesson 5: Evaluating Texts
- Lesson 6: Outlining and Summarizing
- Lesson 7: Determining a Subject
- Lesson 8: Organizing Paragraphs
- Lesson 9: Citing Source Information
- Lesson 10: Revising a Draft
- Lesson 11: Writing Introductions and Conclusions
- Lesson 12: Writing Poetry in English
- Lesson 13: Term Paper Submission
- Lesson 14: Review
- Lesson 15: Class Wrap-up

成績評価の方法 /Assessment Method

Class Participation : 30%, Quizzes : 20%, Assignments : 30%, Attitude : 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Weekly homework assignments will be given to allow students to practice and grow accustomed to the essay-writing points covered in class. Speaking practice will also constitute part of the course as each class will include time for discussion of class content in English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

composition, writing style, academic writing

基礎演習II【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / Denis JONNES / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The course seeks to develop writing and research skills. 1st class segment focuses on personal essay and writing from one's own experience. 2nd class segment focuses on academic essay, choosing research project, collecting information and data, and analytic writing skills. In-class discussion will emphasize outlining, paragraph and essay organization, use of examples, proofreading, revising, as well as use of appropriate vocabulary. Students will have the opportunity to write on a range of topics.

教科書 /Textbooks

Stephen Bailey, "Academic Writing: A Handbook for International Students" (Routledge)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 People -- Biographical Sketch
- 3回 Places and things -- Descriptive Writing
- 4回 Actions and events -- Narrative
- 5回 For & Against -- Expressing Opinion
- 6回 Texts -- Summarizing
- 7回 Research Essay -- Choosing topics
- 8回 Finding sources
- 9回 Collecting and evaluating information
- 10回 Note-taking
- 11回 Using quoted material
- 12回 Outlining & Introduction
- 13回 Developing key points
- 14回 Draft of research essay
- 15回 Revising and compiling bibliography
- 16回 Final draft

成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation & class work ... 30% Short essays ...30% Research paper ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Completion of first semester English Department requirements.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Personal Essay, Academic Essay, Research Paper

基礎演習II【昼】

専門教育科目
専門基礎教育科目
必修科目

担当者名 /Instructor
ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course offers instruction in the writing of academic essays in English. The process of essay writing will be broken down into manageable elements, with each class being made up of tasks which focus on one or two of these elements. Speaking practice will also constitute part of the course as each class will include time for discussion of class content in English.

教科書 /Textbooks

Stephen Bailey, Academic Writing: A Handbook for International Students (Routledge, 2006)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with instructor

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 The Writing Process: Writing Foundations
- 3 回 The Writing Process: Reading and Note-Making
- 4 回 The Writing Process: Writing Stages Part 1
- 5 回 The Writing Process: Writing Stages Part 2
- 6 回 Elements of Writing: Argument + Cause and Effect
- 7 回 Elements of Writing: Cohesion + Comparison
- 8 回 Elements of Writing: Discussion + Examples
- 9 回 Elements of Writing: References
- 10 回 Elements of Writing: Quotations
- 11 回 Accuracy in Writing : Eradicating Common Errors Part 1
- 12 回 Accuracy in Writing : Eradicating Common Errors Part 2
- 13 回 Elements of Writing: Restatement and Repetition
- 14 回 Elements of Writing: Visual Information
- 15 回 Class Review

成績評価の方法 /Assessment Method

successful completion of regular written assignments ... 50% final essay ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

completion of first semester English Department requirements

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習II【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 This course offers instruction in the writing of academic essays in English. The process of essay writing will be broken down into manageable elements, with each class being made up of tasks which focus on one or two of these elements. Speaking practice will also constitute part of the course as each class will include time for discussion of class content in English.

教科書 /Textbooks
 Stephen Bailey, Academic Writing: A Handbook for International Students (Routledge, 2006)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 In consultation with instructor

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1 回 Introduction
 - 2 回 The Writing Process: Writing Foundations
 - 3 回 The Writing Process: Reading and Note-Making
 - 4 回 The Writing Process: Writing Stages Part 1
 - 5 回 The Writing Process: Writing Stages Part 2
 - 6 回 Elements of Writing: Argument + Cause and Effect
 - 7 回 Elements of Writing: Cohesion + Comparison
 - 8 回 Elements of Writing: Discussion + Examples
 - 9 回 Elements of Writing: References
 - 10 回 Elements of Writing: Quotations
 - 11 回 Accuracy in Writing : Eradicating Common Errors Part 1
 - 12 回 Accuracy in Writing : Eradicating Common Errors Part 2
 - 13 回 Elements of Writing: Restatement and Repetition
 - 14 回 Elements of Writing: Visual Information
 - 15 回 Class Review

成績評価の方法 /Assessment Method
 successful completion of regular written assignments ... 50% final essay ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 completion of first semester English Department requirements

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義・実習
 クラス /Class 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will build students' oral and aural English skills through a task-based, English for Specific Purposes approach. Practical activities will focus on the language and situations of tourism and the tourism industry. The class will prepare students who may be interested in working in travel or travel related fields. It will also help students enrich their travel experiences in countries where communication in English is necessary. The course will also be useful for developing general listening proficiency and speaking fluency in English.

教科書 /Textbooks

Travel English: For Tourism Industry Professionals. Fujita, Reiko. Macmillan LanguageHouse. 2008.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction to the course, the text and the material.
- 2 回 Tour Booking
- 3 回 Taking a Holiday Booking
- 4 回 Taking Your Group to Destinations – Tour Escort
- 5 回 Yokoso Japan: Guiding Your Customers
- 6 回 Group role play
- 7 回 Receiving Flight Reservations
- 8 回 Giving Information on Flights
- 9 回 At the Airport Check-in Counter
- 1 0 回 Inquiry Call to a Hotel
- 1 1 回 At the Hotel Front Desk
- 1 2 回 At the Concierge Desk
- 1 3 回 Project preparation
- 1 4 回 Project delivery
- 1 5 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 40% Assignment 30% Final Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review the materials from the previous week. Learn the glossary words for the coming unit.
 Complete the homework assignments in a timely manner.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話演習 A 【昼】

担当者名 アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 1 - 2
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will build students' oral and aural English skills through a task-based, English for Specific Purposes approach. Practical activities will focus on the language and situations of tourism and the tourism industry. The class will prepare students who may be interested in working in travel or travel related fields. It will also help students enrich their travel experiences in countries where communication in English is necessary. The course will also be useful for developing general listening proficiency and speaking fluency in English.

教科書 /Textbooks

Travel English: For Tourism Industry Professionals. Fujita, Reiko. Macmillan LanguageHouse. 2008.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Introduction to the course, the text and the material.
- 2 回Tour Booking
- 3 回Taking a Holiday Booking
- 4 回Taking Your Group to Destinations – Tour Escort
- 5 回Yokoso Japan: Guiding Your Customers
- 6 回Group role play
- 7 回Receiving Flight Reservations
- 8 回Giving Information on Flights
- 9 回At the Airport Check-in Counter
- 1 0 回Inquiry Call to a Hotel
- 1 1 回At the Hotel Front Desk
- 1 2 回At the Concierge Desk
- 1 3 回Project preparation
- 1 4 回Project delivery
- 1 5 回Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 40% Assignment 30% Final Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review the materials from the previous week. Learn the glossary words for the coming unit.
 Complete the homework assignments in a timely manner.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話演習 A 【昼】

担当者名 アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 1 - 3
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will build students' oral and aural English skills through a task-based, English for Specific Purposes approach. Practical activities will focus on the language and situations of tourism and the tourism industry. The class will prepare students who may be interested in working in travel or travel related fields. It will also help students enrich their travel experiences in countries where communication in English is necessary. The course will also be useful for developing general listening proficiency and speaking fluency in English.

教科書 /Textbooks

Travel English: For Tourism Industry Professionals. Fujita, Reiko. Macmillan LanguageHouse. 2008.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction to the course, the text and the material.
- 2 回 Tour Booking
- 3 回 Taking a Holiday Booking
- 4 回 Taking Your Group to Destinations – Tour Escort
- 5 回 Yokoso Japan: Guiding Your Customers
- 6 回 Group role play
- 7 回 Receiving Flight Reservations
- 8 回 Giving Information on Flights
- 9 回 At the Airport Check-in Counter
- 1 0 回 Inquiry Call to a Hotel
- 1 1 回 At the Hotel Front Desk
- 1 2 回 At the Concierge Desk
- 1 3 回 Project preparation
- 1 4 回 Project delivery
- 1 5 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 40% Assignment 30% Final Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review the materials from the previous week. Learn the glossary words for the coming unit.
 Complete the homework assignments in a timely manner.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話演習 A 【昼】

担当者名 アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 1 - 4
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will build students' oral and aural English skills through a task-based, English for Specific Purposes approach. Practical activities will focus on the language and situations of tourism and the tourism industry. The class will prepare students who may be interested in working in travel or travel related fields. It will also help students enrich their travel experiences in countries where communication in English is necessary. The course will also be useful for developing general listening proficiency and speaking fluency in English.

教科書 /Textbooks

Travel English: For Tourism Industry Professionals. Fujita, Reiko. Macmillan LanguageHouse. 2008.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Introduction to the course, the text and the material.
- 2 回Tour Booking
- 3 回Taking a Holiday Booking
- 4 回Taking Your Group to Destinations – Tour Escort
- 5 回Yokoso Japan: Guiding Your Customers
- 6 回Group role play
- 7 回Receiving Flight Reservations
- 8 回Giving Information on Flights
- 9 回At the Airport Check-in Counter
- 1 0 回Inquiry Call to a Hotel
- 1 1 回At the Hotel Front Desk
- 1 2 回At the Concierge Desk
- 1 3 回Project preparation
- 1 4 回Project delivery
- 1 5 回Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 40% Assignment 30% Final Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review the materials from the previous week. Learn the glossary words for the coming unit.
 Complete the homework assignments in a timely manner.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英作文演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 山口 実 / YAMAGUCHI, Minoru / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

与えられたテーマに沿って英文を作成するトレーニングを行う。英単語・構文・文法事項などに関する正確な知識を出来るだけ増やすことで基礎的な英語力を高め、英作文に使える「引き出し」を多くする。また内容がフォーマルなものか、インフォーマルなものかに注意して英文を作成する。

教科書 /Textbooks

Improving Your Writing 表現力をつける英作文 (南雲堂)
 著者: 佐藤寧・J. Kevin Varden・佐藤裕美
 ISBN4-523-17363-X

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ひとりで学べる英作文 (創元社)
 著者: 松村純・Leaping Lizards
 ISBN4-422-81234-3

例解和文英訳教本 (プレイス)
 著者: 小倉弘
 ISBN978-4-903738-23-9

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 英語の文型
- 3回 第一章 冠詞と不定冠詞 ~ Meeting New People at College
- 4回 第二章 受動文、主語と動詞の一致 ~ Attending Classes
- 5回 第三章 時制、アスペクト ~ Pastimes
- 6回 第四章 助動詞 ~ Volunteer Activities
- 7回 第五章 不定詞と動名詞 ~ Environmental Problems
- 8回 第六章 関係詞節 (関係代名詞・関係副詞) ~ Cultural Differences
- 9回 第七章 名詞節(接続詞) ~ Studying Abroad
- 10回 第八章 否定表現 ~ Part Time Jobs
- 11回 第九章 分詞構文と分詞による名詞修飾 ~ Youth and Politics
- 12回 第十章 比較級・最上級の表現 ~ Spending Holidays Abroad
- 13回 第十一章 使役動詞 ~ Job Hunting
- 14回 第十二章 条件節と仮定法 ~ Information Technology
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度・課題遂行・・・50% 期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習を励行すること。

履修上の注意 /Remarks

しっかり講義に出席して、課題等講師の指示に従うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

25年の三井物産の国際ビジネスマンとしての経験・智恵や通算約14年半の米国・イギリス・中東・インドネシアなどの在外経験、更に8年の実践英語教育者としての経験などを活かして、楽しく有意義な講義にしますので、一緒にベストを尽くして学びましょう。

キーワード /Keywords

Practice makes perfect.
ご縁～利他の精神

英作文演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 山口 実 / YAMAGUCHI, Minoru / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

与えられたテーマに沿って英文を作成するトレーニングを行う。英単語・構文・文法事項などに関する正確な知識を出来るだけ増やすことで基礎的な英語力を高め、英作文に使える「引き出し」を多くする。また内容がフォーマルなものか、インフォーマルなものかに注意して英文を作成する。

教科書 /Textbooks

Improving Your Writing 表現力をつける英作文 (南雲堂)
 著者: 佐藤寧・ J. Kevin Varden・ 佐藤裕美
 ISBN4-523-17363-X 1600円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ひとりで学べる英作文 (創元社)
 著者: 松村純・ Leaping Lizards
 ISBN4-422-81234-3

例解和文英訳教本 (ブレイス)
 著者: 小倉弘
 ISBN978-4-903738-23-9

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 英語の文型
- 3回 第一章 冠詞と不定冠詞 ~ Meeting New People at College
- 4回 第二章 受動文、主語と動詞の一致 ~ Attending Classes
- 5回 第三章 時制、アスペクト ~ Pastimes
- 6回 第四章 助動詞 ~ Volunteer Activities
- 7回 第五章 不定詞と動名詞 ~ Environmental Problems
- 8回 第六章 関係詞節 (関係代名詞・関係副詞) ~ Cultural Differences
- 9回 第七章 名詞節(接続詞) ~ Studying Abroad
- 10回 第八章 否定表現 ~ Part Time Jobs
- 11回 第九章 分詞構文と分詞による名詞修飾 ~ Youth and Politics
- 12回 第十章 比較級・最上級の表現 ~ Spending Holidays Abroad
- 13回 第十一章 使役動詞 ~ Job Hunting
- 14回 第十二章 条件節と仮定法 ~ Information Technology
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度・課題遂行・・・50% 期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習を励行すること。

履修上の注意 /Remarks

しっかり講義に出席して、課題等講師の指示に従うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

25年の三井物産の国際ビジネスマンとしての経験・ 智恵や通算約14年半の米国・ イギリス・ 中東・ インドネシアなどの在外経験、更に8年の実践英語教育者としての経験などを活かして、楽しく有意義な講義にしますので、一緒にベストを尽くして学びましょう。

キーワード /Keywords

Practice makes perfect.
ご縁～利他の精神

英作文演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

与えられたテーマに沿って英文を作成するトレーニングを行う。英単語・構文・文法事項などに関する正確な知識を出来るだけ増やすことで基礎的な英語力を高め、英作文に使える「引き出し」を多くする。また内容がフォーマルなものか、インフォーマルなものかに注意して英文を作成する。

教科書 /Textbooks

神保尚武 / Kate Elwood他著
 Get Your Message Across: Writing Communicative Paragraphs (南雲堂、2008年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『マーフィーのケンブリッジ英文法』(中級編)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Writing Guide 「書式と句読法」
- 第2回 What Is a Paragraph? 「パラグラフとは？」
- 第3回 The Topic Sentence 「主題文とは？」
- 第4回 Supporting Sentences 「支持文とは？」
- 第5回 Time Order 「時間の順序」
- 第6回 Space Order 「空間の順序」
- 第7回 Process and Direction 「過程・手順と指示」
- 第8回 Cause and Effect 「因果関係による展開」
- 第9回 Definition 「定義による展開」
- 第10回 Classification 「分類による展開」
- 第11回 Comparison and Contrast 「比較・対照による展開」
- 第12回 From a Paragraph to a Short Essay (1)
- 第13回 From a Paragraph to a Short Essay (2)
- 第14回 Presentation
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況及び課題・・・50% 学期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習すること。英和・和英・英英辞典を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英作文演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

与えられたテーマに沿って英文を作成するトレーニングを行う。英単語・構文・文法事項などに関する正確な知識を出来るだけ増やすことで基礎的な英語力を高め、英作文に使える「引き出し」を多くする。また内容がフォーマルなものか、インフォーマルなものかに注意して英文を作成する。

教科書 /Textbooks

神保尚武 / Kate Elwood他著
 Get Your Message Across: Writing Communicative Paragraphs (南雲堂、2008年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『マーフィーのケンブリッジ英文法』(中級編)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Writing Guide 「書式と句読法」
- 第2回 What Is a Paragraph? 「パラグラフとは？」
- 第3回 The Topic Sentence 「主題文とは？」
- 第4回 Supporting Sentences 「支持文とは？」
- 第5回 Time Order 「時間の順序」
- 第6回 Space Order 「空間の順序」
- 第7回 Process and Direction 「過程・手順と指示」
- 第8回 Cause and Effect 「因果関係による展開」
- 第9回 Definition 「定義による展開」
- 第10回 Classification 「分類による展開」
- 第11回 Comparison and Contrast 「比較・対照による展開」
- 第12回 From a Paragraph to a Short Essay (1)
- 第13回 From a Paragraph to a Short Essay (2)
- 第14回 Presentation
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況及び課題・・・50% 学期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習をすること。英和・和英・英英辞典を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学概論 【昼】

専門教育科目
専門基礎教育科目
選択科目

担当者名 /Instructor 北峯 裕士 / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語学に関する基礎知識の習得。

教科書 /Textbooks

『英語学概論 - 三大文法の流れと特徴 - 』朝日出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- K. Takami(1992)
- 『英語学へのファーストステップ』有村 (他) 英宝社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

文は単語の配列で構成されているが、単語と単語の関係は線の順序だけではなく、階層的關係が存在することを理解してもらう。

- 1回 ガイダンス
- 2回 言語学の諸分野
- 3回 歴史比較言語学によるインド=ヨーロッパ祖語の再構築及び英語史の概略説明
- 4回 英文法の歴史の概略説明 (規範文法から記述文法への流れ)
- 5回 音声と音素
- 6回 語と形態素
- 7回 アメリカ構造主義による複数個の形態素から成り立つ語のIC分析
- 8回 伝統文法、アメリカ構造主義、生成文法における、それぞれの語の分類方法
- 9回 統語論その1 (品詞の分類に基づいた伝統文法における統語構造の分析方法とアメリカ構造主義における統語構造のIC分析の欠点、利点)
- 10回 統語論その2 (生成文法における統語構造の分析方法)
- 11回 意味論 (オグデン、リチャーズの意味の三角形の概略説明等)
- 12回 認知言語学の概略説明
- 13回 S. Kuno等が提案している機能文法の概略説明 (前置詞残留現象を例に取り)
- 14回 述語が持つ項構造 (不定詞等に見られる発音されない意味上の主語を仮定する根拠の概略説明)
- 15回 まとめ

10回程度、講義の終わりに小テストを行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

試験40% 小テスト20% レポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前もって、テキストを読んでくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英文法I【昼】

担当者名 /Instructor 廣田 恵美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 1・2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

主に英語教育を目指す人を対象に、英語の仕組みそのものを平易な切り口で理解してもらうことを目的とする。

教科書 /Textbooks

『Rediscover Grammar』 (David Crystal著 Longman)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『英文法ビフォー&アフター』 (豊永 彰著 南雲堂 1,400円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Types of sentences
- 3回 Clause types
- 4回 The verb element, The subject element
- 5回 The object element, The complement element
- 6回 The adverbial element
- 7回 Verb phrase structure
- 8回 Finite and nonfinite
- 9回 Auxilliary verbs
- 10回 The moods of the verb phrase
- 11回 Active and passive
- 12回 Verb tenses
- 13回 Verb aspects
- 14回 Modal meanings
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...80% 授業への取り組み (小テスト含む)...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

無届けの遅刻や欠席に対しては、厳しい態度で臨む所存です。

キーワード /Keywords

「使える英文法」文の仕組み 動詞 名詞

英文法I【昼】

担当者名 /Instructor 廣田 恵美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 3・4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

主に英語教育を目指す人を対象に、英語の仕組みそのものを平易な切り口で理解してもらうことを目的とする。

教科書 /Textbooks

『Rediscover Grammar』 (David Crystal著 Longman)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『英文法ビフォー&アフター』 (豊永 彰著 南雲堂 1,400円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Types of sentences
- 3回 Clause types
- 4回 The verb element, The subject element
- 5回 The object element, The complement element
- 6回 The adverbial element
- 7回 Verb phrase structure
- 8回 Finite and nonfinite
- 9回 Auxilliary verbs
- 10回 The moods of the verb phrase
- 11回 Active and passive
- 12回 Verb tenses
- 13回 Verb aspects
- 14回 Modal meanings
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...80% 授業への取り組み (小テスト含む) ...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

無届けの遅刻や欠席に対しては、厳しい態度で臨む所存です。

キーワード /Keywords

「使える英文法」文の仕組み 動詞 名詞

英文法II 【昼】

担当者名 /Instructor 廣田 恵美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 1・2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「英文法の体系を習得することを目的に、文法的事象の分析や整理の仕方を具体的に学習する。英文法の習得には日本語文法との比較対象が有効であるとの前提に立ち、学習の一助とする。」

教科書 /Textbooks

『Rediscover Grammar』 David Crystal著 Longman
 教材プリント

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『英文法ビフォー&アフター』(豊永 彰著)南雲堂 ¥1,400

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業方針と成績評価の仕方に関する説明。
- 2回 The Noun Phrase : Noun Phrase Structure: Nouns: Common and proper nouns
- 3回 The Noun Phrase : Count and noncount nouns: Variable vs invariable nouns
- 4回 The Noun Phrase : Gender: Case: Determiners: Modifications: Relative clauses
- 5回 Pronouns : Types of pronouns: Personal pronouns: Pronoun case: Pronoun gender
- 6回 Adjectives : The functions of the adjectives: Adjective comparisons
- 7回 Adverbs and adverbials : Adverbial positions: Adjuncts: Subjuncts: Disjuncts
- 8回 Prepositions : Simple and complex prepositions: Prepositional meanings
- 9回 Reducing and expanding sentences : Multiple sentences: Coordination: Subordination
- 10回 Reducing and expanding sentences : Comment clauses: Reporting speech
- 11回 The information structure of the sentence : Sentence information: Existential sentence
- 12回 Above the sentence : Sentence connections: Grammar in texts
- 13回 Related issues : Word formation
- 14回 Related issues: : Prosody: Punctuations
- 15回 要約とまとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

プロジェクト...30% + 試験...70%で総合評価をする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

専門基礎教育科目の「英文法I」や「英語学概論」とあわせて受講すればわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英文法II 【昼】

担当者名 /Instructor 廣田 恵美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 3・4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「英文法の体系を習得することを目的に、文法的事象の分析や整理の仕方を具体的に学習する。英文法の習得には日本語文法との比較対象が有効であるとの前提に立ち、学習の一助とする。」

教科書 /Textbooks

『Rediscover Grammar』 David Crystal著 Longman
 教材プリント

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『英文法ビフォー&アフター』(豊永 彰著)南雲堂 ¥1,400

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業方針と成績評価の仕方に関する説明。
- 2回 The Noun Phrase : Noun Phrase Structure: Nouns: Common and proper nouns
- 3回 The Noun Phrase : Count and noncount nouns: Variable vs invariable nouns
- 4回 The Noun Phrase : Gender: Case: Determiners: Modifications: Relative clauses
- 5回 Pronouns : Types of pronouns: Personal pronouns: Pronoun case: Pronoun gender
- 6回 Adjectives : The functions of the adjectives: Adjective comparisons
- 7回 Adverbs and adverbials : Adverbial positions: Adjuncts: Subjuncts: Disjuncts
- 8回 Prepositions : Simple and complex prepositions: Prepositional meanings
- 9回 Reducing and expanding sentences : Multiple sentences: Coordination: Subordination
- 10回 Reducing and expanding sentences : Comment clauses: Reporting speech
- 11回 The information structure of the sentence : Sentence information: Existential sentence
- 12回 Above the sentence : Sentence connections: Grammar in texts
- 13回 Related issues : Word formation
- 14回 Related issues: : Prosody: Punctuations
- 15回 要約とまとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

プロジェクト...30% + 試験...70%で総合評価をする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

専門基礎教育科目の「英文法I」や「英語学概論」とあわせて受講すればわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーション概論【昼】

担当者名 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本と主にアメリカを例に取り、異文化接触に伴うコミュニケーション(非言語も含む)の衝突、摩擦の事例を考察して、そのメカニズムを言語的、社会的、文化的要因に分解しながら説明していく。その中で異文化コミュニケーションに関する実践的方法論などにも触れる。

教科書 /Textbooks

授業最初のコースワークの説明の時に、知らせる。また必要な資料は授業において適宜配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『科学としての異文化コミュニケーション』チャールズ・プリブル ナカニシア出版
 鈴木孝夫『ことばと文化』岩波新書
 古田暁(監修)『異文化コミュニケーション』有斐閣選書
 その他の文献に関しては適宜知らせる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コースワークの説明
- 2回 文化とは何か、コミュニケーションとは何か
- 3回 異文化間コミュニケーションの諸相
- 4回 言語相対性論とコミュニケーション
- 5回 ことばと文化とコミュニケーション
- 6回 日本語と英語の構造に起因するコミュニケーション・ギャップ
- 7回 事例観察 各事例とその基になる日米文化の差異(留学などによる直感的な観察)
- 8回 事例観察 理論(ハイコンテキスト、ローコンテキスト)に基づく分析
- 9回 事例研究 日本語話者が多弁なとき。それに対する在日外国人からの反応
- 10回 事例研究 統計的処理の実例(非)ステレオタイプ反応
- 11回 事例研究 実践方法(バーンランド)の手順「私的自己 vs 公的自己」「防御の方策」
- 12回 非言語行動 研究領域、日韓行動の差異
- 13回 広告・翻訳に見る異文化コミュニケーション
- 14回 異文化適応 カルチュラル・アシミレ-タ-
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加 30% 期末試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コミュニケーション論であり、スキルの問題を取り扱う訳ではない。幅広い領域であるがことばと文化が深く関わっていること、文化がコミュニケーションにどのように関わっているかを観察することに興味を持っていることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化、コミュニケーションとは コミュニケーション・ギャップ 事例観察 ハイ、ロー・コンテキスト

英語リスニング演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 石井有希子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

オーディオ教材を利用してリスニングスキルの上達を目的とした授業を行う。ニュースの映像を扱ったDVD教材を用い、語彙、表現、聴き取り等の練習を行なう。特に必要な情報を聴き取る練習に重点を置く。

教科書 /Textbooks

Sakae Onoda 他著.(2011). 『BBC Understanding the News in English 8』.金星堂.
(テキスト変更の可能性あり)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Unit 1 'King of sushi' threatened
- 3 回 Unit 2 Agatha Christie: the queen of crime fiction
- 4 回 Unit 3 Student visas under attack
- 5 回 Unit 4 Troubled waters in Somalia
- 6 回 Unit 5 A caffeine-fuelled economic stimulus
- 7 回 Unit 6 The rise of paganism
- 8 回 Unit 7 Tiananmen Square: 20 years on
- 9 回 Unit 8 Oral cancer
- 1 0 回 Unit 9 A digital reading revolution?
- 1 1 回 Unit 10 Violence in schools
- 1 2 回 Unit 11 Disappearing coral reefs
- 1 3 回 Unit 12 Swine flu in Mexico
- 1 4 回 Unit 13 Paternity leave
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20～30%、期末試験...70～80%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

時事英語を理解するためには、背景の知識も必要となります。英語力の強化に止まらず、現代社会が抱える問題を文化、社会、歴史、政治、経済など様々な方向から読み取れるよう、日頃から新聞や雑誌、テレビ、ネットのニュースには目配りをしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ネット環境が整っている現在、日本にいながらにして 英語圏のニュースを視聴したり、リスニング教材を無料で利用できるサイトがあります。授業中にお知らせしますので、是非活用してください。

授業で準備する範囲を指示しますので、予習を怠りなくすることが求められます。DVDはテキストに付属されているので繰り返し聴き、耳を慣らしてください。

キーワード /Keywords

英語リスニング演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

オーディオ教材を利用してリスニングスキルの上達を目的とした授業を行う。ニュースの映像を扱ったDVD教材を用い、語彙、表現、聴き取り等の練習を行なう。特に必要な情報を聴き取る練習に重点を置く。

教科書 /Textbooks

Sakae Onoda 他著.(2011). 『BBC Understanding the News in English 8』.金星堂.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Unit 1 'King of sushi' threatened
- 3 回 Unit 2 Agatha Christie: the queen of crime fiction
- 4 回 Unit 3 Student visas under attack
- 5 回 Unit 4 Troubled waters in Somalia
- 6 回 Unit 5 A caffeine-fuelled economic stimulus
- 7 回 Unit 6 The rise of paganism
- 8 回 Unit 7 Tiananmen Square: 20 years on
- 9 回 Unit 8 Oral cancer
- 1 0 回 Unit 9 A digital reading revolution?
- 1 1 回 Unit 10 Violence in schools
- 1 2 回 Unit 11 Disappearing coral reefs
- 1 3 回 Unit 12 Swine flu in Mexico
- 1 4 回 Unit 13 Paternity leave
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、期末試験...80%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回指定された箇所を予習してくる。辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リスニング演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

オーディオ教材を利用してリスニングスキルの上達を目的とした授業を行う。ニュースの映像を扱ったDVD教材を用い、語彙、表現、聴き取り等の練習を行なう。特に必要な情報を聴き取る練習に重点を置く。

教科書 /Textbooks

Sakae Onoda 他著.(2011). 『BBC Understanding the News in English 8』.金星堂.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Unit 1 'King of sushi' threatened
- 3 回 Unit 2 Agatha Christie: the queen of crime fiction
- 4 回 Unit 3 Student visas under attack
- 5 回 Unit 4 Troubled waters in Somalia
- 6 回 Unit 5 A caffeine-fuelled economic stimulus
- 7 回 Unit 6 The rise of paganism
- 8 回 Unit 7 Tiananmen Square: 20 years on
- 9 回 Unit 8 Oral cancer
- 1 0 回 Unit 9 A digital reading revolution?
- 1 1 回 Unit 10 Violence in schools
- 1 2 回 Unit 11 Disappearing coral reefs
- 1 3 回 Unit 12 Swine flu in Mexico
- 1 4 回 Unit 13 Paternity leave
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、期末試験...80%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回指定された箇所を予習してくる。辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リスニング演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 石井有希子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、オーディオ教材を利用してリスニングスキルの上達を目的とした授業を行う。ニュースの映像を扱ったDVD教材を用い、語彙、表現、聴き取り等の練習を行なう。必要な情報を聴き取る練習に重点を置く。

* リスニングの訓練以外に、トランスクリプトを通じて基本的な語彙・文法・語法も確認します。

教科書 /Textbooks

Sakae Onoda 他著.(2011). 『BBC Understanding the News in English 8』.金星堂.
(テキスト変更の可能性あり)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Unit 1 'King of sushi' threatened
- 3 回 Unit 2 Agatha Christie: the queen of crime fiction
- 4 回 Unit 3 Student visas under attack
- 5 回 Unit 4 Troubled waters in Somalia
- 6 回 Unit 5 A caffeine-fuelled economic stimulus
- 7 回 Unit 6 The rise of paganism
- 8 回 Unit 7 Tiananmen Square: 20 years on
- 9 回 Unit 8 Oral cancer
- 1 0 回 Unit 9 A digital reading revolution?
- 1 1 回 Unit 10 Violence in schools
- 1 2 回 Unit 11 Disappearing coral reefs
- 1 3 回 Unit 12 Swine flu in Mexico
- 1 4 回 Unit 13 Paternity leave
- 1 5 回 まとめ

* 時事英語の他に、様々なシーンの英語を視聴する予定です。(プリント配布)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み20～30% 定期試験70～80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

時事英語を理解するためには、背景の知識も必要となります。英語力の強化に止まらず、現代社会が抱える問題を文化、社会、歴史、政治、経済など様々な方向から読み取れるよう、日頃から新聞や雑誌、ネット、テレビのニュースには目配りをしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ネット環境が整っている現在、日本にいながらにして 英語圏のニュースを視聴したり、リスニング教材を無料で利用できるサイトがあります。授業中にお知らせしますので、是非活用してください。

授業で準備する範囲を指示しますので、予習を怠りなくすることが求められます。DVDはテキストに付属されているので繰り返し聴き、耳を慣らしてください。

キーワード /Keywords

英会話演習B 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名 /Instructor デニス・ウールブライト / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

To teach students the process of communication through discussion
To have students experience and practice key communications skills
To help students express their own ideas and values

教科書 /Textbooks

Impact Issues 3 (New Edition) by Richard R. Day, Joseph Shaules and Junko Yamanaka
Pearson Longman Publishing 2009

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction: Cosmetic Surgery-Friends or Lovers
- 2回 I Don't Care, Rules
- 3回 Plagiarism
- 4回 Housework
- 5回 The Unborn Child
- 6回 Earning Money
- 7回 Adult Children- Body Art
- 8回 Sexual Harassment
- 9回 Home-Career Choice
- 10回 Save Our Country
- 11回 High Tech Toys
- 12回 A Woman's Place
- 13回 One Sided Love
- 14回 Can War Make Peace
- 15回 My Split Family-Divorce

成績評価の方法 /Assessment Method

Evaluation will be based on a combination of 50% participation and a final assignment 50%.
Students are required to prepare material for each class as homework.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Prepare your speech

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話演習B 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名 /Instructor デニス・ウールブライト / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

To teach students the process of communication through discussion
To have students experience and practice key communications skills
To help students express their own ideas and values

教科書 /Textbooks

Impact Issues 3 (New Edition) by Richard R. Day, Joseph Shaules and Junko Yamanaka
Pearson Longman Publishing 2009

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction: Cosmetic Surgery-Friends or Lovers
- 2回 I Don't Care, Rules
- 3回 Plagiarism
- 4回 Housework
- 5回 The Unborn Child
- 6回 Earning Money
- 7回 Adult Children- Body Art
- 8回 Sexual Harassment
- 9回 Home-Career Choice
- 10回 Save Our Country
- 11回 High Tech Toys
- 12回 A Woman's Place
- 13回 One Sided Love
- 14回 Can War Make Peace
- 15回 My Split Family-Divorce

成績評価の方法 /Assessment Method

Evaluation will be based on a combination of 50% participation and a final assignment 50%.
Students are required to prepare material for each class as homework.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Prepare your speech

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話演習B 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名 /Instructor デニス・ウールブライト / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

To teach students the process of communication through discussion
To have students experience and practice key communications skills
To help students express their own ideas and values

教科書 /Textbooks

Impact Issues 3 (New Edition) by Richard R. Day, Joseph Shaules and Junko Yamanaka
Pearson Longman Publishing 2009

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction: Cosmetic Surgery-Friends or Lovers
- 2回 I Don't Care, Rules
- 3回 Plagiarism
- 4回 Housework
- 5回 The Unborn Child
- 6回 Earning Money
- 7回 Adult Children- Body Art
- 8回 Sexual Harassment
- 9回 Home-Career Choice
- 10回 Save Our Country
- 11回 High Tech Toys
- 12回 A Woman's Place
- 13回 One Sided Love
- 14回 Can War Make Peace
- 15回 My Split Family-Divorce

成績評価の方法 /Assessment Method

Evaluation will be based on a combination of 50% participation and a final assignment 50%.
Students are required to prepare material for each class as homework.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Prepare your speech

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話演習B 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名
/Instructor

アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態
/Class Format

講義・実習

クラス 2 - 4
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to meet the needs of English majors in regards to communication.

教科書 /Textbooks

For and Against (Expressing opinions and exchanging ideas) Gillian Flaherty Published by Seibido - ISBN978-4-7919-4621-1

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

English/Japanese Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)Course Introduction. Meet people.
- 第2回The Internet: Is it a good way to meet people?
- 第3回NEETs: Are they a serious problem?
- 第4回Fashion: Do young people spend too much time and money on fashion?
- 第5回Environment: Should we continue to use nuclear energy?
- 第6回International marriage: Is it a good thing?
- 第7回Junk food: Is it becoming a serious problem?
- 第8回Paternity leave: Should men take paternity leave?
- 第9回Depopulation: Should we accept more foreign workers?
- 第10回Examinations: Are they the best form of assessment?
- 第11回Animal testing: Should it be allowed?
- 第12回Temporary workers: Should we do more to reduce the number of temporary workers?
- 第13回Robot Care: Should robots take care of the elderly and the sick?
- 第14回Genetically modified food: Should we accept it?
- 第15回Welfare: Should we do more to help the elderly and unemployed?

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and assignments: 60% Final examination: 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Bring completed homework and textbook to class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日英翻訳演習 【昼】

担当者名 /Instructor だニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の文学作品を英語に翻訳する。作品の引用箇所を徹底的に解釈したのちに、修辞学上の理解に基づいて翻訳することができれば幸いである。本授業は、基礎的な英語力をつける講義ではない。あくまで、英語の表現力を向上させると同時に、日本語及び日本文学への理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

Strack, Daniel C. Literature in the Crucible of Translation: A Cognitive Account. (Okayama: University Education Press, 2007)
プリントを必要に応じて配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適切な和英辞典または電子辞典(辞典の選択は各自判断の上)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回当授業の翻訳に対するアプローチの紹介
- 第2回講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【翻訳とは何か】
- 第3回講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【名詞】
- 第4回講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【方言】
- 第5回講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【総理解】
- 第6回講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【概念】
- 第7回講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【詩学】
- 第8回講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【背景的知識】
- 第9回講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【読者間における差異】
- 第10回講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【対話】
- 第11回講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【敬語】
- 第12回講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【類音異義語】
- 第13回講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【タイトル】
- 第14回講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【歴史的観点】
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30% 小テスト：0% 期末試験：35% 課題：22% 態度：13%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学生は毎回その日のリーディング(英語)を読んで、授業の前に日本語の翻訳課題を英語に翻訳します。授業中では、リーディングに対する質問を解答してから、翻訳課題の例文を見ながら、その翻訳における特徴や難題を取り上げていきます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日英翻訳演習 【昼】

担当者名 /Instructor だニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の文学作品を英語に翻訳する。作品の引用箇所を徹底的に解釈したのちに、修辞学上の理解に基づいて翻訳することができれば幸いである。本授業は、基礎的な英語力をつける講義ではない。あくまで、英語の表現力を向上させると同時に、日本語及び日本文学への理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

Strack, Daniel C. Literature in the Crucible of Translation: A Cognitive Account. (Okayama: University Education Press, 2007)
プリントを必要に応じて配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適切な和英辞典または電子辞典(辞典の選択は各自判断の上)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 担当授業の翻訳に対するアプローチの紹介
- 第2回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【翻訳とは何か】
- 第3回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【名詞】
- 第4回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【方言】
- 第5回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【総理解】
- 第6回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【概念】
- 第7回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【詩学】
- 第8回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【背景的知識】
- 第9回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【読者間における差異】
- 第10回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【対話】
- 第11回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【敬語】
- 第12回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【類音異義語】
- 第13回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【タイトル】
- 第14回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【歴史的観点】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30% 小テスト：0% 期末試験：35% 課題：22% 態度：13%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学生は毎回その日のリーディング(英語)を読んで、授業の前に日本語の翻訳課題を英語に翻訳します。授業中では、リーディングに対する質問を解答してから、翻訳課題の例文を見ながら、その翻訳における特徴や難題を取り上げていきます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日英翻訳演習 【昼】

担当者名 /Instructor だニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の文学作品を英語に翻訳する。作品の引用箇所を徹底的に解釈したのちに、修辞学上の理解に基づいて翻訳することができれば幸いである。本授業は、基礎的な英語力をつける講義ではない。あくまで、英語の表現力を向上させると同時に、日本語及び日本文学への理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

Strack, Daniel C. Literature in the Crucible of Translation: A Cognitive Account. (Okayama: University Education Press, 2007)
プリントを必要に応じて配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適切な和英辞典または電子辞典(辞典の選択は各自判断の上)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 担当授業の翻訳に対するアプローチの紹介
- 第2回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【翻訳とは何か】
- 第3回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【名詞】
- 第4回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【方言】
- 第5回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【総理解】
- 第6回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【概念】
- 第7回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【詩学】
- 第8回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【背景的知識】
- 第9回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【読者間における差異】
- 第10回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【対話】
- 第11回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【敬語】
- 第12回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【類音異義語】
- 第13回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【タイトル】
- 第14回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【歴史的観点】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30% 小テスト：0% 期末試験：35% 課題：22% 態度：13%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学生は毎回その日のリーディング(英語)を読んで、授業の前に日本語の翻訳課題を英語に翻訳します。授業中では、リーディングに対する質問を解答してから、翻訳課題の例文を見ながら、その翻訳における特徴や難題を取り上げていきます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日英翻訳演習 【昼】

担当者名 /Instructor だニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の文学作品を英語に翻訳する。作品の引用箇所を徹底的に解釈したのちに、修辞学上の理解に基づいて翻訳することができれば幸いである。本授業は、基礎的な英語力をつける講義ではない。あくまで、英語の表現力を向上させると同時に、日本語及び日本文学への理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

Strack, Daniel C. Literature in the Crucible of Translation: A Cognitive Account. (Okayama: University Education Press, 2007)
プリントを必要に応じて配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適切な和英辞典または電子辞典(辞典の選択は各自判断の上)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 当授業の翻訳に対するアプローチの紹介
- 第2回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【翻訳とは何か】
- 第3回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【名詞】
- 第4回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【方言】
- 第5回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【総理解】
- 第6回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【概念】
- 第7回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【詩学】
- 第8回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【背景的知識】
- 第9回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【読者間における差異】
- 第10回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【対話】
- 第11回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【敬語】
- 第12回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【類音異義語】
- 第13回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【タイトル】
- 第14回 講義、ディスカッション、翻訳練習課題 【歴史的観点】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30% 小テスト：0% 期末試験：35% 課題：22% 態度：13%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学生は毎回その日のリーディング(英語)を読んで、授業の前に日本語の翻訳課題を英語に翻訳します。授業中では、リーディングに対する質問を解答してから、翻訳課題の例文を見ながら、その翻訳における特徴や難題を取り上げていきます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Reading and Discussion I 【昼】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義・実習 /Class クラス 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Learners will read one unabridged piece of English literature. The purpose of the course will to develop reading and discussion skills while familiarizing learners idiomatic English within its socio-cultural context. In order to facilitate learners' comprehension, learners will be provided with one or more of the following resources: (1) weekly study guides that focus their attention of key elements of the text, (2) video support to help them understand the language in use, and (3) notes in either Japanese or English to draw their attention to difficult or idiomatic aspects of the language and its use.

教科書 /Textbooks

The text to be read each term will be chosen each semester by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The supplementary resources to be used each term will be specified by the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation; Short introductory lecture; Preview of the section
- 2 回 Small group discussion & review; Preview of next section
- 3 回 Small group discussion & review; Preview of next section
- 4 回 Small group discussion & review; Preview of next section
- 5 回 Small group discussion & review; Preview of next section
- 6 回 Small group discussion & review; Preview of next section
- 7 回 Small group discussion & review; Preview of next section
- 8 回 Small group discussion & review; Preview of next section; choosing a topic
- 9 回 Small group discussion & review; Preview of next section: narrowing the topic; thesis statement
- 10 回 Small group discussion & review; Preview of next section; making an outline
- 11 回 Small group discussion & review; Preview of next section; writing an introduction
- 12 回 Small group discussion & review; Preview of next section; creating unity in the body of the paper
- 13 回 Small group discussion & review; Preview of next section; writing a conclusion
- 14 回 Small group discussion & review; Preview of next section; editing for specific word choice & redundancy
- 15 回 Review of the key elements and themes

成績評価の方法 /Assessment Method

50% Weekly homework & participation
50% Term paper (1000-1500 words)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Learners will read 10-25 pages of unabridged English each week.
Learners will develop an original thesis about a piece of English literature.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Reading and Discussion I 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

キーワード /Keywords

Reading and Discussion I 【昼】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 /Class クラス 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Learners will read one unabridged piece of English literature. The purpose of the course will to develop reading and discussion skills while familiarizing learners idiomatic English within its socio-cultural context. In order to facilitate learners' comprehension, learners will be provided with one or more of the following resources: (1) weekly study guides that focus their attention of key elements of the text, (2) video support to help them understand the language in use, and (3) notes in either Japanese or English to draw their attention to difficult or idiomatic aspects of the language and its use.

教科書 /Textbooks

The text to be read each term will be chosen each semester by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The supplementary resources to be used each term will be specified by the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation; Short introductory lecture; Preview of the section
- 2 回 Small group discussion & review; Preview of next section
- 3 回 Small group discussion & review; Preview of next section
- 4 回 Small group discussion & review; Preview of next section
- 5 回 Small group discussion & review; Preview of next section
- 6 回 Small group discussion & review; Preview of next section
- 7 回 Small group discussion & review; Preview of next section
- 8 回 Small group discussion & review; Preview of next section; choosing a topic
- 9 回 Small group discussion & review; Preview of next section: narrowing the topic; thesis statement
- 1 0 回 Small group discussion & review; Preview of next section; making an outline
- 1 1 回 Small group discussion & review; Preview of next section; writing an introduction
- 1 2 回 Small group discussion & review; Preview of next section; creating unity in the body of the paper
- 1 3 回 Small group discussion & review; Preview of next section; writing a conclusion
- 1 4 回 Small group discussion & review; Preview of next section; editing for specific word choice & redundancy
- 1 5 回 Review of the key elements and themes

成績評価の方法 /Assessment Method

- 50% Weekly homework & participation
- 50% Term paper (1000-1500 words)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- Learners will read 10-25 pages of unabridged English each week.
- Learners will develop an original thesis about a piece of English literature.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Reading and Discussion I 【昼】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義・実習 /Lecture・Practical クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Learners will read one unabridged piece of English literature. The purpose of the course will to develop reading and discussion skills while familiarizing learners idiomatic English within its socio-cultural context. In order to facilitate learners' comprehension, learners will be provided with one or more of the following resources: (1) weekly study guides that focus their attention of key elements of the text, (2) video support to help them understand the language in use, and (3) notes in either Japanese or English to draw their attention to difficult or idiomatic aspects of the language and its use.

教科書 /Textbooks

The text to be read each term will be chosen each semester by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The supplementary resources to be used each term will be specified by the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation; Short introductory lecture; Preview of the section
- 2 回 Small group discussion & review; Preview of next section
- 3 回 Small group discussion & review; Preview of next section
- 4 回 Small group discussion & review; Preview of next section
- 5 回 Small group discussion & review; Preview of next section
- 6 回 Small group discussion & review; Preview of next section
- 7 回 Small group discussion & review; Preview of next section
- 8 回 Small group discussion & review; Preview of next section; choosing a topic
- 9 回 Small group discussion & review; Preview of next section: narrowing the topic; thesis statement
- 1 0 回 Small group discussion & review; Preview of next section; making an outline
- 1 1 回 Small group discussion & review; Preview of next section; writing an introduction
- 1 2 回 Small group discussion & review; Preview of next section; creating unity in the body of the paper
- 1 3 回 Small group discussion & review; Preview of next section; writing a conclusion
- 1 4 回 Small group discussion & review; Preview of next section; editing for specific word choice & redundancy
- 1 5 回 Review of the key elements and themes

成績評価の方法 /Assessment Method

50% Weekly homework & participation
50% Term paper (1000-1500 words)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Learners will read 10-25 pages of unabridged English each week.
Learners will develop an original thesis about a piece of English literature.

履修上の注意 /Remarks

Reading and Discussion I 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Reading and Discussion I 【昼】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義・実習 /Lecture・Practical クラス /Class 2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Learners will read one unabridged piece of English literature. The purpose of the course will to develop reading and discussion skills while familiarizing learners idiomatic English within its socio-cultural context. In order to facilitate learners' comprehension, learners will be provided with one or more of the following resources: (1) weekly study guides that focus their attention of key elements of the text, (2) video support to help them understand the language in use, and (3) notes in either Japanese or English to draw their attention to difficult or idiomatic aspects of the language and its use.

教科書 /Textbooks

The text to be read each term will be chosen each semester by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The supplementary resources to be used each term will be specified by the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation; Short introductory lecture; Preview of the section
- 2 回 Small group discussion & review; Preview of next section
- 3 回 Small group discussion & review; Preview of next section
- 4 回 Small group discussion & review; Preview of next section
- 5 回 Small group discussion & review; Preview of next section
- 6 回 Small group discussion & review; Preview of next section
- 7 回 Small group discussion & review; Preview of next section
- 8 回 Small group discussion & review; Preview of next section; choosing a topic
- 9 回 Small group discussion & review; Preview of next section: narrowing the topic; thesis statement
- 1 0 回 Small group discussion & review; Preview of next section; making an outline
- 1 1 回 Small group discussion & review; Preview of next section; writing an introduction
- 1 2 回 Small group discussion & review; Preview of next section; creating unity in the body of the paper
- 1 3 回 Small group discussion & review; Preview of next section; writing a conclusion
- 1 4 回 Small group discussion & review; Preview of next section; editing for specific word choice & redundancy
- 1 5 回 Review of the key elements and themes

成績評価の方法 /Assessment Method

50% Weekly homework & participation
50% Term paper (1000-1500 words)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Learners will read 10-25 pages of unabridged English each week.
Learners will develop an original thesis about a piece of English literature.

履修上の注意 /Remarks

Reading and Discussion I 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Reading and Discussion II 【昼】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 /Class クラス 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Learners will read one unabridged piece of English literature. The purpose of the course will to develop reading and discussion skills while familiarizing learners idiomatic English within its socio-cultural context. In order to facilitate learners' comprehension, learners will be provided with one or more of the following resources: (1) weekly study guides that focus their attention of key elements of the text, (2) video support to help them understand the language in use, and (3) notes in either Japanese or English to draw their attention to difficult or idiomatic aspects of the language and its use.

教科書 /Textbooks

The text to be read each term will be chosen each semester by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The supplementary resources to be used each term will be specified by the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation; Short introductory lecture; Preview of the section
- 2 回 Small group discussion & review; Preview of next section
- 3 回 Small group discussion & review; Preview of next section
- 4 回 Small group discussion & review; Preview of next section
- 5 回 Small group discussion & review; Preview of next section
- 6 回 Small group discussion & review; Preview of next section
- 7 回 Small group discussion & review; Preview of next section
- 8 回 Small group discussion & review; Preview of next section; choosing a topic
- 9 回 Small group discussion & review; Preview of next section: narrowing the topic; thesis statement
- 1 0 回 Small group discussion & review; Preview of next section; making an outline
- 1 1 回 Small group discussion & review; Preview of next section; writing an introduction
- 1 2 回 Small group discussion & review; Preview of next section; creating unity in the body of the paper
- 1 3 回 Small group discussion & review; Preview of next section; writing a conclusion
- 1 4 回 Small group discussion & review; Preview of next section; editing for specific word choice & redundancy
- 1 5 回 Review of the key elements and themes

成績評価の方法 /Assessment Method

50% Weekly homework & participation
50% Term paper (1000-1500 words)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Reading and Discussion II 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Learners will read 10-25 pages of unabridged English each week.
Learners will develop an original thesis about a piece of English literature.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Reading and Discussion II 【昼】

担当者名 /Instructor 石井有希子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Learners will read one unabridged piece of screenplay in English. The purpose of the course will to develop reading and discussion skills while familiarizing learners with a range of idiomatic expressions with their socio-cultural context. In order to facilitate learners' comprehension, they will be provided with one or more of the following resources: (1) weekly study guides that focus their attention of key elements of the text, (2) video support to help them understand the language in use, and (3) notes in either Japanese or English to draw their attention to difficult or idiomatic aspects of the language and its use.

教科書 /Textbooks

Andrew Niccol, The Truman Show, Shohakusha.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The supplementary resources to be used each term will be specified by the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation; Short introductory lecture; Preview of the section
- 2回 (unit 1. Meeting Truman)
Small group discussion & review; Preview of the next section
- 3回 (unit 2. Fear of the Ocean)
Small group discussion & review; Preview of the next section
- 4回 (unit 3. Lauren & Sylvia)
Small group discussion & review; Preview of the next section
- 5回 (unit 4. Something Strange is Going on)
Small group discussion & review; Preview of the next section
- 6回 (unit 5. Truman Tries to Leave)
Small group discussion & review; Preview of the next section
- 7回 (unit 5. Truman Tries to Leave)
Small group discussion & review; Preview of the next section
- 8回 (unit 6. Truman and Meryl Go for a Ride)
Small group discussion & review; Preview of the next section
- 9回 (unit 6. Truman and Meryl Go for a Ride)
Small group discussion & review; Preview of the next section
- 10回 (unit 7. The Reunion)
Small group discussion & review; Preview of the next section
- 11回 (unit 7. The Reunion)
Small group discussion & review; Preview of the next section
- 12回 (unit 8. Truman's Past Revealed)
Small group discussion & review; Preview of the next section
- 13回 (unit 9. Truman Disappears)
Small group discussion & review; Preview of the next section
- 14回 (unit 10. Truman Find Out)
Small group discussion & review; Preview of the next section
- 15回 Review of the key elements of the work in preparation for the final examination

成績評価の方法 /Assessment Method

Weekly homework & participation 30% Final examination 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Learners will read at least 10 pages of authentic English each week and complete the accompanying homework assignments.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Reading and Discussion II 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

キーワード /Keywords

Reading and Discussion II 【昼】

担当者名 /Instructor 石井有希子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Learners will read one unabridged piece of screenplay in English. The purpose of the course will to develop reading and discussion skills while familiarizing learners with a range of idiomatic expressions with their socio-cultural context. In order to facilitate learners' comprehension, they will be provided with one or more of the following resources: (1) weekly study guides that focus their attention of key elements of the text, (2) video support to help them understand the language in use, and (3) notes in either Japanese or English to draw their attention to difficult or idiomatic aspects of the language and its use.

教科書 /Textbooks

Andrew Niccol, The Truman Show, Shohakusha

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The supplementary resources to be used each term will be specified by the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation; Short introductory lecture; Preview of the section
- 2 回 (unit 1. Meeting Truman)
Small group discussion & review; Preview of the next section
- 3 回 (unit 2. Fear of the Ocean)
Small group discussion & review; Preview of the next section
- 4 回 (unit 3. Lauren & Sylvia)
Small group discussion & review; Preview of the next section
- 5 回 (unit 4. Something Strange is Going on)
Small group discussion & review; Preview of the next section
- 6 回 (unit 5. Truman Tries to Leave)
Small group discussion & review; Preview of the next section
- 7 回 (unit 5. Truman Tries to Leave)
Small group discussion & review; Preview of the next section
- 8 回 (unit 6. Truman and Meryl Go for a Ride)
Small group discussion & review; Preview of the next section
- 9 回 (unit 6. Truman and Meryl Go for a Ride)
Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 0 回 (unit 7. The Reunion)
Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 1 回 (unit 7. The Reunion)
Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 2 回 (unit 8. Truman's Past Revealed)
Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 3 回 (unit 9. Truman Disappears)
Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 4 回 (unit 10. Truman Find Out)
Small group discussion & review; Preview of the next section
- 1 5 回 Review of the key elements of the work in preparation for the final examination

成績評価の方法 /Assessment Method

Weekly homework and participation 30~40% Final examination 60~70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Learners will read at least 10 pages of authentic English each week and complete the accompanying homework assignments.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Reading and Discussion II 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

キーワード /Keywords

Reading and Discussion II 【昼】

担当者名 /Instructor 石井有希子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Learners will read one unabridged piece of screenplay in English. The purpose of the course will to develop reading and discussion skills while familiarizing learners with a range of idiomatic expressions with their socio-cultural context. In order to facilitate learners' comprehension, they will be provided with one or more of the following resources: (1) weekly study guides that focus their attention of key elements of the text, (2) video support to help them understand the language in use, and (3) notes in either Japanese or English to draw their attention to difficult or idiomatic aspects of the language and its use.

教科書 /Textbooks

Andrew Niccol, The Truman Show, Shohakusha.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The supplementary resources to be used each term will be specified by the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation; Short introductory lecture; Preview of the section
- 2回 (unit 1. Meeting Truman)
Small group discussion & review; Preview of the next section
- 3回 (unit 2. Fear of the Ocean)
Small group discussion & review; Preview of the next section
- 4回 (unit 3. Lauren & Sylvia)
Small group discussion & review; Preview of the next section
- 5回 (unit 4. Something Strange is Going on)
Small group discussion & review; Preview of the next section
- 6回 (unit 5. Truman Tries to Leave)
Small group discussion & review; Preview of the next section
- 7回 (unit 5. Truman Tries to Leave)
Small group discussion & review; Preview of the next section
- 8回 (unit 6. Truman and Meryl Go for a Ride)
Small group discussion & review; Preview of the next section
- 9回 (unit 6. Truman and Meryl Go for a Ride)
Small group discussion & review; Preview of the next section
- 10回 (unit 7. The Reunion)
Small group discussion & review; Preview of the next section
- 11回 (unit 7. The Reunion)
Small group discussion & review; Preview of the next section
- 12回 (unit 8. Truman's Past Revealed)
Small group discussion & review; Preview of the next section
- 13回 (unit 9. Truman Disappears)
Small group discussion & review; Preview of the next section
- 14回 (unit 10. Truman Find Out)
Small group discussion & review; Preview of the next section
- 15回 Review of the key elements of the work in preparation for the final examination

成績評価の方法 /Assessment Method

Weekly homework and participation 30~40% Final examination 60~70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Learners will read at least 10 pages of authentic English each week and complete the accompanying homework assignments.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Reading and Discussion II 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

キーワード /Keywords

英語リスニング演習B 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ三大ネットワークの一つ、CBS放送の情報番組 "The Early Show" の中からニュースを取りあげた教材を用いて、早いスピードの英語ニュースを聴き取り、リスニング力の向上を目指します。またニュースの内容を理解したあとで、シャドーイングを行い、音声面の強化を図ります。

教科書 /Textbooks

熊井信弘 / Stephen Timson編著
CBS News Show : Listening and Shadowing Practicre 成美堂、2011年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
How Texting Could Kill You?
- 2回 Getting Paid to Learn
- 3回 For One Company, Fun Is Job Priority No.1
- 4回 Teens Tied to the Screen
- 5回 Lost Generation of Workers
- 6回 Overcoming Internet Addiction
- 7回 Avatar Passes Titanic Record
- 8回 Dog Helps Boy with Allergy
- 9回 Al Gore's Climate Crisis Goal
- 10回 Women Rise in Workforce
- 11回 Michelle Obama Tackles Issue of Childhood Obesity
- 12回 Teen Cyber-bullied to Death?
- 13回 School Sued for Watching Students
- 14回 Presentation
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テスト含む) ... 20% 課題 ... 20% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト付属のDVDを活用して必ず予習・復習をすること。辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

英語リスニング演習B 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リスニング演習B 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ3大ネットワークの一つのCBSのニュースを聞き取れるようにする。シャドーイングの練習方法を用いて、リスニングの能力を高めたい。

教科書 /Textbooks

CBS News Show by NObuhiro Kummai,
Stephen Timson published by Seibido

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回、オリエンテーション
- 第2回、Unit 1
- 第3回、Unit 2
- 第4回 Unit 3
- 第5回 Unit 4
- 第6回 Unit 5
- 第7回 Unit 6
- 第8回 Unit 7
- 第9回 Unit 8
- 第10回 Unit 9
- 第11回 unit 10
- 第12回 Unit 11
- 第13回 Unit 12
- 第14回 Unit 13
- 第15回 Unit 14

成績評価の方法 /Assessment Method

試験で、100パーセントの評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎度CDを聞いて来ること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リスニング演習B 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名 /Instructor 山口 実 / YAMAGUCHI, Minoru / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 3 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語の視聴覚教材の溢れる世の中ではあるが、雑音やヘッドフォンの影響などで、若者の聴力は確実に落ちている。一方、グローバル化やボーダーレス化が進む世の中で、コミュニケーションの道具たる英語の需要は増し、聴く力も大変重要となっている。そして、聴く力は他の読む、書く、話す力をバランス良く学ぶ大きな助けとなり、英語の実践力を高める。

従い、この講座では、身近な場面や題材を通して「基礎から応用まで」を学べる教科書を主体に、NHK教育テレビやBBCや映画のDVDなどup-to-dateな視聴覚教材を十分活用しながら、Listening Skillを習得して行く。同時に、教材の音読を繰り返すことで、聴く力だけでなく、読み、書き、話す力も育む。

教科書 /Textbooks

Step-up Interactive Listening ステップアップリスニング教本—基礎から応用へ— (金星堂)
著者：石田雅近・Kathy R. Matsui・伊東田恵・吉田由美子
ISBN978-4-7647-3708-2 1900円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

Great English Speeches (英光社)
編者：新井良雄
ISBN978-4-87097-126-4

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 車の免許取得・部屋探し(海外での生活)
- 3回 Shopping(ビジネス)
- 4回 語学(学習)
- 6回 テレビ番組・新聞(情報管理)その1
- 7回 テレビ番組・新聞(情報管理)その2
- 8回 お互いさまの近所つきあい(互助共生)
- 9回 Job Hunting
- 10回 健康(病気・病院)
- 11回 休日
- 12回 旅行
- 13回 社会問題(マザー・テレサ他)
- 14回 食事
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度・課題遂行・・・50% 期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習を励行すること。

履修上の注意 /Remarks

しっかり講義に出席して、課題等講師の指示に従うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

29年の三井物産の国際ビジネスマンとしての経験や8年の実践英語教育者としての経験を活かして、楽しく有意義な講義にしますので、一緒にベストを尽くしましょう。

キーワード /Keywords

Practrice makes perfect.
音読

英語リスニング演習B 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名 /Instructor 山口 実 / YAMAGUCHI, Minoru / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2単位 /Credits 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語の視聴覚教材の溢れる世の中ではあるが、雑音やヘッドフォンの影響などで、若者の聴力は確実に落ちている。一方、グローバル化やボーダーレス化が進む世の中で、コミュニケーションの道具たる英語の需要は増し、聴く力も大変重要となっている。そして、聴く力は他の読む、書く、話す力をバランス良く学ぶ大きな助けとなり、英語の実践力を高める。

従い、この講座では、身近な場面や題材を通して「基礎から応用まで」を学べる教科書を主体に、NHK教育テレビやBBCや映画のDVDなどup-to-dateな視聴覚教材を十分活用しながら、Listening Skillを習得して行く。同時に、教材の音読を繰り返すことで、聴く力だけでなく、読み、書き、話す力も育む。

教科書 /Textbooks

Step-up Interactive Listening ステップアップリスニング教本—基礎から応用へ— (金星堂)
著者：石田雅近・Kathy R. Matsui・伊東田恵・吉田由美子
ISBN978-4-7647-3708-2 1900円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

Great English Speeches (英光社)
編者：新井良雄
ISBN978-4-87097-126-4

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 車の免許取得・部屋探し(海外での生活)
- 3回 Shopping(ビジネス)
- 4回 語学(学習)
- 6回 テレビ番組・新聞(情報管理)その1
- 7回 テレビ番組・新聞(情報管理)その2
- 8回 お互いさまの近所づきあい(互助共生)
- 9回 Job Hunting
- 10回 健康(病気・病院)
- 11回 休日
- 12回 旅行
- 13回 社会問題(マザー・テレサ他)
- 14回 食事
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度・課題遂行・・・50% 期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習を励行すること。

履修上の注意 /Remarks

しっかり講義に出席して、課題等講師の指示に従うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

29年の三井物産の国際ビジネスマンとしての経験や8年の実践英語教育者としての経験を活かして、楽しく有意義な講義にしますので、一緒にベストを尽くしましょう。

キーワード /Keywords

Practice makes perfect.
音読

英語スピーキング演習【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名 /Instructor デニス・ウールブライト / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 /Class クラス 3 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語スピーキング演習 aims to develop speaking ability through active student participation in topic-focused conversation/discussions and presentations in an all-English environment. Emphasis will be on discovering English language patterns and using them to generate accurate and efficient spoken personal expression. In the mid to latter stages of the course, students will be expected to prepare and give oral presentations on selected topics covered in class.

教科書 /Textbooks

David Paul, Further Communication Strategies (Thomson, 2004)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Attitudes
- 2回 Money
- 3回 Health
- 4回 Education
- 5回 Crime
- 6回 The Environment
- 7回 Aliens
- 8回 History
- 9回 Women in Society
- 10回 The Developing World
- 11回 Violence
- 12回 Politics
- 13回 Economics
- 14回 Happiness
- 15回 Globalization

成績評価の方法 /Assessment Method

Homework Assignments (60%) Oral Presentation (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Prepare presentation

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語スピーキング演習【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名 /Instructor デニス・ウールブライト / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 3 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語スピーキング演習 aims to develop speaking ability through active student participation in topic-focused conversation/discussions and presentations in an all-English environment. Emphasis will be on discovering English language patterns and using them to generate accurate and efficient spoken personal expression. In the mid to latter stages of the course, students will be expected to prepare and give oral presentations on selected topics covered in class.

教科書 /Textbooks

David Paul, Further Communication Strategies (Thomson, 2004)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Attitudes
- 2回 Money
- 3回 Health
- 4回 Education
- 5回 Crime
- 6回 The Environment
- 7回 Aliens
- 8回 History
- 9回 Women in Society
- 10回 The Developing World
- 11回 Violence
- 12回 Politics
- 13回 Economics
- 14回 Happiness
- 15回 Globalization

成績評価の方法 /Assessment Method

Homework Assignments (60%) Oral Presentation (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Prepare presentation

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語スピーキング演習【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名 /Instructor デニス・ウールブライト / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 3 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語スピーキング演習 aims to develop speaking ability through active student participation in topic-focused conversation/discussions and presentations in an all-English environment. Emphasis will be on discovering English language patterns and using them to generate accurate and efficient spoken personal expression. In the mid to latter stages of the course, students will be expected to prepare and give oral presentations on selected topics covered in class.

教科書 /Textbooks

David Paul, Further Communication Strategies (Thomson, 2004)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Attitudes
- 2回 Money
- 3回 Health
- 4回 Education
- 5回 Crime
- 6回 The Environment
- 7回 Aliens
- 8回 History
- 9回 Women in Society
- 10回 The Developing World
- 11回 Violence
- 12回 Politics
- 13回 Economics
- 14回 Happiness
- 15回 Globalization

成績評価の方法 /Assessment Method

Homework Assignments (60%) Oral Presentation (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Prepare presentation

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語スピーキング演習【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 3 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to meet the needs of English majors in regards to communication.

教科書 /Textbooks

For and Against (Expressing opinions and exchanging ideas) Gillian Flaherty Published by Seibido - ISBN978-4-7919-4621-1

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

English/Japanese Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)Course Introduction. Meet people.
- 第2回The Internet: Is it a good way to meet people?
- 第3回NEETs: Are they a serious problem?
- 第4回Fashion: Do young people spend too much time and money on fashion?
- 第5回Environment: Should we continue to use nuclear energy?
- 第6回International marriage: Is it a good thing?
- 第7回Junk food: Is it becoming a serious problem?
- 第8回Paternity leave: Should men take paternity leave?
- 第9回Depopulation: Should we accept more foreign workers?
- 第10回Examinations: Are they the best form of assessment?
- 第11回Animal testing: Should it be allowed?
- 第12回Temporary workers: Should we do more to reduce the number of temporary workers?
- 第13回Robot Care: Should robots take care of the elderly and the sick?
- 第14回Genetically modified food: Should we accept it?
- 第15回Welfare: Should we do more to help the elderly and unemployed?

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and assignments: 60% Final examination: 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Bring completed homework and textbook to class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リーディング演習I【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 英米学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 3 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Anthony TrollopeのDr Thorneを扱う。

①テキストが書かれた時代背景、社会状況のじゅうぶんな理解、②読む者の主観を排してテキストの意図する意味の把握、③叙述の仕方と文法の分析、以上3点がねらいである。

教科書 /Textbooks

必要な者はAnthony Trollope: Dr Thorne (Penguin Classics)を購入する。

授業はこのテキストのコピーを適宜プリントして配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

R. C. Terry: Oxford Reader's Companion to Trollope (Oxford)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方。
- 2回 421-28頁の翻訳
- 3回 429-36頁の翻訳
- 4回 437-44頁の翻訳
- 5回 445-52頁の翻訳
- 6回 453-60頁の翻訳
- 7回 461-68頁の翻訳
- 8回 469-476頁の翻訳
- 9回 477-84頁の翻訳
- 10回 485-92頁の翻訳
- 11回 493-500頁の翻訳
- 12回 501-508頁の翻訳
- 13回 509-516頁の翻訳
- 14回 421-68頁の翻訳仕上げ
- 15回 469-516頁の翻訳仕上げ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度... 20% 課題... 40% 期末試験... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1回に8頁ずつ読んでいく。1頁ずつ担当を前もって当てるので聞かれたことに即答できるよう準備しておくこと。受講生は全員1回8頁を読んできてもらう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リーディング演習I【昼】

担当者名 /Instructor 田吹 長彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

原書の精読を通じて語学力・読解力増強を目指す。
テーマは「イギリス文学とヨーロッパ旅行—ロード・バイロンを中心に」。
ロマン主義時代のヨーロッパ各国を背景に現代社会の基盤をなす歴史・地理・文化・文学・政治・宗教などについて探求する。

教科書 /Textbooks

Allan Massie, Byron's Travels
原書Allan Massie; Byron's Travels, Sidgwick & Jackson, London (テキストについては授業の冒頭で説明する)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 上杉文世『バイロン研究』研究社
 - 楠本哲夫『永遠の巡礼詩人バイロン』三省堂
 - 阿部知二『バイロン』研究社
 - 田吹長彦『ヨーロッパ夢紀行、詩人バイロンの旅—ベルギー・ライン河・スイス編』丸善出版サービスセンター
 - 田吹長彦『ロード・バイロン「チャイルド・ハロルドの巡礼」第一編注解』九州大学出版会
 - 田吹長彦『ロード・バイロン「チャイルド・ハロルドの巡礼」第二編注解』九州大学出版会
 - 田吹長彦『ロード・バイロン「チャイルド・ハロルドの巡礼」第三注解』九州大学出版会
- その他、研究発表に必要な原書・和書の参考書については、必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

上記のAllan Massieの原書を精読。Allan Massieは、バイロンの二回にわたるヨーロッパ旅行の背景(イギリス, ポルトガル, スペイン, 地中海, マルタ島, ギリシア, アルバニア, トルコ, ベルギー, ドイツ, スイス, イタリアなどの国々)をもとに解説している。「英語リーディング演習I」では、バイロンが第1回目の旅で訪れたポルトガル, スペイン, 地中海, マルタ島, ギリシア, アルバニア, トルコ を背景とする部分を精読する。必要に応じて各種の映像・地図などを随時活用する予定。

この授業の内容は、第二学期の「英語リーディング演習II」に続く。「英語リーディング演習II」では、バイロンの二回目のヨーロッパ旅行(ベルギー, ドイツ, スイス, イタリア)を背景とする部分を精読する予定。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度(予習・積極性・理解度を含む)...20% 期末試験...80%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

語学力・読解力増強のために、必ず講義ノートを作成して、各授業の予習をすること。

履修上の注意 /Remarks

この授業は自主的な予習を重視します。
なお、当然のことながら、開講回数の2 / 3以上の出席回数がないと単位認定はできません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

将来ヨーロッパ旅行を計画している人には、さまざまな旅の情報を提供できると思います。

キーワード /Keywords

ヨーロッパの歴史・地理・文化・文学・政治・宗教。旅とイギリス・ロマン派文学。

英語リーディング演習I【昼】

担当者名 /Instructor 田吹 長彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

原書の精読を通じて語学力・読解力増強を目指す。
テーマは「イギリス文学とヨーロッパ旅行—ロード・バイロンを中心に」。
ロマン主義時代のヨーロッパ各国を背景に現代社会の基盤をなす歴史・地理・文化・文学・政治・宗教などについて探求する。

教科書 /Textbooks

Allan Massie, Byron's Travels
原書Allan Massie; Byron's Travels, Sidgwick & Jackson, London (テキストについては授業の冒頭で説明する)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 上杉文世『バイロン研究』研究社
 - 楠本哲夫『永遠の巡礼詩人バイロン』三省堂
 - 阿部知二『バイロン』研究社
 - 田吹長彦『ヨーロッパ夢紀行、詩人バイロンの旅—ベルギー・ライン河・スイス編』丸善出版サービスセンター
 - 田吹長彦『ロード・バイロン「チャイルド・ハロルドの巡礼」第一編注解』九州大学出版会
 - 田吹長彦『ロード・バイロン「チャイルド・ハロルドの巡礼」第二編注解』九州大学出版会
 - 田吹長彦『ロード・バイロン「チャイルド・ハロルドの巡礼」第三注解』九州大学出版会
- その他、研究発表に必要な原書・和書の参考書については、必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

上記のAllan Massieの原書を精読。Allan Massieは、バイロンの二回にわたるヨーロッパ旅行の背景(イギリス, ポルトガル, スペイン, 地中海, マルタ島, ギリシア, アルバニア, トルコ, ベルギー, ドイツ, スイス, イタリアなどの国々)をもとに解説している。「英語リーディング演習I」では、バイロンが第1回目の旅で訪れたポルトガル, スペイン, 地中海, マルタ島, ギリシア, アルバニア, トルコ を背景とする部分を精読する。必要に応じて各種の映像・地図などを随時活用する予定。

この授業の内容は、第二学期の「英語リーディング演習II」に続く。「英語リーディング演習II」では、バイロンの二回目のヨーロッパ旅行(ベルギー, ドイツ, スイス, イタリア)を背景とする部分を精読する予定。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度(予習・積極性・理解度を含む)...20% 期末試験...80%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

語学力・読解力増強のために、必ず講義ノートを作成して、各授業の予習をすること。

履修上の注意 /Remarks

この授業は出席と自主的な予習を重視します。
なお、当然のことながら、開講回数の2 / 3以上の出席回数がないと単位認定はできません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

将来ヨーロッパ旅行を計画している人には、さまざまな旅の情報を提供できると思います。

キーワード /Keywords

ヨーロッパの歴史・地理・文化・文学・政治・宗教。旅とイギリス・ロマン派文学。

英語リーディング演習I【昼】

担当者名 /Instructor 江口 雅子 / EGUCHI MASAKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

イギリス生まれのRoald Dahl (1916-1990) の短編を2編読む。Dahlは、2005年に映画化された“Charlie and the Chocolate Factory” (Tim Burton監督、Jonny Depp主演) の原作者であり、学生には身近な作家と思われる。
授業で扱う短編集Kiss Kiss (1959) は、ベストセラーとなった作品であり、学生に物語への興味を喚起させるに十分な素材である。Dahlの冴えた描写力と、巧妙な話の展開を十分に味わわせる。
学生は原書を読み解く能力を身につけることができる。

教科書 /Textbooks

ROALD DAHL PARSON'S PLEASURE ダール短編集、平田 純註解、成美堂、1,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Course Introduction
- 2回 作家Roald Dahlの生い立ち、人生について
- 3回 “Parson's Pleasure” ① 英文読解
- 4回 “Parson's Pleasure” ② 英文読解
- 5回 “Parson's Pleasure” ③ 英文読解
- 6回 “Parson's Pleasure” ④ 英文読解
- 7回 “Parson's Pleasure” ⑤ 英文読解
- 8回 “Parson's Pleasure” ⑥ 英文読解
- 9回 “Parson's Pleasure” ⑦ 英文読解
- 10回 “Parson's Pleasure” ⑧ 英文読解、作品のとらえ方を検討
- 11回 “The Landlady” ① 英文読解
- 12回 “The Landlady” ② 英文読解
- 13回 “The Landlady” ③ 英文読解
- 14回 “The Landlady” ④ 英文読解、作品のとらえ方を検討
- 15回 Course Review

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・40% 学期末試験・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に、予習を必須とする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語は禁止します。理由なき遅刻・途中退席は禁止します。

キーワード /Keywords

半世紀前、イギリス文学、イギリス社会、イギリス文化

英作文演習B 【昼】

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will develop students' practical writing skills. We will develop the basic skills of essay writing in preparation for writing academic papers. The first two-thirds of the course will examine the various types and uses of paragraphs, as well as some practical skills. The final third of the course will transfer this knowledge onto essay writing.

教科書 /Textbooks

Success with College Writing: From Paragraphs to Essay. Zemach & Rumisek. Macmillan LanguageHouse. 2003.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Introduction – Writing Methods
- 2 回Punctuation and Grammar Review
- 3 回Pre-writing: Gathering Ideas and Narrowing a Topic
- 4 回Paragraph Structure
- 5 回Paragraph Development
- 6 回Peer Editing
- 7 回Descriptive and Process Paragraphs
- 8 回Opinion Paragraphs
- 9 回Comparison / Contrast Paragraphs
- 10 回Problem / Solution Paragraphs
- 11 回Essay Structure
- 12 回Outlining an Essay: Purpose and Style
- 13 回Introductions and Conclusions: Purpose and Information Types
- 14 回Essay Unity: Creating Coherence
- 15 回Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork 40% Assignment 30% Final Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review previous week's material. Read the introductory material for the coming week.
Be sure to complete the weekly homework assignments as they are an integral part of classwork.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英作文演習B 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 3 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will develop students' practical writing skills. We will develop the basic skills of essay writing in preparation for writing academic papers. The first two-thirds of the course will examine the various types and uses of paragraphs, as well as some practical skills. The final third of the course will transfer this knowledge onto essay writing.

教科書 /Textbooks

Success with College Writing: From Paragraphs to Essay. Zemach & Rumisek. Macmillan LanguageHouse. 2003.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Introduction – Writing Methods
- 2 回Punctuation and Grammar Review
- 3 回Pre-writing: Gathering Ideas and Narrowing a Topic
- 4 回Paragraph Structure
- 5 回Paragraph Development
- 6 回Peer Editing
- 7 回Descriptive and Process Paragraphs
- 8 回Opinion Paragraphs
- 9 回Comparison / Contrast Paragraphs
- 1 0 回Problem / Solution Paragraphs
- 1 1 回Essay Structure
- 1 2 回Outlining an Essay: Purpose and Style
- 1 3 回Introductions and Conclusions: Purpose and Information Types
- 1 4 回Essay Unity: Creating Coherence
- 1 5 回Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork 40% Assignment 30% Final Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review previous week's material. Read the introductory material for the coming week.
Be sure to complete the weekly homework assignments as they are an integral part of classwork.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英作文演習B 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will develop students' practical writing skills. We will develop the basic skills of essay writing in preparation for writing academic papers. The first two-thirds of the course will examine the various types and uses of paragraphs, as well as some practical skills. The final third of the course will transfer this knowledge onto essay writing.

教科書 /Textbooks

Success with College Writing: From Paragraphs to Essay. Zemach & Rumisek. Macmillan LanguageHouse. 2003.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Introduction – Writing Methods
- 2 回Punctuation and Grammar Review
- 3 回Pre-writing: Gathering Ideas and Narrowing a Topic
- 4 回Paragraph Structure
- 5 回Paragraph Development
- 6 回Peer Editing
- 7 回Descriptive and Process Paragraphs
- 8 回Opinion Paragraphs
- 9 回Comparison / Contrast Paragraphs
- 10 回Problem / Solution Paragraphs
- 11 回Essay Structure
- 12 回Outlining an Essay: Purpose and Style
- 13 回Introductions and Conclusions: Purpose and Information Types
- 14 回Essay Unity: Creating Coherence
- 15 回Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork 40% Assignment 30% Final Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review previous week's material. Read the introductory material for the coming week.
Be sure to complete the weekly homework assignments as they are an integral part of classwork.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英作文演習B 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will develop students' practical writing skills. Develop basic skills in essay writing in preparation for writing academic papers. Starting with paragraphs of various types, we will work up to full essays.

教科書 /Textbooks

Success with College Writing: From Paragraphs to Essay. Zemach & Rumisek. Macmillan LanguageHouse. 2003.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction – Writing Methods
- 2 回 Punctuation and Grammar Review
- 3 回 Pre-writing: Gathering Ideas and Narrowing a Topic
- 4 回 Paragraph Structure
- 5 回 Paragraph Development
- 6 回 Descriptive and Process Paragraphs
- 7 回 Opinion Paragraphs
- 8 回 Comparison / Contrast Paragraphs
- 9 回 Problem / Solution Paragraphs
- 10 回 Essay Structure
- 11 回 Outlining an Essay: Purpose and Style
- 12 回 Introductions and Conclusions: Purpose and Information Types
- 13 回 Essay Unity: Creating Coherence
- 14 回 Essays for Examinations
- 15 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 40 % Assignment 30% Final Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review previous week's material. Read the introductory material for the coming week.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Try to brainstorm to improve your writing skill.

キーワード /Keywords

ビジネス英語演習【昼】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objectives of this course are:(1) to help you to understand how cultures have an influence upon doing international business and(2) to help you prepare personally and professionally to succeed in a global business context. This course focuses on the topics of international dimensions of organizational behavior and management such as: multicultural teams, cultural differences in values, cross-cultural communications, negotiations across cultures, and global leadership. Topics also include the management of international managers and expatriates who involve the achievement of success for an international firm in cross-cultural business environment. In addition to the above, it trains you to develop your business presentation in English.

教科書 /Textbooks

Mary Munter. "Cross-Cultural Communication for Managers". Business Horizons.
(当方で配布します。)
その他資料を適宜クラスで配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Harvard Business essentials. "Business Communication".
Edward T. Hall. "Hidden Differences" Anchor Books.
八代京子他. "異文化コミュニケーションワークブック". 三修社
Mary Munter. "Guide to Managerial communication". Prentice Hall.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Session 1: class orientation
Session 2: setting communication objective
Session 3: choosing a communication style
Session 4: assenting and enhancing credibility
Session 5: selecting and motivating audiences
Session 6: setting a message strategy
Session 7: overcoming language difficulties
Session 8: using appropriate nonverbal behaviors
Session 9: mid-term quiz
Session10: presentation competition: country presentation1
Session 11: presentation competition: country presentation2
Session 12: negotiations role-play: transnational manager assignment1
Session 13: negotiations role-play: transnational manager assignment2
Session 14: negotiation case study: A Canadian firm's negotiations in China1
Session 15: negotiation case study: A Canadian firm's negotiations in China2

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation:(weight 20%): class participation will be evaluated on attendance and attentive.
Class quiz:(weight 40%): this will occur midway through the course.
Presentation:(weight 40%):you will be assigned make a presentation on cross-cultural management and case of negotiation.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

グローバルに活躍する多国籍企業の異文化マネジメントに関するクラスです。この方面の就職を検討されている学生には役に立つと思われる。尚、他の企業、経営関係の科目を受講していれば、この講義をさらに深く理解できると思います。

ビジネス英語演習【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
選択科目

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語演習【昼】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objectives of this course are:(1) to help you to understand how cultures have an influence upon doing international business and(2) to help you prepare personally and professionally to succeed in a global business context. This course focuses on the topics of international dimensions of organizational behavior and management such as: multicultural teams, cultural differences in values, cross-cultural communications, negotiations across cultures, and global leadership. Topics also include the management of international managers and expatriates who involve the achievement of success for an international firm in cross-cultural business environment. In addition to the above, it trains you to develop your business presentation in English.

教科書 /Textbooks

Mary Munter. "Cross-Cultural Communication for Managers". Business Horizons.
(当方で配布します。)
その他資料を適宜クラスで配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Harvard Business essentials. "Business Communication".
Edward T. Hall. "Hidden Differences" Anchor Books.
八代京子他. "異文化コミュニケーションワークブック". 三修社
Mary Munter. "Guide to Managerial communication". Prentice Hall.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Session 1: class orientation
Session 2: setting communication objective
Session 3: choosing a communication style
Session 4: assenting and enhancing credibility
Session 5: selecting and motivating audiences
Session 6: setting a message strategy
Session 7: overcoming language difficulties
Session 8: using appropriate nonverbal behaviors
Session 9: mid-term quiz
Session10: presentation competition: country presentation1
Session 11: presentation competition: country presentation2
Session 12: negotiations role-play: transnational manager assignment1
Session 13: negotiations role-play: transnational manager assignment2
Session 14: negotiation case study: A Canadian firm's negotiations in China1
Session 15: negotiation case study: A Canadian firm's negotiations in China2

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation:(weight 20%): class participation will be evaluated on attendance and attentive.
Class quiz:(weight 40%): this will occur midway through the course.
Presentation:(weight 40%):you will be assigned make a presentation on cross-cultural management and case of negotiation.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

グローバルに活躍する多国籍企業の異文化マネジメントに関するクラスです。この方面の就職を検討されている学生には役に立つと思われる。尚、他の企業、経営関係の科目を受講していれば、この講義をさらに深く理解できると思います。

ビジネス英語演習【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
選択科目

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語演習【昼】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objectives of this course are:(1) to help you to understand how cultures have an influence upon doing international business and(2) to help you prepare personally and professionally to succeed in a global business context. This course focuses on the topics of international dimensions of organizational behavior and management such as: multicultural teams, cultural differences in values, cross-cultural communications, negotiations across cultures, and global leadership. Topics also include the management of international managers and expatriates who involve the achievement of success for an international firm in cross-cultural business environment. In addition to the above, it trains you to develop your business presentation in English.

教科書 /Textbooks

Mary Munter. "Cross-Cultural Communication for Managers". Business Horizons.
(当方で配布します。)
その他資料を適宜クラスで配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Harvard Business essentials. "Business Communication".
Edward T. Hall. "Hidden Differences" Anchor Books.
八代京子他. "異文化コミュニケーションワークブック". 三修社
Mary Munter. "Guide to Managerial communication". Prentice Hall.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Session 1: class orientation
Session 2: setting communication objective
Session 3: choosing a communication style
Session 4: assenting and enhancing credibility
Session 5: selecting and motivating audiences
Session 6: setting a message strategy
Session 7: overcoming language difficulties
Session 8: using appropriate nonverbal behaviors
Session 9: mid-term quiz
Session10: presentation competition: country presentation1
Session 11: presentation competition: country presentation2
Session 12: negotiations role-play: transnational manager assignment1
Session 13: negotiations role-play: transnational manager assignment2
Session 14: negotiation case study: A Canadian firm's negotiations in China1
Session 15: negotiation case study: A Canadian firm's negotiations in China2

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation:(weight 20%): class participation will be evaluated on attendance and attentive.
Class quiz:(weight 40%): this will occur midway through the course.
Presentation:(weight 40%):you will be assigned make a presentation on cross-cultural management and case of negotiation.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

グローバルに活躍する多国籍企業の異文化マネジメントに関するクラスです。この方面の就職を検討されている学生には役に立つと思われる。尚、他の企業、経営関係の科目を受講していれば、この講義をさらに深く理解できると思います。

ビジネス英語演習【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
選択科目

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語演習【昼】

担当者名 /Instructor 山口 実 / YAMAGUCHI, Minoru / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス /Class 2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objectives of this course are:(1) to help you to understand how cultures have an influence upon doing international business and(2) to help you prepare personally and professionally to succeed in a global business context. This course focuses on the topics of international dimensions of organizational behavior and management such as: multicultural teams, cultural differences in values, cross-cultural communications, negotiations across cultures, and global leadership. Topics also include the management of international managers and expatriates who involve the achievement of success for an international firm in cross-cultural business environment. In addition to the above, it trains you to develop your business presentation in English.

教科書 /Textbooks

Mary Munter. "Cross-Cultural Communication for Managers". Business Horizons.
(当方で配布します。)
その他講師が作成した資料を適宜クラスで配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仕事現場の英会話商社編 (株式会社 DHC、2003)
英語で学ぶMBAベーシックス (NHK出版、2002)
Essentials of International Trade Operations (Mitsui & Co.,Ltd.)
日商ビジネス英語検定公式テキスト (日本商工会議所)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Session 1: Introduction
Session 2: Setting Objectives for Learning Business English and Communication
Session 3: How to Conduct Business Communication and Negotiation under Cross Cultural Management
Session 4: Risk Management for Enhancing Credibility and Mutual Trust
Session 5: Organization and Corporate Philosophy
Session 6: Setting Visions and Strategies
Session 7: Utilization of Websites and Audio Visual Materials
Session 8: Mid-Term Quiz
Session 9: Keys for Effective Presentation
Session10: Presentation Practice 1・ ・ ・ Self Introduction
Session 11: Presentation Practice 2:・ ・ ・ Presentation of Companies and Product
Session 12: Negotiations Role-Play1・ ・ ・ Win-Win Situation
Session 13: Negotiations Role-Play2・ ・ ・ How to Shoot the troubles.
Session 14: Negotiation Case Study・ ・ ・ Pipe Business in Alaska
Session 15: Business English Vocabulary

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation:(weight 30%): Active participation in the class and e-mail transaction will be evaluated.
Class Quiz:(weight 20%): this will occur midway through the course.
Presentation and Negotiation Practice:(weight 20%): You will be assigned to make presentation and negotiation practices.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講師の準備し事前に配布したプリントの概要理解と音読を励行すること。辞書を持ってくること。

履修上の注意 /Remarks

積極的に受講すること。しっかり声を上げ、反復すること。ビジネス専門用語や表現を復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グローバルに活躍する多国籍企業の異文化コミュニケーション・リスクマネジメント・経営哲学を実践的な英語を通して学ぶクラスです。昨今ビジネスはどんどんボーダーレス化していますので、実践的なビジネス英語はコミュニケーションToolとして不可欠です。2年次にその有効な学習法を学び、智恵を蓄積することは、就職やその後の業務遂行におい大きな力となります。

講師の総合商社三井物産(株)での輸出・輸入・三国間貿易の担当・統括者としての25年の経験・智恵と通算約13年の米国・中東・インドネシア駐在及び数十カ国への出張・交渉経験を駆使して、実践的なビジネス英語を学べるように尽力しますので、皆で楽しみながら学びましょう。勿論、希望があれば、いつでも授業や就職に関する質問や相談を受け付けます。

キーワード /Keywords

Intellectual Curiosity

Cultural Identity

Respect for Others (concerning Culture, History, Customs, and Religions, etc.)

メディア英語演習I【昼】

担当者名 北峯 裕士 / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メディア英語だけに絞らず、本授業では、言葉自体について考えていく。言葉について書かれてあるテキストを読みながら、言葉について考える習慣を身に付けていきたい。

教科書 /Textbooks

The Wonderful World of Language 成美堂
副本 BBC: The Story of English 英宝社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

別途指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回ガイダンス
- 2回子供の文法発見
- 3回文法規則と文法変異
- 4回バイリンガリズム
- 5回世界の言語
- 6回サイン言語
- 7回絶滅の危機に瀕した言語
- 8回言葉は時代とともに変化する
- 9回ところ変わればことば変わる
- 10回感情を映し出す鏡
- 11回ポリティカル・コレクトネス
- 12回The Story of EnglishのDVDを見る①
- 13回The Story of EnglishのDVDを見る②
- 14回The Story of EnglishのDVDを見る③
- 15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表 50% 試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表予定者は、必ず準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

副本のBBC: The Story of Englishに関してであるが、宿題として要約を課す。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メディア英語演習I【昼】

担当者名 北峯 裕士 / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メディア英語だけに絞らず、本授業では、言葉自体について考えていく。言葉について書かれてあるテキストを読みながら、言葉について考える習慣を身に付けていきたい。

教科書 /Textbooks

The Wonderful World of Language 成美堂
副本 BBC: The Story of English 英宝社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

別途指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回ガイダンス
- 2回子供の文法発見
- 3回文法規則と文法変異
- 4回バイリンガリズム
- 5回世界の言語
- 6回サイン言語
- 7回絶滅の危機に瀕した言語
- 8回言葉は時代とともに変化する
- 9回ところ変わればことば変わる
- 10回感情を映し出す鏡
- 11回ポリティカル・コレクトネス
- 12回The Story of EnglishのDVDを見る①
- 13回The Story of EnglishのDVDを見る②
- 14回The Story of EnglishのDVDを見る③
- 15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表 50% 試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表予定者は、必ず準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

副本のBBC: The Story of Englishに関してであるが、宿題として要約を課す。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メディア英語演習I【昼】

担当者名 北峯 裕士 / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メディア英語だけに絞らず、本授業では、言葉自体について考えていく。言葉について書かれてあるテキストを読みながら、言葉について考える習慣を身に付けていきたい。

教科書 /Textbooks

The Wonderful World of Language 成美堂
副本 BBC: The Story of English 英宝社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

別途指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回ガイダンス
- 2回子供の文法発見
- 3回文法規則と文法変異
- 4回バイリンガリズム
- 5回世界の言語
- 6回サイン言語
- 7回絶滅の危機に瀕した言語
- 8回言葉は時代とともに変化する
- 9回ところ変わればことば変わる
- 10回感情を映し出す鏡
- 11回ポリティカル・コレクトネス
- 12回The Story of EnglishのDVDを見る①
- 13回The Story of EnglishのDVDを見る②
- 14回The Story of EnglishのDVDを見る③
- 15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表 50% 試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表予定者は、必ず準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

副本のBBC: The Story of Englishに関してであるが、宿題として要約を課す。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メディア英語演習I【昼】

担当者名 北峯 裕士 / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 4
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メディア英語だけに絞らず、本授業では、言葉自体について考えていく。言葉について書かれてあるテキストを読みながら、言葉について考える習慣を身に付けていきたい。

教科書 /Textbooks

The Wonderful World of Language 成美堂
副本 BBC: The Story of English 英宝社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

別途指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回ガイダンス
- 2回子供の文法発見
- 3回文法規則と文法変異
- 4回バイリンガリズム
- 5回世界の言語
- 6回サイン言語
- 7回絶滅の危機に瀕した言語
- 8回言葉は時代とともに変化する
- 9回ところ変わればことば変わる
- 10回感情を映し出す鏡
- 11回ポリティカル・コレクトネス
- 12回The Story of EnglishのDVDを見る①
- 13回The Story of EnglishのDVDを見る②
- 14回The Story of EnglishのDVDを見る③
- 15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表 50% 試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表予定者は、必ず準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

副本のBBC: The Story of Englishに関してであるが、宿題として要約を課す。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メディア英語演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、アメリカのミュージカル映画を題材に使う。ミュージカル映画とはどんなものかを知るとともに、シナリオ講読等も混ぜて総合的に学んでいく。

教科書 /Textbooks

なし。プリントが主になる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入 【メディア英語】 【ミュージカル映画】 【シナリオ講読】
- 2回 ユニット1。【ミュージカル映画】 【1920年代】
- 3回 ユニット2。【ミュージカル映画】 【1930年代】
- 4回 ユニット3。【ミュージカル映画】 【1940年代】
- 5回 ユニット4。【ミュージカル映画】 【1950年代】
- 6回 ユニット5。【ミュージカル映画】 【1960年代】
- 7回 ユニット6。【ミュージカル映画】 【1970年代】
- 8回 ユニット7。【ミュージカル映画】 【1980年代】
- 9回 ユニット8。【ミュージカル映画】 【1990年代】
- 10回 ユニット9。【ミュージカル映画】 【2000年代】
- 11回 ユニット10。【ミュージカル映画】 【シナリオ講読】
- 12回 ユニット11。【ミュージカル映画】 【シナリオ講読】
- 13回 ユニット12。【ミュージカル映画】 【シナリオ講読】
- 14回 ユニット13。【ミュージカル映画】 【シナリオ講読】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。家庭あるいは図書館でのアメリカ英語学習として、DVDのクローズド・キャプションを利用することをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし

キーワード /Keywords

【メディア英語】 【ミュージカル映画】 【通時的】 【シナリオ講読】

メディア英語演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、アメリカのミュージカル映画を題材に使う。ミュージカル映画とはどんなものかを知るとともに、シナリオ講読等も混ぜて総合的に学んでいく。

教科書 /Textbooks

なし。プリントが主になる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入 【メディア英語】 【ミュージカル映画】 【シナリオ講読】
- 2回 ユニット1。【ミュージカル映画】 【1920年代】
- 3回 ユニット2。【ミュージカル映画】 【1930年代】
- 4回 ユニット3。【ミュージカル映画】 【1940年代】
- 5回 ユニット4。【ミュージカル映画】 【1950年代】
- 6回 ユニット5。【ミュージカル映画】 【1960年代】
- 7回 ユニット6。【ミュージカル映画】 【1970年代】
- 8回 ユニット7。【ミュージカル映画】 【1980年代】
- 9回 ユニット8。【ミュージカル映画】 【1990年代】
- 10回 ユニット9。【ミュージカル映画】 【2000年代】
- 11回 ユニット10。【ミュージカル映画】 【シナリオ講読】
- 12回 ユニット11。【ミュージカル映画】 【シナリオ講読】
- 13回 ユニット12。【ミュージカル映画】 【シナリオ講読】
- 14回 ユニット13。【ミュージカル映画】 【シナリオ講読】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。家庭あるいは図書館でのアメリカ英語学習として、DVDのクローズド・キャプションを利用することをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし

キーワード /Keywords

【メディア英語】 【ミュージカル映画】 【通時的】 【シナリオ講読】

メディア英語演習II【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ローレン・ワイズバーガー (Lauren Weisberger) の原作を基にした映画The Devil Wears Pradaのスク립トを教材に、演習形式で授業を進めます。一見すると華やかなファッション雑誌製作現場で働く人々の、仕事への誇りや、仕事に対する高い要求度などを理解します。また職場でやりとりされる会話を中心に、そこに隠された「本音」を読み解いていきます。各種演習問題に取り組み、英語力強化を図ります。

教科書 /Textbooks

Aline Brosh McKenna著、神谷久美子 / Kim R. Kanel編 The Devil Wears Prada
松柏社 (2010年)、2310円。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Andy Meets Miranda (1)
- 3回 Andy Meets Miranda (2)
- 4回 Andy's First Day at Runway
- 5回 Miranda, the Almighty
- 6回 Andy's Metamorphosis
- 7回 Andy Performs a Miracle
- 8回 Andy's Stock Goes Up
- 9回 Andy's Dilemma
- 10回 A Night in Paris
- 11回 A Plot against Miranda
- 12回 Andy's Final Choice (1)
- 13回 Andy's Final Choice (2)
- 14回 Presentation
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 20% 課題 ... 20% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習をすること。辞書を持参すること。

メディア英語演習II【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
選択科目

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メディア英語演習II【昼】

担当者名 /Instructor 松崎 徹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では2007年公開のアメリカ映画『フリーダム・ライターズ』を視聴しながら、生きた英語を学ぶだけでなく、人種差別、銃社会等さまざまな問題を抱えるアメリカ社会をより深く理解することを目的とする。

教科書 /Textbooks

『FREEDOM WRITERS』 (Osako Tanaka) Tsurumi Shoten 2,000円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「なし」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 人種間の対立
- 2回 国語の教師
- 3回 縄張り
- 4回 国境線
- 5回 知らないのにな?
- 6回 ライン・ゲーム
- 7回 戦争
- 8回 許可
- 9回 寛容の博物館
- 10回 ここが僕の家
- 11回 アンネの日記
- 12回 ヒーロー
- 13回 証言
- 14回 どっちを選ぶ
- 15回 仕事に祝福されている

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況・・・20% 定期試験・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学期開始前に映画『フリーダム・ライターズ』全編をレンタルDVD等で各自視聴しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ 学園ドラマ 人種差別 銃社会 ロス暴動

英日翻訳演習 【昼】

担当者名 /Instructor 野島 啓一 /nojima keiichi / 英米学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本語への翻訳で最も基本的な戦略と想定する原理、Context-driven Principle of Translationに拠って色々な範疇の英語文の翻訳の技術を実践的に学ぶ。更に、授業を通して、必要な英文法の知識、日本語文法の知識、専門分野での知識データの整理方法等を学ぶ。

教科書 /Textbooks

『翻訳入門 日英編』 氏木考仁他著 大阪教育図書 ¥1,800
『翻訳表現の特徴』 私家版編集教材

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業方針+Context-driven Principle of Translationの考え方+授業評価の説明。
- 2回 翻訳に必要な知識。論理構造の違い。演習課題。
- 3回 翻訳のポイントと専門知識。演習課題。
- 4回 英文法の知識と訳し方の関連付けについて。演習課題。
- 5回 国文法の知識と訳し方の関連付けについて。演習課題。
- 6回 解説文の翻訳。演習課題。
- 7回 評論文・論文の翻訳。演習課題。
- 8回 小説の翻訳。演習課題。
- 9回 絵本・映画・歌詞の翻訳。演習課題。
- 10回 テクニカルライティング・カタログ。演習課題。
- 11回 ビジネスレター・契約書の翻訳。演習課題。
- 12回 新聞・ニュース放送の翻訳。演習課題。
- 13回 翻訳実務の実際の工程。演習課題。
- 14回 機械翻訳・音声による翻訳・文字による翻訳。演習課題。
- 15回 まとめと要約。

成績評価の方法 /Assessment Method

プロジェクト...35% + 試験...65%で総合評価をする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「日英翻訳演習」の授業を履修しておくことと日本語と英語の発想の違い等にふれることになり、参考になる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英日翻訳演習 【昼】

担当者名 /Instructor 野島 啓一 /nojima keiichi / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本語への翻訳で最も基本的な戦略と想定する原理、Context-driven Principle of Translationに拠って色々な範疇の英語文の翻訳の技術を実践的に学ぶ。更に、授業を通して、必要な英文法の知識、日本語文法の知識、専門分野での知識データの整理方法等を学ぶ。

教科書 /Textbooks

『翻訳入門 日英編』 氏木考仁他著 大阪教育図書 ¥1,800
『翻訳表現の特徴』 私家版編集教材

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業方針+Context-driven Principle of Translationの考え方+授業評価の説明。
- 2回 翻訳に必要な知識。論理構造の違い。演習課題。
- 3回 翻訳のポイントと専門知識。演習課題。
- 4回 英文法の知識と訳し方の関連付けについて。演習課題。
- 5回 国文法の知識と訳し方の関連付けについて。演習課題。
- 6回 解説文の翻訳。演習課題。
- 7回 評論文・論文の翻訳。演習課題。
- 8回 小説の翻訳。演習課題。
- 9回 絵本・映画・歌詞の翻訳。演習課題。
- 10回 テクニカルライティング・カタログ。演習課題。
- 11回 ビジネスレター・契約書の翻訳。演習課題。
- 12回 新聞・ニュース放送の翻訳。演習課題。
- 13回 翻訳実務の実際の工程。演習課題。
- 14回 機械翻訳・音声による翻訳・文字による翻訳。演習課題。
- 15回 まとめと要約。

成績評価の方法 /Assessment Method

プロジェクト...35% + 試験...65%で総合評価をする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「日英翻訳演習」の授業を履修しておくこと日本語と英語の発想の違い等にふれることになり、参考になる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英日翻訳演習 【昼】

担当者名 /Instructor 野島 啓一 /nojima keiichi / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本語への翻訳で最も基本的な戦略と想定する原理、Context-driven Principle of Translationに拠って色々な範疇の英語文の翻訳の技術を実践的に学ぶ。更に、授業を通して、必要な英文法の知識、日本語文法の知識、専門分野での知識データの整理方法等を学ぶ。

教科書 /Textbooks

『翻訳入門 日英編』 氏木考人他編 大阪教育図書 ¥1,800
『翻訳表現の特徴』 私家版編集教材

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業方針+Context-driven Principle of Translationの考え方+授業評価の説明。
- 2回 翻訳に必要な知識。論理構造の違い。演習課題。
- 3回 翻訳のポイントと専門知識。演習課題。
- 4回 英文法の知識と訳し方の関連付けについて。演習課題。
- 5回 国文法の知識と訳し方の関連付けについて。演習課題。
- 6回 解説文の翻訳。演習課題。
- 7回 評論文・論文の翻訳。演習課題。
- 8回 小説の翻訳。演習課題。
- 9回 絵本・映画・歌詞の翻訳。演習課題。
- 10回 テクニカルライティング・カタログ。演習課題。
- 11回 ビジネスレター・契約書の翻訳。演習課題。
- 12回 新聞・ニュース放送の翻訳。演習課題。
- 13回 翻訳実務の実際の工程。演習課題。
- 14回 機械翻訳・音声による翻訳・文字による翻訳。演習課題。
- 15回 まとめと要約。

成績評価の方法 /Assessment Method

プロジェクト...35% + 試験...65%で総合評価をする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「日英翻訳演習」の授業を履修しておくことと日本語と英語の発想の違い等にふれることになり、参考になる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英日翻訳演習 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本語への翻訳で最も基本的な戦略と想定する原理、Context-driven Principle of Translation に拠って色々な範疇の英語文の翻訳の技術を実践的に学ぶ。更に、授業を通して、必要な英文法の知識、日本語文法の知識、専門分野での知識データの整理方法等を学ぶ。

教科書 /Textbooks

『翻訳入門 英日編』 氏木道人他著 大阪教育図書
『翻訳表現の特徴』 私家版編集教材

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業方針+Context-driven Principle of Translationの考え方+授業評価の説明。
- 2回 翻訳に必要な知識。論理構造の違い。演習課題。
- 3回 翻訳のポイントと専門知識。演習課題。
- 4回 英文法の知識と訳し方の関連付けについて。演習課題。
- 5回 国文法の知識と訳し方の関連付けについて。演習課題。
- 6回 説明・解説文の翻訳。演習課題。
- 7回 評論文・論文の翻訳。演習課題。
- 8回 小説の翻訳。演習課題。
- 9回 絵本・映画・歌詞の翻訳。演習課題。
- 10回 テクニカルライティング・カタログ。演習課題。
- 11回 ビジネス文書・契約書の翻訳。演習課題。
- 12回 新聞・ニュース放送の翻訳。演習課題。
- 13回 翻訳実務の実際の工程。演習課題。
- 14回 機械翻訳・音声による翻訳・文字による翻訳。演習課題。
- 15回 まとめと要約。

成績評価の方法 /Assessment Method

プロジェクト...35% + 試験...65%で総合評価をする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日英翻訳演習の授業を履修しておくこと日本語と英語の発想の違い等に分れることになり、参考になる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーション演習【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本コースは異文化間コミュニケーションに関する諸理論・概念を学習する。受講生には次の「力」をつけてほしい。①日常生活の中に「異文化」を発見する力、②異文化を排除するのではなく受容する力、③自文化を相対化する力。授業の後半は学生によるグループ発表を行う。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 東照二『社会言語学入門』研究社
- 銅倉健悦『異文化間コミュニケーション入門』丸善ライブラリー

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン(成績評価の説明、授業の進め方等)
- 2回 文化の定義
- 3回 コミュニケーション・モデル
- 4回 言葉とコミュニケーション
- 5回 非言語コミュニケーション
- 6回 ポライトネス
- 7回 ジェンダー
- 8回 ステレオタイプ
- 9回 異文化接触
- 10回 プレゼンテーション①
- 11回 プレゼンテーション②
- 12回 プレゼンテーション③
- 13回 プレゼンテーション④
- 14回 プレゼンテーション⑤
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 40%、 プレゼンテーション 30% 学期末試験 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義ではミニレポートも課すので、論理的に説明する方法も意識してほしい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーション演習【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本コースは異文化間コミュニケーションに関する諸理論・概念を学習する。受講生には次の「力」をつけてほしい。①日常生活の中に「異文化」を発見する力、②異文化を排除するのではなく受容する力、③自文化を相対化する力。授業の後半は学生によるグループ発表を行う。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 東照二『社会言語学入門』研究社
- 銅倉健悦『異文化間コミュニケーション入門』丸善ライブラリー

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン(成績評価の説明、授業の進め方等)
- 2回 文化の定義
- 3回 コミュニケーション・モデル
- 4回 言葉とコミュニケーション
- 5回 非言語コミュニケーション
- 6回 ポライトネス
- 7回 ジェンダー
- 8回 ステレオタイプ
- 9回 異文化接触
- 10回 プレゼンテーション①
- 11回 プレゼンテーション②
- 12回 プレゼンテーション③
- 13回 プレゼンテーション④
- 14回 プレゼンテーション⑤
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 40%、 プレゼンテーション 30% 学期末試験 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義ではミニレポートも課すので、論理的に説明する方法も意識してほしい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーション演習【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本コースは異文化間コミュニケーションに関する諸理論・概念を学習する。受講生には次の「力」をつけてほしい。①日常生活の中に「異文化」を発見する力、②異文化を排除するのではなく受容する力、③自文化を相対化する力。授業の後半は学生によるグループ発表を行う。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 東照二『社会言語学入門』研究社
- 鍋倉健悦『異文化間コミュニケーション入門』丸善ライブラリー

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インタロダクション(成績評価の説明、授業の進め方等)
- 2回 文化の定義
- 3回 コミュニケーション・モデル
- 4回 言葉とコミュニケーション
- 5回 非言語コミュニケーション
- 6回 ポライトネス
- 7回 ジェンダー
- 8回 ステレオタイプ
- 9回 異文化接触
- 10回 プレゼンテーション①
- 11回 プレゼンテーション②
- 12回 プレゼンテーション③
- 13回 プレゼンテーション④
- 14回 プレゼンテーション⑤
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 40%、 プレゼンテーション 30% 学期末試験 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義ではミニレポートも課すので、論理的に説明する方法も意識してほしい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーション演習【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日米話者のコミュニケーションギャップを考察する。ギャップの基底にある文化的背景を探っていくために具体的事例を中心に考察していく。また、ギャップの事象をどう記述するかを学ぶ

教科書 /Textbooks

八代京子、他『異文化コミュニケーションワークブック』三修社
上記資料は、必要な箇所を授業中に適宜配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

古田暁(監修)『異文化コミュニケーション』有斐閣書店
その他の資料は授業時に適宜知らせる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コースワークの説明
- 2回 文化とは何か、コミュニケーションとは何か
- 3回 異文化コミュニケーションとは
- 4回 コミュニケーション・スタイル ①コンテキスト、②パラ言語・ターンテイキングの差異
- 5回 言語コミュニケーションギャップ ①ほめ方、②しかり方、謝り方の差異に基づく
- 6回 非言語コミュニケーションギャップ ①ジェスチャー -、①接触 ②空間、時間の差異
- 7回 価値観 ①ことわざ ② 基本価値観(人間性、人間と人間の関係)の差異に基づく
コミュニケーションギャップ
- 8回 コミュニケーション・スキルの訓練 記述の仕方 D.I.E.メソッドの習得
- 9回 コミュニケーション・スキルの訓練 アサーティブ・コミュニケーション
- 10回 クリティカル・インシデントの観察
①インシデントの内容 ②インシデントの解説 ③インシデントの文化的背景
- 11回 クリティカル・インシデントの作成
- 12回 プレゼンテーション(1) 各自のテーマによる発表
- 13回 プレゼンテーション(1) 各自のテーマによる発表
- 14回 プレゼンテーション(1) 各自のテーマによる発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での活動 60 % 期末テスト40 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

文化、コミュニケーションに関する事象に対し「なぜか」を常に考えることが必要。授業ではその解答を求める。また隔週、課題の提出を求める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日英語話者コミュニケーション クリティカル・インシデント カルチュラル・アシミレーター

通訳基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1, 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

もしあなたが明日、アメリカから日本にやってくるプロ野球選手の通訳をしなければならなくなったとしたら、今日何をしますか？英語の勉強でしょうか？それより緊急にやらなければならないことは、その選手について、その選手が属していた球団やリーグについて、さらにはアメリカの野球界と日本の野球界の違いについて調べ、記者会見でどんなことが聞かれるのかを想定して準備しておくことが必要となるのではないのでしょうか。そう考えてみると、通訳は、ことばを移し替えるだけではないことがよく分かります。自分が理解できない話題について通訳することはできないからです。その上で、英語力や日本語表現力といった力が必要になってくるわけです。

通訳基礎演習Ⅰでは、英語をきちんと正しく聞き取れるようになるための訓練を基本としながら、多様な話題の教材を用いることにより、知識も身につけてもらえるよう工夫したいと思います。また、毎回の授業に先だって、ウォーミングアップとして日本語と英語の発音（発声）練習を行ないます。

教科書 /Textbooks

水野 真木子、鍵村 和子 著 『通訳実践トレーニング』（大阪教育図書）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 オリエンテーション：通訳とはどのような行為なのかを考えます。
- 第02回 英語から日本語へ(1)
- 第03回 英語から日本語へ(2)
- 第04回 英語から日本語へ(3)
- 第05回 日本語から英語へ(1)
- 第06回 日本語から英語へ(2)
- 第07回 日本語から英語へ(3)
- 第08回 ミニ通訳実践会
- 第09回 対話の通訳(1)
- 第10回 対話の通訳(2)
- 第11回 対話の通訳(3)
- 第12回 実際の現場(1)
- 第13回 実際の現場(2)
- 第14回 実際の現場(3)
- 第15回 まとめと総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

演習科目ですから、出席は当然です。その上で授業への積極的参加の度合いと学期末試験の得点を総合して評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

言うまでもないことですが、授業の時だけの練習では実力はつきません。平素から英語に触れる努力をし、例えばテレビを見ながら通訳練習をしてみる、というような心がけが大切だと思います。

また、毎時間、次週までに準備して欲しいことを確認しますので、予習も怠りのないようお願いします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく知られているように、You Tubeの中に、優れた英語の音声教材がたくさん入っています。こうしたものを使って、自宅で練習していただくのも良いと思います。時にはこうしたものを課題として指定することも考えたいと思います。

キーワード /Keywords

通訳基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3, 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

もしあなたが明日、アメリカから日本にやってくるプロ野球選手の通訳をしなければならなくなったとしたら、今日何をしますか？英語の勉強でしょうか？それより緊急にやらなければならないことは、その選手について、その選手が属していた球団やリーグについて、さらにはアメリカの野球界と日本の野球界の違いについて調べ、記者会見でどんなことが聞かれるのかを想定して準備しておくことが必要となるのではないのでしょうか。そう考えてみると、通訳は、ことばを移し替えるだけではないことがよく分かります。自分が理解できない話題について通訳することはできないからです。その上で英語力や日本語表現力といった力が必要になってくるわけです。

通訳基礎演習Ⅰでは、英語をきちんと正しく聞き取れるようになるための訓練を基本としながら、多様な話題の教材を用いることにより、知識も身につけてもらえるよう工夫したいと思います。また、毎回の授業に先だって、ウォーミングアップとして日本語と英語の発音（発声）練習を行ないます。

教科書 /Textbooks

水野 真木子、鍵村 和子 著 『通訳実践トレーニング』（大阪教育図書）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 オリエンテーション：通訳とはどのような行為なのかを考えます。
- 第02回 英語から日本語へ(1)
- 第03回 英語から日本語へ(2)
- 第04回 英語から日本語へ(3)
- 第05回 日本語から英語へ(1)
- 第06回 日本語から英語へ(2)
- 第07回 日本語から英語へ(3)
- 第08回 ミニ通訳実践会
- 第09回 対話の通訳(1)
- 第10回 対話の通訳(2)
- 第11回 対話の通訳(3)
- 第12回 実際の現場(1)
- 第13回 実際の現場(2)
- 第14回 実際の現場(3)
- 第15回 まとめと総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

演習科目ですから、出席は当然です。その上で授業への積極的参加の度合いと学期末試験の得点を総合して評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

言うまでもないことですが、授業の時だけの練習では実力はつきません。平素から英語に触れる努力をし、たとえばテレビを見ながら通訳練習をしてみる、というような心がけが大切だと思います。

また、毎時間、次週までに準備して欲しいことを確認しますので、予習も怠りのないようお願いします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく知られているように、You Tubeの中に、優れた英語の音声教材がたくさん入っています。こうしたものを使って、自宅で練習していただくのも良いかと思います。時にはこうしたものを課題として指定することも考えたいと思っています。

キーワード /Keywords

通訳基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1, 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

もしあなたが明日、アメリカから日本にやってくるプロ野球選手の通訳をしなければならなくなったとしたら、今日何をしますか？英語の勉強でしょうか？それより緊急にやらなければならないことは、その選手について、その選手が属していた球団やリーグについて、さらにはアメリカの野球界と日本の野球界の違いについて調べ、記者会見でどんなことが聞かれるのかを想定して準備しておくことが必要となるのではないのでしょうか。そう考えてみると、通訳は、ことばを移し替えるだけではないことがよく分かります。自分が理解できない話題について通訳することはできないからです。その上で、英語力や日本語表現力といった力が必要になってくるわけです。通訳基礎演習IIでは、応用編として、より高度な英語聴解力の養成を軸にすえ、さまざまな音源を教材に訓練を行いません。語彙を増やす訓練も継続して行ないたいと思います。また、毎回の授業に先だって、ウォーミングアップとして日本語と英語の発音（発声）練習を行いません。

教科書 /Textbooks

小林 敏彦、シヨーン・クランキー 著 『英語スピーチとプレゼンの技術』（南雲堂）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 オリエンテーション：通訳について概説します。
- 第02回 Unit 1 に基づく通訳練習
- 第03回 前回の通訳の評価と課題の克服
- 第04回 Unit 2 に基づく通訳練習
- 第05回 前回の通訳の評価と課題の克服
- 第06回 Unit 3 に基づく通訳練習
- 第07回 前回の通訳の評価と課題の克服
- 第08回 ミニ通訳実践会
- 第09回 Unit 4 に基づく通訳練習
- 第10回 前回の通訳の評価と課題の克服
- 第11回 Unit 5 に基づく通訳練習
- 第12回 前回の通訳の評価と課題の克服
- 第13回 Unit 6 に基づく通訳練習
- 第14回 前回の通訳の評価と課題の克服
- 第15回 まとめと総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

演習科目ですから、出席は当然です。その上で授業への積極的参加の度合いと学期末試験の得点を総合して評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

言うまでもないことですが、授業の時だけの練習では実力はつきません。平素から英語に触れる努力をし、たとえばテレビを見ながら通訳練習をしてみる、というような心がけが大切だと思います。また、毎時間、次週までに準備して欲しいことを確認しますので、予習も怠りのないようお願いします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく知られているように、You Tubeの中に優れた英語の音声教材がたくさん入っています。こうしたものを使って、自宅で練習していただくのも良いと思います。時にはこうしたものを課題として指定することも考えたいと思います。

キーワード /Keywords

通訳基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 2 - 3, 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

もしあなたが明日、アメリカから日本にやってくるプロ野球選手の通訳をしなければならなくなったとしたら、今日何をしますか？英語の勉強でしょうか？それより緊急にやらなければならないことは、その選手について、その選手が属していた球団やリーグについて、さらにはアメリカの野球界と日本の野球界の違いについて調べ、記者会見でどんなことが聞かれるのかを想定して準備しておくことが必要となるのではないのでしょうか。そう考えてみると、通訳は、ことばを移し替えるだけではないことがよく分かります。自分が理解できない話題について通訳することは出来ないからです。その上で、英語力や日本語表現力といった力が必要になってくるわけです。通訳基礎演習IIでは、応用編として、より実践的な練習を集中的に行ないます。スピーチの学びを合わせて行ないながら、通訳力を高めていく練習を行ないます。また、毎回の授業に先だって、ウォーミングアップとして日本語と英語の発音（発声）練習を行ないます。

教科書 /Textbooks

小林 敏彦、シヨーン・クランキー 著 『英語スピーチとプレゼンの技術』（南雲堂）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 オリエンテーション：通訳について概説します。
- 第02回 Unit 1 に基づく通訳練習
- 第03回 前回の通訳の評価と課題の克服
- 第04回 Unit 2 に基づく通訳練習
- 第05回 前回の通訳の評価と課題の克服
- 第06回 Unit 3 に基づく通訳練習
- 第07回 前回の通訳の評価と課題の克服
- 第08回 ミニ通訳実践会
- 第09回 Unit 4 に基づく通訳練習
- 第10回 前回の通訳の評価と課題の克服
- 第11回 Unit 5 に基づく通訳練習
- 第12回 前回の通訳の評価と課題の克服
- 第13回 Unit 6 に基づく通訳練習
- 第14回 前回の通訳の評価と課題の克服
- 第15回 まとめと総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

演習科目ですから、出席は当然です。その上で授業への積極的参加の度合いと学期末試験の得点を総合して評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

言うまでもないことですが、授業の時だけの練習では実力はつきません。平素から英語に触れる努力をし、たとえばテレビを見ながら通訳練習をしてみるといような心がけが大切だと思います。また、毎時間、次週までに準備して欲しいことを確認しますので、予習も怠りのないようお願いします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく知られているように、You Tubeの中に、優れた英語の音声教材がたくさん入っています。こうしたものを使って、自宅で練習していただくのも良いと思います。時にはこうしたものを課題として指定することも考えたいと思います。

キーワード /Keywords

異文化フィールドワーク【昼】

担当者名 /Instructor
ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この科目は、学生の自主的な異文化体験を「生きた学習」として認め、それに対して一定の評価を与え、学生の積極的な異文化体験を促進する目的のために開講されている。受講開始時において、原則として1年以内に1ヶ月以上の海外滞在経験を持ち、撮ってきた写真を使って異文化体験を報告することができることが受講条件となる。

教科書 /Textbooks

特にテキストは定めない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指摘。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 学生による異文化体験プレゼンテーション1
- 第3回 ディスカッション1
- 第4回 学生による異文化体験プレゼンテーション2
- 第5回 ディスカッション2
- 第6回 学生による異文化体験プレゼンテーション3
- 第7回 ディスカッション3
- 第8回 学生による異文化体験プレゼンテーション4
- 第9回 ディスカッション4
- 第10回 学生による異文化体験プレゼンテーション5
- 第11回 ディスカッション5
- 第12回 学生による異文化体験プレゼンテーション6
- 第13回 ディスカッション6
- 第14回 学生による異文化体験プレゼンテーション7
- 第15回 ディスカッション7

成績評価の方法 /Assessment Method

海外滞在体験報告のプレゼンテーションと、それを簡単に文にまとめたレポートによって成績を出す。

レポート - 40% プレゼンテーション - 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1ヶ月の海外滞在経験を示す何か(写真等)を用意すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学研究I (音声学・音韻論) 【昼】

担当者名 /Instructor 山内 ひさ子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年(英米優先)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

音声学・音韻論の基礎知識を学ぶとともに、実践的な訓練により、英語の正しい発音を習得する。英語の強勢、リズム、イントネーションについても学び、英語らしい音声について明らかにする。音声分析ソフトを用い、spectrographによる分析も試みる。

教科書 /Textbooks

佐藤 寧、佐藤 努 著『現代の英語音声学』金星堂、2400円(税別)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、プリントを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction 音声学・音韻論の定義、IPA (テキスト:第1章、第3章)
- 2回 発生のメカニズム、母音の種類(1) (テキスト:第2章、第4章)
- 3回 母音の種類(2)、二重母音 (テキスト:第4章)
- 4回 子音の種類(1)鼻音、閉鎖音 (テキスト:第5章)
- 5回 子音の種類(2)摩擦音 (テキスト:第5章)
- 6回 子音の種類(3)破擦音、側音、半母音(第5章)
- 7回 紛らわしい子音、紛らわしい母音
- 8回 音の強勢(テキスト:第7章)
- 9回 音の縮小、同時長音(テキスト:第8章、第9章)
- 10回 英語のリズム(テキスト:第6章)
- 11回 イントネーション(1)(テキスト:第10章)
- 12回 イントネーション(2)(テキスト:第10章)
- 13回 音響音声学(テキスト:第11章)
- 14回 音変化と規則性(テキスト:第13章、第15章)
- 15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加、提出課題 40%
期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

カセットテープとUSBメモリを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

IPA, articulation, vowel, consonant, stress, intonation, acoustic phonetics

英語学研究I (音声学・音韻論) 【昼】

担当者名 /Instructor 山内 ひさ子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年 (国・比優先)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

音声学・音韻論の基礎知識を学ぶとともに、実践的な訓練により、英語の正しい発音を習得する。英語の強勢、リズム、イントネーションについても学び、英語らしい音声について明らかにする。音声分析ソフトを用い、spectrographによる分析も試みる。

教科書 /Textbooks

佐藤 寧、佐藤 努 著『現代の英語音声学』金星堂、2400円 (税別)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、プリントを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction 音声学・音韻論の定義、IPA (テキスト：第1章、第3章)
- 2回 発生のメカニズム、母音の種類 (1) (テキスト：第2章、第4章)
- 3回 母音の種類 (2)、二重母音 (テキスト：第4章)
- 4回 子音の種類 (1) 鼻音、閉鎖音 (テキスト：第5章)
- 5回 子音の種類 (2) 摩擦音 (テキスト：第5章)
- 6回 子音の種類 (3) 破擦音、側音、半母音 (第5章)
- 7回 紛らわしい子音、紛らわしい母音
- 8回 音の強勢 (テキスト：第7章)
- 9回 音の縮小、同時長音 (テキスト：第8章、第9章)
- 10回 英語のリズム (テキスト：第6章)
- 11回 イントネーション (1) (テキスト：第10章)
- 12回 イントネーション (2) (テキスト：第10章)
- 13回 音響音声学 (テキスト：第11章)
- 14回 音変化と規則性 (テキスト：第13章、第15章)
- 15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加、提出課題 40%
期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

カセットテープとUSBメモリを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

IPA, articulation, vowel, consonant, stress, intonation, acoustic phonetics

英語学研究II (統語論) 【昼】

担当者名 /Instructor 北峯 裕士 / 英米学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本語と英語の統語構造の違い。

教科書 /Textbooks

特に無し。プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『生成文法を学ぶ人のために』中井・上田編 世界思想社

また、必要におおじて、随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 英語と日本語の統語構造の違い
- 3回 英語と日本語の統語構造の違い
- 4回 理論的背景の概要
- 5回 語彙範疇①
- 6回 語彙範疇②
- 7回 語彙範疇③
- 8回 機能範疇①
- 9回 機能範疇②
- 10回 機能範疇③
- 11回 語彙範疇と機能範疇の違い
- 12回 英語と日本語の統語構造の違いの理論的説明
- 13回 英語と日本語の統語構造の違いの理論的説明
- 14回 理論的説明における問題点等の指摘
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 50 % レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回、宿題を出します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語史【昼】

担当者名 /Instructor 松崎 徹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講座では、国際語としての地位を確立したといえる英語の、その誕生（5世紀）から近世（16世紀）に至るまでの歴史を概観する。特に、他のヨーロッパ諸言語と比べて現代英語の際立った特徴とされる（1）語彙の豊富さ（2）語尾変化の少なさ、の2点に焦点を当て、こうした特徴がフランス語を中心とした諸外国語の影響によるものが大きいことを、具体例を通して概観し、英語の発達の歴史はいわば異質の言語・文化との交流の歴史であることを学んでいく。

教科書 /Textbooks

『ファンダメンタル英語史』（児馬修著） ひつじ書房 1500円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「なし」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 シラバス配布 & 英語史導入問題の解答と解説
- 2回 はしがき & はじめに【外面史】、【内面史】
- 3回 英語史の概観（1）【アングロサクソン人】
- 4回 英語史の概観（2）【ケルト人】
- 5回 印欧祖語（1）【ウイリアム・ジョーンズ】
- 6回 印欧祖語（2）【印欧語族】
- 7回 古英語の文献・特殊文字（1）【ルーン文字】、【ローマンアルファベット】
- 8回 古英語の文献・特殊文字（2）【古英語】
- 9回 海賊と英語（1）【ヴァイキング】
- 10回 海賊と英語（2）【借用語】
- 11回 海賊と英語（3）【地名】
- 12回 ノルマン人の征服と英語（1）【ノルマン人の征服】
- 13回 ノルマン人の征服と英語（2）【英語の危機】
- 14回 ノルマン人の征服と英語（3）【フランス語借用語】
- 15回 まとめ～英語史を学んで～

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況・・・20% 定期試験・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎講義の冒頭に前回の講義内容に関する質問を受講生に口頭でおこなうので、講義開始時までに前回の講義内容を復習しておくこと。この口頭質問は重要なクラス活動と位置づけるので、平常点として成績評価の対象とする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アングロサクソン 古英語 借用語 フランス語

社会言語学研究【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
選択科目

担当者名 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

言語は様々な要因によって影響を受けます。どのような要因がどのような影響を与えるのか、また私たちは言語をどのように駆使しているのかを、社会言語学の視点から考えます。言語と社会との関係、そこに生じる諸問題を理解することがこの授業の狙いです。今年度は「ことばのバリエーション」、「言語と性」に焦点を当てます。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 東 照二.(1997).『社会言語学入門-生きた言葉のおもしろさに迫る』. 研究社.
- Jennifer Coates (2004). Women, Men and Language, 3rd ed. Pearson.
- 田中春美・田中幸子.(1996).『社会言語学への招待-社会・文化・コミュニケーション』ミネルヴァ書房.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会言語学とは
- 2回 地域方言
- 3回 言語と階級
- 4回 言語と民族・年齢
- 5回 言語と性
- 6回 コミュニケーションとジェンダー：会話における性差
- 7回 異性間の会話における支配
- 8回 同性間の会話
- 9回 異文化コミュニケーション
- 10回 バリエーションとジェンダー
- 11回 音韻的・文法的性差
- 12回 なぜ性差は生じるのか
- 13回 ソーシャルネットワークにおける性差
- 14回 言語変化における性差の役割
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%。出席・授業への参加状況も考慮します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

欠席が3分の1を越える場合は、学期末試験を受けられません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス研究 【昼】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

映画や文学、新聞を中心にイギリスの文化を読み解く。階級、ジェンダー、セクシュアリティ、エスニシティ、宗教、王室等をキーワードとして、歴史的な視点、現代的な視点の両方から考えてみたい。

This course will assess and analyse British Culture through a focus on film, literature and journalistic text. Both historical and modern perspectives will be maintained and embraced throughout this investigation into the key themes of class, gender, sexuality, ethnicity, religion and sovereignty.

教科書 /Textbooks

Handouts will be provided at the beginning of each class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Relevant material for further study will be introduced during each class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Class 1: Gender and Sexuality on the Shakespearean Stage
- Class 2: Gender and Sexuality in Modern Britain: Self and Society in Billy Eliot
- Class 3: Gender, Sexuality and Identity throughout British History
- Class 4: Religion in Tudor England: The Legacy of Henry VIII
- Class 5: Religion in Tudor England: The Philosophy of Elizabeth I
- Class 6: Religion and Identity throughout British History
- Class 7: Social Class in Shakespearean London
- Class 8: Social Class in Victorian London
- Class 9: Social Class in Film and Rock in Modern Britain: Billy's Ballet and Pulp's Plea
- Class 10: Ethnicity and Shakespeare
- Class 11: Ethnicity and War
- Class 12: Ethnicity in Modern Britain: Bend It Like Beckham
- Class 13: The Royal Family and the British Press
- Class 14: Sovereigns On Stage and Film: Presenting the Royals
- Class 15: Review and Discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

- Homework assignment 1 - 50% (Short Essay)
- Homework assignment 2 - 50% (Short Essay)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

None specified

履修上の注意 /Remarks

Please note that this course will be conducted in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英米学科の教育の柱として、「語学力の養成」、「英語のこころを学ぶ」、「英語の先にある世界を学ぶ」をあげることができます。この授業は、このうち「英語のこころを学ぶ」ために用意されたものです。まずは比較文化論の方法論を踏まえ、異文化を読み解くにはどのようなことに注意を払えばよいのかを確認します。それに続いて、英語文化の背後にあるイギリス、アメリカの文化を見つめ、さらに英米以外の英語圏の国々についても理解を深めたいと思います。最後に、それによって明らかにされた日本文化のさまざまな特徴を英語で語る練習をしてみたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しません。授業の中でプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 オリエンテーション：文化を読み解くとは
- 第02回 イギリスとアメリカの素顔を知る。
- 第03回 マザーグースと児童文学
- 第04回 シェイクスピアへの道：英国中世演劇
- 第05回 シェイクスピアとその作品：概論
- 第06回 シェイクスピア作品を観る(1)
- 第07回 シェイクスピア作品を観る(2)
- 第08回 アメリカの音楽：ジャズの歴史とロックの誕生
- 第09回 イギリスの音楽：イギリスのロック
- 第10回 イギリスの音楽：プロムスで歌われるイギリスのこころ
- 第11回 聖地デイズニーランド
- 第12回 世界共通語としての英語
- 第13回 英語を通して世界を見る
- 第14回 日本文化を英語で語ろう
- 第15回 まとめと総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として期末試験の成績のみで評価します。ただし、欠席が極端に多い人は不可、もしくは極端に低い評価とします。逆にすべて、もしくはほとんどすべて出席している人にはボーナス点を加点します。したがって、割合では示しにくいのですが、出席を非常に重視していると理解して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この授業は、予習を前提に考えてはいませんので、特に何か準備をして臨んでいただく必要はありません。しかし、復習は十分にしてくださいと思います。授業の中で配布するプリントを読み直し、できればそれをもとに、自分なりにさらにリサーチを続けていただければと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語はもはやイギリス、アメリカだけのものではなくなっています。しかし、英語を育んできた両国の文化を学ぶことは、英語の背後にある考え方、ものの見方を知る上でも有益です。積極的な気持ちで学んでほしいと思います。

キーワード /Keywords

日英文化研究 【昼】

担当者名 /Instructor
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goals of this class are threefold: first, to gain a deeper understanding of the United Kingdom and other English-speaking countries; second, to compare and contrast the cultures of Anglosphere countries with Japan and thereby come to an understanding of how the world is interconnected; and third, to recognize the dynamic nature of culture and consider how complex cultural trends continue to influence 21st century life.

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Course Introduction
- 第2回 What is the Anglosphere?
- 第3回 Legends and Lore
- 第4回 Continental Connections
- 第5回 A Tale of Two Bridges
- 第6回 Ladies and Gentlemen
- 第7回 Oxford and the Sumida
- 第8回 How to Make a Worldwide Empire
- 第9回 Enclosures
- 第10回 Self-determination
- 第11回 Border Stories
- 第12回 Imperial Entanglements
- 第13回 I Hear America Singing
- 第14回 So Many Englishes
- 第15回 Course Review

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加 : 30% 小テスト : 0% 期末試験 : 60% 課題 : 0% 態度 : 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

This course will be taught using a combination of English and Japanese. Lecture notes will be provided to help students review content and vocabulary outside of class time.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

The examination will be in Japanese but will include some English vocabulary.

キーワード /Keywords

上級英語I【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
選択科目

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course is for English majors who already have a sound foundation in English skills and who wish to push their language ability to a higher level. The topics and new language input for the course will come from reading and discussing British novelist George Orwell's contemporary masterpiece "1984". Learners will practice reading more quickly and focusing on specific points. The course will be supplemented by a viewing of the film starring John Hurt and Richard Burton. The in-class discussions will address issues of individualism and culture relevant to anyone concerned with life in a progressively more globalized world. The focus throughout the course will be on learning new vocabulary and expressions to enable more efficient and effective communication on topics of international interest.

教科書 /Textbooks

George Orwell. 1984. Everyman's Library Edition. ISBN: 978-0-679-41739-2 (US) or 978-1-85715-134-3 (UK). This book can be ordered online from booksellers such as amazon.co.jp, amazon.com or amazon.co.uk

Hugh Graham-Marr. ABAX Workbook for New Words and Expressions (Japan Version). ISBN: 4-900-81900-X.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Merriam-Webster's Collegiate Dictionary with CD-ROM (11th Edition)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation
- Part 1
- 2回 Presentation and discussion of ideas (pp. 3-21: 19 pages)
- 3回 Presentation and discussion of ideas (22-39: 17)
- 4回 Presentation and discussion of ideas (40-66: 26)
- 5回 Presentation and discussion of ideas (66-84: 18)
- 6回 Presentation and discussion of ideas (85-107: 22)
- Part 2
- 7回 Presentation and discussion of ideas (111-143: 31)
- 8回 Presentation and discussion of ideas (143-167: 34)
- 9回 Presentation and discussion of ideas (167-200: 33)
- 10回 Presentation and discussion of ideas (200-234: 34)
- 11回 Watch film for Parts 1 and 2 of the book (Initial draft of essay due)
- Part 3
- 12回 Presentation and discussion of ideas (pp. 237-272: 35)
- 13回 Presentation and discussion of ideas (pp. 273-295: 22)
- 14回 Presentation and discussion of ideas (pp. 295-310: 15)
- 15回 Watch film for Part 3 of the book (Final draft of essay due)

成績評価の方法 /Assessment Method

Completion of weekly written assignments	50%
Term paper on topic to be agreed on with the instructor	50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- Reading: 15-35 pages of English per week
- Writing: Summary and opinion of reading to be presented in class each week
- Discussion: Express/share opinions on reading with classmates and instructor each week

履修上の注意 /Remarks

All reading, writing, discussion, instruction and video will be in English only.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

You should take this course if you are genuinely interested in contemporary culture and want to improve your ability to discuss more advanced issues of international interest in English.

キーワード /Keywords

Contemporary culture, literature, discussion, vocabulary building

上級英語II 【昼】

専門教育科目
演習・研究科目
選択科目

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will develop critical thinking skills through the reading, analysis and discussion of topical materials. Essays, magazine articles, and timely materials will be provided by the instructor as reading assignments that will lead to the analysis and discussion of the given topic.

教科書 /Textbooks

Material will be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to the course
- 2回 Justifying decisions: rational
- 3回 Justifying decisions: emotional
- 4回 Justifying decisions: review
- 5回 Recognizing bias 1
- 6回 Recognizing bias 2
- 7回 Recognizing bias 3
- 8回 Assignment 1
- 9回 Recognizing logical fallacies 1
- 10回 Recognizing logical fallacies 2
- 11回 Assignment 2
- 12回 Evaluating evidence 1
- 13回 Evaluating evidence 2
- 14回 Evaluating evidence 3
- 15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 40%
Assignments 40%
Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Complete the assignments in a timely manner.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語プレゼンテーション演習【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 1, 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語で情報を発信する技術を身につけることを目的とする。まず英語でプレゼンテーションをする際の基本的な方法や知識を学ぶ。原則としてパワーポイントを用いる方法を紹介するが、必ずしもパワーポイントを用いなければならないというものではない。最初の数回で、すぐれたプレゼンテーションの例をいくつか紹介、分析し、英語プレゼンテーションをする際の重要なポイント、注意すべき事などを学ぶ。4回目からは、学生自身によるプレゼンテーションの実践によって演習を進める。英語圏で、何かを語るときにまず必要なのは、自国の文化についての知識である。そういうわけで、本演習では日本と英語圏の文化について比較考察しうるようなテーマを自ら設定し、十分にサーチしたものをプレゼンテーションする。

教科書 /Textbooks

Printed materials to be supplied by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 英語プレゼンテーションの基本 I: Style
- 第3回 英語プレゼンテーションの基本 II: Organization
- 第4回 プレゼンテーションの基本技術について (powerpointなど)
- 第5回 すぐれたプレゼンテーションから学ぶ : いくつかのすぐれたプレゼンテーションの例のいくつかをビデオで見て、それについて分析、解説する。
- 第6回 ~プレゼンの実践。毎回プレゼンテーションを行う。プレゼンテーションの後、英語による全体でのディスカッションを行う。
- 第7回 English Presentation by group 2
- 第8回 English Presentation by group 3
- 第9回 English Presentation by group 4
- 第10回 English Presentation by group 5
- 第11回 English Presentation by group 6
- 第12回 Individual English Presentations 1
- 第13回 Individual English Presentations 2
- 第14回 Individual English Presentations 3
- 第15回 Individual English Presentations 4

成績評価の方法 /Assessment Method

宿題 - 50%

授業中に行われるプレゼンテーション - 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Outside readings and research related for presentations in English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語プレゼンテーション演習【昼】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 3 - 3, 4
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語で情報を発信する技術を身につけることを目的とする。まず英語でプレゼンテーションをする際の基本的な方法や知識を学ぶ。原則としてパワーポイントを用いる方法を紹介するが、必ずしもパワーポイントを用いなければならないというものではない。最初の数回で、すぐれたプレゼンテーションの例をいくつか紹介、分析し、英語プレゼンテーションをする際の重要なポイント、注意すべき事などを学ぶ。4回目からは、学生自身によるプレゼンテーションの実践によって演習を進める。英語圏で、何を語るときにまず必要なのは、自国の文化についての知識である。そういうわけで、本演習では日本と英語圏の文化について比較考察しうるようなテーマを自ら設定し、十分リサーチしたものをプレゼンテーションする。

教科書 /Textbooks

Printed materials to be supplied by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 英語プレゼンテーションの基本 I: Style
- 第3回 英語プレゼンテーションの基本 II: Organization
- 第4回 プレゼンテーションの基本技術について (powerpointなど)
- 第5回 すぐれたプレゼンテーションから学ぶ：いくつかのすぐれたプレゼンテーションの例のいくつかをビデオで見て、それについて分析、解説する。
- 第6回～プレゼンの実践。毎回プレゼンテーションを行う。プレゼンテーションの後、英語による全体でのディスカッションを行う。
- 第7回 English Presentation by group 2
- 第8回 English Presentation by group 3
- 第9回 English Presentation by group 4
- 第10回 English Presentation by group 5
- 第11回 English Presentation by group 6
- 第12回 Individual English Presentations 1
- 第13回 Individual English Presentations 2
- 第14回 Individual English Presentations 3
- 第15回 Individual English Presentations 4

成績評価の方法 /Assessment Method

宿題 - 50%

授業中に行われるプレゼンテーション - 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リーディング演習II【昼】

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Anthony TrollopeのFramley Parsonageを扱う。

①テキストが書かれた時代背景、社会状況のじゅうぶんな理解、②読む者の主観を排してテキストの意図する意味の把握、③叙述の仕方と文法の分析、以上3点がねらいである。

教科書 /Textbooks

必要な者はAnthony Trollope: Framley Parsonage (Penguin Classics)を購入する。

授業はこのテキストのコピーを適宜プリントして配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

R. C. Terry: Oxford Reader's Companion to Trollope (Oxford)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方。
- 2回 101--108頁の翻訳
- 3回 109-116頁の翻訳
- 4回 117-124頁の翻訳
- 5回 115-122頁の翻訳
- 6回 123-130頁の翻訳
- 7回 131-138頁の翻訳
- 8回 139-146頁の翻訳
- 9回 147-154頁の翻訳
- 10回 155-162頁の翻訳
- 11回 163-170頁の翻訳
- 12回 171-178頁の翻訳
- 13回 179-186頁の翻訳
- 14回 101-146頁の翻訳仕上げ
- 15回 147-186頁の翻訳仕上げ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度... 20% 課題... 40% 期末試験... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1回に8頁ずつ読んでいく。1頁ずつ担当を前もって当てるので聞かれたことに即答できるよう準備しておくこと。受講生は全員1回8頁を読んできてもらう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リーディング演習II【昼】

担当者名 /Instructor 田吹 長彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

原書の精読を通じて語学力・読解力増強を目指す。
テーマは「イギリス文学とヨーロッパ旅行—ロード・バイロンを中心に」。
ロマン主義時代のヨーロッパ各国を背景に現代社会の基盤をなす歴史・地理・文化・文学・政治・宗教などについて探求する。

教科書 /Textbooks

原書Allan Massie; Byron's Travels, Sidgwick & Jackson, London (テキストについては授業の冒頭で説明する)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 上杉文世『バイロン研究』研究社
 - 楠本哲夫『永遠の巡礼詩人バイロン』三省堂
 - 阿部知二『バイロン』研究社
 - 田吹長彦『ヨーロッパ夢紀行、詩人バイロンの旅—ベルギー・ライン河・スイス編』丸善出版サービスセンター
 - 田吹長彦『ロード・バイロン「チャイルド・ハロルドの巡礼」第一編注解』九州大学出版会
 - 田吹長彦『ロード・バイロン「チャイルド・ハロルドの巡礼」第二編注解』九州大学出版会
 - 田吹長彦『ロード・バイロン「チャイルド・ハロルドの巡礼」第三注解』九州大学出版会
- その他、研究発表に必要な原書・和書の参考書については、必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

上記のAllan Massieの原書を精読。Allan Massieは、バイロンの二回にわたるヨーロッパ旅行の背景(イギリス, ポルトガル, スペイン, 地中海, マルタ島, ギリシア, アルバニア, トルコ, ベルギー, ドイツ, スイス, イタリアなどの国々)をもとに解説している。

「英語リーディング演習II」では、バイロンが第2回目の旅で訪れたベルギー, ドイツ, スイス, イタリアを背景とする部分を精読する。必要に応じて各種の映像・地図などを随時活用する予定。

なお、この授業の内容は、第一学期の「英語リーディング演習I」から継続する。「英語リーディング演習I」では、バイロンの第一回目のヨーロッパ旅行(イギリス, ポルトガル, スペイン, 地中海, マルタ島, ギリシア, アルバニア, トルコ)を背景とする部分を精読する予定。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度(予習・積極性・理解度を含む)...20% 期末試験...80%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

語学力・読解力増強のために、必ず講義ノートを作成して、各授業の予習をすること。

履修上の注意 /Remarks

この授業は出席と自主的な予習を重視します
なお、当然のことながら、開講回数の2 / 3以上の出席回数がないと単位認定はできません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

将来ヨーロッパ旅行を計画している人には、さまざまな旅の情報を提供できると思います。

キーワード /Keywords

ヨーロッパの歴史・地理・文化・文学・政治・宗教。旅とイギリス・ロマン派文学。

英語リーディング演習II【昼】

担当者名 /Instructor 田吹 長彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

原書の精読を通じて語学力・読解力増強を目指す。
テーマは「イギリス文学とヨーロッパ旅行—ロード・バイロンを中心に」。
ロマン主義時代のヨーロッパ各国を背景に現代社会の基盤をなす歴史・地理・文化・文学・政治・宗教などについて探求する。

教科書 /Textbooks

原書Allan Massie; Byron's Travels, Sidgwick & Jackson, London (テキストについては授業の冒頭で説明する)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 上杉文世『バイロン研究』研究社
 - 楠本哲夫『永遠の巡礼詩人バイロン』三省堂
 - 阿部知二『バイロン』研究社
 - 田吹長彦『ヨーロッパ夢紀行、詩人バイロンの旅—ベルギー・ライン河・スイス編』丸善出版サービスセンター
 - 田吹長彦『ロード・バイロン「チャイルド・ハロルドの巡礼」第一編注解』九州大学出版会
 - 田吹長彦『ロード・バイロン「チャイルド・ハロルドの巡礼」第二編注解』九州大学出版会
 - 田吹長彦『ロード・バイロン「チャイルド・ハロルドの巡礼」第三注解』九州大学出版会
- その他、研究発表に必要な原書・和書の参考書については、必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

上記のAllan Massieの原書を精読。Allan Massieは、バイロンの二回にわたるヨーロッパ旅行の背景(イギリス, ポルトガル, スペイン, 地中海, マルタ島, ギリシア, アルバニア, トルコ, ベルギー, ドイツ, スイス, イタリアなどの国々)をもとに解説している。

「英語リーディング演習II」では、バイロンが第2回目の旅で訪れたベルギー, ドイツ, スイス, イタリアを背景とする部分を精読する。必要に応じて各種の映像・地図などを随時活用する予定。

なお、この授業の内容は、第一学期の「英語リーディング演習I」から継続する。「英語リーディング演習I」では、バイロンの第一回目のヨーロッパ旅行(イギリス, ポルトガル, スペイン, 地中海, マルタ島, ギリシア, アルバニア, トルコ)を背景とする部分を精読する予定。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度(予習・積極性・理解度を含む)...20% 期末試験...80%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

語学力・読解力増強のために、必ず講義ノートを作成して、各授業の予習をすること。

履修上の注意 /Remarks

この授業は出席と自主的な予習を重視します
なお、当然のことながら開講回数の2 / 3以上の出席回数がないと単位認定はできません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

将来ヨーロッパ旅行を計画している人には、さまざまな旅の情報を提供できると思います。

キーワード /Keywords

ヨーロッパの歴史・地理・文化・文学・政治・宗教。旅とイギリス・ロマン派文学。

英語リーディング演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 江口 雅子 / EGUCHI MASAKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Roald Dahlという作家、作風について充分理解させ、Dahlの描出するヒューモラスな人間像と世界像をとらえさせる。現代英語の標準的なもので書かれたDahlの短編作品2編にふれ、Dahlの英文を十分に鑑賞させる。学生は原書を読み解く能力を更に身につけることができる。

教科書 /Textbooks

Dahl's Short Stories from Kiss Kiss、高井貴一・城戸法政編註、松柏社、1,030円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	“Edward the Conqueror” ①	英文読解
2回	“Edward the Conqueror” ②	英文読解
3回	“Edward the Conqueror” ③	英文読解
4回	“Edward the Conqueror” ④	英文読解
5回	“Edward the Conqueror” ⑤	英文読解
6回	“Edward the Conqueror” ⑥	英文読解、作品のとらえ方を検討
7回	“Pig” ①	英文読解
8回	“Pig” ②	英文読解
9回	“Pig” ③	英文読解
10回	“Pig” ④	英文読解
11回	“Pig” ⑤	英文読解
12回	“Pig” ⑥	英文読解
13回	“Pig” ⑦	英文読解
14回	“Pig” ⑧	英文読解、作品のとらえ方を検討
15回	Course Review	

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・40% 学期末試験・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に、予習を必須とする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語は禁止します。理由なき遅刻・途中退席は禁止します。

キーワード /Keywords

半世紀前、イギリス文学、イギリス社会、イギリス文化、アメリカ社会、アメリカ文化

Advanced Reading and Discussion 【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / Denis JONNES / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3 - 1・2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Aim of this course is further development of reading and discussion skills. Newspaper articles, essays, and short fiction will be used to increase reading speed, expand vocabulary, and improve discussion skills. Reading, comprehension & speaking exercises are conducted on individual basis, as well as in pair and work-group format. Students are expected to keep a reading log and to prepare sample texts and study guides. Exercises are designed to help students prepare for reading sections of standardized tests (TOEIC & TOEFL).

教科書 /Textbooks

Printed materials provided by instructor

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 "Are We Still Evolving?"
- 3 回 "Intelligent Machines"
- 4 回 Forster, "The Machine Stops"
- 5 回 The Modern Community
- 6 回 Carver, "Neighbors"
- 7 回 "Marriage"
- 8 回 Hemingway, "The Cat in the Rain"
- 9 回 The Consumer Society
- 1 0 回 Media and Privacy
- 1 1 回 Cheever, "The Enormous Radio"
- 1 2 回 Cheever, (continued)
- 1 3 回 Generations
- 1 4 回 O'Connor, "Everything That Rises Must Converge"
- 1 5 回 Review and Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation ... 30% Homework ... 30 % Tests ... 40 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Reading & Discussion I; Reading & Discussion II

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Reading; Text Comprehension; Vocabulary Development.

Advanced Reading and Discussion 【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / Denis JONNES / 英米学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 3 - 3・4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Aim of this course is further development of reading and discussion skills. Newspaper articles, essays, short fiction will be used to increase reading speed, expand vocabulary, and improve speaking ability. Reading, comprehension, & oral exercises are conducted on individual basis, as well as in pair and work-group format. Students are expected to keep a Reading Log and to create their own Study Guides. Exercises are designed to help students prepare for reading sections of standardized tests (TOEIC & TOEFL).

教科書 /Textbooks

Printed materials provided by instructor

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 "Are We Still Evolving?"
- 3 回 "Intelligent Machines"
- 4 回 Forster, "The Machine Stops"
- 5 回 The Modern Community
- 6 回 Carver, "Neighbors"
- 7 回 Couples and Marriage
- 8 回 Hemingway, "The Cat in the Rain"
- 9 回 Consumerism
- 1 0 回 Media and Privacy
- 1 1 回 Cheever, "The Enormous Radio"
- 1 2 回 Cheever, (continued)
- 1 3 回 Generations
- 1 4 回 O'Connor, "Everything That Rises Must Converge"
- 1 5 回 Review and Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation ... 30% Homework ... 30 % Tests ... 40 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students should have completed Reading & Discussion I and Reading & Discussion II.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Reading Comprehension; Vocabulary Development; Discussion

ビジネス英語研究【昼】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスはビジネス関係の読解力とライティングの養成を目標とします。(1) 英文読解力養成: 高度なビジネス誌の最近の記事を取り上げ、その内容に沿って経済、ビジネスの仕組みを解説していく。(2) ビジネスライティング養成: ビジネスライティング中心に英文作成力を養い、最終的にはロールプレイとしてある仕事のポストに関する応募書類の一環としてカバーレターやレジメを作成し、インタビューまでカバーします。

教科書 /Textbooks

1. Handouts: news articles : The Economist, Businessweek, Times, Newsweek などの最近の記事
2. Daniel R. Fusfeld. "The Age of the Economist". 洋版出版 (1.2ともこちらで用意します)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で適宜通知する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Session 1:Class orientation
- Session 2:Reading the recent articles in The Economist1
- Session 3:Reading the recent articles in The Economist2
- Session 4:Reading the recent articles in Businessweek1
- Session 5:Reading the recent articles in Businessweek2
- Session 6:Reading the recent articles in Times1
- Session 7:Reading the recent articles in Times2
- Session 8:Reading the recent articles in Newsweek1
- Session 9:Reading the recent articles in Newsweek2
- Session 10:Reading the recent articles in Bloomberg1
- Session 11:Reading the recent articles in Bloomberg2
- Session 12:Business writing1
- Session 13:Business writing2
- Session 14:Resume writing
- Session 15:Interview

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation: 30 Midterm quiz:30 Final examination : 40

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既に経済、経営関係の講義を受講している場合はさらに効果的な学習ができます。日本の新聞を読み直近の話題に関心を持ってください。

履修上の注意 /Remarks

かなり高いレベルの読解力が要求されますので自信のある方は力試しに参加してください。目安としてはTOEIC750-990ぐらいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業課題【昼】

担当者名
/Instructor

ゼミ指導教員

履修年次 4年次 単位 8単位 学期 1・2学期(ベ ア) 授業形態 対面式 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

担当教員の指導のもとで卒業課題の対象とするテーマを決める。教員の指導のもとで、英語の論文、翻訳、日本語の論考等から一つ選択し、卒業課題を作成する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

学生の各々の事情に応じて、個々に指導する。

成績評価の方法 /Assessment Method

提出された卒業課題について判定する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当教員の指導を受けながら、資料を徹底的に集めること。徹底的に読むこと。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

キーワード /Keywords

【卒業課題】

異文化間コミュニケーションゼミA1【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This seminar will enable students to examine their own interests and experiences in crossing cultures. We will explore, strengthen and deepen our skills in communication and collaboration. We will have weekly discussions based on readings by writers and scholars from a wide variety of countries and cultures. The improvement of analytical, comprehension, discussion, and writing skills in English are a major goal. The first semester of this seminar will focus on basic theories of communication and culture.

教科書 /Textbooks

Printed materials and handouts to be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Instructor-led discussions on differences in culture.
- 3 回 Workshop and discussion on differences in culture.
- 4 回 Instructor-led discussions on differences in communication.
- 5 回 Workshop and discussion on differences in communication.
- 6 回 Workshop on individual materials for analysis and presentation.
- 7 回 Student presentations.
- 8 回 Student-led discussion and presentation.
- 9 回 Student presentations.
- 1 0 回 Student-led discussion and presentation.
- 1 1 回 Student presentations.
- 1 2 回 Student-led discussion and presentation.
- 1 3 回 Student presentations
- 1 4 回 Student-led discussion and presentation.
- 1 5 回 Final discussion and paper submission.

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation, & Presentations 50% Successful Completion of Paper 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Our meetings will consist of presentations followed by group discussion. While students will be given the freedom to choose materials, they are expected to follow the basic parameters of this seminar. Students can translate materials from Japanese to English but presentations must be in English. All meetings and discussions will be conducted in English. Students will be expected to submit their individual analysis of presented materials in essay format each semester. Each paper should be approximately 2000 words in English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーションゼミA1【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This seminar will enable students to examine their own interests and experiences in crossing cultures. We will explore, strengthen and deepen our skills in communication and collaboration. We will have weekly discussions based on readings by writers and scholars from a wide variety of countries and cultures. The improvement of analytical, comprehension, discussion, and writing skills in English are a major goal. The first semester of this seminar will focus on basic theories of communication and culture.

教科書 /Textbooks

Printed materials and handouts to be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Instructor-led discussions on differences in culture.
- 3 回 Workshop and discussion on differences in culture.
- 4 回 Instructor-led discussions on differences in communication.
- 5 回 Workshop and discussion on differences in communication.
- 6 回 Workshop on individual materials for analysis and presentation.
- 7 回 Student presentations.
- 8 回 Student-led discussion and presentation.
- 9 回 Student presentations.
- 1 0 回 Student-led discussion and presentation.
- 1 1 回 Student presentations.
- 1 2 回 Student-led discussion and presentation.
- 1 3 回 Student presentations
- 1 4 回 Student-led discussion and presentation.
- 1 5 回 Final discussion and paper submission.

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation, & Presentations 50% Successful Completion of Paper 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Our meetings will consist of presentations followed by group discussion. While students will be given the freedom to choose materials, they are expected to follow the basic parameters of this seminar. Students can translate materials from Japanese to English but presentations must be in English. All meetings and discussions will be conducted in English. Students will be expected to submit their individual analysis of presented materials in essay format each semester. Each paper should be approximately 2000 words in English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

通訳ゼミAI【昼】

担当者名 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

通訳ゼミは、通訳者になるために不可欠な語学面のトレーニングはもとより、通訳者に必要な教養や知識を得ることも目標としています。通訳をするために表現力を磨くことが大切なのは言うまでもありませんが、それだけでなく、相手の論理展開について行ける訓練も必要です。その意味では、表現力だけでなく思考力を磨くこともとても大切です。また、通訳をするためには、そこで語られていることを理解できていなければなりません。野球のルールを知らない人が、野球の実況中継を相手に分かるように通訳できるでしょうか。こうしたことを踏まえ、このゼミでは実践と理論をともに柱に据え、皆さんとともに高度な英語力を獲得し、同時に英語を通して幅広い知識を習得していただけるゼミにしていきたいと思っています。3年次は、通訳の実践を通して英語力を磨くことを主眼に取り組みます。

教科書 /Textbooks

柴田 バネッサ 著 『実践ゼミ ウィスパリング同時通訳』 (南雲堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ゼミ・オリエンテーション
- 第02回 Lesson 1 に基づき、実践通訳演習を行ないます。
- 第03回 Lesson 2 に基づき、実践通訳演習を行ないます。
- 第04回 Lesson 3 に基づき、実践通訳演習を行ないます。
- 第05回 Lesson 4 に基づき、実践通訳演習を行ないます。
- 第06回 Lesson 5 に基づき、実践通訳演習を行ないます。
- 第07回 Lesson 6 に基づき、実践通訳演習を行ないます。
- 第08回 前半のまとめと、補助教材による演習を行ないます。
- 第09回 Lesson 7 に基づき、実践通訳演習を行ないます。
- 第10回 Lesson 8 に基づき、実践通訳演習を行ないます。
- 第11回 Lesson 9 に基づき、実践通訳演習を行ないます。
- 第12回 Lesson 10 に基づき、実践通訳演習を行ないます。
- 第13回 Lesson 11 に基づき、実践通訳演習を行ないます。
- 第14回 Lesson 12 に基づき、実践通訳演習を行ないます。
- 第15回 まとめと総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

演習科目ですから、出席は当然です。その上で授業への積極的参加の度合いに実技を加味して総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

言うまでもないことですが、ゼミに出席するだけで実力がつくわけではありません。平素から英語に触れる努力をし、たとえばテレビを見ながら一人通訳練習をする、というような心がけが大切だと思います。また、よく知られているように、You Tubeの中に、優れた英語の音声素材がたくさん入っています。こうしたものを使って、自宅で練習していただくのも良いと思います。時にはこうしたものを課題として指定することも考えたいと思っています。また、毎時間、次週までに準備して欲しいことを確認しますので、予習も怠りがないようお願いします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いよいよゼミが始まります。楽しいゼミになるよう努力します。皆さんも頑張ってください。

キーワード /Keywords

通訳ゼミAI 【昼】

担当者名 /Instructor 野島 啓一 /nojima keiichi / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

自分の考え等を表現する領域（話し言葉・書き言葉を含む）に関する知識・技術の獲得に関することを目標にする。通訳訓練に関する一般的な技術にふれた後、関連する科目との融合・強化について説明して、実習等を通して自分の経験則をつくることも目的とする。メディア機器との連携を通して、字幕翻訳や音声録音の方法など実際に英語が利用されている場面を想定して総合的な学習を念頭におく。原則として3年次のゼミは毎回の授業は教材を用いた解説・練習のセクションとトピック毎の実演デモのセクションの二部構成からなる。

教科書 /Textbooks

『ウイスパリング同時通訳』 柴田バネッサ著 南雲堂 ¥2,286
適宜プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Lesson 1+英語ニュースの口頭要約（日本語）練習
- 2回 Lesson 2+英語ニュースの口頭要約（英語文）練習
- 3回 Lesson 3+reproduction, retentionの説明と練習
- 4回 Lesson 4+summarizing, paraphrasingの説明と練習
- 5回 Lesson 5+「発想」の違いの発見的学習の説明と練習
- 6回 Lesson 6+Shadowingの説明と練習
- 7回 Lesson 7+Whisperingの説明と練習
- 8回 同時通訳もしくは逐次通訳講演会の見学とその課題検討
- 9回 Lesson 8, 9+デジタル録音による訳文吹き込みの実演と課題検討
- 10回 Lesson 10+日本の文化用語の英語による説明の練習
- 11回 Lesson 11+制限時間枠での英語原文のrewritingの説明と練習
- 12回 Lesson 12+BS放送を聴きながらのnote takingの方法と練習
- 13回 Lesson 13+note takingと英文速記の違いと練習
- 14回 Lesson 14+テープ録音（日本語）を聞いてのnumbering方式の要約の練習
- 15回 まとめとプロジェクト（夏休み用）の説明及び前期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

プロジェクト課題...40% + 試験...60%で総合評価をする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『英語プレゼンテーション演習』などの表現を扱う専門科目を同時か前もって履修しておく
学習効果があがる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

翻訳ゼミ AI 【昼】

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文学テキストの翻訳を体得する。
Anthony TrollopeのThe Small House at Allingtonを翻訳する。
①テキストが書かれた時代背景、社会状況のじゅうぶんな理解、②読む者の主観を排してテキストの意図する意味の把握、③視点の人物を意識した主語の統一、④読みやすい、理解しやすい、こなれた文体の確立、⑤訳註箇所適切な選定、以上5点がねらいである。

教科書 /Textbooks

Anthony Trollope: The Small House at Allington (Penguin Classics) をテキストとする。
その他適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

R. C. Terry: Oxford Reader's Companion to Trollope (Oxford)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の進め方。全体の各章1人の担当者が翻訳を授業の2日前までに木下に提出する。訳出難解箇所、訳註必要箇所をチェックし、プレゼンし、ゼミ生全員でそれを検討する。
- 2回 1章
- 3回 2章
- 4回 3章
- 5回 4章
- 6回 5章
- 7回 6章
- 8回 7章
- 9回 8章
- 10回 9章
- 11回 10章
- 12回 11章
- 13回 12章
- 14回 1 - 12章の翻訳仕上げ
- 15回 前期全体の翻訳仕上げ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度... 20% 課題... 80% 期末試験... しない

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当章の日本語訳をワードのファイルで提出する。各担当者は担当章のbrush-upに励み、書式を統一する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

翻訳ゼミ A I 【昼】

担当者名 /Instructor
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this seminar will be to give students practical experience in translating an entire literary text from Japanese to English and give students insights into the process of translation and the challenges faced by professional translators.

教科書 /Textbooks

To be determined after consultation with participants.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Unspecified.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 Seminar introduction
- 第 2 回 Translation Check of Selected Text (pp. 1-3)
- 第 3 回 Translation Check of Selected Text (pp. 4-6)
- 第 4 回 Translation Check of Selected Text (pp. 7-9)
- 第 5 回 Translation Check of Selected Text (pp. 10-12)
- 第 6 回 Translation Check of Selected Text (pp. 13-15)
- 第 7 回 Translation Check of Selected Text (pp. 16-18)
- 第 8 回 Translation Check of Selected Text (pp. 19-21)
- 第 9 回 Translation Check of Selected Text (pp. 22-24)
- 第 10 回 Translation Check of Selected Text (pp. 25-27)
- 第 11 回 Translation Check of Selected Text (pp. 28-30)
- 第 12 回 Translation Check of Selected Text (pp. 31-33)
- 第 13 回 Translation Check of Selected Text (pp. 34-36)
- 第 14 回 Translation Check of Selected Text (pp. 37-39)
- 第 15 回 Semester wrap-up

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加 : 40% 小テスト : 0% 期末試験 : 0% 課題 : 40% 態度 : 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will be expected to translate extended passages from the chosen text between 3 and 6 times a semester depending on the number of participants. Students will be expected to bring copies of their translation for each participant whenever they present. Approximately 2-3 pages of text will be translated in each class. After each class, students will be expected to make corrections to their translated section and send them to the instructor by e-mail for compilation into the master document and further editing.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語ゼミAⅠ【昼】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objective of the course are:(1) to help you develop an understanding of basic economic concepts that underline the business management, and (2) to help you develop your economic vocabularies in English.

教科書 /Textbooks

アメリカの高校生が読んでいる「経済の教科書」アспект
Learning MBA Basics in English:Masatsugu Fuji, Richard Sheehan, NHK publishing
(英語で学ぶMBAベーシックス、NHK出版)
Essentials of Economics, N. Gregory Mankiw (arranged by instructor)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「入門経済学」マンキュー 東洋経済
「マーケティング戦略」沼上 幹 有斐閣アルマ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- I.Fundamental Economics
 - 1 回scarcity,incentive
 - 2 回economic choice, trade and money
 - 3 回labor, tax
 - 4 回entrepreneur
 - 5 回productivity
 - 6 回market price, demand curve
 - 7 回supply curve
 - 8 回financial intermediaries
 - 9 回the rate of interests
 - 1 0 回personal finance
 - 1 1 回international trade
- II. Marketing
 - 1 2 回What is Marketing?
 - 1 3 回Marketing Analysis- 3C's
 - 1 4 回Segmentation, Targeting, Positioning
 - 1 5 回Marketing Mix-The 4P's

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation... 20% Mid-quizzes... 40% Final test... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済関係の基礎を学んでいれば効果的な学習ができると思われる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メディア英語ゼミAI 【昼】

担当者名 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカのミュージカル演劇研究が目的である。資料の調査、分析、発表、議論が主体になる。

教科書 /Textbooks

なし。プレゼンが主になる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入
- 2回 『オペラ座の怪人』
- 3回 『ヘア・スプレー』
- 4回 『ミス・サイゴン』
- 5回 『エニシング・ゴーズ』
- 6回 『アニー』
- 7回 『マイ・フェア・レディ』
- 8回 『ウェスト・サイド・ストーリー』
- 9回 『マンマ・ミーア』
- 10回 『クレージー・フォー・ユー』
- 11回 『キャッツ』
- 12回 『エヴィータ』
- 13回 『ピーター・パン』
- 14回 『ウィキッド』
- 15回 結び

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼン... 50% エッセー... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

プレゼンの時は、万全の準備をすること

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし

キーワード /Keywords

【ミュージカル】 【演劇】

アメリカ研究ゼミAⅠ【昼】

担当者名 /Instructor
デニス・ジョーンズ / Denis JONNES / 英米学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The American Studies seminar offers opportunities to conduct research related to American history, culture, literature, the arts, as well as contemporary media, including film & television. Background materials focus on relation between America today and early history, beginning with period of discovery and first settlements. Attention is given to early relation between America and Europe, and formation of American ideals (freedom, individualism, pioneering) as America emerged as nation.

Areas of possible research include Native American cultures, early settlement, the role of religion in the shaping of American society, history of African-Americans, immigrants and their impact on American culture; the rise of American education, the significance of the entrepreneur and American business culture, changing perceptions of gender and family role, influence of the media and the arts, including music, television, fashion, architecture, and design; the place of sub-cultures and dissident movements.

教科書 /Textbooks

Printed materials provided by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction--American Identities?
2. The Discovery of America
3. Settlement
4. Colonization
5. Religion and early ideals
6. Native Americans
7. African Americans
8. A New People?
9. Consultation on topics and presentations
10. Presentation & Discussion
11. Presentation & Discussion
12. Presentation & Discussion
13. Presentation & Discussion
14. Presentation & Discussion
15. Review and Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation -- 25 % Preparation --- 25 % Presentation -- 25 % Final Essay -- 25 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Completion of 1st and 2nd year English Department Requirements

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

America; Identity; Culture, Native Americans, African Americans, American Media, Family, Gender, Freedom

イギリス研究ゼミAI 【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

イギリス研究

教科書 /Textbooks

特に定めない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

当ゼミでは「文字で書かれたイギリス文化」を研究対象とする。つまりこのゼミで扱うイギリス研究とは文字で書かれたイギリス文化というぐらゐの意味になる。というわけで、研究対象には当然ミルトン、ワーズワース、ディケンズ、イェイツ、ロレンスなど本格的なイギリス文学の作家も入るが、その他マザーグース(イギリス伝承童謡)、アイルランド民話、『ピーター・ラビット』や『くまのプーさん』のような児童文学も入る。また、イギリスではなくてもアイルランド、オーストラリアなどのアメリカを除く旧イギリス植民地も対象となることがある。ゼミは木原研究室(E1111)で行う。ゼミの進め方はすべて発表討論形式。すべて英語で行う。まず、自分の研究テーマを決め、各自インターネットの文献検索を利用したり図書館に足を運んだりして資料を集め研究を進める。およそ1ヶ月に一回ぐらゐの割合で自分の研究成果を発表する。前もって資料を用意し、ゼミの他のメンバーに読んでもらう。当日発表に続いてディスカッションをする。

- 第1回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第2回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第3回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第4回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第5回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第6回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第7回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第8回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第9回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第10回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第11回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第12回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第13回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第14回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第15回 プレゼンテーションとディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート、発表、ディスカッションへの参加

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当の学生は、他の学生に読んできて欲しい文献や資料を遅くとも前の週までに指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 北峯 裕士 / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生成文法の基礎知識の習得。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ミニマリストプログラム序説』 大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回ガイダンス
- 2回理論的背景
- 3回語彙範疇
- 4回名詞句の構造
- 5回形容詞句の構造
- 6回動詞句の構造
- 7回前置詞句の構造
- 8回機能範疇
- 9回DP仮説
- 10回節の構造
- 11回名詞句と節の平行性
- 12回虚辞①
- 13回虚辞②
- 14回数量詞
- 15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

無断欠席は、決して容認しない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語教育ゼミ AI 【昼】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This two-year course will provide learners with a foundation in second language language teaching and a practical basis for improving communication skills in Japanese schools. The first term will focus on second language task design. Learners will gain an understanding of the range of the second language learning tasks currently available and how they relate to grammaticalization and lexical development in a second language. In addition, issues in classroom management and learner motivation will be addressed.

教科書 /Textbooks

Materials to be arranged by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

References to be arranged by instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation and self-introductions
- 2 回 Five-minute presentations and discussions: who are you? what are you interested in?
- 3 回 Task Types: Tasks & Second Language (L2) Discourse Demands
- 4 回 Task Design & Second Language Acquisition (SLA): Fluency, Vocabulary & Grammaticalization
- 5 回 The Referential Demands of L2 Tasks
- 6 回 The Communicative Demands of L2 Tasks
- 7 回 The Personal Demands of L2 Tasks
- 8 回 Task Analysis & Modification
- 9 回 Teaching Evaluation Guidelines
- 1 0 回 Project presentations and discussions (first round)
- 1 1 回 Project presentations and discussions (first round)
- 1 2 回 Project presentations and discussions (first round)
- 1 3 回 Project presentations and discussions (second round)
- 1 4 回 Project presentations and discussions (second round)
- 1 5 回 Project presentations and discussions (second round)

成績評価の方法 /Assessment Method

40% Weekly homework and participation
30% Presentation(s)
30% Final report

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

All lectures, materials, presentations and discussions will be English.
Learners should have a strong interest in teaching English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会言語学ゼミ A1【昼】

担当者名 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期のゼミでは言葉の変化とバリエーションを扱う代表的な研究を紹介・解説し、変化や変異を引き起こす社会的要因や言語的要因を学ぶ。また実際に言語調査を行うために必要な方法論の基礎知識を学ぶ。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 東 照二. (1997). 『社会言語学入門-生きた言葉のおもしろさに迫る』. 研究社.
- 中尾俊夫・日比谷潤子・服部範子. (1997). 『社会言語学概論-日本語と英語の例で学ぶ社会言語学』. くろしお出版.
- 田中春美・田中幸子. (1996). 『社会言語学への招待-社会・文化・コミュニケーション』. ミネルヴァ書房.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 地域方言
- 3回 社会方言 - 階級
- 4回 性差
- 5回 年齢差
- 6回 人種・民族
- 7回 社会的ネットワーク
- 8回 スタイル
- 9回 調査方法
- 10回 会話データ収集
- 11回 会話データ書き起こし
- 12回 データのコーディング・分析
- 13回 アンケート作成
- 14回 ディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表50%、レポート50%。出席・授業への参加状況も考慮する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『社会言語学研究』を受講すると、本ゼミの理解がより深いものとなる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーションゼミAII【昼】

担当者名 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This seminar will enable students to examine their own interests and experiences in crossing cultures. We will explore, strengthen and deepen our skills in communication and collaboration. We will have weekly discussions based on readings by writers and scholars from a wide variety of countries and cultures. The improvement of analytical, comprehension, discussion, and writing skills in English are a major goal. A goal of the second semester will be to nurture cultural and communicative competence through fieldwork exercises with exchange students and members of the international community.

教科書 /Textbooks

Printed materials and handouts to be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction and return of papers.
- 2 回 Paper-related discussions.
- 3 回 Paper-related discussions.
- 4 回 Paper-related discussions.
- 5 回 Instructor-led discussion and workshop.
- 6 回 Instructor-led discussion and workshop.
- 7 回 Instructor-led discussion and workshop.
- 8 回 Student presentations and discussion.
- 9 回 Student presentations and discussion.
- 1 0 回 Student presentations and discussion.
- 1 1 回 Student presentations and discussion.
- 1 2 回 Student presentations and discussion.
- 1 3 回 Student presentations and discussion
- 1 4 回 Student presentations and discussion
- 1 5 回 Final discussion and paper submission.

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation, & Presentations 50% Successful Completion of Paper 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Our meetings will consist of presentations followed by group discussion. While students will be given the freedom to choose materials, they are expected to follow the basic parameters of this seminar. Students can translate materials from Japanese to English but presentations must be in English. All meetings and discussions will be conducted in English. Students will be expected to submit their individual analysis of presented materials in essay format each semester. Each paper should be approximately 2000 words in English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーションゼミAII【昼】

担当者名 /Instructor
ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This seminar will enable students to examine their own interests and experiences in crossing cultures. We will explore, strengthen and deepen our skills in communication and collaboration. We will have weekly discussions based on readings by writers and scholars from a wide variety of countries and cultures. The improvement of analytical, comprehension, discussion, and writing skills in English are a major goal. A goal of the second semester will be to nurture cultural and communicative competence through fieldwork exercises with exchange students and members of the international community.

教科書 /Textbooks

Printed materials and handouts to be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction and return of papers.
- 2 回 Paper-related discussions.
- 3 回 Paper-related discussions.
- 4 回 Paper-related discussions.
- 5 回 Instructor-led discussion and workshop.
- 6 回 Instructor-led discussion and workshop.
- 7 回 Instructor-led discussion and workshop.
- 8 回 Student presentations and discussion.
- 9 回 Student presentations and discussion.
- 1 0 回 Student presentations and discussion.
- 1 1 回 Student presentations and discussion.
- 1 2 回 Student presentations and discussion.
- 1 3 回 Student presentations and discussion
- 1 4 回 Student presentations and discussion
- 1 5 回 Final discussion and paper submission.

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation, & Presentations 50% Successful Completion of Paper 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Our meetings will consist of presentations followed by group discussion. While students will be given the freedom to choose materials, they are expected to follow the basic parameters of this seminar. Students can translate materials from Japanese to English but presentations must be in English. All meetings and discussions will be conducted in English. Students will be expected to submit their individual analysis of presented materials in essay format each semester. Each paper should be approximately 2000 words in English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

通訳ゼミAII 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この通訳ゼミでは、通訳者になるために不可欠な語学面のトレーニングはもとより、通訳者に必要な教養や知識を得ることも目標としています。通訳をするために表現力を磨くことが大切なのは言うまでもありませんが、それだけでなく、相手の論理展開について行ける訓練も必要です。その意味では、表現力だけでなく思考力を磨くこともとても大切であると言えます。また、通訳をするためには、そこで語られていることを理解できていなければなりません。野球のルールを知らない人が、野球の実況中継を相手に分かるように通訳できるでしょうか。こうしたことを踏まえ、このゼミでは実践と理論をとともに柱に据え、皆さんとともに高度な英語力を獲得し、同時に英語を通して幅広い知識を習得していただけるゼミにしていきたいと思っています。2学期は、異文化間コミュニケーションに関わるさまざまなトピックの英語を聞き取り、通訳練習をします。なお、本年度も北九州国際車椅子バスケットボール大会のボランティア通訳奉仕をお願いする予定です。その折は、参加しやすいよう配慮しますので、良い経験としていただきたいと思っています。

教科書 /Textbooks

大杉 正明 『大杉正明のCross-Cultural Seminar 2』 (DHC)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ゼミ・オリエンテーション
- 第02回 Units 01-05 に基づく演習
- 第03回 Units 06-10 に基づく演習
- 第04回 Units 11-15 に基づく演習
- 第05回 Units 16-20 に基づく演習
- 第06回 Units 21-25 に基づく演習
- 第07回 Units 26-30 に基づく演習
- 第08回 前半のまとめと補助教材による演習
- 第09回 Units 31-35 に基づく演習
- 第10回 Units 36-40 に基づく演習
- 第11回 Units 41-45 に基づく演習
- 第12回 Units 46-50 に基づく演習
- 第13回 Units 51-55 に基づく演習
- 第14回 Units 56-60 に基づく演習
- 第15回 まとめと総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

演習科目ですから、出席は当然です。その上で授業への積極的参加の度合いに実技を加味して総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

言うまでもないことですが、ゼミに出席するだけで実力がつくわけではありません。平素から英語に触れる努力をし、たとえばテレビを見ながら一人通訳練習をする、というような心がけが大切だと思います。また、よく知られているように、You Tubeの中に、優れた英語の音声素材がたくさん入っています。こうしたものを使って、自宅で練習していただくのも良いと思います。時にはこうしたものを課題として指定することも考えたいと思っています。また、毎時間、次週までに準備して欲しいことを確認しますので、予習も怠りないようにお願いします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学から戻って2学期からゼミに加わる皆さんもいらっしやと思います。楽しいゼミにしていきたいと思っていますので、一緒に頑張ってください。

キーワード /Keywords

通訳ゼミAII【昼】

担当者名 /Instructor 野島 啓一 / nojima keiichi / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

自分の考え等を表現する領域（話し言葉・書き言葉を含む）に関する知識・技術の獲得に関することを目標にする。通訳訓練に関する一般的な技術にふれた後、関連する科目との融合・強化について説明して、実習等を通して自分の経験則をつくることも目的とする。メディア機器との連携を通して、字幕翻訳や音声録音の方法など実際に英語が利用されている場面を想定して総合的な学習を念頭におく。原則として、3年次のゼミは、毎回の授業が教材を用いた解説・練習のセクションと実演・デモのセクションの二部構成でなされる。

教科書 /Textbooks

『ウイスバリング同時通訳』 柴田バネッサ著 南雲堂 ¥2,286
適宜プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Lesson 15+テープ録音（英語）を聞いてnumbering方式に要約する練習
- 2回 Lesson 16+ビジネス文書（Eメール文を含む）の説明と練習
- 3回 Lesson 17+指定された課題文に対する質問事項の設定の仕方と練習
- 4回 Lesson 18+presentationの方法の解説と練習(1)
- 5回 Lesson 19+presentationの方法の解説と練習(2)
- 6回 Presentationの実習とその反省課題の検討
- 7回 Lesson 20+「テープ起し」の説明と練習
- 8回 音声教材を用いた「区切り聞き」と「区切り訳」の説明と練習
- 9回 工夫した語彙の増やし方（vocabulary building）の説明と練習
- 10回 readingの各種練習の説明と実習（速読、黙読、音読の比較）
- 11回 映像翻訳の説明と練習(1)
- 12回 映像翻訳の説明と練習(2)
- 13回 listeningの各種練習と実習（voice over, shadowing, whisperingの比較）
- 14回 TOEIC, TOEFL, 英検1級、通訳ガイド試験の対策の立て方の構築について
- 15回 春休みのプロジェクト課題の説明および後期内容の要約

成績評価の方法 /Assessment Method

プロジェクト課題...40% + 試験...60%で総合評価をする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『英語プレゼンテーション演習』などの表現をあらかじめ専門科目を同時か前もって履修しておくこと
学習効果があがる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

翻訳ゼミ A II 【昼】

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文学テキストの翻訳を体得する。
Anthony TrollopeのThe Small House at Allingtonを翻訳する。
①テキストが書かれた時代背景、社会状況のじゅうぶんな理解、②読む者の主観を排してテキストの意図する意味の把握、③視点の人物を意識した主語の統一、④読みやすい、理解しやすい、こなれた文体の確立、⑤訳註箇所適切な選定、以上5点がねらいである。

教科書 /Textbooks

Anthony Trollope: The Small House at Allington (Penguin Classics) をテキストとする。
その他適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

R. C. Terry: Oxford Reader's Companion to Trollope (Oxford)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の進め方。全体の各章1人の担当者が翻訳を授業の2日前までに木下に提出する。訳出難解箇所、訳註必要箇所をチェックし、プレゼンし、ゼミ生全員でそれを検討する。
- 2回 13章
- 3回 14章
- 4回 15章
- 5回 16章
- 6回 17章
- 7回 18章
- 8回 19章
- 9回 20章
- 10回 21章
- 11回 22章
- 12回 23章
- 13回 13 - 17章の翻訳仕上げ
- 14回 18 - 23章の翻訳仕上げ
- 15回 2学期全体の翻訳仕上げ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度... 20% 課題... 80% 期末試験... しない

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当章の日本語訳をワードのファイルで提出する。各担当者は担当章のbrush-upに励み、書式を統一する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

翻訳ゼミAII【昼】

担当者名 /Instructor
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this seminar will be to give students practical experience in translating an entire literary text from Japanese to English and give students insights into the process of translation and the challenges faced by professional translators.

教科書 /Textbooks

To be determined after consultation with participants.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Unspecified.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Seminar introduction
- 第2回 Translation Check of Selected Text (pp. 1-3)
- 第3回 Translation Check of Selected Text (pp. 4-6)
- 第4回 Translation Check of Selected Text (pp. 7-9)
- 第5回 Translation Check of Selected Text (pp. 10-12)
- 第6回 Translation Check of Selected Text (pp. 13-15)
- 第7回 Translation Check of Selected Text (pp. 16-18)
- 第8回 Translation Check of Selected Text (pp. 19-21)
- 第9回 Translation Check of Selected Text (pp. 22-24)
- 第10回 Translation Check of Selected Text (pp. 25-27)
- 第11回 Translation Check of Selected Text (pp. 28-30)
- 第12回 Translation Check of Selected Text (pp. 31-33)
- 第13回 Translation Check of Selected Text (pp. 34-36)
- 第14回 Translation Check of Selected Text (pp. 37-39)
- 第15回 Semester wrap-up

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加 : 40% 小テスト : 0% 期末試験 : 0% 課題 : 40% 態度 : 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will be expected to translate extended passages from the chosen text between 3 and 6 times a semester depending on the number of participants. Students will be expected to bring copies of their translation for each participant whenever they present. Approximately 2-3 pages of text will be translated in each class. After each class, students will be expected to make corrections to their translated section and send them to the instructor by e-mail for compilation into the master document and further editing.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語ゼミAII【昼】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objectives of the course are: (1) to help you develop an understanding of basic concepts that underline the business management, and (2) to help you develop your business vocabularies in English. Also, you can learn the advanced tools in spread sheet(PC) to solve business problems.

教科書 /Textbooks

Learning MBA Basics in English:Masatsugu Fuji, Richard Sheehan, NHK publishing
(英語で学ぶMBAベーシックス、NHK出版)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「企業財務-理論と実践」津森信也 東洋経済
「証券アナリストのための企業分析」日本証券アナリスト協会
ビジネス・セミナー「証券分析入門」井出正介 日本経済新聞社
「統計・確率の意味がわかる」ベレ出版
「決算書を読みこなして経営分析ができる本」高下淳子 日本実業社
「実践 企業会計」岩田康成 日本経済新聞社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

I Accounting and Finance
session1-2: The Income Statement
session3-4: The Balance Sheet
session5-6: The Cash Flow Statement
session7-8: The Time Value of Money
session9: EVA

II Management Science
session10-11: Statistics review
session12: Managing data: regression, advanced listing
session13: Solver analysis: optimization
session 14: PC training
session15: presentation on financial analysis of companies

:

成績評価の方法 /Assessment Method

participation... 20% class quizzes ...30% presentation...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

エクセル関数、会計、マーケティング、経営学、統計学などの基礎を日本語で学んでおくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メディア英語ゼミAll 【昼】

担当者名 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカのミュージカル演劇研究が目的である。資料の収集、分析、発表、議論が主体になる。

教科書 /Textbooks

プレゼンが主になる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入
- 2回 『美女と野獣』
- 3回 『ドリームガールズ』
- 4回 『アイダ』
- 5回 『ショウ・ポート』
- 6回 『シカゴ』
- 7回 『レ・ミゼラブル』
- 8回 『プロデューサーズ』
- 9回 『ライオン・キング』
- 10回 『キャバレー』
- 11回 『ファンタスティックス』
- 12回 『メリー・ポピンズ』
- 13回 『コーラス・ライン』
- 14回 『春の目覚め』
- 15回 結び

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼン... 50% エッセー... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

プレゼンの時は、万全の準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

キーワード /Keywords

【ミュージカル】 【演劇】

アメリカ研究ゼミAII【昼】

担当者名 /Instructor
デニス・ジョーンズ / Denis JONNES / 英米学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The American Studies Seminar offers students opportunities to conduct research in a wide range of subjects related to American history and culture. Topic areas include impact of immigration in the 19th, 20th and 21st centuries; westward expansion and significance of the frontier; conflict with Native Americans; inter-ethnic and inter-racial relations; impact of industrialism and new technologies; early American entertainment and sports; the rise of "leisure class."

Background materials and discussion focus on the American Revolution; importance of "individualism;" the impact of the frontier on American culture and developing American identity; regional cultures (New England, the South, East Coast, the West); emergence of the United States as industrial power, the spread of railroads; the growth of cities.

教科書 /Textbooks

Printed materials supplied by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction
2. The American Revolution
3. A New Nation
4. Frontier Democracy
5. North and South
6. The Civil War and its Legacies
7. Immigration
8. Industrialization
9. Expansionism
10. Presentation and discussion
11. Presentation and discussion
12. Presentation and discussion
13. Presentation and discussion
14. Presentation and discussion
15. Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation -- 25 % Participation -- 25 % Presentation -- 25 % Essay -- 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students should have completed 1st and 2nd year English Department requirements

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

America; Revolution; Culture; Race; Ethnicity; Frontier; Industrialization

イギリス研究ゼミAII 【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

イギリス研究

教科書 /Textbooks

特に定めない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

当ゼミでは「文字で書かれたイギリス文化」を研究対象とする。つまりこのゼミで扱うイギリス研究とは文字で書かれたイギリス文化というぐらゐの意味になる。というわけで、研究対象には当然ミルトン、ワーズワース、ディケンズ、イェイツ、ロレンスなど本格的なイギリス文学の作家も入るが、その他マザーグース(イギリス伝承童謡)、アイルランド民話、『ピーター・ラビット』や『くまのプーさん』のような児童文学も入る。また、イギリスではなくてもアイルランド、オーストラリアなどのアメリカを除く旧イギリス植民地も対象となることがある。ゼミは木原研究室(E1111)で行う。ゼミの進め方はすべて発表討論形式。すべて英語で行う。まず、自分の研究テーマを決め、各自インターネットの文献検索を利用したり図書館に足を運んだりして資料を集め研究を進める。およそ1ヶ月に一回ぐらゐの割合で自分の研究成果を発表する。前もって資料を用意し、ゼミの他のメンバーに読んでもらう。当日発表に続いてディスカッションをする。

- 第1回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第2回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第3回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第4回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第5回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第6回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第7回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第8回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第9回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第10回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第11回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第12回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第13回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第14回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第15回 プレゼンテーションとディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート、発表、ディスカッションへの参加

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当の学生は、他の学生に読んできて欲しい文献や資料を遅くとも前の週までに指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学ゼミAII【昼】

担当者名 北峯 裕士 / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、生成文法の基礎知識の習得。

教科書 /Textbooks

Radford(2004) Cambridge UP.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ミニマリストプログラム序説』 大修館書店
また、必要なときに、別途指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回ガイダンス
- 2回単語①
- 3回単語②
- 4回統語構造①
- 5回統語構造②
- 6回統語構造③
- 7回空構成素①
- 8回空構成素②
- 9回空構成素③
- 10回主要部移動①
- 11回主要部移動②
- 12回主要部移動③
- 13回Wh移動①
- 14回Wh移動②
- 15回Wh移動③

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

無断欠席は、決して容認しない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語教育ゼミ AII 【昼】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This two-year course will provide learners with a foundation in second language language teaching and a practical basis for improving communication skills in Japanese schools. The second term will move from the task design principles covered in the first term to planning well-designed lessons and units for work for second language teaching. The focus will be on second language tasks within the bigger picture of a balanced curriculum. Learners will gain a sound understanding of the range of opportunities that must be provided for in well-designed second language teaching.

教科書 /Textbooks

Materials to be arrange by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

References to be arranged by the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation and self-introductions
- 2 回 Five-minute presentations and discussions: where have you been? where are you going?
- 3 回 Tasks in the Second Language (L2) Curriculum
- 4 回 From Tasks to Task-Based Language Teaching
- 5 回 Task-based L2 Input
- 6 回 Introducing Communication Tasks in Japanese Schools
- 7 回 Reverse-Engineering Communication Tasks for Learner Involvement
- 8 回 Criteria for Evaluating Units of Work
- 9 回 Model Presentation: Analyzing L2 Teaching Materials
- 1 0 回 Presentation & Discussion 1: Analyzing Published L2 Teaching Materials
- 1 1 回 Presentation & Discussion 1: Analyzing Published L2 Teaching Materials
- 1 2 回 Presentation & Discussion 1: Analyzing Published L2 Teaching Materials
- 1 3 回 Presentation & Discussion 2: Analyzing Your Own Teaching Materials
- 1 4 回 Presentation & Discussion 2: Analyzing Your Own Teaching Materials
- 1 5 回 Presentation & Discussion 2: Analyzing Your Own Teaching Materials

成績評価の方法 /Assessment Method

40% Weekly homework and participation
30% Presentation(s)
30% Final report

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

All lectures, materials, presentations and discussions will be English.
Learners should have a strong interest in teaching English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会言語学ゼミ AII 【昼】

担当者名 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

後期は学生が各自テーマを決め、自分達で言語調査を行う。授業時に先行研究、言語データの収集方法や分析方法、調査結果を発表し、その内容について全員で議論する。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 東 照二. (2009). 『社会言語学入門-生きた言葉のおもしろさに迫る』改訂版. 研究社.
- 中尾俊夫・日比谷潤子・服部範子. (1997). 『社会言語学概論-日本語と英語の例で学ぶ社会言語学』くろしお出版.
- 田中春美・田中幸子. (1996). 『社会言語学への招待-社会・文化・コミュニケーション』ミネルヴァ書房.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 言語調査プロジェクトについて
- 3回 文献検索
- 4回 研究発表の仕方
- 5回 テーマ発表
- 6回～7回 学生による研究発表(第1回)
- 8回 学術論文の構成
- 9回～10回 学生による研究発表(第2回)
- 11回 レポートの書き方
- 12回～13回 学生による研究発表(第3回)
- 14回 ディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表50%、レポート50%。出席・授業への参加状況も考慮する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『社会言語学研究』を受講すると、本ゼミの理解がより深いものとなる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーションゼミBI【昼】

担当者名 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- (I)事例研究、文化論などの論文を参考に論文の書き方、論の進め方を習得する。
(II)卒業論文のテーマの決定、論文の資料収集の仕方を習得する

教科書 /Textbooks

『異文化理解の語用論』スペンサー・オッティー編 研究社
その他の資料についてはプリント配布（授業で随時配付する）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初のコースワークの説明の時に知らせる

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コースワークの説明
- 2回 翻訳と異文化に関する文献の解説
- 3回 非言語と異文化に関する文献の解説
- 4回 広告と異文化に関する文献の解説
- 5回 価値観と異文化に関する文献の解説
- 6回 各自の課題研究に関する文献の発表
- 7回 各自の課題研究に関する文献の発表
- 8回 各自の課題研究に関する文献の発表
- 9回 各自の課題研究に関する文献の発表
- 10回 各自の課題研究に関する文献の発表
- 11回 『異文化理解の語用論』第2章 ラポールマネジメント
- 12回 『異文化理解の語用論』第3章 非難にどう対処するか
- 13回 『異文化理解の語用論』第5章 否定的見解をどうつたえるか
- 14回 第2章～第5章までのディスカッションの項を討議
- 15回 課題研究への展望を探る

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での活動60% アサインメント40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当した文献の解説；①著者の意図通りに理解、②疑問点の提示、③批判的な意見の提示、を心がけること。毎回の授業では必ず、各自疑問点、批判的なコメントを出して討議に参加すること。

履修上の注意 /Remarks

第一次資料の作成が必要

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

通訳ゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この通訳ゼミでは、通訳者になるために不可欠な語学面のトレーニングはもとより、通訳者に必要な教養や知識を得ることも目標としています。通訳をするために表現力を磨くことが大切なのは言うまでもありませんが、それだけでなく、相手の論理展開について行ける訓練も必要です。その意味では、表現力だけでなく思考力を磨くこともとても大切であると言えます。また、通訳をするためには、そこで語られていることを理解できていなければなりません。野球のルールを知らない人が、野球の実況中継を相手に分かるように通訳できるでしょうか。こうしたことを踏まえ、このゼミでは実践と理論をともに柱に据え、皆さんとともに高度な英語力を獲得し、同時に英語を通して幅広い知識を習得していけるゼミにしていきたいと思っています。4年次は、さまざまなトピックの英語を聞き取り、通訳できる実力養成を目標に取り組みます。卒業課題を視野に入れて、総仕上げをしていきましょう。

教科書 /Textbooks

小野田 栄, Lucy Cooker 著 Understanding the News in English 7 (金星堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ゼミ・オリエンテーション
- 第02回 Unit 1 に基づく演習
- 第03回 Unit 2 に基づく演習
- 第04回 Unit 3 に基づく演習
- 第05回 Unit 4 に基づく演習
- 第06回 Unit 5 に基づく演習
- 第07回 Unit 6 に基づく演習
- 第08回 前半のまとめと補助教材による演習
- 第09回 Unit 7 に基づく演習
- 第10回 Unit 8 に基づく演習
- 第11回 Unit 9 に基づく演習
- 第12回 Unit 10 に基づく演習
- 第13回 Unit 11 に基づく演習
- 第14回 Unit 12 に基づく演習
- 第15回 まとめと総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

演習科目ですから、出席は当然です。その上で授業への積極的参加の度合いに実技を加味して総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

言うまでもないことですが、ゼミに出席するだけで実力がつくわけではありません。平素から英語に触れる努力をし、たとえばテレビを見ながら一人通訳練習をする、というような心がけが大切だと思います。また、よく知られているように、You Tubeの中に、優れた英語の音声素材がたくさん入っています。こうしたものを使って、自宅で練習していただくのも良いと思います。時にはこうしたものを課題として指定することも考えたいと思っています。また、毎時間、次週までに準備して欲しいことを確認しますので、予習も怠りがないようにお願いします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いよいよ最終学年のゼミですね。この1年間は、就活、教育実習等で勉学に集中しにくい1年になるかも知れません。しかし、皆さんにとって、ここでしっかり学んでおくことは、将来への投資になると思います。今年も一緒に楽しく学んでいきましょう。

キーワード /Keywords

通訳ゼミBI【昼】

担当者名 野島 啓一 / nojima keiichi / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

通訳ゼミの最終目標は英語または日本語で自分の意見を表現する能力の育成である。三年次では「読む」・「聞く」の領域を意識したプログラムを作成しているが、四年次では「話す」「書く」の領域を体系的に強化する事を念頭におく。更に、卒論指導も兼ねて着想の仕方、議論の組み立て方、英語論文の作成についても学習課題にする。

教科書 /Textbooks

『英語通訳への道』 日本通訳協会著 大修館書店 ¥2,800
適宜プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業方針と卒論の書き方の解説
- 2回 第一章(同時通訳・逐次通訳+英語表現の方法(1)英語ニュースの5W1H方式での作文方法
- 3回 第一章(放送同時通訳・時差通訳+英語表現の方法(2)editorialのキーワード中心の作文方法
- 4回 第一章(司法通訳・ガイド通訳)+英語表現の方法(3)ニュース記事を一文にまとめる作文方法
- 5回 第一章(ボランテニア通訳)+英語表現の方法(4)パラグラフライティング方式による作文方法
- 6回 第二章(語彙構築+英語表現の方法(5) 課題議題のpro側con側からの議論構成
- 7回 第二章(quick response+英語表現の方法(6) 英文表現の基準とその実践
- 8回 第二章(transcription)+英語表現の方法(7) 指定語彙範囲でのparaphrasing
- 9回 第二章(slash reading)+英語表現の方法(8) 取材トピックに対する質問用英文の作成
- 10回 第二章(技術訓練の実際(1))+口頭表現の方法(1) 「訳し下り」による逐文訳の録音
- 11回 第二章(技術訓練の実際(2))+口頭表現の方法(2) 「訳し下り」による同時役の録音
- 12回 第三章(時差通訳)+口頭表現の方法(3) 単文通訳から複文通訳の説明と実践
- 13回 口頭表現の方法(4) 講演会聴取+テープ起し+英語による意見の口頭発表
- 14回 第三章(コミュニティ通訳)+口頭表現の方法(5)指定課題の意見発表の実習と評価基準による検証
- 15回 review+自己表現と使用言語との関りについての考察と議論、夏休みのプロジェクトの説明

成績評価の方法 /Assessment Method

授業時のperformance...50% 課題プロジェクト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

翻訳ゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this seminar will be to give students practical experience in translating an entire literary text from Japanese to English and give students insights into the process of translation and the challenges faced by professional translators.

教科書 /Textbooks

To be determined after consultation with participants.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Unspecified.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Seminar introduction
- 第2回 Translation Check of Selected Text (pp. 1-3)
- 第3回 Translation Check of Selected Text (pp. 4-6)
- 第4回 Translation Check of Selected Text (pp. 7-9)
- 第5回 Translation Check of Selected Text (pp. 10-12)
- 第6回 Translation Check of Selected Text (pp. 13-15)
- 第7回 Translation Check of Selected Text (pp. 16-18)
- 第8回 Translation Check of Selected Text (pp. 19-21)
- 第9回 Translation Check of Selected Text (pp. 22-24)
- 第10回 Translation Check of Selected Text (pp. 25-27)
- 第11回 Translation Check of Selected Text (pp. 28-30)
- 第12回 Translation Check of Selected Text (pp. 31-33)
- 第13回 Translation Check of Selected Text (pp. 34-36)
- 第14回 Translation Check of Selected Text (pp. 37-39)
- 第15回 Semester wrap-up

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加 : 40% 小テスト : 0% 期末試験 : 0% 課題 : 40% 態度 : 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will be expected to translate extended passages from the chosen text between 3 and 6 times a semester depending on the number of participants. Students will be expected to bring copies of their translation for each participant whenever they present. Approximately 2-3 pages of text will be translated in each class. After each class, students will be expected to make corrections to their translated section and send them to the instructor by e-mail for compilation into the master document and further editing.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

翻訳ゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文学テキストの翻訳を体得する。
Anthony TrollopeのFramley Parsonageを翻訳する。
①テキストが書かれた時代背景、社会状況のじゅうぶんな理解、②読む者の主観を排してテキストの意図する意味の把握、③視点の人物を意識した主語の統一、④読みやすい、理解しやすい、こなれた文体の確立、⑤訳註箇所適切な選定、以上5点がねらいである。

教科書 /Textbooks

Anthony Trollope: Framley Parsonage (Penguin Classics) をテキストとする。
その他適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

R. C. Terry: Oxford Reader's Companion to Trollope (Oxford)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の進め方。全体の各章1人の担当者が翻訳を授業の2日前までに木下に提出する。訳出難解箇所、訳註必要箇所をチェックし、プレゼンし、ゼミ生全員でそれを検討する。
- 2回 2 2章
- 3回 2 3章
- 4回 2 4章
- 5回 2 5章
- 6回 2 6章
- 7回 2 7章
- 8回 2 8章
- 9回 2 9章
- 10回 3 0章
- 11回 3 1章
- 12回 3 2章
- 13回 2 2 - 2 6章の翻訳仕上げ
- 14回 2 7 - 3 2章の翻訳仕上げ
- 15回 1学期全体の翻訳仕上げ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度... 20% 課題... 80% 期末試験... しない

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当章の日本語訳をワードのファイルで提出する。各担当者は担当章のbrush-upに励み、書式を統一する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

翻訳ゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor
ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Students will continue research and analysis of the social and cultural implications of words and phrases in making translations. Our goal will be an even deeper realization of problems in translating from Japanese to English followed by the application of methods for solution. Students will continue to focus on differences in grammar, culture, communication and writing styles while pursuing their research themes.

教科書 /Textbooks

Handouts/research materials will be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Instructor-led discussions.
- 3 回 Instructor-led discussions.
- 4 回 Instructor-led discussions.
- 5 回 Student-led discussion and presentation.
- 6 回 Workshop on individual materials for analysis and presentation.
- 7 回 Student-led discussion and presentation.
- 8 回 Student-led discussion and presentation.
- 9 回 Student-led discussion and presentation.
- 10 回 Student-led discussion and presentation.
- 11 回 Student-led discussion and presentation..
- 12 回 Student-led discussion and presentation.
- 13 回 Student-led discussion and presentation.
- 14 回 Student-led discussion and presentation.
- 15 回 Final discussion and paper submission.

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation, & Presentations 50% Successful Completion of Paper 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Our meetings will consist of presentations followed by group discussion. While students will be given the freedom to choose materials, they are expected to follow the basic parameters of this seminar. Students should choose materials for translations from Japanese to English and make presentations in English. All meetings and discussions will be conducted in English. Students will be expected to submit their individual analysis of presented materials and translations in essay format each semester. Each paper should be approximately 2000 words in English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス研究ゼミBI 【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

イギリス研究

教科書 /Textbooks

特に定めない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

当ゼミでは「文字で書かれたイギリス文化」を研究対象とする。つまりこのゼミで扱うイギリス研究とは文字で書かれたイギリス文化というぐらゐの意味になる。というわけで、研究対象には当然ミルトン、ワーズワース、ディケンズ、イェイツ、ロレンスなど本格的なイギリス文学の作家も入るが、その他マザーグース(イギリス伝承童謡)、アイルランド民話、『ピーター・ラビット』や『くまのプーさん』のような児童文学も入る。また、イギリスではなくてもアイルランド、オーストラリアなどのアメリカを除く旧イギリス植民地も対象となることがある。ゼミは木原研究室(E1111)で行う。ゼミの進め方はすべて発表討論形式。すべて英語で行う。まず、自分の研究テーマを決め、各自インターネットの文献検索を利用したり図書館に足を運んだりして資料を集め研究を進める。およそ1ヶ月に一回ぐらゐの割合で自分の研究成果を発表する。前もって資料を用意し、ゼミの他のメンバーに読んでもらう。当日発表に続いてディスカッションをする。

- 第1回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第2回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第3回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第4回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第5回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第6回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第7回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第8回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第9回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第10回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第11回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第12回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第13回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第14回 プレゼンテーションとディスカッション
- 第15回 プレゼンテーションとディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート、発表、ディスカッションへの参加

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当の学生は、他の学生に読んできて欲しい文献や資料を遅くとも前の週までに指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語ゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objectives of the course are: (1) to help you develop an understanding of basic concepts that underline the international business management, and (2) to help you develop your business vocabularies in English. Also, The objective of the course are:(1) to help you write well-organized and well-developed essays and paragraphs on assigned topics, and (2) to help you develop your Practical writing and thesis in English.

教科書 /Textbooks

Learning MBA Basics in English:Masatsugu Fuji, Richard Sheehan, NHK publishing

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Shenkar, O. & Luo, Y. 2008. International Business (2nd ed.). Sage Publications: CA.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

I How to write essays in English
 session1: 英語のロジック
 session2: Issue type essay
 session3: Argument type essay
 session4: How to write thesis in English

II Human resources and organization
 session5: corporate culture
 session6: performance-based system
 session7: discrimination in the workplace

III Strategy
 session8: Industry Analysis
 session9: Competitive Advantage
 session10: Global Strategies
 session11: Synergy / Diversification
 session12: presentation on strategy analysis of companies

IV Cases
 session13-15: Hong Kong Disneyland

成績評価の方法 /Assessment Method

participation... 20% class quizzes ...30% presentation...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本的な英語のエッセイの書き方を学んでいけばより効果的な学習となろう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メディア英語ゼミBI 【昼】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

British Studies: Media and Culture

メディア英語ゼミBI offers students the opportunity to analyse the media of Britain and assess their relationship with the nation's social, political and cultural activities. The course will embrace analyses of media and culture from the very beginnings of Britain through to the present day. Students will be required to lead English-language discussions and make presentations on topics to be chosen by themselves.

教科書 /Textbooks

Handouts/research materials will be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

So as to deepen understanding and develop independent study skills, students will be expected to make full use of the research facilities at their disposal whenever possible.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Instructor-led class 1: Theory and Logic
- 3回 Instructor-led class 2: Supporting Arguments
- 4回 Instructor-led class 3: Presentation Skills
- 5回 Student-led class A (presentation + discussion)
- 6回 Student-led class B (presentation + discussion)
- 7回 Student-led class C (presentation + discussion)
- 8回 Student-led class D (presentation + discussion)
- 9回 Student-led class E (presentation + discussion)
- 10回 Student-led class F (presentation + discussion)
- 11回 Student-led class G (presentation + discussion)
- 12回 Student-led class H (presentation + discussion)
- 13回 Student-led class I (presentation + discussion)
- 14回 Student-led class J (presentation + discussion)
- 15回 Final discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

Successful completion of 2000-word essay ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

None stipulated

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メディア英語ゼミBI 【昼】

担当者名 /Instructor 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカのミュージカル演劇研究が目的である。卒業課題についての、資料の収集、分析、発表、議論が主体になる。

教科書 /Textbooks

なし。プレゼンが主になる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入
- 2回 卒業課題についてのプレゼン。および『オペラ座の怪人』
- 3回 卒業課題についてのプレゼン。および『ヘア・スプレー』
- 4回 卒業課題についてのプレゼン。および『ミス・サイゴン』
- 5回 『エニシング・ゴーズ』
- 6回 卒業課題についてのプレゼン。および『アニー』
- 7回 卒業課題についてのプレゼン。および『マイ・フェア・レディ』
- 8回 卒業課題についてのプレゼン。および『ウェスト・サイド・ストーリー』
- 9回 卒業課題についてのプレゼン。および『マンマ・ミーア』
- 10回 卒業課題についてのプレゼン。および『クレージー・フォー・ユー』
- 11回 卒業課題についてのプレゼン。および『キャッツ』
- 12回 卒業課題についてのプレゼン。および『エヴィータ』
- 13回 卒業課題についてのプレゼン。および『ピーター・パン』
- 14回 卒業課題についてのプレゼン。および『ウィキッド』
- 15回 結び

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼン... 50% エッセー... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

プレゼンの時は、万全の準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

キーワード /Keywords

【ミュージカル】 【演劇】

アメリカ研究ゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor
デニス・ジョーンズ / Denis JONNES / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The American Studies seminar offers students the opportunity to undertake a long-term research project. Students will choose topics in consultation with the instructor. Research will provide materials for the Graduation Thesis submitted at the end of the 4th Year.

Background materials will focus on 20th American culture and politics, in particular factors contributing to rise of the United States as a global power. Discussion covers First World War, Jazz Age, Great Depression, Second World War, the Cold War, postwar affluence, Civil Rights movement, Vietnam, the 1960s and the Rise of Youth Culture.

教科書 /Textbooks

Texts for background discussion provided by instructor

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the instructor

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Key themes: America on the global stage
- 2回 First World War; Disillusionment; the Jazz Age
- 3回 The Great Depression and Coming of War (selection of research topics)
- 4回 Second World War and its impact (consultations)
- 5回 The Cold War; arms race; the new domesticity (consultations)
- 6回 Postwar affluence--automobile, television, Disney, and the rise of rock'n'roll
- 7回 The 1950s (consultations)
- 8回 Emerging Dissent--Youth Culture
- 9回 Vietnam and the 1960s
- 10回 Student presentations and discussion
- 11回 Student presentations and discussion
- 12回 Student presentations and discussion
- 13回 Student presentations and discussion
- 14回 Student presentations and discussion
- 15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation -- 25 % Participation ... 25 % Presentation ... 25 % Essay ... 25 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students should have completed the American Studies Seminar B I and B II, or equivalent.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

War, Jazz Age, Great Depression, Cold War; Vietnam; Youth Culture; Music, Television; Movies

英語学ゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor 北峯 裕士 / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

3年次2学期に引き続き、Radford(2004)を読んで、生成文法の知識を深める。

教科書 /Textbooks

Radford(2004) Cambridge UP.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

別途指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回DP移動①
- 2回DP移動②
- 3回DP移動③
- 4回移動と素性①
- 5回移動と素性②
- 6回移動と素性③
- 7回分離CP①
- 8回分離CP②
- 9回VP shell①
- 10回VP shell②
- 11回Phase①
- 13回Phase②
- 14回Phase③
- 15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

無断欠席は容認しない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語教育ゼミBI【昼】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This two-year course will provide learners with a foundation in second language language teaching and a practical basis for improving communication skills in Japanese schools. The third term will address second language test design. Learners will gain a sound understanding of the different types of tests and purposes for testing in second language programs as well as practical experience in writing different types of tests to meet their own needs.

教科書 /Textbooks

Materials to be arranged by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

References to be arranged by the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation and self-introductions
- 2回 Types of Language Tests & Purposes of Language Testing
- 3回 Norm-Referenced Language Tests
- 4回 Writing Norm-Referenced Language Test Items
- 5回 Analyzing Norm-Reference Language Test Results
- 6回 Criterion-Referenced Language Tests
- 7回 Writing Criterion-Referenced Language Test Items
- 8回 Analyzing Criterion-Referenced Language Test Results
- 9回 Guidelines and Criteria for Evaluating Your Tests
- 10回 Presentation & Discussion 1: Testing Published Teaching Materials
- 11回 Presentation & Discussion 1: Testing Published Teaching Materials
- 12回 Presentation & Discussion 1: Testing Published Teaching Materials
- 13回 Presentation & Discussion 2: Testing Your Own Teaching Materials
- 14回 Presentation & Discussion 2: Testing Your Own Teaching Materials
- 15回 Presentation & Discussion 2: Testing Your Own Teaching Materials

成績評価の方法 /Assessment Method

- 40% Weekly homework and participation
- 30% Presentation(s)
- 30% Final report

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

All lectures, materials, presentations and discussions will be English.
Learners should have a strong interest in teaching English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会言語学ゼミBI【昼】

担当者名 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会言語学の領域から各自選択したテーマに沿って、文献調査・フィールドワークを行う。自分の選択した専門分野の知識を深めるとともに、他の分野の知識を広げることを目的とする。ゼミでは先行研究の発表、言語調査の経過報告、問題点の議論等を行う。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中尾俊夫・日比谷潤子・服部範子.(1997).『社会言語学概論-日本語と英語の例で学ぶ社会言語学』くろしお出版.
- 田中春美・田中幸子.(1996).『社会言語学への招待-社会・文化・コミュニケーション』ミネルヴァ書房.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 ゼミ研究について
- 3回 文献調査
- 4回 研究テーマ発表
- 5回 文献収集
- 6回～7回 学生による研究発表(第1回)
- 8回 Excel, PowerPoint
- 9回～10回 学生による研究発表(第2回)
- 11回 ディスカッション
- 12回～13回 学生による研究発表(第3回)
- 14回 ディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表70%、論文30%。出席・授業への参加状況も考慮する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『社会言語学研究』を受講すると、本ゼミの理解がより深いものとなる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化間コミュニケーションゼミBII【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業課題論文の作成の指導 第一次資料の分析

教科書 /Textbooks

プリント教材 (授業時随時配付する)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初のコースワークにおいて知らせる

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コースワークの説明
- 2回 各自の論文のレジユメの発表
- 3回 各自の論文のレジユメの発表
- 4回 各自の論文のレジユメの発表
- 5回 論の展開の仕方の指導
- 6回 論の展開の仕方の指導
- 7回 論の展開の仕方の指導
- 8回 統計的処理の指導
- 9回 文献の引用、注の処理の仕方の指導
- 10回 論の推敲
- 11回 論の推敲
- 12回 論の推敲
- 13回 完成した課題研究の発表、討議
- 14回 完成した課題研究の発表、討議
- 15回 完成した課題研究の発表、討議

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での活動 80% アサインメント 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究論文の作成のために自分の興味を持つ分野を明確に持つこと。実践的な作業、(アンケート調査、ビデオ、authentic materialによる調査)が必要になる。

履修上の注意 /Remarks

第一次資料の分析が重要

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

通訳ゼミBII 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この通訳ゼミでは、通訳者になるために不可欠な語学面のトレーニングはもとより、通訳者に必要な教養や知識を得ることも目標としています。通訳をするために表現力を磨くことが大切なのは言うまでもありませんが、それだけでなく、相手の論理展開について行ける訓練も必要です。その意味では、表現力だけでなく思考力を磨くこともとても大切であると言えます。また、通訳をするためには、そこで語られていることを理解できていなければなりません。野球のルールを知らない人が、野球の実況中継を相手に分かるように通訳できるでしょうか。こうしたことを踏まえ、このゼミでは実践と理論をともに柱に据え、皆さんとともに高度な英語力を獲得し、同時に英語を通して幅広い知識を習得していただけるゼミにしていきたいと思っています。4年次2学期は、英語スピーチを教材に英語の論理展開に習熟し、予測しながら聞く、論理的に通訳する、といった課題に取り組みます。卒業課題に向けてラストスパートです。また、本年度も北九州国際車椅子バスケットボール大会のボランティア通訳奉仕をお願いする予定です。良い経験としていただきたいと思っています。

教科書 /Textbooks

渡辺 幸俊、岩崎 光洋、伊藤 由起子、Cuong Huynh 著 『オバマは語る：アメリカの再生』（南雲堂）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ゼミ・オリエンテーション
- 第02回 「大いなる希望」に基づく演習(1)
- 第03回 「大いなる希望」に基づく演習(2)
- 第04回 「大いなる希望」に基づく演習(3)
- 第05回 「勝利宣言」に基づく演習(1)
- 第06回 「勝利宣言」に基づく演習(2)
- 第07回 「勝利宣言」に基づく演習(3)
- 第08回 「勝利宣言」に基づく演習(4)
- 第09回 卒業課題：通訳発表会(録画します)(1)
- 第10回 卒業課題：通訳発表会(録画します)(2)
- 第11回 「就任演説」に基づく演習(1)
- 第12回 「就任演説」に基づく演習(2)
- 第13回 「就任演説」に基づく演習(3)
- 第14回 「就任演説」に基づく演習(4)
- 第15回 2年間の総まとめと総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

演習科目ですから、出席は当然です。その上で授業への積極的参加の度合いに実技を加味して総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

言うまでもないことですが、ゼミに出席するだけで実力がつくわけではありません。平素から英語に触れる努力をし、たとえばテレビを見ながら一人通訳練習をする、というような心がけが大切だと思います。また、よく知られているように、You Tubeの中に、優れた英語の音声素材がたくさん入っています。こうしたものを使って、自宅で練習していただくのも良いと思います。時にはこうしたものを課題として指定することも考えたいと思っています。また毎時間、次週までに準備して欲しいことを確認しますので、予習も怠りがないようにお願いします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

最後の学期を迎えました。ここまでご苦労様でした。卒業課題のための発表会は、12月中旬を予定しています。2年間のゼミ、4年間の学びの集大成です。もう一頑張りですね。

キーワード /Keywords

通訳ゼミBII 【昼】

担当者名 野島 啓一 / nojima keiichi / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

通訳ゼミの最終目標は英語または日本語で自分の意見を表現する能力の育成である。三年次では「読む」・「聞く」の領域を意識したプログラムを作成しているが、四年次では「話す」「書く」の領域を体系的に強化する事を念頭におく。更に、卒論指導も兼ねて着想の仕方、議論の組み立て方、英語論文の作成についても学習課題にする。

教科書 /Textbooks

『通訳の仕事』 小松達也著 研究社 ¥1,900
プリント教材

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業方針と卒論の書き方の解説
- 2回 第一章(通訳の仕事)+「結起論結」方式の議論のまとめ方と実践
- 3回 第二章(通訳と言語)+論文トピックの見つけ方
- 4回 第三章(通訳の過程)+データ収集の仕方と整理方法
- 5回 第四章(理解)+議論構築の方法と実際例
- 6回 第五章(ノートの取り方)+参考文献と著作権の説明
- 7回 第六章(再表現)+図表、表作成の説明と実際例
- 8回 第七章(サイト・トランスレーション)+アンケート調査の説明と数量データの処理方法
- 9回 第八章(同時通訳)+論文評価のポイントと実際例
- 10回 第九章(英語学習への適用)
- 11回 第十章(通訳者への道)
- 12回 英文速記の実践(プリント教材)
- 13回 英文速記の実践(プリント教材)
- 14回 卒論中間発表と議論 指定課題の意見発表の実習と評価基準による検証
- 15回 review+口頭試問の説明と実践指導、

成績評価の方法 /Assessment Method

授業時のperformance...50% 課題プロジェクト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「英日翻訳演習」および「日英翻訳演習」を履修しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

翻訳ゼミBII【昼】

担当者名 /Instructor
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this seminar will be to give students practical experience in translating an entire literary text from Japanese to English and give students insights into the process of translation and the challenges faced by professional translators.

教科書 /Textbooks

To be determined after consultation with participants.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Unspecified.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Seminar introduction
- 第2回 Translation Check of Selected Text (pp. 1-3)
- 第3回 Translation Check of Selected Text (pp. 4-6)
- 第4回 Translation Check of Selected Text (pp. 7-9)
- 第5回 Translation Check of Selected Text (pp. 10-12)
- 第6回 Translation Check of Selected Text (pp. 13-15)
- 第7回 Translation Check of Selected Text (pp. 16-18)
- 第8回 Translation Check of Selected Text (pp. 19-21)
- 第9回 Translation Check of Selected Text (pp. 22-24)
- 第10回 Translation Check of Selected Text (pp. 25-27)
- 第11回 Translation Check of Selected Text (pp. 28-30)
- 第12回 Translation Check of Selected Text (pp. 31-33)
- 第13回 Translation Check of Selected Text (pp. 34-36)
- 第14回 Translation Check of Selected Text (pp. 37-39)
- 第15回 Semester wrap-up

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加 : 40% 小テスト : 0% 期末試験 : 0% 課題 : 40% 態度 : 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will be expected to translate extended passages from the chosen text between 3 and 6 times a semester depending on the number of participants. Students will be expected to bring copies of their translation for each participant whenever they present. Approximately 2-3 pages of text will be translated in each class. After each class, students will be expected to make corrections to their translated section and send them to the instructor by e-mail for compilation into the master document and further editing.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

翻訳ゼミBII【昼】

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文学テキストの翻訳を体得する。
Anthony TrollopeのFramley Parsonageを翻訳する。
①テキストが書かれた時代背景、社会状況のじゅうぶんな理解、②読む者の主観を排してテキストの意図する意味の把握、③視点の人物を意識した主語の統一、④読みやすい、理解しやすい、こなれた文体の確立、⑤訳註箇所適切な選定、以上5点がねらいである。

教科書 /Textbooks

Anthony Trollope: Framley Parsonage (Penguin Classics) をテキストとする。
その他適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

R. C. Terry: Oxford Reader's Companion to Trollope (Oxford)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の進め方。全体の各章1人の担当者が翻訳を授業の2日前までに木下に提出する。訳出難解箇所、訳註必要箇所をチェックし、プレゼンし、ゼミ生全員でそれを検討する。
- 2回 3 3章
- 3回 3 4章
- 4回 3 5章
- 5回 3 6章
- 6回 3 7章
- 7回 3 8章
- 8回 3 9章
- 9回 4 0章
- 10回 4 1章
- 11回 4 2章
- 12回 4 3章
- 13回 3 3 - 3 7章の翻訳仕上げ
- 14回 3 8 - 4 3章の翻訳仕上げ
- 15回 2学期全体の翻訳仕上げ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度... 20% 課題... 80% 期末試験... しない

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当章の日本語訳をワードのファイルで提出する。各担当者は担当章のbrush-upに励み、書式を統一する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

翻訳ゼミBII【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

In the second semester of this seminar we will continue research and analysis of the social and cultural implications of words and phrases in making translations. Students will continue to focus on differences in grammar, culture, communication and writing styles while pursuing their research themes. A second goal for the second term will be to nurture cultural and communicative competence through fieldwork exercises with exchange students and members of the international community

教科書 /Textbooks

Handouts/research materials will be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction and return of papers.
- 2回 Instructor-led discussion and workshop
- 3回 Instructor-led discussion and workshop
- 4回 Instructor-led discussion and workshop
- 5回 Instructor-led discussion and workshop.
- 6回 Student presentations and discussion.
- 7回 Student presentations and discussion.
- 8回 Student presentations and discussion.
- 9回 Student presentations and discussion.
- 10回 Student presentations and discussion.
- 11回 Student presentations and discussion.
- 12回 Student presentations and discussion.
- 13回 Student presentations and discussion
- 14回 Student presentations and discussion
- 15回 Final discussion and paper submission.

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation, & Presentations 50% Successful Completion of Paper 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Our meetings will consist of presentations followed by group discussion. While students will be given the freedom to choose materials, they are expected to follow the basic parameters of this seminar. Students should choose materials for translations from Japanese to English and make presentations in English. All meetings and discussions will be conducted in English. Students will be expected to submit their individual analysis of presented materials and translations in essay format each semester. Each paper should be approximately 2000 words in English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス研究ゼミII 【昼】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒論作成

教科書 /Textbooks

特に定めない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

後期は卒業論文指導を中心とする。ゼミの時間では、各自の卒論研究の報告をする。これとは別に、2週間に一度の個人面談を行う。一人1時間。毎回、進んだところまでの卒業論文原稿を持ってくること。それを読んで、問題点を指摘したり、さらに読むべき文献を指導したりする。

- 第1回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第2回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第3回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第4回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第5回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第6回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第7回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第8回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第9回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第10回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第11回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第12回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第13回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第14回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第15回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート、発表、ディスカッションへの参加

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回の面談に従い、卒論作成を進めてくること。進んでいない場合でも、必ず状況を報告すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語ゼミBII【昼】

専門教育科目
ゼミ・卒業課題科目

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course introduces essential concepts of international management as well as leading practices of international management. To begin with, we will review essential theoretical approaches in international management. Through the review, we will be able to gain conceptual foundation on this subject. We will use several case studies to help us understand international management in practice. We will then explore the linkages between concepts and practices.

教科書 /Textbooks

TBA

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Shenkar, O. & Luo, Y. 2008. International Business (2nd ed.). Sage Publications: CA.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Session1: Introduction
 Session2: Statistics review
 Session3-4: International business environment
 Session5: International M&A
 Session6: Foreign direct investment
 Session7: Foreign exchange rates
 Session8: Human resources management-Cross-cultural management
 Session9: Japanese transnational company-Sogoshosha
 Session10:New MNC- Born Global
 Session11:Guest Speaker
 Session12-13: Case-Apple Inc. 2010
 Session14-15: Case-Starbucks

成績評価の方法 /Assessment Method

participation... 20% class quizzes ...30% presentation...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

エクセル関数、会計、マーケティング、経営学、統計学などの基礎を日本語で学んでおくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メディア英語ゼミBII 【昼】

担当者名 /Instructor アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

British Studies: Media and Culture

メディア英語ゼミB II runs in tandem with メディア英語ゼミB I. The course offers students the opportunity to analyse the media of Britain and assess their relationship with the nation's social, political and cultural activities. The course will embrace analyses of media and culture from the very beginnings of Britain through to the present day. Students will be required to lead English-language discussions and make presentations on topics to be chosen by themselves.

教科書 /Textbooks

Handouts/research materials will be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

So as to deepen understanding and develop independent study skills, students will be expected to make full use of the research facilities at their disposal whenever possible.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Developing research skills
- 2回 Instructor-led class 1: Redefining 'Media & Culture'
- 3回 Instructor-led class 2: Source Material Selection
- 4回 Instructor-led class 3: The Uses of Theory
- 5回 Student-led class A (presentation + discussion)
- 6回 Student-led class B (presentation + discussion)
- 7回 Student-led class C (presentation + discussion)
- 8回 Student-led class D (presentation + discussion)
- 9回 Student-led class E (presentation + discussion)
- 10回 Student-led class F (presentation + discussion)
- 11回 Student-led class G (presentation + discussion)
- 12回 Student-led class H (presentation + discussion)
- 13回 Student-led class I (presentation + discussion)
- 14回 Student-led class J (presentation + discussion)
- 15回 Final discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

Successful completion of 2000-word essay ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

None stipulated

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メディア英語ゼミBII 【昼】

担当者名 /Instructor 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカのミュージカル演劇研究が目的である。卒業課題についての資料の収集、分析、発表、議論が主体になる。

教科書 /Textbooks

プレゼンが主になる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入
- 2回 卒業課題についてのプレゼン。および『美女と野獣』
- 3回 卒業課題についてのプレゼン。および『ドリームガールズ』
- 4回 卒業課題についてのプレゼン。および『アイダ』
- 5回 卒業課題についてのプレゼン。および『シヨウ・ポート』
- 6回 卒業課題についてのプレゼン。および『シカゴ』
- 7回 卒業課題についてのプレゼン。および『レ・ミゼラブル』
- 8回 卒業課題についてのプレゼン。および『プロデューサーズ』
- 9回 卒業課題についてのプレゼン。および『ライオン・キング』
- 10回 卒業課題についてのプレゼン。および『キャバレー』
- 11回 卒業課題についてのプレゼン。および『ファンタスティックス』
- 12回 卒業課題についてのプレゼン。および『メリー・ポピンズ』
- 13回 卒業課題についてのプレゼン。および『コーラス・ライン』
- 14回 卒業課題についてのプレゼン。および『春の目覚め』
- 15回 結び

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼン... 50% エッセー... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

プレゼンの時は、万全の準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

キーワード /Keywords

【ミュージカル】 【演劇】

アメリカ研究ゼミBII【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / Denis JONNES / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Students in the American Studies seminar, in consultation with the instructor, will continue to research and collect materials for the Graduation Thesis.

In-class discussion will focus on latter 20th and early 21st century, in particular, end of the Cold War, the United States and the new globalism; impact of new media; the USA and the war on terror; economic crisis and the Obama administration.

教科書 /Textbooks

For background discussion, printed materials will be provided by the instructor

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Key themes: A 3rd Industrial Revolution?- America and the New Globalism
- 2回 Digital Culture
- 3回 War on Terror
- 4回 Neo-Conservatism
- 5回 Boom and Bust
- 6回 New Competitors
- 7回 Race and Class in the Age of Obama
- 8回 USA in the 21st Century
- 9回 Student Presentations & Discussion
- 10回 Student Presentations & Discussion
- 11回 Student Presentations & Discussion
- 12回 Student Presentations & Discussion
- 13回 Student Presentations & Discussion
- 14回 Student Presentations & Discussion
- 15回 Review and Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation -- 25 % Participation ... 25% Presentation -- 25 % Essay 25 ... 25 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students are expected to have completed American Studies Seminar A I, A II, B I or equivalent.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

New Media, Cold War, War on Terror, Economic Crisis, Barack Obama, 21st Century

英語学ゼミBII【昼】

担当者名 北峯 裕士 / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成。各自、自分のテーマに沿って、調査・研究してもらう。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の要求に応じ、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者の研究経過を発表してもらう。そのため、具体的記載不能。

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究経過の発表①
- 3回 研究経過の発表②
- 4回 研究経過の発表③
- 5回 研究経過の発表④
- 6回 研究経過の発表⑤
- 7回 研究経過の発表⑥
- 8回 研究経過の発表⑦
- 9回 研究経過の発表⑧
- 10回 研究経過の発表⑨
- 11回 研究経過の発表⑩
- 12回 研究経過の発表⑪
- 13回 研究経過の発表⑫
- 14回 研究経過の発表⑬
- 15回 研究経過の発表⑭

成績評価の方法 /Assessment Method

研究経過 50%
発表内容 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

無断欠席は、容認しない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語教育ゼミBII 【昼】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This two-year course will provide learners with a foundation in second language teaching and a practical basis for improving communication skills in Japanese schools. The fourth term will focus on the students' abilities to provide a rationale for their teaching. Learners will gain a experience in expressing and supporting their own ideas on second language teaching as they have developed over the two-year course by writing an undergraduate thesis of approximately 3000 words.

教科書 /Textbooks

Materials to be arranged by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

References to be arranged by the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation and self-introductions
- 2回 Identifying a suitable topic
- 3回 Narrowing the topic and developing a thesis statement
- 4回 Writing an outline of how you will support your thesis; types of support
- 5回 Writing an introduction
- 6回 Creating unity in the body of your paper
- 7回 Referencing your sources; specific word choice; redundancy and elaboration
- 8回 Writing a conclusion
- 9回 Guidelines for evaluation your thesis
- 10回 Presentation & Discussion 1: Power point presentation (rough draft)
- 11回 Presentation & Discussion 1: Power point presentation (rough draft)
- 12回 Presentation & Discussion 1: Power point presentation (rough draft)
- 13回 Presentation & Discussion 2: Power point presentation (revised/final)
- 14回 Presentation & Discussion 2: Power point presentation (revised/final)
- 15回 Presentation & Discussion 2: Power point presentation (revised/final)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 40% Weekly homework and participation
- 30% Presentation(s)
- 30% Final report

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

All lectures, materials, presentations and discussions will be English.
Learners should have a strong interest in teaching English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会言語学ゼミBII【昼】

担当者名 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会言語学の領域から各自選択したテーマに沿って、文献調査・フィールドワークを行い、授業時に先行研究の発表、言語調査の経過報告、問題点の議論等を行う。最終的に研究の成果を卒業論文の形で提出する。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中尾俊夫・日比谷潤子・服部範子.(1997).『社会言語学概論-日本語と英語の例で学ぶ社会言語学』くろしお出版.
- 田中春美・田中幸子.(1996).『社会言語学への招待-社会・文化・コミュニケーション』ミネルヴァ書房.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTROダクシヨン
- 2回 研究の進捗状況と今後の予定
- 3回～4回 学生による研究発表(第4回)
- 5回 ディスカッション
- 6回 論文の書き方(1)
- 7回～8回 学生による研究発表(第5回)
- 9回 ディスカッション
- 10回 論文の書き方(2)
- 11回～13回 学生による研究発表(第6回)
- 14回 ディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表70%、論文30%。出席・授業への参加状況も考慮する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『社会言語学研究』を受講すると、本ゼミの理解がより深いものとなる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義、教師の役割、教師の職務内容等に関する知識の修得と、教職についての理解と考察の過程を支援することによって、教育と教職に対する実践意欲を喚起し、同時に教育と指導のあり方について助言する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

1回 教育とは何かI	【学校教育】 【学習と生活】
2回 教育とは何かII	【教育】 【学校】 【生活と文化】 【教育の二つの思潮】
3回 教育の目的	【教育目的論】 【学校と学習】
4回 教育の内容	【教育課程】 【教育課程の編成原理】 【教育課程の歴史】
5回 教育の方法	【指導の本質】 【指導の方法】
6回 生徒指導のあり方	【生徒指導の前提】 【生徒指導の伝統】
7回 職業指導・進路指導	【キャリア教育】 【職業選択の基礎理論】
8回 教師本来のあり方	【教師の仕事】 【子どもの見方】
9回 生徒の生きる力を育てる教育	【生きる力】 【青少年の意識】
10回 性の教育	【思春期の発達】 【カリキュラム】
11回 教育評価	【評価の種類】 【体罰と懲戒】
12回 いのちの教育	【生と死の教育課程】 【いのちの教育の方法】
13回 身体教育	【食教育】 【排便教育】
14回 これからの教育	【学校の役割】 【中等教育】
15回 教師の「資質」とは何か / まとめ	【教師の禁句】 【指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理 【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学 【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本原則(1) 教育制度とは
- 2回 教育制度の基本原則(2) 日本の教育法制
- 3回 学校制度の基本的事項(1) 機会均等、学校教育における中立性等
- 4回 学校制度の基本的事項(2) 義務教育
- 5回 学校制度の基本的事項(3) 学校体系
- 6回 教育課程の意義と編成(1) 教科書・教材、学習指導要領
- 7回 教育課程の意義と編成(2) 学校の教育課程編成
- 8回 教員制度の基本的事項(1) 教員免許法制、公務員としての教師
- 9回 教員制度の基本的事項(2) 教員の指導力、研修
- 10回 生涯学習制度 成人教育、学校教育と社会教育の連携
- 11回 子育てをめぐる諸問題 子育て不安、教育と福祉
- 12回 教育行財政の仕組み(1) 中央教育行政、地方教育行政
- 13回 教育行財政の仕組み(2) 教育委員会と学校
- 14回 教育制度改革の動向 学校選択制、学校評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【昼】

担当者名 田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育も含む）における「道徳教育」について学修するためのものである。この「学校教育」における「道徳教育」については、「学習指導要領」に規定されているので、それを基礎にして、具体的な道徳教育のあり方と指導方法について学修する。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 1回 「道徳教育」とは何か 【徳】 【教育】
 - 2回 「学校教育における道徳教育」の構造 【学習指導要領】 【学校教育の全領域】
 - 3回 「各教科」と道徳教育 【陶冶】 【訓育】
 - 4回 「特別活動」と道徳教育 【学級活動】 【生徒会活動】 【学校行事】
 - 5回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 【横断的・総合的な学習】 【活動】
 - 6回 「道徳の時間」と道徳教育 【道徳の時間の指導内容】 【全体計画】
 - 7回 「道徳の時間」の指導過程 【学習指導案】 【指導方法】
 - 8回 「道徳の時間」の指導技術 【指導技術】 【指導事例】
 - 9回 「モラルジレンマの授業」と道徳教育 【ジレンマ教材】 【対立・葛藤】
 - 10回 「役割演技」と道徳教育 【動作化】 【ロール・プレイ】
 - 11回 「教師のモラル」と道徳教育 【人間性】 【社会のモラル】
 - 12回 「体験・ボランティア活動」と道徳教育 【自然体験】 【社会体験】
 - 13回 「綴方」と道徳教育 【教育的リアリズム】 【教育的ヒューマニズム】
 - 14回 「エンカウンター」と道徳教育 【出会い】 【構成的グループエンカウンター】
 - 15回 道徳教育の課題と未来 / まとめ 【道徳性の評価】 【地域社会の連携】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。

- ① 「中学校学習指導要領」及び「高等学校学習指導要領」の「特別活動」の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を理論的、実践的に深めること。
- ② 市民社会の担い手に求められる市民的スキルを学級活動などを通じて獲得させていく方法を実践的に学習すること。
- ③ 子どもたちの自治の力を育む生徒会活動、学校行事の在り方について、具体的な実践報告を踏まえつつ検討していくこと。

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 「中学校学習指導要領」及び「高等学校学習指導要領」の「特別活動」の目的・領域について
- 3回 現実の学校体験から、学級づくり、学校づくりの課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動 その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターン
- 5回 子どもたちの対人関係スキルを育てるHR活動 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 子どもたちの対人関係スキルを育てるHR活動 その3 - ロールプレイの取り組み
- 7回 すべての子どもの居場所となる学級づくりの課題 - 班ノート、班活動などに視点をあてて
- 8回 すべての子どもの居場所となる学級づくりの課題 - 班長・リーダー指導に視点をあてて
- 9回 子どもたちの自治の力を育てる生徒会活動の課題
- 10回 子ども達の自治の力を育てる学校行事の課題 - 体育祭の取り組み
- 11回 子ども達の自治の力を育てる学校行事の課題 - 文化祭・合唱コンクールの取り組み
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる学校行事の課題 - 修学旅行の取り組み
- 13回 荒れている学級をどう立て直すか? - 中学校の実践
- 14回 荒れている学級をどう立て直すか? - 高等学校の実践
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は人間関係学科の専門科目にもなっていますが、基本は教職課程の科目です。教師をめざす学生に求められる真摯な授業態度や積極的な活動への参加を期待します。

キーワード /Keywords

学級集団づくり、対立解決のスキル、自治能力の育成

教育方法学【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校の教育も含む）における教育方法についての理論と具体的な方法・技術を学修する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著『教育の方法』ミネルヴァ書房、他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 1回 「教育方法」とは何か 【教育方法の形態】【比喻・モデル】
 - 2回 21世紀の教育方法 【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
 - 3回 「授業（学び）」の構想 【授業の三角形モデル】【事前の教材解釈】
 - 4回 授業における展開と「タクト」 【競争原理】【教授学的タクト】
 - 5回 学びを反省・評価する 【評価の方法】【自己評価能力】
 - 6回 学びのシステムのこれまでとこれから 【出席と参加】【学習規律】
 - 7回 「学び」の具体的システムづくり 【相互主体論】【受容】
 - 8回 これからの学びを支える新しいネットワーク 【メディアリテラシー】【情報活用能力】
 - 9回 情報機器と教材の活用 【マルチメディア】【授業形態】
 - 10回 新しい教師への道を拓く 【教師の資質能力】【ファシリテーター】
 - 11回 性教育の指導の視点 【ジェンダー】【性】
 - 12回 学習遅滞の指導 【学習遅滞】【学習障害】
 - 13回 デイスコミュニケーションとコミュニケーション 【発話】【聴取】
 - 14回 教育方法における「近代」と「現代」 【連続と非連続】【現代化】
 - 15回 「教える」ことの技術と思想 / まとめ 【指導】【自己活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育学【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、教育学の研究範囲に含まれる中でも、近年特に重要であり注目されている下記に示す事項に関して講義を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教育学への招待, 赤堀侃司著, 2002, ジャストシステム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明, 【教育学の定義】 【研究分野の概観】
2. 教授 - 学習に関する基礎理論その1 【行動主義】
3. 教授 - 学習に関する基礎理論その2 【認知主義】
4. 教授 - 学習に関する基礎理論その3 【社会的構成主義】
5. 教授 - 学習に関する基礎理論その4 【状況論的学習】
6. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順 【授業設計】
7. 授業過程の分析と改善 【授業過程】
8. 授業実施の技術 【授業技術】
9. 授業の評価 【授業評価】
10. 教育メディアとその活用1 【コンピュータ】 【マルチメディア】
11. 教育メディアとその活用2 【インターネット】 【Web】
12. 学習データのとらえ方とその処理 【学習データ】
13. 授業実践能力の改善と向上 【実践能力】
14. 現代の教育課題
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出 (20%), レポート (30%), 試験 (50%) により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」（実習校実習）に向けて、実習生として必要な心構えや学習指導及び生徒指導等の理論や知識・技術を修得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育実習1」オリエンテーション	【教育実習】 【実習校】
2回 教育実習の1日	【教育実習の実態】 【教師の勤務】
3回 教育実習生の体験から学ぶ(中学校)	【教科指導】 【学級経営】
4回 教育実習生の体験から学ぶ(高等学校)	【教科指導】 【学級経営】
5回 子どもの問題状況と生徒指導	【生徒指導】 【子どもの理解】
6回 学級経営について	【学級集団づくり】 【学級通信】
7回 生徒指導と教育相談	【生徒理解】 【生徒指導体制】
8回 授業観察の方法	【授業観察の視点】 【授業記録シート】
9回 子どもの人権と教育	【人権】 【自尊感情】
10回 教材研究と授業構想	【刻々の教材研究】 【学習指導案】
11回 教師の資質とは何か	【教師の資質】 【事前の準備】
12回 模擬授業①(中学・高校別)	【授業構成】 【導入】
13回 模擬授業②(中学・高校別)	【指導技術】 【発問】
14回 模擬授業③(中学・高校別)	【指導技術】 【説明】
15回 模擬授業④(中学・高校別)	【指導技術】 【指示・助言】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%) 学期末の提出物の評価(75%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の事前に指示されたことを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 第 1回 ; オリエンテーション | 【勤務】【連絡】 |
| 第 2回 ; 中学校における教育実習 | 【中学生の特質】【中学生への支援】 |
| 第 3回 ; 高等学校における教育実習 | 【高校生の特質】【高校生への支援】 |
| 第 4回 ; 実習校実習① | 【教育実習指導】 |
| 第 5回 ; 実習校実習② | 【教育実習指導】 |
| 第 6回 ; 実習校実習③ | 【教育実習指導】 |
| 第 7回 ; 実習校実習④ | 【教育実習指導】 |
| 第 8回 ; 実習校実習⑤ | 【教育実習指導】 |
| 第 9回 ; 実習校実習⑥ | 【教育実習指導】 |
| 第 10回 ; 実習校実習⑦ | 【教育実習指導】 |
| 第 11回 ; 実習校実習⑧ | 【教育実習指導】 |
| 第 12回 ; 実習校実習⑨ | 【教育実習指導】 |
| 第 13回 ; 実習校実習⑩ | 【教育実習指導】 |
| 第 14回 ; 実習校実習⑪ | 【教育実習指導】 |
| 第 15回 ; 教育実習反省会 | 【教師の資質】 |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- | | |
|-----------------|----------|
| 第 1 回 ; 実習校実習① | 【教育実習指導】 |
| 第 2 回 ; 実習校実習② | 【教育実習指導】 |
| 第 3 回 ; 実習校実習③ | 【教育実習指導】 |
| 第 4 回 ; 実習校実習④ | 【教育実習指導】 |
| 第 5 回 ; 実習校実習⑤ | 【教育実習指導】 |
| 第 6 回 ; 実習校実習⑥ | 【教育実習指導】 |
| 第 7 回 ; 実習校実習⑦ | 【教育実習指導】 |
| 第 8 回 ; 実習校実習⑧ | 【教育実習指導】 |
| 第 9 回 ; 実習校実習⑨ | 【教育実習指導】 |
| 第 10 回 ; 実習校実習⑩ | 【教育実習指導】 |
| 第 11 回 ; 実習校実習⑪ | 【教育実習指導】 |
| 第 12 回 ; 実習校実習⑫ | 【教育実習指導】 |
| 第 13 回 ; 実習校実習⑬ | 【教育実習指導】 |
| 第 14 回 ; 実習校実習⑭ | 【教育実習指導】 |
| 第 15 回 ; 実習校実習⑮ | 【教育実習指導】 |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
						○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学校教育相談の領域は、1.「学業的発達」、2.「キャリア的発達」、3.「個人・社会的発達」の三つに区分され、また、学校教育相談の機能は、①一次的支援(開発的教育相談)、②二次的支援(予防的教育相談)、③「三次的支援」(問題解決的教育相談)から構成される。本授業では、学校教育相談の領域や機能について、教育相談の基本的な理論と技法の学習もふまえて提起していきたい。

さらに、不登校やいじめなど、様々な問題を出している児童、生徒に対する理解を深めていくと同時に、児童・生徒に対する指導、援助、また、課題を抱える保護者への理解と援助を進めていく際の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を紹介しつつ、検討していきたい。

教科書 /Textbooks

「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)をテキストとして使用する。本授業では主に第一部(1～4章)を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教育相談の領域
- 3回 教育相談の機能 その1 - 一次的支援
- 4回 教育相談の機能 その2 - 二次的支援、三次的三次的支援
- 5回 教育相談の基本的な理念について
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 7回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれ質問
- 8回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ実習
- 9回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談① - 前思春期
- 10回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談② - 思春期
- 11回 不登校の子どもに対する教育相談
- 12回 保護者に対する教育相談
- 13回 教育相談活動における連携について - スクールカウンセラーとの連携に視点をあてて
- 14回 薬物問題に対する理解と援助(北九州ダルクの講演)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート等)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは早めに読み、基本的な知見をもった上で授業に望むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談、いじめ問題

生徒・進路指導論【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義と課題について、積極的生徒指導(子どもの発達支援としての生徒指導)に視点をあてて検討していくこと。
 - ② 養育環境や発達上の困難な課題を抱える子どもの内面に寄り添う生徒指導の課題について検討していくこと。
 - ③ 思春期の人格発達(「価値的自立」)の過程を支える進路学習、進路指導の意義と課題について、今日の社会情勢も含めつつ検討していくこと。
- 本授業のキーワードは、積極的生徒指導、児童虐待、進路指導である。

教科書 /Textbooks

テキストとして、「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)の第II部と第III部8章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 生徒・進路指導論の意義と課題
- 2回 学校現場での生徒指導の実際 その1
- 3回 学校現場での生徒指導の実際 その2
- 4回 子どもの発達支援としての生徒指導の課題と方法 ー 文科省編「生徒指導提要」を手がかりに その1
- 5回 子どもの発達支援としての生徒指導の課題と方法 - 文科省編「生徒指導提要」を手がかりに その2
- 6回 生徒指導における関係諸機関との連携について - スクールソーシャルワークに視点をあてて
- 7回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導その1
- 8回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導 その2
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路学習
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
- 11回 中学校における職場体験学習と進路指導
- 12回 今日の高등학교の問題状況と進路指導の課題
- 13回 被虐待児に対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 14回 虐待サイバーに対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポートなど)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの第II部(5, 6章)をしっかりと読み込んで授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達支援としての生徒指導、児童虐待、進路指導

英語科教育法C【昼】

担当者名 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語教育における主要な理論、方法論（第二言語習得理論、外国語教育の方法論など）を概観し、具体的に現場の授業に応用することを念頭に置き、検討する。

教科書 /Textbooks

下記の文献から抜粋したプリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋正夫 『英語教育学概論』（金星堂）
高梨庸雄・高橋正夫 『新・英語教育学概論』金星堂
D.Larsen-Freeman, Techniques and Principles in Language Teaching Oxford
『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』（大修館書店）田崎（編集）
『現代英語教授法総覧』（大修館書店）片山、末畑、他（編注）
中学校学習指導要領 第9節 外国語（文部科学省）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/990301/03122602/010.htm
高等学校学習指導要領 第8節 外国語（文部科学省）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/990301d/990301i.htm

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 TESLとTEFLの概念
- 第2回 中学校学習指導要領の解説と解説
- 第3回 高等学校学習指導要領の解説と解説
- 第4回 The Grammar-Translation Method、
- 第5回 Cognitive Code Learning
- 第6回 The Direct Method、
- 第7回 The Oral Method
- 第8回 The Audio-Lingual Methodの理論的側面
- 第9回 The Audio-Lingual Methodのこれまでの方法論との差異
- 第10回 CCL, CA,(Communicative Language Teaching)のA-LMとの差異
- 第11回 The Audio-Lingual Methodの訓練法の実践的側面
- 第12回 CLL, の訓練法の実践的側面
- 第13回 CLTの訓練法の実践的側面
- 第14回 方法論の変遷のまとめ
- 第15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加度30%、期末試験70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって、事前（当該授業の1～2回前）に配布する英文の資料をよく読み込んでおくことが必要です。

履修上の注意 /Remarks

授業ではpair work、および授業の疑似体験など身体を動かし参加することが要求されます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は教職に就くことを強く意識しているはずである。各自の授業態度を見て、相応しいかどうか判断したい。

キーワード /Keywords

指導要領 主要な教授法 教育現場での応用 言語活動

英語科教育法D 【昼】

担当者名 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育現場で多用されているAudio-Lingual Method、CAの諸手法を中心に、授業展開のあり方を学び、その手法を取得する。

教科書 /Textbooks

下記の文献からの抜粋プリント配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋正夫 『英語教育学概論』 (金星堂)
望月編著 『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』 (大修館書店)
望月・山田 編著 『私の英語授業』 (大修館書店)
E.W.Stevick "Teaching Languages A Way and Ways" (Newbury House)
『英語教育学概論』 付属ビデオ (金星堂) 『授業の構成と進め方 中学校の部』 -授業編、解説編 (JAPAN LAIM)
中学校学習指導要領 第9節 外国語 (文部科学省)
http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/990301/03122602/010.htm
高等学校学習指導要領 第8節 外国語 (文部科学省)
http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/990301d/990301i.htm

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースワークの説明
- 第2回 テキスト教材配列について
- 第3回 教材研究 (副教材の作成など)
- 第4回 インプット重視の指導、アウトプット重視の指導
- 第5回 タスク活動と文法指導
- 第6回 教案の作成と授業の展開の把握
- 第7回 評価 (テスト、絶対評価)
- 第8回 ALTとの活動、および国際理解教育
- 第9回 中学校教育指導作成の指導
- 第10回 提出用の教育指導作成の指導
- 第11回 模擬授業 (中学 : 1、2年)
- 第12回 模擬授業 (中学 : 2年、3年)
- 第13回 模擬授業 (高校 : 1年、2年)
- 第14回 模擬授業 (高校 : 2年、3年)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での活動 (模擬授業を含む) 40%、課題 (教案を含む) 10%、期末テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業ではpair work、および授業の疑似体験など身体を動かし参加することが要求されます。

履修上の注意 /Remarks

教壇に立つ立場を意識して授業に参加のこと。授業で実践活動を行うことが特に重要であるため、出席不足の受講者に対しては、厳密に対応します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は教職に就くことを強く意識しているはずである。各自の授業態度を見て、相応しいかどうか判断したい。

キーワード /Keywords

授業の展開の実践 教案作成 模擬授業

教育心理学【昼】

担当者名 /Instructor 村上 太郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育心理学では、教育の場における子どもの姿や教師の姿を心理学的側面からみていきます。子どもの学習過程について理解し、教師としての関わりについて学び、教師と子どもの人間関係についての考え方を身につけることを目標とします。講義を中心として、様々な例を通して具体的な関わりを考えることのできる機会を多く設ける予定です。質問や意見は、1回目の授業時に配布するフォローアップ・シートにて随時受け付けます。ぜひ活用してください。

教科書 /Textbooks

鎌原雅彦・竹綱誠一郎著「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ
毎回配布するプリントも併用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育心理学とは(ガイダンス)【心理学】【自己紹介】
- 2回 子供の発達【発達】【成熟】【学習】
- 3回 発達段階【発達課題】
- 4回 自己認識の発達【自己と他者】
- 5回 頭がいい、とは【知能】
- 6回 学習の仕組み(1)【記憶】【忘却】
- 7回 学習の仕組み(2)【学習】
- 8回 やる気【強化】【自己評価】
- 9回 教え方によって【教授方法】【効果】
- 10回 評価する【テスト】【絶対評価】【相対評価】
- 11回 学級という集団【同調行動】
- 12回 学級の中の人間関係【いじめ】【調査方法】
- 13回 個性とは【性格】
- 14回 カウンセリング・マインド【傾聴】【共感】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(ミニレポート含む)...30% 期末試験...70%

注:ミニレポートは毎回、講義中に記述してもらいます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当部分を事前に読んでくると、本講義の理解がより容易になります。また、自分の小中学校時代の経験と結びつけながら講義を聴くことで、理解が深まります。質問や疑問は、フォローアップ・シートを活用して積極的に解消してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害児の心理と指導【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えながら考える。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児・者心理学について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第6回 視覚障害について
- 第7回 聴覚障害について
- 第8回 姿勢・運動の障害について
- 第9回 知的障害について
- 第10回 自閉性障害について
- 第11回 注意欠陥多動性障害について
- 第12回 学習障害について
- 第13回 青年期以降に診断される障害について
- 第14回 障害児・者への地域支援の在り方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育社会学【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、家族、学校、地域社会等で観察される諸事象をとりあげて社会的な視点から分析をし、教育社会学の基礎的な概念を提示していきながら、教育に関する事象について、社会的な見方、考え方ができるようになることをめざす。

教科書 /Textbooks

プリント（講義レジュメ・資料）を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

配布プリントに提示する他、授業中、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育社会学の対象と方法
- 2回 家族の諸形態と教育の機能
- 3回 子どもの社会化の課題
- 4回 学校・教室空間と教育過程
- 5回 教師文化と生徒文化の生成・葛藤
- 6回 若者と職業をめぐる課題
- 7回 学校と地域の歴史
- 8回 「地域の教育力」をめぐる課題
- 9回 生涯学習社会における学び
- 10回 友人関係における葛藤
- 11回 高度消費社会に生きる若者
- 12回 新たなメディアのなかの関係
- 13回 少年非行と教育・社会の課題】
- 14回 教育における格差
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題（試験） 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたり、配布したレジュメ・資料をよく読むこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論 【昼】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育現場及び日常生活での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が100人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「世界が100人の村だったら」【世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ】【非識字者・同性愛者の人権】【人権教育のスキル・技能】
- 第2回 いじめ差別①(現状認識)【いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)】【各種調査(教育白書・国際調査等)】
- 第3回 いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)【いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理】【文部科学省のいじめ定義】【道徳教育と人権教育の相違点】
- 第4回 いじめ差別③(解決への教育創造)【文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」】【金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」】【自尊感情と学力形成の相関関係】【学校文化と子どもの居場所づくり】
- 第5回 子どもの人権と児童虐待防止法【児童虐待の現状認識(新聞記事・教育白書等)】【教師の責務と教育・啓発の教育創造】
- 第6回 ものけ姫①(メッセージからの課題)【物語の時代背景と登場人物から課題の整理】【ハンセン病問題と国の隔離政策】【国家賠償と社会復帰】
- 第7回 ものけ姫②(メッセージからの課題)【女性差別の歴史】【学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える】
- 第8回 同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)【身分差別をつくったのは、誰?】【中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義】
- 第9回 同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)【身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?】【「賤民」身分にされたのは、どんな人々?】【一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義】
- 第10回 同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)【解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?】【一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚】
- 第11回 同和問題との出会い直し④(文学者と部落差別)【小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)】
- 第12回 同和問題との出会い直し⑤(結婚差別)【結婚差別の事例からの課題と解決への展望】【しきたり・ならわし・慣習との出会い直し】
- 第13回 同和問題との出会い直し⑥(人権文化の創造)【教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度】
- 第14回 同和問題との出会い直し⑦(国の施策)【1965年の同和対策審議会・答申の意義】【1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義】
- 第15回 同和問題との出会い直し⑧(人権文化のまちづくり)【各地の人権文化のまちづくりの現状】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(30%)及び学期末のレポートによる評価(70%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の中で課題を出します

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史と政治【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ペリー来航（1853）から55年体制の成立（1955）までの日本政治の歩みを外交政策の展開と関連させて概説する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○伊藤之雄『明治天皇』（ミネルヴァ書房）、○小林道彦『桂太郎』（ミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 不平等条約と条約改正【維新の三傑】
- 第3回 自由民権運動と朝鮮問題【伊藤博文】
- 第4回 日清戦争【陸奥宗光】
- 第5回 日露戦争【山県有朋】
- 第6回 大正政変 - 国家経営構想の分裂 - 【桂太郎】
- 第7回 21カ条要求【大隈重信】【孫文】
- 第8回 原敬と協調外交【原敬】
- 第9回 二大政党制と外交政策【加藤高明】
- 第10回 政党政治と満州事変【浜口雄幸】
- 第11回 2・26事件と日中戦争【近衛文麿】
- 第12回 破滅への道 - 太平洋戦争 - 【東条英機】【吉田茂】
- 第13回 戦後改革【マッカーサー】
- 第14回 55年体制の成立【自民党】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族を問う【夜】

担当者名 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちが共同生活を営んでいる社会の最小単位である家族、信頼のおけるかけがえのない存在であるこの家族に今何が起きているのか。迷走し、混迷する家族の実像から、現代の家族が抱える問題点を明らかにしてみようと思っています。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 開講にあたって-問題の出発点-家族とは？
- 2回 家族の機能
- 3回 ハードウェアとしての家族
- 4回 システムとしての家族①
- 5回 システムとしての家族②
- 6回 システムとしての家族③
- 7回 システムとしての家族④
- 8回 現代家族の課題-夫婦①
- 9回 現代家族の課題-夫婦②
- 10回 現代家族の課題-親子①
- 11回 現代家族の課題-親子②
- 12回 現代家族の課題-親子③
- 13回 現代家族の課題-家族の危機
- 14回 現代家族の課題-家族モデル
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 10% 期末試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメに紹介した参考文献、図書館所蔵の関連図書を読み込むと理解を深めることができます。講義ノートを作成するよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

キーワード /Keywords

人間と文化【夜】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「文化」という言葉から伝統芸能や芸術活動を連想する受講者も多いだろう。本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。

グローバル化が進んだ現在でも、地域によって家族・親族関係のありかた、信仰のありかた、経済活動に関する考え方は大きく異なる。本講義では、(おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学一年生という受講者が現在考えている「文化」を、世界各地の文化のありかたを参照することで相対化し、身の回りの現代社会について考察するひとつの手段を学ぶ。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
春日直樹(編)2008『人類学で世界をみる』ミネルヴァ書房
作道伸介(編)2008『近代化のフィールドワーク』東信堂
宮島喬(編)2000『講座社会学7 文化』東京大学出版会
※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：グローバルでローカルな世界を想像するために
- 第2回 異文化の「発見」：文化を考察する視点について
- 第3回 文化の基礎としての環境との<共生>
- 第4・5回 経済活動にみる文化：贈与と交換から地域通貨まで
- 第6回 資本主義の受容と貧困
- 第7回 開発の現場における「文化の差異」
- 第8・9回 個人と集団：生殖医療の時代に家族・親族関係を考える
- 第10回 親族・家族関係から社会関係への拡張
- 第11回 ジェンダー
- 第12・13回 日常生活の中の儀礼からみえる世界観
- 第14回 宗教・呪術・占いの機能
- 第15回 まとめ：グローバル化のなかのローカルな文化と普遍的価値観

成績評価の方法 /Assessment Method

エッセイによる授業貢献20%、期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回最後の10-15分は授業の感想と、指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についてのエッセイを記述し、提出してもらいます。次回の講義の冒頭で、提出されたエッセイの中から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進めます。専門分野に関わらず、日常的に新聞、雑誌、書籍などを読む習慣をつけ、自分の考えをまとめる訓練を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「人間と文化」では、文化について生活に密着した側面に注目しています。来年度に2年次対象の「文化と政治」を受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、環境、共同体、社会関係

ことばの科学【夜】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最新の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音声と音韻
- 第4回 連濁・鼻濁音
- 第5回 ことばの単位(2)：語
- 第6回 語の基本：成り立ち・構造・意味
- 第7回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第8回 言葉の単位(3)：文
- 第9回 動詞の自他
- 第10回 日本語と英語の受動態
- 第11回 数量詞
- 第12回 代名詞：「彼」「彼女」「自分」「自分自身」
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養としての平和学 【夜】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

皆さんがこれまで漠然と認識してきた「戦争」や「平和」という既成概念を改めて真剣に問い返して、戦争アレルギーに基づく思考停止的反戦主義や現実性に乏しい理想主義的平和主義を廃し、現実的な平和思考を養うことを目的とします。一言で言えば「平和とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～5回 問題提起、戦争の定義
- 6回～8回 平和の定義、積極平和論
- 9回～11回 日本の平和主義
- 12回～13回 正戦論(正義の戦争はあるか)
- 14回 二重結果の原則
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、マックス・ヴェーバーからフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明したあと、近年盛んに論じられている公共性と親密圏の交錯という問題に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 姜尚中『マックス・ヴェーバーと近代—合理化論のプロブレマティーク』御茶ノ水書房
- ハンナ・アーレント『人間の条件』(志水速雄訳)ちくま学芸文庫
- 斎藤純一『公共性(思考のフロンティア)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (1) 【官僚制】
- 3回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (2) 【物象化】
- 4回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (3) 【工場労働】
- 5回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (4) 【分業体制】
- 6回 生活世界論のはじまり(1) 【近代科学と現象学】
- 7回 生活世界論のはじまり(2) 【フッサールの近代批判】
- 8回 確認テストとその解説
- 9回 生活世界論のひろがり(1) 【アーレント、人と思想】
- 10回 生活世界論のひろがり(2) 【アーレントの近代批判】
- 11回 公私の区別とその起源(1) 【古代ギリシャ概説】
- 12回 公私の区別とその起源(2) 【古代ギリシャにおける政治】
- 13回 宗教の私事性と公的領域(1) 【迫害と弾圧】
- 14回 宗教の私事性と公的領域(2) 【社会との確執】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...50% 学期末試験...50%
(第8回に予定している内容確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。この場合、成績評価はE判定となる。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生向け科目であることを考慮に入れ、分かりやすい講義となるよう心がけたい。しかし、単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。

キーワード /Keywords

生活世界 形式合理性 活動 ポリス

メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を生涯発達（エリクソン理論）の視点からとらえながら、日々の生活を充実させるための人生のその時期、その時期での適切なストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「こころの旅」神谷美恵子著 みすず書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション，受講上の注意，講師自己紹介など。
 - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【生涯発達心理学】
 - 3回 乳幼児の心の健康を知る。【エリクソンの自我発達理論】
 - 4回 児童期の心の健康を知る 【勤勉性と劣等感】
 - 5回 思春期の心のありよう【第二反抗期】
 - 6回から11回 青年期から壮年期までの人生と心の健康 【豊かな心とは】
 同一性の視点から ・ 遊びと人生
 配偶者の選択 ・ 病いと人生
 - 12回から13回 発達の障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
 - 14回 健康な心と身体の行く末について。【老いと死の受容】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自分なりの心の健康法について、自覚して取り組んでいる実践や考え方を自分なりに整理して授業に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII【夜】

担当者名 /Instructor 内田 若希 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の身体とのつきあい方を身につけ、心身ともに健康なライフスタイルの維持・獲得に向けて、理論の学習と実習を行う。なお、実習では、既存のルールにとらわれない誰でも楽しむことのできる運動を取り入れ、生涯にわたる健康の自己管理能力を養うことを目指す。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 (講義) 運動と身体の健康【生活習慣病】【運動基準・指針】
- 3回 (実習) ウォーキングと至適運動強度
- 4回 (講義) 運動と心の健康【ストレス社会】【コーピング】
- 5回 (実習) コミュニケーションを楽しむ①(ふうせんバレー)
- 6回 (実習) コミュニケーションを楽しむ②(ソフトバレー)
- 7回 (講義) 運動の継続化を目指して【行動変容】
- 8回～9回 (実習) 生活に役立つテーピング・キネシオテープ実習
- 10回 (実習) 子どもが楽しめる運動(レクリエーション)
- 11回 (実習) 中高年が楽しめる運動(バドミントン)
- 12回 (実習) 高齢者が楽しめる運動(軽スポーツ)
- 13回～14回 (講義) 健康でステキな人生を送るために
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会調査（主に量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。調査法を学ぶ場合、統計ソフトが使えるようになることよりも、基本的な「考え方」の方が重要である。たとえば、「あることを主張するためにはどのようなデータを用い、どのような事実が観察される必要があるか」を考えることである。その上で、質問文の作り方、調査票の構成、サンプリング、データファイル作成、単純集計、記述統計量の計算、検定、クロス表の作成など、基本的な分析技法について学ぶ。なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行う可能性がある。

教科書 /Textbooks

『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『ガイドブック社会調査（第2版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007
 - 『新版 ライフヒストリーを学ぶ人のために』、谷富夫編著、世界思想社、2008
- その他、授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 何のための社会調査か
- 第2回 量的調査と質的調査
- 第3回 調査と研究の進め方
- 第4回 社会調査を企画する
- 第5回 ワーディングと調査票の作成（1）
- 第6回 ワーディングと調査票の作成（2）
- 第7回 ワーディングと調査票の作成（3）
- 第8回 サンプリング
- 第9回 調査の実施とデータファイルの作成（1）
- 第10回 調査の実施とデータファイルの作成（2）
- 第11回 分布と統計量
- 第12回 検定の考え方
- 第13回 クロス集計
- 第14回 相関係数
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストをよく読んでくること。
 「統計を読む・統計をつくる」（1学期）と合わせて受講することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【夜】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バドミントンの基礎(1) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 3回 バドミントンの基礎(2) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 4回 バドミントンの基礎(3) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 5回 バドミントンの基礎(4) サーブ(ロング・ショート)
- 6回 バドミントンの基礎(5) スマッシュ
- 7回 バドミントンの基礎(6) ルールの習得(シングルス)
- 8回 バドミントンの応用(7) ルールの習得(ダブルス)
- 9回 バドミントンの応用(1) フォーメーション
- 10回 バドミントンの応用(2) ゲーム展開
- 11回 シングルスゲーム(1)
- 12回 シングルスゲーム(2)
- 13回 ダブルスゲーム(1)
- 14回 ダブルスゲーム(2)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装と体育館シューズを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【夜】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、中学校教諭一種免許状（社会）や高等学校教諭一種免許状（公民）の取得を目指し、4年次に教育実習に行きたいと考えている学生のために、開講します。
 教育実習において、実習生は、実習先の学校で少なくとも数度の授業を担当することになります。塾などで実践経験を積み、自信满满で教育実習に臨む実習生もいるでしょうが、おそらく実習生の多くは、模擬授業を経験する十分な機会にも恵まれないまま、不安な気持ちを抱えながら、教育実習に臨むことになっているのではないのでしょうか。このクラスは、そのような不安を少しでも軽減するために、学習指導要領に対する理解を深めるとともに、模擬授業の実践と相互観察を通じ、受講生のティーチングスキルの向上を図ることを目的としています。
 なおこのクラスでは、高等学校における「現代社会」の授業を題材にして、授業を展開していくこととします。

教科書 /Textbooks

高等学校学習指導要領 解説（公民編）
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2010/09/07/1282000_4_1.pdf

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書は、初回の授業時に、紹介します。
 また授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く
- 第3回 学習指導案の作成①【単元】【目標】【指導計画】【指導上の立場】
- 第4回 学習指導案の発表①
- 第5回 学習指導案の作成②【本時案の位置づけ・目標】【導入・展開・まとめ】【学習内容・学習活動】
- 第6回 学習指導案の発表②
- 第7回 模擬授業における相互観察のポイント【授業構成】【説明】【発問・指示】【板書】【レジユメ】
- 第8回 模擬授業と相互観察①
- 第9回 模擬授業と相互観察②
- 第10回 模擬授業と相互観察③
- 第11回 模擬授業と相互観察④
- 第12回 模擬授業と相互観察⑤
- 第13回 模擬授業と相互観察⑥
- 第14回 模擬授業と相互観察⑦
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、課題・模擬授業などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）によって総合的に評価することになります。
 ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学習指導案の作成や模擬授業の準備等、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。
 受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

①教育実習1を受講していること、②社会科教育法ないしは公民科教育法を受講していること、を受講の条件とします。
 なお最大でも10人程度を予定しています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員を目指す人、自分の夢に向かって、自分の力を磨いてください。

キーワード /Keywords

【公民】【現代社会】【学習指導要領】【教材研究】【学習指導案】【模擬授業】【相互観察】

地球の生いたち【夜】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみや成り立ちを正しく理解し、地球規模でのバランス感覚を養っていく必要がある。

この授業の目標は、現在の地球のしくみと地球史を正しく理解することを通して、地球と人間との関係はどうあるべきかについて、自ら判断し考えることができるようになることである。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』(NHKブックス, 日本放送協会), 1071頁
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』(岩波書店), 861頁
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目: 地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回目: 生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回目: 生きている地球2【ウエゲナーと大陸移動説】
- 4回目: 地球惑星の起源と進化【水の惑星の誕生】
- 5回目: 地球生命の起源と目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 6回目: 凍りついた地球【全球凍結】
- 7回目: 生物進化史上最大の事変1【カンブリア爆発】
- 8回目: 生物進化史上最大の事変2【カンブリア爆発の意義】
- 9回目: 顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回目: 繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回目: 顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回目: 繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回目: 顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回目: 人間圏の成立と環境問題【人類と環境】
- 15回目: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験: 80%, 日常の授業への取り組み: 10%, 小テスト・ミニレポート: 10%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球史を学ぶ事を通して、地球と人間との関係について考えましょう。

キーワード /Keywords

地球史, 生命と地球, 共進化

思想と現代【夜】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

19世紀末から20世紀にかけて発展してきた重要な思想の流れを解説する。この時代がいわゆる「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想（実存思想・精神分析・フェミニズム）に着目してゆく。これらの発想をヒントにすることで、自我の成立、および他者との関係性について複眼的な思索ができるようになることを本授業の目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『哲学の歴史 第9巻—反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
- 『哲学の歴史 第12巻—実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 実存の思想(1)【概説】
- 3回 実存の思想(2)【キルケゴール】
- 4回 実存の思想(3)【ハイデガー】
- 5回 実存の思想(4)【サルトル】
- 6回 実存の思想(5)【メルロ=ポンティ】
- 7回 中間総括(確認テスト)
- 8回 精神分析の思想(1)【フロイト1】
- 9回 精神分析の思想(2)【フロイト2】
- 10回 精神分析の思想(3)【メラニー・クライン1】
- 11回 精神分析の思想(4)【メラニー・クライン2】
- 12回 フェミニズムの思想(1)【第一波】
- 13回 フェミニズムの思想(2)【第二波】
- 14回 フェミニズムの思想(3)【現代】
- 15回 総括と補足

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...50% 期末レポート...50%
(※確認テストを受験していない者は、期末レポート提出の権利を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第7回にテスト(第3回~第6回の内容確認)を実施するので、受講希望者は遅くとも第3週目から出席しておく必要がある。なお、このテストを受験していない者には単位を認めないので、あらかじめ注意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業に対しては、一切の甘えを捨てた上で取り組んでほしい。
授業内で指示する課題内容から外れたレポート、無断引用(コピペ等)が発覚したレポートは即座に0点となる。

キーワード /Keywords

民主主義とは何か【夜】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

かつて「危険な思想」であった民主主義は、今やすべてのものを正当化するレトリックとなり、きわめて形式的なものとなっている。そこで、本講義では、民主主義に関する議論を活性化するためのいくつかの素材、論点、概念などを提示し、「民主主義とは何か」を問い直してみたい。

教科書 /Textbooks

レジュメの配布を基本とするが、S・シャピロ『民主主義論の現状』（慶応義塾大学出版会、2010年）（○）も多く用いる。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィ』(日本経済評論社、2003年)(○)
J・リンズほか『大統領制民主主義の失敗』(南窓社、2003年)(○)
L・ダイヤモンドほか『シベリアン・コントロールとデモクラシー』(刃水書房、2006年)(○)
中道『政治思想のデッサン』(ミネルヴァ書房、2006年)(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 開講の辞・グローバル化とデモクラシー【第三の波】【市民社会】
第2-3回 「デモス」と「クラティア」について【イソノミア】【イセゴリア】【イソモイリア】
第4-5回 二つの民主主義伝統について【G・セイバイン】【自由】【平等】
第6-7回 近代市民革命と自由民主主義について【C・シュミット】【自由主義】【民主主義】
第8-9回 現代民主主義の諸類型【エリート主義】【参加民主主義】【共生の民主主義論】
第10-11回 議院内閣制民主主義と大統領制民主主義について【政治的安定性】【首相公選制】
第12-13回 民主主義批判の思想について【全体主義】【ポスト・デモクラシー】
第14回 デモクラシーの徹底化について【C・ムフ】【多様性】【複数性】
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への積極的取組考慮、小テストによる問題の解説と添削、レポート任意提出可、定期試験と講義への積極的取組などで総合評価
講義への積極的取組・・・10%、小テスト...10% レポート(任意) 20% 試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布したレジュメに目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権論 【夜】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察していく。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問い直す機会としたい。

目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題について、その事例を説明できる。
4. 自分自身と人権との関わりが理解できる。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『不思議な力 夜間中学』（宇多出版企画発行）
『部落問題資料と解説』（解放出版社発行）
必要な参考書は授業時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 自分にとっての人権課題
- 2 「人権とは何か」
- 3 「人権獲得の歴史」
- 4 「世界人権宣言採択の歴史的経緯と意義」
- 5 「部落問題について」
- 6 「部落差別の事例と当事者の声」
- 7 「在日外国人と人権課題」
- 8 「在日コリアンについて」
- 9 「ハンセン病とは、元患者の事例」
- 10 「識字問題～読み書きができないことがもたらす人権侵害」
- 11 「教育と人権～教育を受ける権利が保障されていない人たちの状況」
- 12 「障害者の立場からみる人権課題」
- 13 「戦争と人権 / 女性と戦争」
- 14 「アジアの人権状況」
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 50% 期末テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日常生活の中にあるさまざまな人権課題に関心を持ち、授業のミニレポートまたは感想用紙に反映させることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

授業中の私語は厳禁

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生自身がもつ「学ぶ権利」を十分認識して取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」「人間らしく生きる」

ジェンダー論【夜】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、なぜ「男は仕事、女は家事・育児・介護」は自然な役割だと思われているのか、なぜ男女の賃金格差があるのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのか-そのような日常的な「当たり前」をジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を学ぶ。

教科書 /Textbooks

『ジェンダー・スタディーズ-女性学・男性学を学ぶ』（牟田和恵編）大阪大学出版会 2,520円
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『岩波女性学事典』（井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編）岩波書店 4,830円
『フェミニズム理論辞典』（マギー・ハム著）明石書店 7,140円
R.W. Connell, Gender: Short Introduction, Polity, 2003 .

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回 日本語とジェンダー-日本の戦後から現代までの歌謡曲【女言葉・男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウエイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別役割分業】
- 5回 ジェンダー家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャルな関係】【性のダブル・スタンダード】
- 7回 学校教育の今昔-学園ものTVドラマの系譜【ジェンダー・トラッキング】【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-米映画『フローズン・リバー』【シングル・マザー】【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【家族経営協定】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のひまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-比映画『ケア・ギバー』【移住労働】【性別分業の再配置】
- 14回 テートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼン...30%、レポート...30%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書と資料を事前に読んでおくこと。
ワークショップのプレゼンでは、パワーポイントを使用するので、プレゼンおよびPPT作成スキルを身につけておくこと。PPTは8枚にまとめること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

メディア表現、ジェンダー不平等な法制度の改正、日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。

キーワード /Keywords

「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「グローバル化」

北九州学【夜】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この科目は、地域社会の発見学です。私たちの大学のある北九州、この地域の歴史や伝統文化を知り、人々の暮らしや風土に根ざした心を理解し、ものづくりやまちづくりへの取り組みを確認してみようと思います。北九州の発見を通じて、生活するためのヒント、他の文化とつながる知恵や未来への発展可能性を開く手がかりを得ようというものです。本年度は、「北九州の政治行政」を講義の主なテーマとします。講義全体のキーワードは『知っとーと！？北九州？？？』です。

教科書 /Textbooks

使用しません。毎回レジュメと資料を配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、その都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 北九州の歴史-小倉藩の治世
- 3回 北九州の歴史-小倉の五街道
- 4回 北九州の歴史-軍都小倉
- 5回 北九州市誕生
- 6回 北九州の政治
- 7回 北九州の住民自治
- 8回 北九州の教育行政
- 9回 北九州の交通行政
- 10回 北九州の環境行政
- 11回 北九州の安全対策
- 12回 北九州の福祉行政
- 13回 北九州のスポーツ行政
- 14回 北九州の観光行政
- 15回 まとめ

* 毎回ゲストをお招きして、各テーマについてお話を伺います。上記の内容は一応の予定です。現在検討中です。講義内容の詳細は開講時に配布します。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の講義への取り組み... 10% 課題... 10% 期末のレポート... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義中にノートをしっかりつけてください。

キーワード /Keywords

市民活動論【夜】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 枠組みの設定
 - 3回 民衆行動の分析①
 - 4回 民衆行動の分析②
 - 5回 市民運動の分析
 - 6回 市民の活動の展開 / 戦前 (上)
 - 7回 市民の活動の展開 / 戦前 (下)
 - 8回 市民の活動の展開 / 戦後 (上)
 - 9回 市民の活動の展開 / 戦後 (下)
 - 10回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (上)
 - 11回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (下)
 - 12回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (上)
 - 13回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (下)
 - 14回 市民活動の現在
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【夜】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本は、かのアジア太平洋戦争に敗北した。その後の日本は、奇跡的とも言うべき復活・再生（高度成長から安定成長）を果たした。その後、欧米から日本の経営とも賞賛された日本の企業社会であるが、そのピーク＝破壊たる1990年代前半のバブル崩壊を契機として、一転して失われた10年さらには15年とも評価されるにいたっている。

終身雇用（＝ライフタイム・コミットメント、広義には職場共同体感）・年功制や労使協調型経営のシステムは、今や、液状化して剥き出しの資本制経済の荒波にさらされている。日く、ワーキングプア・ネットカフェ難民・格差から貧困。

にもかかわらず、経済政策をリードしている新自由主義（マーケット型資本主義）路線。すなわち市場＝マーケット万能路線である。そこでは、市場から脱落・排除（彼女／彼らはこれを退出という）された者は、もはや回帰不可能な存在として処理されているかのようである。

これまでの日本経済においては、ケインズ型経済政策を基底にして、社会そのものが、こうした人々を支えるセーフティネットをもっていたと判断される。しかし、赤字財政と経済危機という観点から、いよいよ新自由主義なる路線が浸透しているかのようである。

そうすると行き着くところ、社会というものは、必ずしも人々の生命の再生産を所与としないものだろうか？

こうした問題を、日本の企業社会という文脈にひきつけて展開してみようというのが講義のねらいである。

教科書 /Textbooks

テキストは、竹内章郎『新自由主義の嘘』岩波書店、2007年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ことに格差と貧困に関わるテーマを扱った雑誌『世界』・岩波新書等の最新の文献。國島・重本・山崎編『「社会と企業」の経営学～新自由主義的経営から社会共生的経営へ～』ミネルヴァ書房（2009年）・見田宗介（真木悠介）の社会学入門に関する文献は一冊、用意したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会とは(社会認識の諸類型)。資本制経済(資本家的生産様式)。【社会認識】
- 2回 同上
- 3回 【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】【市民法】
現代社会の物質代謝＝商品による商品の生産。現代社会の物質代謝と再生産＝商品流通(C-M-C)による社会の再生産→この商品流通から、ふたつのタイプが見いだされる。→C-M-C(私たち)とM-C-M(資本家)。私たちと資本家は、商品流通のレベルでは仲良く相対しているかのようだ。この市民社会＝市民法レベルでの社会の再生産とその実態(秘密)。
- 4、5回 同上
- 6回 【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】 市民社会の歴史的創出＝本源的蓄積過程。商品流通(C-M-C)の内実たるM-C-Mでの剰余価値の生産。資本家と労働者。
- 7、8、9回 同上
- 10回【現代社会における二者闘争性(白と黒)】【労働組合】【福祉国家】【ケインズ政策】
市民社会と階級関係の二者闘争性。セーフティネット装置＝福祉国家。戦後のケインズ政策。
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 福祉国家の行き詰まりから、資本主義の原点回帰へ。新自由主義の台頭。【新自由主義】
- 14回 システム統合と社会統合。マーケットとその外側(生活世界)。【システム統合】【社会統合】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...10%と小テスト...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ①、テキストを用意すること。②、レジュメだけにしがみつかない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】【市民法】【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】【現代社会における二者闘争性（白と黒）】【労働組合】【福祉国家】【ケインズ政策】【新自由主義】【システム統合】【社会統合】

現代社会と倫理【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』(山内友三郎・塚崎智監訳)昭和堂、1999年。
- 加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』東海大学出版会、1988年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 現代における人命の価値(1)【生命の神聖説】
- 3回 現代における人命の価値(2)【積極的行為と消極的行為】
- 4回 現代における人命の価値(3)【最大幸福原理】
- 5回 現代における人命の価値(4)【完全義務と不完全義務】
- 6回 現代における人命の価値(5)【自己意識】、【FLO】
- 7回 小テスト+解説
- 8回 現代における差別の問題(1)【人種差別】
- 9回 現代における差別の問題(2)【種差別】
- 10回 現代における差別の問題(3)【間接的功利主義】
- 11回 現代における公平性の意義(1)【共有地の悲劇】、【救命ボート倫理】
- 12回 現代における公平性の意義(2)【公平主義】
- 13回 現代における公平性の意義(3)【援助義務論】
- 14回 現代における公平性の意義(4)【ケイバビリテイ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の概要、より詳しい参考文献の紹介は初回に行なう。
参考文献に挙げた『バイオエシックスの基礎』に収められた論文を一部授業の素材にするので、簡単にでも目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業の期末試験は、今年度より持ち込みが一切不可(プリント・ノート類も禁止)となる。
また、それに応じて成績評価のハードルもかなり高くなる。このため、受講者には継続的な学習意欲とそれ相応の記憶力が要求される。この方式変更に伴うリスクと負担をよく理解した上で講義に臨むこと。

キーワード /Keywords

生命 功利主義 義務論 公平性

現代の国際情勢【夜】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

東アジア現代の国際情勢を、ポストコロナリズムという現代思想の問題提起に沿って考察する。

教科書 /Textbooks

姜尚中編『ポストコロナリズム』知の攻略、思想読本4 (作品社、2003) 2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要
- 2～3回 なぜ今、ポストコロナリズム七日(1)(2)
- 4回 第IV部の総論 姜尚中論文
- 5回 第II部の総論 本橋哲也論文
- 6回 第II部の「近代」 松葉祥一論文
- 7回 第II部の「性・文化」 竹村・毛利論文
- 8回 第II部の「日本」 小森陽一論文
- 9回 第II部の「第三世界」 小倉英敬論文
- 10回 第II部の「国家」 榎田竜蔵論文
- 11回 第III部の1、 朴一・村井寛志論文
- 12回 第III部の2、 趙慶喜論文
- 13回 第III部の3、 高橋哲也論文
- 14回 第III部の4、 野村・鄭論文
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告レジュメ1回(10%)とレポート3回(90%、1回10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書に登場する概念、理論について自主的に勉強すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際紛争と国連【夜】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会の性質を簡単に紹介した上で、国連を中心として、国際機構が世界の安全保障において、どんな役割を有しているのかを考えることが目的です。現代社会の理解には、それまでの歴史的展開の理解が不可欠であると考えますので、時系列的に古い話から、徐々に現代にテーマを移してゆくようにします。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。各テーマごとにレジュメ(説明プリント)を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第3回 国際機構の定義～「国際」とは何か？ 国際機構とは何か？ 主権国家とは何か
- 第4回～第5回 国際機構の歴史～国際機構の誕生、国際連盟の画期性、国際連盟の欠陥
- 第6回～第8回 国際連合の成立～国際連合の創設過程、国際連合の成立
- 第9回～第10回 国際連合の展開I～国連軍、安保理の機能不全
- 第11回～第12回 国際連合の展開II～日本の国連加盟、途上国の台頭、中国の代表権問題
- 第13回 冷戦終結と国連～冷戦終結による変化、変化への対応、成功と失敗
- 第14回 国際安全保障の展開～国際社会が協力して安全保障をし始めたのはいつ？なぜ？国連の安全保障の特徴
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

開発と統治【夜】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス(統治)」の意味を世界各地の国や地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループ・ワークを通じて回答を出してもらいます。

教科書 /Textbooks

その都度配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『○○を知るための○章』シリーズ(明石書店)、特にミャンマー、バングラデシュ、韓国を参照のこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 「開発と統治」をはじめるにあたって		担当：三宅
2回 民主化問題を考える視座(1)	【民主化問題】	担当：伊野
3回 民主化問題を考える視座(2)		担当：伊野
4回 理論と現実-ミャンマーの民主化をめぐる	【ミャンマー】	担当：伊野
5回 援助と民主主義：バングラデシュの事例	【援助】	担当：チョウドリ・三宅
6回 選挙を通して見たバングラデシュの政治活動	【バングラデシュ】	担当：チョウドリ・三宅
7回 途上国と一村一品運動	【一村一品運動】	担当：チョウドリ・三宅
8回 グラミン銀行と地域社会のガバナンスの変化	【グラミン銀行】	担当：チョウドリ・三宅
9回 1970年代の韓国の開発と民主化運動	【韓国】	担当：申
10回 韓国：1990年代以降の民主化と環境政策	【環境政策】	担当：申
11回 滞在経験を通して感じた米国のガバナンス	【米国】	担当：申
12回 地域社会から見たガバナンス	【地域社会】	担当：三宅
13回 日本の子ども会を取り巻く環境	【子ども会】	担当：三宅
14回 ガバナンスについてのグループ・ワーク		担当：指名教員
15回 まとめ		担当：三宅

成績評価の方法 /Assessment Method

小課題の提出 ... 30 % 試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報をキャッチしておくこと。また、時々、小課題を出すので、提出すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー 韓国 バングラデシュ 子供会 グループ・ワーク

歴史の読み方I【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ここでは明治時代をはじめとする、歴史上の人物や実際の史料を取り上げながら、今日の世界の中で日本の歴史がどう捉えられているのか、また、私たち自身が歴史をどう見ているのかを考えることを目的とした歴史の見方を学びます。

教科書 /Textbooks

なし。活字史料や、パワーポイントで投影した映像史料を適宜コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『日本評伝選・桂太郎』、○『日本外交年表並主要文書』上・下

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 西南戦争
- 第3回 日清戦争
- 第4回 日露戦争
- 第5回 第一次世界大戦とシベリア出兵
- 第6回 山東出兵(1)
- 第7回 山東出兵(2)
- 第8回 満州事変(1)
- 第9回 満州事変(2)
- 第10回 日中戦争(1)
- 第12回 日中戦争(2)
- 第13回 太平洋戦争(1)
- 第14回 太平洋戦争(2)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の講義への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に最低限高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市と農村の生活文化史【夜】

担当者名 /Instructor 福岡 裕爾 / Yuji FUKUMA / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

自由で豊かな暮らしを求めて、人々が都市への集住を強めた20世紀。各地で都市化が進み、農村も相応の変化を強いられてきた。これを「向都離村」という言葉で説明することがあり、都市集住がすべてバラ色ではなかったことを示してきた。にもかかわらず、この傾向は現代においても未だに続いている。果たして、人々を幻惑する都市の魅力とは何か、また農村から都市へと移動する人々が直面した困惑と持ち帰った文化的価値とは何か。

この講義では、都市から農村を見ていくことで、両者のダイナミズムやそのなかに秘められた人々を相対化する技法を考える。また、文献等に残ることが少ない生活の営みをどのように整理し、現場のなかでいかに問題を発見し理論化するか、というフィールドワークの基本にも触れることができる内容としたい。何気ない日常に焦点をあて、そのなかから理論を析出するおもしろさを伝えたい。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は用いない。必要な資料はプリントで適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに 「都市の誘惑」 ガイダンス
- 第2回 「都市と農村 / 都会と田舎」 都市と農村のイメージ
- 第3回 「都市の言葉と話芸の誕生」 言葉から都市と農村を見る
- 第4回 「都会という感覚」 都会の指標としての祭礼
- 第5回 「都会のハビトゥス1」 出会いと社交の技法
- 第6回 「都会のハビトゥス2」 結集の理法
- 第7回 「都会のハビトゥス3」 不文律の妙
- 第8回 「都会人の気質」
- 第9回 「三つ子の魂、百まで」 ある日本画家の原風景
- 第10回 「都市の人生と漁村」 人と物の交流と人生儀礼
- 第11回 「都鄙連続論」 都市と農村の繋がりを考える方法
- 第12回 「都鄙連続論の検証」 山笠に見る文化伝播
- 第13回 「都市の再生産」
- 第14回 「都市と農村の身体性」
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートまたは試験 80% 授業中の小レポート等20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「話を聞く」ことを重視する。しっかり授業を聞き、十分にノートをとること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人物と時代の歴史【夜】

担当者名 /Instructor 新村昭雄(文)、三宅博之(法)、乗口眞一郎、山崎勇治

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の人物を中心として講義することによって学生に知ってもらうことを目的とする。なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。

4人の教員が、日本・アメリカ・インド・英国の代表的な人物について、その人物が生きた歴史と時代について語る。はじめに、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道(Bushido)が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。

江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰(アイヌや南方諸島に残る)や弥生信仰に代わって、聖徳太子(厩戸皇子)は仏教を大和(やまと)の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が繁栄したのか。

次にアメリカを代表する人物の話に移る。果たして、オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか。オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史について語る。そして、歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領)について。次に今や中国とともに、次世代を握るインドの話である。まず、マハトマ・ガンディの生きた時代背景の考察=イギリス植民地史について語る。「ガンディ」の映画を鑑賞したのち、マハトマ・ガンディのこだわり=なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか?について考える。

最後は、世界大学ランキング1位を維持し続けているケンブリッジ大学を擁する英国について、「湯布院のモデルとなった湖水地方のベアトリクス・ポター」「世界恐慌を救ったケンブリッジ大学のM・ケインズ」「『イギリス病』を救った鉄の女、M.サッチャー」について語る。

教科書 /Textbooks

各回講義の資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義で取り上げるテーマや人物に関して、自伝や歴史書を図書館等で読んでおくこと。
山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国—産業革命からサッチャー改革まで>—(ミネルヴァ書房、2008年6月)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本、アジア、アメリカ、ヨーロッパの歴史の中からテーマを厳選し、講義をする

- 第1回 はじめに。「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と幕末・明治維新
- 第2回 上杉鷹山と儒教的経営
- 第3回 保科正之と江戸幕府
- 第4回 親鸞と平安・鎌倉時代
- 第5回 聖徳太子と飛鳥・奈良時代
- 第6回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか
- 第7回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史
- 第8回 歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領)
- 第9回 マハトマ・ガンディの生きた時代背景の考察=イギリス植民地史
- 第10回 「ガンディ」の映画鑑賞
- 第11回 マハトマ・ガンディのこだわり=なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか?
- 第12回 明治維新を側面から支援したスコットランド人、トーマス・グラバー
- 第13回 湯布院のモデルとなった湖水地方のベアトリクス・ポター
- 第14回 世界恐慌を救ったケンブリッジ大学のM・ケインズ
- 第15回 「イギリス病」を救った鉄の女、M.サッチャー—総まとめ—

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(30%)とレポート(70%)により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義で取り上げるテーマや人物に関して、自伝や歴史書を図書館等で読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

人物と時代の歴史【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【ラスト・サムライ】【武士道】【幕末・明治維新】【壊滅的な藩の財政を立て直した】【儒教的経営とは】【江戸幕府の礎を築いた】家光の弟・保科正之【民衆に根ざした仏教】【平安・鎌倉時代】【一七条の憲法】【聖徳太子(厩戸皇子)】【飛鳥時代】【オバマ大統領】【ノーベル平和賞】【奴隷解放運動の歴史】【アメリカ歴代大統領】【マハトマ・ガンディ】【イギリス植民地史】【なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか】【ベアトリクス・ポター】【湖水地方】【湯布院】【ケインズと世界恐慌】【サッチャー】【英国病】

西洋史【夜】

担当者名 /Instructor 疇谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、ヨーロッパ諸国の動向と植民地帝国の編成・変化を見ることによって、「西洋史」を立体的に把握することを目指します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ【ボックス・モンゴリカ】
 - 2回 中世ヨーロッパの世界観【プレスター・ジョン】
 - 3回 イベリア諸国の形成【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガル【アヴィス朝革命】
 - 5回 大航海時代と「世界分割」【トルデシリャス条約】
 - 6回 ポルトガルのアジア進出【アルブケルケ】
 - 7回 ポルトガルによる植民地帝国の形成①【点と線の支配】
 - 8回 ポルトガルによる植民地帝国の形成②【南蛮貿易】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成①【エンコミエンダ制】
 - 10回 スペインによる植民地帝国の形成②【ポトシ】
 - 11回 オランダ、イギリスの台頭【東インド会社】
 - 12回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編【三角貿易】
 - 13回 環大西洋世界の展開①【環大西洋革命】
 - 14回 環大西洋世界の展開②【産業革命】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【夜】

担当者名 /Instructor 藤野 月子 / FUJINO TSUKIKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国の統一というと、単に国内のみの問題という向きがあるかもしれない。しかし、古来から中国は近隣の様々な民族を吸収しつつ変容を繰り返している。また、近隣諸地域もその影響を受けつつ独自の国家形成を行ってきており、こうした関わりは密接なものである。本講義では、東アジアを中心にその歴史の変遷を考察することにより、①中国・朝鮮・日本を始めとする東アジア諸地域の特異性について明らかにし、②さらにそれを通じて東アジア諸地域の今後のあり方を自ら模索出来る力を養いたい。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに - 講義のガイダンス -
- 第2回 秦の始皇帝による統一 - 中華思想・漢民族の形成 -
- 第3回 漢と匈奴 - 中国と北方騎馬民族との関係 -
- 第4回 中国の外交政策 - 冊封体制を中心に -
- 第5回 前漢の政治と思想 - 儒教との関わり -
- 第6回 後漢の政治と思想 - 外戚と宦官 -
- 第7回 三国志の時代 - 三国の領土拡大と親魏倭王 -
- 第8回 西晋による三国統一 - 西晋の内乱と諸民族の動向 -
- 第9回 東晋南朝の社会 - 貴族の変遷 -
- 第10回 五胡十六国北朝の時代 - 北中国における民族融合 -
- 第11回 南北朝と朝鮮・日本 - 朝鮮・日本の中国外交 -
- 第12回 隋唐による統一 - 世界帝国の成立と政治制度 -
- 第13回 唐と朝鮮・日本 - 唐の朝鮮政策と白村江の戦い -
- 第14回 唐と北方騎馬民族国家 - 唐の近隣支配体制の変遷 -
- 第15回 安史の乱後における唐の滅亡 - 世界帝国の衰退と東アジアへの影響 -

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20%・定期試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【夜】

担当者名 /Instructor 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマは「日本地誌」。特定の地域は様々なレベルの空間スケールから考察し説明することができる。地誌学は特定地域の諸側面を多面的に分析し、総合して地域の性格を明らかにするものである。本講義では主として日本全体の地域構造を明らかにした後、特定地域を事例として取り上げ、その説明を通して地域の姿を解明する方法を教授する。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。
講義中に資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

矢ヶ崎典隆、加賀美雅弘、古田悦造編著『地誌学概論』(地理学基礎シリーズ3)朝倉書店、2007年。
平岡昭利編『九州 地図で読む百年』古今書院、1997年。
平岡昭利編『中国・四国 地図で読む百年』古今書院、1999年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに～地誌とは【多面性】【分析】【総合】
- 2回 日本の地誌①～古代における地域構造の形成【律令体制】
- 3回 日本の地誌②～中世から近代における地域構造の形成【朝廷と幕府】
- 4回 日本の地誌③～現代日本の地域構造①【欧化主義】【近代工業の導入】
- 5回 日本の地誌④～現代日本の地域構造②【経済の高度成長】【過疎・過密】
- 6回 九州地方の地誌①～九州の地域構造：地域の多様性と変容【北部と南部】【東部と西部】
- 7回 九州地方の地誌②～九州における拠点の移動を中心に【長崎・熊本・福岡】
- 8回 九州地方の地誌③～北部九州：福岡県、佐賀県、長崎県の地誌
- 9回 九州地方の地誌④～中部九州：熊本県、大分県の地誌
- 10回 九州地方の地誌⑤～南部九州：宮崎県、鹿児島県、沖縄県の地誌
- 11回 福岡地域の地誌①【大宰府】【九州探題】
- 12回 福岡地域の地誌②【アジア】【玄関口】
- 13回 関門地域の地誌①～門司・下関地区の歴史【西廻航路】【五市合併】
- 14回 関門地域の地誌②【炭鉱地帯】【八幡製鉄所】【リサイクル】
- 15回 おわりに～すべての地域が生き生きと【多様性】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70% 日常の授業への取組み20% レポート 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳を持参することが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域構造 過疎過密 産業再編成 九州 関門地域

日本国憲法【夜】

担当者名 /Instructor 徳永 達哉 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国家の基本法である日本国憲法と国民生活との関わりを理解することをねらいとする。そのために、まず、日本国憲法の全般的な仕組みを簡単に学び、その後に基本的人権と統治機構の中心部分を学ぶこととする。具体的には現在とくに盛んな論議をよんでいる外国人の人権、プライバシー権、自己決定権、平等権、信教の自由、表現の自由等の人権問題、および天皇の地位と役割、第9条を巡る現在の諸問題、国会の仕組みと役割、内閣の誕生、裁判制度等の統治機構に関する問題を主たるテーマとする。

教科書 /Textbooks

安藤高行編著 『憲法新教科書』（法律文化社刊・2007年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂 『憲法学教室（全訂第2版）』（日本評論社・2006年）
- 芦部信喜著、高橋和之補訂 『憲法（第4版）』（岩波書店・2007年）
- 長谷部恭男 『憲法（第4版）』（新世社・2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 日本国憲法の成立とその基本的な原理（テキスト3頁および153頁）
- 2 外国人の人権（18頁）
- 3 プライバシーをめぐる諸問題（34頁）
- 4 新しい権利としての自己決定権（38頁）
- 5 平等権をめぐる諸問題 - 親子や夫婦と平等原則（47頁）
- 6 思想・良心の自由の保障の意義（58頁）
- 7 信教の自由の意義と個人の信教の自由巡る具体的な問題（64頁および68頁）
- 8 政教分離原則が日本で問題になる理由と具体的問題（64頁および72頁）
- 9 表現の自由の現代における重要性と具体的問題（83頁および87頁）
- 10 日本国憲法における天皇の地位と役割（159頁）
 - 1 1 憲法9条をめぐる現在の問題（168頁）
 - 1 2 国会の地位と権能（183頁）
 - 1 3 内閣の誕生と役割（204頁）
 - 1 4 司法権の独立と違憲立法審査権（222頁および229頁）
 - 1 5 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度(20%) + 知識の確認課題(40%) + レポート課題(40%)を総合的に評価します。
※受講態度は減点方式で評価します。私語・途中入退室・携帯電話など講義妨害行為を広く減点対象としております。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義は教科書に則して進めますが、情報量が非常に多いです。耳慣れない用語は予め辞書などで調べておいてください。
受講後に気になる用語があれば必ず辞書などで再確認してください。

履修上の注意 /Remarks

範囲が広いため講義の速度が速いです。一瞬でも聞き逃しますと講義について来られなくなりますので、集中力を切らないようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

倫理学【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

哲学や宗教との関わりを通して「倫理」という言葉の基本的な意味を概観したあと、古代から現代にいたる主要な倫理学説を紹介してゆく。西洋の歴史において倫理思想がどのように発展してきたのかを学びつつ、倫理学についての基本的知識を身につけることが本授業の目的である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岩田靖夫ほか『西洋思想のあゆみ--ロゴスの諸相』有斐閣、1993年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書、2006年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 近代から現代へ』岩波新書、2006年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 倫理学の考え方
- 2回 哲学と倫理(1) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【ソクラテス】
- 3回 哲学と倫理(2) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【プラトン】
- 4回 哲学と倫理(3) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【アリストテレス】
- 5回 宗教と倫理(1) ユダヤ-キリスト教の倫理【ユダヤ教】
- 6回 宗教と倫理(2) ユダヤ-キリスト教の倫理【原始キリスト教】
- 7回 宗教と倫理(3) ユダヤ-キリスト教の倫理【教父哲学】
- 8回 小テスト+解説
- 9回 近代倫理学の誕生(1)【イギリス経験論】
- 10回 近代倫理学の誕生(2)【契約説】
- 11回 近代倫理学の発展(1)【功利主義】
- 12回 近代倫理学の発展(2)【カント】
- 13回 近代倫理学への批判(1)【ニーチェ】
- 14回 近代倫理学への批判(2)【徳倫理】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト... 30% 学期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教養教育科目の「現代社会と倫理」・「思想と現代」とあわせて受講すれば、この分野に関する理解がいつそう深まるはずである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教職科目という性質上、当然ながら一般的な授業よりも採点基準は厳しくなる。テストは持ち込み一切不可。最終的な成績は、日頃の学習態度と記憶力の程度によって大きく異なってくるだろう。初回の授業では「小テスト」の日程・方法について詳しい説明するので、必ず出席すること。

キーワード /Keywords

エンドユーザコンピューティング 【夜】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、エンドユーザの立場から、職場や家庭、大学等の様々な環境において必要不可欠な情報に関する技術や知識を習得し、コンピュータを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- 情報社会におけるエンドユーザの役割を説明できるようになります。
- Webページを閲覧する際に、そのページの作成元や信頼度を判断する基準を理解できるようになります。
- データベースとはどのようなものか具体的な例に基づいて説明することができるようになります。

教科書 /Textbooks

なし。特に指定はしません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『エンドユーザのための情報基礎』 (浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 エンドユーザコンピューティングを学ぶために【エンドユーザ】
- 2回 コンピュータ内部のデータ表現【2進数】【ビット・バイト】【文字コード】
- 3回 ハードウェア【CPU】【メモリ】【ハードディスク】【フラグメンテーション】
- 4回 ソフトウェア【OS】【拡張子】
- 5回 ネットワークの仕組み【サーバ】【LAN】【IPアドレス】【ドメイン名】
- 6回 情報システムの利用者としての心得(1)【PDCA】【パスワード】
- 7回 情報システムの利用者としての心得(2)【リスク分析】
- 8回 情報システムの利用者としての心得・まとめ
- 9回 情報セキュリティ対策(1)【コンピュータウイルス】【Windows Update】【スパイウェア】【ファイアウォール】
- 10回 情報セキュリティ対策(2)【SSL】【クッキー】
- 11回 情報セキュリティ対策・まとめ
- 12回 データベースの基礎(1)【正規化】【主キー】
- 13回 データベースの基礎(2)【SQL】
- 14回 データベースの基礎・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画が変更になる可能性があります。変更がある場合は、授業中にお伝えします。ただし、授業内容を大幅に変更することはありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

情報分野の専門用語を数多く学習していきます。あまり興味のない人にとっては、慣れない専門用語がたくさんあるかもしれません。授業中の説明を1度聞いただけで理解できると考えずに、毎回、しっかりと復習をしてください。そして、わからない事があれば、授業中に質問してください。

キーワード /Keywords

エンドユーザ、情報セキュリティ、データベース

データ処理【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- タッチタイピングや見やすい表の作成ができるようになります。
- 本学が提供しているグループウェア、Webメールなどのネットワーク環境を使いこなし、ルールを守ったメールの送受信ができるようになります。
- ネットワークを正しく安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基本的な知識を習得することができます。
- 表計算ソフトを使ったデータ処理、グラフ作成ができるようになります。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境を知る【ID】【パスワード】【グループウェア】
- 2回 文字入力を正確に行う【タッチタイピング】
- 3回 ネットワークコミュニケーションの技法を知る【電子メール】【SSL通信】
- 4回 ネットワークの光と影を知る【情報倫理】【著作権】【個人情報保護】
- 5回 きれいな表を作る【セル】【シート】【書式】【ページ設定】【印刷プレビュー】
- 6回 計算式を作る【セルの参照】【コピー】【ペースト】
- 7回 いろいろなグラフを作る【グラフ】
- 8回 グラフをカスタマイズする【グラフ編集】
- 9回 基本的な関数を利用する【関数】【引数】
- 10回 さまざまな関数を利用する【関数の挿入】
- 11回 表計算演習1【表・グラフ作成】
- 12回 表計算演習2【条件分岐】【ソート】
- 13回 表計算演習3【表の参照】
- 14回 総合課題に取り組む
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、積極的な授業参加(タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作(キーボードで文字を入力する、マウス操作など)ができるようになっておくと受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度、情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので、タイピングやマウス操作が苦手な人は自ら練習する姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

英語I【夜】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、またエッセイや英字新聞の記事を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
 リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
 その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスニング プレテスト、リーディング ユニット1
- 3回 リスニング ユニット1、リーディング ユニット2
- 4回 リスニング ユニット2、リーディング ユニット3
- 5回 リスニング ユニット3、リーディング ユニット4
- 6回 リスニング ユニット4、リーディング ユニット5
- 7回 リスニング ユニット5、リーディング ユニット6
- 8回 リスニング ユニット6、リーディング ユニット7
- 9回 リスニング ユニット7、リーディング ユニット8
- 10回 リスニング ユニット8、リーディング ユニット9
- 11回 リスニング ユニット9、リーディング ユニット10
- 12回 リスニング ユニット10、リーディング ユニット11
- 13回 リスニング ユニット11、リーディング ユニット12
- 14回 リスニング ユニット12、リーディング まとめ
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
 欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【夜】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練する。また口語英語を中心に、文法能力と英文の内容を読み取る力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスニング プレテスト、リーディング インタロダクション
- 3回 リスニング ユニット1、リーディング ユニット1
- 4回 リスニング ユニット2、リーディング ユニット2
- 5回 リスニング ユニット3、リーディング ユニット3
- 6回 リスニング ユニット4、リーディング ユニット4
- 7回 リスニング ユニット5、リーディング ユニット5
- 8回 リスニング ユニット6、リーディング ユニット6
- 9回 リスニング ユニット7、リーディング ユニット7
- 10回 リスニング ユニット8、リーディング ユニット8
- 11回 リスニング ユニット9、リーディング ユニット9
- 12回 リスニング ユニット10、リーディング ユニット10
- 13回 リスニング ユニット11、リーディング ユニット11
- 14回 リスニング ユニット12、リーディング ユニット12
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will focus on writing. The topic will change weekly and students will be asked to write their creative compositions in class for marking and evaluating.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)Introduction to the course: Self introduction
- 第2回My favourite place in Japan
- 第3回My important friends
- 第4回The sports I enjoy to watch and play
- 第5回The places I want to visit
- 第6回The food I like and what I can make
- 第7回My favourite movies and actors/actresses
- 第8回Countries of the world
- 第9回What I would buy with 10 million yen
- 第10回My family
- 第11回The music I like
- 第12回What I want to have for my dinner
- 第13回What I do in the morning (routine)
- 第14回The season I like
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 英夜1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will focus on writing. The topic will change weekly and students will be asked to write their creative compositions in class for marking and evaluating.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)My summer holiday
- 第2回The pets I like / the animals I hate
- 第3回Health and fitness
- 第4回The crossword puzzle
- 第5回The person I want to meet
- 第6回What I want to do over New Year
- 第7回My stress in my life and how I relieve stress
- 第8回Sporting heroes
- 第9回The TV programmes I like to watch
- 第10回My skills
- 第11回My future dream
- 第12回How I get the news in my life
- 第13回My three most important possessions
- 第14回My biggest worry at the moment
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

英語V 【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英夜2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 1 (Second Edition) 桐原書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 10 回 Purchasing
- 11 回 Finances
- 12 回 Media
- 13 回 Entertainment
- 14 回 Health
- 15 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【夜】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英夜2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 2 (Second Edition) 桐原書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 1 0 回 Purchasing
- 1 1 回 Finances
- 1 2 回 Media
- 1 3 回 Entertainment
- 1 4 回 Health
- 1 5 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【夜】

担当者名
/Instructor

クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 英夜2年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will focus on writing. The topic will change weekly and students will be asked to write their creative compositions in class for marking and evaluating.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Introduction to the course: Self introduction
- 第2回 My favourite place in Japan
- 第3回 My important friends
- 第4回 The sports I enjoy to watch and play
- 第5回 The places I want to visit
- 第6回 The food I like and what I can make
- 第7回 My favourite movies and actors/actresses
- 第8回 Countries of the world
- 第9回 What I would buy with 10 million yen
- 第10回 My family
- 第11回 The music I like
- 第12回 What I want to have for my dinner
- 第13回 What I do in the morning (routine)
- 第14回 The season I like
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 40%, class participation and positive attitude 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英夜2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will focus on writing. The topic will change weekly and students will be asked to write their creative compositions in class for marking and evaluating.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) My summer holiday
- 第2回 The pets I like / the animals I hate
- 第3回 Health and fitness
- 第4回 The crossword puzzle
- 第5回 The person I want to meet
- 第6回 What I want to do over New Year
- 第7回 My stress in my life and how I relieve stress
- 第8回 Sporting heroes
- 第9回 The TV programmes I like to watch
- 第10回 My skills
- 第11回 My future dream
- 第12回 How I get the news in my life
- 第13回 My three most important possessions
- 第14回 My biggest worry at the moment
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 40%, class participation and positive attitude 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の各都市の状況について理解します。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 < 試用本 > (『中国秀』 編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第四課 自己紹介【人称代名詞】【指示代名詞】【動詞の文】【是の文】
- 5回 第四課 自己紹介
- 6回 第五課 北京【形容詞の文】【名詞の修飾】【数字】
- 7回 第五課 北京
- 8回 第六課 天津【動詞が複数ある文】【時間詞】【量詞】
- 9回 第六課 天津
- 10回 第七課 上海【指示代名詞】【方位詞】【存在の在】【存在の有】【複文】
- 11回 第七課 上海
- 12回 第八課 蘇州と杭州【前置詞の在】【所有の有】【是～的】
- 13回 第八課 蘇州と杭州
- 14回 前期のまとめ
- 15回 前期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II【夜】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の各都市の状況について理解します。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 < 試用本 > (『中国秀』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 義烏【了】【動作の現在進行形】【助動詞】【前置詞】
- 2回 第九課 義烏
- 3回 第十課 西安と洛陽【動詞+過】【動作の回数】【結果補語】【状態補語】【助動詞】
- 4回 第十課 西安と洛陽
- 5回 第十一課 成都【前置詞】【複文】【結果補語】【動作の時間を表す単位】【動作の時間】
- 6回 第十一課 成都
- 7回 第十二課 昆明【複文】【結果補語】【前置詞】
- 8回 第十二課 昆明
- 9回 第十三課 広州【結果補語】【前置詞】【ちょっと、少しの表現】【複文】【方向補語】【把の構文】
- 10回 第十三課 広州
- 11回 第十四課 大連【比較表現】【比喻表現】【使役表現】【受身表現】
- 12回 第十四課 大連
- 13回 第十五課 日本の紹介【複文】【了】【助動詞】
- 14回 第十五課 日本の紹介
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 <試用本> (『中国秀』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 発音の総合練習
- 5回 第四課 初めまして
- 6回 第四課 初めまして、練習問題
- 7回 第五課 搭乗・入国
- 8回 第五課 搭乗・入国、練習問題
- 9回 第六課 レストランにて
- 10回 第六課 レストランにて、練習問題
- 11回 第七課 交通
- 12回 第七課 交通、練習問題
- 13回 第八課 観光
- 14回 第八課 観光、練習問題
- 15回 前期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 50% 日常の授業への取り組み・小テスト50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 <試用本> (『中国秀』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 銀行にて
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルにて
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 趣味
- 10回 第十三課 趣味、練習問題
- 11回 第十四課 語り合い
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・免税店にて
- 14回 第十五課 搭乗手続き・免税店にて、練習問題
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 50% 日常の授業への取り組み・小テスト50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

朝鮮語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階である1学期はハングル文字と発音を正確に習得することが重要である。したがって、この講義では一言会話とともに正確に読み書きができることを目指す。

教科書 /Textbooks

『しっかり初級韓国語』（金 貞愛他、白水社、2,200円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典（必携）

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文字と発音【単母音】【鼻音】
- 3回 文字と発音【単母音その2】【流音】
- 4回 文字と発音【平音】【半母音】
- 5回 文字と発音【激音】【濃音】
- 6回 文字と発音【合成母音】まとめと復習
- 7回 文字と発音【パッチム】
- 8回 発音の規則【有声音化】【連音化】
- 9回 発音の規則【濃音化】【激音化】
- 10回 発音の規則【流音化】【口蓋音化】【その他】
- 11回 まとめと復習
- 12回 第1課 自己紹介
- 13回 第2課 周りにあるものについて尋ねてみよう（1）
- 13回 第2課 周りにあるものについて尋ねてみよう（2）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級段階に必要な文法や基本文型、語彙を学習し、同等レベルの作文と読解ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

『しっかり初級韓国語』（金 貞愛他、白水社、2,200円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 前期の復習
- 3回 指で指しながらいろいろ尋ねてみよう【人称・所有代名詞】
- 4回 場所や位置を尋ねてみよう【存在の有無】【助詞】
- 5回 今日のスケジュールを話してみよう【丁寧な表現】【助詞】(1)
- 6回 今日のスケジュールを話してみよう【丁寧な表現】【助詞】(2)
- 7回 1週間のスケジュールを話してみよう【動詞・形容詞の否定形】
- 8回 夏休みのスケジュールを話してみよう【願望形】
- 9回 ホテルの予約をしてみよう【漢数詞】【年月日の言い方】(1)
- 10回 ホテルの予約をしてみよう【漢数詞】【年月日の言い方】(2)
- 11回 連絡先を聞いてみよう【電話番号の言い方】【補助語幹-ㄴ】
- 12回 時間や年齢を尋ねてみよう【時間・年齢の言い方】(1)
- 13回 時間や年齢を尋ねてみよう【時間・年齢の言い方】(2)
- 14回 近況を親しみをこめて話してみよう【打ち解けた丁寧形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階ではハングル文字と発音を正確に習得することを目指す。ハングル文字はまるで記号のようにみえるが、実はとても科学的かつ合理的に作られている文字であり、パズルのように子音と母音を組み合わせれば容易に覚えらる。この講義では一言会話とともに、ハングルを見て正確に声に出して読めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

『新チャレンジ！韓国語』（金順玉・阪堂千津子、白水社）定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』（小学館）定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 基本文字について【基本母音と基本子音①】
- 2回 書き方と発音【基本子音と基本子音②】
- 3回 書き方と発音【激音と濃音】【合成母音字】
- 4回 バッチム【終声①】
- 5回 バッチム【終声②】
- 6回 発音のルール【連音化】【濃音化】
- 7回 発音のルール【激音化】【鼻音化】
- 8回 単語と音の変化【その他の発音法則】
- 9回 尋ねる時の表現（～ですか？）【指定詞の丁寧形①】
- 10回 自己・物を紹介する時の表現①（～です、～ではありません）【指定詞の丁寧形②】
- 11回 自己・物を紹介する時の表現②（～といいます）
- 12回 存在の有無を尋ねる時の表現（～がありますか？～いますか？）
【存在詞のうちとけた丁寧形①】【場所をあらわす助詞】
- 13回 存在の有無を尋ねる時の表現（～に～があります。います）
【存在詞のうちとけた丁寧形②】【時を表す単語および助詞】
- 14回 物・場所を尋ねる時の表現（～は何ですか？～はどこですか？）
【指示代名詞】【疑問代名詞】【指定詞の打ち解けた丁寧形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30% 授業中の参加意欲及び発言状況・・・20% 定期試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常会話程度の短いダイアログを覚えて、対話形式で話すことができる。初級テキストにあげる朝鮮語の基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようにする。また、日本語に訳すことができるようにする。

教科書 /Textbooks

『新チャレンジ!韓国語』(金順玉・阪堂千津子、白水社) 定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』(小学館) 定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回前期のまとめ
- 2 回「これは何ですか?」①【指示代名詞】【疑問代名詞】【指定詞の打ち解けた丁寧形】
- 3 回「これは何ですか?」②【指示代名詞】【疑問代名詞】【指定詞の打ち解けた丁寧形】
- 4 回「日曜日に何をしますか?」①【曜日】【助数詞】【動詞・形容詞のうちけた丁寧形】
- 5 回「日曜日に何をしますか?」②【漢数詞】【時間】【月日】【電話番号】
- 6 回「何が好きですか?」①【動詞・形容詞の否定形①】
- 7 回「何が好きですか?」②【動詞・形容詞の変則】
- 8 回「週末に何をしましたか?」①【動詞の過去形】【時を表す単語】
- 9 回「週末に何をしましたか?」②【願望表現】【形容詞の過去形】
- 10 回「一週間の予定」【接続詞①】【確認表現】
- 11 回「明日は何をするつもりですか?」①【意思表現】【推測表現】
- 12 回「明日は何をするつもりですか?」②【進行や状態の継続表現】【接続詞②】
- 13 回「スープが冷たくておいしいです」①【動詞・形容詞の否定形②】【逆説表現】
- 14 回「スープが冷たくておいしいです」②【並列表現】【比較表現】
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30% 授業中の参加意欲及び発言状況・・・20% 定期試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音（1）、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方（1）
- 3回 子音（2）、疑問詞のある疑問文と答え方（2）、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方（3）、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化（対格）、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化（前置格）、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化（生格）、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2-3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【夜】

担当者名 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英比人夜 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

聞き取り・発音、会話に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 アルファベットの読み
- 2回 文字と発音：母音と母音文字、アクセント、母音の発音規則
- 3回 発音しにくい子音、硬子音と軟子音、名詞の性の判別
- 4回 所有代名詞表現、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、文の種類とイントネーション型
- 6回 50音のロシア文字表記法、文字の書き方練習
- 7回 一課前半 テキストの繰り返し読み、挨拶表現、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの繰り返し読み、人称代名詞、名詞複数形、所有表現の練習
- 9回 二課前半 テキストの繰り返し読み、動詞の現在変化練習
- 10回 二課後半 テキストの繰り返し読み、動詞を使った和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの繰り返し読み、所有表現練習、場所表現問題
- 12回 三課後半 テキストの繰り返し読み、形容詞変化の練習、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの繰り返し読み、1-10までの個数詞と時間表現の練習
- 14回 四課後半 テキストの繰り返し読み、生格用法の練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2 - 3回に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

聞き取り・発音、会話に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの繰り返し読み、動詞未来表現、「・・・と一緒に」の表現練習
- 4回 五課後半 テキストの繰り返し読み、与格表現の練習、命令形の作り方練習
- 5回 六課前半 テキストの繰り返し読み、行先表現の練習、不規則動詞の発音練習
- 6回 六課後半 テキストの繰り返し読み、「どこへ」「どこで」「どこから」の表現練習
- 7回 七課前半 テキストの繰り返し読み、数量表現の練習、「雨・雪が降る」の表現
- 8回 七課後半 テキストの繰り返し読み、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの繰り返し読み、無人称文における述語表現の練習、月名の発音
- 10回 八課後半 テキストの繰り返し読み、義務・可能性表現の練習、「・・・は・・・が痛い」表現
- 11回 九課前半 テキストの繰り返し読み、年齢表現・年月日表現の練習
- 12回 九課後半 テキストの繰り返し読み、値段表現・仮定法表現の練習
- 13回 十課前半 テキストの繰り返し読み、関係代名詞構文の練習、形容詞格変化練習
- 14回 十課後半 テキストの繰り返し読み、単文と複文の練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音】
- 2回 自己紹介【動詞の現在人称変化(1)、名詞】
- 3回 英語の君は話すの?【動詞の現在人称変化(2)、数詞】
- 4回 あなたの名前は何か?【動詞の現在人称変化(2)、時刻】
- 5回 私は父にこの本を贈ります。【人称代名詞、家族】
- 6回 私の夫はオーストリア人です。【冠詞類、月・季節】
- 7回 君は今日、暇ですか?【定形の位置(1)、曜日】
- 8回 もし私に暇があれば、小倉へ行きます。【定形の位置(2)】
- 9回 母の代わりに父が料理をします。【前置詞(1)】
- 10回 私は明日、街へ行きます。【前置詞(2)】
- 11回 ここに車を停めることができますか?【話法の助動詞(1)】
- 12回 私はこの手紙を日本へ送りたいのですが。【話法の助動詞(2)】
- 13回 なぜ君はパーティーにいかなかったの?【動詞の3基本形(1)】
- 14回 私には熱がありました。【動詞の3基本形(2)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語II【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。【(現在)完了形(1)】
- 2回 君は昨日何をしましたか？【(現在)完了形(2)】
- 3回 フランクフルト行きの列車はいつ発車するのですか？【分離動詞(1)】
- 4回 私はどこで下車しますか？【分離動詞(2)】
- 5回 私達はドイツのレストランへ行きます。【形容詞】
- 6回 私はベンチの上に座ります。【再帰動詞】
- 7回 雨が降っています。【esの用法】
- 8回 あなたが訪ねるその男性は私の友人です。【関係代名詞(1)】
- 9回 私が昨日見た映画は面白かった。【関係代名詞(2)】
- 10回 オーストリアではドイツ語が話されます。【受動(1)】
- 11回 山々は雪で覆われています。【受動(2)】
- 12回 夏にヨーロツパへ行く、と山下さんは言っています【接続法(1)】
- 13回 暇があれば、私もヨーロツパへ行くのになあ。【接続法(2)】
- 14回 ドイツ語を学ぶことは難しくありません。【分詞・zu不定詞】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【夜】

担当者名 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英夜1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

最初の一步として、フランス語の基本文法を習得してもらいます。この授業の内容を理解すれば、辞書の引きかたはもちろん、簡単なフランス語の文章を読み解けるようになります。

教科書 /Textbooks

太田浩一・前田保他『[新装版]フランス語文法の〈基礎〉』（駿河台出版社、2500円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

開講時に指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名詞の性と数
- 2回 冠詞
- 3回 人称代名詞(1) : 主語
- 4回 動詞êtreとavoirの活用
- 5回 否定形
- 6回 形容詞
- 7回 第1群規則動詞
- 8回 疑問形
- 9回 指示形容詞
- 10回 所有形容詞
- 11回 動詞allerとvenirの活用
- 12回 近接未来と近接過去
- 13回 前置詞à、deと定冠詞の縮約
- 14回 疑問形容詞・疑問副詞
- 15回 疑問代名詞

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 小テスト...20% 学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞書(電子でも紙でもよい)必携のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仏検5級に合格できる程度の文法力をつけることを目指します。

キーワード /Keywords

フランス語II 【夜】

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

次の一歩として、フランス語の初級文法のほぼ全体を習得してもらいます。この授業の内容を理解すれば、辞書さえあれば、基本的なフランス語の文章を読み解けるようになります。

教科書 /Textbooks

太田浩一・前田保他『[新装版] フランス語文法の〈基礎〉』（駿河台出版社、2500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

開講時に指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第2群規則動詞
- 2回 比較級と最上級
- 3回 命令法
- 4回 非人称表現
- 5回 人称代名詞(2) : 目的語、強勢形
- 6回 複合過去
- 7回 関係代名詞
- 8回 指示代名詞
- 9回 代名動詞
- 10回 単純未来
- 11回 特殊な代名詞
- 12回 半過去
- 13回 受動態
- 14回 現在分詞とジェロンディフ
- 15回 条件法・接続法

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 小テスト...20% 学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞書(電子でも紙でもよい)必携のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仏検4級に合格できる程度の文法力をつけることを目指します。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フランス語を初めて学ぶ学生向けに初歩のコミュニケーション能力を養う。

簡単なあいさつから始めて、自己紹介や家族のこと、好き嫌い、架空の自分等々について口頭・筆記での表現・理解ができるようになることを目指す。

他の目標は以下のとおり。

基本的な数字、月名、曜日、天気の違い等を覚える。

基本単語を覚え、自分で使えるようになる。

簡単な文章を多数暗記し、応用できるようになる。

適宜、必要な文法事項を習得する。

フランス語検定試験5級程度の実力を旨とする。6月に行われる検定試験5級に合格した受講生には単位取得を保障する。

教科書 /Textbooks

M.-E. Muramatsu 『ピコティ・ピコタ』（駿河台出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 あいさつ、自分の名前
- 3回 自己紹介
- 4回 アルファベット。「誰か」を聞く
- 5回 いろいろな国籍を覚える。3人称単数
- 6回 架空の名前を選び、自己紹介をする
- 7回 架空の国籍を選び、自己紹介をする
- 8回 今日の天気を言う
- 9回 架空の職業を選ぶ
- 10回 日づけを言う
- 11回 誕生日を言う
- 12回 曜日を言う
- 13回 年齢を言う
- 14回 持ち物について話す
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

フランス語Ⅲ【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【夜】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期フランス語Ⅲを受講した学生向けに、引き続き初歩のコミュニケーション能力を養う。

フランス語Ⅲで身についた内容をさらに発展させ、口頭・筆記での表現・理解ができるようになることを目指す。

他の目標は以下のとおり。

基本単語をさらに増やし、自分で使えるようになる。

簡単な文章を多数暗記し、応用できるようになる。

適宜、必要な文法事項を習得する。

フランス語検定試験4級程度の実力を目指す。11月に行われる検定試験4級に合格した受講生には単位取得を保障する。

教科書 /Textbooks

M.-E. Muramatsu 『ピコティ・ピコタ』（駿河台出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。前期の復習
- 2回 自分の特徴を言う
- 3回 持ち物について話す
- 4回 両親について話す
- 5回 有名人について話す
- 6回 料理の値段を言う
- 7回 バリで住みたい地区について話す
- 8回 架空のバリの住所を決め、それについて話す
- 9回 架空のバリの住居について話す
- 10回 バリの地下鉄について知る。切符を買う
- 11回 好きな有名人について話す
- 12回 好きな物事について話す
- 13回 デパートで買い物をする
- 14回 レストランへ行く
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

フランス語Ⅲ(前期)を受講していること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語I【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。この授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、文法・講読に重点的に学び、スペイン語の入門的基礎力を習得します。授業はテキストの練習のほか、動詞を中心にスペイン語文の構造を理解したいと思います。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びます。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（青木・辻・マリアJ、弘学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とは? その歴史
- 2回 アルファベット・発音・アクセント
- 3回 名詞の性・数・冠詞
- 4回 人称代名詞・基本動詞の変化
- 5回 直説法現在形の規則活用
- 6回 文の種類、肯定文、否定文、特殊疑問文
- 7回 基本的文章表現
- 8回 不規則動詞の活用と基本表現
- 9回 形容詞の性・数変化
- 10回 指示詞、所有形容詞
- 11回 代名詞目的格と基本表現
- 12回 不規則動詞と慣用的表現
- 13回 不定詞の用例
- 14回 重要表現の反復練習(プリント)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スペイン語の動詞活用はやや難解です。連続して欠席するとついて行けません。分からない語彙は事前に辞書で調べることを。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語II【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語Iの続編です。この授業で、スペイン語の初級文法を習得します。映像などを利用してスペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（青木・辻・マリアJ, 弘学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 現在完了形
- 2回 過去形(完了過去・不完了過去)
- 3回 不定語とその例文
- 4回 天候表現
- 5回 不規則動詞の過去形
- 6回 現在分詞、進行形と例文
- 7回 名詞節・副詞節・形容詞節
- 8回 未来形・条件未来・過去完了
- 9回 同上
- 10回 直接話法・間接話法(時制の一致)
- 11回 再帰動詞(1)
- 12回 再帰動詞(2)その用例
- 13回 接続法現在形と命令文
- 14回 接続法とその用例
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

辞書は必要です。授業にも辞書を持参すること。予習・復習を行い、スペイン語検定4級くらいは合格しよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英比人夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、日常の生きた初歩的な会話表現を重点的に学び、スペイン語の入門的基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式を取り入れます。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会のさまざまな面も学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『オラ!』第三書房、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウン西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入的なお話、スペイン語とスペイン語圏について
- 2回 アルファベット、単語の読み方
- 3回 名詞の性と数、冠詞、挨拶表現
- 4回 動詞serを用いた表現
- 5回 動詞serを用いた特殊表現
- 6回 動詞estar, hay を用いた表現
- 7回 動詞estar, hay...を用いた疑問文・応答文
- 8回 時刻表現、形容詞など
- 9回 規則動詞(1)、所有形容詞
- 10回 規則動詞(2)、指示形容詞
- 11回 規則動詞(3)、指示代名詞
- 12回 動詞活用と基本表現のプラクティス
- 13回 重要な不規則動詞の基本表現
- 14回 便利な日常会話表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

外国語を学ぶには辞書は不可欠。聴いて話す(発音)ことを反復すること。発音はいたって簡単ですが、動詞の活用だけがやや難しいので、練習を繰り返しましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅳ【夜】

担当者名 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英比人夜 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は1学期開講のスペイン語Ⅲの続編です。初歩的な会話表現に重点を置き、入門的基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式で行われます。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語Ⅲの復習-動詞の活用と基本表現
- 2回 直説法現在：不規則動詞、天候表現
- 3回 天候表現、時刻表現
- 4回 不規則動詞、不定詞表現、所有形容詞
- 5回 反復練習-日常会話表現
- 6回 間接目的格と動詞gustar
- 7回 直接目的格・間接目的格を使う文章
- 8回 再帰動詞(1)
- 9回 再帰動詞(2)
- 10回 ビデオでイスパニア圏を旅する
- 11回 比較級と最上級
- 12回 直説法現在完了
- 13回 命令形(1)
- 14回 日常会話表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 70% 小テスト... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから動詞の活用を繰り返し練習。辞書はいつでも携帯する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの社会I【夜】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の人種的・民族的多様性をその起源にさかのぼり歴史的に概観するとともに、現在のエスニック状況も考察する。また、近年アメリカ合衆国で起こった、ないし起こりつつある出来事の中から顕著なものを取り上げ、各項目について具体的事例、その歴史的背景、争点、多様な見解を解説する。

教科書 /Textbooks

明石紀雄・飯野正子『エスニック・アメリカ 多民族社会における統合の現実（新版）』有斐閣選書、1997年。
なお、第3版が2011年4月に刊行予定のため、教科書販売時期が遅れる可能性がある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○大下尚一ほか編『史料が語るアメリカ：メイフラワーから包括通商法まで』有斐閣、1989年。
その他多数。授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション—近年のトピック / 文献紹介
- 第2回 多民族国家アメリカ—概観
- 第3回 同化の諸概念
- 第4回 新大陸で出会った三つの人種集団
- 第5回 アングロ・アメリカ社会の形成
- 第6回 国民的統合に向けて
- 第7回 2011年の最もカレントなトピックについて（小テストを兼ねる）
- 第8回 「新移民」の流入（1）—イタリア移民、ユダヤ人移民
- 第9回 「新移民」の流入（2）—中国と日本からの移民
- 第10回 自由の女神の涙
- 第11回 多民族国家アメリカ—続く移民の流れ
- 第12回 平等の達成（1）—移民法の改正、先住民
- 第13回 平等の達成（2）—アフリカ系アメリカ人、アジア系アメリカ人
- 第14回 真の平等を求めて—多様性と統合の調和
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% 小テスト...20% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高等学校で世界史を履修していない受講生は、世界史の教科書を読んでおくことと良い。地域研究入門（アメリカ）を履修していない受講生や個人的な学習のための参考書等は授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

開講時期に起こったニュース等に関連させた形で、適宜、その歴史的背景などの解説を行うので、上記スケジュールや順序は変更の可能性がある。その場合は授業中に指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

今年度は担当者の都合により、複数回の休講および補講が生じる予定である。詳細は第一回目の授業の際に説明する。

キーワード /Keywords

アメリカの社会II【夜】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の人種的・民族的多様性をその起源にさかのぼり歴史的に概観するとともに、現在のエスニック状況も考察する。また、近年アメリカ合衆国で起こった、ないし起こりつつある出来事の中から顕著なものを取り上げ、各項目について具体的事例、その歴史的背景、争点、多様な見解を解説する。アメリカの社会Iで扱った内容を、テーマ別により詳しくみていく。

教科書 /Textbooks

本田創造『アメリカ黒人の歴史』岩波書店、1991年。
ジェームス・M・バーダマン『黒人差別とアメリカ公民権運動：名もなき人びとの戦いの記録』集英社、2007年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション—近年のトピック / 文献紹介
- 第2回 アフリカ系アメリカ人の歴史：20世紀初頭まで
- 第3回 アフリカ系アメリカ人の歴史：20世紀前半
- 第4回 公民権運動：ブラウン判決以前
- 第5回 公民権運動：1950年代後半
- 第6回 公民権運動：1960年代前半
- 第7回 公民権運動：1960年代後半から混迷の時代へ
- 第8回 公民権運動における「多様性」
- 第9回 「白人リベラル」としてのユダヤ系アメリカ人
- 第10回 ユダヤ人による公民権運動への貢献とその後
- 第11回 公民権運動後のアメリカ：アフターマティヴ・アクションの導入
- 第12回 公民権運動後のアメリカ：アフターマティヴ・アクションの展開
- 第13回 公民権運動後のアメリカ：アフターマティヴ・アクションをめぐる論争
- 第14回 今後のエスニック状況の展望
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% 小テスト...20% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高等学校で世界史を履修していない受講生は、世界史の教科書を読んでおくこと良い。地域研究入門(アメリカ)を履修していない受講生や個人的な学習のための参考書等は授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

開講時期に起こったニュース等に関連させた形で、適宜、その歴史的背景などの解説を行うので、上記スケジュールや順序は変更の可能性が有る。その場合は授業中に指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際貿易論I【夜】

担当者名 /Instructor 立石 揚志 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

貿易を通じて、日本経済が国際的に直面している課題を考える。
日本経済の変化に応じて貿易についての最新動向を伝える。
あまり、「貿易理論」に重きをおかず、貿易を巡る現状を解説する。

教科書 /Textbooks

小峰隆夫『貿易の知識』（2版）日経文庫（2004年）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

立石揚志『海外直接投資とアジアの貿易循環』ふくろう出版（2007年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 貿易とは何か。現代の貿易と経済。貿易の基礎理論
- 2回 貿易と経済・社会
- 3回 貿易と国際収支、為替レート
- 4回 貿易を巡る国際的枠組みとIMF体制
- 5回 GATTからWTO体制へ
- 6回 FTA/EPAを巡る国際的動き
- 7回 東アジア共同体構想の現状と将来
- 8回 日本経済と貿易の歩み
- 9回 貿易摩擦の変遷と日本の対応
- 10回 アジアとの生産分業が進んだ90年代以降の貿易
- 11回 貿易を巡る新しい動き
- 12回 グローバル化と反グローバル化
- 13回 直接投資の増大と貿易
- 14回 日本の貿易の将来
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む)...25%、課題...25%、期末レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞を中心とする貿易に関する情報に常に興味をもつこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際貿易論II 【夜】

担当者名 /Instructor 立石 揚志 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

貿易を通じて、日本経済が国際的に直面している課題を考える。
日本経済の変化に応じて貿易についての最新動向を伝える。
あまり、「貿易理論」に重きをおかず、貿易を巡る現状を解説する。

教科書 /Textbooks

小峰隆夫『貿易の知識』（2版）日経文庫（2004年）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

立石揚志『海外直接投資とアジアの貿易循環』ふくろう出版（2007年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 直接投資の増大と貿易
- 2回 日本の直接投資と貿易の変遷
- 3回 アジアを中心とするFTA, EPAの動き
- 4回 日本のFTA, EPAの現状
- 5回 東アジア共同体構想の推移
- 6回 東アジア共同体構想の歴史
- 7回 東アジア共同体の現状
- 8回 ASEANを巡る動き
- 9回 東アジア共同体の課題
- 10回 ASEAN+3, ASEAN+6
- 11回 国際経済学と国際貿易論
- 12回 自由貿易論への賛否
- 13回 国際貿易に関するトピックス
- 14回 TPPを巡る最新状況
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む)...25%、課題...25%、期末レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞を中心とする貿易に関する情報に常に興味をもつこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際金融論I【夜】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの全容を知ることが目的とする。新聞・ニュースの経済関係の報道内容を理解できるとともに、国際金融に関する平易な解説書やテキストを理解できるレベルを目標とする。

教科書 /Textbooks

奥田宏司ほか編(2009)『現代国際金融-構図と解明-』法律文化社。
なお、このテキストは国際金融論IIのテキストとしても使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

秦忠夫・本田敬吉(2007)『国際金融のしくみ』有斐閣アルマ。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】はキーワード。	
1回 国際収支	【複式簿記の原理】
2回 国際収支	【経常収支】 【資本収支】
3回 外国為替と国際通貨	【並為替・逆為替】
4回 外国為替と国際通貨	【基軸通貨】
5回 為替相場と円高・円安	【購買力平価】
6回 為替相場と円高・円安	【実効為替レート】
7回 戦後の国際通貨制度	【IMF】
8回 戦後の国際通貨制度	【変動相場制】
9回 発展途上国の開発金融	【世界銀行】
10回 発展途上国の開発金融	【直接投資】
11回 ドル体制の変遷	【プラザ合意】
12回 ドル体制の変遷	【世界金融危機】
13回 現代の国際金融・資本市場と金融機関	【投資銀行】
14回 現代の国際金融・資本市場と金融機関	【デリバティブ】
15回 まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当部分を事前に講読しておくこと。また、学習支援フォルダにアップロードされる追加のプリントも、予習・復習の際に、必要に応じて参考にとすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際金融論II 【夜】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの全容を知ることとする。新聞・ニュースの経済関係の報道内容を理解できるとともに、国際金融に関する平易な解説書やテキストを理解できるレベルを目標とする。

教科書 /Textbooks

奥田宏司ほか編(2009)『現代国際金融-構図と解明-』法律文化社。
なお、このテキストは国際金融論Iのテキストとしても使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

秦忠夫・本田敬吉(2007)『国際金融のしくみ』(第3版)有斐閣アルマ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【】はキーワード。
- | | |
|--|--------------|
| 1回 欧州通貨統合と「ユーロ体制」 | 【安定成長協定】 |
| 2回 欧州通貨統合と「ユーロ体制」 | 【ERM2】 |
| 3回 資本取引の自由化とエマージング市場国の通貨危機 | 【アジア金融・通貨危機】 |
| 4回 資本取引の自由化とエマージング市場国の通貨危機 | 【ロシア危機】 |
| 5回 東アジアの為替制度とドル、円、人民元 | 【ドルペッグ】 |
| 6回 東アジアの為替制度とドル、円、人民元 | 【不胎化介入】 |
| 7回 アメリカ発の金融危機 | 【サブプライム危機】 |
| 8回 アメリカ発の金融危機 | 【リーマンショック】 |
| 9回 欧州への金融危機の波及 | 【流動性危機】 |
| 10回 欧州への金融危機の波及 | 【ラトビア危機】 |
| 11回 危機の世界への波及と基軸通貨ドルのゆくえ | 【金融安定化法】 |
| 12回 危機の世界への波及と基軸通貨ドルのゆくえ | 【外貨準備】 |
| 13回 DVD学習(国際通貨危機に関する事例についてのNHKスペシャルなど) | |
| 14回 DVD学習内容の解説 | |
| 15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当部分を事前に講読しておくこと。また、追加の参考プリントを学習支援フォルダにアップロードするので、予習復習の際に参照すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経済論I 【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済論の習得が必要不可欠である。国際経済論は、ミクロ経済学の応用分野である国際貿易論とマクロ経済学の応用分野である国際金融論から構成されている。本講義では、国際ミクロの立場から、国際貿易の基礎理論、貿易政策の効果、不完全競争を中心に説明を進める。

教科書 /Textbooks

大川昌幸『コア・テキスト国際経済学』（新世社）
なお、国際経済論IIも上記のテキストを使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

石川城太他『国際経済学をつかむ』（有斐閣）
石井安憲他『入門・国際経済学』（有斐閣）
浦田秀次郎『国際経済学入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 部分均衡分析(1)【消費者余剰】【生産者余剰】
- 3回 部分均衡分析(2)【自由貿易の利益】
- 4回 リカード・モデル(1)【絶対優位】【比較優位】
- 5回 リカード・モデル(2)【貿易パターン】
- 6回 ヘクシャー=オリーン・モデル(1)【要素賦存】【要素集約度】
- 7回 ヘクシャー=オリーン・モデル(2)【リプチンスキー定理】【ストルパー=サミュエルソン定理】
- 8回 不完全競争と国際貿易(1)【独占市場】
- 9回 不完全競争と国際貿易(2)【ダンピング】【製品差別化】
- 10回 完全競争と貿易政策(1)【関税政策】、【補助金政策】
- 11回 完全競争と貿易政策(2)【数量割当政策】【有効保護】
- 12回 不完全競争と貿易政策(1)【国内独占】
- 13回 不完全競争と貿易政策(2)【外国独占】
- 14回 不完全競争と貿易政策(3)【戦略的貿易政策】【幼稚産業保護】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(回数) 40% 期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。
部分均衡分析に関しては、清野著『ミクロ経済学入門』（日本評論社）を参照されたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論II」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

自由貿易、不完全競争、貿易政策

国際経済論II 【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。国際経済論は、ミクロ経済学の応用分野である国際貿易論とマクロ経済学の応用分野である国際金融論から構成されている。本講義では、国際マクロの立場から、国際金融の基礎理論、為替レートの決定、マクロ経済政策を中心に説明を進める。

教科書 /Textbooks

大川昌幸『コア・テキスト国際経済学』（新世社）
なお、国際経済論Iも上記のテキストを使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小川英治『国際金融入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）
橋本優子他『国際金融論をつかむ』（有斐閣）
石井安憲他『入門・国際経済学』（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 国際収支表(1)【国民所得勘定】
- 3回 国際収支表(2)【経常収支】【資本収支】
- 4回 外国為替の基礎(1)【為替相場市場】【通貨制度】
- 5回 外国為替の基礎(2)【マーシャル＝ラーナー条件】【Jカーブ効果】
- 6回 外国為替取引(1)【直取引】【先渡取引】
- 7回 外国為替取引(2)【金利裁定】【通貨オプション】
- 8回 外国為替の決定理論(1)【アセット・アプローチ】
- 9回 外国為替の決定理論(2)【購買力平価】
- 10回 開放経済下の国民所得決定(1)【貿易乗数】
- 11回 開放経済下の国民所得決定(2)【需要の変化】
- 12回 開放経済下のマクロ経済政策(1)【マンデル＝フレミングモデル】【BP曲線】
- 13回 開放経済下のマクロ経済政策(2)【固定相場制】【財政政策】【金融政策】
- 14回 開放経済下のマクロ経済政策(3)【変動相場制】【財政政策】【金融政策】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(回数) 40 % 期末試験 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

マクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
国際経済理論のロジックをしっかりと理解し、論理的思考力を身につけてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論I」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

国際収支、外国為替、国民所得、開放経済下のマクロ経済政策

国際法II【夜】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際社会の基本構成単位としての国家が有する「主権」に注目し、国際法上、国家とは何か【国家の要件】【承認】、国家にはどのような権利が認められ、義務が課されるのか【国家の基本的権利・義務】、それはどのように行使され、どこまで認められるのか【領域】【個人】【管轄権の競合と調整】【国際法によるコントロール】などを取り扱います。

教科書 /Textbooks

講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 横田洋三編『国際法入門(第2版)』(有斐閣・2005)○
参考書 山手治之・松井芳郎・香西茂『ベーシック条約集』(東信堂・最新版)○
参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際法上の国家」

- 第2回 国家と承認制度：国家承認
- 第3回 国家と承認制度：政府承認
- 第4回 国家の基本的権利
- 第5回 国家の基本的義務
- 第6回 まとめ

第II部「陸・海・空と国際法」

- 第7回 陸と国際法
- 第8回 海と国際法：海上交通
- 第9回 海と国際法：海洋資源
- 第10回 空と国際法
- 第11回 まとめ

第III部「国際法主体としての個人」

- 第12回 人権の国際的保障
- 第13回 国際犯罪
- 第14回 国際刑事裁判所(ICC)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。
課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.6%
なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況なども加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習を前提とした講義を展開します。
詳細は学習支援フォルダーで確認してください。

履修上の注意 /Remarks

「国際法I」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

5つの願いがあります。国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国家システム(state system)の現状と課題を把握してほしい。国際社会における主権国家の機能・役割を正しく理解してほしい。そして国益、共通利益、国際社会の公益について、積極的に考えてほしい。

キーワード /Keywords

【国家の要件】 【承認】 【国家の基本的権利・義務】 【領域】 【個人】 【管轄権の競合と調整】 【国際法によるコントロール】

国際取引法【夜】

担当者名 /Instructor 大隈 一武 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際取引法は、単独法として存在するものではない。企業実務において展開されてきた実務先行で、学問としてはまだ確立していない分野である。企業実務における経験から、それを国際契約法、海外投資・企業経営関係法、通商法の3つに分類して授業を行う。

教科書 /Textbooks

なし。プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大隈一武『国際契約法入門』(中央経済社・1996)
外務省経済局監修『世界貿易機関を設立するマラケシュ協定WTO』(日本国際問題研究所・1997)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国際契約：英米法契約理論-例えば、【約因】、【コモンロー】、【衡平法】理論・判例検討
- 2回 契約条件と国際貿易条件【インコタームズ】、契約約款などを検討
- 3回 国際取引と制限：【OECD賄賂禁止条約】、【輸出管理ワッセナー取り決め】、歴史的展開
- 4回 国際契約書の起草：海外工事請負契約UNCITRALガイド参照、契約書のドラフティング
- 5回 国際取引諸条約(国際海上物品運送・国際物品売買条約【CISG】など)や荷為替信用状規則【L/C】など
- 6回 海外進出：投資・企業経営-単独進出と企業買収・合併など実務的な展開と内容を検討
- 7回 企業経営：株式会社・【パートナーシップ】の異同を理解し、海外合併事業の方法論、実務
- 8回～9回 投資協定、投資保証、多国間投資保証機関【MIGA】、【OECD多国籍企業ガイドライン】
- 10回 通商法：自由貿易地域と関税同盟の異同、実態、国際的動向、わが国の対応などを検討
- 11回 ブロック経済と世界貿易機関【WTO】：上記10との関連で、WTOの調整・問題点を検討
- 12回～14回 GATTからWTOへ：WTOの組織、諸協定：【紛争解決のメカニズム】
- 15回 【OECD】、【IBRD】、【IMF】などの国際機関の機能と役割：WTO以外の重要な国際機関の機能と役割を理解し、わが国の対応のあり方についても検討

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験100%
なお、出席が授業回数の3分の2に満たない場合は期末試験の受験資格を認めない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ経済【夜】

担当者名 /Instructor 山崎 好裕 / Yoshihiro Yamazaki / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

サブプライム・ローン問題に端を発する世界金融危機とその後の実体経済の悪化から、オバマ政権下のゼロ金利政策、量的緩和政策もあって回復を遂げたアメリカ経済。日本とも貿易や金融の面で関係の深いアメリカですし、世界最大の経済ですから、それを学ぶことの意味は大きいと言えます。でも、そもそもアメリカって...? 経済って...?
授業では、研究者としてアメリカに住んでいたときや毎年の学会出席時の私の体験談、また、南北戦争マニアの私ならではの歴史上のエピソードもたっぷりとお伝え、楽しくアメリカについて学びます。

教科書 /Textbooks

山崎好裕『目からウロコの経済学入門』ミネルヴァ書房、2004年11月。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

毛利良一『アメリカ金融覇権終りの始まり - グローバル経済危機の検証』新日本出版社、2010年4月。
藤井英彦『オバマのアメリカ - 次なる世界経済の行方』東洋経済新報社、2009年2月。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 アメリカの産業と所得
- 2 アメリカの所得分配と社会保障
- 3 アメリカ家計の消費と貯蓄
- 4 アメリカの社会階層と失業
- 5 アメリカ企業と収益
- 6 アメリカ企業と投資
- 7 アメリカ政府と税制
- 8 アメリカの政府支出と財政
- 9 アメリカの通貨制度
- 10 アメリカの金融システム
- 11 アメリカ経済と金利
- 12 アメリカの国際収支
- 13 アメリカ経済と為替レート
- 14 アメリカ経済と物価
- 15 アメリカの経済成長と景気

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...80% レポート...20%

定期試験では、アメリカ経済の制度的特徴についての穴埋め問題が6問、全体的特色についての○×問題が8問、テキストのコラムにある計算問題が1問出題されます。レポートはアメリカ経済についてのプリントを読んでまとめてもらい、自分の感想・見解と一緒に2000字程度にまとめてもらいます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講すれば、みんなの頭にアメリカのはっきりしたイメージが浮かび、なおかつ、経済というものを身近に感じるはず。経済学を学んだことがある人もない人も、安心して受講してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

途上国開発論 【夜】

担当者名 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グローバル化の波によって、めまぐるしく変化している現在の世界において、今世紀は開発途上国がその中心舞台に躍り出ることが予想されている。そのテーマといえば、貧困問題、環境問題、人口問題、民族紛争、人権問題など枚挙にいとまがないほどである。本講義では、途上国の開発と環境に焦点を絞り（事例としてはバングラデシュ）、数々のテーマと切り口で臨みたい。日本の若者が海外に出ていくことを躊躇していると言われているが、同じ地球に生きる人間として、途上国の問題にも真正面からぶつかり、世間で言われる途上国の違った側面を捉えて欲しい。

教科書 /Textbooks

○三宅博之『開発途上国の都市環境 - バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』明石書店、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ジェニファー・エリオット著、古賀正則訳『持続可能な開発』古今書院、2003年
* 中村尚司『人びとのアジア - 民衆学の視座から』岩波新書、1994年
* 菊地京子編『開発学を学人のために』世界思想社、2001年、1900円
* 恩田守雄『開発社会学 理論と実践』ミネルヴァ書房、3800円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「途上国開発論（途上国の開発政策）」のねらい、担当教員の途上国での体験からの受講生への問題提起
- 第2回 開発概念の検討～歴史的推移と「持続可能な開発」の定義
- 第3回 成長概念と貧困概念～貧困線をめぐって
- 第4回 アマルティア・センと社会・人間開発
- 第5回 人口問題～中国の1人っ子政策と先進国の少子化対策
- 第6回 都市問題～インフォーマルセクターの存在
- 第7回 居住問題～スラム・スクワッター居住区
- 第8回 資源分配をめぐって（エネルギー技術のあり方）
- 第9回 環境問題～ゴミ問題を中心に
- 第10回 途上国での農村・農業問題
- 第11回 途上国での山村・漁村での林業・漁業の在り方
- 第12回 途上国の諸問題の解決への取り組みと結果～国連とODA
- 第13回 台頭するNGO～インド・バングラシユの事例より
- 第14回 地域内共生～隣人関係の在り方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の内容にかかわる日常的姿勢...20% 小課題の提出 ... 20% 試験 ... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

時々の小課題の実施。途上国に関するさまざまなテレビ番組の視聴。

履修上の注意 /Remarks

英語の文章も少しは読むので、日頃から英語の勉強も怠りなく。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

途上国の現実を知り、興味深い事象を探し、もっと足を踏み入れてほしい。

キーワード /Keywords

開発途上国、アマルティア・セン、環境問題、持続可能な開発

アメリカ文学概論【夜】

担当者名 /Instructor 新村 昭雄 / Shinmura Akio / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

まず、現代の世界大戦後の荒廃を【ロスト・ジェネレーション】の世代として虚無と戦ったHemingway、同様、20年代の【roaring 20s】の動乱を生きたFitzgerald、そしてJ. D. Salingerなど【ユダヤ系文学】、Harlem Renaissance後花開いた【黒人文学】、第2次大戦後の【ポストモダニズムの文学】を読んでアメリカ文学への理解を深めたい。

教科書 /Textbooks

Ernest Hemingway: The Sun Also Rises 『日はまた昇る』(岩波文庫)
F. S. Fitzgerald: The Great Gatsby 『グレート・ギャツビー』(新潮文庫)
J.D. Salinger: The Catcher in the Rye 『ライ麦畑でつかまえて』(白水Uブックス)
Richard Wright: Native Son、【ユダヤ系文学】、【黒人文学】【ポストモダニズム】の作品等

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献等は図書館の指定図書コーナー(新村)に開架し、さらにまた、その都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Ernest Hemingway: The Sun Also Rises 【国籍離脱者Exile】 【Hard-boiled】
- 2回 Ernest Hemingway: The Sun Also Rises 【ロスト・ジェネレーション】
- 3回 パリ、スペイン・パンプローナ「牛追い祭」と闘牛のシーン(映画・ビデオ)で鑑賞。
- 4回 F. S. Fitzgerald: The Great Gatsby 【The Jazz Age】
- 5回 F. S. Fitzgerald: The Great Gatsby 【Gatsby's Dream】
- 6回 F. S. Fitzgerald: The Great Gatsby 【American Dream】日本の【成金】との比較
- 7回 映画「華麗なるギャツビー」の鑑賞。
- 8回 J.D. Salinger: The Catcher in the Rye 【ユダヤ系作家】 【Soft-boiled】
- 9回 J.D. Salinger: The Catcher in the Rye 【禅仏教】 【Angry Young Men】
- 10回 Richard Wright: Native Son 【黒人作家】 【エリソン】 【ポールドウィンら黒人作家】
- 11回 Richard Wright: Native Son 【Black Power】 【旧約聖書・ヨブ記】
- 12回 Ken Kesey: One Flew Over the Cuckoo's Nest 【サイケデリック・カルチャー】
- 13回 Joseph Heller: Catch-22 【ギラン・バレー症候群】 【Catch-22的状况とは】
- 14回 ポストモダニズムの文学(1) 【シュールリアリズム】
- 15回 ポストモダニズムの文学(2) 【ブラックユーモア】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(20%)、レポート(50%)と学期末試験(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で準備することは、テキストを読むこと、さらに、授業中指示した参考書等を読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【旧約聖書】 【国籍離脱者Exile】 【Hard-boiled】 【ロスト・ジェネレーション】 【Jazz Age】 【American Dream】 【ユダヤ系作家】 【Soft-boiled】 【禅仏教】 【Angry Young Men】 【黒人作家】 【Black Power】 【旧約聖書・ヨブ記】 【サイケデリック・カルチャー】 【ギラン・バレー症候群】 【Catch-22的状况とは】 【シュールリアリズム】 【ポストモダニズムの文学】 【ブラック・ユーモア】

イギリスの現代文学 【夜】

専門教育科目
選択科目
英米文学・文化科目群

担当者名 /Instructor 杉本 美穂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、イギリスの二十世紀文学から、受講生に比較的になじみのある作家の作品を毎回1冊とりあげて解説する。十九世紀、大英帝国として世界に君臨したこの国も、二十世紀の入ると、二度にわたる世界大戦で甚大な被害を被り、植民地の独立により経済的にも大撃を受ける。階級制度のしがらみと揺らぎ、アイルランド問題、伝統の変質など、「病める老大国」と呼ばれた時期もあった。こうした時代を背景に生まれた作品を読むことで、現代の英国社会や文化の特質、そして英国人の生き方への理解を深めてもらいたい。

本講義の主なテーマは、「モダニズム」と「ファンタジー」である。作品への理解を助けるために、作家の人となり、作品成立時の政治的、文化的な背景、主題の分析、文学理論を応用する可能性など、多角的な視点を提供したい。

教科書 /Textbooks

ピーター・ミルワード著、小泉博一訳、『童話の国イギリス』中公新書1610 840円 ISBN4-12-101610-6

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は適宜、指示する。(別途、参考資料は配布する)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 C.S.ルイス 『ナルニア国物語』 2 1章
- 2回 G.K.チェスタトン 『おとぎの国の倫理学』 1 9章
- 3回 J.R.R.トールキン 『ホビットの冒険』 2 0章
- 4回 V.ウルフ 『ダロウエイ夫人』と意識の流れ
- 5回 J.ジョイス 『ユリシーズ』 「ネストール」
- 6回 J.ジョイス 『ユリシーズ』 「セイレーン」
- 7回 J.ニューベリー編 『マザー・グースのメロディー』 1章
- 8回 B.ポッター 『ピーター・ラビットのおはなし』 3章
- 9回 G.オーウェル 『動物農場』 反ユートピア小説
- 10回 W.ゴールディング 『蠅の王』 反ユートピア小説
- 11回 G.B.ショウ 『ピグマリオン』と反英国思想
- 12回 カズオ・イシグロ 『日の名残り』と失われた過去
- 13回 K.グレアム 『ヒキガエル屋敷のヒキガエル』
- 14回 J.M.バリヤー 『大人になりたくなかった少年ピーター・パン』 1 8章
- 15回 まとめと復習%

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点・課題プリント20%、小テスト・20%、期末試験・60%、で総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、支持されたテキストをしっかりと読んで、講義に臨んでもらいたい。また、原文も一部配布するので、翻訳では味わえない、原文ならではの「読み」に触れる契機にしてほしい。

イギリスの現代文学 【夜】

専門教育科目
選択科目
英米文学・文化科目群

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの現代文学 【夜】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ現代演劇を代表するアーサー・ミラーの戯曲のテキストを具体的に解釈・分析することにより、作者の人間観、世界観の特質、作品と社会背景との関連性などに対する理解を深めたい。既成の評価にとらわれずに、可能な限り、担当教員独自の作家像をうちたてるようにしたい。ストーリーの展開に合わせて作品を読み進むのではなく、担当教員の視点から見て重要な箇所をピックアップしながら具体的に作品の分析・解析を行っていく。アメリカ社会の独自性、特殊性を作品がどのように映し出しているかという点にも注意を払っていききたい。また、アーサー・ミラーは、アメリカの少数民族である、ユダヤ系である。そのような事実が作品にどのような形で反映されているかを考えることにより、作品におけるユダヤ人的な視点、発想が、純アメリカ的な他の文学作品や映画の中の視点とどのような関係を形成しているかという話題も議論したい。

教科書 /Textbooks

Death of a Salesman アーサー・ミラー (南雲堂)
必要に応じて、レジュメと英語資料の抜粋を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

アーサー・ミラー全集I 『セールスマンの死』 倉橋健訳

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、参考文献の紹介
- 2回 作品の構成の特質についての説明
- 3回 作品のビデオ鑑賞 1
- 4回 作品のビデオ鑑賞 2
- 5回 家族描写の特徴と作者の民族性の関連性の分析 1
- 6回 家族描写の特徴と作者の民族性の関連性の分析 2
- 7回 人物描写の特徴と、作者の民族性との関連性の分析 1
- 8回 人物描写の特徴と、作者の民族性との関連性の分析 2
- 9回 スポーツ描写の特徴と、作者の民族性との関連性の分析
- 10回 アメリカの物質主義と、作者の民族性との関係の分析
- 11回 女性描写の特徴と、作者の民族性との関連性の分析 1
- 12回 女性描写の特徴と、作者の民族性との関連性の分析 2
- 13回 女性描写の特徴と、作者の民族性との関連性の分析 3
- 14回 全体のまとめ：作品とアメリカ社会の特徴
- 15回 全体のまとめ：作品と作者の民族性 (最終回は絶対に欠席しないこと)

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%
テキスト、配布プリント、自筆ノート持ち込み可で試験を行う。(コピーはすべて持ち込み不可)
なお、試験は英語力を問うものではありません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能な限り、テキストを事前に読んでおいてください。翻訳は図書館にあります。

履修上の注意 /Remarks

英文のテキストや資料を使用しますが、教員が日本語に訳しますので、講義を理解する上で英語力は特に必要ありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの18-19世紀文学 【夜】

担当者名 新村 昭雄 / Shinmura Akio / 比較文化学科
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ文学の古典である、アメリカ植民地時代の【ピューリタニズム】【アメリカの独立】を見事に描いたNathaniel Hawthorneの文学、【アメリカ民主主義】の讃歌と西洋文明の挽歌を歌ったHerman Melville、民主主義アメリカの新しい、【独立心】の強い女を描いたHenry JamesのDaisy MillerやThe Portraite of a Ladyを読んでアメリカ文学への理解を深めていきたい。

教科書 /Textbooks

Nathaniel Hawthorne: Short Stories 『ホーソン短編集』（岩波文庫）
 The Scarlet Letter 『緋文字』（岩波文庫）
 Herman Melville: Moby Dick or the white whale 『白鯨』（新潮文庫）
 Henry James: Daisy Miller 『デイジー・ミラー』（新潮文庫）
 The Portraite of a Lady 『ある婦人の肖像』（岩波文庫）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献等は図書館の指定図書コーナー（新村）に開架し、さらにまた、その都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Nathaniel Hawthorne: Short Stories 【大英帝国植民地】 【マサチューセッツ・ボストン】
- 2回 Nathaniel Hawthorne: Short Stories 【ピューリタニズム】
- 3回 Nathaniel Hawthorne: Short Stories 【自由主義思想】 【Salem魔女裁判】
- 4回 Nathaniel Hawthorne: The Scarlet Letter 【ピューリタニズム】 【啓蒙主義思想】の文学
- 5回 Nathaniel Hawthorne: The Scarlet Letter 【超絶主義】の文学
- 6回 NHKグレートブックス・シリーズ「緋文字」のビデオを観て「緋文字」の現代的意味を探る。
- 7回 Herman Melville: Moby Dick or the white whale 【アメリカ民主主義】 【バーバリズム】
- 8回 Herman Melville: Moby Dick or the white whale 【ゾロアスター教】 【拝火教】
- 9回 Herman Melville: Moby Dick or the white whale 【白鯨とは何なのか】 【ヨブ記】 【異端】
- 10回 Henry James: Daisy Miller 【19世紀の女性】 【Independent】 【自由とは】
- 11回 Henry James: Daisy Miller 【慣習】 【因習】 【しきたり】 【Freedom】 【自由恋愛】
- 12回 Henry James: The Portraite of a Lady 【民主主義アメリカの新しい女性】 【自立した女性】
- 13回 Henry James: The Portraite of a Lady 【旧世界の因習】 【選択】 【人生の苦しみ】
- 14回 Henry James: The Portraite of a Lady 【結婚・離婚と自己責任】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (30%)、レポート (40%) と学期末試験 (30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備としてテキストを読むこと、授業次に指示した参考書等を読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【大英帝国植民地】 【マサチューセッツ植民地・ボストン】 【ピューリタニズム】 【自由主義思想】 【Salem魔女裁判】 【超絶主義】
 Transcendentalism 【アメリカ民主主義】 【バーバリズム】 【ゾロアスター教】 【拝火教】 【白鯨とは】 【ヨブ記】 【異端】 【19世紀の女性】
 【Independent】 【自由とは】 【慣習】 【因習】 【しきたり】 【Freedom】 【自由恋愛】 【アメリカの新しい女性】 【自立した女性】 【旧世界の因習】 【人生の選択】 【人生の苦しみ】 【結婚・離婚と自己責任】

アメリカの歴史と社会【夜】

担当者名 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

21世紀を迎えたアメリカ社会が相変わらず抱える課題のひとつが、人種の問題である。これは、アメリカ合衆国の原則ともいえる民主主義を揺るがしかねない深刻な問題をはらんでいる一方で、アメリカのダイナミズムの源にもなりうる。本講義では主に、アフリカ系アメリカ人、ヒスパニック、日系人を取り上げ、その歴史的背景を踏まえ、今日のアメリカ社会における人種や民族をめぐる問題を考える。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

開講時及び授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 アフリカ系アメリカ人の歴史：南北戦争以前の状況
- 3回 アフリカ系アメリカ人の歴史：南北戦争後の南部社会における新しい労働体制と黒人投票権の剥奪
- 4回 アフリカ系アメリカ人の歴史：「分離すれども平等」の原則の確立とそれに対する黒人の抵抗運動
- 5回 アフリカ系アメリカ人の歴史：公民権運動①
- 6回 アフリカ系アメリカ人の歴史：公民権運動②
- 7回 アフリカ系アメリカ人の歴史：アフリカ系アメリカ人を取り巻く今日の状況
- 8回 ヒスパニック系アメリカ人の歴史：第二次世界大戦後の移民法改正①
- 9回 ヒスパニック系アメリカ人の歴史：第二次世界大戦後の移民法改正②
- 10回 日系アメリカ人の歴史：前世紀転換期における移住の開始
- 11回 日系アメリカ人の歴史：20世紀初頭の日本人移民制限の動き
- 12回 日系アメリカ人の歴史：太平洋戦争の勃発と強制立ち退き
- 13回 日系アメリカ人の歴史：第二次世界大戦における日系人部隊
- 14回 日系アメリカ人の歴史：戦後の補償問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、学期末試験(100%)で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に紹介する参考文献等を積極的に読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Reading and Discussion I 【夜】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2年夜間

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Learners will read one unabridged piece of English literature. The purpose of the course will to develop reading and discussion skills while familiarizing learners idiomatic English within its socio-cultural context. In order to facilitate learners' comprehension, learners will be provided with one or more of the following resources: (1) weekly study guides that focus their attention of key elements of the text, (2) video support to help them understand the language in use, and (3) notes in either Japanese or English to draw their attention to difficult or idiomatic aspects of the language and its use.

教科書 /Textbooks

The text to be read each term will be chosen each semester by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The supplementary resources to be used each term will be specified by the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation; Short introductory lecture; Preview of the section
- 2 回 Small group discussion & review; Preview of next section
- 3 回 Small group discussion & review; Preview of next section
- 4 回 Small group discussion & review; Preview of next section
- 5 回 Small group discussion & review; Preview of next section
- 6 回 Small group discussion & review; Preview of next section
- 7 回 Small group discussion & review; Preview of next section
- 8 回 Small group discussion & review; Preview of next section; choosing a topic
- 9 回 Small group discussion & review; Preview of next section: narrowing the topic; thesis statement
- 1 0 回 Small group discussion & review; Preview of next section; making an outline
- 1 1 回 Small group discussion & review; Preview of next section; writing an introduction
- 1 2 回 Small group discussion & review; Preview of next section; creating unity in the body of the paper
- 1 3 回 Small group discussion & review; Preview of next section; writing a conclusion
- 1 4 回 Small group discussion & review; Preview of next section; editing for specific word choice & redundancy
- 1 5 回 Review of the key elements and themes

成績評価の方法 /Assessment Method

- 50% Weekly homework & participation
- 50% Term paper (1000-1500 words)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- Learners will read 10-25 pages of unabridged English each week.
- Learners will develop an original thesis about a piece of English literature.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Reading and Discussion II 【夜】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義・実習 /Lecture・Practicum クラス /Class 2年夜間 /2 Years Evening

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Learners will read one unabridged piece of English literature. The purpose of the course will to develop reading and discussion skills while familiarizing learners idiomatic English within its socio-cultural context. In order to facilitate learners' comprehension, learners will be provided with one or more of the following resources: (1) weekly study guides that focus their attention of key elements of the text, (2) video support to help them understand the language in use, and (3) notes in either Japanese or English to draw their attention to difficult or idiomatic aspects of the language and its use.

教科書 /Textbooks

The text to be read each term will be chosen each semester by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The supplementary resources to be used each term will be specified by the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation; Short introductory lecture; Preview of the section
- 2 回 Small group discussion & review; Preview of next section
- 3 回 Small group discussion & review; Preview of next section
- 4 回 Small group discussion & review; Preview of next section
- 5 回 Small group discussion & review; Preview of next section
- 6 回 Small group discussion & review; Preview of next section
- 7 回 Small group discussion & review; Preview of next section
- 8 回 Small group discussion & review; Preview of next section; choosing a topic
- 9 回 Small group discussion & review; Preview of next section: narrowing the topic; thesis statement
- 1 0 回 Small group discussion & review; Preview of next section; making an outline
- 1 1 回 Small group discussion & review; Preview of next section; writing an introduction
- 1 2 回 Small group discussion & review; Preview of next section; creating unity in the body of the paper
- 1 3 回 Small group discussion & review; Preview of next section; writing a conclusion
- 1 4 回 Small group discussion & review; Preview of next section; editing for specific word choice & redundancy
- 1 5 回 Review of the key elements and themes

成績評価の方法 /Assessment Method

- 50% Weekly homework & participation
- 50% Term paper (1000-1500 words)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- Learners will read 10-25 pages of unabridged English each week.
- Learners will develop an original thesis about a piece of English literature.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語スピーキング演習【夜】

専門教育科目
演習・研究科目
必修科目

担当者名 /Instructor
ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 3年夜間

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語スピーキング演習 aims to develop speaking ability through active student participation in topic-focused conversation/discussions and presentations in an all-English environment. Emphasis will be on discovering English language patterns and using them to generate accurate and efficient spoken personal expression. In the mid to latter stages of the course, students will be expected to prepare and give oral presentations on selected topics covered in class.

教科書 /Textbooks

David Paul, Further Communication Strategies (Thomson, 2004)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

in consultation with instructor

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Attitudes
- 2回 Money
- 3回 Health
- 4回 Education
- 5回 Crime
- 6回 The Environment
- 7回 Aliens
- 8回 History
- 9回 Women in Society
- 10回 The Developing World
- 11回 Violence
- 12回 Politics
- 13回 Economics
- 14回 Happiness
- 15回 Globalization

成績評価の方法 /Assessment Method

Homework Assignments (60%) Oral Presentation (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Completion of required English Department requirements.
Outside reading assignments related to class discussion.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語リーディング演習I【夜】

担当者名 /Instructor 江口 雅子 / EGUCHI MASAKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3年夜間

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

イギリス生まれのRoald Dahl (1916-1990) の短編を2編読む。Dahlは、2005年に映画化された“Charlie and the Chocolate Factory” (Tim Burton監督、Jonny Depp主演) の原作者であり、学生には身近な作家と思われる。
授業で扱う短編集Kiss Kiss (1959) は、ベストセラーとなった作品であり、学生に物語への興味を喚起させるに十分な素材である。Dahlの冴えた描写力と、巧妙な話の展開を十分に味わわせる。
学生は原書を読み解く能力を身につけることができる。

教科書 /Textbooks

ROALD DAHL PARSON'S PLEASURE ダール短編集、平田 純註解、成美堂、1,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Course Introduction
- 2回 作家Roald Dahlの生い立ち、人生について
- 3回 “Parson's Pleasure” ① 英文読解
- 4回 “Parson's Pleasure” ② 英文読解
- 5回 “Parson's Pleasure” ③ 英文読解
- 6回 “Parson's Pleasure” ④ 英文読解
- 7回 “Parson's Pleasure” ⑤ 英文読解
- 8回 “Parson's Pleasure” ⑥ 英文読解
- 9回 “Parson's Pleasure” ⑦ 英文読解
- 10回 “Parson's Pleasure” ⑧ 英文読解、作品のとらえ方を検討
- 11回 “The Landlady” ① 英文読解
- 12回 “The Landlady” ② 英文読解
- 13回 “The Landlady” ③ 英文読解
- 14回 “The Landlady” ④ 英文読解、作品のとらえ方を検討
- 15回 Course Review

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・40% 学期末試験・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に、予習を必須とする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語は禁止します。理由なき遅刻・途中退席は禁止します。

キーワード /Keywords

半世紀前、イギリス文学、イギリス社会、イギリス文化

英作文演習B 【夜】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3年夜間

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will develop students' practical writing skills. Develop basic skills in essay writing in preparation for writing academic papers. Starting with paragraphs of various types, we will work up to full essays.

教科書 /Textbooks

Success with College Writing: From Paragraphs to Essay. Zemach & Rumisek. Macmillan LanguageHouse. 2003.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction – Writing Methods
- 2 回 Punctuation and Grammar Review
- 3 回 Pre-writing: Gathering Ideas and Narrowing a Topic
- 4 回 Paragraph Structure
- 5 回 Paragraph Development
- 6 回 Descriptive and Process Paragraphs
- 7 回 Opinion Paragraphs
- 8 回 Comparison / Contrast Paragraphs
- 9 回 Problem / Solution Paragraphs
- 10 回 Essay Structure
- 11 回 Outlining an Essay: Purpose and Style
- 12 回 Introductions and Conclusions: Purpose and Information Types
- 13 回 Essay Unity: Creating Coherence
- 14 回 Essays for Examinations
- 15 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 40 % Assignment 30% Final Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review previous week's material. Read the introductory material for the coming week.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Try to brainstorm as often as possible.

キーワード /Keywords

ビジネス英語演習【夜】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2年夜間

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objectives of this course are:(1) to help you to understand how cultures have an influence upon doing international business and(2) to help you prepare personally and professionally to succeed in a global business context. This course focuses on the topics of international dimensions of organizational behavior and management such as: multicultural teams, cultural differences in values, cross-cultural communications, negotiations across cultures, and global leadership. Topics also include the management of international managers and expatriates who involve the achievement of success for an international firm in cross-cultural business environment. In addition to the above, it trains you to develop your business presentation in English.

教科書 /Textbooks

Mary Munter. "Cross-Cultural Communication for Managers". Business Horizons.
(当方で配布します。)
その他資料を適宜クラスで配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Harvard Business essentials. "Business Communication".
Edward T. Hall. "Hidden Differences" Anchor Books.
八代京子他. "異文化コミュニケーションワークブック". 三修社
Mary Munter. "Guide to Managerial communication". Prentice Hall.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Session 1: class orientation
Session 2: setting communication objective
Session 3: choosing a communication style
Session 4: assenting and enhancing credibility
Session 5: selecting and motivating audiences
Session 6: setting a message strategy
Session 7: overcoming language difficulties
Session 8: using appropriate nonverbal behaviors
Session 9: mid-term quiz
Session10: presentation competition: country presentation1
Session 11: presentation competition: country presentation2
Session 12: negotiations role-play: transnational manager assignment1
Session 13: negotiations role-play: transnational manager assignment2
Session 14: negotiation case study: A Canadian firm's negotiations in China1
Session 15: negotiation case study: A Canadian firm's negotiations in China2

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation:(weight 20%): class participation will be evaluated on attendance and attentive.
Class quiz:(weight 40%): this will occur midway through the course.
Presentation:(weight 40%):you will be assigned make a presentation on cross-cultural management and case of negotiation.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

グローバルに活躍する多国籍企業の異文化マネジメントに関するクラスです。この方面の就職を検討されている学生には役に立つと思われる。尚、他の企業、経営関係の科目を受講していれば、この講義をさらに深く理解できると思います。

ビジネス英語演習【夜】

専門教育科目
演習・研究科目
選択科目

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語史【夜】

専門教育科目
演習・研究科目
選択科目

担当者名 /Instructor 松崎 徹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講座では、国際語としての地位を確立したといえる英語の、その誕生（5世紀）から近世（16世紀）に至るまでの歴史を概観する。特に、他のヨーロッパ諸言語と比べて現代英語の際立った特徴とされる（1）語彙の豊富さ（2）語尾変化の少なさ、の2点に焦点を当て、こうした特徴がフランス語を中心とした諸外国語の影響によるものが大きいことを、具体例を通して概観し、英語の発達の歴史はいわば異質の言語・文化との交流の歴史であることを学んでいく。

教科書 /Textbooks

『ファンダメンタル英語史』（児馬修著） ひつじ書房 1500円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「なし」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 シラバス配布 & 英語史導入問題の解答と解説
- 2回 はしがき & はじめに【外面史】、【内面史】
- 3回 英語史の概観（1）【アングロサクソン人】
- 4回 英語史の概観（2）【ケルト人】
- 5回 印欧祖語（1）【ウイリアム・ジョーンズ】
- 6回 印欧祖語（2）【印欧語族】
- 7回 古英語の文献・特殊文字（1）【ルーン文字】、【ローマンアルファベット】
- 8回 古英語の文献・特殊文字（2）【古英語】
- 9回 海賊と英語（1）【ヴァイキング】
- 10回 海賊と英語（2）【借用語】
- 11回 海賊と英語（3）【地名】
- 12回 ノルマン人の征服と英語（1）【ノルマン人の征服】
- 13回 ノルマン人の征服と英語（2）【英語の危機】
- 14回 ノルマン人の征服と英語（3）【フランス語借用語】
- 15回 まとめ～英語史を学んで～

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況・・・20% 定期試験・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎講義の冒頭に前回の講義内容に関する質問を受講生に口頭でおこなうので、講義開始時までに前回の講義内容を復習しておくこと。この口頭質問は重要なクラス活動と位置づけるので、平常点として成績評価の対象とする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アングロサクソン 古英語 借用語 フランス語

アメリカ研究 【夜】

担当者名 /Instructor 江口 雅子 / EGUCHI MASAKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義はアメリカ文化を様々な視点から検討します。独立宣言、政治演説など、多数の歴史的資料を取り上げることを通して、アメリカが辿ってきた道、そして現代における意義を検証していきます。

教科書 /Textbooks

Events and Trends in American History, S. Kathleen Kitao et al., 三修社, 1,500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『ヘンリー・ジェームズのアメリカ』、藤野早苗著、彩流社
- 『マイ・ドリーム-バラク・オバマ自伝』、Barack Obama著、白倉三紀子/木内裕也訳、ダイヤモンド社
- 『合衆国再生-大いなる希望』、Barack Obama著、棚橋志行訳、ダイヤモンド社 (三冊とも、図書館蔵書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Course Introduction
- 2回 作家Henry Jamesの生い立ち、人生
- 3回 Henry Jamesが直面した19世紀後半から20世紀初頭のアメリカI【南北戦争、大恐慌】
- 4回 Henry Jamesが直面した19世紀後半から20世紀初頭のアメリカII【産業化、女性の権利】
- 5回 The Ambassadors (1903) : バリから見たアメリカ消費社会
- 6回 The Wings of the Dove (1902) : 生への希求と巨万の富
- 7回 The Golden Bowl (1904) : 人間関係の商品化
- 8回 The Golden Bowl (1904) : 人間関係の商品化【本作品のDVD鑑賞】
- 9回 The American Scene (1907) : 再訪者の目に映る不安な情景
- 10回 Barack Obama (1961-) が直面したアメリカ【公民権運動】
- 11回 Barack ObamaとアメリカI【人種間の壁】
- 12回 Barack ObamaとアメリカII【アメリカ再生】
- 13回 Barack Obamaの教育演説I、前半
- 14回 Barack Obamaの教育演説II、後半
- 15回 Course Review

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加 : 30% 学期末試験 : 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義内容の十分な理解を得るために、授業で配布した資料とテキストを事前事後に読むことを必須とする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語は禁止します。理由なき遅刻・途中退席は禁止します。

キーワード /Keywords

the American Civil War, the Great Depression, Industrialization, Women's Rights, American Civil Rights Movement

Advanced Reading and Discussion 【夜】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / Denis JONNES / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3年夜間

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Aim of this course is further development of reading and discussion skills. Newspaper articles, essays, short fiction will be used to increase reading speed, expand vocabulary, and improve discussion skills. Reading, comprehension, & speaking exercises are conducted on individual basis, as well as in pair and work-group format. Students are expected to keep a Reading Log and to create their own Study Guides. Exercises are designed to help students prepare for reading sections of standardized tests (TOEIC & TOEFL).

教科書 /Textbooks

Printed materials provided by instructor

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 "Are We Still Evolving?"
- 3 回 "Intelligent Machines"
- 4 回 Forster, "The Machine Stops"
- 5 回 The Modern Community
- 6 回 Carver, "Neighbors"
- 7 回 Couples and Marriage
- 8 回 Hemingway, "The Cat in the Rain"
- 9 回 Consumerism
- 10 回 Media and Privacy
- 11 回 Cheever, "The Enormous Radio"
- 12 回 Cheever, (continued)
- 13 回 Generations
- 14 回 O'Connor, "Everything That Rises Must Converge"
- 15 回 Review and Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation ... 30% Homework ... 30% Tests ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students should have completed Reading & Discussion I and Reading & Discussion II

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Reading Comprehension; Vocabulary Development; Speaking Skills

ビジネス英語研究【夜】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスはビジネス関係の読解力とライティングの養成を目標とします。(1) 英文読解力養成: 高度なビジネス誌の最近の記事を取り上げ、その内容に沿って経済、ビジネスの仕組みを解説していく。(2) ビジネスライティング養成: ビジネスライティング中心に英文作成力を養い、最終的にはロールプレイとしてある仕事のポストに関する応募書類の一環としてカバーレターやレジメを作成し、インタビューまでカバーします。

教科書 /Textbooks

1. Handouts: news articles : The Economist, Businessweek, Times, Newsweek などの最近の記事
2. Daniel R. Fusfeld. "The Age of the Economist". 洋版出版 (1.2ともこちらで用意します)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で適宜通知する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Session 1:Class orientation
- Session 2:Reading the recent articles in The Economist1
- Session 3:Reading the recent articles in The Economist2
- Session 4:Reading the recent articles in Businessweek1
- Session 5:Reading the recent articles in Businessweek2
- Session 6:Reading the recent articles in Times1
- Session 7:Reading the recent articles in Times2
- Session 8:Reading the recent articles in Newsweek1
- Session 9:Reading the recent articles in Newsweek2
- Session 10:Reading the recent articles in Bloomberg1
- Session 11:Reading the recent articles in Bloomberg2
- Session 12:Business writing1
- Session 13:Business writing2
- Session 14:Resume writing
- Session 15:Interview

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation: 30 Midterm quiz:30 Final examination : 40

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既に経済、経営関係の講義を受講している場合はさらに効果的な学習ができます。日本の新聞を読み直近の話題に関心を持ってください。

履修上の注意 /Remarks

かなり高いレベルの読解力が要求されますので自信のある方は力試しに参加してください。目安としてはTOEIC750-990ぐらいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業課題【夜】

担当者名
/Instructor

ゼミ指導教員

履修年次 4年次
/Year

単位
/Credits

8単位

学期

1・2学期(ベ
ア)

授業形態

対面式

クラス 4年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

担当教員の指導のもとで卒業課題の対象とするテーマを決める。教員の指導のもとで、英語の論文、翻訳、日本語の論考等から一つ選択し、卒業課題を作成する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

学生の各々の事情に応じて、個々に指導する。

成績評価の方法 /Assessment Method

提出された卒業課題について判定する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当教員の指導を受けながら、資料を徹底的に集めること。徹底的に読むこと。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

キーワード /Keywords

【卒業課題】

メディア英語ゼミAI 【夜】

担当者名 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカのミュージカル演劇研究が目的である。資料の調査、分析、発表、議論が主体になる。

教科書 /Textbooks

なし。プレゼンが主になる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入
- 2回 『オペラ座の怪人』
- 3回 『ヘア・スプレー』
- 4回 『ミス・サイゴン』
- 5回 『エニシング・ゴーズ』
- 6回 『アニー』
- 7回 『マイ・フェア・レディ』
- 8回 『ウェスト・サイド・ストーリー』
- 9回 『マンマ・ミーア』
- 10回 『クレージー・フォー・ユー』
- 11回 『キャッツ』
- 12回 『エヴィータ』
- 13回 『ピーター・パン』
- 14回 『ウィキッド』
- 15回 結び

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼン... 50% エッセー... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

プレゼンの時は、万全の準備をすること

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし

キーワード /Keywords

【ミュージカル】 【演劇】

メディア英語ゼミAll 【夜】

担当者名 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカのミュージカル演劇研究が目的である。資料の収集、分析、発表、議論が主体になる。

教科書 /Textbooks

プレゼンが主になる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入
- 2回 『美女と野獣』
- 3回 『ドリームガールズ』
- 4回 『アイダ』
- 5回 『ショウ・ポート』
- 6回 『シカゴ』
- 7回 『レ・ミゼラブル』
- 8回 『プロデューサーズ』
- 9回 『ライオン・キング』
- 10回 『キャバレー』
- 11回 『ファンタスティックス』
- 12回 『メリー・ポピンズ』
- 13回 『コーラス・ライン』
- 14回 『春の目覚め』
- 15回 結び

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼン... 50% エッセー... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

プレゼンの時は、万全の準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

キーワード /Keywords

【ミュージカル】 【演劇】

社会言語学ゼミBI【夜】

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会言語学の領域から各自選択したテーマに沿って、文献調査・フィールドワークを行う。自分の選択した専門分野の知識を深めるとともに、他の分野の知識を広げることを目的とする。ゼミでは先行研究の発表、言語調査の経過報告、問題点の議論等を行う。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中尾俊夫・日比谷潤子・服部範子.(1997).『社会言語学概論-日本語と英語の例で学ぶ社会言語学』くろしお出版.
- 田中春美・田中幸子.(1996).『社会言語学への招待-社会・文化・コミュニケーション』ミネルヴァ書房.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTROダクシヨン
- 2回 ゼミ研究について
- 3回 文献調査
- 4回 研究テーマ発表
- 5回 文献収集
- 6回～7回 学生による研究発表(第1回)
- 8回 Excel, PowerPoint
- 9回～10回 学生による研究発表(第2回)
- 11回 ディスカッション
- 12回～13回 学生による研究発表(第3回)
- 14回 ディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表70%、論文30%。出席・授業への参加状況も考慮する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『社会言語学研究』を受講すると、本ゼミの理解がより深いものとなる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

通訳ゼミBI【夜】

担当者名 野島 啓一 / nojima keiichi / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

通訳ゼミの最終目標は英語または日本語で自分の意見を表現する能力の育成である。三年次では「読む」・「聞く」の領域を意識したプログラムを作成しているが、四年次では「話す」「書く」の領域を体系的に強化する事を念頭におく。更に、卒論指導も兼ねて着想の仕方、議論の組み立て方、英語論文の作成についても学習課題にする。

教科書 /Textbooks

『英語通訳への道』 日本通訳協会著 大修館書店 ¥2,800
適宜プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業方針と卒論の書き方の解説
- 2回 第一章(同時通訳・逐次通訳+英語表現の方法(1)英語ニュースの5W1H方式での作文方法
- 3回 第一章(放送同時通訳・時差通訳+英語表現の方法(2)editorialのキーワード中心の作文方法
- 4回 第一章(司法通訳・ガイド通訳)+英語表現の方法(3)ニュース記事を一文にまとめる作文方法
- 5回 第一章(ボランテニア通訳)+英語表現の方法(4)パラグラフライティング方式による作文方法
- 6回 第二章(語彙構築+英語表現の方法(5) 課題議題のpro側con側からの議論構成
- 7回 第二章(quick response+英語表現の方法(6) 英文表現の基準とその実践
- 8回 第二章(transcription)+英語表現の方法(7) 指定語彙範囲でのparaphrasing
- 9回 第二章(slash reading)+英語表現の方法(8) 取材トピックに対する質問用英文の作成
- 10回 第二章(技術訓練の実際(1))+口頭表現の方法(1) 「訳し下り」による逐文訳の録音
- 11回 第二章(技術訓練の実際(2))+口頭表現の方法(2) 「訳し下り」による同時役の録音
- 12回 第三章(時差通訳)+口頭表現の方法(3) 単文通訳から複文通訳の説明と実践
- 13回 口頭表現の方法(4) 講演会聴取+テープ起し+英語による意見の口頭発表
- 14回 第三章(コミュニティ通訳)+口頭表現の方法(5)指定課題の意見発表の実習と評価基準による検証
- 15回 review+自己表現と使用言語との関りについての考察と議論、夏休みのプロジェクトの説明

成績評価の方法 /Assessment Method

授業時のperformance...50% 課題プロジェクト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

翻訳ゼミBI【夜】

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

イギリス小説の翻訳テキストを分析し、翻訳方法、鑑賞の仕方を体得する。
Charles Dickensの代表作Oliver Twistを扱う。

教科書 /Textbooks

C・ディケンズ『オリヴァー・ツイスト』（ちくま文庫）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Philip Hobsbaum: A Reader's guide to Charles Dickens (Syracuse Univ. Press)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 序論
- 2回 1～4章
- 3回 5～8章
- 4回 9～12章
- 5回 13～16章
- 6回 14～17章
- 7回 18～21章
- 8回 22～25章
- 9回 26～29章
- 10回 30～33章
- 11回 34～37章
- 12回 38～41章
- 13回 42～45章
- 14回 46～51章
- 15回 結論とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度... 20% 課題... 80% 期末試験... しない

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストをしっかりと読み込んでおく。議長と発表者として議論の展開に積極的にとりくんでもらう。課題にword file (2、800字) で回答する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ研究ゼミBI【夜】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / Denis JONNES / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The American Studies seminar offers students the opportunity to undertake a research project on a topic of their own choosing. Students will consult with the instructor at regular intervals and materials will provide basis for the Graduation Thesis submitted at the end of the 4th Year.

Background materials will focus on 20th American culture and politics, in particular factors contributing to rise of the United States as a global power. Discussion covers First World War, Jazz Age, Great Depression, World War II, the Cold War, postwar affluence, emerging popular culture (Walt Disney), the significance of rock music, Civil Rights movement, Vietnam, the 1960s and rise of Youth Culture.

教科書 /Textbooks

Texts for background discussion provided by instructor

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction: America on the global stage
- 2 回 First World War; Disillusionment; the Jazz Age
- 3 回 The Depression and Coming of War (selection of research topics)
- 4 回 Second World War and its impact (consultations)
- 5 回 The Cold War; arms race; the new domesticity (consultations)
- 6 回 Postwar affluence--television, Disneyland, youth culture, the rise of rock'n'roll
- 7 回 The 1950s (consultations)
- 8 回 Emerging Dissent
- 9 回 Vietnam and the 1960s
- 1 0 回 Student presentations and discussion
- 1 1 回 Student presentations and discussion
- 1 2 回 Student presentations and discussion
- 1 3 回 Student presentations and discussion
- 1 4 回 Student presentations and discussion
- 1 5 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation -- 25 % Participation ... 25 % Presentation -- 25 % Essay ... 25 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students are expected to have completed American Studies Seminar A I and A II, or equivalent.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

War, Jazz Age, the Great Depression, Second World War, Cold War culture, Civil Rights Movement, Vietnam, Youth Culture, Hollywood, Disney.

社会言語学ゼミBII【夜】

担当者名 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会言語学の領域から各自選択したテーマに沿って、文献調査・フィールドワークを行い、授業時に先行研究の発表、言語調査の経過報告、問題点の議論等を行う。最終的に研究の成果を卒業論文の形で提出する。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中尾俊夫・日比谷潤子・服部範子.(1997).『社会言語学概論-日本語と英語の例で学ぶ社会言語学』くろしお出版.
- 田中春美・田中幸子.(1996).『社会言語学への招待-社会・文化・コミュニケーション』ミネルヴァ書房.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTROダクシヨン
- 2回 研究の進捗状況と今後の予定
- 3回～4回 学生による研究発表(第4回)
- 5回 ディスカッション
- 6回 論文の書き方(1)
- 7回～8回 学生による研究発表(第5回)
- 9回 ディスカッション
- 10回 論文の書き方(2)
- 11回～13回 学生による研究発表(第6回)
- 14回 ディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表70%、論文30%。出席・授業への参加状況も考慮する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『社会言語学研究』を受講すると、本ゼミの理解がより深いものとなる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

通訳ゼミBII【夜】

担当者名 野島 啓一 / nojima keiichi / 英米学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

通訳ゼミの最終目標は英語または日本語で自分の意見を表現する能力の育成である。三年次では「読む」・「聞く」の領域を意識したプログラムを作成しているが、四年次では「話す」「書く」の領域を体系的に強化する事を念頭におく。更に、卒論指導も兼ねて着想の仕方、議論の組み立て方、英語論文の作成についても学習課題にする。

教科書 /Textbooks

『通訳の仕事』 小松達也著 研究社 ¥1,900
プリント教材

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業方針と卒論の書き方の解説
- 2回 第一章(通訳の仕事)+「結起論結」方式の議論のまとめ方と実践
- 3回 第二章(通訳と言語)+論文トピックの見つけ方
- 4回 第三章(通訳の過程)+データ収集の仕方と整理方法
- 5回 第四章(理解)+議論構築の方法と実際例
- 6回 第五章(ノートの取り方)+参考文献と著作権の説明
- 7回 第六章(再表現)+図表、表作成の説明と実際例
- 8回 第七章(サイト・トランスレーション)+アンケート調査の説明と数量データの処理方法
- 9回 第八章(同時通訳)+論文評価のポイントと実際例
- 10回 第九章(英語学習への適用)
- 11回 第十章(通訳者への道)
- 12回 英文速記の実践(プリント教材)
- 13回 英文速記の実践(プリント教材)
- 14回 卒論中間発表と議論 指定課題の意見発表の実習と評価基準による検証
- 15回 review+口頭試問の説明と実践指導、

成績評価の方法 /Assessment Method

授業時のperformance...50% 課題プロジェクト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「英日翻訳演習」および「日英翻訳演習」を履修しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

翻訳ゼミBII【夜】

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 英米学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

イギリス小説の翻訳テキストを分析し、翻訳方法、鑑賞の仕方を体得する。
Anthony Trollopeの代表作Barchester Towersを扱う。

教科書 /Textbooks

アンソニー・トロロープ『バーチェスターの塔』（開文社出版）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

R. C. Terry: Oxford Reader's Companion to Trollope (Oxford)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 序論
- 2回 1～5章
- 3回 6～10章
- 4回 11～15章
- 5回 16～20章
- 6回 21～25章
- 7回 26～30章
- 8回 31～40章
- 9回 41～45章
- 10回 46～50章
- 11回 51～53章
- 12回 1～25章の検討
- 13回 26～45章の検討
- 14回 46～53章の検討
- 15回 結論とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度... 20% 課題... 80% 期末試験... しない

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストをしっかりと読み込んでおく。議長と発表者として議論の展開に積極的にとりくんでもらう。課題にword file (2、800字) で回答する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ研究ゼミBII【夜】

担当者名 /Instructor
デニス・ジョーンズ / Denis JONNES / 英米学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Students in the American Studies seminar, in consultation with instructor, will continue to collect materials related to their research project, and present this material in oral and written form.
In-class discussion will focus on latter 20th and early 21st centuries, in particular, the end of the Cold War, the United States and the new globalism; the impact of new media; the USA and the war on terror; economic crisis and the Obama administration.

教科書 /Textbooks

For background discussion, printed materials provided by the instructor

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Key themes: A 3rd Industrial Revolution?- America and the New Globalism
- 2回 Digital Culture
- 3回 War on Terror
- 4回 Neo-Conservatism
- 5回 Boom and Bust
- 6回 New Competitors
- 7回 Race and Class in the Age of Obama
- 8回 Values and Ideals in the 21st Century
- 9回 Student Presentations & Discussion
- 10回 Student Presentations & Discussion
- 11回 Student Presentations & Discussion
- 12回 Student Presentations & Discussion
- 13回 Student Presentations & Discussion
- 14回 Student Presentations & Discussion
- 15回 Review and Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation ... 25% Participation -- 25% Presentation ... 25% Essay -- 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students are expected to have completed American Studies Seminar A I, A II, B I, or equivalent

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

USA, Cold War, Globalism, War on Terror, Economic Crisis, Obama, 21st century

教師論 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義、教師の役割、教師の職務内容等に関する知識の修得と、教職についての理解と考察の過程を支援することによって、教育と教職に対する実践意欲を喚起し、同時に教育と指導のあり方について助言する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

1回 教育とは何かI	【学校教育】 【学習と生活】
2回 教育とは何かII	【教育】 【学校】 【生活と文化】 【教育の二つの思潮】
3回 教育の目的	【教育目的論】 【学校と学習】
4回 教育の内容	【教育課程】 【教育課程の編成原理】 【教育課程の歴史】
5回 教育の方法	【指導の本質】 【指導の方法】
6回 生徒指導のあり方	【生徒指導の前提】 【生徒指導の伝統】
7回 職業指導・進路指導	【キャリア教育】 【職業選択の基礎理論】
8回 教師本来のあり方	【教師の仕事】 【子どもの見方】
9回 生徒の生きる力を育てる教育	【生きる力】 【青少年の意識】
10回 性の教育	【思春期の発達】 【カリキュラム】
11回 教育評価	【評価の種類】 【体罰と懲戒】
12回 いのちの教育	【生と死の教育課程】 【いのちの教育の方法】
13回 身体教育	【食教育】 【排便教育】
14回 これからの教育	【学校の役割】 【中等教育】
15回 教師の「資質」とは何か / まとめ	【教師の禁句】 【指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本原則(1) 教育制度とは
- 2回 教育制度の基本原則(2) 日本の教育法制
- 3回 学校制度の基本的事項(1) 機会均等、学校教育における中立性等
- 4回 学校制度の基本的事項(2) 義務教育
- 5回 学校制度の基本的事項(3) 学校体系
- 6回 教育課程の意義と編成(1) 教科書・教材、学習指導要領
- 7回 教育課程の意義と編成(2) 学校の教育課程編成
- 8回 教員制度の基本的事項(1) 教員免許法制、公務員としての教師
- 9回 教員制度の基本的事項(2) 教員の指導力、研修
- 10回 生涯学習制度 成人教育、学校教育と社会教育の連携
- 11回 子育てをめぐる諸問題 子育て不安、教育と福祉
- 12回 教育行財政の仕組み(1) 中央教育行政、地方教育行政
- 13回 教育行財政の仕組み(2) 教育委員会と学校
- 14回 教育制度改革の動向 学校選択制、学校評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法 A 【夜】

担当者名 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語教育の理論的側面（第二言語習得理論、外国語教育の方法論など）を授業での応用を重視しながら概括する。主要な方法論を具体的に教室のなかでの作業に置き換えることを念頭に置き、検討する。

教科書 /Textbooks

下記の文献から抜粋したプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋正夫 『英語教育学概論』（金星堂）
望月編著 『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』（大修館書店）
田崎（編集）『現代英語教授法総覧』（大修館書店）
片山、末畑、他（編注）Readings on Teaching English as a Foreign Language（大修館書店）
中学校学習指導要領 第9節 外国語（文部科学省）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/990301/03122602/010.htm
高等学校学習指導要領 第8節 外国語（文部科学省）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/990301d/990301i.htm

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コースワークの説明
- 2回 外国語教育の目的論①Jespersen、「平泉-渡部論争」
- 3回 外国語教育の目的論②文科省の中学、高校の指導要領
- 4回 外国語教育の目的論③小学校からの早期教育における目的論を分析し、個人でしっかりした意識を持たせる。
- 5回 New Methods ①Old Methodと対比させてDirect Methodsを概括
- 6回 ②Direct Methodsの集大成であるOral Methodを概括。
- 7回 Oral Approach (Audio-Lingual Method) の特質を
①O.M. 目的、指導原理との相違の観点から概括する。
- 8回 ②Pattern Practice の実践的活用から概括する。
- 9回 Oral Approach (AL-M) への批判的立場から
①CCLを概括する。
- 10回 ②CLLを概括する。
- 11回 ③Input Hypothesisを概括する。
- 12回 コミュニカティブ・アプローチの諸相を次の観点から概括、把握する。
①Notional/Functional Syllabus
- 13回 ②Communicative Competenceの内容と習得の原理
- 14回 ③中学教科書のコミュニケーション重視への変遷
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加度 30% 期末試 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって、事前（当該授業の1～2回前）に配布する英文の資料をよく読み込んでおく必要があります。

履修上の注意 /Remarks

授業ではpair work、および授業の疑似体験など身体を動かし参加することが要求されます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は教職に就くことを強く意識しているはずである。各自の授業態度を見て、相応しいかどうか判断したい。

キーワード /Keywords

指導要領 主要な教授法 教育現場での応用 言語活動

英語科教育法B 【夜】

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語教育の実践的側面（教科書、教材の分析、授業の展開、教案の作成）の指導をする。

教科書 /Textbooks

下記の文献からの抜粋プリント配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋正夫 『英語教育学概論』（金星堂）
望月編著 『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』（大修館書店）
望月・山田 編著 『私の英語授業』（大修館書店）
E.W.Stevick "Teaching Languages A Way and Ways" (Newbury House)
中学校学習指導要領 第9節 外国語（文部科学省）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/990301/03122602/010.htm
高等学校学習指導要領 第8節 外国語（文部科学省）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/990301d/990301i.htm

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
- 1回 コースワークの説明
 - 2回 教科書及び教材の分析
 - 3回 英語教育教材論その変遷、問題点を明らかにする。【教師に求められる英語力】
 - 4回 授業の展開・運営について次の点を中心に、実践的技術をビデオ教材などを利用して指導を行う。①授業の展開の全体像
 - 5回 ②「新出事項導入」
 - 6回 ③Practice【オーラル・インタラクション】
 - 7回 特に次の技術の授業での習得の具体的方策を学ぶ。①Listening、
 - 8回 ②Reading
 - 9回 ③Task【指導技術の習得】
 - 10回 「指導教案」の書き方指導。①教案の基本スタイル
 - 11回 ②教案の作成 【教案の形式と指導過程の記述】
 - 12回 各技能における評価の仕方、留意点。英語ALTとの授業の形態について観察する。
 - 13回 模擬授業（中学校）
 - 14回 模擬授業（高校）
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での活動... 40%、 課題... 10% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業ではpair work、および授業の疑似体験など身体を動かし参加することが要求されます。教壇に立つ立場を意識して授業に参加してください。

履修上の注意 /Remarks

授業で実践活動を行うことが特に重要であるため、出席不足の受講者に対しては、厳密に対応します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は教職に就くことを強く意識しているはずである。各自の授業態度を見て、相応しいかどうか判断したい。

キーワード /Keywords

授業の展開の実践 教案作成 模擬授業

道徳教育の研究【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育も含む）における道徳教育について学修するためのものである。この学校教育における道徳教育については、「学習指導要領」に規定されているので、それを基礎にして、具体的な道徳教育のあり方と指導方法について学修する。

教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 1回 「道徳教育」とは何か 【徳】 【教育】
 - 2回 「学校教育における道徳教育」の構造 【学習指導要領】 【学校教育の全領域】
 - 3回 「各教科」と道徳教育 【陶冶】 【訓育】
 - 4回 「特別活動」と道徳教育 【学級活動】 【生徒会活動】 【学校行事】
 - 5回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 【横断的・総合的な学習】 【活動】
 - 6回 「道徳の時間」と道徳教育 【道徳の時間の指導内容】 【全体計画】
 - 7回 「道徳の時間」の指導過程 【学習指導案】 【指導方法】
 - 8回 「道徳の時間」の指導技術 【指導技術】 【指導事例】
 - 9回 「モラルジレンマの授業」と道徳教育 【ジレンマ教材】 【対立・葛藤】
 - 10回 「役割演技」と道徳教育 【動作化】 【ロール・プレイ】
 - 11回 「教師のモラル」と道徳教育 【人間性】 【社会のモラル】
 - 12回 「体験・ボランティア活動」と道徳教育 【自然体験】 【社会体験】
 - 13回 「綴方」と道徳教育 【教育的リアリズム】 【教育的ヒューマニズム】
 - 14回 「エンカウンター」と道徳教育 【出会い】 【構成的グループエンカウンター】
 - 15回 道徳教育の課題と未来 / まとめ 【道徳性の評価】 【地域社会の連携】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。

- ① 「中学校学習指導要領」及び「高等学校学習指導要領」の「特別活動」の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を理論的、実践的に深めること。
- ② 市民社会の担い手に求められる市民的技能を学級活動などを通じて獲得させていく方法を実践的に学習すること。
- ③ 子どもたちの自治の力を育む生徒会活動、学校行事の在り方について、具体的な実践報告を踏まえつつ検討していくこと。

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 「中学校学習指導要領」及び「高等学校学習指導要領」の「特別活動」の目的・領域について
- 3回 現実の学校体験から、学級づくり、学校づくりの課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動 その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターン
- 5回 子どもたちの対人関係スキルを育てるHR活動 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 子どもたちの対人関係スキルを育てるHR活動 その3 - ロールプレイの取り組み
- 7回 すべての子どもの居場所となる学級づくりの課題 - 班ノート、班活動などに視点をあてて
- 8回 すべての子どもの居場所となる学級づくりの課題 - 班長・リーダー指導に視点をあてて
- 9回 子どもたちの自治の力を育てる生徒会活動の課題
- 10回 子ども達の自治の力を育てる学校行事の課題 - 体育祭の取り組み
- 11回 子ども達の自治の力を育てる学校行事の課題 - 文化祭・合掌コンクールの取り組み
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる学校行事の課題 - 修学旅行の取り組み
- 13回 荒れている学級をどう立て直すか? - 中学校の実践
- 14回 荒れている学級をどう立て直すか? - 高等学校の実践
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は人間関係学科の専門科目にもなっていますが、基本は教職の科目です。教員をめざす学生にふさわしい、真摯な授業態度と積極的な活動への参加を期待します。

キーワード /Keywords

学級集団づくり、市民的技能、自治の力

教育方法学【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校の教育も含む）における教育方法についての理論と具体的な方法・技術を学修する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著『教育の方法』ミネルヴァ書房、他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 1回 「教育方法」とは何か 【教育方法の形態】【比喻・モデル】
 - 2回 21世紀の教育方法 【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
 - 3回 「授業（学び）」の構想 【授業の三角形モデル】【事前の教材解釈】
 - 4回 授業における展開と「タクト」 【競争原理】【教授学的タクト】
 - 5回 学びを反省・評価する 【評価の方法】【自己評価能力】
 - 6回 学びのシステムのこれまでとこれから 【出席と参加】【学習規律】
 - 7回 「学び」の具体的システムづくり 【相互主体論】【受容】
 - 8回 これからの学びを支える新しいネットワーク 【メディアリテラシー】【情報活用能力】
 - 9回 情報機器と教材の活用 【マルチメディア】【授業形態】
 - 10回 新しい教師への道を拓く 【教師の資質能力】【ファシリテーター】
 - 11回 性教育の指導の視点 【ジェンダー】【性】
 - 12回 学習遅滞の指導 【学習遅滞】【学習障害】
 - 13回 デイスコミュニケーションとコミュニケーション 【発話】【聴取】
 - 14回 教育方法における「近代」と「現代」 【連続と非連続】【現代化】
 - 15回 「教える」ことの技術と思想 / まとめ 【指導】【自己活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【夜】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、教育工学の研究範囲に含まれる中でも、近年特に重要であり注目されている下記に示す事項に関して講義を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教育工学への招待, 赤堀侃司著, 2002, ジャストシステム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

1. 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明, 【教育工学の定義】 【研究分野の概観】
2. 教授-学習に関する基礎理論その1 【行動主義】
3. 教授-学習に関する基礎理論その2 【認知主義】
4. 教授-学習に関する基礎理論その3 【社会的構成主義】
5. 教授-学習に関する基礎理論その4 【状況論的学習】
6. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順 【授業設計】
7. 授業過程の分析と改善 【授業過程】
8. 授業実施の技術 【授業技術】
9. 授業の評価 【授業評価】
10. 教育メディアとその活用1 【コンピュータ】 【マルチメディア】
11. 教育メディアとその活用2 【インターネット】 【Web】
12. 学習データのとらえ方とその処理 【学習データ】
13. 授業実践能力の改善と向上 【実践能力】
14. 現代の教育課題
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(20%), レポート(30%), 試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【夜】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」（実習校実習）に向けて、実習生として必要な心構えや学習指導及び生徒指導等の理論や知識・技術を修得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育実習1」オリエンテーション	【教育実習】 【実習校】
2回 教育実習の1日	【教育実習の実態】 【教師の勤務】
3回 教育実習生の体験から学ぶ(中学校)	【教科指導】 【学級経営】
4回 教育実習生の体験から学ぶ(高等学校)	【教科指導】 【学級経営】
5回 子どもの問題状況と生徒指導	【生徒指導】 【子どもの理解】
6回 学級経営について	【学級集団づくり】 【学級通信】
7回 生徒指導と教育相談	【生徒理解】 【生徒指導体制】
8回 授業観察の方法	【授業観察の視点】 【授業記録シート】
9回 子どもの人権と教育	【人権】 【自尊感情】
10回 教材研究と授業構想	【刻々の教材研究】 【学習指導案】
11回 教師の資質とは何か	【教師の資質】 【事前の準備】
12回 模擬授業①(中学・高校別)	【授業構成】 【導入】
13回 模擬授業②(中学・高校別)	【指導技術】 【発問】
14回 模擬授業③(中学・高校別)	【指導技術】 【説明】
15回 模擬授業④(中学・高校別)	【指導技術】 【指示・助言】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%) 学期末の提出物の評価(75%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の事前に指示されたことを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 第 1 回 ; オリエンテーション | 【勤務】【連絡】 |
| 第 2 回 ; 中学校における教育実習 | 【中学生の特質】【中学生への支援】 |
| 第 3 回 ; 高等学校における教育実習 | 【高校生の特質】【高校生への支援】 |
| 第 4 回 ; 実習校実習① | 【教育実習指導】 |
| 第 5 回 ; 実習校実習② | 【教育実習指導】 |
| 第 6 回 ; 実習校実習③ | 【教育実習指導】 |
| 第 7 回 ; 実習校実習④ | 【教育実習指導】 |
| 第 8 回 ; 実習校実習⑤ | 【教育実習指導】 |
| 第 9 回 ; 実習校実習⑥ | 【教育実習指導】 |
| 第 10 回 ; 実習校実習⑦ | 【教育実習指導】 |
| 第 11 回 ; 実習校実習⑧ | 【教育実習指導】 |
| 第 12 回 ; 実習校実習⑨ | 【教育実習指導】 |
| 第 13 回 ; 実習校実習⑩ | 【教育実習指導】 |
| 第 14 回 ; 実習校実習⑪ | 【教育実習指導】 |
| 第 15 回 ; 教育実習反省会 | 【教師の資質】 |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習3【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
						○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学校教育相談の領域は、1.「学業的発達」、2.「キャリア的発達」、3.「個人・社会的発達」の三つに区分され、また、学校教育相談の機能は、①一次的支援(開発的教育相談)、②二次的支援(予防的教育相談)、③「三次的支援」(問題解決的教育相談)から構成される。本授業では、学校教育相談の領域や機能について、教育相談の基本的な理論と技法の学習もふまえて提起していきたい。

さらに、不登校やいじめなど、様々な問題を出している児童、生徒に対する理解を深めていくと同時に、児童・生徒に対する指導、援助、また、課題を抱える保護者への理解と援助を進めていく際の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を紹介しつつ、検討していきたい。

教科書 /Textbooks

楠 凡之 「いじめと児童虐待の臨床教育学」 ミネルヴァ書房 第1部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教育相談の領域
- 3回 教育相談の機能 その1 - 一次的支援
- 4回 教育相談の機能 その2 - 二次的支援、三次的三次的支援
- 5回 教育相談の基本的な理念について
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 7回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれ質問
- 8回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ実習
- 9回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談① - 前思春期
- 10回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談② - 思春期
- 11回 不登校の子どもに対する教育相談
- 12回 保護者に対する教育相談
- 13回 教育相談活動における連携について - スクールカウンセラーとの連携に視点をあてて
- 14回 薬物問題に対する理解と援助(北九州ダルクの講演)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点30点、レポート15点、期末試験55点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストをしっかりと読んで授業に参加してほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員を希望する学生には、それにふさわしい真摯な授業態度と活動への意欲的な参加を期待したい。

キーワード /Keywords

教育相談、いじめ・不登校

生徒・進路指導論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義と課題について、積極的生徒指導(子どもの発達支援としての生徒指導)に視点をあてて検討していくこと。
 - ② 養育環境や発達上の困難な課題を抱える子どもの内面に寄り添う生徒指導の課題について検討していくこと。
 - ③ 思春期の人格発達(「価値的自立」)の過程を支える進路学習、進路指導の意義と課題について、今日の社会情勢も含めつつ検討していくこと。
- 本授業のキーワードは、積極的生徒指導、児童虐待、進路指導である。

教科書 /Textbooks

テキストとして、「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)の第II部と第III部8章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 生徒・進路指導論の意義と課題
- 2回 学校現場での生徒指導の実際 その1
- 3回 学校現場での生徒指導の実際 その2
- 4回 子どもの発達支援としての生徒指導の課題と方法 一文科省編「生徒指導提要」を手がかりに その1
- 5回 子どもの発達支援としての生徒指導の課題と方法 一文科省編「生徒指導提要」を手がかりに その2
- 6回 生徒指導における関係諸機関との連携について - スクールソーシャルワークに視点をあてて
- 7回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導その1
- 8回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導 その2
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路学習
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
- 11回 中学校における職場体験学習と進路指導
- 12回 今日の高等学校の問題状況と進路指導の課題
- 13回 被虐待児に対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 14回 虐待サバイバーに対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポートなど)30%、レポート15%、期末試験55%-

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの第II部(5,6章)をしっかりと読み込んで授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達支援としての生徒指導、児童虐待、進路指導

教育心理学【夜】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、学校や家庭での教育活動にかかわる様々な問題を心理学的側面に注目して取り上げる。学習過程や、教師の役割、教師と生徒との関係性などについての考え方を身につけることを目標とする。この講義を受けることによって教育の難しさについて考える機会になることを望むと同時に、解決の一助となつてほしい。講義が中心であるが、体験しながら具体的な関わりを考えることができるような授業となっている。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、学校の意義、教育の意義
- 2回 幼児、児童の心身の発達と教育(表象世界、しつけ、不適応)
- 3回 児童期の発達(学級崩壊等)
- 4回 発達の個人差と障害児【障害理解】
- 5回 発達の個人差と障害児【障害児の集団との関わり】
- 6回 学習過程(条件づけ、強化、般化、モデリング、洞察等)
- 7回 動機づけ(内発的動機づけ、帰属等)
- 8回 家庭における教育【育児】【しつけ】
- 9回 家庭における教育【教育への動機】
- 10回 学校組織と教師(組織としての学校の特殊性、職業としての教師の特殊性)
- 11回 教室内過程【教師生徒との関係】
- 12回 教室内過程【生徒間関係】
- 13回 教育評価(測定とその活用)
- 14回 現代の教育問題について
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小テスト ... 100%

※小テストは3~4回行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

図書館等で参考になる本を自主的に探しておくことが望ましい。他の心理学関連の授業を合わせて受講するとわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育法規【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育法規に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育法規における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 生徒指導と教育法規
- 2回 生徒の懲戒
- 3回 いじめ・不登校と指導
- 4回 組織としての学校
- 5回 組織としての学校における教員
- 6回 教員の懲戒
- 7回 教員の指導力をめぐって
- 8回 教育活動と著作権
- 9回 教育情報の取り扱い
- 10回 教育情報の発信
- 11回 学校の安全
- 12回 地方教育行政と学校
- 13回 保護者・地域と学校
- 14回 保護者・地域の教育参加・連携
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 40% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義だけでなく、グループ討論、模擬授業、実技等も含む参加型の授業を予定している。それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【夜】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育現場及び日常生活での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が100人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「世界が100人の村だったら」【世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ】【非識字者・同性愛者の人権】【人権教育のスキル・技能】
- 第2回 いじめ差別①(現状認識)【いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)】【各種調査(教育白書・国際調査等)】
- 第3回 いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)【いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理】【文部科学省のいじめ定義】【道徳教育と人権教育の相違点】
- 第4回 いじめ差別③(解決への教育創造)【文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」】【金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」】【自尊感情と学力形成の相関関係】【学校文化と子どもの居場所づくり】
- 第5回 子どもの人権と児童虐待防止法【児童虐待の現状認識(新聞記事・教育白書等)】【教師の責務と教育・啓発の教育創造】
- 第6回 ものけ姫①(メッセージからの課題)【物語の時代背景と登場人物から課題の整理】【ハンセン病問題と国の隔離政策】【国家賠償と社会復帰】
- 第7回 ものけ姫②(メッセージからの課題)【女性差別の歴史】【学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える】
- 第8回 同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)【身分差別をつくったのは、誰?】【中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義】
- 第9回 同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)【身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?】【「賤民」身分にされたのは、どんな人々?】【一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義】
- 第10回 同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)【解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?】【一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚】
- 第11回 同和問題との出会い直し④(文学者と部落差別)【小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)】
- 第12回 同和問題との出会い直し⑤(結婚差別)【結婚差別の事例からの課題と解決への展望】【しきたり・ならわし・慣習との出会い直し】
- 第13回 同和問題との出会い直し⑥(人権文化の創造)【教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度】
- 第14回 同和問題との出会い直し⑦(国の施策)【1965年の同和対策審議会・答申の意義】【1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義】
- 第15回 同和問題との出会い直し⑧(人権文化のまちづくり)【各地の人権文化のまちづくりの現状】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(30%)及び学期末のレポートによる評価(70%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の中で課題を出します

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords